2015年度シラバス

人間と道徳

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS101
開講年度	2015年度
登録コード	A0001001 A0001005
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間と道徳
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金3
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間，道徳心，自己理解，他者理解
授業のねらい・概要	植草学園大学では，徳育を教育の根幹としている。それを踏まえ，様々な社会的・道徳的資料を通して「人間としての生き方・あり方」について考える。
学生の達成目標	(目標1)大学生活への意欲を高め，社会的な目標に向かって，自分の考えを持つことができる。 (目標2)グループで聴き合い，自分の考えを深めることができる。 (目標3)新聞や社会事象に関心を持ち，さらなる向上を目指すようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション 「現在の自分とこれからの自分の生き方」について作文を書き，グループで聴き合い活動をする。（目標１・２）
	第2回	道徳の教材を活用し，人間の生き方についてグループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第3回	DVDを視聴し，人間の生き方についてグループで聴き合い活動をする。「挫折の克服」(目標２)
	第4回	DVDを視聴し，グループで聴き合い活動をする。「いじめについて」(目標２)
	第5回	道徳の教材を活用し，人間の葛藤について，グループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第6回	「自分の幸せ」について考え，グループで聴き合い活動をする。(目標２)
	第7回	価値観の違いと聴き合い活動について考えを深める。 ジョハリの窓について理解する。（目標２）
	第8回	「葛藤」「価値観」「幸せ」「聴き合い」について自分の思いや考えを深める。（目標１）
	第9回	「自分の長所と短所」を見つめ，グループで聴き合い活動しながらお互いのよさの認め合いをする。(目標１・２)
	第10回	「自信」について考え，自信を持つためにはどんな要素が必要であるか聴き合い活動をする。(目標１・２)
	第11回	学園内の規範意識について，グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標１・２)
	第12回	学外での規範意識について，グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標１・２)
	第13回	「江戸しぐさ」について調べ，グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標１・２)
	第14回	「夢中」と「感動」について，グループでお互いの考え方の聴き合い活動をする。(目標１・２)
	第15回	大学生活や将来に向けた「自分の生き方やあり方」について方向づける。(小論文)(目標１・３)
予習・復習の内容	予習	社会事象に関する新聞記事を読み，自分なりの考えや意見を持つこと。関心を持った記事はストックすること。「江戸しぐさ」について調べる。
	復習	他者と価値観と共有し合った後，もう一度本時のテーマについて考え，整理する。
	展開	テーマについて図書や研究成果を調べ，知識や理解を深めたり，自分の考えを持ったりする。
成績評価	評価の基準	さまざまな社会事象や道徳資料を通して自分の考えを持ち，自分の考えを相手に伝えることができる。また，グループ内でお互いに聴き合い活動ができる。さらに、自分の考えを明確にし，小論文にまとめることができる。
	評価の方法	レポート（ 60%）　意見文（ 30%）　聴き合い活動（ 10%） レポート及び小論文，振り返りカードにより評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業に出席し、自己や他者と対話することが大事である。 グループ協議では，自分の考えを持ち，お互いの意見を認め合い，社会的な視野を広げていくことを期待する。

2015年度シラバス

哲学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS102
開講年度	2015年度
登録コード	A0002001 A0002005
科目区分	基礎科目
授業科目名	哲学
科目責任者	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自分とは何か、本当のこととは何か、他者とは誰か
授業のねらい・概要	「自分」とは何かというテーマをめぐって哲学者の考え方を学び、自由に考える哲学の愉しみに触れる。また、自分とは異なる考えをもつ他者への寛容さを身につける。
学生の達成目標	1.「自分とは何か」についての理解を深める。 2.自分とは異なる考えに対する関心を広げる。 3.ひとつの問題について、いろいろな視点から考える訓練をする。

授業内容	第1回　ガイダンス−哲学とはどのような学問か？（目標１） 第2回　「自分と何か」という問いについて（目標１） 第3回　いままでの自分を疑うということ−ソクラテス（目標１） 第4回　理想的な自分とは？（その１）ープラトン（目標３） 第5回　理想的な自分とは？（その２）−アリストテレス（目標３） 第6回　宗教と自分（その１）（目標２） 第7回　宗教と自分（その２）ーアウグスティヌス（目標２） 第8回　自らの力で考える存在としての自分（その１）−デカルト（目標３） 第9回　どこまで自らの力で考えることができるか？ーロック、ヒューム（目標３） 第10回　自らの力で考える存在としての自分（その２）−カント（目標３） 第11回　他者との関わりにおいて存在する自分−ヘーゲル（目標３） 第12回　練習問題（目標２） 第13回　現実世界に生きる存在としての自分−キルケゴール（目標３） 第14回　根源的存在の一部としての自分−西田幾多郎（目標３） 第15回　まとめ（目標２）
予習・復習の内容	予習　哲学の学習においては、議論の流れを把握しておくことが大切である。授業の前には、前回学習した内容について、配布されたプリントなどで確認しておくこと。 復習　授業で扱った哲学者の主張について、賛成できる点、できない点を確認しておくこと。 展開　予習−授業−復習を有機的に結びつけることが望ましい。
成績評価	評価の基準　授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお、期末試験はレポートに替える場合がある。（私語などの素行不良があった場合は評価しないので注意のこと。） 評価の方法　平常点（小レポート等）-５０％ 期末試験の成績-５０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	問題をより身近なものとして考えるため、授業中に発言を求めたり、小問題の記述などの作業を行ってもらうことがある。受講にあたって特別な知識は必要ないが、哲学に対する関心がないと退屈な内容であると思われるので、履修に際しては自分自身と相談すること。

2015年度シラバス

心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0004001 A0004005
科目区分	基礎科目
授業科目名	心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月5
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間理解，心の特質と限界，客観的見方
授業のねらい・概要	1．心理学の各領域を幅広く紹介し，心の働きが理解できるようにする。 2．人間の特質や限界を理解することを通じて，よりよい生き方ができるようにする。 3．人間の心理を理解するための考え方や方法を理解し，自己や他者を客観的に見られるようにする。

学生の達成目標

1.心理学を身近なものであると感じられる。
2.心の様々な働きを理解する。
3.意識的にはコントロールが困難な行動を理解する。

授業内容

第1回　心理学とは,心理学の歴史と領域。心理学の歴史や領域を学びながら,心理学・心理学研究について概観する。(目標1)

第2回　進化から見た人間。比較行動学や進化心理学に基づいて,系統発生的に見た人間の心理を理解する。(目標1)

第3回　心の生理的基礎,中枢神経系。心の土台となる生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)について知る。(目標1,2)

第4回　感覚と知覚。感覚刺激の受容の仕組みや知覚がどのように形成されるのかを理解する。(目標1,2,3)

第5回　姿勢と運動。姿勢と運動が成立する仕組みを知り,心とどのように関連しているかを理解する。(目標1,2,3)

第6回　意識・感情。意識や感情のメカニズムを理解し,行動や認知との関連を解明する。(目標1,2,3)

第7回　イメージの世界。イメージがどのように認知や心的状態に影響するかについて学ぶ。(目標1,2,3)

第8回　学習。学習行動の種類やメカニズムを理解することで,望ましい学習の仕方について考える。(目標1,2,3)

第9回　記憶。記憶の生理学的基礎や種類を理解し,日常生活に現れる記憶の不思議に迫る。(目標1,2,3)

第10回　認知・思考。まわりの世界に対する認知がどのように形成されるか理解し,思考との関連を考える。(目標1,2,3)

第11回　発達,発達理論。人間の発達に対する考え方を見ながら,乳幼児期から老年期までの発達を概観する。(目標1,2,3)

第12回　社会(社会的認知,人間関係,集団力動)。社会や人間関係に対する認知のあり方や行動の傾向について学ぶ。(目標1,2,3)

第13回　個人差と性格,性格理論。個人差がどのように形成されるのか理解し,様々な性格理論を概観し,自分の性格を客観的に見ることができるようにする。(目標1,2,3)

第14回　自己制御(失敗,嗜癖)。いかに人間が自分の行動を制御するのかについて理解し,自己制御がうまくいかない場合の対処について考える。(目標1,2,3)

第15回　適応と病理。日常生活に見られる適応の仕方を理解するとともに,適応障害や精神病理についての理解を深める。(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習　一般的な心理学の本を読む。

復習　重要な語句の意味を確認する。

展開　日ごろの心の働きを意識し、自分の知りたいテーマの本を読み、さらに理解を深めていく。

成績評価

評価の基準　心理学に関して基礎的な知識が獲得されていること。心理学の知見に基づいて，身近な心理的問題が考えられること。

評価の方法

	授業への参加態度と質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要であると指摘した事項の復習を行うこと。 日頃，心理学に関する本を読むこと。

2015年度シラバス

教育学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS105
開講年度	2015年度
登録コード	A0005001 A0005005
科目区分	基礎科目
授業科目名	教育学
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月3
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人間の成長・発達，学校教育，家庭教育，地域・社会教育
授業のねらい・概要	「ヒトは教育によって人になる」といわれるが，人間の成長・発達に必要不可欠なものとして教育をとらえた上で，学校教育のみに限定することなく，様々な視点から「教育」について学ぶ。 受講者は，これまで，児童・生徒・学生としての立場から「教育」を捉えてきたが，本授業をとおして，多面的に「教育」を見る目を養うとともに，「教育」への理解と関心を深めることをねらいとする。

学生の達成目標	1. 「なぜ人間には教育が必要なのか」という教育の基本原理について理解する。 2. 教育を社会事象としてとらえることにより、家庭・学校・地域社会の役割・機能に関する基礎知識を習得できるようになる。 3. 日本の教育の現況と教育課題についての理解を深めるとともに,データや資料に基づいて,自らの考えをまとめることができるようになる。
授業内容	第1回　講義およびミニ課題等に関するガイダンス 第2回　少子高齢社会と教育：教育を考える上での基礎データを読む。(目標3) 第3回　人間の成長・発達と教育:なぜ人間には教育が必要なのか。(目標1) 第4回　教育の場としての「家庭」:(1)家庭教育の意義とは何か。(目標2) 第5回　教育の場としての「家庭」:(2)子どもの社会化に果たす役割とは何か。(目標2) 第6回　教育の場としての「学校」:(1)初等・中等教育の役割と機能は何か。(目標2) 第7回　教育の場としての「学校」:(2)高等教育の役割と機能は何か(目標2) 第8回　教育の場としての「地域・社会」:(1ぜなせ地域の教育力は低下したか。(目標2) 第9回　教育の場としての「地域・社会」:(2)学校教育との効果的な連携を学ぶ。(目標2) 第10回　教育とジェンダー:隠れたカリキュラム,役割取得と社会化とは何か。(目標2) 第11回　保育とジェンダー:保育分野にみるジェンダーバイアスとは何か。(目標２) 第12回　教育政策の動向:法令の改正と学習指導要領の改訂の流れを学ぶ。(目標3) 第13回　現代日本の教育課題:(1)教育の病理(不登校,いじめ,逸脱)とは何か。(目標3) 第14回　現代日本の教育課題:(2)学校教育と著作権を学ぶ。(目標3) 第15回　現代日本の教育課題：（3）「確かな学力」の形成と国際調査の動向を学ぶ。（目標3）
予習・復習の内容	予習　現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについても理解をしておきたい。 復習　第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめて、授業時に紹介のあった文献等にあたってみる。 展開　教育の諸課題をデータを用いながら整理するとともに、理解を深める。
成績評価	評価の基準　授業で取り上げた教育に関わる基礎的内容が，正しく理解できていることを基準とする。 評価の方法　授業への取り組み（グループ・ワークへの取組みと発言・発表）＋ミニ課題（ 30%）＋定期試験（ 70%点）の成績等を総合して評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

	参考文献は授業時に提示する。	
	書籍名	『教育学用語辞典』 2010年
	著者名	岩内亮一他
	出版社	学文社
	価格	2625円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4762020759
推薦図書等	書籍名	『少子社会の子育て力』 2013年
	著者名	髙野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7620-2376-7
参考URL	文部科学省HP http://www.mext.go.jp/	
備考	「教育原理」を履修済・履修中であることが望ましい。	

2015年度シラバス

文学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS106
開講年度	2015年度
登録コード	A0006001 A0006005
科目区分	基礎科目
授業科目名	文学
科目責任者	河村　真奈
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本文学　海外文学
授業のねらい・概要	日本・海外の代表的な作家・作品を学び、読むことで、読書の楽しさと読書力を身につける。自分の感想を伝えられる表現力は様々な場面で応用できる。 また、他の人がどのように作品を読んでいるのか、作品理解にはどのような知識が必要なのか等、授業を通じて学んでいく。授業では、指定された作品を読み感想や意見をまとめ、授業内で発表もしくは感想文を書き、文章能力の向上も目指す。

学生の達成目標	１．講義で取り上げる日本・海外の代表的な文学史・作家・作品についての基礎的知識を習得する。 ２．指定された作品を読み、十分に内容を理解できるようになること。 ３．指定された作品・作家に関して自分の意見をまとめられるようになること。
授業内容	第1回　講義のガイダンス（目標１） 第2回　日本文学①村上春樹：文学史（戦後～80年代）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第3回　日本文学②村上春樹：代表作品・作家紹介（目標２・３） 第4回　日本文学③よしもとばなな：文学史（90年代）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第5回　日本文学④小川洋子：文学史（90年代以降）、代表作品・作家紹介／意見発表（目標１・２・３） 第6回　イギリス文学①ジェーン・オースティン：文学史（18世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第7回　イギリス文学②チャールズ・ディケンズ：文学史（19世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第8回　イギリス文学③チャールズ・ディケンズ：代表作品・作家紹介（目標２・３） 第9回　イギリス文学④Ｊ・Ｒ・Ｒ・トールキン：文学史（20世紀）、代表作品・作家紹介／意見発表（目標１・２・３） 第10回　アメリカ文学①ハーマン・メルヴィル：文学史（19世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第11回　アメリカ文学②F・スコット・フィッツジェラルド：文学史（20世紀）、代表作品・作家紹介／意見発表（目標１・２・３） 第12回　アメリカ文学③Ｊ・Ｄ・サリンジャー：文学史（20世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第13回　フランス文学①ジュール・ヴェルヌ：文学史（19世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第14回　フランス文学②サン＝テグジュペリ：文学史（20世紀）、代表作品・作家紹介（目標１・２・３） 第15回　フランス文学③サン＝テグジュペリ：代表作品・作家紹介／意見発表、授業全体の総括・レポートについてのガイダンス（目標２・３）
予習・復習の内容	予習　指定された作品についてなるべく目を通し、作家についても調べておくこと。 復習　講義の内容及び、自分の意見・感想・疑問点などをまとめること。 展開　授業内で紹介された作品から、選定し、学期末レポートを作成することで、文学への評価を形にすることを学ぶ。
成績評価	評価の基準　文学史の基礎知識を理解していること。 指定された作品を読み、自分の意見をまとめられていること。 授業内での小レポートもしくは意見発表や、期末レポートの提出状況。 評価の方法　授業への貢献度（30%）、授業中に課す小レポートもしくは意見発表（30%）、学期末レポート（40%）という配分で評価。総合

	評価60%以上で合格とする。ただしこの比率は変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	事前に指定された作品を読み、授業内で発表、もしくは講義の後に感想文を書く形式とする。 授業内で必要な参考文献等、プリントで随時配布する。

2015年度シラバス

音楽学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS107
開講年度	2015年度
登録コード	A0007001 A0007005
科目区分	基礎科目
授業科目名	音楽学
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月3
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	感性，創造力，音楽，コミュニケーション
授業のねらい・概要	豊かな感覚と情操を持った人間性を育む上で，音楽がいかに重要な役割を果たすと考えられていたかを西洋音楽史を通して考察する。また，明治期の洋楽移入の状況や明治以来の唱歌について検討する。音楽を媒介にして人間がよりよく生きられるように、また体と心の健やかさを保てるように、音楽の果たす役割の可能性を追及する。

学生の達成目標

	1．多くのジャンルの音楽に対して興味が広がる 2．他の学生の発表曲に対して関心を示し,発表に対する独自の見解が持てるようになる 3．音楽に関する対話型コミュニケーション能力が身につく
授業内容	第1回　導入:異なるジャンルの何曲かの作品を聴き,各々の曲から受けた印象,各々の曲が与える効果についての討論(目標1,3) 第2回　神々の時代の音楽の役割(目標1,3) 第3回　音楽療法の起源(目標1,3) 第4回　古代・中世の音楽の役割(目標1,3) 第5回　キリスト教と音楽(目標1,3) 第6回　ルネッサンス時代と音楽(目標1,3) 第7回　バロック時代と音楽(目標1,3) 第8回　オスペダーレ(養育院)での音楽教育(目標1,3) 第9回　古典派の時代(目標1,3) 第10回　ロマン派の時代(目標1,3) 第11回　近世と音楽(目標1,3) 第12回　明治期の洋楽移入の状況と明治以降の唱歌について(目標1,3) 第13回　学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3) 第14回　学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3) 第15回　学生の発表・鑑賞・討論(目標2,3)
予習・復習の内容	予習　神々の時代から現代までの音楽に関して、音楽史にそって話を進めていくので、世界史の大きな流れが頭に入っていると楽しく受講できる。 復習　講義の中で関心が持てた曲、事柄、人物に関して、再度調べ直して興味の幅を広げる。 展開　学生が発表する「自分の大切な曲」、授業で鑑賞する楽曲に関心を持ち、多くのジャンルの音楽に興味を広げて欲しい.
成績評価	評価の基準　授業で取り上げた基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに各自が発表を行い，自らの考えを持って選択した曲について的確に説明できる事を合格基準とする。 評価の方法　発表内容 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　教会カンタータの成立と展開ーバロック音楽の諸相 著者名　川端眞由美共著 出版社　アカデミア・ミュージック 価格　5000円 ISBN・ISSN　ＩＳＢＮ４－８７０１７－０６３－９ 書籍名　ベルカント唱法ー技法と発展の歴史 著者名　Ｒ．チェレッティ著　川端眞由美訳

出版社	シンフォニア
価格	3500円
ISBN・ISSN	–

参考URL	
備考	様々のジャンルの音楽に沢山触れて，音楽に関心を持ってほしい。 学生各自にとって最もリラックスできる音楽について全員の前で発表し，鑑賞・討論をするので，問題意識をもった受講を望む。 ※推薦図書の「ベルカント唱法ー技法と発展の歴史」は図書館に寄贈されています。

2015年度シラバス

歴史学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GHS108
開講年度	2015年度
登録コード	A0008001 A0008005
科目区分	基礎科目
授業科目名	歴史学
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会史　比較史　グローバル・ヒストリー　史料・資料　歴史小説
授業のねらい・概要	歴史を何のために学ぶのか，現代社会を理解するためにも歴史を学ぶ必要があることを学修する。歴史学には、様々な方法と対象が存在することを理解する。
学生の達成目標	1．歴史的な事実が我々の日常生活に大きなかかわりを持っていることを知る。 2．歴史学の方法論を理解する。 3．歴史的に考えることの意義について理解する。

授業内容	第1回	導入：歴史学とは何か（目標1,3）
	第2回	歴史への問い／歴史からの問い（目標1,3）
	第3回	証拠としての史料・資料（１）『ローマ皇帝伝』（目標1,2）
	第4回	証拠としての史料・資料（２）聖書考古学（目標1,2）
	第5回	歴史の舞台としての環境（目標1,2,3）
	第6回	時間の認識と時代区分（目標1,2,3）
	第7回	グローバルな歴史の捉え方（１）茶の世界史（目標1,3）
	第8回	グローバルな歴史の捉え方（２）真珠の世界史（目標1,3）
	第9回	グローバルな歴史の捉え方（３）コーヒーの世界史（目標1,3）
	第10回	グローバルな歴史の捉え方（４）香辛料の世界史（目標1,3）
	第11回	身体と病と「生死観」（１）宗教と生死観（目標1,2）
	第12回	身体と病と「生死観」（２）伝染病の歴史（目標1,3）
	第13回	比較というまなざし（目標1,2）
	第14回	歴史叙述と文学作品（目標1,2,3）
	第15回	総まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	毎回、前もって指示した教科書の該当部分を熟読した上で講義に臨むこと（第２回以降）。
	復習	各自が作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認すること。
	展開	講義を受けて興味をもった地域や時代に関して、読書やメディアを通じて好奇心を深めて欲しい。
成績評価	評価の基準	授業内容をどれぐらい理解しているか，そして、それを踏まえて具体的な歴史テーマに関して、自分の言葉（文章）で見解を表現できるか、以上を評価の基準とする。
	評価の方法	レポート（文章作成）100%。こちらが指定するテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	歴史学入門（岩波テキストブックスα）
	著者名	福井憲彦
	出版社	岩波書店
	価格	1,600円
	ISBN・ISSN	ISBN4-00-028041-4
推薦図書等		
参考URL		
備考	※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書も行う。毎回、資料プリントを配布する予定。 ＤＶＤなどの視覚教材も使用する予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。	

2015年度シラバス

法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS101
開講年度	2015年度
登録コード	A0009001 A0009005
科目区分	基礎科目
授業科目名	法学
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水4
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	秩序，強制，正義
授業のねらい・概要	法の理念，目的を理解させ，法の分類，運用，失効等について詳説するとともに基本法である憲法，民事法，刑事法について概説する。
学生の達成目標	1.法と社会のかかわりと法の特性について知る。 2.憲法の意義とその特徴を知る。 3.身分や財産に係るルールと犯罪の構成要件等の基礎知識を理解する。

授業内容	第1回	法と社会(目標1)
	第2回	法の特徴・法の目的(目標1)
	第3回	権利と義務(目標1)
	第4回	法と裁判(目標1)
	第5回	法の効力(目標1)
	第6回	日本国憲法の構成・三権分立(目標2)
	第7回	日本国憲法の基本原理(目標2)
	第8回	刑法の法益・刑罰の内容(目標3)
	第9回	罪刑法定主義(目標3)
	第10回	婚姻・離婚(目標3)
	第11回	親子・扶養・相続(目標3)
	第12回	財産法の基本原則(目標3)
	第13回	権利の主体と客体(目標3)
	第14回	行政法(目標1,2)
	第15回	まとめ：各法の背景と関連について(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	「法令用語の常識」（日本評論社）,「法学の基礎」（有斐閣）などの参考書を読んで常に法律に関心をもつこと。
	復習	講義の際に,とくに重点項目として挙げた内容については,「新現代法学入門」「はじめての法学」（法律文化社）などを参考図書として読むことが理解の一助となる。
	展開	新聞記事を読み，社会現象と法のかかわりについて関心をもつこと。
成績評価	評価の基準	法の特質，目的を知り，講義で力点をおいた事柄について，理解できていることを評価基準とする。
	評価の方法	平常点（小テスト）30%，期末筆記試験70%
教科書	書籍名	現代法学入門
	著者名	伊藤正巳,加藤一郎編
	出版社	有斐閣
	価格	1,200円＋税
	ISBN・ISSN	4-641-11256-8
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

日本国憲法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS102
開講年度	2015年度
登録コード	A0010001 A0010002 A0010005
科目区分	基礎科目
授業科目名	日本国憲法
科目責任者	荒井　弘
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	A0010001　後期　水3 A0010002　後期　木3 A0010005　後期　水3
教室	講義室10，11 講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国家，国民，教育
授業のねらい・概要	日本国の基本法である日本国憲法の理念と内容を学ばせる。

学生の達成目標

	1.日本国憲法成立の背景を学ぶ。 2.日本国憲法の構成と内容を知る。 3.日本国憲法の改正に関する問題点を解明する。
授業内容	第1回　憲法の概念(目標1,3) 第2回　憲法の分類と特質(目標1,2) 第3回　日本国憲法の構成(目標2) 第4回　日本国憲法の基本原理(1)基本原理の理念と意味(目標2,3) 第5回　日本国憲法の基本原理(2)国民主権の背景と内容(目標2,3) 第6回　日本国憲法の基本原理(3)平和主義の背景と内容(目標2,3) 第7回　日本国憲法の基本原理(4)基本的人権の尊重の背景と内容(目標2,3) 第8回　国会と立法(目標2) 第9回　内閣と行政(目標2) 第10回　裁判所と司法(目標2) 第11回　財政の基本原則(目標2) 第12回　地方自治体(目標2) 第13回　憲法改正(目標3) 第14回　主な憲法裁判(目標3) 第15回　まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　参考図書として「法律用語辞典」（有斐閣）を読んで法律用語の意味を理解するよう努めること。 復習　憲法のうち，とくに重点項目である「三大基本原理」については講義の内容を十分にまとめておくこと。 展開　事後，新聞やテレビ等で報道される憲法の件について，関心をもって対応すること。
成績評価	評価の基準　憲法の意義や基本的な内容の理解力を評価基準とする。 評価の方法　平常点（小テスト）30%，期末試験70%。
教科書	書籍名　憲法要論 著者名　林明博,石田光義著 出版社　敬文堂 価格　2,500円＋税 ISBN・ISSN　4-7670-0110-2
推薦図書等	
参考URL	
備考	推薦図書：参考資料として作成したレジュメを使用。 （第１回の講義日に配布する）

2015年度シラバス

政治学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS103
開講年度	2015年度
登録コード	A0011001 A0011005
科目区分	基礎科目
授業科目名	政治学
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	立憲主義　政党政治　議院内閣制　大統領制　国際連合
授業のねらい・概要	高校で学んだ政治経済や現代社会の特に政治分野を発展させ、現代において各国が抱える政治課題に対する理解を深める。
学生の達成目標	１．政治学に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報道されるニュースを理解できるようにする。 ２．世界各国の政治制度の仕組みとその課題を学修する。 ３．日本の政治制度の仕組みとその課題を学修する。

授業内容	第1回	導入：政治学とは何か(目標1)
	第2回	総論：近代以前の政治思想(目標1)
	第3回	総論：近代以降の政治思想(目標1)
	第4回	各論：イギリスの立憲君主制(目標1,2)
	第5回	各論：アメリカの大統領制(目標1,2)
	第6回	各論：ヨーロッパの政治制度(目標1,2)
	第7回	各論：アジアの政治制度(目標1,2)
	第8回	各論：国際連盟(目標1,2)
	第9回	各論：国際連合(目標1,2)
	第10回	各論：日本の議院内閣制（１）55年体制(目標1,3)
	第11回	各論：日本の議院内閣制（２）93年以降(目標1,3)
	第12回	各論：日本の社会保障制度（１）社会保険(目標1,3)
	第13回	各論：日本の社会保障制度（２）公的扶助(目標1,3)
	第14回	各論：世界の社会保障制度(目標1,2)
	第15回	総まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎回、前もって指示した教科書の該当部分を熟読した上で講義に臨むこと（第２回以降）。 普段から新聞やテレビにおける報道に関心をもつことが望ましい。
	復習	各自作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認すること。
	展開	講義を受けることで理解できた知識を生かして、テレビや新聞のニュースに関心を向けるようにし、さらなる読書も進めて欲しい。
成績評価	評価の基準	授業内容が理解できているか，そして，それを踏まえ具体的な政治課題に関して、自らの言葉（文章）で見解を表現することができるか，以上を評価の基準とする。
	評価の方法	レポート（文章作成）100%。こちらが指定するテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	政治学（光文社新書）
	著者名	浅羽通明
	出版社	光文社
	価格	740円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-334-03629-4
推薦図書等		
参考URL		
備考		※各論の構成・順番については変更の可能性がある。 講義形式で板書も行う。適時，資料プリントを配付する予定。 板書をノートできるものを各自用意しておくこと。

2015年度シラバス

経済学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0012001 A0012005
科目区分	基礎科目
授業科目名	経済学
科目責任者	小柏　喜久夫
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月2
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	価格，市場，リスク，情報，インセンティブ
授業のねらい・概要	企業および産業の現場で起こる事象を経済学のロジックにしたがって分析し理解する。
学生の達成目標	１．経済学の基礎概念を理解し,経済学の考え方を習得する。 ２．ビジネスの世界で現実に起きている諸問題を,経済学の手法を使って考察する力を養う。

授業内容	第1回	ガイダンス:経済学とは(目標1)
	第2回	経済学の考え方(目標1)
	第3回	ビジネス・エコノミクスの世界(目標1)
	第4回	価格戦略(目標1,2)
	第5回	価格から見えるビジネスの構造(目標2)
	第6回	市場メカニズム(目標1)
	第7回	エイジェンシー理論(目標1,2)
	第8回	「ゲーム」としてのビジネス(目標1,2)
	第9回	競争戦略(目標2)
	第10回	技術革新(目標2)
	第11回	新事業の創造(目標2)
	第12回	事業再構築(目標2)
	第13回	M&A(目標2)
	第14回	国境を越えるビジネス活動(目標2)
	第15回	変わり続けるビジネス環境(目標1)
予習・復習の内容	予習	配布資料並びに現実の経済問題でわからない点について質問の準備をすること。 授業の内容に示される課題，キーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 リアクション・ペーパーに示されたコメントについて確認し，理解を深めること。
	展開	授業で紹介する参考文献にあたり，知識・理解を広げること。
成績評価	評価の基準	経済学の基礎概念を理解していること，経済学の考え方を習得していること，現実の諸問題を経済学の手法をもって解読できること，を合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験60%と平常点（レポート・小テスト）40%による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

社会学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS105
開講年度	2015年度
登録コード	A0013001 A0013005
科目区分	基礎科目
授業科目名	社会学
科目責任者	石川　千穂
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木1
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会、科学、近代、リスク社会
授業のねらい・概要	今私たちは歴史的にどのような場所に立っているのかを社会学の研究や「社会」の成立ちから捉え、その維持のために私たちになにが必要なのかを理解する。
学生の達成目標	1.「社会」や「近代」という概念の歴史や条件を知ることで、自身の「あたりまえ」を少しでも相対化できるようになること。 2. 社会学の考え方に触れることで、物事をこれまでとは異なる視点から捉えられるようになること。

3. リスク社会として現代を捉えることで、自らをこの社会を維持するうえで不可欠な存在と捉えられるようになること。

授業内容

第1回　「イントロダクション」(目標2)
講師の行なっている研究をとおして社会学を紹介する。また、この講義全体の流れについて説明する。

第2回　「社会学とは①（「社会」とは）」(目標1)
私たちが日頃「社会」という言葉をどのように用いているかについて、ディスカッションを交えた考察を通して「社会」の条件を知る。

第3回　「社会学とは②（「科学」とは）」(目標1)
今回は社会学の「学」、つまり「科学」とはどのような営みであるのかを理解する。科学が誕生する条件としての近代について世界史の復習を兼ねて説明していく。

第4回　「社会学とは③（「社会科学」とは）」(目標1)
前回までの内容を踏まえ、「社会」を「科学」するとはどういう営みになるのかについて考察する。自然を対象として誕生した科学がその対象を社会へと移すことで直面する課題などについて理解する。

第5回　「社会学の偉人①」(目標2)
現代社会を論じる上でも重要な指針となっている近代社会学の立役達の研究を３回に渡って紹介する。今回は、エミール・デュルケムを取り上げる。

第6回　「社会学の偉人②」(目標2)
マックス・ウェーバーの研究から、「意図せざる結果」など、現代社会を捉える上でも重要な概念を学ぶ。

第7回　「社会学の偉人③」(目標2)
ゲオルク・ジンメルの研究から、社会という私たちの営みの不思議さを感じる。

第8回　「「社会」を物語る映画」(目標1)
ある社会のありようを切り取った映画を鑑賞する。映画で描かれる社会についての考察は期末試験の問いの一つとする。

第9回　「リスク社会論①」(目標3)
前回で紹介した震災についての社会科学的な考察の具体例として、ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックのリスク社会論を4回にわたって説明する。今回は、第２回の講義で説明した近代という歴史区分について復習したうえで、リスク社会にとってのキーワードである、後期近代という概念についてイギリスの社会学社アンソニー・ギデンズの議論を交えて説明する。

第10回　「リスク社会論②」(目標3)
前回を踏まえて、ベックのいうリスク社会というものが具体的にどういうものであるのかをベックの著作を参照しながら２回にわたって説明する。今回はリスク社会である後期近代社会がどのような問題を抱えているのかを理解する。

第11回　「リスク社会論③」(目標3)
前回で説明したリスク社会の問題を私たちがどのように向き合っていくのかについて、「サブ政治」という概念をキーワードにしてベックの考えを紹介する。

第12回　「リスク社会総論④」(目標3)
前回までで会得した、リスク社会としての現代社会という視点から、私たちが生きる今（＝現代日本社会）について考察する。ベックの指

摘するような問題や、それに対するリアクションが今の日本でどのようなかたちで現れているのかを具体的に示していく。リスク社会の現象として身近な問題を理解できるようになることを目指す。

第13回　「「社会」を「問う」①」(目標2)
これまでの授業を踏まえて学生自身が「社会」やそこに関わる「問い」を発見し、説明する。実際に観た人々や光景、あるいはインターネットや新聞の記事を参照しながら問題を発見し、その問題に対してどのような社会学の議論があるかを調べる。今回は事例を呈示する。

第14回　「「社会」を「問う」②」(目標2)
自ら発見した資料（目撃した光景や、記事）をもとにグループでディスカッッションを行ない、グループで一つづつ問題を発表する。その問題に対してどのような社会学の議論があるかを各自調べ、その結果を期末試験で論じる。

第15回　「まとめと復習」
期末試験に向けて、これまでの議論をまとめ、質疑応答を交えて復習する。

予習・復習の内容

予習　講義テーマを毎回事前に確認しておくこと。講義テーマについて、自分の知っていること・関心・疑問を言葉にしておくこと。

復習　毎回の授業内容をノートを見ながら確認し，疑問点や不明な点を言葉にしておくこと。授業内で提示する問いに対して、自分の言葉で答えられるようにしておくこと。

展開　自らの抱える問題を社会的に位置付けることで、自ら状況を打開する力を身につける。

成績評価

評価の基準　1．授業で説明した概念を理解しているか。
2．社会学という学問の特異性と魅力あるいは問題点を自分なりに説明出来るか。

評価の方法　1.出席が2/3以上であること
2. 13回のグループディスカッションに資料を持参し参加すること
（やむを得ず出席出来ない場合は資料を事前に提出すること）
→10点
期末筆記試験→90点
合計60点以上の得点があること

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

書籍名	危険社会―新しい近代への道
著者名	ウルリッヒ・ベック
出版社	叢書・ウニベルシタス
価格	5250
ISBN・ISSN	978-4588006098

推薦図書等

書籍名	ジンメル・つながりの哲学
著者名	菅野仁志
出版社	NHKブックス
価格	970＋税
ISBN・ISSN	4-14-001968-9

参考URL	関東社会学会機関誌バックナンバー 〈http://kantohsociologicalsociety.jp/annual_report/index.html.〉
備考	授業の進め方（グループワークや発表の有無）は、参加人数や受講者の希望によって決定します。

2015年度シラバス

物理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS102
開講年度	2015年度
登録コード	A0014001 A0014005
科目区分	基礎科目
授業科目名	物理学
科目責任者	貫井　正納
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火1
教室	講義室15，基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物質の運動、　力，　エネルギー、　実験，　観察
授業のねらい・概要	身の回りで起こる物理的な現象を観察しそれらの現象には一定の法則があることを理解する。それらの現象を解明する過程で、観察や実験を行い実証的に考える習慣を身につける。また現在の高度の科学技術について、その利便性とともに弊害について考える。
学生の達成目標	（1）中学校理科の物理分野における自然の事物,現象についての基礎的な知識を確実に習得をする。

（２）現在の高度な科学技術時代に適応できる、幅広い知識と技能および柔軟な思考を育成する。
（３）科学の発達の歴史を振り返り,これからの科学,科学技術と社会生活のあり方を考える。

授業内容	第1回	なぜ物理学を学ぶのだろうか分かるかな？なぜ、夜は暗いのか？　なぜ虹は７色なのか､空はなぜ青いのか？　これらの答えは物理学を勉強すると自分で解決出来る｡物理学は論理的な学問である。問題を解くのは実に楽しい。（目標1,2,3）
	第2回	自然科学における観察、実験の必要性や重要性を認識する。簡単な測定実験を行い、測定誤差、有効数字及び実験レポートの書き方を習得する。（目標1,2,3）
	第3回	波の働き（１）　①色々な波　　②波の要素（目標 波には二つのタイプがあること、波の基本的な要素について実例を挙げながら学習する。（目標1,2,3）
	第4回	波の働き（２）　①波の性質　　②干渉と回折　ホイヘンスの定理を用いて波の現象を解析する。（目標1,2,3）
	第5回	波の働き（３）　音波 もっとも身近な波である音の現象を解析する。（目標1,2,3）
	第6回	波の働き（４）　光 光の現象を可視光線および不可視光線について学習する。（目標1,2,3）
	第7回	物体の運動と力の話力とは何か､運動とは何かを日常の現象からその規則性を導き出す。(目標1,2,3)
	第8回	速さ、速度、運動量。ベクトルについて運動の規則性を導き出すための諸要素を学習する。(目標1,2,3)
	第9回	力の平衡とモーメント自然界ではバランスがとれるように物体が動いている。その法則性について学習する。(目標1,2)
	第10回	実験　　加速度、力、質量の関係を調べる 簡単な装置をを使い､運動の測定実験を行う。(目標1,2,3)
	第11回	電流の本質:電気とは、流れる電気と静電気 電気とは何か、流れる電気と流れない電気（目標1,2,3)
	第12回	電流の流れ方と抵抗 物体に電気が流れるとき､電流、抵抗、電圧の間に簡単な関係式が成り立つ。(目標1,2)
	第13回	磁石の不思議 磁石は現在色々な分野で利用されている。磁石の働きと､磁石の本質について振り返ってみる。(目標1,2,3)
	第14回	電流と磁石の秘密 電流と磁石は密接な関係を持っている。科学史を参照しその発展をみる。(目標1,2,3)
	第15回	実験　　電流と抵抗および電圧の関係を調べる。 簡単な器具を使いオームの法則および分圧、直列、､並列の回路における電流を測定する。(目標1,3)

予習・復習の内容	予習	中学校の教科書を開き物理学に関する内容を今一度よく読んで、その内容を理解しておく。 物理学に関わる用語について新聞、テレビ、ネットなどから積極的に

		収集しておく。 物理学の発展に寄与した科学者の業績や科学史についてしらべてみる。 寺田寅彦の全集が図書館にある。必読の書である。 科学と技術および社会に与える影響について広く考えるようにする。
	復習	授業内容について、日常生活での利用の実態を考える。 物理学は非常に論理的であり、その考え方は物事の解決に有効である。実際に試行してみる事を勧める。 物理学の表現は数式を使うことが多い。数式を使うことは暗記物ではない。必ず理屈がついている。ただ当てはめて計算するだけでなく、その理由をよく考えてするように。
	展開	簡単な実験を行い、なぜそのような現象が見られるのかを説明および学生との討議を基に授業を展開する。 簡単な器具や自作の道具を使い実験を行い、証拠に基づいた判断をするように指導する。 簡単な観察や実験でも自然の仕組みを解明することが可能であることに気づき、実験の楽しさを実感する。
成績評価	評価の基準	1．授業で説明した自然科学の基礎的な内容を日常生活の中で利用できる。 2．物理学が自然科学のの中で基礎的な内容構成をしていることに興味を持っている。 3．観察、実験が自然を探究していく大きな役割を持っていることを実践で示すことができる。 4．観察、実験の安全指導を理解し適切な行動がとれる。
	評価の方法	実験レポート，期末試験 70%，学習内容に対する関心の向上 30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 自作のプリントを配布する。参考書はその都度紹介する。 学習指導要領解説　理科編　平成 20年発行	
推薦図書等		
参考URL		
備考	・科学の発達の歴史を振り返り，これからの社会のあり方を考える。 ・観察，実験は随時行う。実験用のノート，グラフ用紙、プリント用のファイルを用意する。	

2015年度シラバス

自然科学入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS101
開講年度	2015年度
登録コード	A0039001 A0039005
科目区分	基礎科目
授業科目名	自然科学入門
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 山本　雅哉
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水1
教室	講義室19
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生物学，化学，物理学
授業のねらい・概要	一般教養科目として自然科学の概念をを身につける。 本学の学生は将来人に接する職に従事するため，豊かな人間性や倫理性に加え，人間やそれを取り巻く環境を科学的に理解・分析する能力が必要となってくる。 これらの能力を身につけるため，本講義では，高校の物理・化学・生物の基礎的

	知識を確認したのち，それらの知識が人間やそれを取り巻く環境を理解する上でどのように役立つかを学ぶ。
学生の達成目標	1.人体や環境を理解するための生物学的概念を説明できる。 2.人体や環境を理解するための化学的概念を説明できる。 3.人体や環境を理解するための物理学的概念を説明できる。
授業内容	第1回　「自然科学序論」-自然科学を学ぶ目的および学問としての自然科学を理解する 「単位と数」-自然科学を理解する上での単位の使われ方を理解する(目標1,2,3) 第2回　「生命の基本単位」-生命の基本単位である細胞の構造を理解する(目標1) 第3回　「3大栄養素」-生命を維持する栄養素,特に糖質,タンパク質,脂質の構造・性質を理解する(目標1) 第4回　「代謝とエネルギー」-生命を維持するエネルギー源を理解する。-(目標1) 第5回　「遺伝」-親から子へ伝えられる形質について理解する(目標1) 第6回　「物質の構成」-物質を構成する原子や分子について理解する(目標2) 第7回　「溶液」-人体を構成する細胞内液や外液が化学的溶液であることを理解する(目標2) 第8回　「pH」-pHの概念と人体における pH調節の重要性について理解する(目標1,2) 第9回　「圧力」-人体の受けている圧力や人体が作る圧力を理解する(目標1,3) 第10回　「気体の溶解」-細胞が生きて行くために必要な酸素がどのように溶けているのかを理解する(目標1,2,3) 第11回　「速度・加速度」-直線運動の基本的概念を理解する(目標3) 第12回　「力と運動(1)」-運動方程式,つりあい,回転運動についてを理解する-(目標3) 第13回　「力と運動(2)」-仕事,エネルギーについて理解する。(目標3) 第14回　「波動」-聴覚や視覚の源となる光や音の物理的性質を理解する(目標3) 第15回　「電気」-電気の基本的概念を理解する(目標3)
予習・復習の内容	予習　高校レベルの内容なので、高校の教科書・参考書を読んでおくこと。 復習　授業では例題等が出題されるので、同様な問題が解けるようしておくこと。 展開　専門科目を理解する上で必要な知識であることを意識する。
成績評価	評価の基準　講義内容に関する生物，化学，物理の基本的概念を理解できていること。 評価の方法　定期試験 80%，小テスト 20%として総合評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	

参考URL

備考

2015年度シラバス

化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS103
開講年度	2015年度
登録コード	A0015001 A0015005
科目区分	基礎科目
授業科目名	化学
科目責任者	山﨑　忠義
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水3
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	化学の基本概念，化学の基礎的な原理・法則，物質の性質と反応性
授業のねらい・概要	専門分野の学習で必要と思われる化学の基本概念や原理・法則，物質の性質・反応性などについて，実験を通して理解できるよう配慮し，身近な現象や物質と関連付けながら学習する。
学生の達成目標	1.化学の基本概念を理解する。 2.化学の基礎的な原理・法則を理解する。

	3.物質の性質や反応性を化学実験を通して理解し,専門科目の学習への基礎力を身につける。
授業内容	第1回　導入,原子・分子・イオンと物質量(原子構造,電子配置,化学結合,原子量・分子量・物質量等)(目標1) 第2回　物質量と化学反応式(化学変化と量的関係等)(目標2,3) 第3回　溶液の性質(溶解度,濃度,希薄溶液の性質等)(目標1,2) 第4回　酸・塩基・塩(電離,[H+]とpH,中和反応と塩等)(目標1,2) 第5回　酸・塩基・塩(中和の量的関係,中和滴定とpHの変化等)(目標2,3) 第6回　酸化・還元反応(酸化と還元,酸化剤と還元剤等)(目標1, 2) 第7回　酸化・還元反応(酸化剤・還元剤の強さ,金属のイオン化傾向と反応性等)(目標3) 第8回　電池(各種電池の原理と仕組み等)(目標2,3) 第9回　電気分解(水溶液の電気分解と量的関係等)(目標2,3) 第10回　有機化合物の特徴と分類(構造と分類,炭化水素等)(目標1,2) 第11回　酸素を含む脂肪族化合物等(アルコール,アルデヒド)(目標3) 第12回　酸素を含む脂肪族化合物等(カルボン酸とエステル)(目標3) 第13回　油脂と洗剤,芳香族炭化水素等(目標3) 第14回　酸素や窒素を含む芳香族化合物等(目標3) 第15回　糖類,アミノ酸とタンパク質等,まとめ(目標1,3)
予習・復習の内容	予習　講義用プリント・教科書を読み、その内容を理解するよう努める。演習問題は自力で解いてみる。問題意識を持ち、講義に臨む。 復習　講義で理解できなかった所を調べたりし、学習内容が確実に身に付けるよう読み直し、関連する問題を解く。実験レポートを作成する等。 展開　新聞等で化学に関する記事に関心を持ち、その化学的現象や物質の性質、反応性等を専門書等で調べ、理解を更に深める。
成績評価	評価の基準　講義内容が理解できていること。受講態度や出席状況、課題や実験レポートの提出等。 評価の方法　平常点（受講態度，課題や実験レポート等）20%、小テスト20%、期末の筆記試験60%の成績を総合する。この比率は若干変更することもあり得る。
教科書	書籍名　「化学」、他自作プリントを使用 著者名　齋藤、藤嶋、山本　編 出版社　第一学習社 価格　1085円 ISBN・ISSN　978-4-8040-0638-3
推薦図書等	
参考URL	
備考	

高校の教科書「化学基礎」等を読んでおく。講義・実験用プリント等を綴じるA4版ファイルを用意するとよい。

2015年度シラバス

生物学（発達）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0016001
科目区分	基礎科目
授業科目名	生物学（発達）
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木1
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	細胞，生理，遺伝，環境，多様性
授業のねらい・概要	１．生物学が身の回りの現象とどのように関係しているのかを気づかせる。 ２．人を中心とした生物は、どのようにして生命を維持しているのかの仕組みについて、生理学的・生化学的な側面から理解させる。 ３．生物の多様性と共通性を理解し、その中から法則を導きださせる。
学生の達成目標	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について、多様な側面から考えることができるようになる。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解できるようになる。

授業内容	第1回	糖・タンパク質・脂質の種類と構造(目標1,2,3)
	第2回	ヒトのガス交換のしくみ(目標1,2,3)
	第3回	循環器系の働き(目標1,2,3)
	第4回	解糖系・TCA回路・電子伝達系とATPの構造(目標1,2,3)
	第5回	光合成の反応(目標1,2,3)
	第6回	ヒトの各臓器の構造と働き(目標1,2,3)
	第7回	ホルモン・神経による調節機構(目標1,2,3)
	第8回	セカンドメッセンジャー(目標1,2,3)
	第9回	ヒトの発生過程(目標1,2,3)
	第10回	セントラルドグマ(目標1,2,3)
	第11回	エピゲノム(目標1,2,3)
	第12回	性的２型と適応度(目標1,2,3)
	第13回	免疫機構(目標1,2,3)
	第14回	節足動物における多様性と進化(目標1,2,3)
	第15回	グレイジング・サイクルとデトライタス・サイクル(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	タイトルだけだと毎時間異なった内容を学習するように見えますが、それぞれ関連しあいながら学習が進められますので、前時の内容の復習をしておく。
	復習	ノートを見返しながら，学習内容を確認し定着を図る。また，課題やレポートが課される場合もある。
	展開	生き物や生命現象についての基本的な知識を習得すると共に、日常生活との関連について気づくことができる。
成績評価	評価の基準	現代社会でより良く生きて行くためには，日常生活の様々な場面で生命科学に関する知識や情報を正しく理解し判断する「科学的リテラシー」が必要とされる。そこで，この基礎となる①生命科学の基礎的知識，②人間を中心とした側面からの理解を評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（70%），平常点（10%），レポート等（20%）の総合評価とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生物学に基礎について，日常生活との関係から理解し，それに基づいて判断できるような資質の獲得を目指す。また，関連する分野の広い生物学全体を俯瞰したり，自分なりの生命観を持てるようになる。 授業は基本的に講義が中心ですが、履修人数が少なければ実習等も行う。 収容可能人数40人 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。	

2015年度シラバス

生物学（保健）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0016005
科目区分	基礎科目
授業科目名	生物学（保健）
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	細胞，タンパク質，ATP，DNA，進化
授業のねらい・概要	１．現代生物学の基礎となる細胞の構造等の内容から始り，先端の生物学との関連に気づかせる。 ２．生物の多様性の中から法則を導き，法則に基づきながら多様性を見いださせる。 ３．命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て，生命を尊重する精神を養う。
学生の達成目標	1.生き物や生命現象についての基本的な知識を習得する。 2.生物の中に潜む法則性と生物間の多様性について,多様な側面から考えること

	ができるようになる。 3.日常の生活と,生物学との係わりや意義について理解することができるようになる。
授業内容	第1回　生命科学の誕生(目標1,2,3) 第2回　生物とは何か(目標1,2,3) 第3回　細胞を構成する分子(目標1,2,3) 第4回　地質時代と生物の変遷(目標1,2,3) 第5回　生物の系統と系統樹(目標1,2,3) 第6回　細胞の発見(目標1,2,3) 第7回　細胞の成り立ちと細胞内小器官(目標1,2,3) 第8回　細胞の振る舞い(目標1,2,3) 第9回　遺伝学がたどってきた道(目標1,2,3) 第10回　セントラルドグマ(目標1,2,3) 第11回　ゲノム(目標1,2,3) 第12回　ゲノムから見た生殖(目標1,2,3) 第13回　個人差と種差(目標1,2,3) 第14回　エピゲノム情報(目標1,2,3) 第15回　細胞は記憶する(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　予定している部分について教科書を読み，事前に学習内容のイメージを持つ。 復習　ノートを見返しながら，学習内容を確認する。また，課題やレポートが課される場合もある。どちらの場合もなるべく授業実施日中に行い，学習内容の定着を図る。 展開　生き物や生命現象についての基本的な知識を習得することができる。
成績評価	評価の基準　現代社会でより良く生きて行くためには，日常生活の様々な場面で生命科学に関する知識や情報を正しく理解し判断する「科学的リテラシー」が必要とされる。そこで，①生命科学の基礎的知識，②人間を中心とした側面からの理解が十分であるかを評価の基準とする。 評価の方法　学修内容が多いため、中間の筆記試験を行う。評価は，筆記試験（40%）×2回，平常点（10%），レポート等（10%）の総合とする。
教科書	書籍名　文系のための生命科学 著者名　東京大学生命科学教科書編集委員会編 出版社　羊土社 価格　2,800円 ISBN・ISSN　978-4-7581-2019-7
推薦図書等	
参考URL	

備考	授業は講義のみ。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

統計学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GNS105
開講年度	2015年度
登録コード	A0017001 A0017005
科目区分	基礎科目
授業科目名	統計学
科目責任者	白石　靖
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	データの処理，確率分布，統計的推測
授業のねらい・概要	記述統計・確率論・推測統計の基礎を理解させる。医療や教育現場の事象考察に際し，実験や観察，調査によって得られたデータを統計的に処理する手法と確率論的に解読する態度を身につける。
学生の達成目標	1．データ(標本)から種々の基礎統計量の算出方法を理解する。 2．代表的な確率分布を理解する。 3．推定・検定の原理を知り,具体的手法を理解する。

授業内容	第1回	1変量のデータ1・・・・・・・ 度数分布表(目標1)
	第2回	1変量のデータ2・・・・・・・ ヒストグラム(目標1)
	第3回	1変量のデータ3・・・・・・・ 平均(目標1)
	第4回	1変量のデータ4・・・・・・・ 分散・標準偏差(目標1)
	第5回	2変量のデータ・・・・・・・・ 散布図・相関係数(目標1)
	第6回	演習(その-1,データの整理)(目標1)
	第7回	確率分布1・・・・・・・・・ 確率変数・確率密度関数(目標2)
	第8回	確率分布2・・・・・・・・・ 正規分布(目標2)
	第9回	確率分布3・・・・・・・・・ 2項分布(目標2)
	第10回	統計的推定1・・・・・・・・ 母平均の区間推定(目標3)
	第11回	統計的推定2・・・・・・・・ 母比率の区間推定(目標3)
	第12回	統計的検定1・・・・・・・・ 検定の3つの手順 (目標3)
	第13回	統計的検定2・・・・・・・・ 母平均・母比率の検定(目標3)
	第14回	演習(その-2,推定・検定)(目標3)
	第15回	まとめ・・・・・・・・・・ 近代統計学とは,その研究方法の概略(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	日常の報道や書籍で接する数値や内容につき，統計的側面からの解釈に関心を持つこと。 授業の内容に示しているキーワードにつき，教科書での予習と，関連する高校数学の内容につき，確認すること。
	復習	毎時の授業要旨を各自ノートで整理すること。課題レポートの処理・提出で，既習内容を再確認すること。
	展開	新聞・テレビ等の報道で，統計的な数値処理や表現内容につき，統計的に正しく解釈する知識を深める。
成績評価	評価の基準	データを統計的に処理する手法とその原理を理解すること。
	評価の方法	平常点30%，レポート20%，期末試験50%を目安として，総合的に評価する。
教科書	書籍名	入門はじめての統計解析
	著者名	石村貞夫著
	出版社	東京図書
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	978-4-489-00746-0
推薦図書等	書籍名	統計学入門
	著者名	東京大学教養学部統計学教室編
	出版社	東京大学出版会
	価格	2,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-130-42065-5

参考URL	
備考	対数，順列・組合せ，確率，定積分等の各領域に関わる高校数学の基礎理解が望まれる。

2015年度シラバス

人間関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS106
開講年度	2015年度
登録コード	A0018001 A0018005
科目区分	基礎科目
授業科目名	人間関係論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己理解，他者理解，よい人間関係，性格と感情
授業のねらい・概要	１．よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。 ２．人間関係の重要さについて理解し，人間関係を大切にできるような心構えをつくる。 ３．様々な組織における人間関係を理解し，各組織の活動にかなった人間関係を築けるようにする。 ４．人間関係のトラブルについて学び，解決能力を養成する。

学生の達成目標	1.様々な人間関係のあり方について理解する。 2.様々な組織における人間関係の特徴を理解する。 3.人間関係で予想されるトラブルを理解し,解決法を身につける。	
授業内容	第1回	自己を理解する。自己概念とは。自己のとらえ方を学び,自己概念が人間関係に及ぼす影響について理解する。(目標1,2)
	第2回	性格と自己理解。性格の違いによって,自己の理解がどう変化するかを見る。(目標1)
	第3回	自尊心と自己防衛。健全な自己形成や人間関係における自尊心・自己防衛の意味や役割を理解する。(目標1)
	第4回	自己開示の心理。自己開示の意味を考え,心の健康にとってよりよい自己開示の仕方を考える。(目標1)
	第5回	対人認知,印象と理性的判断,対人認知の歪み。人の行動の理解の仕方を学び,対人認知の歪みの危険性について理解する。(目標1,3)
	第6回	対人感情 好き嫌いの心理。人に対する好き嫌いの感情がどのように形成されるのかについて学び,妥当な評価とは何かについて理解する。(目標1,2)
	第7回	対人行動,異性とのつきあい。異性との関係において起こる特徴的な心理や行動を理解し,健全な関係について考える。(目標1,3)
	第8回	学校における人間関係。生徒と生徒,生徒と教師といった学校における人間関係の特徴について理解し,学校における望ましい人間関係について考える。(目標2,3)
	第9回	家族における人間関係。家族や地域社会における人間関係の特徴について理解し,よりよい家族や地域のあり方について考える。(目標2,3)
	第10回	職場における人間関係。会社などの職場での人間関係の特徴について理解する。(目標2,3)
	第11回	共感と社会的結合。人間関係における共感や思いやりの重要性について学ぶ。(目標1,3)
	第12回	援助行動。援助行動を起こす心理や援助を受ける側の心理について理解し,よりよい援助のあり方について考える。(目標1,3)
	第13回	感情のコントロールと人間関係 対人関係のトラブル。人間関係でのトラブルが起きる要因について理解し,トラブルの克服の仕方について考える。(目標3)
	第14回	人間関係を円滑にする方法。悪化した人間関係を分析し,人間関係を円滑にする要因について考える。説得の技術を学ぶ。(目標1,3)
	第15回	難しい人とのつきあい方。性格の偏りや人格障害について理解し,非社会的行動や反社会的行動への対処方法を考える。(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	社会心理学の本を読む。自分の人間関係を思い浮かべて、学びたい点を明らかにする。
	復習	学んだ内容を日ごろに生かせるように考える。
	展開	学んだことと実際の自分の人間関係を比較しながら、さらに学びたいことについて本を探して読み、理解を深める。
成績評価	評価の基準	人間関係に関する考え方を獲得していること。 様々な人間関係を理解し，トラブルを解決するための見通しを持てること。

	評価の方法　授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は復習すること。

2015年度シラバス

国際関係論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GSS107
開講年度	2015年度
登録コード	A0019001 A0019005
科目区分	基礎科目
授業科目名	国際関係論
科目責任者	倉橋　良伸
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木2
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	地域紛争、民族紛争、東西冷戦、領土問題
授業のねらい・概要	今日の国際社会において発生している様々な紛争を取り上げ、その原因や経緯などを分析することで、国際関係を理解する。
学生の達成目標	１．東西冷戦の前後で世界がどのように変化したかを学び、国際情勢を巨視的に把握する。 ２．主要な個別の紛争に関する基礎的な知識を身につけ、新聞やテレビなどで報

道されるニュースを理解できるようにする。
３．国際社会において日本が置かれた状況に関して理解を深める。

授業内容	第1回	導入：国際関係論とは何か（目標1）
	第2回	総論：東西冷戦までの国際社会（目標1）
	第3回	東西冷戦以後の国際社会（目標1）
	第4回	各論：アジアにおける紛争（１）中国（目標2）
	第5回	アジアにおける紛争（２）東南アジア（目標2）
	第6回	アジアにおける紛争（３）南アジア（目標2）
	第7回	中東紛争（１）中東戦争（目標2）
	第8回	中東紛争（２）戦争以後のパレスチナ情勢（目標2）
	第9回	中東紛争（３）湾岸戦争～イラク戦争（目標2）
	第10回	「アラブの春」とは（目標2）
	第11回	ヨーロッパにおける紛争（１）クリミア（目標2）
	第12回	ヨーロッパにおける紛争（２）バスク（目標2）
	第13回	アフリカにおける紛争（目標2）
	第14回	日本を取り巻く状況（１）領土問題（目標3）
	第15回	日本を取り巻く状況（２）ＴＰＰ加入問題（目標3）
予習・復習の内容	予習	毎回、教科書の該当する部分を熟読した上で講義に臨むこと（第４回以降）。 普段から新聞やテレビにおける報道に関心をもつことが望ましい。
	復習	各自作成したノートと配布されたプリントを見直して講義内容を確認する。
	展開	講義を受ける以前よりも知識が充実しているはずだから、それを生かしてテレビや新聞のニュースに目を向けるようにし、さらなる読書も進めて欲しい。
成績評価	評価の基準	授業内容が理解できているか、そして、それを踏まえ具体的な紛争に関して、自らの言葉（文章）で見解を表現することができるか、以上を評価の基準とする。
	評価の方法	レポート100%。指定されたテーマについて文献を調べてレポートを作成してもらう。
教科書	書籍名	世界紛争地図（角川ＳＳＣ新書）
	著者名	「世界情勢」探究会
	出版社	角川ＳＳコミュニケーションズ
	価格	760円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4047315198
推薦図書等		
参考URL		
備考		

※各論の構成・順番については変更の可能性がある。
講義形式で板書も行う。適時、資料プリントを配付する予定。
ＤＶＤなどの視覚教材も使用する予定。
板書をノートできるものを各自用意しておくこと。

2015年度シラバス

コミュニケーション論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS101
開講年度	2015年度
登録コード	A0020001 A0020005
科目区分	基礎科目
授業科目名	コミュニケーション論
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火4
教室	講義室20
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	バーバルコミュニケーション，　ノンバーバルコミュニケーション, 対人関係, 対人支援, 心の安定
授業のねらい・概要	本講義ではコミュニケーションの概念・理論を学習することから始め、様々な対人場面での望ましいコミュニケーションについて理解を深めていきます。全授業時数の前半はコミュニケーション論についての総論を学び、後半は各論を学ぶものとします。これにより受講生が将来的に保育、教育、医療の場で効果的，かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるようになることを目指します。

学生の達成目標	1.コミュニケーションの概念，理論を理解する。 2.コミュニケーションの概念・理論をもとに実践方法を理解する。 3.医療・教育の専門職として対人支援場面に応じたコミュニケーションについて考えることができる。
授業内容	第1回　「ガイダンス」―ALSの方の自費製作映画―（目標１） 第2回　「コミュニケーションを学ぶ意義」―コミュニケーションの概念・理論, ヘルスケアにおける効果的なコミュニケーション ―（目標１，２） 第3回　「言語的コミュニケーション」―言語コミュニケーションの目的, 言語コミュニケーションに関係する要因―（目標１，２） 第4回　「非言語的コミュニケーション」―非言語コミュニケーションの目的, 非言語コミュニケーションに関係する要因―（目標１，２） 第5回　「言語的情報を与えることの演習」―グループワーク, 話す内容の吟味, 話し方の技法――（目標１，２） 第6回　「相手の気持ちに立って話をする力」―受容・共感, 傾聴の技術, 信頼関係の形成―（目標１，２） 第7回　「中間のまとめ」―コミュニケーション論の総論の確認―（目標１，２） 第8回　「家庭におけるコミュニケーション」―家族内の地位・役割, 家族間のコミュニケーション, ２１世紀型の家族―（目標１，２，３） 第9回　「学校におけるコミュニケーション」― 児童・生徒・学生と教員とのコミュニケーション, 仲間とのコミュニケーション, 学校と家庭とのコミュニケーション―（目標１，２，３） 第10回　「企業・会社におけるコミュニケーション」―日本社会と職場環境の変遷, 職場における役割・階層別のコミュニケーション, 報告・連絡・相談のやりかた―（目標１，２，３） 第11回　「医療と福祉におけるコミュニケーション（１）」―医療・福祉従事者と患者様・利用者様とのコミュニケーション―（目標１，２，３） 第12回　「医療と福祉におけるコミュニケーション（２）」―医療・福祉従事者間のコミュニケーション―（目標１，２，３） 第13回　「コミュニケーションと心の支援（１）」―病態水準論とコミュニケーション―（目標１，２，３） 第14回　「コミュニケーションと心の支援（２）」―防衛機制, 転移・逆転移, 自己覚知・内省―（目標１，２，３） 第15回　まとめ―コミュニケーション論の各論の確認―（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習　日常生活において，自らのコミュニケーションに関するエピソードなど考えておく。 復習　授業での概要と，日常での体験を統合できるようにする。 展開　コミュニケーションに関連する心理，発達など，周辺知識も活用すること。
成績評価	評価の基準　１．コミュニケーションに関して，基礎的な内容が理解できる。 ２．授業内で実施する演習に関して，主体的に考察できること。 評価の方法　平常点（小レポート）30%，中間のまとめ20%, 最終のまとめ40%, 授業への参加意欲・態度10%とする。

教科書	書籍名	現代社会のコミュニケーション論
	著者名	佐藤泰正, 加藤元繁(編)
	出版社	学芸図書株式会社
	価格	1890
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0419-6
推薦図書等	書籍名	新版入門コミュニケーション論
	著者名	宮原哲
	出版社	松柏社
	価格	2300＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7754-0115-6
	書籍名	コミュニケーション論序説
	著者名	大橋理恵他
	出版社	放送大学教育振興会
	価格	
	ISBN・ISSN	978-4-595-30710-2

参考URL

備考

2015年度シラバス

環境科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS102
開講年度	2015年度
登録コード	A0021001 A0021005
科目区分	基礎科目
授業科目名	環境科学
科目責任者	村上　正孝
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	公害，地球環境問題，環境保全，環境教育
授業のねらい・概要	地球環境の悪化は人類生存の可能性を脅かしている。この将来予測は環境科学研究の知見にもとづく。過去から現在の代表的な環境問題とその対策の経過を地域（公害）と地球レベル（地球環境問題）に分けて学び、限りある環境資源を将来まで持続可能に利用するための方策について、受講者と共に考え、発表・議論してもらう。

学生の達成目標

1.環境問題は有限な環境資源（人間―環境系）に対する人間の過度な活動により発生することを学ぶ。
2.環境を汚染・破壊する者と被害者（健康影響、生態系、Wellbeing[自然資源、インフラ、人間の活動など]）との間に深刻な社会的対立を引き起こすことを学ぶ。
3.環境問題の解決にはモラルの向上と科学的知見に基づく政策の立案そして、法律、制度、組織の整備が必須であり、加えて環境教育の充実が重要であることを学ぶ。

授業内容

第1回　環境科学の定義(目標1,2,3)
第2回　地域レベルの環境問題：産業型公害(目標1,2,3)
第3回　水質汚染-産業型公害(水俣病)(目標1,2,3)
第4回　大気汚染:生活型公害(目標1,2,3)
第5回　騒音公害:精神・心理的影響(目標1,2,3)
第6回　わが国における公害対策の歴史(目標1,2,3)
第7回　地球規模の環境問題(目標1,2,3)
第8回　温暖化ガスによる地球温暖化とその影響(目標1,2,3)
第9回　地球環境問題に対する国際的取組み(目標2,3)
第10回　廃棄物問題と低炭素・循環型社会(目標1,3)
第11回　3分間スピーチ:環境問題についての発表(目標3)
第12回　グループ討議:環境問題について討議し発表する(目標3)
第13回　スピーチと討議について講師がコメントする(目標3)
第14回　環境教育(目標3)
第15回　総括(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習　2014年度の授業概要をまとめた講義メモを第1回目に配布。各回毎に予め読んで下調べしておくこと。

復習　各回の授業終了後，その授業内容に対する自分の意見，疑問点，批判などをまとめノートしておくこと。

展開　11回目以降、3分間スピーチおよびグループ討議を実施する。復習のとき作成したノートにもとづき，各自、スピーチ原稿を作成するのが望ましい。またグループ討議のテーマは各グループのメンバーが決め，実り多き討論となるように積極的な参加が期待される。

成績評価

評価の基準　1）環境問題について理解できる能力を得ること。
2）さらに、環境保全のための提言ができること。

評価の方法　レポート50%，スピーチ・討論など授業への積極的参加度50%

教科書

書籍名　シンプル衛生公衆衛生学
著者名　鈴木庄亮，久道茂監修
出版社　南江堂
価格　2,400円
ISBN・ISSN　978－4－524－25358－5

推薦図書等

書籍名　プランB　2.0－エコ・エコノミーをめざして

著者名	レスター・ブラウン
出版社	ワールドウオッチジャパン
価格	2500円
ISBN・ISSN	4-948754-24－2

書籍名	環境白書　循環型社会白書/生物多様性白書
著者名	環境省編集
出版社	日経印刷
価格	2571円
ISBN・ISSN	978－4－905427－45－2

書籍名	論文の教室
著者名	戸田山和久
出版社	ＮＨＫ出版
価格	1120円
ISBN・ISSN	978－4－14－001954－2

参考URL	環境省ホームページ:政策分野一覧に最新の関連情報あり. 例、廃棄物・リサイクル対策→循環型社会・３R関連→国内の取組：３R行動見える化ツールなど.
備考	第11回以降，各受講者は３分間スピーチを行う。さらに５人ずつグループをつくり，司会者と書記を選んで環境にかかわるテーマを決め討議し発表する。議論により環境問題への理解を深め，今後の取り組みに役立てて欲しい。参加型の授業である。文章表現演習を履修することが望ましい。

2015年度シラバス

情報科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS103
開講年度	2015年度
登録コード	A0022001 A0022005
科目区分	基礎科目
授業科目名	情報科学
科目責任者	壁谷　彰慶
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水5
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ、インターネット、アルゴリズム、情報社会
授業のねらい・概要	本講義では情報のもつ特性を理解することから始め、どのように利用され、私たちの生活にどのように影響しているのかを学んでいきます。とくに、情報通信技術（ICT）の技術的な知識を得たうえで、情報社会との適切なつきあい方を自分で判断する力を身につけます。
学生の達成目標	1.情報の特性を理解する。 2.情報が社会的にどのような影響をもち、また、どのような場面で、どのような

技術によって利用されているのかを理解する。
3.情報通信技術（ICT）の活用について技術的仕組みと問題点を理解し、適切な利用法を自分で判断できるようにする。

授業内容	第1回　「情報科学の基礎知識」-情報の種類と特性（目標1,2） 第2回　「情報技術の発達」-情報技術の歴史（目標1,2） 第3回　「コンピューターの発達」-誕生から現代まで（目標1,2） 第4回　「インターネット史」-インターネットの誕生から現代まで（目標2,3） 第5回　「情報社会を考える(1)」-情報社会の特徴と問題（目標1,2） 第6回　「情報社会を考える(2)」-Google革命（目標2,3） 第7回　「情報社会を考える(3)」-ビッグデータの時代（目標2,3） 第8回　「情報社会を考える(4)」-プライバシーと個人情報（目標2,3） 第9回　「情報社会を考える(5)」-IPアドレスと匿名性（目標1,2） 第10回　「情報社会を考える(6)」-ネット言論とマスメディア（目標2,3） 第11回　「情報技術の理解(1)」-暗号化（目標1,2） 第12回　「情報技術の理解(2)」-計算可能性とアルゴリズム（目標1,2） 第13回　「情報技術の利用(1)」-教育場面でのインターネットの活用（目標2,3） 第14回　「情報技術の利用(2)」-医療場面でのインターネットの活用（目標2,3） 第15回　「まとめ」-残された課題など（目標2,3）
予習・復習の内容	予習　日常活用している情報機器のもつ特性や有用性を考えてみる。マスメディアやインターネットを通して入手した情報の信頼性・妥当性などの根拠を気に掛けてみる。 復習　授業で学んだ事柄を、日常生活の情報利用の場面で確認してみる。情報が関わる事件・ニュースなどについて、授業で学んだ事柄と関連性を考えてみる。 展開　新しく登場した技術や、新しく注目された問題などについて、自分なりに考えてみる。
成績評価	評価の基準　課題において、 ・授業内容を反映しているか ・問題を適切に捉えているか ・自分の見解を説得的に提示できているか を評価の基準にする。 評価の方法　小テストを40%、数回（2~3回を予定）の定期課題を60%とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　情報って何だろう 著者名　春木良且 出版社　岩波ジュニア新書 価格　886 ISBN・ISSN　9784005004577

書籍名	情報: 東京大学教養学部テキスト
著者名	川合慧ほか
出版社	共立出版
価格	2052
ISBN・ISSN	9784130624510

参考URL	
備考	授業方法、成績評価、参考書などの詳細については、授業初回時に指示します。

2015年度シラバス

障害インクルージョン論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GAS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0020101 A0020105
科目区分	基礎科目
授業科目名	障害インクルージョン論
科目責任者	野沢　和弘
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水4, 5
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害児者とのコミュニケーション　権利擁護　行動障害　アート
授業のねらい・概要	現実の社会をリアルに知る、実践的な障害理解と支援スキルを身に着ける、学ぶことの楽しさを知る
学生の達成目標	１．発達障害・知的障害のある子や人のコミュニケーションの特性はなにかを知る。 ２．虐待の実態を知り,なぜ虐待が起きるのかを知る。 ３．アートなどに見る障害児者の魅力も知る。

授業内容	第1回	ドラマや映画に登場する障害者(目標1)
	第2回	福祉と社会の変遷と障害者虐待～現実から学ぶ（目標１）
	第3回	障害のある子や人の思いをどうやって受け止められるのか(目標１)
	第4回	発達障害とコミュニケーション（目標１）
	第5回	なぜ人は虐待するのか～虐待の構造(目標２)
	第6回	行動障害とは何か～原因と対処法（目標２）
	第7回	社会と障害者～働くこと、芸術活動など（目標３）
	第8回	アール・ブリュット～世界で注目される日本の障害者アート（目標３）
	第9回	障害者のための新聞「ステージ」(目標1)
	第10回	わかりやすさとは何か（目標１）
	第11回	童話を作ってみる（目標３）
	第12回	障害者差別をなくすための千葉県条例～条例の成立過程と内容(目標２)
	第13回	障害者差別をなくすための千葉県条例～差別の本質(目標２)
	第14回	マスメディア論(目標１)
	第15回	総括(目標1)
予習・復習の内容	予習	新聞，テレビ，本，映画などで障害者が出てくる出来事，物語，事件などに関心を持って接すること。自分の中で感想や疑問や意見を思い浮かべ考えること。
	復習	授業の中で出てきた事件，出来事，制度，社会の問題について自分でさらに図書館やパソコンで調べる。そういう癖をつけること。
	展開	グループで話し合って，障害者の支援のあり方，権利擁護などについて考えを深める。
成績評価	評価の基準	障害のある子や人のコミュニケーション特性，虐待の構造，権利擁護の基本知識と姿勢が理解できているかどうか。
	評価の方法	試験３０%，レポート４０%，授業への取り組み30%，など。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	条例のある街
	著者名	野沢和弘
	出版社	ぶどう社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89240-187-9
	書籍名	なぜ人は虐待するのか
	著者名	野沢和弘
	出版社	Ｓプランニング
	価格	
	ISBN・ISSN	－

参考URL	授業中の私語（おしゃべり）など周囲の迷惑になることは厳禁。おしゃべりする人は取らないで。
備考	

スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR101
開講年度	2015年度
登録コード	A0023001 A0023002
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅠ（実技）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	実技
開講時期	
曜日・時限	A0023001　前期　金5 A0023002　後期　金4
教室	体育館，グラウンド
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ニュースポーツ，コミュニケーション・ワーク，レクリエーション・ワーク，インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーション種目やニュースポーツを通し，現代社会におけるスポーツの意義，とりわけ生涯スポーツとしてのスポーツやレクリエーションの必要性や魅力を認識し，活用できる能力を身につけてほしい。そのために，積極的な態度で授

	業に臨み，活動することを心がけること。レクリエーション・インストラクター資格取得のための実技科目である。
学生の達成目標	1.レクリエーション活動の意義を理解する。 2.さまざまな活動を通して,活動すること自体の喜びを実際に体験・理解する。 3.他者への支援(指導)が出来るようにする。
授業内容	第1回　オリエンテーション,アイスブレーキング①(目標1,2) 第2回　アイスブレーキング②道具を用いたゲーム(目標1,2,3) 第3回　アイスブレーキング③音楽を用いたゲーム(目標1,2) 第4回　ニュースポーツ（インディアカ）(目標1,2) 第5回　ニュースポーツ（ソフトバレーボール）(目標1,2) 第6回　ニュースポーツ(ディスクゴルフ)(目標1,2) 第7回　ニュースポーツ(アルティメット)(目標1,2) 第8回　ニュースポーツ（ドッチビー）(目標1,2) 第9回　ニュースポーツ（ペタンク）(目標1,2) 第10回　ニュースポーツ(ユニバーサルホッケー）(目標1,2) 第11回　ホスピタリティ・トレーニング①(目標1,2) 第12回　ホスピタリティ・トレーニング②(目標1,2) 第13回　支援実習①（計画）(目標1,2,3) 第14回　支援実習②（計画）(目標1,2,3) 第15回　支援実習③（計画）(目標1,2,3) 第16回　支援実習④（実演）(目標1,2,3) 第17回　支援実習⑤（実演）(目標1,2,3) 第18回　支援実習⑥（実演）(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　ニュースポーツやレクリエーションゲームの具体的な種目を調べて，どの様な特徴があるか学習しておく。 復習　実際に体験した種目をノートに取り，ルールやコツ，特徴を具体的に記入すること。 展開　スポーツ・レクリエーションの具体的な効果を調べ、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準　達成目標の達成度を評価する。 評価の方法　発表（50～60%），筆記試験（20～30%），平常点（10～20%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	レクリエーション活動を行うので服装は大学指定の体操服（ジャージ上下）とする。体育館用とグランド用にそれぞれ運動靴を用意する。その他装飾品や爪など運動時に支障とならないようにすること。

2015年度シラバス

スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR102
開講年度	2015年度
登録コード	A0024001 A0024005
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ・レクリエーションⅡ（理論）
科目責任者	中島　悠介
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金5
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	レクリエーション支援,現代社会とレクリエーション,レクリエーション事業,インストラクター
授業のねらい・概要	レクリエーションの歴史的な変遷から今後のレクリエーションのあり方,そのための指導理論,組織論,事業論などの学習を通じ,支援者（指導者）としての実践能力を高める。学生の経験に照らして考えられるよう進め,自分の生活と関連づけて理解し実践できるようにする。レクリエーション・インストラクター資格取得のための理論科目である。

学生の達成目標	1.レクリエーション活動の意義を理解する。 2.レクリエーション支援のための指導理論を理解する。 3.対象に応じたレクリエーション支援の計画立案と実践の能力を養う。
授業内容	第1回　オリエンテーション,レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史①(目標1) 第2回　レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史②,これからのレクリエーション運動(目標1) 第3回　レクリエーション支援の考え方(目標2) 第4回　レクリエーション・インストラクターの役割(目標2) 第5回　ライフスタイルとレクリエーション①(乳幼児期から青年期)(目標2,3) 第6回　ライフスタイルとレクリエーション② (青年期から高齢期)(目標2,3) 第7回　高齢社会の課題とレクリエーション(目標2,3) 第8回　少子化の課題とレクリエーション(目標2,3) 第9回　地域とレクリエーション(目標2,3) 第10回　レクリエーション事業とは(目標2) 第11回　事業の展開方法(目標2) 第12回　事業計画Ⅰ(PDCAサイクルに基づく計画立案)(目標2) 第13回　事業計画Ⅱ(計画立案と広報活動)(目標2) 第14回　レクリエーション活動の安全管理(目標2) 第15回　まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　小学校や特別支援学校，幼稚園，保育園などで，なぜレクリエーションが重要となるのかを事前に調べておくこと。 復習　授業で話された内容を十分に復習し，内容理解に努めること。 授業で配布された資料をしっかり保存し，それを参考に復習ノートを作成すること。 展開　目的に合ったレクリエーションプログラムを作れるように、各レクリエーション材の特徴と効果を調べ、知識・理解を深めること。
成績評価	評価の基準　達成目標の達成度を評価する。 評価の方法　試験（50～60%），提出物（30～40%），平常点（10～20%）
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	スポーツ・レクリエーションⅠを受講していること。

2015年度シラバス

スポーツ健康科学基礎理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR103
開講年度	2015年度
登録コード	A0026101 A0026105
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	スポーツ健康科学基礎理論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体力、スポーツ健康科学、生涯スポーツ、障害者スポーツ
授業のねらい・概要	生涯スポーツの実践のために必要な運動やスポーツの効果について科学的知見に基づいて概説し、運動やスポーツは、余暇活動のひとつとして人生を充実させることとともに、体力を向上させることや生活習慣病の危険性を抑えることなどの効果をもたらし、発育発達や健康の保持増進に必要であることを理解することをねらいとする。

学生の達成目標

	1.運動による身体への生理的影響を理解し、説明することができるようになる。 2.健康を維持ないし増進させるために適した身体活動の内容および体力を向上させるためのトレーニングの方法を理解し、実践することができるようになる。 3.運動技能の仕組みを理解し、説明することができるようになる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,運動の発生の仕組み(目標1,3) 第2回　障害者とスポーツ(目標1,2) 第3回　運動中のエネルギー代謝(目標1,2) 第4回　運動と栄養(目標1,2) 第5回　体力トレーニング(目標1,2) 第6回　スポーツバイオメカニクス(目標1,2,3) 第7回　スポーツ医学(目標1,2) 第8回　総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　シラバスの授業内容について事前に調べておくこと。 予習の内容がある場合は授業内で指示する。 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。3回程度を予定。 展開　スポーツ科学・健康科学に関する最新の図書や研究成果、情報について調べて知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　学習内容の習得度を期末試験にて評価する。また、授業に対する取り組み方、提出物も評価に含め、総合的に判断する。 評価の方法　期末試験 80%、授業に対する意欲・受講態度・提出物の提出状況 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　入門運動生理学 著者名　勝田茂 出版社　杏林書院 価格　2376円 ISBN・ISSN　ISBN：4764410877 書籍名　運動生理学20講 著者名　勝田茂編著 出版社　朝倉書店 価格　3672円 ISBN・ISSN　ISBN：4254690320
参考URL	http://www.jsad.or.jp/ http://www1.ocn.ne.jp/~suporeku/
備考	

2015年度シラバス

体育（ソフトボール）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR104
開講年度	2015年度
登録コード	A0025101
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（ソフトボール）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	前期
曜日・時限	金2
教室	体育館，グラウンド
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ、体力、健康、基礎運動技能、コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	運動やスポーツを実施し、生涯スポーツに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。

学生の達成目標

	1.スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保することができる。 2.準備・片づけ、ゲームの審判、ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。 3.生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標2) 第2回　キャッチボール;ティーボール(1)(目標1,2,3) 第3回　打撃の基本;ティーボール(2)(目標1,2,3) 第4回　ティーボール(3)(目標1,2,3) 第5回　ゴロ,フライの捕球・守備の基本;簡易的なゲーム(1)(目標1,2,3) 第6回　総合的な守備練習;簡易的なゲーム(2)(目標1,2,3) 第7回　ルールと戦術の理解;簡易的なゲーム(3)(目標1,2,3) 第8回　リーグ戦の企画と実践(目標1,2,3) 第9回　チーム練習およびリーグ戦(1)(目標1,2,3) 第10回　チーム練習およびリーグ戦(2)(目標1,2,3) 第11回　チーム練習およびリーグ戦(3)(目標1,2,3) 第12回　チーム練習およびリーグ戦(4)(目標1,2,3) 第13回　体力テスト(1)(目標1) 第14回　体力テスト(2)(目標1) 第15回　総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　ソフトボールの基本的なルールを予習して、授業に臨むこと。 復習　授業で学んだソフトボールの基本的な技能については、自主的に練習・ゲームなどをして身に付けること。 実際のソフトボールのゲームを見て、ソフトボールの技能・戦術について学習すること。 展開　ソフトボールの簡易的なゲームから、ソフトボールへと展開していく。
成績評価	評価の基準　リーグ戦の成績およびレポートを中心に実技等への積極的な参加を重要視する。体力テストの結果に関しては、評価に含めない。 評価の方法　実技への参加・受講態度・積極性 70%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%、運動技能 20%。ただし、この比率は若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	http://www.softball.or.jp/index.html
備考	ジャージ、Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため、１時限あたりの履修者数が 48名以

内であることが望ましい。したがって、履修希望者数過多の場合には抽選を実施することがある。

第１回目は体育館に集合すること。更衣は不要であるが屋内用運動靴を持参すること。
体力テストは、外部施設で実施する。詳細は、第１回目のオリエンテーションで説明する。
天候不良の際には、体育館内で屋内競技などを行うので、屋内用運動靴も常に準備しておくこと。

2015年度シラバス

体育（バドミントン）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR105
開講年度	2015年度
登録コード	A0025201
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（バドミントン）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	実技
開講時期	後期
曜日・時限	水1
教室	体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ、体力、健康、基礎運動技能、コミュニケーション・スキル
授業のねらい・概要	運動やスポーツを実施し、生涯スポーツに必要な基礎的な運動技能の修得とルールや戦術の学習を目指す。 また、生きがいや健康づくりの観点に立ち、自らスポーツを実践するための知識と体力を身につけ、運動やスポーツに対する好意的態度を養う。さらに、運動やスポーツを通してコミュニケーション・スキルを高め、仲間と協調し、社会人として貢献できる能力を身につける。

学生の達成目標

	1.スポーツ活動に積極的に参加し、健康を保持増進するための身体活動量を確保することができる。 2.準備・片づけ、ゲームの審判,ルールやマナーの学習・順守など、円滑な運営を実践し修得する。チーム・グループの中では、仲間とコミュニケーションを図り、自他の長所を生かしながらチーム・グループの目的を果たすための手段を考え、チーム・グループ内における役割を果たすことができる。 3.生涯スポーツに必要な運動技能の修得に努めることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標2) 第2回　基本技術(1);ドライブ、クリア(目標1,2,3) 第3回　基本技術(2);ドロップ、カット、ロビング(目標1,2,3) 第4回　基本技術(3);スマッシュ、ロビング、ヘアピン(目標1,2,3) 第5回　基本技術(4);プッシュ、サーブ(目標1,2,3) 第6回　応用技術(1);オールロング、オールショート(目標1,2,3) 第7回　応用技術(2);ダブルスの攻撃と守備(目標1,2,3) 第8回　総合練習と簡易的ゲーム(目標1,2,3) 第9回　ルールと戦術の理解、ダブルスゲーム(目標1,2,3) 第10回　ミックスダブルス(目標1,2,3) 第11回　リーグ戦(1)(目標1,2,3) 第12回　リーグ戦(2)(目標1,2,3) 第13回　体力テスト(1)(目標1) 第14回　体力テスト(2)(目標1) 第15回　総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　バドミントンの基本的なルール・審判法を予習して、授業に臨むこと。 復習　授業で学んだバドミントンの基本的な技能については、自主的に練習・ゲームなどをして身に付けること。 実際のバドミントンのゲームを見て、バドミントンの技能・戦術について学習すること。 展開　バドミントンの特性に触れ、積極的に親しむことで生涯スポーツに必要な基礎を作る。
成績評価	評価の基準　実技および準備等への積極的な参加を重要視する。体力テストの結果に関しては，評価に含めない。 評価の方法　実技への受講態度・積極性 70%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性10%、運動技能 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	http://www.badminton.or.jp/
備考	ジャージ、Tシャツ、体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であるため着用を禁止する。 円滑な授業運営および安全上の理由のため、１時限あたりの履修者数が 36名以内であることが望ましい。したがって、履修希望者数過多の場合には抽選を実施

することがある。

第１回目は、体育館に集合すること。更衣は不要であるが、屋内用運動靴を持参すること。
体力テストは、外部施設で実施する。詳細は，第１回目のオリエンテーションで説明する。

2015年度シラバス

体育（テニス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR106
開講年度	2015年度
登録コード	A0040001
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（テニス）
科目責任者	田村　尚雄
授業形態	実技
開講時期	前期
曜日・時限	木2
教室	テニスコート，Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次
免許・資格との関係	1年次　2年次 小学校教諭：　選択　選択 特別支援学校教諭：　選択　選択 幼稚園教諭：　選択　選択 保育士：　選択　選択 理学療法士：　選択　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生涯スポーツ，基本技術，コミュニケーション，グループ活動
授業のねらい・概要	生涯スポーツであり，世界で親しまれているテニスと日本で生まれたソフトテニスを実践し，その特性やルール・戦術を理解し，基本技術を修得する。また，仲間と協調して運動の楽しさや喜びを味わうとともに，継続的に運動ができる資質や態度を育てる。
学生の達成目標	1.安全に留意しながら実践力を養い，健康を保持増進する運動量を確保する。 2.準備から片付けまでを含む授業に自ら積極的に参加し，ルールやマナーを遵守し実践する。

	3.グループ内で仲間とコミュニケーションをとり，公正，協力，責任などの役割を果たし，教え合うことで基本技術修得と向上，およびゲームができるようにする。
授業内容	第1回　オリエンテーション（目標２，３） 第2回　テニス　ストローク，ボレー（目標１，２，３） 第3回　テニス　サービス，スマッシュ（目標１，２，３） 第4回　テニス　総合練習と簡易ゲーム（目標１，２，３） 第5回　テニス　シングルスゲーム（目標１，２，３） 第6回　テニス　ダブルスゲーム（目標１，２，３） 第7回　テニス　団体戦（目標１，２，３） 第8回　ソフトテニス　ストローク，ボレー（目標１，２，３） 第9回　ソフトテニス　サービス，スマッシュ（目標１，２，３） 第10回　ソフトテニス　総合練習と簡易ゲーム（目標１，２，３） 第11回　ソフトテニス　ダブルスゲーム（目標１，２，３） 第12回　ソフトテニス　団体戦（目標１，２，３） 第13回　グループ別実習　テニス（目標１，２，３） 第14回　グループ別実習　ソフトテニス（目標１，２，３） 第15回　まとめ（目標２，３）
予習・復習の内容	予習　ゲームの進め方やルールについては，自分で事前に調べ理解しておくこと。 復習　自分の自由時間でテニスを実践し，技術修得と感覚を養うことがのぞましい。 展開　技術修得を待つことなく，仲間と協力してゲームなどにトライする。
成績評価	評価の基準　実技を含め，授業への積極的参加態度と，達成目標の達成度を評価する。 評価の方法　準備・片付けを含めた授業参加態度・意欲(50%) 実技(50%) この比率は，最終的に変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	屋外で90分間連続して運動することが可能であること。 授業には，ジャージ，Ｔシャツ，スポーツシューズ（スパイクなし）を着用して参加すること。その他装飾品や爪などは運動に支障がないようにすること。自己所有のラケットの使用可。 安全確保のため，履修数は40名程度であることが望ましい。授業状況により，内容変更の可能性もある。 第1回目は，雨天時でもテニスコートに集合すること。

2015年度シラバス

体育（弓道）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR107
開講年度	2015年度
登録コード	A0041001
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（弓道）
科目責任者	秋山　和意
授業形態	実技
開講時期	前期
曜日・時限	木2
教室	弓道場，講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	日本の伝統文化としての弓道を体験する。
授業のねらい・概要	弓道の授業を通して「道」について考え、社会人として資質を高める。
学生の達成目標	1．弓道の正しい理解をする。 2．弓道の正しい射形を体現する。 3．弓道の「道」について考える。
授業内容	第1回

		オリエンテーション(目標1,2,3) 弓道の正しい見方,弓道の学習法,弓道の理念,危険防止対策,道場の約束事など
	第2回	実技の概要(目標1,2) 使用する道具とその扱い方 弦,弽,胸当て(女子のみ),矢の番え方など
	第3回	射法の学習(1)・・・弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2)
	第4回	射法の学習(2)・・・弓道八節(徒手,ゴム弓)(目標1,2)
	第5回	射法の学習(3)・・・弓道八節(弓を使っての素引き)(目標1,2)
	第6回	射法の学習(4)・・・弓の扱い方,弽の使い方,矢の扱い方(目標1,2)
	第7回	的前行射(1)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2)
	第8回	的前行射(2)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2)
	第9回	的前行射(3)・・・矢道(約10メートルの位置)からの行射(目標1,2)
	第10回	射法の実際(1)・・・正規の位置(28メートルから)の行射(目標1,2)
	第11回	射法の実際(2)・・・正規の位置(28メートルから)の行射(目標1,2)
	第12回	基本体の学習と行射(1)・・・正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2)
	第13回	基本体の学習と行射(2)・・・正規の位置(28メートル)からの行射と作法習得(目標1,2)
	第14回	基本体の学習と行射(3)・・・坐射で一手行射(目標1,2,3)
	第15回	総仕上げの学習・・・坐射で一手行射(体配,射形,射の運行など)(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	授業資料（配布プリント）を読み，課題について考える。(目標1,2,3)
	復習	授業での課題等について調べ、まとめて提出する。(目標1,2,3)
	展開	実技中心で行うが、講義も行う予定（特に、雨天時など）。
成績評価	評価の基準	授業への積極的な参加態度，実技の到達度，授業前の準備・整理状況など。
	評価の方法	レポート，学科試験，実技試験を評価評定により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	武道の礼法
	著者名	小笠原　清忠
	出版社	日本武道館
	価格	2，400円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4.583-10238-2
参考URL		
備考	※弓道場のほか，状況によっては予備教室を使用することがある。 ◎大学指定のジャージ，Tシャツ（ボタンのないもの），白靴下（白足袋） ◎指輪，ピアス不可。 ◎弓道未経験者でも可。	

2015年度シラバス

体育（ダンス）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR108
開講年度	2015年度
登録コード	A0042001
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（ダンス）
科目責任者	松原　敬子
授業形態	実技
開講時期	前期
曜日・時限	金2
教室	Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ダンス　リズミカル　表現　動きつくり
授業のねらい・概要	自らリズミカルでバランスのとれた身のこなしや運動をコントロールできる身体技能を身につける。また，踊る楽しさを共感し，創造性豊かな表現力を身につけていく。さらに，ダンスの簡単な作品を構成できるようになる。
学生の達成目標	1.リズム感を養い,身体で表現する楽しさを味わうこと。 2.他者と共に身体で表現し合うことの楽しさを分かちあえること。 3.他者の動きや表現の違いに気づき,さらに自分の表現を磨いていくこと。

授業内容	第1回	オリエンテーション・アイスブレーキング(目標1,2)
	第2回	体ほぐし(目標1,2)
	第3回	動きとリズム遊び(目標1,2)
	第4回	動きからダンスへ(目標1,2)
	第5回	ダンスの基礎① 姿勢,歩き方,走り方など(目標1,2)
	第6回	ダンスの基礎② 基本のステップとその応用(目標1,2)
	第7回	動きのコントラスト(目標1,2,3)
	第8回	動きつくり(目標1,2,3)
	第9回	即興表現(目標1,2,3)
	第10回	課題作品の発表,同時に評価の観点について理解を深める。(目標3,4)
	第11回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習①動きの原型について(目標2,3)
	第12回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習②ダンスの構成について(目標2,3)
	第13回	グループによる「ダンスの発表会」企画と練習③修正(目標1,2,3)
	第14回	「ダンス発表会」相互評価,評価の観点について理解を深める。(目標1,2,3)
	第15回	まとめ(目標3)
予習・復習の内容	予習	授業内容のキーワードについては，事前に調べておくこと。 自らのリズム感を養い，柔軟性などを高め身体のコントロールができるようにしてくること。
	復習	毎回の授業の要旨を図解し，まとめてくること。 苦手な動きなどは，練習を重ねてくること。
	展開	課題作品については，各グループで話し合い，創作してくること。
成績評価	評価の基準	達成目標を評価する。
	評価の方法	発表60%，提出物20%，受講態度20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	からだ―気づき学びの人間学―
	著者名	高橋和子著
	出版社	晃葉書房
	価格	3,200円
	ISBN・ISSN	978-4-7710-1530-2
参考URL		
備考	服装：トレーニングウェアー・上履き ・運動時に支障とならないよう長い髪は束ねる。 ・アクセサリーは外す。 ・長い爪は危険にならないよう短くする。	

2015年度シラバス

体育（水泳）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GGR109
開講年度	2015年度
登録コード	A0043001
科目区分	体育・スポーツ科目
授業科目名	体育（水泳）
科目責任者	下永田　修二
授業形態	実技
開講時期	前期
曜日・時限	集中
教室	講義室12，千葉大学プール
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	水泳指導，水中安全，水の特性
授業のねらい・概要	水の特性，水中安全，水泳の基本的な泳法に関する内容について概説し，水泳や水中安全に関する指導のあり方について理解する。
学生の達成目標	1.水泳競技の基本的な4泳法について,基礎的な知識技能を身につける。 2.水の特性を活かした水中での運動および水中安全に関しての基礎的な知識技能を身につける。 3.水泳の指導法について基礎的な知識を身につける。

授業内容	第1回	実技内容,水辺での安全に関するガイダンス（目標2）
	第2回	水の特性についての理解(浮力,水圧,抵抗)（目標2）
	第3回	浮力を活かした水中で運動（目標2）
	第4回	基礎的な泳法の習得(クロール)（目標1）
	第5回	基礎的な泳法の習得(平泳ぎ)（目標1）
	第6回	基礎的な泳法の習得(背泳ぎ)（目標1）
	第7回	基礎的な泳法の習得(バタフライ)（目標1）
	第8回	各種泳法の指導法1(フィンを用いた水泳指導)（目標3）
	第9回	各種泳法の指導法2(スタート・ターンの指導)（目標3）
	第10回	水中での安全(着衣泳)（目標2）
	第11回	水中での安全(救助法)（目標2）
	第12回	水中での安全(救助法)（目標2）
	第13回	水中での様々な遊び(潜る・浮く運動)（目標2）
	第14回	水中での様々な遊び(ボールを使った運動)（目標2）
	第15回	水中運動および各種泳法に関する総まとめ（目標1）
予習・復習の内容	予習	事前に水・水泳に関する資料を読んだり，体を動かしておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	水・水泳に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	水および水泳・水中運動に関する基礎的な内容を理解し，技能を身につけていること。水中安全に関する内容を理解できていること。授業の内容をもとに水泳指導に関する自らの考えをもち，説明ができること。
	評価の方法	平常点，提出レポート，期末の実技試験で評価する。平常点３０%，レポート１０%，期末実技試験６０%の成績を総合する。ただし，この比率は，最終的に若干変更可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	いきいき水泳指導と学習カード
	著者名	井上佳昭、田中敬二、平田和孝、渡辺光雄
	出版社	教育技術MOOK
	価格	1350円
	ISBN・ISSN	4-09-104855-2
	書籍名	これ一冊でわかる着衣泳実技トレーニング
	著者名	荒木昭好
	出版社	山海堂,
	価格	1600円
	ISBN・ISSN	4-381-X c0075 P1648E
参考URL		

備考	プールにおける実技であり，水着，キャップ，ゴーグル等が必要である。

2015年度シラバス

英語 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2015年度
登録コード	A0027001 A0027002 A0027003 A0027007
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A0027001　前期　月2 A0027002　前期　月3 A0027003　前期　火3 A0027007　前期　火2
教室	講義室10,11 講義室14 講義室10, 11 講義室12
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の基礎学力向上，異文化理解，教養，総合的な英語の運用能力養成
授業のねらい・概要	「聞く」「話す」「読む」「書く」活動を有機的に組み合わせ，総合的な英語の運用能力を養成する。
学生の達成目標	1.基本的な英語を聞いたり読んだりして理解できる。 2.聞いた英語を正確に書きとることができる。 3.自分の考えを英語で話したり書いたりできる。
授業内容	第1回　Money! Money! Money!(目標1～3が総合的に含まれる:以降も同様) 第2回　Let's Eat! 第3回　Serving the Community 第4回　Talking about Japan 第5回　Human Cloning: Do We Need It ? 第6回　Your Culture or Mine ? 第7回　City Food from Field to Table 第8回　The Making of a Nobel Prize-winner 第9回　Walking for Health: Yours and the Earth's 第10回　Changing Lives 第11回　How Fast Can We Travel ? 第12回　Medical care for the Whole Person 第13回　Looking for a Job ? 第14回　Follow your Dreams 第15回　まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習　指定された問題について、実際に自分で考えた答えを書く。 復習　正解しなった問題について、もう一度、辞典等を活用して理解をはかる。 展開　テーマに関連した事項について、自分なりの考えを書いて発表する。
成績評価	評価の基準　「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。 評価の方法　期末試験（ 70%），授業中の活動（ 20%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名　『English Fast Lane：異文化理解のための総合英語』2007. 著者名　金森強他 出版社　成美堂 価格　1 ,900円（税別） ISBN・ISSN　978 -4-7919-1037-3
推薦図書等	
参考URL	

備考	発達教育学部及び保健医療学部は指定されたクラスで実施する。 レベルによって，多少内容は変わります。

2015年度シラバス

英語 Ⅰ（発達）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2015年度
登録コード	A0027004 A0027005 A0027006
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ（発達）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A0027004　前期　月2 A0027005　前期　月3 A0027006　前期　火3
教室	講義室20 レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	読むこと、書くこと、聞くこと、話すこと、文法・語彙、欧米の文化
授業のねらい・概要	中学・高校で学んだ文法力や語彙力を強化しつつ、英語を読み、書く力を伸長させる。また、NHKの「リトル・チャロ」を副教材として用い、日常英会話を「聞き取り」「話す」力を養う。

学生の達成目標	1.基礎的な英文を理解し、簡単な英文を書ける力を養う。 2.中学、高校で学んだ英語の語彙や文法力を伸長させる。 3.基礎的な英語を聞き取り、話す力を養う。
授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Okinawa (沖縄)（目標1,2） 第3回　Okinawa (沖縄)（目標1,2）, リトルチャロ 1（目標3） 第4回　Bali, Indonesia（目標1,2） 第5回　Bali, Indonesia（目標1,2）, リトルチャロ 2（目標3） 第6回　Hawaii（目標1,2） 第7回　Hawaii（目標1,2）, リトルチャロ 3（目標3） 第8回　ここまでの復習 第9回　France（目標1,2） 第10回　France（目標1,2）, リトルチャロ 4（目標3） 第11回　Museums in Europe（目標1,2） 第12回　Museums in Europe（目標1,2）, リトルチャロ 5（目標3） 第13回　Rio de Janeiro, Brazil（目標1,2） 第14回　Rio de Janeiro, Brazil（目標1,2）, リトルチャロ 6（目標3） 第15回　全体のまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　次回の授業の下調べをする 復習　毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える 展開　授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準　毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。 評価の方法　平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名　一から学ぶ観光英語の基礎　English for Tourism 101 著者名　Akiko Tsuda他 出版社　NAN'UN-DO 価格　1900円+税 ISBN・ISSN　4-523-17760-9
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業には，必ず，英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。 各クラスとも登録順で23名までとする。

2015年度シラバス

英語 Ⅰ（保健）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2015年度
登録コード	A0027008
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅰ（保健）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング，リスニング，ライティング，スピーキング
授業のねらい・概要	学生が興味を持って学習できるような BBCドキュメンタリーの映像教材を用いて，中・高等学校で学んだ英語の知識をもとに，英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」力を総合的に高めていくことを目標とする。
学生の達成目標	1.中学校や高等学校で学んだ英語の語彙や文法力をさらに伸長させる。 2.基礎的な英文を理解する力を養う。 3.基礎的な英語を聞き取る力を養う。
授業内容	第1回　　授業の進め方について

	第2回	Water（1（目標3）
	第3回	Water（2）（目標1,2）
	第4回	Manatees (マナティ)（1）（目標3）
	第5回	Manatees (マナティ)（2）（目標1,2）
	第6回	Food（1）（目標3）
	第7回	Food（2）（目標1,2）
	第8回	1回～7回までの復習
	第9回	Amber (琥珀)（1）（目標3）
	第10回	Amber (琥珀)（2）（目標1,2）
	第11回	Medicine（1）（目標3）
	第12回	Medicine（2）（目標1,2）
	第13回	All Spun Out (平衡感覚)（1）（目標3）
	第14回	All Spun Out (平衡感覚)（2）（目標1,2）
	第15回	全体のまとめ）（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをする
	復習	毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える
	展開	授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み） 30%，小テスト 20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	やさしい英語で学ぶBBCドキュメンタリー
	著者名	森田彰　他
	出版社	成美堂
	価格	2,484円
	ISBN・ISSN	978-4-7919-1038-0
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 テキストで扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。	

2015年度シラバス

英語Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC101
開講年度	2015年度
登録コード	A0027009 A0027010 A0027011
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語Ⅰ
科目責任者	北條　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A0027009　前期　火2 A0027010　前期　月3 A0027011　前期　火2
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　必修 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション，聞く力話す力，プリゼンテーション，国際理解
授業のねらい・概要	身近な話題を取り上げ，基礎的な英語表現練習や簡単なプリゼンテーションの練習を重ねることで，英語でのコミュニケーション能力を高めることができる。さ

らに，英語の知識を増やし，英語圏の生活習慣を知ることで，国際感覚も養うことができる。

学生の達成目標	1）英語を聞く・話す力を鍛え，基礎的な英会話ができる。 2）身近な話題のプリゼンテーションを行うことができる。 3）英語圏の生活習慣を知り，英語の基礎知識を増やし，積極的にコミュニケーションができるようになる。
授業内容	第1回　授業目標と進め方／英語の特徴は？英語学習の理由は？（目標1,2,3) 第2回　世界にはこんなことが①St.Patrickとは？／表現発表(1) (目標1,2,3) 第3回　世界にはこんなことが②Animals／Assistance Dogとは？（目標1,2,3) 第4回　日本との違い①　School lives／日本と外国学校の違いは？（目標1,2,3) 第5回　日本との違い②　Food&Drink／Breakfast,Teaとは？（目標1,2,3) 第6回　日本との違い③　Festivals／Festivalとは？表現発表(2) (目標1,2,3) 第7回　日本との違い④　Post&Mail／Post Box, Mail Boxとは? (目標1,2,3) 第8回　日本との違い⑤　Money／＄￡￥の読み方は？（目標1,2,3) 第9回　共に生きる①　Community／道案内の会話は? (目標1,2,3) 第10回　共に生きる②　Barrier-Free／地域のB-Fとは? (目標1,2,3) 第11回　共に生きる③　Universal design／身近なU.D.例は? (目標1,2,3) 第12回　共に生きる④　the Challenged／どんな方のことか? (目標1,2,3) 第13回　困った時の訴え①　Symptoms／体の部位８つを英語で？（目標1,2,3) 第14回　困った時の訴え②　Castles／電話での会話は？（目標1,2,3) 第15回　まとめ　3Rs　　表現発表批評会(3)　(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　①　授業内容のキーワードや課題について，英語は辞書で，項目は百科事典などで調べ，自分なりの意見を発表できるようにしておく。 ②　指定されるUnitの練習問題や聞き取り問題を，CDを聞き解答し，表現練習をしてくる。 復習　①　配布プリントや教科書を用いて，授業内容の要点を，毎回必ずまとめておく。 ②　学習した英会話例を応用し，友人と練習する。 ③　教科書の基本文Read Aloudを，言ったり読んだり書いたりできるように練習する。 ④　指示されたレポートや発表原稿などは，期限までに提出する。 展開　・　身近な話題について友人と自由英会話を試みる。 ・　学習した国や習慣などについて，自分に当てはめて考えたり他の例を調べたりして，知識を深める。 ・　ラジオやテレビの英会話に継続して取り組み，英語検定やToeicなどの目標を持ち，各自英語力を向上させる努力をする。
成績評価	評価の基準　①　場面に応じた基礎的な英会話ができる。 ②　決められた観点に注意しながら，簡単な英語でのプリゼンテーションができる。 ③　英語を話す人々の社会習慣や考え方の例を理解し説明すること

ができる。
④　英語の基礎知識を確実にしている。
以上を合格基準とする。

評価の方法　①　英語表現・英会話発表30%
②　Presentation発表・提出40%
③　期末試験（英語圏の背景③と英語力④）30%

以上の成績を総合する。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ
	著者名	JACETリスニング研究会
	出版社	南雲堂
	価格	1,995円
	ISBN・ISSN	978-4-523-17624-4

推薦図書等

参考URL

www.mext.go.jp 文部科学省　外国語活動　小学校学習指導要領
www.japanlink.co.jp/ka 日本文化。生活習慣の紹介

備考

①　授業は(1)Communication Practice（PC映像や会話）(2)English Grammar Practice（聞き取りや基本文など）を進める参加型学習体制をとる。毎回教科書と補充プリントを使って行う。
②　授業を効果的に受ける，また英語力を向上させるために，指定される課題や表現発表，予習復習に進んで取り組むこと。
③　活動はできるだけ英語で行いたいが，不安な学生は申し出るように。
④　教科書と付属CDを活用できる環境を整え、十分活用する。
⑤　最終回で満足いくような発表ができ，少しでも英語に自信が持てるようになる，ことへの努力を期待する。

2015年度シラバス

英語 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2015年度
登録コード	A0028001 A0028005
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A0028001　後期　月2 A0028005　後期　火2
教室	講義室10，11 講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語特有の音声変化やリズムの習得，英語の分析的読解力の養成，英語の論理的表現力の養成
授業のねらい・概要	英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し，英語の分析的読解力と論理的表現力を養成する。

学生の達成目標

1.英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」に関し,総合的な基礎学力を発展的に向上させる。
2.英語特有の音声変化やリズムを体系的に習得し,実際に聞いたり話したりする際に活用できる。
3.身近な話題についての英文記事を分析的に読解し,自分の意見を論理的に英語で表現できる。

授業内容	第1回　音の連結 My Heart Will Go On（目標1･2･3） 第2回　音の脱落 ① Open Arms（目標1･2･3） 第3回　音の同化 Don't Look Back In Anger（目標1･2･3） 第4回　音の脱落 ② A Whole New World（目標1･2･3） 第5回　Let's read ディズニー映画について（目標1･2･3） 第6回　音の脱落 ③ Livin' La Vida Loca（目標1･2･3） 第7回　短縮形の音 Kiss of Life（目標1･2･3） 第8回　音声変化の複合 I Don't Want To Miss A Thing（目標1･2･3） 第9回　音の脱落 ④ Everytime I Close My Eyes（目標1･2･3） 第10回　注意すべき母音 Life（目標1･2･3） 第11回　音の弱化 The Stranger（目標1･2･3） 第12回　短縮形の音 ② All I Want For Christmas Is You（目標1･2･3） 第13回　音の連結 ② Hey Now（目標1･2･3） 第14回　Let's read 女性の求めるものの時代的変化について（目標1･2･3） 第15回　まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)（目標1･2･3）
予習・復習の内容	予習　指定した部分の問題を自分で実際に解いてみたり、発音の練習をしたりしてみる。 復習　自分のできなかった箇所を、辞典等を活用して再度理解をはかったり、英語の表現を英語らしく言えるようにする。 展開　テーマに関連した特定の事項について、自分の意見を文字英語と音声英語で表現できるようにする。
成績評価	評価の基準　「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。 評価の方法　期末試験（70%），授業中の活動（20%），課題等の提出物（10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	書籍名　『ポップスで学ぶ総合英語　改訂新版』 2011. 著者名　角山輝彦 出版社　成美堂 価格　2,100円（税別） ISBN・ISSN　978-4-7919-3086-9
推薦図書等	

参考URL	
備考	発達教育学部は登録順で 23名までとする。 保健医療学部は指定されたクラスで実施する。

2015年度シラバス

英語 Ⅱ（発達）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2015年度
登録コード	A0028002
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ（発達）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室20
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング、リスニング、保育の英語
授業のねらい・概要	英語Ⅱでは，欧米の食文化について書かれた教科書を用いて、海外の文化に親しみながら、英語Ⅰで培ったリーディング、リスニングの力をさらに伸長させていく。また、将来、役立つように保育の現場で用いられる英語表現についても学ぶ。
学生の達成目標	1.主として英語の「読む」「聞く」を中心に総合的な英語基礎学力を向上させる。 2.保育の英語を学ぶ。 3.欧米の食文化に親しむ

授業内容	第1回　授業の進め方について 第2回　Time for Tea 1（目標1,3） 第3回　Time for Tea 2, 保育の英語（目標1,2） 第4回　Fresh from the Garden 1（目標1,3）） 第5回　Fresh from the Garden 2, 保育の英語（目標1,2） 第6回　Trick or Treat 1（目標1,3）） 第7回　Trick or Treat 2, 保育の英語（目標1,2） 第8回　ここまでの復習 第9回　Giving thanks 1　（目標1,3）） 第10回　Giving thanks 2, 保育の英語（目標1,2） 第11回　From your valentine　1　（目標1,3）） 第12回　From your valentine　2, 保育の英語（目標1,2） 第13回　The Meaning of Easter 1（目標1,3）） 第14回　The Meaning of Easter 2, 保育の英語（目標1,2） 第15回　全体のまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　次回の授業の下調べをする 復習　毎回の授業で学んだ基礎的な英語表現と文法をきちんと覚える 展開　授業で学んだ英語表現を応用して自分なりに文や会話を考える
成績評価	評価の基準　毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。 評価の方法　平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する テキストについては，初回の授業時に指示する。 保育についての副教材は適宜準備する。 書籍名　Food for Thought 著者名　Shinobu Sunaga 他 出版社　南雲堂 価格　1700円＋税 ISBN・ISSN　ISBN978-4523-17651-0
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 扱う内容や順番については，授業の状況により変更の可能性もある。

2015年度シラバス

英語 Ⅱ（保健）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC102
開講年度	2015年度
登録コード	A0028006
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語 Ⅱ（保健）
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療英語、リハビリテーション
授業のねらい・概要	英語Ⅱでは，理学療法士を目ざす学生用に作成された英語教材を用いて，さまざまな医療英語の語彙や表現を学びながら、英語の「読む」「聞く」「話す」力を伸ばしていき、将来、医療の現場で実際に役立つ英語力を身につけることを目標とする。
学生の達成目標	1.医療やリハビリテーションに関連する内容の英文を読むことを通して長文の概要を読み取る力を養う 2.リハビリテーションの現場で行われる基礎的な英会話表現を身につける 3.リハビリテーション関連のさまざまな英語の用語や知識を身につける

授業内容	第1回	授業の進め方について
	第2回	Osteoporosis（骨粗鬆症）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第3回	Osteoporosis（骨粗鬆症）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第4回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第5回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第6回	Diabetes（糖尿病）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第7回	Diabetes（糖尿病）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第8回	第１回～第７回までの復習
	第9回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第10回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第11回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第12回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第13回	Chapter 12 Case Study（事例研究）(1); 語彙，リーディング（目標１）
	第14回	Chapter12 Case Study（事例研究）(2); 会話，リスニング（目標２，３）
	第15回	全体のまとめ（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	授業の下調べをしておく
	復習	学んだ専門用語をまとめる。基礎的な英語表現を確認する。
	展開	理学療法や医療関係の教科書を見て、本授業で学んだことを確認する。
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（宿題・レポート・授業への取り組み）30%，小テスト20%，期末試験 50%の結果により総合的に評価する。
教科書	書籍名	The Art of Healing
	著者名	荒金房子他
	出版社	南雲堂
	価格	1700円　プラス税
	ISBN・ISSN	978 -4-523-17707-4
推薦図書等		
参考URL	なし	
備考		

授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。
扱う内容や順番については，授業の状況や受講生の希望により変更の可能性もある。

2015年度シラバス

英会話

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC103
開講年度	2015年度
登録コード	A0044001 A0044005
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英会話
科目責任者	マーク　レモン
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英会話・英語・外国語
授業のねらい・概要	日常英会話に付き外国語でコミュニケーションができると言うことに自信を持つようになる。
学生の達成目標	1.英語で言いたいことを積極的に表現する。 2.話し相手についての知りたいことを積極的に英語で質問する。

	3.まちがいをおそれずに、積極的にコミュニケーションを取ることができる。
授業内容	第1回　Introductions: Students introduce themselves in English(目標1,2,3) 第2回　Talking about Japanese holidays and events. (目標1,2,3) 第3回　Asking and giving personal information. (目標1,2,3) 第4回　Discussing likes and dislikes. (目標1,2,3) 第5回　Practicing the differences between countables and uncountables. (目標1,2,3) 第6回　Using adverbs of frequency and asking about habits. (目標1,2,3) 第7回　Talking about ability and degrees of proficiency. (目標1,2,3) 第8回　Review and oral presentation. (目標1,3) 第9回　Asking about family, relatives and sports. (目標1,2,3) 第10回　Asking about family, relatives and sports, continued. (目標1,2,3) 第11回　Describing and defining things. (目標1,2,3) 第12回　Talking about experiences and telling a story. (目標1,2,3) 第13回　Movie review: An animated film is used to review story-telling. (目標1,2,3) 第14回　Discussing jobs and functions. (目標1,2,3) 第15回　Review and preparation for final presentations. (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　前回の授業の問題に答えを書く。 復習　新しく習った単語や会話を暗記にする。 展開　A: Do you have a part-time job? B: Yes. I work at (a department store) in (Chiba).
成績評価	評価の基準　日常会話に関して，授業に取り上げた基礎的な内容が積極的に使用されていること。英語で言っていることが話し相手に通じることを合格準とする。 評価の方法　平常点60%，中間発表20%，期末発表20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC104
開講年度	2015年度
登録コード	A0045001
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語表現
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月5
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	英語の聴解力，読解力，英語で論じる技能，資格試験，専門科目の学習に役立つ英語力
授業のねらい・概要	英語の聴解力と読解力を一段と強固なものにし，英語で論じることが出来る技能を身につけて，実用英語技能検定やTOEIC等の資格試験や，専門科目の学習に役立つ英語力を養成する。
学生の達成目標	1.英語の聴解力と読解力を一段と強固なものにする。 2.英語で臨機応変に論じる技能を身につける。 3.資格試験や専門科目の学習に対応できる英語力を持つ。

授業内容	第1回	授業のオリエンテーションと課題の設定（目標1･2･3）
	第2回	課題達成のための教材の選定と対応（目標1･2･3）
	第3回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の連結，発音の訓練１（目標1･2･3）
	第4回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の脱落，発音の訓練２（目標1･2･3）
	第5回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：音の同化，発音の訓練３（目標1･2･3）
	第6回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：弾音，発音の訓練４（目標1･2･3）
	第7回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：単語の弱形，発音の訓練５（目標1･2･3）
	第8回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：短縮形，発音の訓練６（目標1･2･3）
	第9回	個別学習と疑問の解決 ネイティブの発音：肯定文と否定文，発音の訓練７（目標1･2･3）
	第10回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識１（目標1･2･3）
	第11回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識２（目標1･2･3）
	第12回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識３（目標1･2･3）
	第13回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識４（目標1･2･3）
	第14回	個別学習と疑問の解決，対話の訓練 ネイティブの発音：個人差による違いの認識５（目標1･2･3）
	第15回	まとめ (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)（目標1･2･3）
予習・復習の内容	予習	自分で予め学習事項を決め，過去問題等を使って実際に所定の時間で解いてみる。次に、自分で答え合わせを行い，辞書等を活用しながら解説を読んで、理解する。
	復習	授業での解説を参考にして、再度、辞書等を活用しながら、指定された部分の理解を深める。また、英語を流暢に読めて言えるように，自主練習をする。
	展開	解説を読んでも理解できなかった箇所を、担当教員に説明してもらい、疑問点の解決を図る。聴解力と英語で論じる技能を身に着けるため，視聴覚教材を使用して英語力を強化する。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験（ 60%），授業中の活動（ 30%），課題等の提出物（ 10%）を対象として総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		

参考URL

備考

2015年度シラバス

英語表現

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC104
開講年度	2015年度
登録コード	A0045005
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	英語表現
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	水2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リーディング、リスニング、、英語表現
授業のねらい・概要	この授業では、ナショナルジオグラフィックからの映像を視聴しながら、英語の読解力・聴解力・表現力をさらに鍛えていくことを主たるねらいとする。また、文法知識を再確認しながら、英語を使う能力をも向上させていく。
学生の達成目標	１、映像をみながら英文の概要を聞き取れる。、 ２、書かれている内容を自分の言葉でまとめ、説明できる。 ３、日常的な英語表現を身につける。
授業内容	第1回　　授業の進め方について

	第2回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標1)
	第3回	Cambodia Animal Rescue (Tiger)(目標2)
	第4回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標3)
	第5回	Cambodia Animal Rescue(Tiger) (目標1,2,3)
	第6回	Cupid the Dolphin (目標1)
	第7回	Cupid the Dolphin (目標2)
	第8回	Cupid the Dolphin (目標3)
	第9回	Cupid the Dolphin (目標1,2,3)
	第10回	ここまでのまとめ
	第11回	Saving the Pandas (目標1)
	第12回	Saving the Pandas (目標2)
	第13回	Saving the Pandas (目標3)
	第14回	Saving the Pandas (目標1,2,3)
	第15回	全体のまとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	次回の授業内容の語彙と英文について辞書等で調べておく。
	復習	授業での解説を参考にして、授業で学んだ部分の内容理解を深める。
	展開	授業で扱ったテーマに関連して、自分なりの考えを英語でまとめ発表する。
成績評価	評価の基準	毎回の授業に真面目に参加し，授業内容がきちんと理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点(授業への取り組み・態度、宿題)20%、授業の内容理解30%、レポートの提出度および内容50%により総合的に評価する。
教科書	書籍名	Messages from the Globe
	著者名	Miwako Yamashita他
	出版社	Cengage Learning
	価格	2415円
	ISBN・ISSN	978-4-86312-187-4
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業には，必ず英語辞書，テキストを持参のこと。 (授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)	

2015年度シラバス

中国語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC105
開講年度	2015年度
登録コード	A0046001 A0046002
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	中国語入門
科目責任者	佐久間　文麗
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A0046001　前期　火1 A0046002　後期　火1
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	拼音，簡体字，表現力，中国文化の理解
授業のねらい・概要	1年次生のための入門からの中国語の授業科目である。中国語を初歩から学び基本的な発音をマスターした上，基本語彙と基本文型を習い，朗読を通してリズムを身につける。

学生の達成目標

1.基本発音ができる,簡体字と繁体字を区別する。
2.基本文型をしっかり覚える。
3.中国文化の一端を知り，日常生活を表現する。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業予定・学習方法・目標・評価について），発音練習（目標3）
	第2回	第1課　校門で／挨拶のことば／人称代名詞（目標,3）
	第3回	第2課　廊下で／人の呼び方／動詞述語文（目標1,2）
	第4回	第3課　キャンパスで／指示代名詞／形容詞述語文（目標1,2）
	第5回	第4課　携帯を見ながら／所有を表す（有）／反復疑問文（目標1,2）
	第6回	第5課　学生食堂で／二重目的文／方位詞（目標1,2,3,4）
	第7回	第6課　王先生の研究室で／動詞の重ね型／語気助詞（目標1,2）
	第8回	中間復習（目標1,2,3）
	第9回	第7課　コンビニで／時を表すことば／助数詞（目標1,2）
	第10回	第8課　バスで／連動文／前置詞（目標1,2,3）
	第11回	第9課　放課後に／主述述語文／助動詞（目標1,2）
	第12回	第10課　卓球の中継を見ながら／経験を表すことば／様態補語（目標1,2）
	第13回	第11課　ディズニーランドで待ち合わせ／選択疑問詞／方向補語（目標1,2,3）
	第14回	第12課　カフェテラスで／比較を表すことば／時間・時刻・動作の回数（目標1,2,3）
	第15回	学生による発表と討論及び総まとめの講義（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	指示されたところ（教科書）を予習し，新しい単語の下調べをする。
	復習	毎回の授業内容をまとめ，指示された宿題をする。
	展開	テレビやラジオの中国語や中国文化の番組に関心を持つ。
成績評価	評価の基準	中国語入門段階からの発音，基本語彙，基本文型の読みと書きをマスターした上，初歩的な会話ができることを合格基準とする。
	評価の方法	期末試験 40%，小テスト 30%，学習達成度・宿題など 30%
教科書	書籍名	はじめまして！中国語
	著者名	喜多山幸子・鄭幸枝
	出版社	白水社出版
	価格	2,300円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-506-06921-9
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

フランス語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC106
開講年度	2015年度
登録コード	A0047001 A0047005
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	フランス語入門
科目責任者	小川　亮彦
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	木3
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	フランス語，ヨーロッパ文化，異文化理解
授業のねらい・概要	フランス語に初めて接する者を対象として，フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である，という要素を中心に，半年間でフランス語文法の基礎をできる限り把握することを目標とします。
学生の達成目標	1.フランス語の基本的な表現を聞き取ることができる。 2.フランス語で挨拶や自己紹介ができ,日常生活の基本的な状況を表現できる。 3.フランス語の平易な文章を辞書を用いて読解できる。

授業内容	第1回	挨拶と数詞…フランス語の書記法則と発音体系(目標1,2)
	第2回	第１回の授業の続き（目標1,2）
	第3回	街角で…名詞と冠詞（目標1,2）
	第4回	学食で…重要な不規則動詞①（目標1,2,3）
	第5回	大学にて…重要な不規則動詞②,否定文（目標1,2,3）
	第6回	レストランで…規則動詞,疑問文（目標1,2,3）
	第7回	友だちの噂話…形容詞,命令形（目標1,2,3）
	第8回	教科書中のフランス文化紹介記事について解説（目標4）
	第9回	パリの空港で…様々な比較の文章（目標2,3）
	第10回	オルセー美術館で…動詞と前置詞,疑問副詞（目標1,2,3）
	第11回	カフェバーで…疑問代名詞,様々な疑問文と応答文（目標1,2,3）
	第12回	ケンのアパートで…時刻の表現,天候の表現（目標1,2,3）
	第13回	浅草で待ちあわせ…目的格人称代名詞,特殊な動詞（目標2,3）
	第14回	経験したこと…過去を表現する基本形（目標1,2,3）
	第15回	復習とまとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	教科書をひと通り読んでおくこと。詳細な下調べは必要ありません。フランス文化，ヨーロッパ文化に関する報道やTV番組に接する機会を多くすること。
	復習	毎回の授業内容をまとめておくこと。 教科書の巻末に，添削用の各課復習問題があります。これを提出し，添削を受けること。 教科書付録のCDをくり返し聴くこと。
	展開	フランス語やフランス文化に興味を持ち、ＮＨＫＥテレやＢＳ放送などで関連番組を視聴する。また、図書館等で関連した著作に接し、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	平易な文章を，①「聞き取れる」こと，②「発話できる」こと，及び，基本的な文章を，③「読解できる」こと，を綜合して判定します。
	評価の方法	学期末試験（筆記と聞き取り）を70%，平素の授業における学習達成度（小テスト，練習問題の解答，発話，その他）を30%として採点します。
教科書	書籍名	Ken et Julie（ケンとジュリー）
	著者名	太原孝英　他　著
	出版社	駿河台出版社
	価格	2,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-411-00826-8 C1085
推薦図書等	書籍名	パスポート初級仏和辞典
	著者名	内藤陽哉他著
	出版社	白水社

価格	2,808円
ISBN・ISSN	978-4-560-00040-3

参考URL	
備考	英語学習の経験を前提として授業を進めます。英語の得手，不得手は心配ありません。 授業では毎回，教科書と付属CD教材を用いて初級文法の解説を行ない，同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら，辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後，必要と思われる部分に関して，再度解説を施します。講義内容をノートにとることよりも，自分でフランス語の文を読み，自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。ABCの読み方から始まって，辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので，安心して受講して下さい。 ただし，毎回の授業はすべて新出事項ばかりです。授業に欠席するのは勿体ないことなのだ，ということを忘れないでください。

2015年度シラバス

ドイツ語入門

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GIC107
開講年度	2015年度
登録コード	A0048001 A0048005
科目区分	国際コミュニケーション科目
授業科目名	ドイツ語入門
科目責任者	カレンベルク　ベレーナ
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ドイツ語の基礎　異文化理解
授業のねらい・概要	まずドイツ語に親しむことを目的とする。英語とは異なるアルファベットの発音や文章構造を学ぶ。 教科書に付属のCDとDVDを活用しリスニング能力を養うとともに，異文化にたいする理解を深め，簡単な会話ができる能力の養成を目指す。基本的にペアを組んで会話練習をする。

学生の達成目標

1．基本的な発音ができる。
2．聞いたアルファベットと数字を書きとることができる。
3．簡単な文を理解することができ，簡単な質問に答えることができる。

授業内容	第1回	アルファベットの発音(目標1)
	第2回	数字の読み方・書き方(目標1)
	第3回	四季・月名・曜日名,あいさつ,さまざまな疑問詞(目標2)
	第4回	地名の読み方・聞き取り・書き取り(目標2)
	第5回	第1課 Kennstdu Lena? 動詞の不定詞の活用(目標3)
	第6回	動詞 sein(目標2)
	第7回	第2課 Hast du einen Kugelschreiber? 動詞 haben(目標3)
	第8回	動詞と名詞の格との関係(目標2)
	第9回	前置詞と名詞の格(目標3)
	第10回	第3課 Hast du die Bälle? 名詞の複数形,数字の復習(目標1,2,3)
	第11回	第4課 Ich bringe dir die Pommes. いろいろな不規則変化動詞(目標3)
	第12回	人称代名詞の格と動詞の関係(目標3)
	第13回	第6課 Dein Handy ist nicht kaputt. 動詞と否定(第5課はとばす)(目標3)
	第14回	名詞と否定(目標2,3)
	第15回	復習とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	授業で指示されたところ（教科書）を読んでおく。
	復習	授業中に配られたプリントを復習する。
	展開	自分の自己紹介がドイツ語でできるように，ノートに自分のことについて短い文を書いてみましょう。 友達に質問もできるよう疑問文も書いてみましょう。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度をみて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験(70%），授業中の活動(20%），課題の提出(10%）を対象として総合的に評価する。ただし，５回以上欠席した者には期末試験を受けさせない。30分以上の遅刻３回で欠席１回とみなす。
教科書	書籍名	“Hallo,Benni!”ぼくらの未来ー映像と会話で学ぶ初級ドイツ語ー　2012年
	著者名	荻野蔵平他
	出版社	朝日出版社
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-25353-4　C1084
推薦図書等	書籍名	ドイツ語文法へのプロローグ　2007年
	著者名	岡本順治

出版社	郁文堂
価格	2,000円＋税
ISBN・ISSN	9784261011975

参考URL

備考

2015年度シラバス

コンピュータ演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS101
開講年度	2015年度
登録コード	A0035001 A0035002
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	コンピュータ演習Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A0035001　前期　火2 A0035002　前期　金2
教室	ＰＣ室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ソフトウェア，文書作成，プレゼンテーション
授業のねらい・概要	コンピュータの本体・周辺機器の基本動作，代表的な各種アプリケーションの大まかな仕組みを理解し，適切な利用法を身につける。 また，これらの知識をふまえ，プレゼンテーション技法，文章構成法の演習を行う。

	具体的には，報告書等の文書作成および資料の準備・プレゼンテーション技術を，演習を通して体得する。
学生の達成目標	(1)コンピュータの本体の構成および動作について,基礎的な知識を学習する。 (2)主要なオペレーティングシステムについて,その概要と操作法を習得する。 (3)主要なアプリケーションソフトウェアについて,基本的な使用法を学び,文書作成やプレゼンテーション等の実践的スキルを身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション コンピュータに慣れよう(目標1) 第2回　演習準備(1) キーボード入力(目標1) 第3回　演習準備(2) データの作成と保存(目標1) 第4回　文書作成ソフトウェア(1) ソフトウェアの概要(目標3) 第5回　文書作成ソフトウェア(2) ソフトウェアの操作方法(目標3) 第6回　コンピュータの仕組み(1) ファイルとフォルダの概要(目標2) 第7回　文書作成演習(1) 文書ファイルの作成(目標3) 第8回　文書作成演習(2) 総括と解説(目標3) 第9回　コンピュータの仕組み(2) ソフトウェア, OSとアプリケーションソフトウェアについて(目標2) 第10回　プレゼンテーションソフトウェア 準備 プレゼンテーションの目的と方法(目標3) 第11回　プレゼンテーションソフトウェア(1) プレゼンテーションの概要(目標3) 第12回　プレゼンテーションソフトウェア(2) ソフトウェア操作方法(目標3) 第13回　プレゼンテーションソフトウェア演習(1) プレゼンテーションファイルの作成(目標3) 第14回　プレゼンテーションソフトウェア演習(2) 各自発表と総評(目標3) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習　学内パソコンにログインする方法を確認しておいてください（大学から付与されたパスワードが必要です）。 復習　基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）に慣れるために、パソコン操作の作業を毎回復習してください。 展開　さらなる学習のために、ウェブサイトや文献を紹介します。やってみたい操作や使ってみたいソフトウエアがあれば、ぜひ調べてみてください。学内で使用できるソフトウエアかどうかを知りたい人は、質問してください。
成績評価	評価の基準　この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。 評価の方法　授業中の練習問題への取り組み 60%，随時実施する達成度を確認する課題 40%の合計で評価します。
教科書	書籍名　30時間でマスター　Office 2010 － windows7対応 著者名　実教出版編修部 出版社　実教出版

価格	1,100円
ISBN・ISSN	4407320958

推薦図書等	
参考URL	
備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。

2015年度シラバス

コンピュータ演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS102
開講年度	2015年度
登録コード	A0036001
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	コンピュータ演習Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金2
教室	ＰＣ室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，インターネット，電子メール，表計算
授業のねらい・概要	インターネット上の情報やマルチメディア情報の取り扱いについて学び，ネットワークに接続されたコンピュータを主体的に活用するために必要な情報検索・収集能力と，データを共有するための技能を体得する。あわせて，電子メール等，コンピュータを用いた情報発信の技術について，適切な利用法を身につける。
学生の達成目標	(1)表計算ソフトウェアについて,基本的な使用法を学び,表計算の実践的スキルを身につける。 (2)ネットワークのおおまかな仕組みを理解し，インターネットを利用して情報

を効率的に収集できるようになる。
(3)ブラウザと電子メールの仕組みを理解し,適切な利用法を習得する。

授業内容	第1回	イントロダクション 高度情報化社会における情報のやりとり
	第2回	表計算ソフトウェア演習 基礎的な操作(1)(目標1)
	第3回	表計算ソフトウェア演習 基礎的な操作(2)(目標1)
	第4回	表計算ソフトウェア演習 グラフ作成(1)(目標1)
	第5回	表計算ソフトウェア演習 グラフ作成(2)(目標1)
	第6回	表計算ソフトウェア演習 関数の利用(1)(目標1)
	第7回	表計算ソフトウェア演習 関数の利用(2)(目標1)
	第8回	インターネット演習 目的別の活用方法(目標2)
	第9回	情報検索演習(1) 効果的な情報収集(目標3)
	第10回	インターネット上のセキュリティ ウィルス(ワーム)対策,ユーザの安全,プライバシーについて(目標2)
	第11回	表計算ソフトウェア演習 応用的操作(1)(目標1)
	第12回	表計算ソフトウェア演習 応用的操作(2)(目標1)
	第13回	電子メール 種類と概要の説明(目標3)
	第14回	ブラウザ演習 種類と機能,各種設定について(目標3)
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	学内パソコンにログインする方法を確認しておいてください（大学から付与されたパスワードが必要です）。
	復習	基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）に慣れるために、パソコン操作の作業を毎回復習してください。
	展開	さらなる学習のために、ウェブサイトや文献を紹介します。やってみたい操作や使ってみたいソフトウエアがあれば、ぜひ調べてみてください。学内で使用できるソフトウエアかどうかを知りたい人は、質問してください。
成績評価	評価の基準	この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。
	評価の方法	授業中の練習問題への取り組み 60%，随時実施する達成度を確認する課題 40%の合計で評価します。
教科書	書籍名	30時間でマスター　office 2010－windows7対応
	著者名	実教出版編修部
	出版社	実教出版
	価格	1,100円
	ISBN・ISSN	4407320958
推薦図書等		
参考URL		

備考	学内にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ⅰを履修していることが望ましいです。 パソコン初心者が Ⅰを履修せずに Ⅱを履修するのは難しいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。 また，授業で獲得した技術を忘れないために，予習・復習を行ってください。

2015年度シラバス

文章表現演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS103
開講年度	2015年度
登録コード	A0037001 A0037005
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	文章表現演習
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	月1
教室	大講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語能力の育成・文章表現・相手意識・実用的文章
授業のねらい・概要	大学生として必要とされる文章表現の基礎を身に付ける。 実用的な文章表現の技術を習得する。
学生の達成目標	１．筋道の通った文や文章を記述できる。 ２．読み手を意識し,状況に応じた適切な文章を書ける。

	３．意欲を持って文章表現について必要とされる知識を習得する。
授業内容	第1回　受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価・文章表現ための発想(目標３) 第2回　文章表現力向上のための基礎の習得Ⅰ（目標３） 第3回　文章表現力向上のための基礎の習得Ⅱ（目標３） 第4回　履歴書の書き方・文章表現のための発想（目標２） 第5回　依頼文や礼状の書き方（目標２） 第6回　小論文の書き方Ⅰ　出題者の意図のつかみ方（目標１） 第7回　小論文の書き方Ⅱ　課題に正対した書き方（目標１） 第8回　文学的文章の書き方Ⅰ（目標２） 第9回　文学的文章の書き方Ⅱ（目標２） 第10回　文章表現力向上のための基礎の確認（目標３） 第11回　マインドマップを利用した文章表現発想練習（目標２） 第12回　マインドマップを利用した文章表現力の向上（目標２） 第13回　読み手を意識した文章の書き方（目標２） 第14回　ポートフォリオによる授業リフレクション（目標３） 第15回　ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習　課題について，自分なりに記述してみること。 復習　授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。 展開　文章表現に関しての自分の考えをレポートにまとめる。
成績評価	評価の基準　実用的な文章表現に関しての基本的な形式や表現技法について理解できていること。相手にとってわかりやすい文章のあり方について考えを持てることを合格基準とする。 評価の方法　試験４０％，グループ活動等における参加態度２０％、課題提出２０％，ポートフォリオ２０％，
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 「手紙・はがきの書き方」に関して書かれている本ならば指定しないので，各自準備すること。
推薦図書等	
参考URL	
備考	辞書（電子辞書でも可）を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備する。実際の場面で役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。

2015年度シラバス

速読法演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	GBS104
開講年度	2015年度
登録コード	A0038001 A0038005
科目区分	基礎演習科目
授業科目名	速読法演習
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	月4
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択 保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	速読法，読書に関する心理学的知見，読速度の向上，内容理解の充実，主体的・批判的な読み
授業のねらい・概要	私たちの日常生活や学習は，新聞，各種書籍，放送， ITメディア等の中で記載・表現されているおびただしい数の文字情報に支えられています。このような情報化社会を主体的に生きていくために，速読法演習では，読書行為に関する心理学的知見を学び，文字情報の内容を速く正確に理解できる読書技術の習得を目指します。

学生の達成目標	1.速読法を身につける。 2.読書に関する心理学的知見を理解する。 3.主体的・批判的な読書習慣を身につける。
授業内容	第1回　「速読の基礎知識」-現代社会における速読の有効性-(目標1,3) 第2回　「プリテスト」-現在の自分の読速度は?-(目標1,2) 第3回　「速読に関する心理学的知見の整理」-人間の情報処理過程について-(目標1,2) 第4回　「速読速解を妨げている読みの癖」-指差し読み,音読,逐字・逐語読み, etc.-(目標1,2) 第5回　「眼球運動トレーニング」-眼球運動と内容理解の関連性-(目標1,2) 第6回　「内容理解のためのキーワードトレーニング1」-短文トレーニング-(目標1,2) 第7回　「内容理解のためのキーワードトレーニング2」-長文トレーニング-(目標1,2) 第8回　「知識を活用した読み1」-概念駆動型読みとデータ駆動型読みの関連性-(目標1,2) 第9回　「知識を活用した読み2」-プレリーディングとスキャニング-(目標1,2) 第10回　「読書材料の種類によるトレーニング1」-文学的文章の速読-(目標1,2) 第11回　「読書材料の種類によるトレーニング2」-科学的文章の速読-(目標1,2) 第12回　「読書材料の種類によるトレーニング3」-新聞,雑誌, CRT画面上の速読-(目標1,2) 第13回　「速読法から速読術へ」-情報化時代の読みにおける評価・批判力-(目標1,2,3) 第14回　「ポストテスト」-自分の読速度はどれだけ高まったか?-(目標1,2,3) 第15回　「まとめ」-レポート作成と今後の課題について-(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　人間の読書行為に関する心理学的見解について調べておく。 復習　授業で学んだ速読技術を活用して本を読むようにする。 展開　自分の専門のために多くの書物を読み、引用文献や参考文献として活用できるようにする。また日常生活や趣味においても速読技術を用いられるようになる。
成績評価	評価の基準　授業を通じてどれだけ読速度が高まったかを自己評価・内省できることを合格の基準とする。 評価の方法　速読プリテストとポストテストの結果をふまえた中間時と最終時に提出する２つのレポートの内容（ 60%），通常授業時の課題提出状況および内容（ 30%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	書籍名　１日 30分７日間でマスターする実践速読速解トレーニング 著者名　佐藤将朗 出版社　おうふう

価格	1200＋税
ISBN・ISSN	9784273035563

推薦図書等	
参考URL	
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。

2015年度シラバス

言語発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT101
開講年度	2015年度
登録コード	A1001001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	言語発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語発達，理論，過程，言語発達障害
授業のねらい・概要	１．乳幼児のことばの獲得と発達の過程を段階ごとに理解できるようにする。 ２．ことばの発達に関わる促進要因，阻害要因を理解できるようにする。 ３．ことばの発達のつまずきや言語障害の原因や支援の仕方について理解できるようにする。
学生の達成目標	1.乳幼児におけることばの発達を理解する。 2.言語発達と思考,人間関係との関係を理解する。 3.言語発達の様々な障害を理解し,対処法を身につける。

授業内容	第1回	コミュニケーションと言語。生活における言語の位置づけ,言語の構造について概観する。(目標1、2)
	第2回	社会的知的発達における言語の役割。社会的知的発達を概観しながら,行動調整における言語の役割について理解する。(目標2)
	第3回	言語を成立させる要因。言語発達を支える生物学的要因(遺伝的要因,中枢神経系的要因,身体解剖学的要因など)や社会的要因(育児方法,文化的要因など)を考える。(目標1,2)
	第4回	言語の進化。ヒトの祖先からの進化を見ながら,言語の起源について考え,乳児期初期の発声構造の特徴を明らかにする。(目標1,2)
	第5回	発声行動と人とのやりとり。人とのやりとりの中でいかに泣き声や喃語といった発声行動が発達しことばにつながっていくかを理解する。(目標2)
	第6回	乳児期におけることばの理解。乳児期における人との関わりを見ながら,いかに乳児がことばの理解を深めていくかを理解する。(目標1,2)
	第7回	ことばの出現。1歳児における言葉の現れ方,人との会話の仕方について理解し,養育者の役割について考える。(目標1,2)
	第8回	会話の発展と文構造の発達。幼児期における会話の発展を理解し,複雑な文が言えるようになる過程を理解する。ことばの発達における認知の働きについても把握する。(目標1,2)
	第9回	文法の形成と理解。話しことばの文法がどのように形成されるか理解し,文法形成と人間関係との関連について考察する。(目標1,2)
	第10回	論理的思考と言語。言語発達と論理的思考との関連を考察し,その意味を考える。(目標2)
	第11回	絵本の読み聞かせと言語発達。幼児期における絵本の読み聞かせの意味を考察し,お話を聞くことから,いかに書きことばに対する興味と理解が現れてくるかを学ぶ。(目標1,2)
	第12回	物語能力の発達。幼児が物語を作るようになる過程を知り、物語作りの精神発達への影響を理解する(目標1、2)
	第13回	書きことばの発達。児童期にどのように書きことばが発達するかを解明し,抽象的な思考がどのように現れるかについて理解する。(目標1、2)
	第14回	小児の言語障害。発達途上における言語障害の現れ方について見ながら,どのようなメカニズムで言語障害が現れるのかを理解する。(目標3)
	第15回	言語障害を負う子への働きかけ。言語障害を負う子への働きかけの道筋を理解し,保育園や幼稚園,学校での支援のあり方について考える。(目標3)
予習・復習の内容	予習	幼児の言語発達に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味を確認する。
	展開	子どもと接しながら、言葉の発達を理解し、どのように働き掛けたらよいか考える。
成績評価	評価の基準	言語発達に関する考え方やメカニズムを理解していること。 言語障害の把握の仕方がわかり，対処の道筋について理解していること。
	評価の方法	

	授業中の質問への回答と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する テキストは使用しないで，資料配布を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は，しっかりと復習すること。

2015年度シラバス

造形能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT102
開講年度	2015年度
登録コード	A1002001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	造形能力発達論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳・幼児の造形能力の発達，造形に必要な能力の獲得，発達の段階による造形表現とその支援
授業のねらい・概要	乳・幼児期の発達の段階ごとの造形表現の違いについて具体的に理解を深める。様々な造形活動や表現を行うための能力とその獲得について発達の段階に即して理解し，保育や教育現場等での支援や指導に活かせるよう知識を深める。
学生の達成目標	1.乳幼児の造形能力の発達過程を理解する。 2.子どもの発達の段階ごとの造形能力の特徴と表現のとらえ方,その指導や支援について学ぶ。

3.身体能力やことばと造形表現との関係や障害等によって造形活動を阻むものに関しても理解を深め,支援のあり方について視野を広める。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点等について)・乳児期における発達(目標1)
	第2回	幼児期の成長と表現類型(1)手の動きの発達・視力の発達 ①(目標1)全員発表(子どもの頃)(目標1．2)
	第3回	幼児期の成長と表現類型(2)視力 ② ①健康診断の意味・幼児番組のとらえ(目標1)全員発表(子どもの頃)(目標1．2)
	第4回	幼児期の成長と表現類型(3)描画の芽生え ①(目標1)全員発表(子どもの頃)①(目標1．2)
	第5回	乳児の発達・課題レポート ①(目標1)全員発表(子どもの頃)(目標1．2)
	第6回	幼児期の成長と表現類型・聴力の発達・ことばの獲得と描画表現の発達との関係(目標1,2,3)
	第7回	幼児期の成長と表現類型・情動と運動機能の発達との関係(目標1,3)
	第8回	乳児に性差の違いはあるか①一般のとらえ (目標1,2)
	第9回	乳児に性差の違いはあるか②造形的な活動から(目標1,2)
	第10回	表現について ヒトの表現(目標1,3)
	第11回	子どもの絵とは・各発達の段階でみられる絵画表現①（なぐりがき）課題レポート ②(目標1,2)
	第12回	各発達の段階でみられる絵画表現②（頭足人）現場での実践;DVD視聴・発表(目標1,2)
	第13回	各発達の段階でみられる絵画表現③（幼児期）・現場での実践; DVD視聴・発表 (目標1,2)
	第14回	各発達の段階でみられる他の表現・現場での実践; DVD視聴・課題レポート ③(目標1,2)
	第15回	まとめ～人の発達と造形活動の関わり(目標1)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める 発表準備をする
	復習	テキストや配布資料を読み直す 発表のまとめをする
	展開	興味ある内容について各自で調べる
成績評価	評価の基準	乳幼児期の造形能力の発達に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに乳幼児教育のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常得点，毎回のふり返りを含めた提出レポートで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりをふくめた簡単なレポート 30%，課題レポート 40%） 70%，発表や授業の取り組み等平常得点 30%の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書		
	書籍名	

	感性をひらいて保育力アップ!「表現」エクササイズ＆なるほど基礎知識
著者名	山野てるひ　岡林典子　鷹木朗　編著
出版社	明治図書
価格	２３６０
ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ：978-4-18-059116-9

推薦図書等	
参考URL	
備考	全員の前で発表をする課題がある。 それに基づくレポートの提出課題もある。 簡単な実技の際に，指示に応じて折り紙やはさみ等を用意することがある。事前に連絡する。 保育の表現技術Ⅰ(造形表現)を履修する者は併せて履修するとより理解が進む。 2.3.4年の履修も受け入れている

2015年度シラバス

音楽能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT103
開講年度	2015年度
登録コード	A1003001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	音楽能力発達論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	こども，発達，音楽
授業のねらい・概要	新生児は養育者の話し声を旋律として認知し，歌唱の萌芽は生後３カ月ごろよりみられる喃語にあるといわれるように，人間の発達と音楽は不可分の関係にある。 各発達段階の子どもの音楽能力の発達を保育所保育指針等をふまえながら理解し，人間の発達における音楽の役割について考察する。
学生の達成目標	１．音楽的能力の観点から子どもの発達を大まかに理解する。 ２．音楽遊びの収集・分析を通して人間の発達における音楽の役割について考え

る。
3．子どもの音楽的能力の伸長のためにどのような援助ができるかを考える。

授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　「音楽」「音楽能力」「子どもの生活と音楽」について 第3回　胎児の聴力と学習能力(目標1) 第4回　子どもの発達と音楽活動(1) 新生児期(目標1) 第5回　子どもの発達と音楽活動(2) 乳児期(目標1) 第6回　子どもの発達と音楽活動(3) 幼児期の身体的発達(目標1) 第7回　子どもの発達と音楽活動(4) 幼児期の精神的発達(目標1) 第8回　子どもの発達と音楽活動(5) 児童期(目標1) 第9回　子どもの生活にみられる様々な音楽遊びの収集(目標2) 第10回　収集した音楽遊びの活動形態・音階などによる分類(目標2) 第11回　各発達過程に適した音楽活動例の考察(1)乳幼児期(目標2) 第12回　各発達過程に適した音楽活動例の考察(2)児童期(目標2) 第13回　特別な支援を必要とする子どもと音楽学習(目標3) 第14回　生涯学習としての音楽学習(目標3) 第15回　まとめ レポート提出
予習・復習の内容	予習　・幼児向け番組等で歌われている曲に関心を持つ。 ・自分自身がどのような音楽遊びをしていたか想起する。 復習　・（ボランティア先、親戚の子ども、電車の中など）身近な幼児を観察し、学習内容を確認する。 ・幼児向け番組の内容を、学習内容と結び付けて考察する。 展開　・機会をとらえて実際に子どもと音楽遊びを楽しむ。 ・子どもの発達のために、音楽を生かしてどのような支援が可能なのか考える。
成績評価	評価の基準　子どもの音楽能力の発達を大まかに理解し，音楽遊び等の活動を音楽的能力発達の視点から考察できる。 評価の方法　音楽遊びのミニレポート（ 20%），まとめのレポート（ 50%），授業に対する取り組み（毎時間提出するプリント等による）（ 30%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名　『保育所保育指針解説』 著者名　厚生労働省 出版社　フレーベル館 価格　200円＋税 ISBN・ISSN　ISBN:4577812426
推薦図書等	書籍名　『子どもと音楽』 著者名　梅本堯夫 出版社　東京大学出版会

価格	2500円
ISBN・ISSN	ISBN:4130131117

参考URL	
備考	大学生として図書館を使いこなせるようになるために，毎時間何らかの課題を出します。 授業外での学習時間をしっかり確保して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

身体・運動能力発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1004001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	身体・運動能力発達論
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	形態，生体機能，運動技術
授業のねらい・概要	身体運動を理解するために必要な基礎知識である人体の形態や生理機能について，発育発達による変化を踏まえて理解することを第１の目的とする。その上で，成長に伴う身体運動及び動作の発達について，具体的な題材をもとに学習することを第２の目的とする。
学生の達成目標	１．ヒトの形態、生体機能、運動機能の発達の特徴とその背景を理解すること。 ２．形態，生体機能及び運動技術それぞれの変化が，互いにどのように関連しているか理解すること。

授業内容	第1回	ガイダンス
	第2回	出生前の発育発達(目標1)
	第3回	体格の発育発達(目標1)
	第4回	骨の発育発達(目標1)
	第5回	筋の発育発達(目標1)
	第6回	呼吸・循環器系の発達(1)(目標１)
	第7回	呼吸・循環器系の発達(2)(目標１)
	第8回	第二次性徴(目標１)
	第9回	体力・運動能力の発達(1)(目標１)
	第10回	体力・運動能力の発達(2)(目標１)
	第11回	乳幼児期の運動発達(目標１)
	第12回	神経機能の発達(目標１)
	第13回	歩・走・跳の発達(目標１)
	第14回	投・蹴の発達(目標１)
	第15回	総括(目標２)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について，事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	ヒトの身体・運動能力の発達に関する図書・資料などを調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を期末試験にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含めて総合的に判断する。
	評価の方法	期末試験 70%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	事典発育・成熟・運動
	著者名	ロバートM．マリーナ、クロード・ブシャール 著　髙石昌弘、小林寛道 監訳
	出版社	大修館書店
	価格	7000円+税
	ISBN・ISSN	4-469-06214-6 / 978-4-469-06214-4
参考URL	文部科学省・子どもの体力向上 http://www.mext.go.jp/a_menu/05_c.htm	
備考		

2015年度シラバス

児童文学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT201
開講年度	2015年度
登録コード	A1005001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童文学演習
科目責任者	河村　真奈
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	月5
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童文学
授業のねらい・概要	この授業では、日本及び海外の児童文学史を概観し、それぞれの代表作を年代別に読み進めながら、子どもは文学とどういう関係を築いていけるのか、また、おとなはそこにどう関わることができるのかを考えていく。 授業を通じて、様々な作品を読むことで、児童文学へ漠然と抱いていたイメージを客観視することができれば、自分自身の「子ども」（現実の子どもや、作品の中の子どもなど）へのイメージを理解することにもつながるだろう。 また、授業の後半では絵本を扱い、実践的な場で応用できる知識を得ることを目指す。

学生の達成目標	1.児童文学・絵本についての知識（児童文学史、絵本史、子どもと文学の関係、おとなと児童文学の関係などに関する知識）を身につける。 2.作品を読み、児童文学が子どもに、社会をどのように伝えようとしてきたのかを考える。 3.子どもと文学との関わりに対して、おとな（自分）はどのように関わっていくべきか、自ら考えを深める。
授業内容	第1回　講義のガイダンス（目標１） 第2回　日本児童文学①：基礎知識、文学史等（目標１） 第3回　日本児童文学②：作品紹介　1950年代まで（目標２・３） 第4回　日本児童文学③：作品紹介　1960年代以降（目標２・３） 第5回　日本児童文学④：作品紹介　1960年代以降（目標２・３） 第6回　英米児童文学①：基礎知識、文学史等（目標１） 第7回　英米児童文学②：作品紹介　19世紀（目標２・３） 第8回　英米児童文学③：作品紹介　20世紀初頭（目標２・３） 第9回　英米児童文学④：作品紹介　20世紀～現代（目標２・３） 第10回　絵本（日本）①：基礎知識、文学史等（目標１） 第11回　絵本（日本）②：作品紹介　「ぐりとぐら」シリーズ、「からすのパンやさん」シリーズなど（目標２・３） 第12回　絵本（日本）③：作品紹介　メディアミックスされた絵本（目標２・３） 第13回　絵本（海外）①：基礎知識、文学史等（目標１） 第14回　絵本（海外）②：作品紹介　動物絵本など（目標２・３） 第15回　絵本（海外）③：作品紹介　ポストモダン絵本（目標２・３） 授業全体の総括、提出レポートのガイダンス
予習・復習の内容	予習　推薦図書、授業内で指定された作品は読んでおくこと。 復習　授業内で紹介された作品や参考文献を読み、児童文学への知識、理解を深めること。 展開　古典・近代の代表的な児童文学作品をふまえた上で、最新の児童文学作品についても知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　児童文学史・絵本史の概要を理解していること。 作品を読んだ上で、自分の意見をまとめられていること。 小レポート、期末レポートの提出状況。 評価の方法　授業への貢献度（30%）、授業中に課す小レポートもしくは意見発表（30%）、学期末レポート（40%）という配分で評価。総合評価60%以上で合格とする。ただしこの比率は変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　児童文学の教科書 著者名　川端有子 出版社　玉川大学出版部 価格　2,484円 ISBN・ISSN　978-4472404634

参考URL	
備考	事前に指定された作品を読み、授業内で発表、もしくは講義の後に感想文を書く形式とする。 授業内で必要な参考文献等、プリントで随時配布する。

2015年度シラバス

幼児・児童音楽演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT202
開講年度	2015年度
登録コード	A1006001
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	幼児・児童音楽演習
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	木4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童の歌，伴奏法，アンサンブル，音楽劇
授業のねらい・概要	音楽に関する基本的な知識や技能の活用法を学ぶ。現場で必要な幼児・児童の歌のレパートリーを増やし，それらを正しい発声法で弾き歌いができるように努める。同時にそのピアノ伴奏法及びギターでの伴奏についても学ぶ。習得した内容をグループ毎にアンサンブル（合奏，合唱，音楽劇等）の形で発表する。
学生の達成目標	１．幼児・児童の歌のレパートリーが増え，伴奏を付けて楽しく歌える。 ２．グループで力を合わせて一つの作品を完成できる。 ３．ギターの伴奏で弾き歌いができる。

授業内容	第1回	楽譜を読む為の基礎知識の復習及び,弾き歌いの為の基礎技能の復習(目標1)
	第2回	幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標1)
	第3回	幼児・児童の歌のレパートリーを増やす(目標1)
	第4回	リズム遊び,幼児・児童の歌(目標1)
	第5回	子供の歌の伴奏法(目標1)
	第6回	ギターを弾く為の基礎技能(目標3)
	第7回	ギターを弾く為の基礎技能(目標3)
	第8回	幼児・児童の歌の旋律に独自の伴奏を付ける(目標1)
	第9回	幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標3)
	第10回	幼児・児童の歌の旋律にギターで伴奏を付ける(目標3)。グループに分かれて発表の題材を決める（目標2）
	第11回	グループ毎にアンサンブルの練習(目標2)
	第12回	グループ毎にアンサンブルの発表練習(目標2)
	第13回	グループ毎にアンサンブルの発表練習(目標2)
	第14回	グループ毎にアンサンブルの発表練習(目標2)
	第15回	グループ毎のアンサンブルの発表（目標2）。授業の総括,提出レポートに関するガイダンス
予習・復習の内容	予習	保育の表現技術Ｉ（音楽表現）で学んだ楽典、演奏の基礎知識等を振り返っておく事。幼児・児童の歌の弾き歌いのレパートリーを増やせるように努力する。
	復習	旋律に対してどのように和音を配置できるか。またその伴奏法を各自学び直して、歌唱声部が引き立つ奏法を探る。音楽劇の台本の作成法を振り返っておく。
	展開	教育現場ではギターの伴奏による歌の指導も増えてきている。主要三和音とその分散和音を使用して、ギターによる弾き歌いのレパートリを増やすように努力する。音楽劇の題材を探し、台本を作成する。
成績評価	評価の基準	授業の基本的な内容が理解できている事。 授業内容をもとに，各グループ毎に力を合わせてアンサンブルの発表ができる事を合格基準とする。
	評価の方法	グループ毎のアンサンブルの発表 40%，提出レポート 40%，勉学意欲 20%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	１,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「心を育む子どもの歌」
著者名	南　曜子・今村方子・今川恭子共著
出版社	教育芸術社
価格	１,800円

ISBN・ISSN　4-87788-323-1

推薦図書等	
参考URL	
備考	『保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）』を履修していることが望ましい。

2015年度シラバス

絵本・児童画演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT203
開講年度	2015年度
登録コード	A1007001 A1007002
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	絵本・児童画演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A1007001　前期　木2 A1007002　後期　木2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	絵本，お絵かき，教材研究，子ども，絵本作り
授業のねらい・概要	子ども絵に関する基本的な知識を身につけ，保育や授業を展開するために必要な知識や技能を学ぶ。子どもにとって良い絵本とは何かを知り，絵本を読む楽しみや喜びを体験し，読み聞かせのための絵本の取り扱い方について学ぶ。実際にお話しを作り，お絵かきを体験的に学び絵本作りを行う。
学生の達成目標	(目標1)絵本や子ども絵に興味関心を持ち、子ども絵や絵本の基本的知識を習得する。子どもにとって良い絵本とは何かを知る。

	(目標２)絵本を読む楽しみや喜びを体験し,保育・授業の中で取り扱う絵本について理解を深める。保育,授業に生かすための絵を描くための基本的な教材等の知識,技能を習得する。 (目標３)保育・授業に活かすことができる絵本作りを行う。子どもの絵本作りの支援が出来る。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定 絵本を楽しむ「絵本紹介カード作り」（目標１） 第2回　絵本の世界と子どもの心。子どもの絵を読み取る（目標１） 第3回　保育で絵本を読むために、その準備と実際（目標１．２） 第4回　子ども絵の特徴・お絵かきの技法（目標１．２） 第5回　子ども絵の特徴・障害のある子の絵（目標１．２） 第6回　教材研究についてとその実際（目標１．２） 第7回　幼稚園、保育園の教材についてとその実際（目標１．２） 第8回　絵本作り１：お話の材料集め、お話作り（目標２．３） 第9回　絵本作り２：お話と絵の構成（目標２．３） 第10回　絵本作り３：製本について（目標２．３） 第11回　絵本作り４：中身作り、表紙作りについてとその実際（目標２．３） 第12回　手作り絵本発表会（目標３）手作り絵本の修正（目標2.3） 第13回　絵本を保育に活かす:子どもの絵本作りの支援と指導の方法(目標3) 第14回　絵本を保育に活かす:子どもの絵本作りの支援と指導の実際(目標3) 第15回　まとめ、自己点検
予習・復習の内容	予習　絵本・児童画に関する資料、本、研究論文を読む。 復習　各回ごとの授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。 展開　授業で学習したことを基に、絵本・児童画に関する教材研究を行い、保育・教育の現場で活用する。
成績評価	評価の基準　授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果 評価の方法　発表（30%），レポート（30%），作品（30%），授業への取り組む姿勢（ 10%）
教科書	書籍名　保育の表現活動 著者名　植草一世　他 出版社　学文社 価格　2,400円 ISBN・ISSN　978-4-7620-2442-9
推薦図書等	
参考URL	
備考	教材費（絵本セット代等）1500円程度必要 汚れてもいい服装

2015年度シラバス

玩具・遊具演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT204
開講年度	2015年度
登録コード	A1008001 A1008002
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	玩具・遊具演習
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A1008001　前期　木1 A1008002　後期　木1
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	玩具，遊具，教材研究，子ども，保育者
授業のねらい・概要	子どものための玩具・遊具を学ぶ。 教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。 保育や教育現場で活用する玩具や遊具を通しての楽しみや喜びを体験し，保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を体験的に習得する。

学生の達成目標

	(目標１)玩具・遊具とは何かを知る。教師・保育者として知っておきたい玩具・遊具に関する基本的な知識を知る。 (目標２)教育・保育の中で取り扱う遊具の教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。保育や教育の中で取り扱う教材やそれらを展開するための知識や技能を習得する。 (目標3)グッド・トイについて理解し、他者に対してその良さを伝えられるようプレゼンテーション力を身につける。
授業内容	第1回　本科目の目標,授業の概要 受講上の心得 授業形式と実技演習予定、子どもの遊びとおもちゃと遊具（目標１） 第2回　玩具と遊具・保育教材について（目標１） 第3回　おもちゃ学入門、グッドトイ（目標１） 第4回　ペープサートについて、作って遊ぼう（目標２） 第5回　パネルシアターについて、作って遊ぼう（目標２） 第6回　おもちゃの安全性（目標１） 第7回　保育教材（パネルシアター・ペープサート等）、子どものために演じ方（目標２） 第8回　共遊玩具、子どもの発達とおもちゃについて学ぶ。障害のある子のおもちゃ。（目標１） 第9回　郷土玩具について（目標１）わらの玩具「亀作り体験」（目標２） 第10回　幼稚園、保育園の玩具・遊具の実際（目標２） 第11回　おもちゃと子ども（援助と補助）（目標２） 第12回　手作りおもちゃについて、パペット作りと劇ごっこ（目標２） 第13回　グッド・トイの調査（目標１．２．３） 第14回　グッド・トイの発表（目標１．２．３） 第15回　まとめ　評価
予習・復習の内容	予習　玩具・遊具に関する資料、本、研究論文を読む。 復習　授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。 展開　グッド･トイの発表を行うことで、プレゼンテーション力を身につける。授業で学習したことを基に、玩具・遊具・教材を開発、製作し、保育・教育の現場で活用する。
成績評価	評価の基準　授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果 評価の方法　発表（ 30%），レポート（ 30%），作品提出（ 30%），授業への取り組む姿勢（ 10%）
教科書	書籍名　保育の表現活動 著者名　植草一世　他 出版社　学文社 価格　2,400円 ISBN・ISSN　978-4-7620-2442-9
推薦図書等	

参考URL	
備考	・教科書以外に材料費を事前集金する（ 500円位）。 ・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

2015年度シラバス

保育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT201
開講年度	2015年度
登録コード	A1012101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育原理
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育の意義、子ども観、保育の目的、保育の内容　保育の方法
授業のねらい・概要	保育について、子どもを保育するという原理と、政策における保育とを区別して理解し、同時に子どもの捉え方や保育の対象の歴史的な変遷から今日の保育の意義や役割を理解する。また、保育が実践によって実現することを理解し、保育の目的や内容、基本的な方法について知る。
学生の達成目標	1.保育の意義を理解する。 2.保育の思想や歴史から今日の保育の役割を理解する。 3.保育の目的を理解し、内容と基本的な方法を知る。

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもを理解する（目標1）
	第2回	保育の意義①保育所保育指針（目標1）
	第3回	保育の意義②幼稚園教育要領（目標1）
	第4回	保育の意義③保育が捉える子ども（目標1）
	第5回	保育の意義④保育の対象（目標1）
	第6回	保育の思想と歴史①諸外国（目標2）
	第7回	保育の思想と歴史②日本（目標2）
	第8回	保育の思想と歴史③制度・政策の変遷（目標2）
	第9回	保育の思想と歴史④子ども観（目標2）
	第10回	保育の目的（目標3）
	第11回	保育の内容と方法①物的環境（目標3）
	第12回	保育の内容と方法②人的環境（目標3）
	第13回	保育の内容と方法③遊び（目標3）
	第14回	保育の内容と方法④子どもと家庭、社会（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	次授業の予告を受け情報を探し、自分なりの考察を持つ。
	復習	返却されたリアクションペーパーの内容について、授業内容を踏まえて再考する。
	展開	再考した内容について、文献や授業内容を参考に継続して考察し、自分の考えを言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	書籍名	保育所保育指針平成20年告示 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館等
	価格	126円
	ISBN・ISSN	457781241X
推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領平成２０年告示
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館等
	価格	100円
	ISBN・ISSN	978-4-577-81240-2
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

児童家庭福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT202
開講年度	2015年度
登録コード	A1011101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	児童家庭福祉
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月1
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て家庭、子どもの権利、保育の役割
授業のねらい・概要	子どもと子育て家庭をめぐる現状と課題について、児童福祉視点から理解する。また、保育者として担うべき役割について、子どもの権利の視点から学ぶ。
学生の達成目標	1.子どもと子育て家庭に関する現状と福祉的支援について理解する。 2.権利主体としての子ども理解を前提として、児童福祉の法律や政策を歴史的変遷と併せて知る。 3.国内外の状況をふまえ、子ども支援全体における児童福祉および保育士の役割について考える。

授業内容	第1回	オリエンテーション、子どもと子育て家庭の現状①育児不安、育児ストレス（目標1）
	第2回	子ども・子育て家庭の現状 ②貧困（目標1）
	第3回	子ども・子育て家庭の現状③児童虐待（目標1）
	第4回	子ども・子育て家庭の現状 ④学齢以降の子どもの現状など（目標1）
	第5回	権利主体としての子ども理解（目標２）
	第6回	子どもの権利条約（目標2）
	第7回	児童福祉の歴史①近代国家成立以前と以降（目標２）
	第8回	児童福祉の歴史 ②ニーズ対応型から権利基盤型アプローチへ（目標２）
	第9回	児童福祉に関する法律（目標２）
	第10回	児童福祉の費用（目標２）
	第11回	児童福祉に関する相談機関・施設とその担い手（目標3）
	第12回	子どもと子育て支援の連携、ネットワーク（目標3）
	第13回	海外の児童福祉（目標3）
	第14回	児童福祉の役割と保育（目標3）
	第15回	全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習	子どもと子育て家庭についての現状を、新聞記事などから把握する。
	復習	返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。
	展開	再考したテーマについて、文献や授業内容を参考に継続して考察し、自分の考えを言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	新保育士養成講座編纂委員会編『新保育士養成講座第３巻児童家庭福祉』
	著者名	全国社会福祉協議会
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	１,900円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978 -4-7935-1028-1
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

社会福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT101
開講年度	2015年度
登録コード	A1009101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会福祉
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金4
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，権利擁護
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。 社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。 利用者保護の仕組みの理解と今後の社会福祉の課題について理解する。
学生の達成目標	(目標1) 社会福祉の意義を歴史的変遷との関わりで説明できるようになる。 (目標2)対象・分野別の社会福祉制度や実施体制等について説明できるようになる。 (目標3)社会福祉の動向と課題について理解し、考察できるようになる。

授業内容	第1回	社会福祉をめぐる状況(目標1)
	第2回	社会福祉の理念と概念(目標1)
	第3回	社会福祉の歴史(目標1)
	第4回	社会福祉と社会保障の関係　(目標2)
	第5回	社会保障と関連制度（目標2）
	第6回	社会福祉の仕組み（制度と法体系）（目標2）
	第7回	社会福祉の仕組み（行財政と実施機関、施設）（目標2）
	第8回	低所得者の福祉（目標2，3）
	第9回	子どもと家庭の福祉1（現代の家族と「子ども家庭福祉」（目標2，3）
	第10回	子どもと家庭の福祉2（子どもの人権と福祉）（目標2，3）
	第11回	障害者福祉（目標2，3）
	第12回	高齢者福祉（目標2，3）
	第13回	その他の社会福祉（地域福祉含む）（目標2，3）
	第14回	社会福祉専門職と非専門的社会福祉従事者（目標2，3）
	第15回	社会福祉援助の方法（目標2，3）
予習・復習の内容	予習	次回の該当する内容をテキスト等で確認する
	復習	授業内容や配布資料等を用いて、確実に理解する
	展開	疑問点等について、文献等を利用し、さらに理解を深める
成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。 社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できること。
	評価の方法	平常点（期間中に課すレポート）（30%），期末筆記試験（70%）で評価を行う。
教科書	書籍名	保育者のための社会福祉
	著者名	小林育子
	出版社	萌文書林
	価格	1 ,890円
	ISBN・ISSN	4 -89347-084-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

相談援助

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT203
開講年度	2015年度
登録コード	A1010101 A1010102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	相談援助
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1010101　前期　金1 A1010102　前期　金2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	援助過程，援助関係，コミュニケーション，福祉倫理
授業のねらい・概要	保育の場面で必要とされる相談援助について具体的に学ぶ。
学生の達成目標	1.相談援助の意義・目的を理解する。 2.相談援助の方法を理解し,基本的な相談援助技術を身につける。 3.相談援助を行う者の有する価値・倫理・倫理綱領を学ぶ。
授業内容	第1回　授業の進め方・評価方法 相談援助とは(目標1)

	第2回	相談援助場面(構成要素・展開過程・倫理)(目標1)
	第3回	相談援助の技法1援助関係(目標2)
	第4回	相談援助の技法2コミュニケーション(目標2)
	第5回	相談援助の技法3傾聴(目標2)
	第6回	相談援助の技法4記録(目標2)
	第7回	相談援助の技法5面接(目標2)
	第8回	相談援助の技法6アセスメント(目標2)
	第9回	相談援助の技法7評価(目標2)
	第10回	相談援助の事例1(目標1,2,3)
	第11回	相談援助の事例2(目標1,2,3)
	第12回	相談援助の事例3(目標1,2,3)
	第13回	相談援助の事例4(目標1,2,3)
	第14回	関連機関との連携(目標1,2,3)
	第15回	チームアプローチ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	①教科書の指定箇所を読んで，ワークシートを仕上げる。
	復習	①授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べ，まとめておく。
	展開	保育の現場で相談支援を行う基礎として学び、保育相談支援ができるように展開する。
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業へ取り組む意欲10%で評価する。
教科書	書籍名	「相談援助ワークブック」
	著者名	古川繁子、根本曜子、田村光子、井上深雪
	出版社	学文社
	価格	1800
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2453-5
推薦図書等		
参考URL		
備考	演習には積極的に参加し，レポートを作成します。 授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。	

2015年度シラバス

社会的養護

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT204
開講年度	2015年度
登録コード	A1014101 A1014102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	社会的養護
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	A1014101　後期　火1 A1014102　後期　火2
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，児童福祉施設，家庭的養護，子どもの最善の利益
授業のねらい・概要	子どもを取り巻く現代の社会状況を理解した上で,、社会的養護の意義や歴史を学ぶ。さらに各種別ごとの児童福祉施設の特徴と現状を理解し,今後の社会的養護のあり方を考える。
学生の達成目標	1.子どもの社会的養護をめぐる現状(特に虐待問題)を知り,保育所,学校,施設の新たな役割を認識する。 2.社会的養護の意義とその制度・実施体系及び歴史を学び,基礎的な知識を身に

つける。
3.児童福祉施設の現状と課題を理解し,これからの児童養護のあり方について自ら考えることができる。

授業内容	第1回	社会的養護とは何か・・・社会的養護の対象と体系(目標1)
	第2回	児童虐待問題(1)現代の子育てと児童虐待の現状(目標1)
	第3回	児童虐待問題(2)虐待を受けた子どもたちの様相と児童福祉施設及び学校の役割(目標1)
	第4回	社会的養護の歴史(1)古代から明治期まで(目標2)
	第5回	社会的養護の歴史(2)明治期から現代まで(目標2)
	第6回	児童相談所の役割(目標2)
	第7回	養育環境に問題がある児童の施設養護(1)(乳児院)(目標3)
	第8回	養育環境に問題がある児童の施設養護(2)(児童養護施設 母子生活支援施設)(目標3)
	第9回	情緒・行動面に問題がある児童の施設養護（１）（児童自立支援施設）（目標３）
	第10回	情緒・行動面に問題がある児童の施設養護（２）（情緒障害児短期治療施設）（目標３）
	第11回	障害のある児童の施設養護（１）（福祉型障害児入所施設）（目標３）
	第12回	障害のある児童の施設養護（２）（医療型障害児入所施設）（目標３）
	第13回	家庭的養護　（里親，ファミリーホーム，自立援助ホーム）（目標３）
	第14回	家庭養育を支援する施設(児童発達支援センター，児童家庭支援センター)（目標３）
	第15回	社会的養護のまとめ・・・理念と今後の方向性（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	虐待等の子どもに係る社会的問題に日頃から関心を持ち，新聞・テレビ等の報道を理解しておくこと。 授業内容に関連した項目について，事前に教科書を読んでおくこと。
	復習	毎回の授業のプリントを見直し、理解しておくこと。 毎回の授業に関連する教科書の内容を読み直すこと。
	展開	社会的養護に関する最新の新聞情報等や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	社会的養護を巡る状況やその歴史、及び各児相福祉施設の特徴等、基礎的なことが理解できていること。さらに社会的養護とは何か、その中での保育士の役割を的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末試験90%　授業中のレポート10%
教科書	書籍名	新保育ライブラリ　社会的養護(新版)
	著者名	櫻井慶一編著
	出版社	北大路書房
	価格	1700円

ISBN・ISSN　978－4－7628－2840-9　C3337

推薦図書等	
参考URL	厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/
備考	「推薦図書等」は授業中に紹介する。

2015年度シラバス

子どもの保健ＩＡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT301
開講年度	2015年度
登録コード	A1015101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＡ
科目責任者	齋藤　博子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金3
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児保健，発育，発達，健康，子どもの病気
授業のねらい・概要	子どもは，新生児から思春期まで劇的な身体的・精神的な変化を遂げる。この間の発達過程と疾病，子どもの健やかな成育を援助するための社会的制度の概要について学び，理解する。
学生の達成目標	1.小児の保健の意義と目的を理解する。 2.小児の発育・発達過程について基本的な知識を身につける。 3.小児に特有な事故,疾病についての知識を得て,基本的対応ができる。
授業内容	第1回　　小児保健総論(目標1)

	第2回	身体発育・胎生期(目標2)
	第3回	新生児期・乳幼児期(目標2,3)
	第4回	思春期(目標2,3)
	第5回	生理機能(目標2)
	第6回	運動機能(目標2)
	第7回	精神発達(目標2)
	第8回	栄養(目標1,2)
	第9回	環境・生活(目標1,2)
	第10回	事故・応急処置(目標3)
	第11回	健康・病気(目標3)
	第12回	予防接種・感染症(目標1,3)
	第13回	子どもの病気①心,腎,消化器(目標3)
	第14回	子どもの病気②アレルギー,内分泌・代謝(目標3)
	第15回	子どもの病気③血液腫瘍,神経(目標3)
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に，次回の授業内容について参考図書等を読み，理解しておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	小児保健に関する内容について，興味関心のあるテーマについて，文献や研究成果を調べ，知識を深める。
成績評価	評価の基準	授業の内容の理解，およびそれに基づき自分の考えを文章として表現できるかを評価基準とする。
	評価の方法	筆記試験70%，講義への参加度(レポート等)20%，授業態度10%，試験結果によって再試験を実施。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	新保育士養成講座　第7巻　子どもの保健
	著者名	新保育士養成講座編纂委員会編
	出版社	全国社会福祉協議会
	価格	1900円＋税
	ISBN・ISSN	ＩＳＢＮ：978-4-7935-1032-8
参考URL		
備考	医療従事者として子ども・保護者に関わっている視点から，子どもの発育・発達，疾病について概説する。	

2015年度シラバス

子どもの保健ＩＢ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT302
開講年度	2015年度
登録コード	A1016101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健ＩＢ
科目責任者	齋藤　博子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障がいをもつ子ども，発達障害，医療的ケア
授業のねらい・概要	子どもの保健ＩＡで学んだ子どもの正常な成長発達過程をもとに，障がいとは何か，子どもの障害の種類と特徴，その対処と援助法について学ぶ。
学生の達成目標	1.子どもの障がいについて知識を習得する。 2.障がいの内容とその対処法について理解する。 3.同じ障がいがあってもひとりひとりにあった対応を自ら考え,実践できることを目標とする。
授業内容	第1回　　障がいとは・視覚障害(目標1)

	第2回	聴覚障害(目標1)
	第3回	知的障害(目標1,2)
	第4回	肢体不自由・脳性麻痺(目標1,2)
	第5回	てんかん(目標1,2,3)
	第6回	発達障害(ADHD,LD,高機能広汎性発達障害)①発達障害の理解(目標1,2)
	第7回	発達障害(ADHD,LD,高機能広汎性発達障害)②発達障害への対応(目標1,2,3)
	第8回	遺伝性疾患(目標1,2)
	第9回	重症心身障害児に特有な症状と対応(目標1,2)
	第10回	医療的ケア(目標1,2,3)
	第11回	特別支援教育(目標1,2,3)
	第12回	小児のリハビリテーション(目標1,2)
	第13回	医療費助成・福祉制度(目標1)
	第14回	子ども虐待(目標2,3)
	第15回	保健室登校(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	シラバスを参考に，次回の授業内容について参考図書等を読み，関連する報道について関心をもち，考えを深めておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	子どもの障がいに関連する文献や研究成果を調べ、実践に繋げていけるように知識を深める。
成績評価	評価の基準	授業の内容の理解，およびそれに基づき自分の考えを文章として表現できるかを評価基準とする。
	評価の方法	筆記試験70%，講義への参加度(レポート等)20%，授業態度10%，試験結果によって再試験を実施。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	新・小児保健　第13版
	著者名	今村榮一，巷野悟朗　編著
	出版社	診断と治療社
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN：978－4－7878－1724－2
参考URL		
備考	医療に携わる者の立場から，障がいをもつ子どもの実態，子どもと保護者の抱える困難さとそれに対する支援について概説する。	

2015年度シラバス

子どもの保健Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT303
開講年度	2015年度
登録コード	A1017101 A1017102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの保健Ⅱ
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A1017101　前期　金5 A1017102　後期　月4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児の発育と発達，小児の疾患，救急処置，感染症予防
授業のねらい・概要	保育園・幼稚園において小児の健康を守り，発育を援助する知識と技術を学ぶ。
学生の達成目標	1．健常な小児の発育とその判定基準を理解し,健康診断の意義を知る。 2．小児の疾患の早期発見と保育施設での援助の実際を知る。 3．感染症の対応と予防について学び,応急手当が適切に行える。
授業内容	第1回

		小児の身体的特徴，乳児の抱き方，寝かせ方，衣服の着脱、母子健康手帳（目標1）
	第2回	身体発育の測定と評価およびその後の管理，肥満とやせ（目標1）
	第3回	発達の判定（目標1）
	第4回	子供の栄養と食事（哺乳，離乳，食に関する諸問題）（目標1）
	第5回	排泄（目標1）
	第6回	睡眠（目標1）
	第7回	衣服、健康増進、遊び（目標1）
	第8回	衛生管理（目標1）
	第9回	応急手当（目標3）
	第10回	応急手当（目標3）
	第11回	病気と異常（症状と対応）（目標2）
	第12回	病気と異常（主な病気と対応）（目標2）
	第13回	くすり（目標2） 感染症（目標3）
	第14回	感染症（目標3）
	第15回	まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	教科書を読んでくる。
	復習	教科書を読み，ノートをまとめる。 演習問題を解いてみる。
	展開	保育実習中で保健に関することでの「気づき」を記録する。
成績評価	評価の基準	講義したことが理解でき，実習などの場面で応用できること。
	評価の方法	100%考査で評価する。（60点以上を合格とする。）
教科書	書籍名	最新保育保健の基礎知識
	著者名	監修　巷野悟朗　編集　日本保育園保健協議会
	出版社	日本小児医事出版
	価格	2,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-88924-224-9
推薦図書等	書籍名	イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療
	著者名	大塚親哉　監修　金子堅一郎　編集
	出版社	南山堂
	価格	10,500円
	ISBN・ISSN	9784525283537
	書籍名	子供の病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦・柳澤正義　監修
	出版社	講談社
	価格	4,000円＋税
	ISBN・ISSN	9784062066051

書籍名	これならわかる！子どもの保健演習ノート
著者名	榊原洋一監修　小林美由紀執筆
出版社	診断と治療社
価格	2000+税
ISBN・ISSN	978-4-7878-1883-6　C3047

参考URL

備考

2015年度シラバス

子どもの食と栄養

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT304
開講年度	2015年度
登録コード	A1018101 A1018102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	子どもの食と栄養
科目責任者	台蔵　昌子
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A1018101　前期　木3, 4 A1018102　後期　木3, 4
教室	調理実習室, 講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	胎児・小児期の発育と発達、栄養摂取法、健全な食生活
授業のねらい・概要	小児期、学童期、思春期までの発育課程における栄養素の生理的意義と健全な食生活を営むため理解と実践の方法を学ぶ。
学生の達成目標	１．小児の発達過程と必要な栄養素の重要性を理解する。 ２．健康児や病児・障害のある小児など児童福祉施設における食生活の特徴と留意点を理解する。

	３．自分自身や現代日本における食生活の現状、環境問題をも含め健康な身体の重要性を考察する。"
授業内容	第1回　小児の健康な生活と食生活の意義（目標１） 第2回　小児の発育・発達と食生活(目標1) 第3回　栄養・食品・調理と安全性に関する基本的知識(目標1) 第4回　妊娠期の食生活の特徴とその実践法(目標3) 第5回　授乳期の食生活の特徴とその実践法(目標3) 第6回　乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 1)乳汁栄養(母乳栄養と人工栄養)(目標1,2) 第7回　乳児期の食生活の特徴とその実践法と食育 2)離乳の意義とその実践法(目標1,2) 第8回　幼児期の食生活の特徴とその実践法と食育(食事摂取基準と配分,生活リズム)(目標1,2) 第9回　幼児期の間食・弁当の意義とその実践法と食育(目標２) 第10回　幼児期の偏食・むら食い・食欲不振等栄養上の問題点と健康への対応と食育(目標2) 第11回　学童期・思春期の心身の特徴と食生活の在り方と食育(目標1) 第12回　小児期の疾病と特徴と食生活・食事療法(目標2) 第13回　障害のある小児(主として摂食・嚥下機能障害児)の食生活と食事介助法(目標2) 第14回　児童福祉施設(保育所・養護施設),幼稚園における食生活の特徴と食育,支援(目標2) 第15回　学生による発表と討論及び総まとめ(目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習　授業の最後に次週に行う内容の下調べをする課題を伝達し，次週にそれに基づいた発表を行う。 復習　発表の成果・感想に関してレポートを書く。授業後に内容をまとめ提出する。期間中10回程度。 展開　学習してきた内容からテーマを選び，そのテーマについて研究発表を行う。
成績評価	評価の基準　授業内容の理解と発表等に関しての総合評価 評価の方法　平常点（発表態度を含む）30%，レポート点20%，期末筆記試験50%
教科書	書籍名　子どもの食と栄養演習 著者名　小川・坂本・曽根・豊原・中嶋著 出版社　建帛社 価格　￥2,730（税込み） ISBN・ISSN　978-4-7679-3282-8C3037
推薦図書等	書籍名　「漢字で食育」 著者名　砂田登志子著

出版社	求龍堂
価格	972円
ISBN・ISSN	4-7630-0117-5

書籍名	「家庭の食育」
著者名	服部幸雄監修
出版社	㈱オーガニックパパ
価格	1620円
ISBN・ISSN	雑誌　18048-12

参考URL	
備考	・乳児保育演習（２年次）が身についていることが望ましい。 ・自分自身の食生活に関心を持つこと。 ・実験着（エプロン，三角巾）を使用することがある。使用の場合は前々週に連絡する。 ・調理作品の展示と評価 ・グループ学習による発表

2015年度シラバス

家庭支援論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT305
開講年度	2015年度
登録コード	A1020101
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	家庭支援論
科目責任者	小川　晶
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	全ての子育て家庭、子どもと家族、支援の方法
授業のねらい・概要	子どもをめぐる今日的課題と家族の変容とを関連付けて理解し、子育て家庭を支援する基本的な方法を知る。また、子どもの最善の利益を実現するために家族支援することが、保育の対象であることを認識し、地域における全ての子育て家庭を支援する保育実践者としての意義と意欲を形成する。
学生の達成目標	1.子どもをめぐる今日的課題と家族の変容とを関連付けて理解する。 2.子どもだけでなく、家族を支援することが保育の対象であることを認識し、家族支援の基本的な方法を知る。

	3.子どもの最善の利益を実現するために、地域における全ての子育て家庭を支援する意欲を培う。
授業内容	第1回　オリエンテーション、自分と家族を考える（目標1） 第2回　家族の定義と家族の変容（目標1） 第3回　家族の今日的課題①子どもの抱える課題（目標1） 第4回　家族の今日的課題②親の抱える課題（目標1） 第5回　家族の今日的課題③家族と社会との関係性における課題（目標1） 第6回　子育て課題と家族の課題との関係性（目標2） 第7回　家族におこる問題と支援の検討①虐待、障がいなど（目標2） 第8回　家族におこる問題と支援の検討②DV、疾病など（目標2） 第9回　家族の固有性と支援の検討①若年親（目標2） 第10回　家族の固有性と支援の検討②高齢親（目標2） 第11回　地域における子育て家庭の実態（目標3） 第12回　在宅親子への支援の検討（目標3） 第13回　予防的支援、継続的支援（目標3） 第14回　子育て支援とマネージメント（目標3） 第15回　全期のまとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習　子どもが呈する問題を家族の課題から読み解き、レポートできるようにしておく。 復習　返却されたリアクションペーパーのテーマについて、授業の内容を踏まえて再考する。 展開　子どもの最善の利益の実現のために家族を支援する筋道をたて、言語化できるようにする。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法　リアクションペーパー50%、期末試験（筆記）50%
教科書	書籍名　保育所における母親への支援－子育て支援をになう視点・方法分析－ 著者名　小川晶 出版社　学文社 価格　1800円＋税 ISBN・ISSN　ISBN　978-4-7620-2493-1
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅰ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT102
開講年度	2015年度
登録コード	A1023101 A1023102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（身体表現）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1023101　前期　火2 A1023102　前期　火3
教室	Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	自分の身体及び身体表現を知ることは，子どもの身体表現を理解することに繋がる。また，子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには，自らがその楽しさや面白みを体感している必要がある。従って，本授業では，身体を使ったあそびや表現を通して，丁寧に自分の身体感覚に耳を傾け，他者と関わり合いながら表現することの楽しさを味わい，自分や他者の身体表現を知ることをねらいとする。

学生の達成目標	1．他者との関わりの中で身体を動かすことの楽しさを味わうこと。 2．自分や他者の身体や表現について様々な気づきを持つこと。 3．授業内だけでなく，日常生活の中での学生自身と子どもの身体表現を考えることができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1) 第2回　リズムあそびを通したコミュニケーション(目標1) 第3回　身体を通したコミュニケーション(目標1) 第4回　身体でいろいろな形をつくる（目標3） 第5回　他者との関わりからはじまる表現（目標1） 第6回　模倣からの表現（リズムあそび）（目標1,3） 第7回　子どものころに体験したいろいろなあそび（目標1,3） 第8回　他者との関わりから生まれる表現（目標2,3） 第9回　模倣からの表現（ミラー他）（目標1,2,3） 第10回　他者の身体を動かしてみよう（人間彫刻）（目標2,3） 第11回　アルゴリズム体操(目標1) 第12回　音楽やリズムで変わる表現(目標1,2) 第13回　創作(1)(目標1,2) 第14回　創作(2)(目標1,2) 第15回　学生による発表とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　以下の参考図書など，身体表現に関連した図書を読んだり，身体表現に日常から関心を持ち理解しておくこと。 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 展開　授業の内容だけにとどまらず、それを踏まえた上で、実習などの場において自分なりに考えた内容や取り組みを積極的に実践すること。
成績評価	評価の基準　授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。 評価の方法　レポート40%，受講態度・提出物等の提出状況60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　保育と幼児期の運動あそび 著者名　岩崎洋子 出版社　萌文書林 価格　2,100円+税 ISBN・ISSN　978-4-89347-130-7
参考URL	
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅱ（身体表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT103
開講年度	2015年度
登録コード	A1023201
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（身体表現）
科目責任者	西山　友貴
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火2
教室	Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	身体表現，保育
授業のねらい・概要	様々なテーマに基づき，物を使った表現やあそびを通して，多様な身体の動きを経験し，仲間と共に動きを創りだしていく楽しさを味わう。また，子どもの身体が伝えていることを受け止めるということについて考えながら，学生自らの表現や子どもの表現の可能性と面白さに気づく力を養うことをねらいとする。
学生の達成目標	１．多様な身体の動きを経験することで得られる気づきについて考えられること。 ２．他者と関わる中で,互いの身体表現を楽しみ，自発的に表現できること。

	3．自分や他者の動きや表現の面白さに気づき，そこから工夫することができること。
授業内容	第1回　前期の振りかえり,身体が伝えていること(目標1) 第2回　身の周りの物の形と身体表現(目標1) 第3回　身体を通したコミュニケーション(1)ペタペタマグネット,ひっつき虫(目標1,2) 第4回　身体を通したコミュニケーション(2)可愛いマリオネット,不思議な糸他(目標1,2,3) 第5回　季節のダンス(目標2) 第6回　身体を通したコミュニケーション(3)メカニック・ワールド他(目標1,2,3) 第7回　身体の部分を意識する(1)身体の色々な部分を動かしてみよう他(目標1,2) 第8回　身体の部分を意識する(2)身体の色々な部分で形を作ってみよう他(目標1,2) 第9回　イメージと表現(1)言葉をヒントに(オノマトペ他)(目標1,2,3) 第10回　イメージと表現(2)カードをヒントに(へんなへんな国の行進他)(目標1,2,3) 第11回　身の周りの物を使った表現(1)新聞紙(目標1,2,3) 第12回　身の周りの物を使った表現(2)わりばし(目標1,2,3) 第13回　創作(1)(目標2,3) 第14回　創作(2)(目標2,3) 第15回　発表と総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　以下の参考図書など，身体表現に関連した図書を読んだり，身体表現に日常から関心を持ち理解しておくこと。 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 展開　授業の内容だけにとどまらず、それを踏まえた上で、実習などの場において自分なりに考えた内容や取り組みを積極的に実践すること。
成績評価	評価の基準　授業内に出されたレポート，授業に対する取り組み，姿勢などにより総合的に判断する。 評価の方法　レポート40%，受講態度・提出物等の提出状況60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　あ・た・ら・し・い表現遊び―動いてみよう！考えてみよう！ 著者名　小谷隆真 出版社　すずき出版 価格　1,750円+税 ISBN・ISSN　978-4-7902-7131-4
参考URL	
備考	動きやすい服装と積極的な姿勢で参加すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1021101 A1021102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1021101　前期　月3 A1021102　前期　月4
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.自力で読譜ができる 2.保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽（目標1,2,3）
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1)
	第3回	教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3)
	第5回	～ №39(目標1,3)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,3)
	第7回	～ №47(目標1,3)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,3)
	第9回	～ №56(目標1,3)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第13回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第14回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
	第15回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
予習・復習の内容	予習	3回目以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して、1週間継続的に時間をかけて練習する。 弾き歌いに関しても同様である。
	復習	授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，達成曲 30%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1 ,200円
	ISBN・ISSN	4 -8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,400円
	ISBN・ISSN	4 -11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1021103 A1021104
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1021103　前期　月3 A1021104　前期　月4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ演奏，弾き歌い
授業のねらい・概要	保育において，子どもが身の回りの様々な音や音楽に親しみ，発達に即した音楽表現活動を楽しむために必要な基礎的な知識や技術を，主にピアノ演奏と歌唱を中心に習得する。
学生の達成目標	１．身の回りの様々な音や音楽に親しみ,子どもとともに音楽表現活動を楽しもうとする意欲・態度をもつ。 ２．自分で楽譜を読み,子どもの歌を易しい伴奏で楽しく弾き歌いすることがで

きる。
3．子どもの歌のレパートリーを増やし,子どもの発達に即した活用法を考えようとする。

授業内容	第1回	オリエンテーション 身の回りの様々な音や音楽と保育における音楽表現活動(目標1)
	第2回	楽譜を読むための基礎知識 ピアノを弾くための基礎知識(目標2)
	第3回	4分音符による練習曲 ① 歌うための基礎知識(目標2)
	第4回	4分音符による練習曲 ② 旋律を弾きながら歌う ①(目標2)
	第5回	8分音符による練習曲 旋律を弾きながら歌う ②(目標2)
	第6回	ヘ音記号の練習 旋律を弾きながら歌う ③(目標2)
	第7回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾く(目標2)
	第8回	8分の3拍子,8分の6拍子による練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ①(目標2)
	第9回	主要3和音に慣れる 易しい伴奏による弾き歌い ②(目標2)
	第10回	ハ長調の音階とその練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ③(目標2)
	第11回	イ短調の音階とその練習曲 易しい伴奏による弾き歌い ④(目標2)
	第12回	子どもの発達に即した教材の活用法(目標2,3)
	第13回	音楽表現を含む遊びの展開(目標1,2,3)
	第14回	保育現場を想定したピアノ曲・弾き歌いの発表(目標1,2,3)
	第15回	発表・まとめ(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	・楽譜の読み方を復習しておく。 ・子どもの歌、幼児向け番組の音楽等に関心を持つ。 ・知っている曲をピアノで弾いてみる。 ・授業の課題曲を練習する。
	復習	・授業で示された課題点を解決できるよう練習に取り組む。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。
	展開	・実習・就職を視野に入れ、継続的・自発的に練習に取り組む。
成績評価	評価の基準	各人の現在の演奏技能に合わせて設定した毎週の課題を弾きこなすことができたか。 保育現場を想定した場で練習成果を発表できたか。
	評価の方法	ピアノの弾き歌いの発表（ 70%）課題の合格状況（ 30%）

教科書

書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
著者名	坂東貴余子・本間正治
出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 4810863662

書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
著者名	東　保
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税

ISBN・ISSN　ISBN:4116200506

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。 初心者でも指導に従って練習すれば現場に出て困らないだけの演奏技術を習得することができます。 毎日 30分は練習して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1021105 A1021106
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1021105　前期　月3 A1021106　前期　月4
教室	ピアノ演習室2
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.自力で読譜ができる 2.保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽(目標1,2,3)
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1)
	第3回	教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3)
	第5回	～ №39(目標1,3)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,3)
	第7回	～ №47(目標1,3)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,3)
	第9回	～ №56(目標1,3)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第13回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第14回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
	第15回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
予習・復習の内容	予習	3回目以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して、1週間継続的に時間をかけて練習する。 弾き歌いに関しても同様である。
	復習	授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，達成曲 30%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1021107 A1021108
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1021107　前期　月3 A1021108　前期　月4
教室	ピアノ演習室3
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.自力で読譜ができる 2.保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽(目標1,2,3)
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1)
	第3回	教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3)
	第5回	～ №39(目標1,3)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,3)
	第7回	～ №47(目標1,3)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,3)
	第9回	～ №56(目標1,3)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第13回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第14回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
	第15回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
予習・復習の内容	予習	3回目以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して、1週間継続的に時間をかけて練習する。 弾き歌いに関しても同様である。
	復習	授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
推薦図書等	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	4-11-620050-6

参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT104
開講年度	2015年度
登録コード	A1021109 A1021110
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）
科目責任者	松尾　聖子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1021109　前期　月3 A1021110　前期　月4
教室	ピアノ演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，ピアノ，歌唱，音楽理論，伴奏法
授業のねらい・概要	保育における音楽活動を展開するために必要な基礎知識や技能を習得する。 初歩的な音楽理論に裏付けされたピアノの基礎技術を学びながら，実践の場で必要な子供の歌の歌唱技能やその伴奏法について学ぶ。
学生の達成目標	1.自力で読譜ができる 2.保育で役立つ子供の歌の弾き歌いができる 3.ピアノに関しては,教科書 No.56まで終了を目標とする

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育における音楽(目標1,2,3)
	第2回	楽譜を読む為の基礎知識・ピアノを弾く為の基礎知識(目標1)
	第3回	教科書『おとなのためのバイエル教本』 ～ No.27(目標1,3)
	第4回	旋律と伴奏のバランスを考えて弾けるようにする(目標1,3)
	第5回	～ No.39(目標1,3)
	第6回	主要三和音に慣れる(目標1,3)
	第7回	～ No.47(目標1,3)
	第8回	旋律に伴奏を付ける(目標1,3)
	第9回	～ No.56(目標1,3)
	第10回	歌うための基礎知識(目標1,2)
	第11回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』生活あそび(目標1,2)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第13回	『やさしい伴奏によるこどものうた1』より選択(目標1,2)
	第14回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
	第15回	保育現場を想定して,各学生が生活あそび,こどものうたの教材を取り入れて発表を行う(目標2)
予習・復習の内容	予習	3回目以降は、各自のレベルにあった課題が出される。それに関して、1週間継続的に時間をかけて練習する。 弾き歌いに関しても同様である。
	復習	授業時間に注意を受けた個所（音の誤り、指使い、リズムの間違い等）はその日の内に直しておくよう心掛ける事。翌日になると忘れてしまう為、次の授業で全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場での音楽表現活動では、ピアノと歌唱能力が重要となる。仕上がった課題以外のレパートリーを増やす努力も必要である。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲を終了できたか。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1 ,200円
	ISBN・ISSN	4 -8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編
	出版社	全音楽譜出版社
	価格	2 ,400円
	ISBN・ISSN	4 -11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	努力のできる学生の受講を望む。 課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 鍵盤楽器のない学生は学内の練習ピアノを活用すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2015年度
登録コード	A1021201
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	1．現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす 2．現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす 3．現場を想定した音楽活動ができる

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現)について（目標1,2,3）
	第2回	教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2)
	第3回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第4回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第5回	#1つの調性の曲に慣れる。 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第6回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より各自が選曲した曲を弾き歌いできるようにする(目標2)
	第7回	#2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より弾き歌いができるようにする(目標2)
	第9回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第10回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第11回	♭2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2)
	第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題を自力で読譜ができ、弾けるようにして授業に臨む。次の週には同様に歌のパートをよく練習しておく。更なる段階として、暗譜で弾き歌いができるようにして、自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	授業中に指摘された誤りや注意は、その日の内に直しておく事。翌日になると忘れてしまい、次の授業の際に全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場においては音楽表現は重要な活動となるため、課題以外に積極的に多くの弾き歌いの曲に取り組むように努力する事。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%，達成曲 30%
教科書		
	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1 ,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,400円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2015年度
登録コード	A1021202
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現活動，ピアノ演奏，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）での学習を基礎として，音楽表現活動に関する知識や技術を高め，保育現場を想定した実践的な伴奏法，歌唱法を学ぶ。 必要な基礎的な知識や技術を，主にピアノ演奏と歌唱を中心に習得する。
学生の達成目標	１．子どもの生活を豊かにする音楽の重要性に気付き,子どもの音楽表現能力の伸長を援助するための知識・技術を高めようとする意欲・態度をもつ。 ２．子どもの歌を音楽性豊かに弾き歌いしようとする。 ３．子どもの歌等のレパートリーを広げ,子どもが遊びの中で音楽表現力を伸ばしていくための環境構成と教材の活用法を考えることができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション 子どもの生活と音楽表現活動 音楽表現活動と他の表現活動の関わり(目標1)
	第2回	3連符と 16分音符による練習曲 4月の教材と弾き歌い(目標2)
	第3回	ト長調の音階とその練習曲 5月の教材と弾き歌い(目標2)
	第4回	ホ短調の音階とその練習曲 6月の教材と弾き歌い(目標2)
	第5回	ヘ長調の音階とその練習曲 7月の教材と弾き歌い(目標2)
	第6回	二短調の音階とその練習曲 9月の教材と弾き歌い(目標2)
	第7回	二長調の音階とその練習曲 10月の教材と弾き歌い(目標2)
	第8回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ① 11月の教材と弾き歌い(目標2,3)
	第9回	ピアノ曲のレパートリーを増やす ② 12月の教材と弾き歌い(目標2,3)
	第10回	易しい移調奏 1月の教材と弾き歌い(目標2,3)
	第11回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ① 2月の教材と弾き歌い(目標2,3)
	第12回	身体表現を促す伴奏とその易しい編曲法 ② 3月の教材と弾き歌い(目標2,3)
	第13回	わらべ歌の活用法と遊びの展開(目標3)
	第14回	保育現場を想定したピアノ曲・弾き歌いの発表(目標1,2,3)
	第15回	発表・まとめ(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	・保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）での課題を復習する。 ・子どもの歌の弾き歌いを練習する。 ・授業時に示された課題曲に取り組む。
	復習	・授業時に示された課題点を解決するよう練習に取り組む。 ・合格した課題曲を楽しんで演奏する。 ・合格した課題曲を友人や家族などに披露し、人前で演奏することに慣れる。
	展開	・実習・就職を視野に入れて、子どもの曲のレパートリーを広げ、継続的・自発的に練習に取り組む。
成績評価	評価の基準	各人の現在の演奏技能に合わせて設定した毎週の課題を弾きこなすことができたか。 保育現場を想定した場で練習成果を発表できたか。
	評価の方法	ピアノ及び弾き歌いの発表（ 70%）課題の合格状況（ 30%）

教科書

書籍名	『おとなのためのバイエル教本』
著者名	坂東貴余子・本間正治
出版社	ドレミ楽譜出版
価格	1,200円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 4810863662

書籍名	『やさしい伴奏によるこどものうた（1）』
著者名	東　保
出版社	全音楽譜出版社
価格	2,600円＋税

ISBN・ISSN　ISBN:4116200506

推薦図書等	
参考URL	
備考	履修人数の上限を設定します。 初心者は「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修した後に受講することが望ましい。 自分で読譜ができ，「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」履修者と同等程度のピアノ演奏技能があるという前提で授業を行います。 指導に従って毎日 30分は練習して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2015年度
登録コード	A1021203
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	柴辻　純子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	ピアノ演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	１．現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす ２．現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす ３．現場を想定した音楽活動ができる

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現)について(目標1,2,3)
	第2回	教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2)
	第3回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第4回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第5回	#1つの調性の曲に慣れる。 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第6回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より各自が選曲した曲を弾き歌いできるようにする(目標2)
	第7回	#2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より弾き歌いができるようにする(目標2)
	第9回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第10回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第11回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2)
	第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題を自力で読譜ができ、弾けるようにして授業に臨む。次の週には同様に歌のパートをよく練習しておく。更なる段階として、暗譜で弾き歌いができるようにして、自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	授業中に指摘された誤りや注意は、その日の内に直しておく事。翌日になると忘れてしまい、次の授業の際に全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場においては音楽表現は重要な活動となるため、課題以外に積極的に多くの弾き歌いの曲に取り組むように努力する事。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%
教科書		
	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1,200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
	書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
	著者名	東　保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2,400円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2015年度
登録コード	A1021204
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	石井　恵子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	ピアノ演習室2
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	1．現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす 2．現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす 3．現場を想定した音楽活動ができる

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現)について(目標1,2,3)
	第2回	教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2)
	第3回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第4回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第5回	#1つの調性の曲に慣れる。 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第6回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より各自が選曲した曲を弾き歌いできるようにする(目標2)
	第7回	#2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より弾き歌いができるようにする(目標2)
	第9回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第10回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第11回	♭2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2)
	第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題を自力で読譜ができ、弾けるようにして授業に臨む。次の週には同様に歌のパートをよく練習しておく。更なる段階として、暗譜で弾き歌いができるようにして、自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	授業中に指摘された誤りや注意は、その日の内に直しておく事。翌日になると忘れてしまい、次の授業の際に全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場においては音楽表現は重要な活動となるため、課題以外に積極的に多くの弾き歌いの曲に取り組むように努力する事。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東 保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2,400円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT105
開講年度	2015年度
登録コード	A1021205
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅱ（音楽表現）
科目責任者	松尾　聖子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	ピアノ演習室3
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽表現，ピアノ，弾き歌い，伴奏法
授業のねらい・概要	『保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）』で習得した技術や知識をさらに高め，幅広い音楽表現活動に対処できるようにする。 保育・教育現場で必要な楽曲及び歌のレパートリーを増やし，楽しく弾き歌いができるようにその伴奏法も学ぶ。
学生の達成目標	1．現場で必要なピアノ曲のレパートリーを増やす 2．現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす 3．現場を想定した音楽活動ができる

授業内容	第1回	オリエンテーション 保育の表現技術 Ⅰ・Ⅱ(音楽表現)について(目標1,2,3)
	第2回	教科書『やさしい伴奏によるこどものうた』より生活あそび(目標2)
	第3回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第4回	子供の歌の弾き歌い(目標2)
	第5回	#1つの調性の曲に慣れる。 教科書『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第6回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より各自が選曲した曲を弾き歌いできるようにする(目標2)
	第7回	#2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第8回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より弾き歌いができるようにする(目標2)
	第9回	♭1つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第10回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第11回	♭2つの調性の曲に慣れる。『おとなのためのバイエル教本』(目標1)
	第12回	『やさしい伴奏によるこどものうた』より選曲(目標2)
	第13回	保育現場で必要な子供の歌のレパートリーを増やす(目標2)
	第14回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
	第15回	保育現場を想定して,生活あそび,子供の歌を取り入れて発表を行う(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題を自力で読譜ができ、弾けるようにして授業に臨む。次の週には同様に歌のパートをよく練習しておく。更なる段階として、暗譜で弾き歌いができるようにして、自分のレパートリーとなるように努力する。
	復習	授業中に指摘された誤りや注意は、その日の内に直しておく事。翌日になると忘れてしまい、次の授業の際に全く同様の注意を受ける事となる。
	展開	保育現場においては音楽表現は重要な活動となるため、課題以外に積極的に多くの弾き歌いの曲に取り組むように努力する事。
成績評価	評価の基準	実技試験において課題曲を弾きこなす事ができたか。 現場を想定して成果を発表できたか。 半期間の達成曲。
	評価の方法	実技試験及び成果の発表 70%, 達成曲 30%

教科書

書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
著者名	坂東貴余子・本間正治共著
出版社	ドレミ楽譜出版社
価格	1 ,200円
ISBN・ISSN	4-8108-0161-6

書籍名	「やさしい伴奏によるこどものうた１」
著者名	東　保編

出版社	全音楽譜出版社
価格	2 ,400円
ISBN・ISSN	4-11-620050-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	課題を各自よく練習して授業に臨むこと。 積極的に練習に励むこと。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT106
開講年度	2015年度
登録コード	A1022101 A1022102
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅰ（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1022101　前期　木2 A1022102　前期　木3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，保育の教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．保育所などの教育現場での造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近な自然のものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する基本的な知識や技能を身につける。 ３．制作活動を通してつくる楽しみや喜びを体験し，保育場面等での遊びや造形活動に関する支援や造形表現の技術を学び，そのための実践力を培う。

学生の達成目標	1. 保育の教育現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。 2. 現場での活用を踏まえた上で,関心・興味や発達段階に基づいた画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。 3. 制作をする中で,具体的な支援や造形表現の技術を考え,現場での実践力を養うとともに具体的な遊びや児童の文化活動に結びつけられる。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点・保育と造形について)・実技「鉛筆の基本的な技法」(目標1) 第2回　色鉛筆の表現の基本を学ぶ・実技「色鉛筆の混色表現」など(目標1)・技法メモ ①(目標1,3) 第3回　パステル等の基本的な技法を学ぶ・実技「クレヨン・パステル表現の応用」・技法メモ ②(目標1,3) 第4回　水彩絵の具の基礎 ①・実技「透明と不透明」「三原色による混色」技法メモ ③(目標1,3) 第5回　水彩絵の具の基礎 ②・実技「にじみ」「ふきながし」「デカルコマニー」「フロッタージュ」等・技法メモ ④(目標1,3) 第6回　水彩絵の具の基礎 ③・実技「スパッタリング」・「スタンピング」等・技法メモ ⑤(目標1,3) 第7回　イラストレーションの基礎 ①形・実技「人物・動物」・技法メモ ⑦(目標1,3) 第8回　イラストレーションの基礎 ②構図・実技「はり絵」説明(目標1) 第9回　イラストレーションの基礎 ③配色・実技「はり絵」構想(目標1) 第10回　イラストレーションの基礎 ④表現の工夫・実技「はり絵」 ①アイデアスケッチ(目標1,2) 第11回　実技「はり絵」 ②下絵(目標1,2) 第12回　実技「はり絵」 ③貼り絵(目標1,2) 第13回　実技「はり絵」 ④背景(目標1,2) 第14回　実技「はり絵」 ⑤仕上げ・スケッチブック確認(目標1,2) 第15回　まとめ・「はり絵」発表・鑑賞・スケッチブック確認(目標1,3)
予習・復習の内容	予習　制作の準備をする 計画通りに進まなかった場合、各自で制作を進める 復習　計画に沿って制作を進める レポートをまとめる 展開　自分で発展題材を考え制作する
成績評価	評価の基準　保育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。 授業内容をもとに保育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。 評価の方法　毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めたレポートの合計） 40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。

	ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する テキストは特にない。参考資料としてプリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・演習のため 40数名程度の人数とし，希望者多数の場合は必修の保育士資格希望者を優先する。余裕があれば2.3年も受け入れる。 ・制作を通して造形教育の基礎・基本を確認し育成するため，課題数は多い。造形能力発達論も併せて履修するとより理解が深まる。 ・２クラスあるがどちらのクラスも授業内容は同一である。 ・中学校以来，美術から遠ざかっていた人でも安心して取り組めるようにカリキュラムを考えている。 ・各自必ずＦ6サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４B），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。1階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。 ・作品と技法プリントをスケッチブックに貼りつけ，プリントはＡ4ファイルに整理して最終的に提出する。 ・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT107
開講年度	2015年度
登録コード	A1022201
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（造形表現）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金2
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，図画工作，様々な教育現場に対応できる造形的基礎・基本の習得
授業のねらい・概要	１．教育現場での子どもの造形活動や表現を理解し，子どもの活動や遊びを支援するために必要な造形に関する知識・基礎技能を習得する。 ２．身近なものや様々な材料や用具の扱い方等，造形表現に関する知識や技能を身につけ、応用力を養う。 ３．制作を通してつくる楽しみや喜びを体験し，各教育現場での造形活動に関する支援や造形表現の技術を学び，そのための実践力を培う。
学生の達成目標	1．保育現場や学校現場を念頭に置き,様々な造形表現の実技や制作活動を通して,子どもの造形活動を支える基本的な知識・技能を習得する。

2. 様々な教育現場での活用を踏まえた上で,発達段階に基づいたより関心・意欲の高まる画材・材料や制作方法の選択を行い計画的に進める。
3. 制作活動を通して、つくる楽しみや喜びを体験し,各教育現場での造形活動に関する支援や造形表現の技術を学び,そのための実践力を培う。

授業内容

第1回　オリエンテーション(授業の留意点・こどもの造形活動について)(目標1,2,3)

第2回　紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」①（構想）(目標1,2)

第3回　紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」②（制作）(目標1,2)

第4回　紙粘土工作の基本を学ぶ・実技「身の回りのものを再現する」③（仕上げ）課題レポート ①(目標1,2)

第5回　童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作①（アイデアスケッチ）(目標1,2,3)

第6回　童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作②（下絵）(目標1,2,3)

第7回　童画イラストレーションの制作・実技「私が子どもだった頃」制作③（配色・中心部の制作）(目標1,2,3)

第8回　童画イラストレーションの制作・実技④「私が子どもだった頃」制作④（背景）(目標1,2,3)

第9回　童画イラストレーションの制作・実技⑤「私が子どもだった頃」制作⑤（仕上げ）・鑑賞・課題レポート ②(目標1,2,3)

第10回　選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する①（構想）(目標1,2,3)

第11回　選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する②（材料収集）(目標1,2,3)

第12回　選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する③（試行し制作）(目標1,2,3)

第13回　選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する④（制作）(目標1,2,3)

第14回　選択課題・身近な材料を使い子どもの発達段階に即した作品を制作する⑤（制作完成）(目標1,2,3)

第15回　まとめ～発表会・鑑賞・課題レポート ③,ふりかえり(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習　制作の準備をする

復習　制作を進める
レポートをまとめる

展開　次週や現場で活用できる題材を自分で考える

成績評価

評価の基準　保育所、幼稚園、小学校などの様々な教育現場における造形活動の基礎技能に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解し習得できていること。
授業内容をもとに教育現場における造形活動の際に子どもの活動の支援のあり方や遊びや文化活動への展開について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。

評価の方法

	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の簡単なふりかえりを含めたレポートの合計）40%，作品 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する テキストは特にない。 参考資料としてプリントなどを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・演習のため 40名程度の人数とする。保育の表現技術（造形表現）Ｉとは内容が異なる。Ｉよりも課題数は少ないが、より多様な表現が求められる。幼・保にとどまらず、小学校の子どもまで視野に入れた題材も扱う。専攻に特に指定はなく，個々の制作には丁寧に対応する。例年、自身の造形指導力を伸ばすために2.3.4年で履修する学生もいる。 ・保育の表現技術 Ｉ（造形表現）未履修者でも履修可能である。 ・可能であれば造形能力発達論や初等図画工作教育通論等も併せて履修するとより理解が深まる。 ・各自必ず Ｆ6 サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４B），色鉛筆や絵の具セット等が必要である。1 階売店で購入可能。次回の持ち物についてはプリントを配布して指示する。 ・作品と技法プリントをスケッチブックに貼り付け，プリントは Ａ4 ファイルに整理して最終的に提出する。 ・制作によっては汚れることもあるので，ジャージ，使い古しの Tシャツやエプロンを用意すること。

2015年度シラバス

保育の表現技術Ⅰ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT108
開講年度	2015年度
登録コード	A1023401 A1023402
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術Ⅰ（言語表現）
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1023401　前期　木4 A1023402　前期　木5
教室	講義室15 講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語表現・幼児の言語指導技術・幼児への対応
授業のねらい・概要	保育者としての言語表現技術を実技を通して身につける。 子どもの心を育てる言語表現について考える。
学生の達成目標	1．保育者としての言語表現技術を理解し習得できる。 2．幼児の表現能力の実態に基づく適切な表現を習得できる。 3．学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解できる。

授業内容	第1回	受講上のきまり・全体計画・座席の決め方・ポートフォリオの作り方・評価について・絵手紙の作り方(目標３)
	第2回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（年間行事での言葉がけⅠ）（目標１，２）
	第3回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（年間行事での言葉がけⅡ）（目標１，２）
	第4回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（日常生活での言葉がけⅠ）（目標１，２）
	第5回	パネルシアター等の作成法，子どもへの言葉かけの技術（日常生活での言葉がけⅡ）（目標１，２）
	第6回	パネルシアター等の作成と理解，子どもへの言葉かけの技術（トラブル時の言葉がけⅠ）（目標１，２）
	第7回	パネルシアター等の実演と相互評価（目標１，２）
	第8回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（トラブル時の言葉がけⅡ）（目標１，２）
	第9回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（困った行動への言葉がけⅠ）（目標１，２）
	第10回	幼稚園・保育園での言語表現活動，子どもへの言葉かけの技術（困った行動への言葉がけⅡ）（目標１，２）
	第11回	保育に役立つブックリストの作成Ⅰ，子どもへの言葉かけの技術（乳幼児への言葉がけⅠ）（目標２，３）
	第12回	保育に役立つブックリストの作成Ⅰ，子どもへの言葉かけの技術（乳幼児への言葉がけⅡ）（目標２，３）
	第13回	紙芝居の実演と相互評価（目標２）
	第14回	紙芝居の実演と相互評価（目標２）
	第15回	授業リフレクションと相互評価（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	「授業の内容」に書かれている文言でわからない言葉について調べておくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。
	展開	実際に演じ体験したことを，理論と結び付けてレポートにまとめる。
成績評価	評価の基準	幼児期における表現技術の基礎が体験的に理解できていること。体験したことをもとに，幼児教育のあり方について，自らの考えを持ち説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	グループ学習への参加態度３０%、レポート３０%，ポートフォリオ４０%

教科書

書籍名	子どもへの言葉かけハンドブック　保育の悩みを解決！
著者名	横山洋子/著
出版社	ナツメ社
価格	1,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-8163-4855-6

推薦図書等	書籍名	保育の表現活動
	著者名	植草一世・安藤則夫・戸丸俊文・鈴木朱美
	出版社	学文社
	価格	２,４００円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7620-2442-9

参考URL	http://hoikusi.biz/contents/hoikujouhou/apron_theatre.html
備考	グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。

2015年度シラバス

保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT109
開講年度	2015年度
登録コード	A1023501
科目区分	保育・発達基礎科目
授業科目名	保育の表現技術 Ⅱ（言語表現）
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育教材，児童文化財，子ども，保育，言語表現
授業のねらい・概要	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識及び必要な技術を身に付け，実際に活用できるようにする。 入門的言語表現教材の開発の理論と実技を身に付け実際に活用できるようにする。
学生の達成目標	（目標１）幼児期言語の特徴を理解し,子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 （目標２）保育における言語の表現活動に関する知識や技術を習得し活用出来るようにする。

	（目標３）表現活動に係わる教材(絵本,紙芝居,人形劇,ストーリーテリング等)等の活用及び作成をおこない表現遊びに活用出来るようにする。
授業内容	第1回　本科目の目標、授業の概要、受講上の心得　日程確認 ○自己紹介ゲーム・表現遊び（目標１） 第2回　子どもの日常と表現◇絵カード作り（目標１．２） 第3回　紙芝居の扱い方　表現あそび（目標２） 第4回　絵本の扱い方　表現遊び（目標2） 第5回　描いたもの、作ったもので遊ぶ　お面作り（目標２．３） 第6回　おはなし遊び　①役を決める　②演じる （目標２．３） 第7回　ペープサート　作って演じる（目標２．３） 第8回　パネルシアターⅠ　作って演じる（目標２．３） 第9回　表現遊びの実際Ⅰ　グループ作り　テーマ決め（目標３） 第10回　表現とは　ロール・プレイング体験（目標１．２．３） 第11回　保育教材の遊び方（幼稚園の先生による）（目標３） 第12回　表現あそびの実際Ⅱ　教材研究（目標３） 第13回　保育教材の演じ方（幼稚園の先生による）（目標３） 第14回　表現あそび発表 （目標３） 第15回　表現あそび発表 発表 相互批評 まとめ(目標3)
予習・復習の内容	予習　児童書・絵本・紙芝居を読む。 復習　各回ごとの授業で行ったレポートを更に考察を加え、ファイルし、整理する。 展開　授業で学習したことを基に、保育の教材研究を行い、保育現場で活用を試みる。
成績評価	評価の基準　授業目標についての理解と取り組みの姿勢や作品の成果 評価の方法　レポート（ 30%），発表（ 30%），作品（ 30%），授業への取り組む姿勢（ 10%）
教科書	書籍名　保育の表現活動 著者名　植草一世　他 出版社　学文社 価格　2,400円 ISBN・ISSN　978-4-7620-2442-9
推薦図書等	
参考URL	
備考	・個別に材料の準備が必要となる。 ・汚れてもいい服装，又はエプロンが必要である。

2015年度シラバス

教職原論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET201
開講年度	2015年度
登録コード	A1024001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教職原論
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育職員免許法，教職の意義等に関する科目，教職の意義，教員の役割，職務内容
授業のねらい・概要	本授業は，教育職員免許法による「教職の意義等に関する科目」であり、そのねらいは、教職の意義，教員の役割，職務内容（研修，服務及び身分保障等を含む）を正しく理解し，教職に対する意識を高めることである。併せて、教職を目指す者が，自らの適性を判断し，進路を正しく選択することを目的とする。
学生の達成目標	1．教職の意義、教員の役割、職務内容についての理解を確かなものにする。 2．現代の学校教育の課題を正しく理解し、それらに対応していく力を身につけ

る。
3．教職への姿勢と意欲を明確なものにする。

授業内容	第1回　導入講義:これまで出会った教師を振り返る。(目標1) 第2回　教職の意義:教職とは何か。(目標1) 第3回　教職科目履修の動機と目指す教師像:教職観と教師像(目標1) 第4回　教員養成の歴史と現状:戦前と戦後の教員養成(目標1) 第5回　教員免許制度の改革:教員免許更新制の導入とその後(目標2) 第6回　教員の任用と服務:(1)教員の身分と任用(目標1) 第7回　教員の任用と服務:(2)服務と身分保障,メンタルヘルス(目標1) 第8回　教員の役割と仕事:仕事の特質と具体的内容(目標1) 第9回　職場としての学校(幼稚園含む):(1)教員の勤務の実態(目標2) 第10回　職場としての学校(同上):(2)保護者・地域・子どもとの関係(目標2) 第11回　教員の資質の向上:ライフステージに応じた研修の制度(目標2) 第12回　学校・家庭・地域社会との連携:開かれた学校づくり(目標2) 第13回　教員としての適性の理解:教員免許状と進路選択(目標3) 第14回　教職への道: 2015年度公立学校教員採用選考試験の概要(目標3) 第15回　総括（目標3）
予習・復習の内容	予習　・教職について日常から関心を持ち、関連する新聞報道に目をとおしたり、切り抜き保存したり、授業で提示された図書資料や文献を読んだりしておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 復習　・第1回授業にて配布されるR．S．に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・指示された課題を期限までに提出すること。 展開　・教育課題や教職に関する最新の文献や研究成果等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　教職の意義や職務内容などの基礎的な内容が理解できていることを合格基準とするが，課題や授業に臨む態度なども併せて総合的に評価する。 評価の方法　授業姿勢＋課題発表（30%）＋定期試験（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する ただし、第5回から9回では、現行の小学校学習指導要領・特別支援学校学習指導要領・幼稚園教育要領を使用する。
推薦図書等	書籍名　『教職概論』第３次改訂版 著者名　佐藤晴雄 出版社　学陽書房 価格　２,400円 ISBN・ISSN　978 -4-313-61137-5

参考URL	文部科学省ＨＰ http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	本講義は教職科目であるので，将来自分が教壇に立つという自覚をもって受講することが望まれる。

2015年度シラバス

初等教育教師論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET202
開講年度	2015年度
登録コード	A1025001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	初等教育教師論
科目責任者	村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の教育課題，教員の職務，教員としての資質能力
授業のねらい・概要	児童の発達段階や児童理解，生徒指導，学級づくり，地域や保護者との連携等，主な背景や対応策，改善策等を考える。また，教師の仕事や法令，教育課題について調べ，自己の目標や課題をもつことをねらいとする。
学生の達成目標	（目標１）教育を支える教師の仕事や役割について知る。 （目標２）教職に向けた具体的な自己の目標・課題を具体的に持つ。 （目標３）これからの教育に必要な情報や教師自身の資質について理解する。
授業内容	第1回

		オリエンテーション(私がこれまでに出会った教師について)（目標１）
	第2回	目指す教師の姿（目標２）
	第3回	学校教育の意義(目標1) 学校教育の現状と課題「生きる力」について(目標1)
	第4回	学校教育の現状と課題 「子供の実態から（失敗を恐れないためには）」(目標1)
	第5回	学校教育の現状と課題 「子供の実態から（自己有用感を高めるには）」(目標1)
	第6回	教員の身分と服務義務(目標１)
	第7回	教員の職務の具体的な内容(目標１)
	第8回	最近の児童の傾向について(目標１)
	第9回	様々な問題行動と対応の在り方(いじめ・不登校・学級崩壊・校内暴力)(目標１・２)
	第10回	教育的課題を選び,プレゼンテーションをする① 体罰など(目標２)
	第11回	教育的課題を選び,プレゼンテーションをする② 貧困など(目標２)
	第12回	教育的課題を選び,プレゼンテーションをする③ 安全管理など(目標２)
	第13回	教育的課題を選び,プレゼンテーションをする④ 読書事情など(目標２)
	第14回	今後,教員に求められる資質能力(目標３)
	第15回	レポート作成，まとめ、評価(目標３)
予習・復習の内容	予習	次回授業で行う範囲の「教職の意義と教員の職務」を読む。 教職に関する書籍から情報収集をする。
	復習	教育課題について学習したことや聴き合い活動をして修得したことをもう一度整理し，まとめる。
	展開	教職や教育課題に関する最新の図書を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	教員の役割や教育課題が理解できたか。 将来に向けた自己の目標を明確に持つことができたか。
	評価の方法	レポート・ワークシート（50%），発表（30%），授業中の態度（20%）を総合して評価する。 但し，この比率は，最終的には若干変更する場合がある。
教科書	書籍名	教職の意義と教員の職務
	著者名	篠田信司
	出版社	三省堂
	価格	２,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-385-36335-6
推薦図書等		

参考URL	
備考	毎日の教育関係の新聞記事をよく読み，自分なりの考えや意見を持つこと。 小学校の免許を取得する学生の履修が望まれる。 授業後半は，各自が調べた課題についてプレゼンテーションをする。

2015年度シラバス

保育者論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT205
開講年度	2015年度
登録コード	A1026101
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育者論
科目責任者	實川　慎子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育者の役割と倫理、保育士の専門性、保育者の協働
授業のねらい・概要	保育士の制度的位置づけを学ぶとともに、保育者の役割と倫理について理解する。保育士の専門性について考察し、保育者の協働や専門職的成長について理解する。
学生の達成目標	1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性および保育者の協働と専門職的成長について理解する。
授業内容	第1回　「保育者」になるということ（目標1）

	第2回　魅力的な保育者とは（目標1、2） 第3回　保育者の一日①一日のスタート（目標1、2） 第4回　保育者の一日②午前中の保育・給食・午睡（目標1、2） 第5回　保育者の一日③夕方の保育（目標1、2） 第6回　子どもの思いや育ちを理解する仕事（目標1、2） 第7回　エピソード記録から子どもを読み解く（目標1、2） 第8回　子どもと一緒に心と体を動かす仕事①幼稚園（目標1、2） 第9回　子どもと一緒に心と体を動かす仕事②保育所（目標1、2） 第10回　豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事（目標1、2） 第11回　保護者や家庭と一緒に歩む仕事（目標3） 第12回　地域における子育て支援（目標1、2） 第13回　保育者の専門性と省察（目標1、2） 第14回　組織として語り合う関係をつくる（目標3） 第15回　まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習　保育に関する情報に常に関心を持ち、保育者の役割について考える。 復習　授業内容をノートに整理するとともに、そのテーマについて再考する。 展開　保育者として豊かな専門性を身につけるよう、身の回りのいろいろなことに好奇心をもつ。
成績評価	評価の基準　授業目標に対する理解度に応じて評価する。 評価の方法　試験（50%）、提出物（40%）、授業態度（10%）
教科書	書籍名　最新保育講座2　保育者論 著者名　汐見稔幸/編　大豆生田啓友/編 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2,200円＋税 ISBN・ISSN　978-4-623-05688-0
推薦図書等	書籍名　最新保育資料集2015 著者名　未定 出版社　ミネルヴァ書房 価格　未定 ISBN・ISSN　未定
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

教育原理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET101
開講年度	2015年度
登録コード	A1027001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育原理
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火4
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，教育理念，教育の意義と目的，教育の歴史，生涯学習の理念
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の科目区分では「教育の基礎理論」に該当し、「教育理念並びに教育に関する歴史及び思想」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」の内容を含む科目である。 本授業は，「人間とは何か」，「教育とは何か」という原理的な視点から，教育の基礎的理念と教育の理論、教育の制度と教育の実践等について理解を深めることをねらいとしている。
学生の達成目標	1.教育の意義と目的，教育の思想と歴史的変遷の学びをとおして、教育の基礎的理念と理論を正しく理解する。

2. 日本と諸外国の教育の制度および教育実践の多様な取り組みについての知識を獲得する。
3. 生涯学習社会における教育の現状と教育の課題について理解する。

授業内容	第1回	講義概要の説明:「教育原理」学習の目的と授業計画(目標1)
	第2回	教育の意義と目的:人間とは何か,ヒトから人へ(目標1)
	第3回	教育への権利と「子どもの権利条約」:制度上の規定(目標1)
	第4回	教育役割と子どもの社会化:人間形成と学校・家庭・地域社会との関連性(目標1)
	第5回	教育の思想と歴史的変遷(1):諸外国の教育思想史(目標2)
	第6回	教育の思想と歴史的変遷(2):諸外国の教育思想史(目標2)
	第7回	教育の思想と歴史的変遷(3):日本の教育思想史(目標2)
	第8回	教育の思想と歴史的変遷(4):児童観と教育観の変遷(目標2)
	第9回	教育の制度:学校制度の成立と発展,教育法規・教育行政(目標2)
	第10回	教育内容と教育課程:教育内容の構成,教育課程と計画(目標2,3)
	第11回	教育の実践:教育方法,教育評価,教育実践の多様な取り組み(目標2)
	第12回	生涯学習社会における教育:生涯学習社会への移行と社会教育,リカレント教育(目標3)
	第13回	現代社会と教育課題(1):教育の病理(目標3)
	第14回	現代社会と教育課題(2):生きる力,確かな学力,第2期教育振興基本計画(目標3)
	第15回	総括（目標3）
予習・復習の内容	予習	・教育関連の報道やさまざまな教育事象に常に関心を持ち，授業の中で提示された「次回への準備と課題」を調べることをとおして理解を深めておく。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめる。 ・指示された「課題」を期限までに提出すること。
	展開	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、関心のある課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	・授業で取り上げた内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。
	評価の方法	・ミニ課題と学習姿勢（ 30%）＋定期試験（ 70%）により総合的に評価する。
教科書	毎回、レジュメ等を配布し、これに基づき授業を進める。	
	書籍名	『教育学の基礎と展開』[第2版]
	著者名	相澤伸幸
	出版社	ナカニシ出版
	価格	2052円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7795-0205-7C3037

推薦図書等	書籍名	『やさしい教育原理』新版補訂版,
	著者名	田島一他
	出版社	有斐閣アルマ
	価格	1 ,900円,
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-641-12426-4

参考URL	文部科学省ＨＰ　http://www.mext.go.jp/
備考	自覚的・積極的な受講が望まれる。 オフィス・アワー：金曜日1・2限 メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

教育史・教育思潮概説

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET203
開講年度	2015年度
登録コード	A1028001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育史・教育思潮概説
科目責任者	高野　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火4
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の基礎理論，西洋の教育の歴史，日本の教育の歴史，教育の思想家
授業のねらい・概要	この科目は，教育職員免許法の「教育の基礎理論」に関する科目に該当し、日本と西洋の教育の歴史的展開とそれを支える教育の思想について理解を深めることを目的とする。具体的には，１）日本と諸外国の教育の歴史（幼稚園の成立を含む），２）代表的な思想家の教育思想や教育の実践をとおして，教育対象としての子ども観や教育観の変遷の基本的なとらえ方を概説する。

学生の達成目標	1．日本および諸外国の教育の歴史を把握するとともに、ルソーやデューイ等の代表的な教育の思想についての知識を身につける。 2．教育の思想や教育の実践をとおして,子ども観や教育観の変遷をたどることができる。 3．我が国の教育の諸課題を、広い視野のもと、歴史的なパースペクティブ(見通し)において再確認する能力を獲得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション:教育の歴史及び思想の学習の意義（目標1） 第2回　近世の教育:庶民教育の普及(目標1) 第3回　近代の教育:「学制」の内容と意義,教育の整備と拡充(目標1) 第4回　大正・昭和前期の教育:大正デモクラシー期の教育運動(目標1・2) 第5回　戦後の教育:教育制度改革,教育基本法の改正(目標1・3) 第6回　教育の歴史と思想(1):ソクラテスの教育論(目標1) 第7回　教育の歴史と思想(2):コメニウスの教授学思想 (目標1) 第8回　教育の歴史と思想(3):(ペスタロッチの教育実践と思想(目標1・2) 第9回　教育の歴史と思想(4):フレーベルとモンテッソーリの教育思想(目標2) 第10回　教育の歴史と思想(5):ヘルベルト学派の教育思想(目標1・2) 第11回　教育の歴史と思想(6):デューイ(その1)実験学校と実践(目標1・2) 第12回　教育の歴史と思想:(7)デューイ(その2)教育思想とその影響(目標2) 第13回　西洋の子ども観と教育観の変遷(目標1・2・3) 第14回　日本の子ども観と教育観の変遷(目標1・2・3) 第15回　総括（目標3）
予習・復習の内容	予習　・事前配布のレジュメを確認しておくこと。 ・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。 ・提示される代表的な教育の思想家25人の中から関心を持つ人物(複数）の思想や業績を調べ、発表と課題作成に望むこと。 復習　・発表者の発表資料のファイリングをすることを通して、毎回の授業の要旨等のまとめをすることに役立てること。 ・事前配布してあるチェック問題を解いておくこと。 展開　・日本と西洋の教育の歴史に関する最新の研究論文や動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　内容の理解度，発表を含めた授業への取り組み態度等により評価する。 評価の方法　課題発表と授業姿勢（意見発表含む）（ 30点）＋レポート（ 70点）により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特に指定しない。毎回，資料を配布し，これをもとに授業をする。
推薦図書等	書籍名　『教育人名小事典』 著者名　安彦忠彦編

出版社	明治図書
価格	1,960円
ISBN・ISSN	ISBN 4-18-616006-6

参考URL	文部科学省ＨＰhttp://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	「教育原理」を履修済であることが望ましい。

2015年度シラバス

発達心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET204
開講年度	2015年度
登録コード	A1029001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	発達心理学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水1
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	1．受精・誕生から，大人へ成長し，中年から老年を経て，死に至る過程を理解できるようにする。 2．各々の発達段階の特徴と他の段階との関連について理解できるようにする。 3．子どもとどのように関わると，発達をよりよく促せるかについて理解できるようにする。
学生の達成目標	1．人間の一生の発達の筋道を理解する。 2．発達に関する考え方や見方を理解する。 3．発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための知識を得る。

授業内容	第1回	発達心理学の方法と考え方。発達心理学とは何か,何のために学ぶのかを理解し,発達の概略を把握する。(目標1,2)
	第2回	乳幼児期の重要性。臨界期といった発達の基礎概念と心の基礎ができる乳幼児期の成長の重要性を理解する。(目標1,2)
	第3回	胎児期:身体の基礎づくり。胎児期の身体や意識の発達を理解し,妊娠中に考慮すべき点について理解する。(目標1,2,3)
	第4回	新生児期:覚醒水準の調整。新生児期は,泣きを慰める過程を通じて睡眠と覚醒の調節能力を築き,覚醒の質を高める時期であることを理解する。(目標1,2)
	第5回	乳児期前半:人の意識の始まり。乳児期前半では,注意のコントロール能力が獲得され,人への意識が高まることを理解する。(目標1,2)
	第6回	乳児期後半:愛着の形成。乳児期後半では,期待がかなって安心感が深まり,親しい人との愛着関係が深まる。この愛着関係が,精神的発達にとって重要であることを理解する。(目標1,2)
	第7回	幼児期前半:自己の形成。幼児期前半に達成感を感じるようになって自己概念を形成するとともに,他児との関わりが始まり,社会性の基礎が築かれることを理解する。(目標1,2)
	第8回	幼児期後半:社会性の発展。幼児期後半では,他児との関わりが深まり,役割意識やルール意識,協力意識が育つことを理解する。(目標1,2)
	第9回	児童期前半:仲間関係の形成。児童期前半では,図式的な考えに基づく道徳性が発達し,より親密な仲間関係が築かれていくことを理解する。(目標1,2)
	第10回	児童期後半:リアリズムの発生。児童期後半では,現実をよく見るようになり,図式的な考えからの脱却が見られ,親子関係や友人関係の見直しが起こることを理解する。(目標1,2)
	第11回	思春期:心の動揺。思春期では,第二次性徴が始まり,人間関係や自己のあり方に対して多感になり,精神が不安定になりやすいことを理解する。(目標1,2)
	第12回	青年期:自己同一性を求めて。青年期では,大人から独立し自己概念を築く過程を学ぶ。(目標1,2)
	第13回	成人期老年期:心の危機と人生の受容。社会を支える責任のある地位についた後,諸能力の衰えを受け入れる過程を理解する。(目標1,3)
	第14回	発達の阻害要因:筋緊張の異常など発達を阻害する要因を知り、健全な発達のために必要な働きかけについて理解する。(目標1,3)
	第15回	乳幼児期における発達援助のあり方。発達障害について知り,対処法を理解する。(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	発達心理学に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味を確認する。
	展開	子どもと接したときに、子どもの発達の様子を把握し、課題を見つけられる。
成績評価	評価の基準	発達に関する基本的な概念，発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。 発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがある程度わかること。
	評価の方法	

		授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	書籍名	スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症
	著者名	安藤則夫
	出版社	学苑社
	価格	2 ,200円＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8
推薦図書等		
参考URL		
備考	重要な事項について復習すること。	

2015年度シラバス

教育心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET301
開講年度	2015年度
登録コード	A1030001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	教育心理学
科目責任者	久保　瑤子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火2
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育，心理学，幼児・児童・生徒，教師
授業のねらい・概要	適切な教育実践を行うためには，幼児・児童・生徒の発達に応じた知的機能や対人的な特性を理解することが必要である。また，集団としての学級，学習の評価，教師の成長等，教育の場における心理学的機能は多様な側面にわたる。これらの教育心理学の諸側面を説明し，適切な教育実践へとつながる基礎を築く。
学生の達成目標	1.教育心理学の基本的な知識を身につける。 2.基本的な知識を基に,学校教育における教師の実践を心理学的な視点から理解することができる。

授業内容	第1回	教育心理学とは:学びと適応を支える(目標1)
	第2回	学びの理論(1):成熟論,行動主義,構成主義(目標1)
	第3回	学びの理論(2):認知心理学,社会文化論,状況論(目標1)
	第4回	学びの場とその移行(目標1)
	第5回	学びの意欲(目標1,2)
	第6回	学びの仕組み(目標1)
	第7回	学びの諸相(目標1,2)
	第8回	学びの開発と体系化(目標1,2)
	第9回	主体的な学びの授業(目標1,2)
	第10回	個に応じた学びの援助(目標1,2)
	第11回	適応の理解と支援(1):自立と社会性の学び1虐待,仲間関係,向社会的行動(目標1,2)
	第12回	適応の理解と支援(2):自立と社会性の学び2自我の確立とキャリア,学級集団(目標1,2)
	第13回	適応の理解と支援(3):子どもを支える(目標1,2)
	第14回	学びと適応の評価(目標1,2)
	第15回	教師の成長(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	心理学の基礎的な知識について，関連する図書や資料を読み，理解しておくことが望ましい。 授業で扱うテーマについて，事前に教科書を読み，疑問点を明確にしておく。
	復習	感想レポートに，授業で学習した内容は自分が保育者・教師をしていく上でどのように役立つと考えるかなどをまとめておく。 指示されたレポート課題を期日までに提出する。
	展開	教育心理学に関連する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	教育心理学に関して，基本的な内容が理解できていること。学校教育における教師の実践を心理学的な観点から理解，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	授業の感想・レポート，期末筆記試験を総合して評価する。 毎回の感想・レポート（30%），期末筆記試験(70%)
教科書	書籍名	『よくわかる教育心理学』やわらかアカデミズム・わかるシリーズ
	著者名	中澤潤
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,500円
	ISBN・ISSN	978-4-623-05104-5
推薦図書等		
参考URL		

備考

2015年度シラバス

保育の心理学 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT206
開講年度	2015年度
登録コード	A1030101
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学 Ⅰ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金3
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達の理論，発達の段階と道筋，発達の促進要因
授業のねらい・概要	1．保育実践に役立つ心理学の考え方や知識を習得する。 2．子どもの心身の発達，特に初期経験の大切さを心理学の知見に基づいて理解する。 3．子どもの発達における親や保育者，子ども集団の役割・影響力を理解する。 4．発達の途上で現れる困難さを理解して，対処法を学ぶ。
学生の達成目標	1.乳幼児期を土台として,人間の一生の発達の筋道を理解する。 2.発達に関する考え方や見方を理解して,保育の場に活用できる。 3.発達の途上で現れる困難さを理解し,対処するための基礎知識を得る。

授業内容	第1回	発達の基本的見方。子どもが社会の中でどのように発達するか概略的に把握する。(目標1)
	第2回	子どもの発達と保育実践の評価。子どもの発達と保育実践の関連性を学び,成長を促す保育のあり方を学ぶ。(目標1,2)
	第3回	乳幼児期と基本的信頼:乳幼児期における信頼関係の重要性を理解する。(目標1,2)
	第4回	情緒調節の発達:人間関係を通じて達成される覚醒水準の調整の発達を学ぶ。(目標1,2)
	第5回	重要な初期経験:乳幼児期の経験がいかにその後の人生に影響するかを学び,どのような経験が望ましいかを学ぶ。(目標1,2,3)
	第6回	自我の発達と他者理解:人との関わりの中でいかに自我が形成されるかを理解し,自我形成が他者理解とどのように関わり合うかを興味の発達を関連させながら学ぶ。(目標1,2,3)
	第7回	身体と運動の発達:胎児期から幼児期にかけての身体と運動の発達を,運動の様々な要因を分析的に考察することで理解する。(目標1,2,3)
	第8回	知覚と認知の発達:乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し,幼児の思考の限界と特徴を学ぶ。(目標1,2,3)
	第9回	言語と社会性の発達:乳幼児期の親子関係の中でいかに言語が発達するかを理解し,さらに友達関係の中で社会性がどのように発達していくかを学ぶ。(目標1,2,3)
	第10回	乳幼児期の興味と遊び:子どもは遊びを通じて発達することを理解し,遊びの土台となる興味の発達や,遊びとともに発達する仲間関係について学ぶ。(目標1,2,3)
	第11回	学童期から青年期へ:学童期の学校生活や友達関係,思春期の第二次性徴,内面性の発達,青年期の自我同一性,異性との親交の深まりを学ぶ。(目標1,3)
	第12回	成人期から高齢期へ:成人期の社会的責任を果たしつつも,自分の人生を振り返る心理や,高齢者の能力の衰えを受け入れつつ人生のまとめを行う心理を学ぶ。(目標1,3)
	第13回	対人関係に困難を感じる子どもへの発達援助:対人関係がうまくいかない原因を発達的見地から学び,働きかけの考え方や実際の働きかけ方法を学ぶ。(目標2,3)
	第14回	情緒調節に困難を抱える子どもの発達援助:情緒調節と情緒発達との関連を理解し,落ち着きのない子や喜びの乏しい子,ぼんやりした子らへの働きかけを学ぶ。(目標2,3)
	第15回	認知や思考に困難を抱える子どもの発達援助:認知や思考が発達するための要因を理解し,言葉や思考の発達を促すための方法を学ぶ。(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	保育と子どもの成長に関する本を読む。
	復習	重要な語句や考え方を確認する。
	展開	子どもの成長に自分がどのように取り組んだらよいか分かり、働きかけができる。
成績評価	評価の基準	発達段階に関する基礎的な知識を持つこと。 発達に対する大人の役割を理解すること。 発達途上で困難を抱えた子に対する必要な働きかけがわかること。

	評価の方法　授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 資料配布によって，授業を行う。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について復習すること。

2015年度シラバス

保育の心理学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT306
開講年度	2015年度
登録コード	A1030201 A1030202
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	保育の心理学Ⅱ
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1030201　後期　金2 A1030202　後期　金4
教室	講義室13 講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，子どもの気持ち，集団の質，発達課題
授業のねらい・概要	1．保育実践に役立つ心理学の考え方や知識を身に付ける。 2．保育と子どもの心理との関連性を理解する。 3．子どもの発達課題を理解する。 4．保育における自分の役割を理解し、遂行できる。

学生の達成目標

1.保育の場で起こる様々な問題を理解する。
2.発達を促す働きかけを考え、親や子どもへの働きかけができる。
3.子どもの発達にとって何が大切かを察知するセンスを持つ。

授業内容

第1回　発達の把握の意味と方法：日頃の保育の中での発達の把握の仕方やその活用を考える。（目標３）

第2回　個人差を見る・考える：子どもの個人差への基本的考え方、対処の仕方を考える。（目標１，２，３）

第3回　子どもと保育者の感じ方：子どもと保育者の感じ方の違いを理解し、両者を活かす手立てを考える。（目標１，３）

第4回　環境と心の動き・興味を伸ばす：環境の心への影響を知り、環境の活用を考える。（目標２，３）

第5回　豊かなイメージと行動の見通し：子どものイメージ力の豊かさの重要性を知り、見通しを持った行動の形成を考える。（目標２，３）

第6回　言葉の力・考える力：日常の会話の中でいかに感じ方や考える力が伸びていくかを知り、よりよい言葉かけ・会話の進め方を考える。（目標１，２，３）

第7回　集団と自己制御：集団の中で子どもが成長することを学び、集団の質を高めながら、いかに個々の子どもの力を発揮させていくかを考える。（目標１，２）

第8回　意欲と元気：子どものやる気や元気さがどのように育まれるかを理解しながら、自発的な活動を組織できるための援助の仕方を考える。（目標１，２）

第9回　自分の良さに気づく：子どもの自己概念の育ちを理解しながら、自己や他者を肯定的にとらえられるようにする働きかけを考える。（目標２，３）

第10回　やさしい心・思いやり：子どもが遊びを通じてどのように思いやりの心を育むかを理解し，やさしい心を育てるための働きかけを考える。（目標２，３）

第11回　たくましく生きる力・問題解決能力：困難に負けず，困難を解決する力がどのように育つかを理解し、そのような力への援助の仕方を考える。（目標１，２，３）

第12回　就学への支援：就学をひかえた子どもたちには何が大切かを理解し、学校へ向けての支援の仕方を考える。（目標１，２）

第13回　傷ついた心を慰める：子どもの心の傷の見方や対処の仕方について理解し、働きかけの仕方を考える。（目標１，３）

第14回　発達支援・子どもに育てる力を：発達のための情緒調節の重要性を学びながら、自閉的な子や落ち着きのない子、理解力の乏しい子への働きかけを考える。（目標２，３）

第15回　保護者への対応と協力：保護者の子どもや保育所・幼稚園に対する心情を理解して、子どもの育ちのためにどのように保護者と理解し合い、協力し合うやり方について考える。（目標１，２，３）

予習・復習の内容

予習　保育実践に関する本を読む。
与えられた課題を調べる。

復習　子どもの気持ちの見方について、振り返る。自分が考えたことと学んだことの相違点について考える。

展開

		子どもの問題が深くとらえられるようにいろいろな可能性について考える。
成績評価	評価の基準	子どもの個性や置かれた状況を理解し、どのような働きかけが大切かを考えられること。そのために、他の職員や保護者との協力体制を築く力を持つこと。
	評価の方法	授業中の課題の発表、質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 課題の発表40%、質問への回答30%、期末試験30%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	自分の身に起こったらというように、自分ならどうするかを考えられるように。	

2015年度シラバス

学校教育制度概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET302
開講年度	2015年度
登録コード	A1031001
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	学校教育制度概論
科目責任者	武内　清
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木2
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校の社会的側面（制度や文化）や学校と子どもとの関係を知り、教育実践に役立てる。
授業のねらい・概要	学校は、法律で定められ、社会的に作られた一つの制度です。その制度としての学校の特質をさまざまな側面から明らかにします。制度（学校）と人間（子ども）との関係も考えます。 そして、制度としての学校の中で、どのような授業、集団関係、人間関係、文化活動が営まれているかを考え、よりよい教育の方法を探ります。
学生の達成目標	1．学校の成り立ちや特質を理解する。 2．制度としての学校、組織として学校の特質を理解し、教師に期待されている

	ことは何かを考える。 3．学校や教師が、児童・生徒や社会との関係で、どのような役割を果たすべきかを考察する。
授業内容	第1回　教育の２側面ー制度と人間（目標1） 第2回　学校の特質１　（家庭との比較）（目標1） 第3回　学校の特質２　（近代の学校の特質）（目標1） 第4回　教師―児童・生徒関係の特質（目標2,3） 第5回　学校文化ー潜在的カリキュラムー（目標2） 第6回　生徒の問題行動と学校（目標2,3） 第7回　組織としての学校（目標2） 第8回　教員組織、役職者（校長、教頭）、校務分掌（目標2） 第9回　競争社会、学歴社会と学校（目標3） 第10回　国際化の中での学校ー多文化教育（目標3） 第11回　学校と地域社会、国家（目標3） 第12回　職業としての教師（目標2） 第13回　学校制度　－小中高大の関連（目標3） 第14回　これからの教育改革（目標2,3） 第15回　まとめ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　あらかじめ、テキストの箇所に目を通して出席すること 復習　テキストを読み返し、ノートを整理すること。 展開　自分で、関連する本や新聞記事、インターネット情報を調べ、知識を深め、考えること
成績評価	評価の基準　６割以上の点で、合格とする。 評価の方法　毎時間のリアクション（コメント・発表）（４０%）と、レポート（６０%）による。
教科書	書籍名　学生文化・生徒文化の社会学 著者名　武内 清 出版社　ハーベスト社 価格　2,400円+税 ISBN・ISSN　978-4-86339-055-3
推薦図書等	
参考URL	『子どもと学校』 武内清　編 学文社 ￥2000 978－4－7620－3
備考	

2015年度シラバス

特別支援教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST101
開講年度	2015年度
登録コード	A1032101
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育総論
科目責任者	尾崎　祐三
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火5
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	必修	必修
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，制度，理念，動向
授業のねらい・概要	障害のある子ども，特別な支援を必要とする子どもの教育の基本に関する対応姿勢，制度，理念，動向など，今日的に理解しておくべきことを学ぶ。
学生の達成目標	1.特別支援教育に関する動向のポイントを説明できる。 2.特別支援教育に関する理念を理解し実際の支援について自分の考えとともに説明できる。 3.早期から学校卒業期までの相談支援と保護者との連携の重要性を理解し発達障害の幼児児童への対応を説明できる。

授業内容	第1回	授業概要の説明
	第2回	戦前の特殊教育から養護学校の義務化(目標1,2)
	第3回	特殊教育から特別支援教育への転換（目標1,2,3）
	第4回	特別支援学校のセンター的機能(目標1,2,3)
	第5回	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築(目標1,2,3)
	第6回	学校教育における合理的配慮（目標1,2,3）
	第7回	インクルーシブ教育システムにおける就学支援（目標1,2,3）
	第8回	学習指導要領の変遷と特別支援学校の教育課程の編成（目標1,2）
	第9回	特別支援学校や特別支援学級におけるキャリア教育（目標1,2,3）
	第10回	軽度の障害のある生徒を対象とした特別支援学校高等部の教育（目標1,2,3）
	第11回	小・中学校の特別支援学級や通級による指導における特別支援教育（目標1,2,3）
	第12回	小・中学校の通常の学級における特別支援教育（目標1,2,3）
	第13回	保育と特別支援～インクルーシブ保育へ（目標1,2,3）
	第14回	インクルーシブ教育システムにおける学びと交流及び共同学習（目標1,2,3）
	第15回	校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの役割（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	次回の予定内容をふまえて、予習を行うようにして下さい。指定する予習はやるようにして下さい。
	復習	自分の進路や身近なことのどこが特別支援と結びついているかを問題意識におきながら、授業内容の理解を進めて下さい。復習課題を出すことがあります。
	展開	障害のある子どもへのボランティア体験、学校等の見学体験などとも結びつけ、授業内容を生きたものにして下さい。進路希望先での障害のある子ども等のことを自分で調べるようにするとよいでしょう。関連の授業内容とも関連づけましょう。
成績評価	評価の基準	特別支援教育に関する基礎的な事柄や実際の支援を理解し，自分のそれに対する考え・姿勢とともに説明できる。
	評価の方法	期末試験 60%，レポート/リアクションペーパー（小テスト等を含む）40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	オフィスアワー　月・火２限	

2015年度シラバス

特別支援教育方法史

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST102
開講年度	2015年度
登録コード	A1108001
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	特別支援教育方法史
科目責任者	名古屋　恒彦
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	8月24日～8月26日・1限～5限
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害,教育課程,教育方法
授業のねらい・概要	戦後の我が国知的障害教育方法史から，今日の知的障害教育における教育目標，教育内容，教育方法の独自性とその根拠を理解する。その上で，特別支援教育に普遍的に求められる理念と方法を理解する。
学生の達成目標	目標1　我が国知的障害教育の方法の変遷を理解できる。 目標2　知的障害教育の目標を理解できる。 目標3　知的障害教育の内容・方法を理解できる。
授業内容	第1回　　知的障害教育における「生活主義教育」と「生活中心教育」(目標2)

	第2回	生活を大切にする教育の始まり(目標1,2)
	第3回	本物の生活づくりの徹底(目標1,2,3)
	第4回	生活を大切にする教育の変容と後退(目標1,2,3)
	第5回	生活主義教育批判・反省の総括的論点(目標2,3)
	第6回	障害の重度化・重複化と知的障害教育(目標1)
	第7回	障害の重度化・重複化と生活主義教育(目標1)
	第8回	生活中心教育における生活単元学習の再興(目標1,2,3)
	第9回	教育課程編成と学校生活づくり(目標1,2,3)
	第10回	学校生活の集団化と個別化(目標1,3)
	第11回	生活中心教育の総括的主張点(目標2,3)
	第12回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第13回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第14回	今日における知的障害教育方法の具体的展開(目標2,3)
	第15回	まとめと討論(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書に即して進行するので，事前に学習予定の教科書部分を読んでおくこと。
	復習	実施した内容について，必要に応じてノート等を参照しながら，教科書を再読し，理解を確認しておくこと。
	展開	知的障害教育の現在の実践について図書等で学び，歴史的背景との関連への理解を深める。
成績評価	評価の基準	知的障害教育方法史の変遷，教育目標・内容・方法の重要事項を説明できるかを基準とする。
	評価の方法	試験70%，授業での発言等30%
教科書	書籍名	テーマのある学校生活　子ども主体の特別支援教育
	著者名	山形県立米沢養護学校編著，中坪晃一・名古屋恒彦監修
	出版社	コレール社
	価格	2500円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-87637-712-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		事前にできるだけ，指定した教科書を読んでおいてほしい。 現在の特別支援教育の課題を意識しながら，歴史を学んでほしい。

2015年度シラバス

子どもの発達と障害

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST103
開講年度	2015年度
登録コード	A1034001 A1034002
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	子どもの発達と障害
科目責任者	多田　昌代
授業形態	講義
開講時期	
曜日・時限	A1034001　前期　火1 A1034002　後期　木4
教室	さくらホール レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	必修	必修
保育士：	必修	必修
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども，発達，障害，診断，支援
授業のねらい・概要	幼児期から児童期にかけての発達の様相を知るとともに，発達上起こりうるつまづき（障害）について基礎的知識を得る。 さらに，障害を早期に発見・支援するための発達診断やその具体的方法について知る。

学生の達成目標

	1.幼児期から児童期にかけての発達の様相について理解できる。 2.発達の諸領域ごとに，起こりうるつまづきについて理解できる。 3.発達を診断したり，障害を支援することについて理解できる。
授業内容	第1回　発達のしくみ(目標1) 第2回　子どもの健康(目標1･2) 第3回　子どもの認知のメカニズム(目標1･2) 第4回　親子関係と人格形成(目標1･2) 第5回　ことばとコミュニケーション(目標1･2) 第6回　豊かな内的世界(情緒)-(目標1･2) 第7回　子どもの欲求とストレス(目標1･2) 第8回　がまんのメカニズム(目標1･2) 第9回　遊びの発達と友だち関係(目標1･2) 第10回　他人を愛する行動(向社会的行動)-(目標1･2) 第11回　障害とは(目標2) 第12回　発達の診断(早期発見)-(目標3) 第13回　発達の診断(早期療育・保護者との協同)-(目標3) 第14回　障害に対する支援(幼児期)-(目標3) 第15回　障害に対する支援(学童期)-(目標3)
予習・復習の内容	予習　毎回，次週の授業内容に関する資料を配布します。それに予め目を通しておくこと。また，授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 復習　授業時に配布した資料を熟読のこと。 展開　授業内容に関連した小レポートを課します。それを提出のこと。
成績評価	評価の基準　乳幼児期の発達や障害について基礎的な内容が理解できていること。 興味を持ったテーマについてレポートにまとめられること。 評価の方法　講義・討議への参加，及び態度(20%)，学期中の小レポート(20%)，学期末のレポート(60%)から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 推薦図書については，授業中に随時紹介する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布した資料を熟読のこと。

2015年度シラバス

知的障害の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST201
開講年度	2015年度
登録コード	A1035001
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	知的障害の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	多田　昌代
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火5
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，発達，障害，アセスメント，支援
授業のねらい・概要	知的障害の心理・生理・病理についての基礎知識を得ることを目的とする。また，知的障害への発達支援という視点からも理解を深める。さらに，知的障害に関連する諸障害の心理・生理・病理についても学ぶ(発達・成長期ごとに分ける場合もある)。

学生の達成目標

	1.知的障害に関連する生理・病理について理解できる。 2.知的障害の定義と分類，アセスメント方法について理解できる。 3.知的障害における心理機能と発達支援について理解できる。
授業内容	第1回　知的障害の生物学概論（目標1） 第2回　知的障害の病理（目標1） 第3回　自閉症の病理（目標1） 第4回　注意欠如／多動性障害の病理（目標1） 第5回　その他の発達障害の病理（目標1） 第6回　障害の概念的理解-(目標2) 第7回　知的障害の定義と分類，アセスメント方法-(目標2) 第8回　知的障害に関連する諸障害(ダウン症)-(目標3) 第9回　知的障害に関連する諸障害(自閉症)-(目標3) 第10回　知的障害に関連する諸障害(てんかん)-(目標3) 第11回　知的障害における心理機能と発達支援(知覚や学習)-(目標3) 第12回　知的障害における心理機能と発達支援(注意や記憶)-(目標3) 第13回　知的障害における心理機能と発達支援(問題解決)-(目標3) 第14回　知的障害における心理機能と発達支援(動機づけ)-(目標3) 第15回　知的障害における心理機能と発達支援(行動上の問題)-(目標3)
予習・復習の内容	予習　毎回，次週の授業内容に関連した資料を配付します。それに予め目を通しておくこと。また，授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 復習　授業時に配布した資料を熟読すること。 展開　授業内容に関連した小レポートを課します。それを提出すること。
成績評価	評価の基準　知的障害の心理・生理・病理の基礎と発達支援について理解していること。 関連する諸障害の心理等と発達支援について理解していること。 評価の方法　講義・討議への参加，及び態度（20%）とレポート・定期試験の成績（80%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 推薦図書については，授業中に随時紹介する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

肢体不自由の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST202
開講年度	2015年度
登録コード	A1036001
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	肢体不自由の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	渡邉　章
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火5
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理に関する基本的事項と肢体不自由のある子どもへの対応における配慮点について理解し，自分の考えを表現できるようになる。
学生の達成目標	１．肢体不自由のある子どもの日常生活における困難と心理面の配慮点について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 ２．肢体不自由のある子どもの支援に関する国内動向・国際動向について理解

し，自分の考えを表現できるようになる。
３．肢体不自由のある子どもの生理・病理について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）
	第2回	肢体不自由の概念と肢体不自由のある人のライフサイクル（目標1）
	第3回	肢体不自由のある子どもへの支援の国際動向と国際生活機能分類（ICF）の視点（目標2）
	第4回	肢体不自由のある子どもの移動介助における配慮点（目標1）
	第5回	肢体不自由のある子どもの車いす介助における配慮点（目標1）
	第6回	肢体不自由のある子どもにおける遊びの意義と配慮点(1)　屋外活動における配慮点（目標1）
	第7回	肢体不自由のある子どもにおける遊びの意義と配慮点(2)　屋内活動における配慮点（目標1）
	第8回	肢体不自由のある子どもの生活とバリアフリー及びユニバーサルデザイン（目標2）
	第9回	肢体不自由のある子どもの自立への支援の取組と配慮点（目標2）
	第10回	肢体不自由のある子どもの支援におけるアシスティブテクノロジーの活用と配慮点（目標2）
	第11回	中枢神経の解剖と神経活動（目標3）
	第12回	中枢神経系の発生と病理（目標3）
	第13回	脳性麻痺の病理（目標3）
	第14回	脳性麻痺の併存症と医療的ケア（目標3）
	第15回	運動器系疾患（筋ジストロフィ）の病理（目標3）
予習・復習の内容	予習	テキストの指定された範囲を学習し，ポイントや質問事項をまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	１）肢体不自由のある子どもの心理・生理・病理について，授業で取り上げた基本的事項を理解できていること。 ２）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由のある子どもへの対応や配慮点について自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。
教科書		
	書籍名	ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援
	著者名	田中農夫男・木村進編著
	出版社	福村出版
	価格	2 ,800円
	ISBN・ISSN	978 -4-571-12103-6

推薦図書等	
参考URL	
備考	講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すために，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。

2015年度シラバス

病弱の子どもの心理・生理・病理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST203
開講年度	2015年度
登録コード	A1037001
科目区分	特別支援教育基礎科目
授業科目名	病弱の子どもの心理・生理・病理
科目責任者	昆　俊雄
担当教員	柿沼　宏明
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木4, 5
教室	講義室10, 11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児慢性疾患，心身症，行動制限，不安，ストレス
授業のねらい・概要	病気の子どもの心理特性及び「病弱」の心理・生理・病理について学び，病弱な子どもへの指導・支援にかかわる基礎的理解を深める。
学生の達成目標	１．病気のもたらす子どもの不安やストレス,恐怖心等の心理状態等からその心理特性の基礎を学ぶ。 ２．病弱教育対象の子どもの病気や病類等の生理・病理の基礎を学ぶ。

授業内容	第1回	細胞生物学の分子基礎と病弱病理(目標2)
	第2回	小児慢性疾患の病理I(目標2)
	第3回	小児慢性疾患の病理II(目標2)
	第4回	情動と行動の病理(目標2)
	第5回	不登校の病理(目標2)
	第6回	病弱の教育上の定義(目標1)
	第7回	病弱教育の対象の移り変わりと現在の動向(目標1)
	第8回	病弱による心理規制(目標1)
	第9回	疾病進行への不安・恐怖(目標1,2)
	第10回	行動制限によるストレス(目標1,2)
	第11回	不登校の子どもの心理(目標1,2)
	第12回	親子関係に及ぼす影響(目標1)
	第13回	慢性疾患のある子の臨床事例(1)(ぜん息児童生徒)(目標1,2)
	第14回	慢性疾患のある子の臨床事例(2)(糖尿病児童生徒)(目標1,2)
	第15回	慢性疾患のある子の臨床事例(3)(腎疾患児童生徒)(白血病その他含)(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目や病種，キーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や、配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	病気の子どもの心理特性や，生理，病理等の基礎的理解度による。
	評価の方法	試験（40%），レポート（30%），リアクションペーパー及び授業態度（30%）等により総合的に評価
教科書	書籍名	特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理
	著者名	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	987-4-623-06153-2
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」PARTⅠ　病弱教育の道標
	著者名	横田雅史/監　全国病弱養護学校長会
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円+税
	ISBN・ISSN	978-4-921124-05-2
	書籍名	「病弱教育Q&A」PARTⅤ　病弱教育の視点からの医学事典
	著者名	西間三馨/監修　横田雅史/監修

出版社	ジアース教育新社
価格	6,000円+税
ISBN・ISSN	978-4-921124-20-5

参考URL	
備考	病弱教育の教育内容や基礎的事項を踏まえておいた方が理解しやすいので，必須の参考図書等を一読しておくと良い。なお，「病弱教育Ⅰ」の履修を併用するとさらに理解が深まると思われる。

2015年度シラバス

キャリア演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS101
開講年度	2015年度
登録コード	A1130001
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習 Ⅰ
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	多田　昌代 遠藤　隆志 広瀬　由紀 京極　邦明 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	水2
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	職業人の基本的資質，プロの条件，礼儀・マナー，基礎学力
授業のねらい・概要	社会人，職業人としての基礎的，基本的な心構え，知識，作法，技術等を身に付けることができるようにする。

	自分の人生や将来を充実して送っていくために，有意義な学生生活を設計するように導く。
学生の達成目標	1．社会人として必要な基礎学力・コミュニケーション力を身に付けることができる。 2．職業人として必要な礼儀・作法及び積極的・意欲的な生活態度を身に付けることができる。 3．学生として望ましい充実した生活習慣を形成することができる。
授業内容	第1回　本授業の目標と内容のガイダンス (目標2,3) 第2回　図書館ガイダンス（目標3） 第3回　出身校へ手紙及び基本的な学修の仕方について（目標1,2,3） 第4回　キャリア及びキャリア支援室・ボランティア活動について（目標2） 第5回　2年次の先輩からボランティアの話を聞いた後，個人面談(1)（目標2,3） 第6回　個別面談(2) 学生生活の基盤確認 (目標3) 第7回　個別面談(3) 円滑な学生生活に向けての助言 (目標3) 第8回　学びのコンパスの活用・U.naviの活用・一斉メールの設定（目標1,3） 第9回　現場体験講座（キャリア支援委員会企画）（目標2） 第10回　緑栄祭への参加について，及び「植草共生の森」の探索（目標2,3） 第11回　薬物乱用防止について講話（目標2） 第12回　社会人としてのマナー講座（目標1,2） 第13回　ハラスメントについて（目標2,3） 第14回　レポートの書き方・試験の受け方について（目標1,3） 第15回　前期の振り返り，及び気になる学生に対しての個別面談(4)（目標3） 第16回　前期成績と後期履修オリエンテーション（目標2,3） 第17回　職業適性検査（目標2） 第18回　職業人に必要な学びの力を身につける（目標1） 第19回　実習カードの記入。礼状の書き方について（目標1,2） 第20回　個別面談(5) 学業の状況（目標2,3） 第21回　個別面談(6) コース選択（目標2,3） 第22回　個別面談(7) 進路選択（目標2,3） 第23回　特別授業「言葉の力」（仮），客員教授加賀美幸子氏（目標1） 第24回　職業適性検査結果の返却と分析（目標2） 第25回　専攻別　課程毎に４年間の見通しを知り考える（目標2） 第26回　課程毎に実習の話を中心に3年次生先輩の話を聴く（目標2,3）・避難訓練 第27回　ビデオ視聴と記録(1) 保育所の子どもと生活（目標2） 第28回　ビデオ視聴と記録(2) 小学校の教育（目標2） 第29回　ビデオ視聴と記録(3) 特別支援教育（目標2） 第30回　卒業研究論文発表会を聴く（目標2,3）
予習・復習の内容	予習　次時のテーマについてあらかじめ資料を集める等の準備をする。

	復習　取り扱われた内容を整理し、重要な点を確認する。 展開　１年生として意欲的に学生生活を送るとともに、４年間の大学生活の基礎を培う。
成績評価	評価の基準　授業への取り組み状況　提出物の状況　最終受講論文等によって評定する。 評価の方法　授業への取り組み状況 70%　提出物提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 使用しない
推薦図書等	
参考URL	
備考	連絡方法：担任毎にオフィスアワーを確認した上で、ゼミ室に直接訪問してください。

2015年度シラバス

キャリア演習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS201
開講年度	2015年度
登録コード	A1131001
科目区分	専門基礎演習
授業科目名	キャリア演習 Ⅱ
科目責任者	早川　雅晴
担当教員	桑田　良子 川口　由起子 小川　晶 戸丸　俊文 尾崎　祐三
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	水2
教室	講義室21，22，　Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，職業，教育職，保育職
授業のねらい・概要	社会人としての基本的な知識や態度を身につけ，子どもの教育や保育に関する職業について理解と関心を高め，自己の志望する職業に必要な知識や技能について

	の理解を深める。また、自己理解につとめ、適切な自己決定に結び付ける力を養う。
学生の達成目標	１．社会人として必要な知識や態度を身につけ、実践できる。 ２．自ら選択した職業(専攻分野)に必要とされる知識や技能について理解し,自己の能力を高める。大学生活をキャリアデザインし、その実現に向けて努力する。 ３．種々の検査や面接を通して自己理解する
授業内容	第1回　オリエンテーション（学年担当者紹介、ねらい、年間スケジュール、履修について）（目標１） 第2回　実習にむけて（実習にかかる履修要件の確認等）（目標２） 第3回　「学びのコンパス」による今後の計画及び目標（目標２） 第4回　ボランティア活動について（目標１，２） 第5回　小・特　教採対策講座を知る（目標２） 幼・保　幼稚園への実習依頼の電話の掛け方（目標２） 第6回　個人面談１－①（目標３） 第7回　個人面談１－②（目標３） 第8回　小・特　参観実習事前指導１（目標２） 幼・保　附属幼稚園「森の遠足」にむけて（目標２） 第9回　マナー講座（目標１） 第10回　先輩社会人に聞く職場体験の話（目標２） 第11回　小・特　参観実習事前指導２（目標２） 幼・保　「森の遠足」で園児とふれあう（目標２） 第12回　小・特　先生になるために必要な力とは（目標２） 幼・保　「森の遠足」のふりかえり（目標２） 第13回　小・特　小学校参観実習事前指導（直前指導）（目標２） 幼・保　夏休みのボランティアについて―実習に向けて（目標２） 第14回　小・特　小学校参観実習事後指導（目標２） 幼・保　保育士試験の問題を知る（目標２） 第15回　前期テストの留意事項と夏休みの過ごし方（目標１，２） 第16回　後期キャリア演習の意義とスケジュールの解説(目標１，２) 第17回　消費者センター講話（目標１） 第18回　卒論中間発表会をきく①（目標２） 第19回　卒論中間発表会をきく②（目標２） 第20回　研究室紹介①（目標２） 第21回　研究室紹介②（目標２） 第22回　ハラスメント講話（目標１） 第23回　3年次専門ゼミにむけた研究室選択（目標１、２） 第24回　模擬試験①（目標２、３） 第25回　模擬試験②（目標２、３） 第26回　小・特　教員採用試験説明会（目標２） 幼・保　千葉市就職説明会（目標２） 第27回　個人面談２－①（目標３） 第28回　個人面談２－②（目標３）

	第29回	３年生に向けて「学びのコンパス」による専攻分野の能力についての見定め(目標3)
	第30回	卒業研究発表会への参加（目標２）
予習・復習の内容	予習	・職業選択に関係ある情報を常日頃から気に留め、読んだり集めたりしておくこと。
	復習	・授業終了後に感じたこと、学んだこと指導されたことなどを必ずまとめ、記録し保存しておくこと。 ・授業を通じて気づいた自分の課題について修正すべきところは修正したり学んだりすること。
	展開	・自分の意見をもち、積極的に参加すること。 ・他の人の考えから常に学ぶ姿勢で取り組むこと。
成績評価	評価の基準	主体的に参加し、キャリア決定していこうとする意欲がレポートや態度にあること。
	評価の方法	課題発表やレポート（ ３0%），課題に対する取り組み（ ７0%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	社会人として自立し，職業人として必須の能力を養うための科目であるが，学年やクラスとしての連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容を含めて行うので，必ず出席すること。	

2015年度シラバス

環境と社会性発達論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT205
開講年度	2015年度
登録コード	A1038001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	環境と社会性発達論
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	環境と生得的な資質，相互作用，社会性の発達
授業のねらい・概要	１．社会性の発達に影響する環境や生得的な資質とは何かを理解する。 ２．社会性の発達に，育児の仕方と生得的な資質（気質・能力）の相互関係について理解する。 ３．社会性の発達を促進する個人的なやりとり・集団的なやりとりを理解する。
学生の達成目標	１．環境と生得的な資質との相互作用によって社会性が発達することを理解する。 ２．社会性の発達のために望ましい環境,人との相互作用とは何かを理解する。 ３．家族内の親しい人との関係や友達関係と社会性の発達の関連を理解する。

授業内容	第1回	社会性の発達に影響する環境要因。環境と生得的な資質との相互作用に関する基本的な概念や考え方,研究法について学ぶ(目標1,2,3)
	第2回	乳幼児の安心感。人との関係の中で育まれる安心感の重要性と安心感が生まれる環境について学ぶ。(目標2,3)
	第3回	母子関係の意味。母子関係に関する様々な考え方や望ましい母子関係を学ぶ。(目標3)
	第4回	家族の変化と育児。社会と家族の変化を理解し,社会性発達に対する意味を考える。(目標2,3)
	第5回	親子関係の相互性。親子がお互いに影響し合っている点と,相互作用の過程を学ぶ。(目標1,2,3)
	第6回	人間関係と情緒調節。人間関係の中での情緒制御能力の育ちを理解する。(目標1,2)
	第7回	共感と情報交換。幼児がいかに他者と共感し合いながら,情報交換を楽しみ,周りの世界に対するイメージを築いていくかを理解する。(目標2,3)
	第8回	役割意識とルールの尊重。大人や友達との関わりを通じて,幼児がいかにみんなの中で役割意識を持てるようになり,ルールを尊重するようになるのかについて理解する。(目標2)
	第9回	向社会的行動の発達と人間関係。人に対する思いやりが,人との関わりの中でどのように発達していくのかについて理解する。(目標2)
	第10回	価値観と道徳性の発達。他児との関わりや集団生活の過程で,いかに他者理解が進むのか,道徳性が発達していくのかについて理解する。(目標2)
	第11回	児童期思春期の社会性発達。乳幼児期の社会性発達と児童期思春期の発達との関連を理解し,長期的展望に立って子どもの発達を理解する。(目標2)
	第12回	子育ての困難さと子育て支援。子育ての困難さや虐待の起こる要因を理解し,心の傷を負った子どもの成長や家族への子育て支援について考える。(目標1,2)
	第13回	非行や反社会的行動と子育て。育児困難な子の発達や逸脱行動を理解し,社会性発達を促す関わり方について学ぶ。(目標2,3)
	第14回	発達障害と社会性発達。自閉症や ADHDなどに見られる社会性の障害を理解し,社会性発達を促す働きかけについて学ぶ。(目標1,2,3)
	第15回	社会的文化的環境と社会性発達。社会的文化的環境の違いによって社会性発達がどのように影響されるかを理解し,日本文化の中の育児法を考える。(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	社会性の発達に関する本を読む。
	復習	重要な語句の意味や考え方を確認する。
	展開	子どもと接したときに、子どもの成長を長い目で見て、どのように環境を設定していったらよいかが分かる。
成績評価	評価の基準	子どもの社会性発達における環境の大切さを理解する。 特に人間関係の重要性を認識し，望ましい環境・人間関係が分かる。
	評価の方法	

	授業中の質問への回答，期末試験の結果などから総合的に評価する。 質問への回答 30%，期末試験 70%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 教科書は使用しない。資料を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項は復習すること。

2015年度シラバス

幼児・児童の病気と医療

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT206
開講年度	2015年度
登録コード	A1039001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の病気と医療
科目責任者	栗山　敦子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児・児童，病気，医療、
授業のねらい・概要	体の構造と機能の基本を理解し、病気の成り立ちを知る。 それに応じた正しいケアを実践できるようにする。
学生の達成目標	1.幼児・児童の病気について理解する。 2.幼児・児童が病気に罹患したとき正しく対応できる。 3.幼児・児童の病気の予防および早期発見ができる。
授業内容	第1回　ヒトの体の構造と名称（1） 消化器系、呼吸器系、循環器系（目標1）

	第2回	ヒトの体の構造と名称（2） 泌尿器系、自律神経系、内分泌系、免疫系、生殖器系（目標1）
	第3回	ヒトの体の構造と名称（3） 感覚器系、神経系、筋・・骨格系（目標1）
	第4回	乳幼児の病気の特徴（目標1,2）
	第5回	0～3か月の乳児に多い病気（目標1,2）
	第6回	発熱とけいれんの病気（目標1,2,3）
	第7回	発熱とけいれんの病気（目標1,2,3）
	第8回	嘔吐・便秘・下痢の病気（目標1,2,3）
	第9回	嘔吐・便秘・下痢の病気（目標1,2,3）
	第10回	咳・鼻水・鼻づまりの病気（目標1,2,3）
	第11回	発疹の出る病気（目標1,2,3）
	第12回	乳幼児のこころの気がかり（目標1,2,3）
	第13回	奇形やそのほかの病気（目標1）
	第14回	予防接種と定期検診（目標3）
	第15回	事故予防と簡単な応急処置（目標3）
予習・復習の内容	予習	幼児・児童の病気について日常から関心を持ち，関連する図書や報道について理解しておくこと。 教科書を読んでくること。
	復習	講義のノートをまとめること。
	展開	実習等で子どもの健康問題を理解でき、援助する。
成績評価	評価の基準	幼児・児童の病気および対応に関して，授業で取り上げた内容が理解できていることを合格基準とする。
	評価の方法	期末の筆記試験　100%
教科書	書籍名	病気＆ホームケア
	著者名	渡辺　博　監修
	出版社	ベネッセ
	価格	1300＋税
	ISBN・ISSN	978-4-8288-6579-9
推薦図書等	書籍名	こどもの病気の地図帳
	著者名	鴨下重彦、柳澤正義監修
	出版社	講談社
	価格	4000+税
	ISBN・ISSN	4-06-206605-X　C3347
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

幼児・児童の障害と支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT207
開講年度	2015年度
登録コード	A1040001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼児・児童の障害と支援
科目責任者	多田　昌代
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木3
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児・児童，障害，アセスメント，支援
授業のねらい・概要	子どもの行動を形成し,支える原則について学ぶ。アセスメントの基本理念や方法について理解する。その上で,「コミュニケーション」や「行動上の問題」など,諸領域に対する支援のあり方について理解を得る。
学生の達成目標	1.子どもの行動を形成,支える原則について理解できる。 2.アセスメントの基本理念や方法について理解できる。 3.障害の諸領域,また,ある障害特性に対しての支援のあり方について，その原則を理解できる。

授業内容	第1回	子どもの行動を支えるもの(強化)-(目標1)
	第2回	子どもの行動を支えるもの(形成)-(目標1)
	第3回	アセスメント(諸検査)-(目標2)
	第4回	アセスメント(行動観察)-(目標2)
	第5回	アセスメント(関係者への聞き取り)-(目標2)
	第6回	コミュニケーションに対する支援(機会利用型指導法とDTT)-(目標3)
	第7回	コミュニケーションに対する支援(AAC)-(目標3)
	第8回	学習活動に対する支援(目標3)
	第9回	対人関係に対する支援(ソーシャル・スキル・トレーニング)-(目標3)
	第10回	親子関係に対する支援(ペアレント・トレーニング)-(目標3)
	第11回	行動上の問題に対する支援(機能的コミュニケーション訓練)-(目標3)
	第12回	就労に対する支援(目標3)
	第13回	その他の支援技法(目標3)
	第14回	障害の早期発見と療育(目標3)
	第15回	障害受容(目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回，次週の授業内容に関連した資料を配布します。それに予め目を通しておくこと。また，授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	授業時に配布した資料を熟読すること。
	展開	授業内容に関連した小レポートを課します。それを提出すること。
成績評価	評価の基準	幼児・児童に接し,支援していく上での観点が定まること。 全般的な支援のあり方について,また,ある障害特性に特化した支援のあり方について理解できていること。 併せて,支援するにあたっての基本姿勢について,自分なりの意見を述べられること。
	評価の方法	講義・討議への参加，及び態度(20%)，学期中の小レポート(20%)，学期末のレポート（60%）から評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	関連するキーワードについての予備知識を持って授業に参加することが望ましい。 また，授業後は授業時に配布したプリントを熟読のこと。	

2015年度シラバス

事故・災害と救命救急法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT208
開講年度	2015年度
登録コード	A1041001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	事故・災害と救命救急法
科目責任者	布施　千草
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児救急医療，子どもの事故と集団災害，小児救急救命処置、専門職の役割
授業のねらい・概要	小児救急医療・看護を学び，小児救急場面に対応できる素地をつくる。
学生の達成目標	1．小児救急医療、子どもに多い事故や集団災害について理解できる。 2．トリアージの目的と救急救命処置について理解できる。 3．救急場面における子ども・家族の反応を理解し、小児救急場面における自分の役割を述べることができる。
授業内容	第1回　現代の子ども・家族と救急医療・看護(目標1) 第2回　救急医療を受ける子ども・家族の接近法(目標3)

	第3回	小児救急における病態とプライマリーケア①(目標1,2，3)症状(発熱・下痢下血・嘔吐)
	第4回	小児救急における病態とプライマリーケア②(目標1,2、3)症状(呼吸困難・痙攣・発疹・痛み)
	第5回	救急と災害看護(目標1,2)
	第6回	小児救急における病態とクリテカルケア(目標1,2)小児の一次・二次救命技術
	第7回	子どもの事故の種類とその特徴(目標1)
	第8回	事故に伴う起こりやすい病態と看護 事故予防指導(目標1,2,3)
	第9回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標2)(小児救急救命認定看護師による講義)
	第10回	事例でみるトリアージの実際と小児救急救命処置(目標2)(シミュレーション等を通して実施)
	第11回	子どもの虐待 初期治療および対応の原則(目標1,2,3)
	第12回	子どもに特徴的な集団災害①(目標1，3) 保健所,幼稚園,学校等における災害の特徴
	第13回	子どもの特徴的な集団災害②(目標1，3)
	第14回	子どもと家族へのケア(目標3)
	第15回	福祉施設における防災支援、まとめ(目標3)
予習・復習の内容	予習	事故・災害について，日常から関心を持ち，関連する報道について理解しておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておく。配布された資料はよく読み，整理すること。
	展開	事故・災害について新聞の切り抜きを整理し、要約をして理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業でとりあげた基礎的な内容が理解でき，自らの役割をのべることができること。
	評価の方法	試験60%，レポート40%（この比率は、最終的に若干変更する可能性もある）
教科書		
推薦図書等	書籍名	災害福祉とは何か－生活支援体制の構築に向けて
	著者名	西尾祐吾・大塚保信・古川隆司
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-623-05421-3
参考URL		
備考	小児救急看護の概要を理解し，その知識を各自の職域に活用してほしい。	

2015年度シラバス

幼稚園の管理と学級運営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ECT209
開講年度	2015年度
登録コード	A1042001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	幼稚園の管理と学級運営
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木1
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園の管理運営　幼児教育　保育
授業のねらい・概要	幼稚園が教育機関として適正に管理運営されるのに必要なことについて関連法規から理解する。幼稚園の果たす社会的使命を理解し、実務的側面について理解する。具体的・実践的観点から幼児教育・保育について思考を深めることができる。
学生の達成目標	1.第一のねらいは教育基本法他関連法規に基づく幼稚園の社会的使　命を理解することである。 2.第二のねらいは幼児教育・保育の重要性を理解することである。 3.第三のねらいは幼児教育の歴史的変遷について理解することである。

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	教育基本法等関連法規から幼稚園の社会的使命について理解する。（目標1）
	第3回	幼児教育の根幹を成す幼児教育・保育観について理解する。（目標2）
	第4回	幼児教育・保育の重要性・必要性について理解する。（目標2）
	第5回	幼児教育の歴史的変遷について理解する。（目標3）
	第6回	歴史に残る主要な幼児教育家の思想について知る。（目標3）
	第7回	幼稚園運営の実務的側面を理解する。（目標1）
	第8回	理想の園づくり活動を通して保育目標の多様性を理解する。（目標1･2）
	第9回	理想の園づくり活動を通して保育目標実現の為の多様な方法について知る。（目標1･2）
	第10回	理想の園づくり活動を通して園を構成する諸要素とその関連を学習する。（目標1･2）
	第11回	学級運営の基本を理解する。（目標2）
	第12回	学級において個人の尊重と集団の育成について理解する。（目標2）
	第13回	園と学級運営の関連性について理解する。（目標1･2）
	第14回	学級通信作成を通して保育目標の実現について理解する。（目標2）
	第15回	総括　幼児教育の個別性と普遍性について理解する。（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	あらかじめ課題を出す。その課題を予習してから授業に臨むこと。
	復習	配布資料をまとめ、学習課題を見い出し、探究すること。
	展開	毎授業ごとに学習成果を確認して学生に習熟度を把握しながら、学習到達目標に到達するように展開する。
成績評価	評価の基準	幼稚園運営について実務的側面を理解できたか。 幼児教育・保育について重要性が理解できたか。 主要幼児教育家の思想と理解できたか。 園経営と学級経営の関係性が理解できたか。 学級経営の責務・意義・役割について理解できたか。
	評価の方法	提出物の内容の評価　50% 試験　50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

保育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT207
開講年度	2015年度
登録コード	A1013101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育課程論
科目責任者	實川　慎子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木1
教室	講義室10, 11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育の計画と評価、指導計画の作成、保育課程の編成
授業のねらい・概要	保育計画と評価について理解し、保育課程の編成と指導計画の作成について実践できる力を身につける。
学生の達成目標	1.保育の計画と評価にかかわる基本的な事項を理解する。 2.保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。 3.計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造を理解する。
授業内容	第1回　保育の基本と計画（目標1） 第2回　指導計画の種類と役割（目標1）

	第3回　保育における計画の考え方（０、１、２歳児）（目標1） 第4回　保育における計画の考え方（３，４，５歳児）（目標1） 第5回　小学校における計画との関係（目標1） 第6回　保育における計画の変遷（目標1） 第7回　日案から週案の作成①幼稚園（目標2、3） 第8回　日案から週案の作成②保育所（目標2、3） 第9回　教育課程の見直し（目標2） 第10回　保育課程の見直し（目標2） 第11回　0、1歳児の指導計画の実際（目標2、3） 第12回　2歳児の指導計画の実際（目標2、3） 第13回　3歳児の指導計画の実際（幼稚園）（目標2、3） 第14回　4歳児の指導計画の実際（保育所）（目標2、3） 第15回　5歳児の指導計画の実際（幼稚園）（目標2、3）
予習・復習の内容	予習　教科書の下読みをしておく。わからない用語は事前に調べておく。 復習　授業内容をノートに整理する。 展開　保育場面を想定し、自分で指導案を書いてみる。
成績評価	評価の基準　保育の計画と評価について、基本的な知識を理解する。 評価の方法　試験（60%）、提出物（30%）、授業態度（10%）
教科書	書籍名　最新保育講座5　保育課程・教育課程総論 著者名　柴崎正行/編　戸田雅美/編　増田まゆみ/編 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2,200円＋税 ISBN・ISSN　978-4-623-05733-7
推薦図書等	書籍名　保育用語辞典 第7版 著者名　森上史朗/編　柏女霊峰/編 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2,300円+税 ISBN・ISSN　978-4-623-06544-8
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育内容総論 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT208
開講年度	2015年度
登録コード	A1043101 A1043102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容総論 Ⅰ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1043101　前期　火1 A1043102　前期　火2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	幼稚園や保育所での「保育内容」について，保育所保育指針および幼稚園教育要領で示されている基本的な視点について概説する。 また，事例を取り上げることで，受講生が保育内容について具体的なイメージを持ち，その展開等について自分なりに考える機会とする。
学生の達成目標	１．保育内容に対する自分なりのイメージを持つことができるようになる。 ２．遊びや生活を通して学ぶということについて、自分なりに考えることができ

るようになる。
3．５領域の捉え方、考え方の基本を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション:幼稚園・保育所のイメージ(目標1)
	第2回	遊びを通しての経験(目標2)
	第3回	「領域」とは(目標3)
	第4回	保育所・幼稚園の一日(1)（未満児）(目標1・2・3)
	第5回	保育所・幼稚園の一日(2)（以上児）(目標1・2・3)
	第6回	保育所・幼稚園の一日(3)（協同的な取り組み）(目標1・2・3)
	第7回	遊びや生活を通して学ぶということ(1)（概説）(目標2)
	第8回	遊びや生活を通して学ぶということ(2)（事例）(目標2)
	第9回	保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方(目標2・3)
	第10回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(健康)(目標3)
	第11回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(人間関係)(目標3)
	第12回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(環境)(目標3)
	第13回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(言葉)(目標3)
	第14回	事例で学ぶ「領域と保育内容」(表現)(目標3)
	第15回	総括・まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎回のテーマに該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	返却されたレポートを再読し、テキスト等と併せて再考するとともに、授業内容について整理する。
	展開	実際の保育に触れ、保育内容に対するイメージを膨らませ、具体化する。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容）20%、期末試験80%とする
教科書	書籍名	最新保育講座４　保育内容総論
	著者名	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-623-05851-8
推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領
	著者名	文部科学省
	出版社	フレーベル館
	価格	100円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81240-2

書籍名	保育所保育指針
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル館
価格	120円+税
ISBN・ISSN	978-4-577-81241-9

参考URL

備考

2015年度シラバス

保育内容総論 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT209
開講年度	2015年度
登録コード	A1043201 A1043202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容総論 Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1043201　後期　火1 A1043202　後期　火2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，遊び，生活，５領域，保育所保育指針・幼稚園教育要領
授業のねらい・概要	保育内容を考える視点について，子どもの発達への理解や遊び等を通して理解を深める。
学生の達成目標	１．発達過程による子どもの姿や発達と保育展開の連動性を理解する。 ２．保育展開における子どものとらえ方や環境構成,保育士の関わりについて自分なりの考えを持ち言語化できるようになる。 ３．子育て支援の現状および保育内容を深める遊びについてより深く理解する。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1)
	第2回	子どもの育ちと保育内容(1)（遊び）(目標1・2)
	第3回	子どもの育ちと保育内容(2)（生活）(目標1・2)
	第4回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(0歳児)(目標1・2)
	第5回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(1歳児)(目標1・2)
	第6回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(2歳児)(目標1・2)
	第7回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(3歳児)(目標1・2)
	第8回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(4歳児)(目標1・2)
	第9回	事例で学ぶ「年齢と保育内容」(5歳児)(目標1・2)
	第10回	子育て支援と保育内容(1)（概説）(目標3)
	第11回	子育て支援と保育内容(2)（実際）(目標3)
	第12回	保育内容を深める遊びや文化財(1)（遊びの立案）(目標3)
	第13回	保育内容を深める遊びや文化財(2)（立案内容の実施）(目標3)
	第14回	保育内容を深める遊びや文化財(3)（製作）(目標3)
	第15回	総括・まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	毎回のテーマに該当するテキストを読み、必要な予備知識や事例に対するイメージを持つ。
	復習	返却されたレポートを再読し、テキスト等と併せて再考するとともに、授業内容について整理する。
	展開	実際の保育に触れ、保育内容に対するイメージを膨らませ、具体化する。
成績評価	評価の基準	上記「学生の達成目標」に到達し，保育内容の展開等に対し，自分なりの意見を述べることができること。
	評価の方法	平常点（授業内でのレポート提出状況ならびにその内容）50%+期末試験50%
教科書	書籍名	最新保育講座４　保育内容総論
	著者名	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-623-05851-8
推薦図書等	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル社
	価格	190円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6
参考URL		
備考	＊学外（東京おもちゃ美術館）での授業を行います。	

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT210
開講年度	2015年度
登録コード	A1044101 A1044102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1044101　前期　月3 A1044102　前期　月4
教室	講義室10，11 講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，心身の関係，生活習慣
授業のねらい・概要	健康に関する総合的な知識を理解しつつ，保育内容「健康」の指導法，幼稚園ならびに保育園における健康領域の取り扱い方，また日常生活における健康の保持・増進について学ぶことを目的とする。

学生の達成目標

1．成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。
2．幼稚園教育要領における「健康」の内容を理解すること。
3．保育所保育指針における「健康」の内容を理解すること。

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1～3)
	第2回	健康の定義(目標1)
	第3回	健康の定義(目標1)
	第4回	身体の発育発達の特徴(1)(目標1)
	第5回	身体の発育発達の特徴(2)(目標1)
	第6回	身体の発育発達の特徴(3)(目標1)
	第7回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(1)(目標2)
	第8回	幼稚園教育要領における「健康」の取り扱い(2)(目標2)
	第9回	基本的生活習慣の援助(1)(目標1～3)
	第10回	基本的生活習慣の援助(2)(目標1～3)
	第11回	運動と栄養(1)(目標1)
	第12回	運動と栄養(2)(目標1)
	第13回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(1)(目標3)
	第14回	保育所保育指針における「健康」の取り扱い(2)(目標3)
	第15回	総括(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の健康に関連する部分をよく読んで，覚えること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	日頃から、健康に関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験 50%，レポート課題 20%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	幼稚園教育要領解説
	著者名	文部科学省/編
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81245-7
	書籍名	保育所保育指針解説書
	著者名	厚生労働省
	出版社	フレーベル館
	価格	190円+税
	ISBN・ISSN	978-4-577-81242-6

参考URL

備考

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（健康）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT211
開講年度	2015年度
登録コード	A1044201 A1044202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（健康）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1044201　後期　月3 A1044202　後期　月4
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発育発達，栄養，運動，生活習慣
授業のねらい・概要	保育内容「健康」に示されている内容についてデータに基づいて理解を深め，子どもの健康づくりに必要な知識や技能を習得することを目的とする。データの収集法および分析と評価方法についても学ぶ。
学生の達成目標	1.成人と子どもの健康を保持・増進するために必要な要因を理解すること。 2.生体に関する各種データの収集方法,データ処理方法の基礎を理解できるこ

	と。 3.データの分析・評価方法の基礎を理解できること。
授業内容	第1回　ガイダンス(目標1～3) 第2回　幼児期運動指針(目標1) 第3回　生活習慣と身体活動(1)(目標2,3) 第4回　生活習慣と身体活動(2)(目標2,3) 第5回　生活習慣と身体活動(3)(目標2,3) 第6回　こころの健康・からだの健康(1)(目標1) 第7回　こころの健康・からだの健康(2)(目標1) 第8回　自律神経の働きと体温(1)(目標1) 第9回　自律神経の働きと体温(2)(目標1) 第10回　自律神経の働きと体温(3)(目標2,3) 第11回　免疫機能(1)(目標1) 第12回　免疫機能(2)(目標1) 第13回　運動や遊びが生体に与える刺激(1)(目標1) 第14回　運動や遊びが生体に与える刺激(2)(目標2,3) 第15回　総括(目標1～3)
予習・復習の内容	予習　授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 実験実習の際には，得られたデータをまとめたり集計したりすることもある。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。 展開　日頃から、健康に関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準　学習内容の習得度を試験及びレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。 評価の方法　レポート課題50%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT212
開講年度	2015年度
登録コード	A1045101 A1045102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（人間関係）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1045101　前期　木2 A1045102　前期　木3
教室	講義室13 講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション，幼児の人間関係の発達，関係性援助技法
授業のねらい・概要	乳幼児の人間関係の発達について知識と技術を習得する。
学生の達成目標	1．コミュニケーションの重要性を理解する。 2．幼児の人とのかかわりの特徴を学ぶ。 3．各年齢の発達段階に即した人間関係のあり方を習得する。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1)
	第2回	保育における人間関係を概観する(目標1)
	第3回	保育と領域「人間関係」(目標2)
	第4回	領域「人間関係」のねらい(目標2)
	第5回	0歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第6回	1歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第7回	2歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第8回	3歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第9回	4歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第10回	5歳児期の人間関係を理解する(目標1,2,3)
	第11回	配慮を必要とする子どもへの関係援助(目標1,2,3)
	第12回	配慮を必要とする子どもへの成長援助(目標1,2,3)
	第13回	気になる子どもへの援助№1(目標1,2,3)
	第14回	気になる子どもへの援助№2(目標1,2,3)
	第15回	総括（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	乳幼児の人間関係について関連する図書を読み理解しておくこと。
	復習	授業内容を記録しておく。授業で課題を出すので提出を期限内にすること。
	展開	人間関係の理論を習得したうえで、保育における実践的援助を行う。
成績評価	評価の基準	領域「人間関係」の意義とねらい及び内容を理解する。 各年齢期における人間関係の育ちについて理解し、発達を援助する理論と技法を習得する
	評価の方法	授業への参加態度80%，課題レポートの提出20%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（人間関係）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT213
開講年度	2015年度
登録コード	A1045201 A1045202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（人間関係）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1045201　後期　木3 A1045202　後期　木4
教室	体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児の人間関係の発達・体験的身体的理解・援助技術の向上
授業のねらい・概要	乳幼児の人間関係について多様な援助方法を身につける。領域「人間関係」の意義とねらい及び内容を理解する。実践的・具体的な援助技術を習得する。領域「人間関係」と関連する分野を重層的に捉える。
学生の達成目標	1.コミュニケーションの重要性を理解する。 2.幼児の人とのかかわりの特徴を学ぶ。 3.多様な援助方法を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標1）
	第2回	人間関係の技法1（草花遊び）（目標2・3）
	第3回	人間関係の技法2（昆虫）（目標2・3）
	第4回	人間関係の技法3（伝承遊び）（目標2・3）
	第5回	人間関係の技法4（鉄棒遊び）（目標2・3）
	第6回	人間関係の技法5（組体操）（目標2・3）
	第7回	人間関係の技法6（身体遊び）（目標2・3）
	第8回	人間関係の技法7（信頼体験）（目標1・3）
	第9回	人間関係の技法8（集団遊び）（目標1・3）
	第10回	人間関係の技法9（運動遊び）（目標2・3）
	第11回	人間関係の技法10（新聞紙遊び）（目標2・3）
	第12回	人間関係の技法11（あやとり）（目標2・3）
	第13回	人間関係の技法12（食事援助）（目標2・3）
	第14回	人間関係の技法13（かたづけ援助）（目標1・2）
	第15回	総括（目標1・2・3）
予習・復習の内容	予習	乳幼児の人間関係についての関連図書を読み，内容を理解しておくこと。
	復習	授業内容の要旨をまとめ，さらに学習を進めておくこと。
	展開	演習を通して多様な人間関係の在り様に目を向け、その多様性、自他理解を深め保育現場における活用を試みる。
成績評価	評価の基準	乳幼児期の人間関係について理解したか。 保育における多様な援助方法について理解したか。援助技術の向上に向けて自己課題を見きわめて努力したか。
	評価の方法	授業への参加態度90%，課題レポートの提出10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	保育内容演習Ⅰ（人間関係）を履修していること。	

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT307
開講年度	2015年度
登録コード	A1046101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（環境）
科目責任者	神野　茂美
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火3
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1.幼児期における環境の役割を知る。 2.幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3.幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション,講師自己紹介 環境とはDVD視聴(目標1)

	第2回	子どもと環境(目標1) 現代社会における環境の現状と課題、身近な野草の観察
	第3回	保育の目的と領域、領域「環境」の特徴 プランター野菜の種まき、苗植え実習(目標3)
	第4回	環境による保育の構造、環境にかかわる力と好奇心、探求心、DVD視聴(目標1)
	第5回	好奇心を育てる、探求心を育てる(目標2)
	第6回	応答的環境とは、友だちとかかわる、カイコの飼育実習(目標2)
	第7回	友だちとの関係性の発達、保育者とかかわる(目標2)
	第8回	保育者との関係性の発達、さまざまな人とのかかわりで育つもの(目標2)
	第9回	自然の不思議さに触れる、自然を取り入れて遊ぶ(目標3)
	第10回	季節の変化を感じる、木の葉を使った粘土作品作り実習(目標2)
	第11回	命を感じる環境、命を大切にする保育、千葉市動物公園見学(目標3)
	第12回	園具・教材・教具の意味と役割、ものや道具を工夫して使う(目標2)
	第13回	ものや道具を目的をもって合わせて使う、ものや道具を大切にする(目標2)
	第14回	ものや道具を使ってさまざまな表現を楽しむ、ものや道具を使って園生活を快適にすごす(目標2)
	第15回	文字や記号にかかわる、数量や形にかかわる、まとめ(目標2)
予習・復習の内容	予習	テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。
	復習	次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。
	展開	講義及び授業中に投影したスライド写真を見て、保育現場の様子を知り、保育について理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習内容の理解度を試験、レポートで評価
	評価の方法	試験70%、小テスト10%、実習の取り組み20%
教科書	書籍名	保育実践に生かす保育内容「環境」
	著者名	高内正子監修、上中修編著
	出版社	保育出版社
	価格	本体2,270円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-905493-11-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		講義だけでなく、スライド、DVD視聴、さまざまの実習を取り入れます。

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT307
開講年度	2015年度
登録コード	A1046102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（環境）
科目責任者	岩館　正雄
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火4
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり　自然，物，人との触れ合い　生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1.幼児期における環境の役割を知る。 2.幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3.幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。
授業内容	第1回　オリエンテーション、講師自己紹介 環境とはDVD視聴(目標1)

	第2回　子どもと環境(目標1) 現代社会における環境の現状と課題、身近な野草の観察 第3回　保育の目的と領域、領域「環境」の特徴　プランター野菜の種まき、苗植え実習(目標3) 第4回　環境による保育の構造、環境にかかわる力と好奇心、探究心、DVD視聴(目標1) 第5回　好奇心を育てる、探究心を育てる(目標2) 第6回　応答的環境とは、友だちとかかわる、カイコの飼育実習(目標2) 第7回　友だちとの関係性の発達、保育者とかかわる(目標2) 第8回　保育者との関係性の発達、さまざまな人とのかかわりで育つもの(目標2) 第9回　自然の不思議さに触れる、自然を取り入れて遊ぶ(目標3) 第10回　季節の変化を感じる、木の葉を使った粘土作品作り実習(目標2) 第11回　命を感じる環境、命を大切にする保育、千葉市動物公園見学(目標3) 第12回　園具・教材・教具の意味と役割、ものや道具を工夫して使う(目標2) 第13回　ものや道具を目的に合わせて使う、ものや道具を大切にする(目標2) 第14回　ものや道具を使ってさまざまな表現を楽しむ、ものや道具を使って園生活を快適にすごす(目標2) 第15回　文字や記号にかかわる、数量や形にかかわる、まとめ(目標2)
予習・復習の内容	予習　テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。 復習　次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。 展開　講義及び授業中に投影したスライド写真を見て、保育現場の様子を知り、保育について理解を深める。
成績評価	評価の基準　学習内容の理解度を試験，レポートで評価。 評価の方法　試験70%，小テスト10%，実習の取り組み20%
教科書	書籍名　保育実践に生かす保育内容「環境」 著者名　高内正子監修　上中修編著 出版社　保育出版社 価格　￥2、270 ISBN・ISSN　978-4-905493-11-2
推薦図書等	
参考URL	
備考	講義だけでなく，DVD視聴，さまざまの実習を取り入れます。

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ　（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT308
開講年度	2015年度
登録コード	A1046201
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ　（環境）
科目責任者	神野　茂美
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火3
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり，自然，物，人との触れ合い，生活のひろがり。
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1.幼児期における環境の役割を知る。 2.幼児が様々な環境にかかわり,それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3.幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。
授業内容	第1回　時間や季節にかかわる、法則性や因果関係を捉える（目標2） 第2回　情報に関わる、地域の文化にかかわる（目標2）

	第3回	環境構成とは、環境の再構成とは（目標1）
	第4回	環境構成の実際、環境の再構築の実際（目標1）
	第5回	安全能力の形成、安全能力を育てる保育（目標2）
	第6回	安全教育の実際、防災教育の実際、環境の安全点検（目標2）
	第7回	食と農の現状、食育とは、食農保育とは（目標1）
	第8回	食と農と直接体験で育つ力、食育と食農保育の実際、幼稚園の食育についてスライド視聴（目標1）
	第9回	自然の中の身近な植物、春植えの花の栽培活動（目標3）
	第10回	秋植えの花の栽培活動、春植えの野菜の栽培活動（目標3）
	第11回	秋植えの野菜の栽培活動（目標3）
	第12回	子どもと虫、子どもと鳥、子どもと小動物（目標3）
	第13回	飼育活動の現状と課題（目標3）
	第14回	隠れたカリキュラム、子どもを見る、理解するということ（目標2）
	第15回	領域「環境」の実践力を高めるために、まとめ（目標2）
予習・復習の内容	予習	テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。
	復習	次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。
	展開	講義及び授業中に投影したスライド写真を見て、保育現場の様子を知り、保育について理解を深める。
成績評価	評価の基準	学習内容の理解度を試験、レポートで評価
	評価の方法	試験70%、小テスト10%、実習の取り組み20%
教科書	書籍名	保育実践に生かす保育内容「環境」
	著者名	高内正子監修、上中修編著
	出版社	保育出版社
	価格	本体2,270円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-905493-11-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	講義だけでなく、スライド、DVD視聴、さまざまの実習を取り入れます。	

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（環境）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT308
開講年度	2015年度
登録コード	A1046202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（環境）
科目責任者	岩館　正雄
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火4
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児と環境とのかかわり　自然，物，人との触れ合い　生活のひろがり
授業のねらい・概要	幼児のさまざまの環境とかかわる力を育てるための理論と方法について学ぶ。
学生の達成目標	1.幼児期における環境の役割を知る。 2.幼児が様々な環境にかかわり，それらを生活に取り入れていく方法や配慮について学ぶ。 3.幼児が身近な自然にかかわるための方法や配慮について知る。
授業内容	第1回　時間や季節にかかわる、法則性や因果関係を捉える（目標2） 第2回　情報に関わる、地域の文化にかかわる（目標2）

	第3回　環境構成とは、環境の再構成とは（目標1） 第4回　環境構成の実際、環境の再構成の実際（目標1） 第5回　安全能力の形成、安全能力を育てる保育（目標2） 第6回　安全教育の実際、防災教育の実際　環境の安全点検（目標2） 第7回　食と農の現状、食育とは、食農保育とは（目標2） 第8回　食と農と直接体験で育つ力、食育と食農保育の実際、幼稚園の食育についてスライド視聴（目標2） 第9回　自然の中の身近な植物、春植えの花の栽培活動（目標3） 第10回　秋植えの花の栽培活動、春植えの野菜の栽培活動（目標3） 第11回　秋植えの野菜の栽培活動（目標3） 第12回　子どもと虫、子どもと鳥、子どもと小動物（目標3） 第13回　飼育活動の現状と課題（目標3） 第14回　隠れたカリキュラム、子どもを見る、理解するということ（目標2） 第15回　領域「環境」の実践力を高めるために、まとめ（目標2）
予習・復習の内容	予習　テキストの次回の学習内容を熟読しておくこと。 復習　次回の小テストに備えて学習した内容を整理しておくこと。 展開　講義及び授業中に投影したスライド写真を見て、保育現場の様子を知り、保育について理解を深める。
成績評価	評価の基準　学習内容の理解度を試験，レポートで評価。 評価の方法　試験70%，小テスト10%，実習の取り組み20%
教科書	書籍名　保育実践に生かす保育内容「環境」 著者名　高内正子監修　上中修編著 出版社　保育出版社 価格　￥2.270 ISBN・ISSN　978-4-905493-11-2
推薦図書等	
参考URL	
備考	講義だけでなく，スライド，DVD視聴，さまざまの実習を取り入れます。

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT309
開講年度	2015年度
登録コード	A1047101 A1047102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1047101　前期　金1 A1047102　前期　金2
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助
授業のねらい・概要	言葉の獲得に関する領域「言葉」の意義とねらい及び内容を理解する。 子どもが言葉を獲得していく道筋と保育者の援助のあり方について考えていく。 また言葉の育ちを促す教材研究を実践的に行う。
学生の達成目標	１.言葉の発達を理解する。 ２.言葉から子どもの内面を理解する。 ３.保育現場における言葉の援助方法を学ぶ。

授業内容	第1回	オリエンテーション(目標1)
	第2回	非言語コミュニケーション(目標1)
	第3回	0歳児のことば(目標1,2,3)
	第4回	1歳児のことば(目標1,2,3)
	第5回	2歳児のことば(目標1,2,3)
	第6回	0・1・2歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
	第7回	3歳児のことば(目標1,2,3)
	第8回	3歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
	第9回	4歳児のことば(目標1,2,3)
	第10回	4歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
	第11回	5歳児のことば(目標1,2,3)
	第12回	5歳児のことばと自我の発達(目標1,2,3)
	第13回	絵本のビブリオバトルNo.1(目標3)
	第14回	絵本のビブリオバトルNo.2(目標3)
	第15回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	乳幼児のことばに関連する図書を読み，課題を英出してから授業に臨むこと。
	復習	授業内容に関して，記録をとり，理解を深めておく。
	展開	言葉の育つ道筋を発達段階ごとに理解し、こどもの内面に育つものへと援助できるようにする。学習した内容を指導計画案に記述できるようになる。
成績評価	評価の基準	乳幼児の言葉の発達を理解したか。 実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。
	評価の方法	毎時のミニテスト90%（グループワークの参加・受講態度・遅刻厳禁を含む） 課題の提出 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（言葉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT310
開講年度	2015年度
登録コード	A1047201 A1047202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（言葉）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1047201　後期　火1 A1047202　後期　火2
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの言葉，言葉の発達，保育現場の言葉，保育援助
授業のねらい・概要	保育内容演習Ⅰ（言葉）で学んだ学修内容から、更に言葉の育ちの援助方法を発展的に、多角的に深めた保育技術・知識を学修する。
学生の達成目標	１.言葉の発達を理解する。 ２.言葉から子どもの内面を理解する。 ３.保育現場における言葉の援助方法を学ぶ。

授業内容	第1回	言葉と保育(目標1,2)
	第2回	素話を習得する(目標1,3)
	第3回	素話を発表する（目標1,3）
	第4回	書きことばの習得の道筋(目標2)
	第5回	読みことばの習得の道筋(目標2)
	第6回	言葉の育ちを促す教材№1(目標2,3)
	第7回	言葉の育ちを促す教材№2(目標2,3)
	第8回	言葉の育ちを促す教材№3(目標2,3)
	第9回	言葉の育ちを促す教材№4(目標2,3)
	第10回	言葉の育ちを促す教材№5(目標2,3)
	第11回	言葉の育ちを促す教材№6(目標2,3)
	第12回	連絡帳の書き方№1(目標2,3)
	第13回	連絡帳の書き方№2(目標2,3)
	第14回	言葉の育ちと保護者支援(目標1,2,3)
	第15回	総括（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	授業内でのパフォーマンスについては事前学習が特に必要である。
	復習	授業内容に関して，理解を深めて実践への応用を考察する。
	展開	こどもの言葉からこどもを捉える感性を磨き、こども理解に発展的に取り組み、実習等で言葉の育ちを援助する指導計画が書け、実践できるようになる。
成績評価	評価の基準	乳幼児の言葉の発達を理解したか。 実践や体験学習が学習成果として体得できたか。 保育援助として子どもの言葉を育てていけるか。 言葉を育てる援助技法が体得できたか。 体得した技法を用いて実習生として保育が展開できるか。
	評価の方法	毎時のミニテスト90%（ディスカッションへの参加・貢献・授業態度・遅刻厳禁を含む） 課題の提出10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅰ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT311
開講年度	2015年度
登録コード	A1048101 A1048102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅰ（表現）
科目責任者	山本　ちよ
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1048101　前期　火2 A1048102　前期　火3
教室	被服工芸室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	色彩　工夫　感性
授業のねらい・概要	保育者としての自由な発想や豊かな表現力を色々な方法で子どもたちに援助していけるような学びの場を考える。
学生の達成目標	1.領域「表現」の考え方を踏まえたうえで,日常の保育や行事で展開する「表現」について理解する。 2.学生自身が表現方法を思考し制作活動体験をすることで自らの表現力を広げ

	る。 3.制作活動後の作品をどのように伝達表現したら良いか思考する。
授業内容	第1回　本授業の目標,概要などについてのガイダンス及び領域「表現」についての説明(目標1) 第2回　保育における素材と色彩の組み合わせ(目標1,2,3) 第3回　画材と素材の組み合わせと使い方(目標1,2,3) 第4回　素材の活かし方と活用方法(目標1,2,3) 第5回　画材と素材を組み合わせテーマにあった作品制作(目標1,2,3) 第6回　掲示素材を生かした創造作品制作(目標1,2,3) 第7回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第8回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第9回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第10回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第11回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第12回　伝達目標を定めた描画制作(目標1,2,3) 第13回　作品を他者に解りやすく伝達表現(目標1,2,3) 第14回　作品を他者に解りやすく伝達表現(目標1,2,3) 第15回　作品を他者に解りやすく伝達表現(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　領域「表現」について関心を持ち，関連情報や書籍，雑誌に目を通しておくこと。事前に指示される課題については図書館等で調べ自分なりに理解しておくこと。 復習　毎回の授業内容について記録。課題制作を進める。 展開　素材を生かした教材の作成と使途について考える。
成績評価	評価の基準　領域「表現」について基本的な考え方を理解していること。表現方法を思考し制作体験伝達方法を学び指導への足掛かりを掴むことができたか。 評価の方法　感想レポート（20%）　授業参加態度（50%）　作品＆発表態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	画材（絵具，のり，ボンド，クレヨン，クレパス，パステル等）使用します。汚れても良い服装で興味を持って参加取り組めるように願います。

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（表現）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT312
開講年度	2015年度
登録コード	A1048201 A1048202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（表現）
科目責任者	山本　ちよ
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1048201　後期　火2 A1048202　後期　火3
教室	被服工芸室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発想力　表現　伝達力
授業のねらい・概要	豊かな想像力を生かし絵本製作を行う。保育者として子どもたちが絵本の内容を理解し夢の世界に浸る事が出来るような創作力と感性を育てる。
学生の達成目標	1.領域「表現」の考え方を踏まえたうえで,日常の保育や行事で展開する「表現」について理解する。 2.学生自身が表現方法を思考し制作活動体験することで自らの表現力を広げる。 3.制作活動の作品を他者にどのように伝達表現したら良いか思考する。

授業内容	第1回	本授業の目標，概要などについてのガイダンス及び領域「表現」についての説明（目標1）
	第2回	作成目標（発達年齢）にあった作品内容を思考。（目標1，2）
	第3回	作成目標（発達年齢）にあった作品内容を思考。（目標1，2）
	第4回	作品制作内容を確認し発想に適した画材を選び制作（目標1，2，3）
	第5回	発想内容と伝達表現方法を思考し描画制作（目標1，2，3）
	第6回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第7回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第8回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第9回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第10回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第11回	発想内容と伝達表現方法を思考確認し描画制作（目標1，2，3）
	第12回	保育における「表現」の活動の実践紹介とその指導について（目標1，2，3）
	第13回	保育における「表現」活動を制作品を用いて実践発表とその指導（目標1，2，3）
	第14回	保育における「表現」活動を制作品を用いて実践発表とその指導（目標1，2，3）
	第15回	保育における「表現」活動を制作品を用いて実践発表とその指導（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	領域「表現」について関心を持ち事前に指示される課題を自分なりに消化し制作出来るように周りの環境に目を向けておく事。
	復習	毎回の授業内容について記録。課題制作発表ができるように努力すること。
	展開	作品のイメージを構成し制作する。制作作品の発表の方法を考える。
成績評価	評価の基準	領域「表現」について基本的な考え方を理解していること。発達年齢を考慮して豊かな発想を作品に表すこと。他者への伝達の方法。
	評価の方法	感想レポート（20%），授業参加態度（40%），作品＆発表態度（40%）の成績を統合する。但し，この比率は，最終的には若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	色々な画材を使用します。汚れても良い服装で参加し作品制作を楽しみに参加下さるようお願いします。	

2015年度シラバス

精神保健演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT401
開講年度	2015年度
登録コード	A1049001
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	精神保健演習
科目責任者	野々村　菜穂
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火1, 2
教室	講義室18
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	精神保健、精神疾患の診断と治療、精神療法
授業のねらい・概要	精神疾患は身近な病であり、誰もが罹患する可能性がある。精神保健、精神疾患の基本的な知識を身につけておくことは、対人支援の専門家に必須といえる。さらに、精神療法の基本を学ぶことにより、他者との円滑なコミュニケーションのスキルと、自身の精神的な健康を保つスキルを身につけることを目指す。前半は主に講義、後半は演習形式で進める。
学生の達成目標	1. 精神保健の歴史と現状について理解する。 2. 精神疾患の診断と治療についての初歩的な知識を身につける。 3. 精神療法の基本を学び、対人支援、セルフケアに生かす。

授業内容	第1回	精神保健①：歴史と現状（目標1）
	第2回	精神保健②：自殺対策（目標1）
	第3回	精神疾患①：精神疾患の原因・分類・症状（目標2）
	第4回	精神疾患②：統合失調症（目標2）
	第5回	精神疾患③：気分障害（目標2）
	第6回	精神疾患④：不安障害（目標2）
	第7回	精神疾患⑤：物質関連障害（目標2）
	第8回	精神疾患⑥：パーソナリティ障害（目標2）
	第9回	治療①：薬物療法（目標2）
	第10回	治療②：リハビリテーション（目標1，2）
	第11回	治療③：精神療法（目標2，3）
	第12回	演習①：認知行動療法（目標3）
	第13回	演習②：アサーション（目標3）
	第14回	演習③：マインドフルネス（目標3）
	第15回	まとめ（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	各テーマについて、書籍等を用いておおまかな内容をつかむ。
	復習	授業の中で十分に理解できなかったことを調べて、自分なりに理解を深める。
	展開	学んだことの中から、普段の生活や将来の仕事に生かせそうなことを実践する。
成績評価	評価の基準	達成目標に達し、学んだことをわかりやすく他者に伝えられるようになること。
	評価の方法	授業ごとの小レポート（50%）と最終レポート（50%）を総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	援助者必携　はじめての精神科　第2版
	著者名	春日武彦著
	出版社	医学書院
	価格	1,900円+税（税込2,052円）
	ISBN・ISSN	978-4-260-01490-8
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

乳児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT214
開講年度	2015年度
登録コード	A1050101 A1050102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	乳児保育
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	A1050101　通期　木4 A1050102　通期　木5
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	3歳未満児の発育・発達、3歳未満児の保育内容と方法、乳児保育における保護者との連携
授業のねらい・概要	乳児保育の歴史的変遷と役割を学ぶとともに、現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達について学び、保育の内容や方法について理解する。また保護者や関係機関との連携について学ぶ。
学生の達成目標	1.乳児保育の歴史的変遷と現状及び課題について理解する。 2.3歳未満児の心身の発達に関して基礎的知識を身につけ、保育の計画・内容及

び具体的な援助の方法について理解する。
3.保育士の専門性について理解するとともに、保護者や関係機関との連携について理解する。

授業内容	第1回	乳児保育の基本となる考え方（目標1）
	第2回	乳児保育の歴史（目標1）
	第3回	乳児の日課（目標2）
	第4回	乳児の遊び（目標2）
	第5回	乳児期の遊びと環境（絵本・パネルシアター等）（目標2）
	第6回	乳児の食事（目標2）
	第7回	乳児の睡眠（目標2）
	第8回	乳児の排泄（目標2）
	第9回	乳児の健康・安全（目標2）
	第10回	乳児の居る場所としての保育室（目標2）
	第11回	乳児期の遊びと環境（空間構成）（目標2）
	第12回	家庭とのつながり（目標3）
	第13回	保育所の保育環境（目標2）
	第14回	保育所での生活（目標2）
	第15回	保育記録（目標2）
	第16回	保育の計画と評価（目標2）
	第17回	園内研修（目標3）
	第18回	クラス担任間の連携（目標3）
	第19回	保育所内での連携（目標3）
	第20回	他機関との連携（目標3）
	第21回	出生時の状態（目標2）
	第22回	社会性の発達（目標2）
	第23回	乳児期の遊びと環境（手遊び・ふれあい遊び）（目標2）
	第24回	認知の発達（目標2）
	第25回	乳児期の遊びと環境（手作り玩具）（目標2）
	第26回	子どもの生活とおとなのかかわり（目標2）
	第27回	親になっていくこと（目標3）
	第28回	家庭での生活（目標3）
	第29回	保育の現状と課題（目標1）
	第30回	まとめ
予習・復習の内容	予習	乳児保育に関連する情報に常に関心を持っていること。教科書の下読みをし、わからない用語は調べておく。
	復習	授業内容に関連する事項を加え、ノートに整理しておく。
	展開	保育に関連する雑誌や保育図書を読み、保育士としての専門的知識を深める。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。授業内容をもとに乳児の生活全般に関して基礎的援助技術が身についていること。

	評価の方法	試験（50%）、提出物（30%）、授業への態度・発表状況（20%）
教科書	書籍名	演習 乳児保育の基本
	著者名	阿部和子/編　寺田清美/[著]　山王堂惠偉子/[著]　飯塚朝子/[著]
	出版社	萌文書林
	価格	2,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-125-3
	書籍名	最新保育資料集2015
	著者名	未定
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	未定
	ISBN・ISSN	未定
推薦図書等		
参考URL		
備考	指導内容は状況により順番が前後することもある。	

障害児保育

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT313
開講年度	2015年度
登録コード	A1051101 A1051102 A1051103
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	障害児保育
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	A1051101　通期　金1 A1051102　通期　金2 A1051103　通期　月1, 水1
教室	（前期）講義室15 （後期）講義室12，Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	インクルーシブ保育・教育，共生社会，個に応じたかかわり，関係機関との連携，保護者への支援
授業のねらい・概要	一般の保育と障害児保育との連続性に気付き，一人ひとりの発達上の課題に対して，特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害に対する理解を深める。 また，障害のある子どもを取り巻く理念や保育の現状、ならびに今後の課題につ

いて理解する。
また，障害の有無にかかわらず共に生活を送る上での，保育展開上の配慮点，環境設定上の工夫などについても，演習を通して体験的に理解する。

学生の達成目標	1.障害児保育を支える理念や取り巻く現状について理解する 2.障害のある子や保護者が「困っていること」について理解する 3.障害のある子を含めた遊びの展開について考えることができるようになる
授業内容	第1回　ガイダンス (目標1) 第2回　障害とは？（障害の捉え方・権利）（目標１） 第3回　インクルーシブ保育・教育システムについて（概要）（目標１） 第4回　インクルーシブ保育・教育システムについて（合理的配慮など）（目標１） 第5回　子どもの「困っていること」の理解とその支援１（視覚・聴覚の困難）（目標２） 第6回　子どもの「困っていること」の理解と支援２（ことばの困難） 第7回　子どもの「困っていること」への理解と支援３（身体と運動の困難）（目標２） 第8回　子どもの「困っていること」への理解と支援４（知的な発達での困難）（目標２） 第9回　子どもの「困っていること」への理解と支援５（自閉スペクトラム症）（目標２） 第10回　子どもの「困っていること」への理解と支援６（注意欠如・多動症）（目標２） 第11回　子どもの「困っていること」への理解と支援７（いわゆる「気になる子」）（目標２） 第12回　ユニバーサルデザインについて（目標２） 第13回　教材研究（ユニバーサルデザインの視点を入れて）（目標２） 第14回　教材研究（グループでの学びあい）（目標２） 第15回　前期まとめ 第16回　後期ガイダンス・グループ分け 第17回　障害のある子を含めた遊びの展開（ゲストスピーカーによる講話）（目標３） 第18回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）１（目標３） 第19回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）２（目標３） 第20回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）３（目標３） 第21回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）４（目標３） 第22回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）５（目標３） 第23回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）６（目標３） 第24回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）７（目標３） 第25回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）８（目標３） 第26回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）９（目標３） 第27回　障害のある子を含めた遊びの展開（グループ演習）１０（目標３） 第28回　保護者とともに子どもの育ちを考える（目標２） 第29回

		さまざまな応援団と一緒に子どもの育ちを考える（他機関との連携）（目標２）
	第30回	まとめ・総括
予習・復習の内容	予習	（通年）障害のある子に関連する本や新聞記事等に目を通し、障害のある子を取り巻く現状や抱える困難について、考えてくる。 （後期）グループ演習での発表にそなえ、活動を設定し、その準備を行い、指導案を作成する
	復習	（通年）配布資料、授業内容を整理し、重要な事項をまとめる。 （後期）グループ発表後、参加者からの意見をまとめ、修正指導案を書いて提出する
	展開	（通年）ボランティア等を通して、障害のある子や大人に接する機会を持ち、体験を通して学ぶ。
成績評価	評価の基準	上記「学籍の達成目標」に到達し，障害児保育に関する基本的な知識および考え方が各自に備わること
	評価の方法	平常点（期間中に簡単なレポートを課す） 30%，グループ演習でのレポート 20%，期末筆記試験 50%の成績を総合する。
教科書		
推薦図書等		
参考URL		
備考		本計画は，学生の理解状況・教育効果により，前後する可能性がある。 テキストは、年度途中で販売する予定です。

2015年度シラバス

社会的養護内容

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT314
開講年度	2015年度
登録コード	A1052101 A1052102
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	社会的養護内容
科目責任者	水鳥川　洋子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1052101　前期　火1 A1052102　前期　火2
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会的養護，児童虐待，心の発達課題，基本的信頼，コモンセンスペアレンティング
授業のねらい・概要	現代の子どもを巡る社会的養護の現状を理解し，児童福祉施設で暮らす子どもたちの養育について基本的な事柄を理解するとともに，広く現代の子どもたちの健全な発達を支援するための具体的な援助の方法を学ぶ。

学生の達成目標	1.子どもの社会的養護の実態（現代の社会状況・児童福祉施設入所児の暮らし）を知る。 2.事例検討や援助技術の実習等を通して，子ども理解の方法と現場で役に立つ具体的支援の方法を学ぶ。 3.これからのこどもの社会的養護のあり方と子どもを養育する上での大切なことを自ら考察し説明できる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 自分のストレングスを知る（目標2） 第2回　心の発達課題と現代の子どもたち（目標1,3） 第3回　虐待を受けた子どもたちの心の発達の危機（目標1,3） 第4回　コモンセンスペアレンティング（１）わかりやすいコミュニケーション（目標2） 第5回　コモンセンスペアレンティング（２）良い結果悪い結果（目標2） 第6回　コモンセンスペアレンティング（３）効果的なほめ方，怒りを爆発させない方法（目標2） 第7回　乳児院、．児童養護施設・母子生活支援施設の子どもたちの暮らしと支援　～問題行動の理解と対応～（目標1,3） 第8回　児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の子どもたちの暮らしと支援　～被虐待児への対応～（目標1,3） 第9回　障害児入所施設の子どもたちの暮らしと支援　～障害児への対応と療育手帳の理解～（目標1,3） 第10回　里親家庭の暮らしと里親支援　～里親家庭の抱える危機の理解～（目標1,3） 第11回　保育所・施設における家庭支援　～親の相談の受け方～（目標1,3） 第12回　施設入所児の支援の過程と自立支援計画（目標1,3） 第13回　実習で出会った気になる子どもたち１（自立支援計画の作成とグループ討議による事例検討）（目標2） 第14回　実習で出会った気になる子どもたち2 (グループ討議による事例検討と発表）（目標2） 第15回　これからの保育士に求められるもの　～被措置児等虐待の防止～（目標3）
予習・復習の内容	予習　社会的養護の問題に日常的に関心を持ち，関連する報道を理解しておくこと。 事前に指示されたテーマについて調べ，当日発表できるようにすること。 復習　毎回の授業のプリントを整理し，自分なりに説明できるようにすること。ロールプレイの課題について，すべて自分自身でやってみること。 展開　授業で学んだことを実習やアルバイト先での子どもとの関わりの中で実践してみる。

成績評価	評価の基準　社会的養護の現状と要保護児童の支援について理解し，自分の考えとともに説明できる。 評価の方法　期末試験70%，授業中のレポート30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する プリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/
備考	「推薦図書等」は授業中に紹介する。

2015年度シラバス

保育相談支援

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIT215
開講年度	2015年度
登録コード	A1010201 A1010202
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育相談支援
科目責任者	古川　繁子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1010201　後期　金2 A1010202　後期　金3
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの最善の利益，保護者の養育力，共感，倫理，コミュニケーション
授業のねらい・概要	保育士の「保護者に対する保育に関する指導」（児童福祉法第18条の４）について具体的に学ぶことを目的としている。
学生の達成目標	1.保育相談支援の理念と目的を知る。保育士として,保育に関する専門知識・技術を背景としながら保護者の相談援助を行うことを理解し、保育相談支援を行う際の基本的な態度事項を身につける。 2.保護者が支援を求めている子育ての問題や課題があることを理解し、保育相談

支援は保護者の気持ちを受けとめつつ,安定した親子関係や養育力の向上を目指して行うことを演習を通して理解する。
3.保育所が地域における保育の専門機関として,社会的責任を果たすための具体的な方法を知る。

授業内容	第1回	授業の進め方,評価方法 保育相談支援の理念と目的(目標1)
	第2回	保育相談支援の意義と原則(目標1)
	第3回	保育所における保育の機能と役割(目標2,3)
	第4回	地域の資源の活用と関係機関などとの連携(目標3)
	第5回	保育相談支援の方法と技術(目標1，2)
	第6回	保育相談支援の枠組み(目標1)
	第7回	信頼関係を基本としたかかわり(目標1，2)
	第8回	保育相談支援の実際1(目標1，2)
	第9回	保育相談支援の実際2(目標1，2)
	第10回	保育相談支援の実際3(目標1，2)
	第11回	児童福祉施設における保育相談支援1(目標1,2,3)
	第12回	児童福祉施設における保育相談支援2(目標1,2,3)
	第13回	児童福祉施設における保育相談支援3(目標1,2,3)
	第14回	児童福祉施設における保育相談支援4(目標1,2,3)
	第15回	児童福祉施設における保育相談支援5(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	①教科書の指定箇所を読み，ワークシートを仕上げる。 ②学内の子育て支援や地域の子育て支援等に参加し，参加している親子を知る。又，支援機関を知っておく。
	復習	①授業で学んだこと，調べる必要のあることを調べまとめておく。 ②保育現場の観察，参加等した時に，体験したことをレポートする。その際に，気付いたこと，疑問に感じたこと等を文献で調べる。
	展開	保育の実際の場面で、保育相談支援が展開できる。
成績評価	評価の基準	上記に掲げた達成目標について，基本的な知識を説明できること。また，基本的な相談支援計画を立て，基礎的技術を用いて支援できること。
	評価の方法	試験70%，レポート20%，授業へ取り組む意欲10%で評価する。
教科書	書籍名	「保育相談支援ワークブック」
	著者名	古川繁子、田村光子、根本曜子、井上深雪
	出版社	学文社
	価格	未定
	ISBN・ISSN	未定
推薦図書等		
参考URL		
備考		

演習には積極的に参加し，レポートを作成します。
授業参加意欲とレポートの提出期限厳守が必要です。

2015年度シラバス

保育施設参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP101
開講年度	2015年度
登録コード	A1053101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育施設参観実習
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 宮下　裕一 小川　晶 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	観察・参加実習，保育所，施設，幼稚園
授業のねらい・概要	幼児教育・児童福祉従事者に求められる豊かな人間性を身につける基盤として，保育施設（幼稚園，保育所，療育機関等）における保育の概要を把握する。

学生の達成目標	保育施設(幼稚園,保育所,療育機関等)の概要を理解する。 見学に対する自分なりの目的を立てることができる。 見学に際するマナー等の基礎的事項を理解する。 自分なりに立てた目的に基づき,視点を絞って見学することができる。 自分なりの気づきや課題を,言葉で表現できる。
授業内容	オリエンテーションを7月末ごろ、施設見学は8月中旬～9月に実施する。 実習は、幼稚園１日＋施設もしくは保育所１日とする。 実習方法 ①学内での事前オリエンテーションを受ける ②実習に対する自分なりの目的を明確に持つ ③実習施設ごとに指定された日時に集まり、見学・参加実習を行う ④子どもと積極的にコミュニケーションを取る ⑤職員の講話を聞き、メモに取る ⑥質問が許されれば積極的に行う ⑤参加記録を書き、期日までに必ず提出する
予習・復習の内容	予習　参観先の保育・療育機関について、インターネット等で情報を得ておく。 保育機関・療育機関についての法令等を確認しておく。 復習　参観結果を所定の書式によって記録し提出する。 展開　保育機関・療育機関の現状について調査する。
成績評価	評価の基準　自分なりに，参観に対する目標を意欲的に定め，それを遂行しようとする姿が見られること。 また，参観したことでの気づき等について，相手に伝わるように言葉で説明できること。 評価の方法　事前指導への参加態度（ 20%），参観先での態度（ 60%），まとめ（ 20%）の成績を総合する。 ただしこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特に指定しない。必要に応じて，プリントを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	学外施設への見学のため，原則として欠席は認めない（事前・事後も含めて）。 提出物については、指定された締め切りを厳守すること（提出が間に合わなかった場合は不可となります）

2015年度シラバス

保育実習Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP302
開講年度	2015年度
登録コード	A1055101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，観察実習，参加実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育・指導の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な人間性を養うと共に，専門的な知識や技能を身につける。 ・障害関係施設の生活へ参加し，その様子を体験的に理解できるようになる。

学生の達成目標	1.障害関係施設等の生活に参加する。 2.障害関係施設等での子どもたちや利用者の姿について観察し,発達等に関して理解できるようになる。 3.保育士の姿を観察し,子どもや利用者への働きかけや関わり方について理解を深め、気づきや課題を記録し、日々の省察を行うことができるようになる。
授業内容	７月６日～17日に実施。 1　実習施設内での事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容	予習　翌日の実習の目標を明確に持つ 翌日の実習クラス（場所）の取り組みについて、教科書等を用いて確認する 復習　その日の実習を振り返り、目標に沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録等、実習先から指導された事項について、赤字などで修正を行う。 展開　施設の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は、内容と基準を評価表に明示して評価を実習施設に委ねる。 学内担当教員の評価は、巡回時の状況、記録簿の内容、実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習施設による評価に、学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合は、学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育実習 Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP401
開講年度	2015年度
登録コード	A1056101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習 Ⅱ（保育所）
科目責任者	小川　晶
担当教員	宮下　裕一 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・保育所における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。 ・家庭と地域の生活実態にふれて，現代の子どもや家庭の抱えている二ーズや子

	育て支援を行う立場としての保育所や保育士の役割について，体験的に理解する。
学生の達成目標	1.観察や子どもとのかかわりの視点を明確にすることを通して、保育所の役割と機能、保育内容・保育環境、子どもへの理解を深める。 2.既習の教科の内容および保育実習Ｉでの経験を踏まえて実習に取り組み、子どもの保育を総合的に学ぶとともに今後の学習課題を明確にする。 3.保育の計画、実践等について実際に取り組み、理解を深める。 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解すると同時に、保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にする。
授業内容	原則５月～６月に実施。 １　実習施設内の事前指導 ２　実習（実習中の巡回指導を含む） ３　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容	予習　翌日の実習へのねらいを明確に持つ 翌日の実習クラスにいる子どもの発達過程について指針等で確認する 責任実習においては、当該クラスの様子をよく観察した上で、必要な準備を行い、実習担当者とよく相談する。 復習　その日の保育を振り返り、ねらいに沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録や指導案等、実習先から指導された事項について、赤字などで修正を行う。 展開　保育の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特になし
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育実習Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP402
開講年度	2015年度
登録コード	A1057101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害関係施設等における実習，参加実習，責任実習
授業のねらい・概要	・障害関係施設等における保育の実践的体験を通して，児童福祉従事者に必要な豊かな人間性を養うとともに，専門的な知識・技能を身につける。

	・障害関係施設等の生活へ参加し，子どもや利用者への理解を深めるとともに，障害関係施設等の機能とそこでの保育士の職務について理解する。
学生の達成目標	1.障害関係施設等における生活全般に参加し,子どもや利用者の個人差について理解し,対応方法を身につけることができる。 2.必要に応じて,指導計画を立案し,実際に実践し、気づきや課題を記録し,日々の省察を行うことができるようになる。 3.保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解すると同時に、保育士を目指す者としての自己の学習課題を明確にできるようになる。
授業内容	5月25日～6月5日に実施。 1　実習施設内での事前指導 2　実習（実習中の巡回指導を含む） 3　実習施設内での事後指導
予習・復習の内容	予習　翌日の実習の目標を明確に持つ 翌日の実習クラス（場所）の取り組み内容について、教科書等を用いて確認する。 復習　その日の実習を振り返り、目標に沿って省察し、実習記録へ記入する。 実習記録等、実習先から始動された事項について、赤字などで修正を行う。 展開　施設の現状と課題について、関心を持ち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　実習先の評価は，内容と基準を評価表に明示して,評価を実習施設に委ねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習施設による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育実習指導Ⅰ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP304
開講年度	2015年度
登録コード	A1058201
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火5
教室	保育技術演習室，講義室9
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童福祉施設、実習、保育士
授業のねらい・概要	施設実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。

	施設実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整えることができる。（目標1） 2.生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考えることができるようになる。（目標2） 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができるようになる。（目標3）
授業内容	第1回　ガイダンス 第2回　実習の意義と目的（目標1） 第3回　児童福祉施設の社会的役割と保育士の専門性について（目標1） 第4回　実習の内容と課題の明確化　（目標2） 第5回　施設実習の意義・目的、必要書類準備・確認事項　（目標2） 第6回　児童家庭福祉の現状と児童福祉施設の概要　（目標2） 第7回　施設と施設利用者（児）の理解①　（目標2） 第8回　施設と施設利用者（児）の理解②　（目標2） 第9回　児童福祉施設職員による講話　（目標2） 第10回　実習における計画・実践　（目標2） 第11回　実習における観察、記録、評価　（目標2） 第12回　実習に際しての留意事項　（目標2） 第13回　実習の振り返りと自己評価①　（目標3） 第14回　実習の振り返りと自己評価②　（目標3） 第15回　評価をもとにした自己理解と課題の明確化　（目標3）
予習・復習の内容	予習　保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 展開　保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 評価の方法　レポートの内容や課題への取り組み（70%）に、授業に取り組む意欲（30%）を加味して評価する。
教科書	書籍名　保育実習の手引き 著者名　本学実習委員会編 出版社　－ 価格　－ ISBN・ISSN　－

書籍名	施設実習パーフェクトガイド
著者名	守巧他著
出版社	わかば社
価格	1400円+税
ISBN・ISSN	978-4-907270-09-4

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

保育実習指導Ⅱ（保育所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP403
開講年度	2015年度
登録コード	A1058301
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）
科目責任者	小川　晶
担当教員	宮下　裕一 広瀬　由紀 鈴木　のり子 守屋　ふみ子 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火1
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育所、実習、子ども、保育士
授業のねらい・概要	保育実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。

	保育実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。
学生の達成目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整える。 2.保育の場に入るにあたって、責任のある立場で子どもと接する者としてのあり方を学び、考える。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	第1回　ガイダンス 実習の意義と目的（目標１） 第2回　保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察） 第3回　保育の具体的理解（実習の振り返りおよび省察） 第4回　保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：概説） 第5回　保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習） 第6回　保育の具体的な計画と実践（指導案の立案：演習） 第7回　記録の書き方（復習） 第8回　保育実践力の育成 第9回　実習における自己目標の明確化 第10回　実習にあたっての諸手続 第11回　実習にあたっての諸手続 第12回　実習にあたっての態度等（直前指導） 第13回　実習の総括（実習報告会） 第14回　実習の総括（実習報告会） 第15回　自己評価および課題の明確化
予習・復習の内容	予習　保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 課された課題を指定された期日までに確実に行う。 展開　保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 評価の方法　レポートの内容や課題への取り組み，授業への参加度を加味して評価する。 レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への参加内容（ 30%）
教科書	書籍名　保育実習の手引き 著者名　本学実習委員会編 出版社　－

価格	－
ISBN・ISSN	－

書籍名	保育実習
著者名	阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,200円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05466-4

書籍名	保育所保育指針
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社等
価格	120円
ISBN・ISSN	－

書籍名	保育所保育指針解説書
著者名	厚生労働省
出版社	フレーベル社
価格	190円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-577-81242-6

推薦図書等
参考URL
備考

2015年度シラバス

保育実習指導Ⅲ（施設）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIP404
開講年度	2015年度
登録コード	A1058401
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）
科目責任者	宮下　裕一
担当教員	小川　晶 広瀬　由紀 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	火1
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	施設、実習、保育士
授業のねらい・概要	施設実習の意義や内容、必要性について理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。 施設実習終了後に、実習で体験したことを整理して理解し、今後の課題や学習目標を明確にする。

学生の達成目標	1.実習での学習課題を明確にし、実習までに必要なさまざまな準備を整えることができる。 2.生活の場（施設）に入るにあたって、責任のある立場で利用者（児）と接する者としてのあり方を学び、考えることができるようになる。 3.実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高めることができるようになる。
授業内容	第1回　保育実習Ⅰ（施設）の振り返りと課題の明確化　（目標1） 第2回　保育実習Ⅲの意義と目的　（目標2） 第3回　実習記録及び指導計画案について（目標2） 第4回　実習施設についての理解　（目標2） 第5回　施設における支援の実際（目標2） 第6回　児童福祉施設職員による講話①　（目標2） 第7回　児童福祉施設職員による講話②　（目標2） 第8回　児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理　（目標2） 第9回　保育士とソーシャルワーク（目標2） 第10回　実習計画の必要性と作成（目標2） 第11回　実習にあたっての諸手続き（目標2） 第12回　実習にあたっての態度等（直前指導）　（目標2） 第13回　実習の総括（実習報告会）①　（目標3） 第14回　実習の総括（実習報告会）②　（目標3） 第15回　自己評価及び課題の明確化　（目標3）
予習・復習の内容	予習　保育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また、疑問点などをまとめておく。 実習先について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 課された課題を指定された期日までに確実に行う。 展開　保育士としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　保育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて保育実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 評価の方法　レポートの内容や課題への取り組み（70%）に，授業に取り組む意欲（30%）を加味して評価する。
教科書	書籍名　保育実習の手引き 著者名　本学実習委員会編 出版社　－ 価格　－ ISBN・ISSN　－

書籍名	施設実習パーフェクトガイド
著者名	守巧他著
出版社	わかば社
価格	1400円+税
ISBN・ISSN	978-4-907270-09-4

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

保育実践演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1059101
科目区分	保育・発達専門科目
授業科目名	保育実践演習
科目責任者	広瀬　由紀
担当教員	宮下　裕一 小川　晶 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	水1
教室	講義室12，講義室13
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	総合的な実践力，横断的な学び，保育に関する現代的課題
授業のねらい・概要	保育職の使命感や責任感を体験的に理解し、総合的な実践力を培い、学びの集大成となるよう学習する

学生の達成目標

	1．保育現場への理解を深め、実践力を養う 2．保育に関する現代的課題について理解を深めることができる 3．これまでの学びの中から、今日求められる保育の専門性と保育者の役割を再考察できるようになる
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　子どもの貧困問題について（目標２） 第3回　地域の子どもが育つ環境について（目標３） 第4回　保育現場におけるパフォーマンス１（企画・練習）（目標１） 第5回　保育現場におけるパフォーマンス２（実践）（目標１） 第6回　保育現場における子育て支援１（予防的な支援の実践方法）（目標１・２） 第7回　保育現場における子育て支援２（地域子育て支援ネットワークでのマネジメントスキル）（目標２・３） 第8回　共生社会に向けた保育実践１（活動展開と保育者の援助）（目標１・２） 第9回　共生社会に向けた保育実践２（事例検討）（目標１・３） 第10回　母親の子育てネットワークについて（目標２） 第11回　子育て支援の場における保育者の感情労働（その特徴など）（目標１・３） 第12回　グループ別学習１（事前準備）（目標１） 第13回　グループ別学習２（現場参観）（目標１・３） 第14回　グループ別学習３（現場参観）（目標１・３） 第15回　グループ別学習４（事後指導）（目標２・３）
予習・復習の内容	予習　今までの授業および実習での学びを振り返り、言語化できるようにしておくこと。 復習　授業内での検討事項や出てきた意見等について再考し、今後の課題を見つける。 展開　実践の場に自ら出向き、様々な保育があること、その中で自分がどのような保育を行いたいかを考える。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」に準じる 評価の方法　担当者ごとの課題（各10%×５）50%，グループ別学習40%，平常点10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	＊第2回から第11回については、２グループに分かれて各担当によって行うものとする。授業内容はシラバスのとおりだが、進行は状況により前後する場合がある。 ＊第12回から第15回については、オリエンテーション時に分かれたグループごとによる学習とする ＊第13・14回については、授業外（学外も含めて）で実施する

2015年度シラバス

初等国語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET102
開講年度	2015年度
登録コード	A1061001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等国語教育通論
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月2
教室	大講義室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	国語科教育，学習指導要領，教科書，授業法
授業のねらい・概要	初等国語科教育実践のための基礎的知識を理解する。
学生の達成目標	1．国語教育の歴史と変遷を知り,現在の国語教育の流れが理解できる。 2．小学校学習指導要領解説国語編と国語科教科書の概要について理解できる。 3．学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解できる。
授業内容	第1回

		受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価について（目標３）
	第2回	小学校国語科教育史概要（目標１）
	第3回	ＰＩＳＡ型読解力と全国学力学習状況調査の問題から，国語力について考えるⅠ（目標１）
	第4回	ＰＩＳＡ型読解力と全国学力学習状況調査の問題から，求められている国語力とは何かを考えるⅡ（目標１）
	第5回	「言語活動の充実」と実践事例について知る。（目標１）
	第6回	「言語活動の充実」と実践事例から，国語科の果たす役割について考える。（目標１）
	第7回	小学校学習指導要領解説国語編の概要をつかむ。（目標２）
	第8回	小学校学習指導要領解説国語編の意図を知る。（目標２）
	第9回	小学校国語科教科書を読み，単元構成を知る。（目標２）
	第10回	小学校国語科教科書を読み，単元構成を考える。（目標２）
	第11回	実践記録から，授業構成の概要を知る（物語文）Ⅰ（目標２）
	第12回	実践記録から，授業構成の概要を知る（説明的文章）Ⅱ（目標２）
	第13回	国語科における学習法について知る。（目標３）
	第14回	ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
	第15回	授業全体のリフレクション・相互評価（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説国語編をよく読み，項目別にインデックスを付け，必要に応じてラインを引いたり，コメントを書き足したりしておくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。 途中レポート提出あり。
	展開	現在現場で求められている国語についての基礎的知識を深めていく。
成績評価	評価の基準	初等国語教育に関して授業で扱った基礎的な内容が理解できていること。授業内容をもとに国語教育のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	グループ活動への参加態度２０％、レポート２０％，ポートフォリオ３０％，期末筆記試験３０％

教科書

書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社
価格	125円（本体価格116円）
ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7

書籍名	言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	680円（本体価格630円）

ISBN・ISSN　978-4-316-30029-0

推薦図書等	
参考URL	
備考	国語辞典（電子辞書可）を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。

2015年度シラバス

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET103
開講年度	2015年度
登録コード	A1062001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月4
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校国語，書写，指導
授業のねらい・概要	小学校国語科書写について，各学年における指導内容とその体系を把握し，書写指導に関して理解を深め，小学校における書写指導の能力を身につける。
学生の達成目標	１．小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 ２．小学校における書写の指導法及び評価法について理解し，小学校において指導できる能力を養う。
授業内容	第1回

		小学校で学習する文字と書写指導の内容(目標1) 書写の用具と用材及びその準備と扱い方(目標2)
	第2回	平仮名と片仮名の書き方－小学校第1学年－鉛筆による書き方　姿勢と筆記具の持ち方(目標2)
	第3回	第1学年配当漢字の書き方－点画の名前,始筆,送筆,終筆－鉛筆(目標2)
	第4回	第2学年配当漢字の書き方－鉛筆(目標2)
	第5回	点画の書き方－接し方,方向－(第3学年の教材)　毛筆の用具用材。 板書の書き方１(目標1・2)
	第6回	点画の書き方－左右の払い－毛筆。　板書の書き方２(目標2)
	第7回	点画の書き方－点,跳ね－毛筆。　板書の書き方３(目標2)
	第8回	点画の書き方－曲がり,そり－毛筆。　板書の書き方４(目標2)
	第9回	日常の書式と文字の配置－硬筆・毛筆。　板書の書き方５(目標2)
	第10回	字形の整え方－上下の組立、左右の組立－毛筆。　板書の書き方６(第4・5学年)(目標2)
	第11回	手書きの習慣を生かして書く－鉛筆。　板書の書き方７(第5・6学年)(目標2)
	第12回	文字の配列と文字の大きさと中心・外形－毛筆。　板書の書き方８(目標2)
	第13回	文字の配列と縦書きと横書き－鉛筆。　板書の書き方９(目標2)
	第14回	文字の配列と筆順－鉛筆。　板書の書き方１０(目標2)
	第15回	書写の指導計画と評価及び指導法の工夫と教材開発(目標1)
予習・復習の内容	予習	毎回の授業において，次回のテーマと主な内容について予告し、準備すべき内容を指示する。 小学生の書く文字について，関心を持つこと。
	復習	毎回の授業において，配付資料の内容を確認し，保管すること。また，個別に指摘された事項について，知識や技能を身につけるようにすること。
	展開	小学生の文字を書く能力とその発達について関心を持ち，実情を把握する機会を持つように努めること。
成績評価	評価の基準	(1)書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解と定着度 (2)基礎的な書写の指導ができる能力が養われていること。
	評価の方法	内容の理解と定着度（ 50%） 書写指導の能力（ 30%） 課題への取り組み意欲・態度（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 小学校学習指導要領の国語科書写関連部分及び毎回のテーマに関する教材・資料を配付する。	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説・国語編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社

価格	￥144.-
ISBN・ISSN	ISBN-9784491023717

参考URL	
備考	実技の際に使用する用具・用材（鉛筆２Ｂ、毛筆，液体墨，半紙）等は，授業時における指示に従って，各自で準備する。

2015年度シラバス

初等書写教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET103
開講年度	2015年度
登録コード	A1062002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等書写教育通論
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校国語，書写，指導
授業のねらい・概要	小学校国語科書写について，各学年における指導内容とその体系を把握し，書写指導に関して理解を深め，小学校における書写指導の能力を身につける。
学生の達成目標	１．小学校学習指導要領に示されている書写指導のねらい・内容及びその体系について理解する。 ２．小学校における書写の指導法及び評価法について理解し，小学校において指導できる能力を養う。
授業内容	第1回

		小学校で学習する文字と書写指導の内容(目標１) 書写の用具と用材及びその準備と扱い方(目標２)
	第2回	平仮名と片仮名の書き方―小学校第１学年―鉛筆による書き方。　姿勢と筆記具の持ち方(目標２)
	第3回	第１学年配当漢字の書き方―点画の名前、始筆、送筆、終筆-鉛筆(目標２)
	第4回	第２学年配当漢字の書き方－鉛筆(目標２)
	第5回	点画の書き方―接し方、方向－(第３学年の教材)　毛筆の用具・用材。　板書の書き方１(目標１・２)
	第6回	点画の書き方―左右の払い―毛筆。　板書の書き方２(目標２)
	第7回	点画の書き方―点、跳ね―毛筆。　板書の書き方３(目標２)
	第8回	点画の書き方―曲がり、そり―毛筆。　板書の書き方４(目標２)
	第9回	日常の書式と文字の配置―硬筆・毛筆。　板書の書き方５(目標２)
	第10回	字形の整え方―上下の組立、左右の組立―毛筆。　板書の書き方６(第４・５学年)(目標２)
	第11回	手書きの習慣を生かして書く―鉛筆。　板書の書き方７(第５・６学年)(目標２)
	第12回	文字の配列と文字の大きさ・中心・外形―毛筆。　板書の書き方８(目標２)
	第13回	文字の配列と縦書き・横書き―鉛筆。　板書の書き方９(目標２)
	第14回	文字の配列と筆順―鉛筆。　板書の書き方１０(目標２)
	第15回	書写の指導計画と評価及び指導法の工夫と教材研究(目標１)
予習・復習の内容	予習	毎回の授業において，次回のテーマと主な内容について予告し，準備すべき内容を指示する。 小学生の書く文字について関心を持つこと。
	復習	毎回の授業において，配付資料の内容を確認し，保管すること。また，個別に指摘された事項について,知識や技能を身につけるようにすること。
	展開	小学生の文字の書く能力とその発達について関心を持ち，実情を把握する機会を持つように努めること。
成績評価	評価の基準	１．書写指導のねらい・内容及びその体系並びに指導法についての理解と定着度。 ２．基礎的な書写の指導ができる能力が養われていること。
	評価の方法	内容の理解と定着度（ 50%） 書写指導の能力（ 30%） 課題への取り組み意欲・態度（ 20%）。 毎回，提出課題を課す。提出された課題によって評価する。定期試験は行わない。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 小学校学習指導要領の国語科書写関連部分及び毎回のテーマに関する教材・資料を配付する。	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説・国語編
	著者名	文部科学省

出版社	東洋館出版社
価格	￥144.-
ISBN・ISSN	ISBN-9784491023717

参考URL	
備考	実技の際に使用する用具・用材（鉛筆２Ｂ，毛筆，液体墨，紙）は，授業時における指示に従って，各自で準備する。

2015年度シラバス

初等社会科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET104
開講年度	2015年度
登録コード	A1063001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等社会科教育通論
科目責任者	斉藤　靖之
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木1
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会科誕生の背景，戦後の指導要領の改訂，今後の社会科教育
授業のねらい・概要	小学校社会科教育誕生の歴史とその背景を理解させると共に，社会科教育の本質を，戦後の指導要領改訂の主旨と改善点から分析し，これからの社会科教育の在り方について考えさせる。
学生の達成目標	1．戦前の修身・地歴・公民等と戦後社会科教育誕生の歴史等が分かる。 2．戦後の小学校社会科指導要領の改訂の主旨が理解できる。 3．社会科学習への関心と小学校社会科教育の在り方等について理解できる。
授業内容	第1回　　小学校教育課程における社会科教育の位置づけ(目標1)

	第2回	社会科の誕生の背景と内容について(修身・地理・歴史・公民)(目標1)
	第3回	社会科の誕生の背景と内容についてⅠ(昭和22年試案)(目標2,3)
	第4回	社会科の誕生の背景と内容についてⅡ(昭和26年試案)(目標2,3)
	第5回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅠ(昭和33年・43年)(目標2,3)
	第6回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅡ(昭和52年・平成元年)(目標2,3)
	第7回	指導要領の改訂とねらいと内容についてⅢ(平成10年・20年)(目標2,3)
	第8回	社会科学習と系統的学習の関連について(目標3)
	第9回	社会科学習と問題解決的学習の関連について(目標3)
	第10回	社会科教育における社会科用語について(目標3,4)
	第11回	社会科学習と生活科と総合的な学習の時間の関連について(目標3)
	第12回	「生きる力」と社会科学習について(目標3)
	第13回	指導要領の骨子と小学校社会科の関連について(目標3)
	第14回	社会科教育の課題とこれからの社会科学習の在り方について(目標3)
	第15回	小学校社会科教育のまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説社会編を，学年毎に何度も読んでおくこと。 社会科の教科書の内容に，関心をもつこと。（本校の図書室にある） 社会事象（テレビや新聞等）の出来事に関心をもち，社会科学習に必要なことは，スクラップやメモにして，保存しておくこと。（情報収集） シラバスをもとに，次回の講話について調べておくこと。
	復習	毎回の講話を要旨でまとめたり，感想文にしたりしてまとめておくこと。 講話中に指示された課題（レポート等）について，期限までに提出すること。
	展開	新聞やテレビのニュースを毎回発表させて，社会事象に関心をもたせる。
成績評価	評価の基準	戦前と戦後の教育の違いを認識すると共に，社会科教育誕生の背景と戦後の社会科学習内容の変遷について理解できていることを基準とする。
	評価の方法	レポート70%，課題提出20%，授業中の発表内容と態度10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 小学校学習指導要領解説社会編を各自用意。	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説社会編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	115円+税
	ISBN・ISSN	978-4-491-02372-4
	書籍名	戦後教育五十年（丸善ライブラリー）

著者名	野原明著
出版社	丸善ライブラリー
価格	641円+税
ISBN・ISSN	978-4-621-05175-7

書籍名	社会科教育事典
著者名	日本社会科教育学会／編
出版社	ぎょうせい
価格	4,762円+税
ISBN・ISSN	978-4-324-09483-9

参考URL	
備考	戦後の学習指導要領改訂の主旨について，関心・意欲を持って授業に望んでほしい。 【推薦DVD】※本学の図書館に所蔵 1.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　住みよいくらしをつくる」 制作：東京書籍制作著作　東京都水道局[ほか]制作協力 出版社：東京書籍 価格：31,500円+税 レーベル番号：4961355501580 2.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　わたしたちの生活と食料生産」 制作：東京書籍制作著作　五日町観光協会[ほか]制作協力 出版社：東京書籍 価格：31,500円+税 レーベル番号：4961355501627

2015年度シラバス

初等算数教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET105
開講年度	2015年度
登録コード	A1064001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等算数教育通論
科目責任者	京極　邦明
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金4
教室	さくらホール
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育の目標・内容，　数と計算・量と測定・図形・数量関係
授業のねらい・概要	算数教育の目標や数，量，図形等の教材内容の本質を捉えられるようにする。また，算数教育の史的変遷を踏まえ，系統立てられた算数の深さ，よさを知ることができるようにする。
学生の達成目標	1　算数教育の目的，目標がわかる。 2　数と計算，数量関係の内容の仕組みがわかる。 3　量と測定，図形の内容の仕組みがわかる。
授業内容	第1回　　講義のガイダンス　算数教育の動向　　（目標１）

	第2回	算数の教育的価値と算数科の目標	（目標１）
	第3回	整数の意味，表し方（概念と表記）	（目標２）
	第4回	整数の加法，減法の基本的な考え方	（目標２）
	第5回	整数の乗法，除法の基本的な考え方	（目標２）
	第6回	小数・分数の意味，表し方	（目標２）
	第7回	小数・分数の加法，減法	（目標２）
	第8回	小数・分数の乗法，除法	（目標２）
	第9回	量と測定の概念と測定の原理，長さ，重さ，時間	（目標３）
	第10回	量と測定の概念と測定の原理，面積，体積，速さ	（目標３）
	第11回	図形の概念と図形の構成　平面図形	（目標３）
	第12回	図形の概念と図形の構成　立体図形	（目標３）
	第13回	式の表現と読み	（目標２）
	第14回	関数の考え　比と比例・反比例	（目標２）
	第15回	表・グラフ・統計	（目標２）
予習・復習の内容	予習	基礎的な算数・数学の知識・技能を身に付けておく。授業の最後に次回の授業内容の予告をするので、キーワードにあたることについて、「指導要領解説算数編」を調べておくとよい。	
	復習	その授業で扱った内容や問題について復習し、習得できるようにしておく。特に、算数科教科書で関連する学年、単元の記述を分析しておくとよい。発展的な内容についても調べておきたい。	
	展開	算数・数学科で取り上げる教材の本質は何かということに問題意識をもち、一貫した流れの中で算数・数学の教材を捉えるように心がけ、広い視野から算数・数学教育を考えられるようにしていく。	
成績評価	評価の基準	算数の目標および史的変遷の要展について理解していること。数と計算，量，図形などについての基本的な原理について知り、これを適用できること。進んで問題に取り組み話し合いにも参加していること等を合格基準とする。	
	評価の方法	学習への取り組み方(２０%) レポート（２０%) 期末の筆記試験（６０%)	
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　算数編	
	著者名	文部科学省	
	出版社	東洋館出版社	
	価格	238円＋税	
	ISBN・ISSN	978-4-491-02373-1	
推薦図書等			
参考URL			
備考			

2015年度シラバス

初等理科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET106
開講年度	2015年度
登録コード	A1065001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等理科教育通論
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月1
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校理科, 身の回りの自然, 生活, 自然科学概念
授業のねらい・概要	学習指導要領により，小学校理科の指導に必要な知識・技能を確認し，科目横断的で科学的なものの見方や考え方の習得を目指す。その上で，人間の生活が理科や科学とどのように関わっているのかを学習する。
学生の達成目標	1.小学校理科で学習する事象についての基礎的な知識を習得する。 2.身の回りの事物・現象に対して,理科的・科学的に説明することができるようになる。 3.児童に自然の素晴らしさや巧妙さを気付かせることのできる幅広い知識を獲得する。

授業内容	第1回	理科教育の目的・理科とサイエンスの違い・小学校学習指導要領理科の解説（小学校理科が目指す学力・学習内容）・評価の分類・カリキュラム概念モデル目標（1,2,3)
	第2回	水の３態変化・動植物の季節変化＜４年の学習＞(目標1,2,3)
	第3回	骨と筋肉・関節の動き＜４年の学習＞（目標1,2,3)
	第4回	振り子＜５年の学習＞（目標1,2,3)
	第5回	電磁石＜５年の学習＞（目標1,2,3)
	第6回	物の溶け方＜５年の学習＞（目標1,2,3)
	第7回	植物の成長・動物の発生＜５年の学習＞（目標1,2,3)
	第8回	天気の変化＜５年の学習＞（目標1,2,3)
	第9回	昆虫・植物の成長と体のつくり＜３年の学習＞・確認テスト(目標1,2,3)
	第10回	てこ＜６年の学習＞(目標1,2,3)
	第11回	燃焼の仕組み＜６年の学習＞(目標1,2,3)
	第12回	水溶液の性質＜６年の学習＞(目標1,2,3)
	第13回	人の体のつくり＜６年の学習＞(目標1,2,3)
	第14回	月と太陽＜６年の学習＞(目標1,2,3)
	第15回	太陽と地面の様子＜３年の学習＞(目標1,2,3)・確認テスト
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説・理科編を予め読み，学習内容をを把握しておく。
	復習	授業のノートを見直して，学習内容の定着に努めること。
	展開	小学校課程で学習する理科の内容の概要について理解を深める。授業ではすべてを扱うことができないが，問題集を使って各学習内容について学修を進めておく。
成績評価	評価の基準	基本的な学習内容を理解しているか。また，理解しようと努めているか。この他，小学校理科教員におけるサイエンスリテラシーの１つとして，日常生活との関連において理解しているかを評価の観点に加える。
	評価の方法	試験90%（30%×３回、２回は問題集より、１回はプリントより出題），レポート等の授業への取り組む姿勢10%を総合的に判断する。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
著者名	文部科学省
出版社	大日本図書
価格	65
ISBN・ISSN	ISBN 978-4-477-01949-9

書籍名	理科のまちがえるところがすっきりわかる
著者名	赤尾文夫
出版社	旺文社
価格	880＋税

ISBN・ISSN　ISBN978-4-01-010953-3

推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校理科の学習内容の定着のため、授業時間以外に各自で問題集の問題を解いてもらいます。 授業は基本的に講義が中心ですが、履修人数が少なければ実習なども行います。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

初等生活科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET107
開講年度	2015年度
登録コード	A1066001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等生活科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活科の教科論，生活科の内容論，生活科の基礎的・基本的な知識・技術，生活科の課題研究
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な生活科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの生活科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。 すなわち，生活科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。

学生の達成目標

1.生活科の本質論、内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。
2.生活科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。
3.生活科に関わる課題を追究し,成果を的確に説明・表現できる。

授業内容

第1回　講義内容のガイダンス
第2回　生活科の教科論-生活科という教科はなぜ必要か(目標1)
第3回　現代の社会の生活課題と生活科の役割(目標1,2)
第4回　諸外国における生活科に関する授業(目標1,2)
第5回　生活科の目標及び内容構成(目標2)
第6回　子どもと人とのかかわり(目標2)
第7回　子どもと自然とのかかわり(目標2)
第8回　子どもと家庭・地域・社会生活とのかかわり(目標2)
第9回　郷土の食文化に触れてみよう(実習)(目標2)
第10回　子どもの遊びと学びについて(目標2)
第11回　子ども自身について(目標2)
第12回　生活科の教材開発(目標2,3)
第13回　課題研究の成果発表 ①(目標3)
第14回　課題研究の成果発表 ②(目標3)
第15回　生活科総論(目標1～3)

予習・復習の内容

予習
・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。
・授業の内容に示しているキーワードについて、事前に調べておくこと。
・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。

復習
・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。
・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。
・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開
・授業内容に関連する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準　生活科教育に関する基本的・基礎的な内容が理解でき，必要な知識・技術を習得すること。
また，生活課題を追究し，成果を的確に説明・表現できることを合格基準とする。

評価の方法　毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 20%），試験（ 35%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。
但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領　生活編
著者名	文部科学省
出版社	日本文教出版
価格	101円
ISBN・ISSN	978-4-536-59002-0

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2015年度
登録コード	A1067001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木3
教室	Mスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，和声
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	1.音楽の基礎知識が身につく(楽典) 2.聴く力(聴音)がつく 3.正しい音程で歌えるようになる
授業内容	第1回

		教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(1)(目標1)
	第2回	教科書『おとなのためのバイエル教本』を用いて楽譜の読み方を学ぶ(2)(目標1)
	第3回	音部記号,拍子記号,音符,休符等を学ぶ(目標1)
	第4回	発想記号,調性について(目標1)
	第5回	和声について(1)(目標1)
	第6回	和声について(2)(目標1)
	第7回	楽典の復習(目標1)
	第8回	教科書『小学校の音楽』を用いて歌い方を学ぶ (目標3)
	第9回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(1)(目標1,3)
	第10回	楽譜を正しく歌えるように(リズム,音程,ブレス等)(2)(目標1,3)
	第11回	ソルフェージュ(1)(目標2,3)
	第12回	ソルフェージュ(2)(目標2,3)
	第13回	聴音(1)(目標2)
	第14回	聴音(2)(目標2)
	第15回	授業の総括
予習・復習の内容	予習	シラバスを常にチェックして、事前に授業で行う部分の読譜をして演奏できるように準備をしておく。その際、楽譜に記載されている様々の記号についても調べるように心掛ける事。
	復習	楽譜を正しく演奏するためには、リズムや音程だけではなく発想記号等に関する注意も必要となる。従って学んだ記号をその都度自らのものとして蓄積していく事が大切である。
	展開	小学校の音楽科を指導するためには、たとえ低学年であろうとも、小学校の音楽の授業で使用する程度の読譜力では足りない。従って子供が楽しんで歌えるような曲を探して、自力で演奏できるように挑戦して欲しい。
成績評価	評価の基準	基本的な音楽用語を理解できたか。 易しい旋律をリズム・音程正しく歌う事ができたか。 リズム・音程を正しく楽譜に聴き取る事ができたか。
	評価の方法	楽典 30%，ソルフェージュ 30%，聴音 30%，勉学意欲 10%
教科書	書籍名	「おとなのためのバイエル教本」
	著者名	坂東貴余子・本間正治共著
	出版社	ドレミ楽譜出版社
	価格	1、200円
	ISBN・ISSN	4-8108-0161-6
推薦図書等	書籍名	小学生の音楽　1，2，3，4，5，6
	著者名	小原光一　ほか12名
	出版社	教育芸術社
	価格	官報による

ISBN・ISSN　978-4-87788-411-6

参考URL

備考

2015年度シラバス

初等音楽教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET108
開講年度	2015年度
登録コード	A1067002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等音楽教育通論
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木5
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽典，ソルフェージュ，聴音，易しいコード伴奏
授業のねらい・概要	初等教育における音楽の意義を理解し，音楽に関する基本的な知識の充実を図る。 また児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるように援助する力を育てる。
学生の達成目標	１．小学校の音楽の授業で使用する程度の楽譜が読め、音程に気をつけて歌うことができる。 ２．易しい旋律を聴き取り,楽譜で表すことができる。 ３．音楽の基礎的な用語を理解し,適切に使用することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	音部記号,拍子記号,音符,休符を学ぶ(目標1)
	第3回	発想記号,固定ド唱法と移動ド唱法について(目標1)
	第4回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ① 連続した音程・4分音符等(目標1,2)
	第5回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ② 連続した音程・付点音符等(目標1,2)
	第6回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ③ 跳躍した音程・シンコペーション等(目標1,2)
	第7回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ④ 跳躍した音程・3連符等(目標1,2)
	第8回	リズム・音程を正しく歌う練習と聴音 ⑤ ソルフェージュの小テスト(目標1,2)
	第9回	音程と音階について ① 長音階(目標3)
	第10回	音程と音階について ② 短音階(目標3)
	第11回	調性と移調について(目標3)
	第12回	コードネームについて ①3和音(目標3)
	第13回	コードネームについて ②7の和音(目標3)
	第14回	コード進行に留意した易しいコード伴奏(目標3)
	第15回	まとめ・例題の演習と解説(目標3)
予習・復習の内容	予習	・小学校で学習した楽譜の読み方を復習しておく。
	復習	・毎時間の学習内容を確実に身につける。
	展開	・楽譜に親しみ、様々な曲を自力で読譜し演奏する経験を積む。
成績評価	評価の基準	易しい旋律をリズム・音程を正しく歌うことができたか。 リズム・音程を正しく聴き取り楽譜に表すことができたか。 音楽の基礎的な用語を理解し適切に使用できたか。
	評価の方法	ソルフェージュ（ 25%）聴音（ 25%）楽典（ 40%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６
	著者名	小原光一　他
	出版社	教育芸術社
	価格	官報による
	ISBN・ISSN	ISBN 978-4-87788-409-3 他
推薦図書等		
参考URL		
備考	音楽学習の基礎となる楽譜の勉強をし直します。 なるべく１年次での履修を希望します。 音楽に限らず，知識・技能を身につけるためには反復練習が必須です。	

繰り返し練習すれば誰でも必ず楽譜は読めます。
授業の復習を必ず行って下さい。
遅刻・欠席のないよう留意して下さい。
メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

初等図画工作教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET109
開講年度	2015年度
登録コード	A1068001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等図画工作教育通論
科目責任者	森高　光広
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木2
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形・図画工作科教育の変遷，発達の段階と表現，小学校における図画工作科の授業，子どもの表現の実際
授業のねらい・概要	発達の段階による表現の違いや造形・図画工作科教育の変遷を学び，小学校の図画工作科に関する基礎理解を深め，子どもの造形表現活動が支えられるように，題材や作品を通して，授業実践のために必要とされる理論的な知識の獲得を目指す。
学生の達成目標	1.小学校における図画工作科の教育について,全般にわたり理解する。 2.図画工作科の成立過程,目標と構造,内容構成,学習形態などを学び,図画工作科の特質を把握する。

3.図画工作の教育課程・教材・授業分析・授業構想に関する確かな視点の獲得を目指す。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点等)・図画工作科の目指すもの・学校教育以前の造形(目標1)
	第2回	「図画工作」の変遷①・5人の先生の教育観の違い・リードの考え方・全員発表「図工の授業で得たこと」(目標3)
	第3回	「図画工作」の変遷②・アイスナー・寺子屋から学校へ・明治の造形教育①(目標1,2)
	第4回	「図画工作」の変遷③・明治の造形教育②・保育園や幼稚園現場では・自由画運動(目標1,2)
	第5回	「図画工作」の変遷④・戦時の造形教育・発達の段階による造形表現の違い①(目標1,2)
	第6回	「図画工作」の変遷⑤・戦後の教育①チゼック・発達の段階による造形表現の違い②(目標1,2)
	第7回	「図画工作」の変遷⑥・戦後の教育②発達の段階による造形表現の違い③(目標1,2)
	第8回	発達段階による造形表現の違い④・「図画工作」の授業①小学校1年～3年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第9回	「図画工作」の授業②小学校3年～6年;絵画・デザイン・工作(目標2,3)
	第10回	造形遊びについて(目標1,3)
	第11回	鑑賞について・評価のとらえ方・授業の実際;DVD視聴①(目標1,3)
	第12回	教材について・授業の実際;DVD視聴②・レポート提出①(目標3)
	第13回	題材観について・授業の実際;DVD視聴③・レポート提出②(目標3)
	第14回	指導案の基本について・授業の実際;DVD視聴④・レポート提出③(目標3)
	第15回	まとめ・指導案の書き方について・図画工作の今後の課題と展望・レポート提出④(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める。 発表の準備をする。
	復習	配付資料を読み直す。 発表のまとめをする。 テキストを読み直す。
	展開	テキストをもとに図画工作科の授業を調べる。 具体的に指導案を作成する。
成績評価	評価の基準	小学校の図画工作科の知識に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに学校現場における図画工作科授業のあり方について自らの考えを持ち，それを的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回のふりかえりを含めた小レポート20%，課題レポート50%）70%，発表，授業の取り組み等の平常得点30%の成

		績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	小学校図画工作科の指導
	著者名	新井哲夫・天形健・山口喜雄 編著
	出版社	健帛社
	価格	2415円
	ISBN・ISSN	ISBN : 978-4-7679-2096-2
	書籍名	小学校学習指導要領解説 図画工作編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	８５円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4536590013
推薦図書等	書籍名	子どもの心に語りかける表現教育
	著者名	鈴木幹雄・長谷川哲哉編，森高光広・他著
	出版社	あいり出版
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4901903586
参考URL		
備考		自身の小学校時代の図画工作の経験を全員の前で発表する課題がある。 課題レポートの提出が複数回ある。 テキストを自主的に読み進めていくことが求められる。 DVD視聴により子どもの具体的な表現や指導の手立てが確認出来る。 幼・保や特別支援の教育現場にも関連する内容も含めている

2015年度シラバス

初等家庭科教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET110
開講年度	2015年度
登録コード	A1069001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等家庭科教育通論
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木2
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	家庭科の教科論，家庭科の内容論，家庭科の基礎的・基本的な知識・技術
授業のねらい・概要	小学校教員として必要な家庭科教育及び小学校家庭科の全般について，その基本的な事項について理解する。 また，これからの家庭科教育について新しい教育課程をふまえて論及する。すなわち，家庭科の本質論，性格論，内容論について実習を導入して具体的にわかりやすく講義する。
学生の達成目標	1.家庭科の教科論、小学校家庭科の内容構造,具体的な内容,留意点を理解する。 2.小学校家庭科で必要な基礎的・基本的な知識・技術を習得する。 3.小学校家庭科の評価法を理解する。

授業内容	第1回	講義内容のガイダンス
	第2回	家庭科の教科論-家庭科という教科はなぜ必要か(目標1)
	第3回	家庭科の性格論-家庭科は他の教科とどのようなことがちがうのか(目標1)
	第4回	家庭科教育の歴史(目標1)
	第5回	社会の変化と家庭科の役割(目標1,2)
	第6回	諸外国における家庭科教育-欧米諸国(目標1,2)
	第7回	諸外国における家庭科教育-アジア諸国(目標1,2)
	第8回	小学校家庭科の目標及び内容構成(目標2)
	第9回	小学校家庭科の食生活分野について ①調理実習(目標2)
	第10回	小学校家庭科の食生活分野について ②調理実習(目標2,3)
	第11回	小学校家庭科の衣生活分野について ①被服実習(目標2)
	第12回	小学校家庭科の衣生活分野について ②被服実習(目標2,3)
	第13回	小学校家庭科の住生活・消費者教育分野について(目標2)
	第14回	小学校家庭科の評価法(目標2,3)
	第15回	小学校家庭科総論(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	・講義内容に関連する書物や資料を読み、理解しておくこと。 ・授業の内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 ・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。
	復習	・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。 ・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。 ・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	・授業内容に関連する先端的研究や発展的な資料を読　み、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	家庭科教育に関する基本的な内容が理解できること。 また，小学校家庭科を指導する上で必要な知識・技術が習得されることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の小レポート，研究成果発表，提出物，平常点及び期末の筆記試験で評価する。提出レポート（ 15%），試験（ 40%），研究成果発表（ 20%），提出物（ 15%），平常点（ 10%）。 但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名	家庭科教育法
	著者名	佐藤文子・川上雅子
	出版社	高陵社書店
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	978-4-7711-0982-7
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説　家庭編
	著者名	文部科学省

出版社	東洋館出版社
価格	95円（本体90円）
ISBN・ISSN	978-4-491-02374-8

参考URL

備考

2015年度シラバス

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET111
開講年度	2015年度
登録コード	A1070001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火5
教室	講義室15，Ｅスタジオ
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体育科教育，学習指導要領，授業，指導案
授業のねらい・概要	小学校体育の原理および指導方法論を概説し，体育科教育に関する基礎・基本を理解・習得することを目的とする。小学校における体育の目的，学習環境，学習過程の考え方や学習計画，学習評価の方法についても解説する。
学生の達成目標	1.小学校における体育の位置づけ,目的,在り方を理解すること。 2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解すること。 3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解すること。
授業内容	第1回　　オリエンテーション(目標1,2,3)

	第2回	体育科の教科論・目標論(目標1,2,3)
	第3回	体育科の授業方法論/体つくり運動(目標1,2,3)
	第4回	体育科の領域構成と6年間の流れ/器械運動１(目標1,2,3)
	第5回	体育科の学習内容論/器械運動２（目標1,2,3)
	第6回	体育科の指導計画/陸上運動(目標2,3)
	第7回	体育科の学習方法・学習形態論/水泳(目標2,3)
	第8回	体育科の教材論/ゲーム(目標2,3)
	第9回	体育科の教具論/ボール運動１(目標2,3)
	第10回	体育科の授業評価/ボール運動２表現運動(目標2,3)
	第11回	学習指導案作り(模擬授業準備)(目標2,3)
	第12回	模擬授業①(目標2,3)
	第13回	模擬授業②(目標2,3)
	第14回	模擬授業①②の振り返り(目標2,3)
	第15回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	予め学習指導要領や学習内容に関する図書を読むことによって，毎時間予告される次週の授業で取り上げる内容についての思考をまとめておく。
	復習	ノートや学習指導要領などの資料を見直し，授業で取り上げた内容についての理解を深め，知識の定着を図る。
	展開	体育科の目標や内容について、理論やビデオ視聴を基に、ディスカッションなどを取り入れて授業を進める。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験・模擬授業およびレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験20%，模擬授業30%,レポート課題30%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%
教科書	書籍名	文部科学省「小学校学習指導要領解説　体育編」
	著者名	文部科学省編
	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	4491023751
推薦図書等	書籍名	小学校体育まるわかりハンドブック　低学年，中学年，高学年
	著者名	文部科学省
	出版社	株式会社アイフィス
	価格	各700円
	ISBN・ISSN	－
参考URL		
備考		

※推薦図書の「小学校体育まるわかりハンドブック」は文部科学省ホームページでも見られます。

・模擬授業を行う際は，体育実技のできる用意をしてください。
その際，ピアスやイヤリング等は外す等，小学校の体育教師として，ふさわしい服装で臨んでください。
・講義だけでなく授業の実践能力の向上を目指しているため，模擬授業等の演習も含まれています。

2015年度シラバス

初等体育教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET111
開講年度	2015年度
登録コード	A1070002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等体育教育通論
科目責任者	上條　眞紀夫
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火5
教室	講義室14，体育館
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	体育科教育，学習指導要領，授業，指導案
授業のねらい・概要	小学校体育の原理および指導方法論を概説し，体育科教育に関する基礎・基本を理解・習得することを目的とする。小学校における体育の目的，学習環境，学習過程の考え方や学習計画，学習評価の方法についても解説する。
学生の達成目標	1.小学校における体育の位置づけ,目的,在り方を理解すること。 2.小学校体育の授業内容,授業・指導方法を理解すること。 3.小学校学習指導要領「体育科」領域の内容を理解すること。
授業内容	第1回　　オリエンテーション(目標1,2,3)

	第2回	体育科の教科論・目標論(目標1,2,3)
	第3回	体育科の授業方法論/体つくり運動(目標1,2,3)
	第4回	体育科の領域構成と6年間の流れ/器械運動１(目標1,2,3)
	第5回	体育科の学習内容論/器械運動２（目標1,2,3)
	第6回	体育科の指導計画/陸上運動(目標2,3)
	第7回	体育科の学習方法・学習形態論/水泳(目標2,3)
	第8回	体育科の教材論/ゲーム(目標2,3)
	第9回	体育科の教具論/ボール運動１(目標2,3)
	第10回	体育科の授業評価/ボール運動２表現運動(目標2,3)
	第11回	学習指導案作り(模擬授業準備)(目標2,3)
	第12回	模擬授業①(目標2,3)
	第13回	模擬授業②(目標2,3)
	第14回	模擬授業①②の振り返り(目標2,3)
	第15回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	予め学習指導要領や学習内容に関する図書を読むことによって，毎時間予告される次週の授業で取り上げる内容についての思考をまとめておく。
	復習	ノートや学習指導要領などの資料を見直し，授業で取り上げた内容についての理解を深め，知識の定着を図る。
	展開	体育科の目標や内容について、理論やビデオ視聴を基に、ディスカッションなどを取り入れて授業を進める。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を試験・模擬授業およびレポート課題にて評価する。また，授業に対する取り組み方も評価に含め，総合的に判断する。
	評価の方法	試験20%，模擬授業30%,レポート課題30%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%
教科書	書籍名	文部科学省「小学校学習指導要領解説　体育編」
	著者名	文部科学省編
	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	4491023751
推薦図書等	書籍名	小学校体育まるわかりハンドブック　低学年，中学年，高学年
	著者名	文部科学省
	出版社	株式会社アイフィス
	価格	各700円
	ISBN・ISSN	－
参考URL		
備考		

※推薦図書の「小学校体育まるわかりハンドブック」は文部科学省ホームページでも見られます。

・模擬授業を行う際は，体育実技のできる用意をしてください。
その際，ピアスやイヤリング等は外す等，小学校の体育教師として，ふさわしい服装で臨んでください。
・講義だけでなく授業の実践能力の向上を目指しているため，模擬授業等の演習も含まれています。

2015年度シラバス

初等英語教育通論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET112
開講年度	2015年度
登録コード	A1071001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	初等英語教育通論
科目責任者	勝山　ひとみ
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木1
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	児童英語，英語教育，子供英語指導法，英語活動，小学校英語
授業のねらい・概要	小学校における英語教育の在り方を考察し，児童に対する英語の指導法を習得する。カリキュラム，レッスンプランの作成の仕方を学び，教材研究を行い，実際に模擬授業を行う。初等英語教育の理論と実践の両面を学ぶ。同時に指導に必要な英語力を高める。
学生の達成目標	1.児童英語の基本的指導力の習得 2.児童英語のためのレッスンプランの作成の基礎習得 3.児童英語指導に必要な基本英語表現の習得

授業内容	第1回	外国語活動の目標と内容,英語活動の例(自己紹介等)(目標3)
	第2回	児童英語教育の現状とこれから,言語習得時の脳の働き,Classroom English 1(目標1,3)
	第3回	児童の語学習得能力,聞く力とコミュニケーション能力,Classroom management (目標1,3)
	第4回	世界の英語教育(マレーシア・中国・韓国・台湾・シンガポール),Classroom English 2 (目標2)
	第5回	世界の英語教育(アメリカ・フィリピン・インドネシア・タイ・インド・チェコ),Classroom management 2,課題1提出(目標1,3)
	第6回	モデル授業考察,Classroom English 3(目標1,3)
	第7回	カリキュラム研究,Classroom Management3,Hi, friends 1(目標1,2,3)
	第8回	実践学習計画、Classroom English 4、Hi, friends 1 (目標1,3)
	第9回	教材研究1(本,ワークブック等),Classroom management 4,Hi,Friends!,課題2提出(目標1,3)
	第10回	教材研究2(カード,音声教材等),Classroom management 5,Hi,Friends!(目標1,3)
	第11回	Classroom English 5、Hi, friends! 1
	第12回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第13回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第14回	実践学習(英語のみでの模擬指導)(目標1,2)
	第15回	Classroom management 6, レッスンプラン提出, 課題3提出(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	Classroom Management How toのP.26まで意味が理解できるように予習をしてくる。Classroom English Expressionを読んでくる。模擬指導のレッスンプランを考える。
	復習	Classroom Management How toの音読をし，理解を深める。Classroom English Expressionの練習をし,自分で使用できるようにする。模擬指導のレッスンプラン内容を再考し，レッスンプランを改善する。
	展開	実践したレッスンプランに続く、レッスンプランを作成し、実施する。
成績評価	評価の基準	児童英語指導の基礎的な内容が理解できていること。英語を指導する上で必要なカリキュラム開発，レッスンプラン作成，教材選択及び作成の基礎知識を習得していること。指導に必要な英語力の向上に努めていること。基本的なレッスンを行えること。
	評価の方法	授業への態度20%，課題とレッスンプラン40%，レッスンプレゼンテーション20%，テスト20%
教科書	書籍名	Classroom Management How to:・ Establish Positive Discripline・Organize Your Classroom ・Manage Your Te
	著者名	Jim Burke
	出版社	Scholastic
	価格	$12.99

	ISBN・ISSN	978-0-439-93446-6
	書籍名	Hi, Friends! 1
	著者名	文部科学省
	出版社	東京書籍株式会社
	価格	95円
	ISBN・ISSN	978-4-487-25883-3 C3037
推薦図書等	書籍名	英語で遊ぶ25のゲームと15のダイアローグ集
	著者名	太田雅一・クロディア O ペレティ
	出版社	ピアソン・エデュケーション
	価格	2,000円
	ISBN・ISSN	ISBN4-89471-837-5
参考URL	http://azaleaenglish.com/ http://newseigo.com/	
備考	連絡先　sakura(@)azaleaenglish.com, (@) は@の置き換えて送信。英語力を高める努力を日頃から実践していることが望ましい。	

2015年度シラバス

教育課程論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET205
開講年度	2015年度
登録コード	A1072001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育課程論
科目責任者	小林　敢治郎
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木1
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学習指導要領，教育課程の歩み，教育課程の編成
授業のねらい・概要	教育課程の意味，果たす役割をとらえ，学校における教育課程の編成の重要性をとらえるとともに，新しい教育課程の方向に関心を持って対処できるようにする。 また，教育課程の史的変遷を概括し今日教育現場の実情を捉えることができるようにする。
学生の達成目標	1．教育課程の意味や史的変遷が分かる。 2．学習指導要領の目的,内容が分かる。

	３．教育課程の編成の手続きを調べ,教育課程の果たす役割を知ることができる。
授業内容	第1回　教育課程の意味と学習指導要領の果たす役割。講義のガイダンス(目標１目標2) 第2回　今日的学力問題と教育課程の課題(目標1) 第3回　近代日本の教育課程の歩み(戦前)(目標1) 第4回　戦後の教育課程の歩み(経験主義から系統主義へ)(目標1) 第5回　教育の現代化と人間性重視への転換(目標1) 第6回　新学力観と生きる力(目標1) 第7回　教育課程の根底にある二つの思想(目標1) 第8回　学習指導要領について(目標2) 第9回　教科学習と総合的学習について(目標2) 第10回　新学習指導要領の重点項目と配慮事項(目標2) 第11回　学校における教育課程編成の手続きと内容(目標３) 第12回　特色ある学校の教育課程の編成(目標3) 第13回　諸外国の教育課程の様子(目標3) 第14回　教育課程の評価と改善(目標３) 第15回　教育課程のまとめと今後の課題(目標３)
予習・復習の内容	予習　教育に関する諸問題について、とりわけ教育課程に関する事柄に日常から関心を持ち、情報を入手し、整理しておく。 次回のテーマのキイワードについて、教科書をもとに下調べをしておく。 母校の教育課程調べ等の課題はは予め調べておく 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと 歴史上の人物等採用試験に出る事柄について整理しておく 展開　教育課程の変遷を踏まえて、教育課程の今日的課題について理解を深める
成績評価	評価の基準　教育課程の意味と果たす役割を理解できているか，新学習指導要領のねらい，重点事項を理解し説明できるか，現在の学校の教育課程に関心を示し調べようとしているかを評価基準とする。 評価の方法　学習への取り組み方（ 20%）レポート（ 20%）期末の筆記試験（ 60%）
教科書	書籍名　新しい時代の教育課程 著者名　田中耕治他 出版社　有斐閣アルマ 価格　１,900円 ISBN・ISSN　4 -641-12246-6
推薦図書等	
参考URL	

備考

2015年度シラバス

国語科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET206
開講年度	2015年度
登録コード	A1073001 A1073002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	国語科指導法
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1073001　後期　月1 A1073002　後期　月2
教室	講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	授業方法論，指導法，言語活動の充実，学ぶ意欲
授業のねらい・概要	国語科教育の授業展開上の具体的な理論について理解し，実践的技法を身につける。
学生の達成目標	１．初等国語教育の目標や意義を正しく理解し,指導に必要な知識と技術を身につけることができる。

２．国語科の教科書教材について,その分野や,内容の大体を理解できる。
３．学ぶ意欲を向上させるための理論と実践の概要を理解できる。

授業内容	第1回	受講上のきまり・全体計画・ポートフォリオの作り方・評価について(目標３)
	第2回	小学校学習指導要領解説国語編の概要,学習指導案作成の基本（目標１）
	第3回	国語科授業の基礎基本，国語科教材研究について（目標１，２）
	第4回	物語文読み取り指導の模擬授業計画Ⅰ・教材の見方（目標３）
	第5回	物語文読み取り指導の模擬授業計画Ⅱ・指導計画の立案の仕方（目標３）
	第6回	物語文読み取り指導模擬授業（目標３）
	第7回	説明的文章読み取り指導模擬授業計画（目標３）
	第8回	説明的文章読み取り指導模擬授業（目標３）
	第9回	「単元を貫く言語活動」概要を知る。（目標１，２）
	第10回	「単元を貫く言語活動」指導計画作りと構想（目標１，２）
	第11回	「単元を貫く言語活動」指導計画作り（目標３）
	第12回	読書感想文の指導，詩の指導（目標２，３）
	第13回	作文の指導，発問作りについて（目標１，２）
	第14回	古典の指導，ポートフォリオによるまとめ（目標１，２，３）
	第15回	授業全体のリフレクション。相互評価（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説国語編をよく読み，項目別にインデックスを付け，必要に応じてコメントを書き込んでおくこと。
	復習	授業中に作成したノート等にメモ書きを行うこと。 必要に応じて資料を綴じ込み，ポートフォリオを充実させていくこと。 レポート提出有り。
	展開	国語科指導法についての基礎的技法の概略をつかみ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	国語科の授業について，具体的な指導法を理解できること。国語科の指導案を書けるようになること。国語科の指導法について，自分の考えをまとめられていることを合格基準とする。
	評価の方法	グループ活動への参加態度２０%，指導案の作成２０%，ポートフォリオ３０%，レポート３０%
教科書	書籍名	文部科学省編『小学校学習指導要領解説　国語編』
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	定価125円 （本体価格116円）
	ISBN・ISSN	978-4-491-02371-7
推薦図書等		

参考URL	
備考	辞書（電子辞書可）を携行すること。グループによるディスカッションを多用するので，自分の考えを述べられるよう準備すること。現場に立った際に役立つようなポートフォリオの作成を心がけること。

2015年度シラバス

社会科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET207
開講年度	2015年度
登録コード	A1074001 A1074002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	社会科指導法
科目責任者	斉藤　靖之
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1074001　後期　水1 A1074002　後期　木2
教室	講義室15 講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校社会科教育目標，小学校社会科指導案の書き方，小学校社会科授業
授業のねらい・概要	小学校社会科学習指導案の書き方と教材研究の実践・在り方を通して，社会科学習への関心・意欲を持たせる。また，具体的な素材を取り上げて学習指導案づくりの実践に取り組めるようにしたい。
学生の達成目標	1．小学校社会科教育の目標や内容が理解できる。 2．小学校社会科教育教材研究について関心と意欲を持つことができる。

	３．小学校社会科教育学習指導案の書き方について理解と指導案が書けるようになる。
授業内容	第1回　小学校社会科教育のねらい(問題解決的能力の育成)について(目標1) 第2回　小学校学習指導要領と小学校社会科教育の目標について(目標1) 第3回　各学年の社会科の目標と内容について(3・4学年)(目標1,2) 第4回　各学年の社会科の目標と内容について(5・6学年)(目標1,2) 第5回　小学校社会科学習指導案の構成(例-問題解決的学習)について(目標1,2) 第6回　小学校社会科学習の教材研究について(内容・活動・学習過程等と評価規準)(目標2) 第7回　小学校社会科学習指導案について(目標・内容・実態調査等の検討)(目標2,3) 第8回　小学校社会科学習指導案について(学習方法と評価等の検討)(目標2,3) 第9回　各自又はグループで学習指導案構想について(教材・単元・学年等の設定)(目標2,3) 第10回　各自又はグループで素材や資料の収集(単元項目確認・目標の設定等)(目標1,2) 第11回　各自で学習指導案づくり(実態調査項目検討・指導計画設定等)(目標3) 第12回　グループ内で学習指導案の報告と補説(班で各自の指導案の発表会)(目標2,3) 第13回　各自の小学校社会科学習指導案の修正(修正した指導案の提出)(目標3) 第14回　小学校社会科学習指導案の書き方について(指導案作りの苦労と解説等)(目標3) 第15回　小学校社会科学習指導についてまとめる(社会科学習のねらい)(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　小学校学習指導要領解説社会編を読み，その内容に関心をもつこと。 新聞・テレビ等で社会事象の情報に，積極的に関心をもち，必要と思った内容は，切り抜いたり，メモを取ったりするようにしたい。 （情報収集） 日頃から教科書に関心をもつこと。（本校の図書室にある） シラバスをもとに，次の講話の内容を調べておくこと。 復習　毎回の授業の要旨をまとめたり，感想を書いたりしておくこと。 指定されたレポートの課題を期限までに提出すること。 展開　新聞やテレビの情報を毎回発表させて，社会事象に関心をもたせる。
成績評価	評価の基準　小学校社会科学習の目標や内容の理解と教材研究の必要性及び社会科学習指導案づくりに意欲・関心をもつことができることを基準とする。 評価の方法　レポート70%，指導案づくり20%，授業中の発表内容と態度10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　小学校学習指導要領解説社会編 著者名　文部科学省 出版社　東洋館出版社

価格	115円+税
ISBN・ISSN	978-4-491-02372-4

書籍名	小学校新指導要領　ポイントと授業づくり
著者名	広嶋憲一郎編著　新社会科研究会編著（20年度版）
出版社	東洋館出版社
価格	1,900円+税
ISBN・ISSN	978-4-491-02403-5

書籍名	社会科教育事典
著者名	日本社会科教育学会／編
出版社	ぎょうせい
価格	4,762円+税
ISBN・ISSN	978-4-324-09483-9

参考URL

備考

必要な資料等を授業中に配布する。
小学校学習指導要領解説社会編を各自用意。
現行の小学校の社会科教科書の内容及び地図帳を，講義前に目を通しておくと，講義もスムースになる。
（本学の大学図書館に備えてある）

【推薦DVD】※本学の図書館に所蔵
1.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　国土の地形の特色と人々のくらし」
制作：東京書籍制作著作　岡本文博[ほか]制作協力
出版社：東京書籍
価格：31,500円+税
レーベル番号：4961355501603
2.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　わたしたちの生活と食料生産」
制作：東京書籍制作著作　五日町観光協会[ほか]制作協力
出版社：東京書籍
価格：31,500円+税
レーベル番号：4961355501627
3.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　武士の世の中へ」
制作：東京書籍制作著作　厳島神社[ほか]制作協力
出版社：東京書籍
価格：31,500円+税
レーベル番号：4961355501689
4.「NEW VS 東書ニュービデオソフト；小学校社会　長く続いた戦争と人々のくらし／新しい日本，平和な日本へ」
制作：東京書籍制作著作　イメージユニオン[ほか]制作協力
出版社：東京書籍
価格：31,500円+税
レーベル番号：4961355501726

2015年度シラバス

算数科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET208
開講年度	2015年度
登録コード	A1075001 A1075002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	算数科指導法
科目責任者	京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1075001　前期　金1 A1075002　前期　金4
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数科の特質　各領域の指導内容　教材研究
授業のねらい・概要	算数科の特質や内容の特色から見た指導法の特色に触れ，教材研究の仕方及び算数の授業の構成の仕方を理解できるようにする。また，数学的な考え方の重要性を捉え，考え方を子どもから引き出すような指導技術も身につけられるようにする。

学生の達成目標

1　算数科指導の目的、目標がわかる。
2　数と計算，量と測定等の内容に応じた指導方法が身に付く。
3　算数科教材研究の進め方が分かる。

授業内容	第1回	講義のガイダンス　算数の授業で目指すこと（目標１）
	第2回	算数教育の目的と算数の授業（目標１）
	第3回	算数教材研究の進め方・指導案立案までの手続（目標３）
	第4回	算数科教材研究の進め方～整数の意味とその指導を例に～（目標３）
	第5回	整数の加法・減法の計算の意味と計算の仕方の指導（目標２）
	第6回	整数の乗法・除法の計算の意味と計算の仕方の指導（目標２）
	第7回	小数・分数の加法・減法の計算の意味と計算の仕方の指導（目標２）
	第8回	小数・分数の乗法・除法の計算の意味と計算の仕方の指導（目標２）
	第9回	量と測定の意味とその指導の実際　（１）（目標２）
	第10回	量と測定の意味とその指導の実際　（２）（目標２）
	第11回	図形の意味と指導の実際　（１）（目標２）
	第12回	図形の意味と指導の実際　（２）（目標２）
	第13回	関数・統計・式表示の意味と指導の実際（目標２）
	第14回	関数・統計・式表示の意味と指導の実際　算数の授業の構成の仕方・指導案の立案　（目標２，３）
	第15回	算数の授業の構成の仕方・指導案の立案（目標３）
予習・復習の内容	予習	各業の最後に、次回の内容に関して小課題を提示することがあるので、「学習指導要領解説算数編」等を精読し、課題に対して自分なりの解答ができるように準備してから授業に臨むようにする。
	復習	その時間の指導目標、指導内容、指導方法について復習し、自分なりの考えをまとめておく。時々、授業の内容に関連するレポート等を課すことがあるので、課された場合は期限までに提出する。
	展開	自分が授業を実践するために必要な知識・技能を身に付けるため、最近の算数教育の内容・指導方法に関する情報を収集しておくこと。
成績評価	評価の基準	算数の目標および史的変遷の要点について理解していること。数と計算、量と測定、図形などについての基本的な原理について知り、これを適用できること。進んで問題に取り組み話し合いにも参加していることなどを合格基準とする。
	評価の方法	学習への取り組み方（２０%）レポート（２０%）期末の筆記試験（６０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説　算数編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版
	価格	238円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-491-02373-1
参考URL		

備考

2015年度シラバス

理科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET209
開講年度	2015年度
登録コード	A1076001 A1076002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科指導法
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1076001　前期　月3 A1076002　前期　木3
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次
免許・資格との関係	2年次　3年次 小学校教諭：　必修　必修 特別支援学校教諭：　選択　選択 幼稚園教諭：　選択　選択 保育士：　選択　選択 理学療法士：　不要　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実験・観察，科学的リテラシー，理科好き
授業のねらい・概要	身の回りの事象・現象が、理科・科学に満ちていることを知り、これらの重要性を認識すると共に、理科好き・科学好きの子供を育成するための指導法についての理解を深める。また，理科授業を自分で構想し，分析するための知識と視点などの素養を育成することを目指す。
学生の達成目標	1.実験観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的実験・観察技術を習得する。

2.子供が主体的・能動的に参加するための理科授業実践上の工夫を行うことができるようになる。
3.理科授業を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を獲得する。

授業内容	第1回	安全な実験観察の方法（目標1,2,3）
	第2回	身の回りの自然環境について(1) 植物（目標1,2,3）
	第3回	身の回りの自然環境について(2) 動物（目標1,2,3）
	第4回	物理領域の学習内容（振り子）における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第5回	４ＱＳの説明(目標1,2,3)
	第6回	４ＱＳを使っての実験計画の立て方・考え方の理解(目標1,2,3)
	第7回	理科における学習指導案の書き方（目標1,2,3）
	第8回	生物領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第9回	化学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第10回	地学領域の学習内容における実験観察の基本的な技術や指導法（目標1,2,3）
	第11回	模擬授業(1) 物理分野・てこ等(目標1,2,3)
	第12回	模擬授業(2) 化学分野・ものの溶け方等(目標1,2,3)
	第13回	模擬授業(3) 生物分野・筋肉のつき方等(目標1,2,3)
	第14回	模擬授業(4) 地学分野・太陽の動き等(目標1,2,3)
	第15回	模擬授業のまとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領理科編、及び小学校理科の教科書を事前に読み，学習内容を理解しておく。
	復習	４QSを利用して，実際に児童に対し実験観察を含んだ授業を計画する。さらに，その学習指導案を作成すし，模擬授業を行う。他の学生からの指摘を参考にして，レポートにまとめる。
	展開	実験観察の基本的な技術や指導法、及び教材に対する知識や安全管理に対する配慮を身に着けることで、現場に出たときに実験観察行う際の精神的なハードルを下げる。
成績評価	評価の基準	実験を含んだ学習指導案は，以下の観点から評価する。 ①実験に意義が理解できているか。 ②教材や実験方法に対する理解が十分であるか。 ③実験を指示する際の注意点が適切に示されているか。 ④予想される異なる結果に対する考察のバリエーションが豊かであるか。
	評価の方法	模擬授業及び学生からの授業の評価・４QS・実験に関するレポート等の内容及び提出状況90%，授業への取り組む姿勢10%を総合的に判断する。
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
	著者名	文部科学省
	出版社	大日本図書

価格	６５円
ISBN・ISSN	ISDN978-4-477-01949-9

推薦図書等	
参考URL	
備考	子供たちは実験・観察が好きである。身体を動かしながら学習を進めることで，学習内容の定着や深い理解に効果的であるだけでなく，教員にとっては子供の人間性や特性の理解に役立つと考えられる。しかし，経験が少なく，自信が持てない教員は，実験・観察の実施に二の足を踏んでしまっている。そこで，様々な実験・観察を教員としての視点から経験し，イメージ作りに役立てる。 授業は講義・グループ学習・実習参加型など様々な形態をとる。 収容可能人数40人 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

生活科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET210
開講年度	2015年度
登録コード	A1077001 A1077002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	生活科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1077001　前期　火2 A1077002　前期　火4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生活に関する課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	生活科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，生活科教育がめざすものや現代の生活の課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を提案し，検討する。

学生の達成目標

1.生活科教育が目指すものを理解し、課題を主体的に追究することができる。
2.生活科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。
3.1～2をふまえて、授業を設計し提案することができる。

授業内容

第1回　授業内容についてのオリエンテーション
第2回　現代の生活認識と課題の概要(目標1)
第3回　新しい教育課程における生活科教育の目標・内容(目標1)
第4回　「自分や人や社会との関わり」に関する内容(目標1,2)
第5回　「自分と自然とのかかわり」に関する内容(目標1,2)
第6回　「自分自身」に関する内容(目標1,2)
第7回　人間関係及び公共マナーのスキル(目標1,2)
第8回　資源・環境に関わるリサイクル・リメイクのスキル(目標1,2)
第9回　地域の伝統的食文化の実習(目標1,2)
第10回　生活科授業の設計(目標2,3)
第11回　マイクロティーチング ①(目標3)
第12回　マイクロティーチング ②(目標3)
第13回　マイクロティーチング ③(目標3)
第14回　マイクロティーチング ④(目標3)
第15回　生活科指導における全体のまとめ(目標1～3)

予習・復習の内容

予習
・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。
・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。
・事前に出された課題について調べ、当日発表できるようにしておくこと。

復習
・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。
・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。
・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開
・授業内容に関する先端的研究や発展的資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準　生活科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた生活科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。

評価の方法　毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。小レポート（20%），実習作品（15%），研究成果発表（20%），学期末試験（35%），平常点（10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領　生活編
著者名	文部科学省
出版社	日本文教出版
価格	101円
ISBN・ISSN	978-4-536-59002-0

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

音楽科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET211
開講年度	2015年度
登録コード	A1078001 A1078002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	音楽科指導法
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1078001　後期　月5 A1078002　後期　金4
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校，音楽科，指導法
授業のねらい・概要	小学校教育における音楽科の意義を理解し，児童の前で自信をもって音楽表現できるよう演奏技能を高め，児童が生涯にわたって音楽をより深く味わい楽しんでいけるよう援助するための授業を構成する力を育てる。
学生の達成目標	１．学習指導要領に示される音楽科の目標・内容を学び、授業を構成するための教材に対する理解を深める。

２．児童の前で自信をもって音楽表現できる。
３．自分なりの構想をもち学習指導案を作成できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	学習指導要領に示される音楽科の目標と指導内容について(目標1)
	第3回	歌唱指導(1) 読譜,階名唱,発声等について(目標１)
	第4回	歌唱指導(2) 低・中学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ①(目標１)
	第5回	歌唱指導(3) 高学年の歌唱共通教材の研究とその指導法 ②(目標１)
	第6回	歌唱共通教材による弾き歌いの発表(目標２)
	第7回	器楽指導(1) 打楽器の奏法,リズム遊びとその指導法(目標１)
	第8回	器楽指導(2) 鍵盤楽器、リコーダーの奏法とその指導法(目標１)
	第9回	器楽アンサンブルの発表（目標２）
	第10回	音楽づくり、鑑賞の教材研究とその指導法(目標１)
	第11回	年間指導計画、学習指導案、評価について（目標１，３）
	第12回	模擬授業（1）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。(目標２，３)
	第13回	模擬授業（2）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。（目標２，３）
	第14回	模擬授業（3）各回で担当を決め、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。（目標２，３）
	第15回	模擬授業と作成した学習指導案の検討(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	・自分が受けた音楽の授業を振り返る。 ・指示に従って発表等の準備を行い、課題に取り組む。
	復習	・学習内容を振り返り、自分なりの考察を加え、まとめをする。
	展開	・音楽科の授業に関わる雑誌・書籍等に親しみ学習成果を深める。
成績評価	評価の基準	児童の前で自信をもって音楽表現できるか。 自分なりの授業の構想をもち，学習指導案を作成できるか。
	評価の方法	共通教材の弾き歌い（20%）器楽アンサンブル発表（ 20%）模擬授業（25%）作成した学習指導案（ 25%）授業への取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	『教員養成課程　小学校音楽科教育法』
著者名	有本真紀・阪井恵・山下薫子編著
出版社	教育芸術社
価格	１,600円＋税
ISBN・ISSN	ISBN： 4877884918

書籍名	『小学生の音楽』１，２，３，４，５，６
著者名	小原光一　他
出版社	教育芸術社
価格	官報による

ISBN・ISSN	ISBN：978-4-87788-409-3 他

書籍名	『歌はともだち』（歌集）
著者名	教芸音楽研究グループ
出版社	教育芸術社
価格	380円
ISBN・ISSN	ISBN：－

書籍名	『子どものためのリコーダー曲集　笛星人』
著者名	北村俊彦
出版社	トヤマ（アウロス）出版
価格	368円
ISBN・ISSN	ISBN： 4887801042

推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校等で使用したリコーダーを用意して下さい。 持っていない人は，次のものを楽器店等で購入して下さい。 ヤマハ YRS-28BⅢ（1200円＋税）または YRS-38BⅢ（1600円＋税） 課題は早めに提示しますので，余裕をもって準備し，期限を守って提出して下さい。 遅刻・欠席のないよう留意して下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

図画工作科指導法・前期

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET212
開講年度	2015年度
登録コード	A1079001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	図画工作科指導法・前期
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	金2
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校図画工作科，教科指導法，教材研究，授業実践力
授業のねらい・概要	小学校の図画工作科の目標，内容及び指導の方法の理解を深め，学校現場で授業を行うための実践力を身につける。 教材や指導法の研究も踏まえ，演習や模擬授業，発表等を通して具体的に学ぶ。授業に関する準備，導入，展開，評価についての基本を学び，指導技術の向上を図り，教師としての資質を培う。
学生の達成目標	1.小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材の研究や題材開発,学習展開のあり方、材料・用具の扱い方などを具体的に理解する。

2．学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学ぶ。
3．図画工作科に関する専門的な知識修得を図り,児童一人ひとりの個性を活かす造形・表現活動の指導が出来るよう,授業者として基礎的な指導力を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業に関する留意事項,準備等、小学校図画工作科の授業で学ぶこと)(目標1)
	第2回	体験!図画工作①木工・体験！図画工作②「造形遊び」(目標1)
	第3回	授業の組み立て方について・体験!図画工作③教材研究(目標1)
	第4回	安全指導Ａ(課題提示)・体験!図画工作④発表(目標1．2)
	第5回	安全指導Ｂ(手立ての研究)・体験!図画工作①木工・実技下絵(目標1．2)
	第6回	体験!図画工作①木工・実技切断・学習指導の方法と教師の役割・模擬授業準備(目標2)
	第7回	学習指導の方法と教師の役割の実際・模擬授業、「粘土の制作」(目標2)
	第8回	模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ課題レポート作成 ①(目標1)
	第9回	演習①粘土遊び～導入の大切さを学ぶ、模擬授業指導案の作成(課題提示)・レポート作成②(目標1)
	第10回	体験!図画工作①木工・実技やすりがけ・模擬授業、絵画準備（目標2.3）
	第11回	体験!図画工作⑤絵画、アドバイスの実際(目標2.3)
	第12回	模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成③(目標2.3)
	第13回	模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・デザイン・課題レポート作成③(目標2.3)
	第14回	演習②模擬授業、デザインに基づいた発表・課題レポート作成④(目標2.3)
	第15回	まとめ～図画工作科における今日的課題について(目標1.2.3)
予習・復習の内容	予習	テキストを読み進める 模擬授業の準備をする 実技課題の制作を自主的に進める
	復習	配布資料を読み直す テキストを読み進める 実技課題の制作を自主的に進める 模擬授業のまとめをする
	展開	様々な題材の指導案（精案）を実際に書く
成績評価	評価の基準	小学校図画工作の指導法に関して，授業で取り上げた基礎・基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに小学校の図画工作科について自らの考えを持ち，それを授業で具体的に実践できる基礎が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや模擬授業などの発表等で総合的に評価する。

	レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計 30%，課題レポート 30%） 60%，演習や発表，作品などをもとに授業の取り組みを踏まえた平常得点 40%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名　子どもの心に語りかける表現教育 著者名　鈴木幹雄・長谷川哲哉編，森高光広・他著 出版社　あいり出版 価格　2,310 円 ISBN・ISSN　ISBN-10: 4901903586 書籍名　小学校学習指導要領解説 図画工作編 著者名　文部科学省 出版社　日本文教出版 価格　８５円 ISBN・ISSN　ISBN-10: 4536590013
推薦図書等	
参考URL	
備考	・履修人数は，40名前後を原則とし、実技を交えた演習の内容を主とする。 ・前期，後期の授業は同一内容を予定する。（演習課題等の一部変更はある） ・初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。 ・例年、小・特に限らず幼・保の学生も多く履修している。人数の多い場合は小学校教員免許資格希望者を優先とする。 ・実習の少ない学期に受講することが望ましい。 ・受講人数や受講生の実習などの状況によって，演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。 ・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表をする予定。 ・スケッチブックや絵の具など必要なものは授業で指示する

2015年度シラバス

図画工作科指導法・後期

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET212
開講年度	2015年度
登録コード	A1079002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	図画工作科指導法・後期
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	木4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校図画工作科，教科指導法，教材研究，授業実践力
授業のねらい・概要	小学校の図画工作科の目標，内容及び指導の方法の理解を深め，学校現場で授業を行うための実践力を身につける。 教材や指導法の研究も踏まえて，演習や模擬授業，発表等を通して具体的に学ぶ。 授業に関する準備，導入，展開，評価についての基本を学ぶとともに，指導技術の向上を図り，教師としての資質を培う。
学生の達成目標	1．小学校学習指導要領「図画工作」の目標と内容に基づき,子どもの興味・関心を踏まえた教材の研究や題材開発,学習展開のあり方,材料・用具の扱い方などを

具体的に理解する。
2. 学校現場の授業で実践できるための基礎・基本を学ぶ。
3. 図画工作科に関する専門的な知識修得を図り,児童一人ひとりの個性を活かす造形活動の指導が出来るよう,授業者として基礎的指導力を身につける。

授業内容

第1回　オリエンテーション(授業に関する留意事項,準備等、小学校図画工作科の授業で学ぶこと)(目標1)

第2回　体験!図画工作 ①木工・体験！図画工作②「造形遊び」(目標1)

第3回　授業の組み立て方について・体験!図画工作③教材研究(目標1)

第4回　安全指導Ａ(課題提示)・体験!図画工作 ③発表(目標1. 2)

第5回　安全指導Ｂ(手立ての研究)・体験!図画工作①木工・実技下絵(目標1. 2)

第6回　体験!図画工作 ①木工・実技切断・学習指導の方法と教師の役割・模擬授業準備(目標2)

第7回　学習指導の方法と教師の役割の実際・模擬授業「粘土の制作」(目標2)

第8回　模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ課題レポート作成 ①(目標1)

第9回　演習①粘土遊び～導入の大切さを学ぶ・模擬授業指導案の作成(課題提示)・レポート作成 ②(目標1)

第10回　体験!図画工作①木工・実技やすりがけ・模擬授業、絵画準備（目標2.3）

第11回　体験!図画工作⑤絵画、アドバイスの実際(目標2.3)

第12回　模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・発表を踏まえ相互評価・課題レポート作成③(目標2.3)

第13回　模擬授業、学習指導の方法と教師の役割の実際・デザイン・課題レポート作成③(目標2.3)

第14回　演習②模擬授業、デザインに基づいた発表・課題レポート作成 ④(目標2.3)

第15回　まとめ～図画工作科における今日的課題について(目標1.2.3)

予習・復習の内容

予習　テキストを読み進める
模擬授業の準備をする
実技課題の制作を進める

復習　配布資料を読み直す
テキストを読む
模擬授業のまとめをする

展開　様々な題材の指導案（精案）を実際に書く

成績評価

評価の基準　小学校図画工作の指導法に関して，授業で取り上げた基礎・基本的な内容が理解できていること。
授業内容をもとに小学校の図画工作科について自らの考えを持ち，それを授業で具体的に実践できる基礎が身についていることを合格基準とする。

評価の方法　毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや模擬授業などの発表等で総合的に評価する。
レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計 30%，課題レポート 30%） 60%，演習や発表，作品などをもとに授業の取り

組みを踏まえた平常得点 40%の成績を総合する。
ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	表現教育にはそんなこともできるのか～教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ
	著者名	鈴木幹雄・佐藤雅彦著
	出版社	あいり出版
	価格	2,376 円
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-86555-013-9
推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説 図画工作編
	著者名	文部科学省
	出版社	日本文教出版
	価格	８５円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4536590013
参考URL		
備考	・履修人数は，40名前後を原則とし、実技を交えた演習の内容を主とする。 ・前期，後期の授業は同一内容を予定する。（演習課題等の一部変更はある） ・初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。 ・例年、小・特に限らず幼・保の学生も多く履修している。人数の多い場合は小学校教員免許資格希望者を優先とする。 ・実習の少ない学期に受講することが望ましい。 ・受講人数や受講生の実習などの状況によって，演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。 ・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表をする予定。 ・スケッチブックや絵の具など必要なものは授業で指示する ・小学校教員免許資格希望者を優先とする。初等図画工作教育通論履修後に履修することが望ましい。 また，３年生は後期に受講することが望ましい。 ・受講人数や受講生の実習などの状況によって，演習や実技などのシラバス内容が変更することもある。 ・小グループに分かれて模擬授業や実技をもとに発表をする予定。 ・スケッチブックや絵の具など必要なものは授業で指示する	

2015年度シラバス

家庭科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET213
開講年度	2015年度
登録コード	A1080001 A1080002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	家庭科指導法
科目責任者	佐藤　文子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1080001　後期　火2 A1080002　後期　火3
教室	講義室15 講義室12
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	現代の生活課題，基礎的・基本的な知識・技術，授業設計，マイクロティーチング
授業のねらい・概要	家庭科教育の本質をふまえたよりよい授業を設計する。 そのために，家庭科教育がめざすものや現代の生活課題をふまえ，各自が課題意識を持って，新しい教育課程にそった家庭科の授業を提案し，検討する。

学生の達成目標

1.家庭科教育が目指すものを理解し、生活課題を主体的に追究することができる。
2.家庭科の授業のための基本的・基礎的な知識・技術を身につける。
3.1～2をふまえて,授業を設計し提案することができる。

授業内容

第1回　授業内容についてのオリエンテーション
第2回　現代の生活課題の概要(目標1)
第3回　新しい教育課程における家庭科教育の目標・内容(目標1)
第4回　家族・家庭に関する内容の検討(目標1,2)
第5回　食生活に関する内容の検討(目標1,2)
第6回　衣生活・住生活に関する内容の検討(目標1,2)
第7回　身近な消費・環境に関する内容の検討(目標1,2)
第8回　食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ①(目標2)
第9回　食の基本的・基礎的技術の習得-調理実習 ②(目標2,3)
第10回　衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ①(目標2)
第11回　衣の基本的・基礎的技術の習得-被服実習 ②(目標2,3)
第12回　マイクロティーチング ①(目標3)
第13回　マイクロティーチング ②(目標3)
第14回　マイクロティーチング ③(目標3)
第15回　家庭科指導における全体のまとめ(目標1～3)

予習・復習の内容

予習
・講義内容に関する書物や資料を読み、理解しておくこと。
・上記を踏まえて、自己の課題を明確にしておくこと。
・事前に出された課題について調べたり企画したりして、当日発表できるようにしておくこと。

復習
・毎回の授業の要旨をまとめ、ノートに整理しておくこと。
・予め持った自己の課題がどのように解決されたか、解決のプロセス及び結果をノートに整理する。
・指示されたレポート課題を期限までに提出すること。

展開
・授業内容に関する先端的研究や発展的な資料を読み、知識・理解を深める。

成績評価

評価の基準　家庭科授業の設計のための基本的・基礎的事項を理解し，さらに基本的・基本的な技術を習得して，新しい教育課程に基づいた家庭科の授業を設計し，提案することを合格基準とする。

評価の方法　毎回の小レポート，実習作品，研究成果プレゼンテーション，学期末テスト，平常点で評価する。
小レポート（20%），実習作品（15%），研究成果発表（25%），学期末テスト（30%），平常点（10%）。但しこの比率は，最終的に若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	家庭科教育法
著者名	佐藤文子・川上雅子
出版社	高陵社書店
価格	2000円
ISBN・ISSN	978-4-7711-0982-7

推薦図書等	書籍名	小学校学習指導要領解説　家庭編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	95円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02374-8

参考URL	
備考	

2015年度シラバス

体育科指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET214
開講年度	2015年度
登録コード	A1081001 A1081002 A1081003
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	体育科指導法
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1081001　前期　木1 A1081002　前期　木2 A1081003　前期　水1
教室	体育館，グラウンド
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能、指導法、運動遊び、体力・健康、表現
授業のねらい・概要	小学校体育の内容および指導方法の修得、またそれに必要な基礎運動技能の体得を目的とする。教育現場において、自ら授業を立案し運営できる能力を養う。身体活動の場における危機管理についても学ぶ。

学生の達成目標

1.各領域の内容と実践方法を修得し、学校現場で、自らの力で授業や作業を立案・運営するできること。
2.体育指導に必要とされる基礎運動技能を体得し、実践・指導できること。
3.運動実践と子どもの体力および健康の変化との関係性を理解し、説明できること。

授業内容

第1回	オリエンテーション・体力テスト(目標1,2,3)
第2回	体つくり運動の展開と指導法（模擬授業を含む）(1);体ほぐしの運動(目標1,2,3)
第3回	体つくり運動の展開と指導法（模擬授業を含む）(2);体力を高める運動(目標1,2,3)
第4回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(1);走・跳の運動遊び(目標1,2,3)
第5回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(2);短距離走・リレー(目標1,2,3)
第6回	陸上運動の基礎技能の修得および指導法(3);走り高跳び・走り幅跳び(目標1,2,3)
第7回	ボールゲームの展開と指導法(1);ゴール型ゲーム(目標1,2,3)
第8回	ボールゲームの展開と指導法(2);ネット型ゲーム(目標1,2,3)
第9回	ボールゲームの展開と指導法(3);ベースボール型ゲーム(目標1,2,3)
第10回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(1);リズム遊び・リズムダンス（発表会）(目標1,2,3)
第11回	表現運動の基礎技能の修得および指導法(2);創作ダンス・フォークダンス（発表会）(目標1,2,3)
第12回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(1);マット運動(目標1,2,3)
第13回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(2);鉄棒運動(目標1,2,3)
第14回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(3);跳び箱運動(目標1,2,3)
第15回	器械運動の基礎技能の修得および指導法(4);総合実技(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習	毎回の授業で扱う各運動領域の目標と内容について、学習指導要領を読んで理解して授業に臨むこと。
復習	授業内容（行った内容および指導法）および課題について、授業ノートを作成し、毎回まとめること。
展開	各運動領域の内容について、実技と理論を織り交ぜながら授業を進める。

成績評価

評価の基準	体育科の授業展開および指導法の基礎・基本を理解し、自ら立案した体育科授業について安全かつ効果的に実践できる能力を身につけることを合格基準とする。
評価の方法	実技試験 20%、授業ノートの内容 30%、発表課題（模擬授業および学習指導案を含む）の準備と内容 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%、準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%。ただし、この比率は、若干変更する可能性もある。

教科書

書籍名	小学校学習指導要領解説　体育編

著者名	文部科学省
出版社	東洋館出版社
価格	127円
ISBN・ISSN	ISBN：4491023751

推薦図書等	
参考URL	
備考	授業内容については天候などで順番の変更はある。 ジャージ、Tシャツ、スポーツシューズ、体育館シューズなどの運動が可能で、かつ体育の教員と望ましい服装で参加すること。指輪、ネックレス、ピアス等の装飾品は危険であること、また教員免許取得関係の科目という観点から着用を禁止する。 円滑な授業運営をするため、１時限あたりの履修者数を 30名以内に制限することがある。また、体育科指導法AもしくはBは１時限あたりの履修者数が10名未満の場合は授業運営が難しいため開講しない。 第1回目に体力・なわとびテストを行うので、なわとびを持参し、運動のできる服装に更衣して体育館に集合すること。 体育科指導法Cは前年度以前に体育科指導法AもしくはBを履修し、評価が履修中となった者のみを対象とする。

2015年度シラバス

道徳教育指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET215
開講年度	2015年度
登録コード	A1082001 A1082002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	道徳教育指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	A1082001　前期　木2 A1082002　後期　木1
教室	講義室21，22 講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　特別の教科　学習指導案　指導方法　模擬授業
授業のねらい・概要	道徳教育を補充・深化・統合する道徳の在り方について理解を深める。また，指導案作成や模擬授業を通して実践力を養う。
学生の達成目標	1.道徳教育と道徳の関連が理解できる。 2.道徳資料を選び，簡単な指導案が作成できる。 3.模擬授業行ったり観たりすることで課題を見つけることができる。

授業内容	第1回	道徳教育の歴史的な変遷と学校教育目標の具現化，今日的な課題を明らかにする。(目標1)
	第2回	道徳教育と道徳の関係について理解する。(目標1)
	第3回	道徳のねらい・内容項目・学習過程についての基本的な理解を深める。(目標１) 道徳の教科化について（目標１）
	第4回	具体的な授業例（葛藤のある資料）を紹介し,資料についての理解を深める。（目標１）
	第5回	具体的な授業例（価値のシート）を紹介し,道徳の様々な指導方法について理解を深める。（目標１）
	第6回	具体的な授業例（聴き合い・折り合い）を紹介し，子供主体の指導法について理解を深める。（目標１）
	第7回	指導案の書き方について理解する。（目標２） 指導過程に沿って、道徳指導案を書く。(目標２)
	第8回	各自作成した指導案を持ち寄り，グループで模擬授業をする内容を決定する。役割分担を決める。（目標３）
	第9回	模擬授業（誠実など）よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
	第10回	模擬授業（礼儀など）よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
	第11回	模擬授業（思いやりなど）よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
	第12回	模擬授業（感謝など）よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
	第13回	模擬授業（生命尊重など）よかった点と課題点等について出し合う。（目標３）
	第14回	模擬授業等を通して，指導上の配慮事項について話し合う。（目標１・２・３）
	第15回	道徳のさまざまな手法の紹介をする。 役割演技，スケーリングなど 評価について（目標１）
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説「道徳編」を読むこと。 積極的に道徳副読本に目を通すこと。
	復習	授業で習修したことと小学校学習指導要領解説　「道徳編」を照らし合わせ，ノートにまとめる。 模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し，次回の授業に生かす。
	展開	道徳教育指導法に関する最新の図書や研究成果を調べ，さまざまな授業の展開例を理解したり，指導案の書き方を理解したりする。
成績評価	評価の基準	道徳の役割が分かり，適切な資料のもと指導案を作成することができる。 模擬授業への関心・意欲と効果的に実践しようとする態度を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	期末テスト・資料選択・指導案作成（ 70%）授業中の態度・振り返り（ 20%）グループ協議への参加態度（ 10%）

教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　「道徳編」
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	127円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02376-2
推薦図書等	書籍名	道徳教育で大切なこと
	著者名	赤堀博行
	出版社	東洋館出版社
	価格	1,700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-491-02577-3
参考URL		
備考	課題の提出期限を守ること。 教育実習前に履修しておくことが望ましい。	

2015年度シラバス

特別活動指導法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET303
開講年度	2015年度
登録コード	A1083001 A1083002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	特別活動指導法
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1083001　後期　木3 A1083002　後期　金1
教室	講義室14 講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別活動，指導方法（学級活動），学級経営との関連（人間関係づくり）
授業のねらい・概要	主に学級活動の授業の指導法について学ぶ。 体験的な活動をメインにしながら，学級経営・生徒指導との関連が深い学級の人間関係づくりへのアプローチを行うことをねらいとする。

学生の達成目標

1.目標や内容を理解し,学級経営との関連や教師の役割を知る。
2.人間関係づくりの学級活動の指導案を作成することができる。
3.模擬授業を行い、課題を見つけることができる。

授業内容

第1回　特別活動の内容と目標について(目標1)

第2回　特別活動の具体的な内容と「望ましい集団」について(目標1)

第3回　学級活動と学級経営との関連について(目標1)

第4回　人間関係づくりの学級活動指導案を作成について（目標２）

第5回　指導計画の作成にあたっての配慮事項
特別活動と道徳との関連（目標１）

第6回　児童期における発達課題について（目標1）

第7回　子どもの発達段階に応じた指導のあり方（目標1）

第8回　発達段階に即した指導のめやす（学級活動と道徳との関連）
グループごとに指導案検討（目標２）

第9回　児童会活動について（目標１）
模擬授業打ち合わせ（目標３）

第10回　人間関係づくり模擬授業「理解し合う」（目標３）

第11回　人間関係づくり模擬授業「協力し合う」（目標３）

第12回　人間関係づくり模擬授業「支え合う」（目標３）

第13回　人間関係づくり模擬授業「信頼し合う」（目標３）

第14回　学級活動（係活動）や学校行事（卒業式）と教師の役割について （目標１）

第15回　特別活動の配慮と評価について（目標１）

予習・復習の内容

予習　小学校学習指導要領解説「特別活動編」を読むこと。
人間関係づくりに関わる書籍を読むこと。

復習　授業で修得したことと小学校学習指導要領解説　「特別活動編」を照らし合わせ，ノートにまとめる。
望ましい集団づくりのために教師はどのような支援をすればよいのかまとめる。
模擬授業を通して見えたよい点や課題について整理し，次回の授業に生かす。

展開　特別活動指導法に関する最新の図書や研究成果を調べ，さまざまな授業の展開例を理解したり，指導案の書き方を理解したりする。

成績評価

評価の基準　学校教育全体に関わる特別活動のねらいや教師の役割が理解できたか。
「望ましい集団」を意識した指導法が理解できたか。

評価の方法　期末テスト（50%）指導案・ワークシート（20%）授業中の態度（30%）

教科書

書籍名　小学校学習指導要領解説「特別活動編」

著者名　文部科学省

出版社　東洋館出版社

価格　128円＋税

ISBN・ISSN　978-4-491-02379-3

推薦図書等	
参考URL	
備考	グループ協議では積極的に参加することで，課題意識を高めることを望む。 提出物は，期限を厳守すること。

2015年度シラバス

教育方法・技術論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET216
開講年度	2015年度
登録コード	A1084001 A1084002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教育方法・技術論
科目責任者	京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	A1084001　後期　火3 A1084002　後期　金1
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育方法　　指導技術　　模擬授業
授業のねらい・概要	教育方法の意義を知るとともに，その基礎にある授業について知り，授業を展開する方法や技術を習得し，実践に役立てるようにする。史的経過を踏まえつつ，一斉学習と個別学習等今日的課題となっている学習方式について理解する。また、授業における教材・教具や情報機器の活用の仕方について理解する。

学生の達成目標

	1.教育方法の基本原理が分かる。 2.教材研究の仕方および、よい授業の構成の仕方が分かる。 3.指導技術を身に付け、教材・教具や情報機器等の活用の仕方　がわかる。
授業内容	第1回　教育方法と授業について・・・・講義のガイダンス（目標１） 第2回　教育方法の史的変遷・・・・日本と諸外国（目標１） 第3回　授業と教育方法の基本原理・・・系統学習と問題解決学習（目標１） 第4回　優れた教育実践に学ぶ　　（目標１） 第5回　授業とは何か・・・よい授業とは，授業の構成要素（目標２） 第6回　教材研究と授業・・・・教材研究の意味と教材研究の仕方（目標２） 第7回　教材研究と授業・・・・授業の展開と学習指導案　（目標２） 第8回　教材研究と授業・・・　教授組織と学習組織　（目標２） 第9回　よい授業と技術・・・・指導技術（発問・机間指導）（目標３） 第10回　よい授業と技術・・・・指導技術（ノートの取り方・板書の仕方）（目標３） 第11回　授業と技術・・・・・・教材・教具，情報機器の活用（目標３） 第12回　授業と環境　・・・・・メデイアの活用（目標３） 第13回　模擬授業の試み（１）・・・・教材研究と授業実践　（目標３） 第14回　模擬授業の試み（２）・・・・授業に生きる指導技術　（目標３） 第15回　授業と評価の方法・・・評価の活かし方　（目標３）
予習・復習の内容	予習　教育現場で授業等がどのように行われているかの情報を集め、今日的テーマについて理解できるようにしておく。事前に課題を与える場合があるので、予め調べて課題に対する意識を高めておく。 復習　各授業ごとの教育方法に関わるキーワードを書物にあたってまとめ、理解を深めておく。また、学習指導案等に関する課題に関しては、完成させて期限までに提出すること。 展開　できるだけ教育実践にふれ、指導方法および指導技術についての見聞をできるだけ広げるようにしておくこと。
成績評価	評価の基準　教育方法の基本的な事項が理解ができていること，授業の仕組みを捉え，授業の構成の仕方及び指導技術の方法を把握できていることを合格基準とする。 評価の方法　学習への取り組み方（２０%）レポート（２０%）期末の筆記試験（６０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　教育の方法と技術 著者名　平沢茂編著 出版社　図書文化 価格　2，000円 ISBN・ISSN　4-8100-6464-6 書籍名　教育方法の理論と実践 著者名　小川哲生他著

出版社	明星大学出版部
価格	1，500円
ISBN・ISSN	978-4-89549-154-9

参考URL

備考

2015年度シラバス

理科実験技術

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET217
開講年度	2015年度
登録コード	A1084101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	理科実験技術
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	基礎医学実習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	実験・観察，カリキュラム，学習指導案
授業のねらい・概要	小学校理科指導に必要な知識・技術の習得し，科学的なものの見方や考え方を促すための実験観察の指導法についての理解を深める。具体的には、種々の器具や薬品の扱いに習熟することを目指すとともに、安全への配慮ができるようにする。
学生の達成目標	１．実験・観察を主体とした授業を行う際に必要な基礎的な実験・観察技術を習得する。 ２．実験・観察を実践する上での指導者として必要な基礎的素養を修得する。 ３．安全に配慮して実験・観察が行えるようになる。

授業内容	第1回	理科教育の価値・目的及び評価の観点 (目標1,2)
	第2回	小学校理科のカリキュラム構成について (目標1,2)
	第3回	「植草共生の森」を活用した教育実践 (目標1,2,3)
	第4回	小学３年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・昆虫の持ち方等 (目標1,2,3)
	第5回	小学４年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・レンズ、鏡等 (目標1,2,3)
	第6回	小学５年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・磁石等 (目標1,2,3)
	第7回	小学５年生・６年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・ガスバーナー等 (目標1,2,3)
	第8回	小学６年生の学習内容の実験観察の基本的な技術や指導法・酸、アルカリ水溶液等 (目標1,2,3)
	第9回	３年の学習内容（植物のつくり等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第10回	４年の学習内容（水の３態変化等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第11回	５年物理分野の学習内容（振り子・電磁石等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第12回	５年生物分野の学習内容（植物の成長・動物の発生等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第13回	６年物理分野の学習内容（てこ等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第14回	６年化学分野の学習内容（水溶液の性質等）の模擬授業及び相互評価 (目標1,2,3)
	第15回	模擬授業のまとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	第８回までに模擬授業用の学習指導案を立案し，提出する。
	復習	毎回の内容を各自ノートに記録する。後日提出する。
	展開	小学校理科に関して基本的な実験観察を多く体験することで、実験観察に対してのセンスを身につける。また、実験観察を含んだ学習指導案を作成できるようになる。
成績評価	評価の基準	１．学習指導案及び模擬授業に関しては， ①実験・観察が学習内容にてきしているか。 ②教材や指導方法が適切であるか。 ③実験・観察に児童の理解を助けるための創意工夫が見られるか。 ④安全への配慮がなされているか。 ⑤予想される実験の失敗に対する対応の準備がなされているか。を評価の基準とする。 ２．討論への参加の様子。 ３．模擬授業等の記録やまとめのノートの完成度。 ４．学生からの模擬授業の評価。
	評価の方法	学習指導案及び模擬授業（学生からの授業評価を含む）70%，授業への取り組む姿勢10%，ノート20%，を総合的に判断する。
教科書		

書籍名	小学校学習指導要領解説・理科編
著者名	文部科学省
出版社	大日本図書
価格	65円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-477-01949-9

推薦図書等	
参考URL	
備考	学習内容及び，実感・観察方法についての深く理解した上で，学習指導の細案を作成してもらいます。自信を持って教えられる範囲を１つでも作ることで，理科の他の範囲であっても，実験・観察の授業を実施しようとする際の垣根が低くなると思います。 授業は講義・実習・模擬授業への参加など様々な形態で行われます。 収容可能人数40人 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

児童生徒指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET218
開講年度	2015年度
登録コード	A1085001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	児童生徒指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月4
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生徒指導の機能，積極的な生徒指導，生きる力， NIE
授業のねらい・概要	生徒指導は児童生徒の人格の健全な発達を図るために学校のあらゆる教育活動全体を通じて行われる重要な機能である。問題に対処するという消極的な生徒指導だけでなく、積極的な生徒指導を行うことで，児童生徒の生きる力を支援できるようにする。
学生の達成目標	1.生徒指導の意義、教育課程内並びに教育課程外活動との関連性と指導法について学ぶ。 2.児童期の心理的特徴について理解すると同時に。いじめや不登校,非行などの教育課題を具体的事例から学ぶ。

3.生徒指導を推進するための学校と家庭・地域社会・関係機関との連携について理解する。

授業内容	第1回　生徒指導の意義と原理（目標1） 第2回　教育課程と生徒指導１(目標1) 教科における生徒指導 第3回　教育課程と生徒指導２(目標1) 道徳、総合的な時間、特別活動における生徒指導 第4回　教育課程外活動と生徒指導(目標1) 第5回　児童期の心理と発達(目標2) 第6回　児童理解の方法と事例検討(目標2) 教育相談の必要性 第7回　小学校における生徒指導の実際（目標2） 模擬授業１ 第8回　小学校における生徒指導の実際（目標2） 模擬授業２ 第9回　生徒指導の実践１ 課題解決学習「不登校」（目標2） 第10回　生徒指導の実践２ 課題解決学習「いじめ」(目標2) 第11回　生徒指導の実践３ 課題解決学習「学級崩壊」と「体罰」(目標2) 第12回　生徒指導の実践 課題解決学習「インターネット」「携帯にかかわる課題」(目標2) 第13回　切れる子どもの理解と指導方法(目標2) 第14回　学校における指導体制(目標3) 第15回　生徒指導における学校と家庭・地域社会・関係機関との連携(目標3)
予習・復習の内容	予習　・教育、子どもに関するタイムリーな新聞記事を読む。 ・授業の内容を示すキーワードや、示された課題について調べ学習をし、意見発表できるようにする。 ・児童にかかわるボランティアなどに参加し、体験的子ども理解を深める。 復習　・学習した内容の生徒指導提要の範囲をよく読み、まとめる。 ・学習内容をわかりやすくまとめ、疑問点が出てきたら授業で質問できるようにする。 ・与えられた課題のレポートを作成する。 展開　・教育課題についての自分の意見を積極的に述べ、意見交換を活発にする。 ・人の意見から学びを深める。 ・授業を聞きながら要点を記録する。
成績評価	評価の基準　・生徒指導の今日的課題についてレポートを書く。 ・模擬授業を実践する。 ・討論学習において自分の意見を述べることができる。 評価の方法　授業態度 20%，課題レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。

教科書	書籍名	生徒指導提要　文部科学省
	著者名	文部科学省
	出版社	文部科学省
	価格	２９０円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-87730-274-0
推薦図書等	書籍名	法規＋教育で考える　生徒指導
	著者名	嶋崎政男
	出版社	ぎょうせい
	価格	1905円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-324-08907-1
	書籍名	生きる力をはぐくむ生徒指導
	著者名	宮下一博・河野荘子編著
	出版社	北樹出版
	価格	2,400円+税
	ISBN・ISSN	ISBN:4-89384-991-3
参考URL	文部科学省ホームページ　http://www.mext.go.jp	
備考	教育や子どもに関する新聞記事を読み，レポートすることを求める。 小学校の先生をめざす者の履修を望む。 また，小学校実習前の受講がのぞましい。	

2015年度シラバス

小学校の学級経営

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET219
開講年度	2015年度
登録コード	A1140001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校の学級経営
科目責任者	桑田　良子
担当教員	加藤　悦子 村上　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金5
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生徒指導，教育相談，キャリア教育，配慮を要する児童，連携
授業のねらい・概要	児童が安心して学校生活を送るためには学級が児童の心の居場所になることが非常に大切になる。学級担任は担当する学級の責任者として適切な経営をすることが求められている。そこで本授業においては、学級経営上基本となる知識や指導法について理解を深めることを目的とする。

学生の達成目標

	1.「学級経営」の目的や意義について理解するとともに子どもたちが安心して学校生活を送れるような環境つくりについて学ぶ。（静的、動的） 2.学級集団を向上させるために必要となる教育相談，生徒指導，キャリア教育、配慮を要する児童への対応などについて学ぶ。 3.保護者との連携、他機関の連携の取り方を理解する。
授業内容	第1回　「学級経営」の目的と意義（目標1） 第2回　学級目標の作り方とそのねらい（目標1） 第3回　学級組織の作り方について（目標1） 第4回　学級のきまりについて（目標1） 第5回　学級集団を理解する検査法（Q-Uテスト）（目標2） 第6回　教育相談と心理教育の必要性（目標2） 第7回　育てるカウンセリング1（目標2） 構成的グループエンカウンターの体験 第8回　育てるカウンセリング2（目標2） グループワーク 第9回　育てるカウンセリング3（目標2） ソーシャルスキルトレーニング 第10回　学級経営と生徒指導（目標2） 学級経営上の問題とその対処法 第11回　配慮を要する児童と学級経営Ⅰ（目標2） 学級の中の配慮を要する児童について気づく 第12回　配慮を要する児童と学級経営Ⅱ（目標3） 保護者との相談・連携 第13回　小学校におけるキャリア教育（目標2） 第14回　学級通信と学級経営（目標3） 第15回　自分の目指す学級経営（目標1） 自分のめざす学級経営についての考えを発表する
予習・復習の内容	予習　・学習内容を予告するので、調べ学習をしてくること。 ・学級経営についての書物を読むこと。 ・構成的エンカウンターのエクササイズを調べ、ファシリテーター役ができるようにする。 復習　・学習した内容を自分の学級経営方針としてまとめておくこと。 展開　・授業中は積極的に取り組み発表すること。 ・いつも、自分が担任だったらどうするかを考えて授業に臨むこと。
成績評価	評価の基準　・学級経営についてその意義と目標を理解し、自分なりの経営方針をもつことができること。 ・授業中に使うワークシートに学んだ内容、自分の意見が書かれていること。 評価の方法　学習態度　30%，レポート50%，発表20%の成績を総合する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　そのクラス、うまい教師はこう動かす 著者名　中嶋郁雄

出版社	学陽書房
価格	1700円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-313-65223-1

書籍名	学級生活問題の議題化
著者名	宇田川敬一編
出版社	明治図書
価格	１７００円
ISBN・ISSN	ISBN:4-18-840204-0

参考URL

備考

2015年度シラバス

児童教育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET220
開講年度	2015年度
登録コード	A1086001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	児童教育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育相談，児童理解，カウンセリングマインド，事例研究，今日的な問題
授業のねらい・概要	児童一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教師として，本人および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 併せて関係機関との連携のありかたについての理解を深める。
学生の達成目標	1　教育相談の意義や諸理論について理解する。カウンセリングマインドをはじめとする面接の態度・技法について学ぶ。 2　児童理解の方法について知る。

3　今日的な問題行動(不登校・発達障害など)と相談的対応について理解するとともに関係機関や,保護者との連携の在り方を学ぶ。

授業内容	第1回	オリエンテーション 教育相談の意義・必要性・効果（目標１）
	第2回	カウンセリングマインドと相談(目標１)
	第3回	教育相談の基本的な態度と技法（１)(目標１) 言語的技法
	第4回	教育相談の基本的な態度と技法（２)(目標１) 非言語的技法
	第5回	対話上の諸問題への対処法（目標１）
	第6回	相談の諸理論と留意点(目標１)
	第7回	構成的グループエンカウンターの理論と体験（目標１）
	第8回	児童理解の方法(1)(目標２) 発達検査から
	第9回	児童理解の方法(2)(目標２) 絵画から
	第10回	保護者との面接のありかた(目標３)
	第11回	事例検討とコンサルテーション（目標３）
	第12回	非社会的行動の理解と相談(緘黙・不登校など)(目標３)
	第13回	反社会的行動の理解と相談(いじめ・万引きなど)(目標３)
	第14回	発達障害の理解と対応(LD・AD/HDなど)(目標３)
	第15回	校内体制のありかたと専門機関との連携(目標３)

予習・復習の内容	予習	・心理や教育相談に関係のある書物（含む事例）を読む。 ・人の行動の背後にある気持ちを折々に考え、感性を磨く。 ・授業に出てくるキーワードや専門用語について事前に調べる。
	復習	・授業内容をまとめる。 ・授業で学習した技法を日常生活の中で実践する。 ・課題をまとめる。
	展開	・授業中に感じた気持ちを大事にし、積極的に取り組む。 ・ロールプレイなど真摯に取り組む。 ・友達の言動に関心をよせ、よく聴き、よく観察する。

成績評価	評価の基準	・授業への積極的参加と課題提出。 ・教育相談に関する基礎的知識と，技術・態度が身についていることを合格基準とする。
	評価の方法	授業への参加態度20%，レポート30%，テスト50%で総合的に評価する。

教科書

書籍名	ピアヘルパーハンドブック
著者名	日本教育カウンセラー協会編
出版社	図書文化
価格	1,500円
ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-8100-1343-6

	書籍名	子どもの発達理解とカウンセリング
	著者名	金子智栄子編
	出版社	樹村房
	価格	1,800円
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-88367-121-2
推薦図書等	書籍名	エンカウンターで学級が変わる　小学校編１
	著者名	監修　國分康孝
	出版社	図書文化
	価格	2,233円
	ISBN・ISSN	4-8100-6271-6
	書籍名	・エンカウンターで学級が変わる　小学校編　2
	著者名	監修　國分康孝
	出版社	図書文化
	価格	2,500円
	ISBN・ISSN	4-8100-6281-9
参考URL		
備考	ピアヘルパー資格の取得希望者は必ず受講すること	

2015年度シラバス

キャリア教育指導論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET221
開講年度	2015年度
登録コード	A1087101
科目区分	児童教育基礎科目
授業科目名	キャリア教育指導論
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月4
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生きる力，自己理解，価値観，職業観，キャリア発達
授業のねらい・概要	子ども一人ひとりの社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，子どもたちのキャリア発達を促す教育ができる力をつけることを目指す。また，自己理解の方法を体験的に学ぶ。
学生の達成目標	1. キャリア教育の目的,意義,社会的背景,理論について知る。 2. 課題学習の中で多様な価値観を学び,自分の職業観,生き方を醸成する。また，興味，能力，適性などの自己理解の方法論を体験的に学ぶ。 3. 小学校や特別支援学校で行われているキャリア教育についての優れた実践例を学び、多様な迫り方を理解する。

授業内容	第1回	キャリア教育とは（目標1） 意義と必要性，社会で必要とされる力
	第2回	ニート・フリーターとその社会的背景（目標１）
	第3回	キャリア教育のねらい（目標１） 勤労観と職業観，基礎的・汎用的能力，キャリア　発達
	第4回	キャリアの基礎的理論と情報ツールの活用（目標１）
	第5回	自分の適性を知る１（目標２） 職業適性検査，パーソナリティ検査の体験と分析
	第6回	自分を知る２（目標２） 価値の明確化
	第7回	自分を知る３（目標２） 作業検査の体験と分析
	第8回	偉人伝や尊敬する人物の生き様についてまとめ発表する（目標２）
	第9回	自分を変えた出来事についてまとめ発表する(目標２)
	第10回	小学校におけるキャリア教育１（目標３） ねらいと内容　教育課程の中での実践
	第11回	小学校におけるキャリア教育２（目標３） 教育課程外での実践
	第12回	小学校におけるキャリア教育３（目標３） 体験学習の方法論と実施上の配慮
	第13回	小学校におけるキャリア教育４（目標３） 地域との連携，学校間連携，保護者との連携
	第14回	特別支援教育におけるキャリア教育（目標３）
	第15回	キャリア教育の体制作りと年間計画及び評価の必要性（目標３）
予習・復習の内容	予習	・新聞、ニュースなどから社会の情勢に関心を向ける ・偉人伝、自分の生き方を変えた出来事を論文にし、発表する準備をする。 ・与えられた課題について調べ学習をする。
	復習	・毎回の授業の内容をまとめておくこと。 ・興味を持った内容について、更に調べること。
	展開	・自分から積極的に発言し、自己開示ができるようにすること。 ・グループでの話し合い活動に意欲的に参加し、他の人から学ぶ姿勢を持つ。
成績評価	評価の基準	職業と自分の生き方を関連させて考えることができること，キャリアについて自分なりの見通しを持つことができることを合格基準にする。
	評価の方法	論文試験 20%，レポート 50%，授業への参加態度 20%，発表 10%などで総合評価する。
教科書		
	書籍名	小学校　キャリア教育の手引き<改定版>
	著者名	文部科学省
	出版社	教育出版株式会社
	価格	780円

	ISBN・ISSN	ISBN978-4-316-30025-2
推薦図書等	書籍名	キャリア教育概説
	著者名	日本キャリア教育学会
	出版社	東洋館出版社
	価格	2700円
	ISBN・ISSN	ISBN９７８－４－４９１－０２３８３－０
参考URL		
備考	新聞をよく読んで，社会の動向に敏感であること。	

2015年度シラバス

保育内容演習 Ⅰ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT201
開講年度	2015年度
登録コード	A1088101 A1088102
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1088101　前期　金3 A1088102　前期　金5
教室	Mスタジオ 音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，音楽活動、子どもの歌
授業のねらい・概要	生涯を通じ最も音感が鋭敏な幼児期の音楽教育の重要性を認識しながら，子どもが生活の中で音楽を楽しむことや，様々な機会をとらえて自己を表現する喜びを味わうことができるように援助するための基礎的方法を学ぶ。 歌唱・器楽・リズム遊び等の各発達段階・月別の題材の実習，手づくり楽器の製作，簡単な合奏等を行う。

学生の達成目標	1．幼児期における音楽体験の重要性を理解する。 2．子どもの歌のレパートリーを広げ、子どもの前で自信を持って音楽表現できる。 3．生活の中で子どもが音楽活動を楽しめるよう援助する手だてを身につける。
授業内容	第1回　子どもの生活と音楽について 4月の教材曲と指導の方法(目標1,2) 第2回　発声の基礎 5月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第3回　6月・7月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第4回　9月・10月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第5回　11月・12月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第6回　1月・2月の教材曲と指導の方法(目標2,3) 第7回　3月の教材曲と指導と指導の方法（目標2,3） 第8回　弾き歌いによる模擬指導（1）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。（目標２，３） 第9回　弾き歌いによる模擬指導（2）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。（目標２，３） 第10回　弾き歌いによる模擬指導（3）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。（目標２，３） 第11回　弾き歌いによる模擬指導（4）各回で担当を決め、弾き歌いによる模擬指導を行う。（目標２，３） 第12回　手作り楽器の製作（目標3） 第13回　手作り楽器を用いたアンサンブル（目標２） 第14回　いろいろな楽器の指導法（目標3） 第15回　易しい器楽合奏（目標２）
予習・復習の内容	予習　・子どもの歌、幼児向け番組で歌われる曲などに関心を持つ。 ・発表に向けて準備・練習に取り組む。 復習　・授業で扱った曲に親しみ、楽しく演奏する。 展開　・実習・就職に向けてこどもの歌のレパートリーを広げる。 ・保育現場を想定し、さまざまな曲の活用法を考える。
成績評価	評価の基準　生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。 評価の方法　弾き歌いの模擬指導（ 40%）手づくり楽器の製作（ 20%）器楽合奏の発表（ 20%）授業に対する取り組み（ 20%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名　『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』 著者名　東　保 出版社　全音楽譜出版社 価格　２,600円＋税 ISBN・ISSN　ISBN： 41162005 書籍名　『幼児のための音楽教育』

著者名	神原雅之・鈴木恵津子　監修・編著
出版社	教育芸術社
価格	2000円＋税
ISBN・ISSN	ISBN:978-4-87788-443-7

推薦図書等	
参考URL	
備考	弾き歌いによる模擬指導を行うため ,1年次で「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。 幼稚園・保育所等の現場を想定して授業を行います。 子どもの歌をたくさん覚えて，自分自身も楽しみながら人前で音楽表現できるようになりましょう。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

保育内容演習 Ⅱ（音楽）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT202
開講年度	2015年度
登録コード	A1088201
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（音楽）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	音楽室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，子どもの歌，音楽遊び，指導法
授業のねらい・概要	保育内容演習 Ⅰ（音楽）での学習を発展させ，グループ発表・模擬指導等の演習を通して，子どもが音楽を楽しみ，表現できるよう援助するための指導法をより実践的に学ぶ。 既習曲を活用してリズム伴奏の編曲，簡単な音楽劇，手遊び・歌遊び等の実習と模擬指導を行う。
学生の達成目標	１．手遊び・歌遊びのレパートリーを広げ,子どもと楽しもうとする意欲をもつ。 ２．生活の中で子どもが充実した音楽活動を楽しむために援助する手だてを身に

つける。
３．子どもの前で自信をもって音楽表現できる。

授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ①(目標2) 第3回　既習曲に合わせたリズム伴奏の編曲 グループ練習 ②(目標2) 第4回　既習曲に合わせたリズム伴奏のグループ発表(目標3) 第5回　既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ①(目標2) 第6回　既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ②(目標2) 第7回　既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ③(目標2) 第8回　既習曲を活用した簡単な音楽劇 中間発表 第9回　既習曲を活用した簡単な音楽劇 グループ練習 ④(目標2) 第10回　音楽劇の発表(目標3) 第11回　リズム遊び・手遊び・歌遊び等の実習と指導の方法(目標1,2) 第12回　子どもの発達段階を考慮した指導の工夫(目標2) 第13回　保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ①(目標1,2,3) 第14回　保育現場を想定した歌遊び等の模擬指導 ②(目標1,2,3) 第15回　歌遊びレパートリー集の作成(目標1,2)
予習・復習の内容	予習　・発表のための準備に取り組む。 復習　・授業で扱った曲に親しみ、楽しんで演奏する。 展開　・こどもの歌、手遊び等のレパートリーを広げる。 ・保育現場を想定し、レパートリー曲をどう活用するかを考え、仲間と情報を共有する。
成績評価	評価の基準　生活の中で子どもと音楽を楽しむための知識・技能をどれくらい習得できたか。 評価の方法　音楽劇の発表（ 30%）リズム伴奏の発表（ 30%）歌遊び等の模擬指導（ 30%）授業に対する取り組み（ 10%）で評価する。 ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	書籍名　『やさしい伴奏によるこどものうた（１）』 著者名　東　保 出版社　全音楽譜出版社 価格　２,600円＋税 ISBN・ISSN　ISBN： 4116200506 書籍名　『幼児のための音楽教育』 著者名　神原雅之・鈴木恵津子　監修・編著 出版社　教育芸術社 価格　2000円＋税 ISBN・ISSN　ISBN:978-4-87788-443-7
推薦図書等	

参考URL	
備考	１年次で「保育の表現技術 Ⅰ（音楽表現）」を履修しているか，それと同等のピアノの演奏技能を習得していることが望ましい。 グループ活動が多くなります。職場では１人で仕事をするのではありません。 他のメンバーと協力して作業する経験は現場で役立つはずです。 授業外での準備も必要になります。遅刻・欠席のないよう留意し，積極的に取り組んで下さい。 メールアドレス　k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

保育内容演習 Ⅰ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT203
開講年度	2015年度
登録コード	A1089101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	金4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育，造形表現や活動の支援，現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育等の教育現場で子どもの造形表現や活動により深く関われるように，制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する。テーマに応じた材料，用具等については，適宜個別的に支援する。 制作後は発表会・鑑賞を実施し，制作した喜びを味わう。
学生の達成目標	1.教育現場での造形表現活動についての支援のあり方について、具体的な制作を通して学ぶ。 2.子どもたちに適切な支援をするために、造形教育に関わる基本と展開について

	の理解を深める。 3.造形表現で扱う様々な材料に親しみ、用具の使い方・安全指導について習得するとともに、子どもたちの造形表現の広がりを支えられるように支援の具体的な手立てを身につける。
授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の留意点など)・パペットアイデアスケッチ(目標1.2) 第2回　ウレタンシートによるパペットの制作①頭部(目標1.2.3) 第3回　ウレタンシートによるパペットの制作②身体(目標1.2.3) 第4回　ウレタンシートによるパペットの制作③手足(目標1.2.3) 第5回　ウレタンシートによるパペットの制作④衣服など(目標1.2.3) 第6回　ウレタンシートによるパペットの制作⑤衣服・接合(目標1.2.3) 第7回　ウレタンシートによるパペットの制作⑥小物・小道具(目標1.2.3) 第8回　選択課題①～条件に沿った素材を活かした子どもの喜ぶおもちゃ作り（アイデアスケッチ）(目標1.2) 第9回　選択課題②～条件に沿った素材を活かした子どもの喜ぶおもちゃ作り（設計・計画・制作）(目標2.3) 第10回　選択課題③～条件に沿った素材を活かした子どもの喜ぶおもちゃ作り(制作①素材の活用）(目標2.3) 第11回　選択課題①～条件に沿った素材を活かした子どもの喜ぶおもちゃ作り(制作②仕組みの工夫)(目標2.3) 第12回　パペットを活用した人形劇の構想①打ち合わせ (目標2.3) 第13回　パペットを活用した人形劇の構想②打ち合わせ、練習 (目標2.3) 第14回　人形劇の留意点について;ゲストティーチャーによる演習・課題レポート ①② (目標2.3) 第15回　発表会・課題レポート③、課題レポート ④(まとめ)(目標1.2.3)
予習・復習の内容	予習　制作の準備をする 復習　制作を自主的に進める レポートをまとめる 展開　自分の制作の教育現場での展開や活用を考える
成績評価	評価の基準　保育所や幼稚園，小学校等の教育現場における造形表現活動に関して，基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに子どもの造形表現活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形表現活動を支援できる技能を持つことを合格基準とする。 評価の方法　毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

	テキストは特にない。 参考資料としてプリントなどを配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	※第一回の授業参加者で履修者を確定する。上学年優先とする。 ※本年度よりこの授業では「陶芸制作」は扱わないので留意すること。 実技なので定員45名程度で実施する予定。実習のある学生は自分で制作を進めることが多いので、留意すること。 ・実技中心の演習であり、小学校の図画工作科題材としても適した内容とする。 ・作品制作だけではなく、レポート内容も重視する。 ・各自必ずＦ６サイズのスケッチブック、色紙、鉛筆（４Ｂ）、色鉛筆や絵の具セット、紙袋、布素材などを用意すること。 ・準備や後片付けも含めて、計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。 ・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。 ・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。 ・人形の操作や人形を使った子どもとの関わりについて、ゲストティーチャーによる演習を予定しているが、講師の都合で日程は変動する。

2015年度シラバス

保育内容演習 Ⅱ（図画工作）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT204
開講年度	2015年度
登録コード	A1089201
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅱ（図画工作）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	木3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	造形教育、造形表現・活動の支援、教育現場で活用できる知識と技能の獲得
授業のねらい・概要	保育や学校の教育現場で子どもの造形活動に関われるように制作を通して基礎的な知識・技能を身につけるとともに指導力を養成する。 課題制作では，各自が創意工夫し，テーマに沿って計画的に制作する方法で展開する。 テーマに応じた材料、用具等の使用については，適宜個別的に支援する。 制作後は発表・鑑賞をもとに、制作した喜びを味わうとともに，作品を
学生の達成目標	1.教育現場での造形表現活動について、支援のあり方について具体的な制作を通して学ぶ。

2.子どもたちに適切な支援をするために、造形表現や図画工作科教育に関わる基本と展開についての理解を深める。
3.造形表現で扱う様々な材料に親しみ、用具の使い方や安全指導について習得するとともに、子どもたちの造形表現の広がりを支えられる具体的な支援の手立てを身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の留意点,造形表現の基本と展開)・粘土(陶土)を使った立体表現①(目標1.2)
	第2回	粘土(陶土)を使った立体表現②成形の仕方(目標1.2)
	第3回	粘土(陶土)を使った立体表現③構想・試作(目標2.3)
	第4回	粘土(陶土)を使った立体表現④本制作(目標2.3)
	第5回	粘土(陶土)を使った立体表現④本制作・仕上げ(目標2.3)
	第6回	基本技法を学ぶ ①基本的な技法の活用(目標2,3) (目標2.3)
	第7回	基本技法を学ぶ ②色の活用(目標2,3)・課題レポート① (目標2.3)
	第8回	お話・物語の絵～絵画表現 ①読書感想画制作(アイデアスケッチ)(目標1.2)
	第9回	お話・物語の絵～絵画表現②読書感想画制作・(下絵)(目標1.2)
	第10回	お話・物語の絵～絵画表現③読書感想画制作(配色、画材選択)(目標1.2)
	第11回	お話・物語の絵～絵画表現④ 読書感想画制作(本制作・中心部)(目標1.2)
	第12回	お話・物語の絵～絵画表現⑤読書感想画制作(本制作・背景)(目標1.2)
	第13回	お話・物語の絵～絵画表現⑥読書感想画制作(本制作・着色完成)(目標1,2,3)
	第14回	お話・物語の絵～絵画表現⑦読書感想画制作(本制作・仕上げ)・課題レポート②(目標1.2.3)
	第15回	まとめ～発表会・課題レポート③(目標1.2.3)
予習・復習の内容	予習	課題制作の準備をする
	復習	課題制作を自主的に進める 課題レポートをまとめる
	展開	自分の計画に沿って画材、材料を集め、吟味、選択、活用して、よりよい制作ができるようにする。
成績評価	評価の基準	保育所や幼稚園，小学校･特別支援学校などの教育現場における造形活動に関して，授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。 授業内容をもとに子どもの造形活動のあり方について自らの考えを持ち，個々の子どもの造形活動を支援できる技能を的確に持つことを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品40%，授業の取り組み(振り返り)等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。

教科書	書籍名	はじめよう読書感想画の実践
	著者名	森高光広
	出版社	全国学校図書館協議会
	価格	864円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4793322646

推薦図書等

参考URL

備考

・実技中心の演習で，小学校の図画工作科題材としても適した内容を含める。
・実技演習なので定員 45名程度で実施する予定。
・実習のある学生は課題を自分で進めていくことが多い。
・作品制作だけではなくレポートも重視する。
・各自必ずＦ6サイズのスケッチブック，色紙，鉛筆（４Ｂ），色鉛筆や絵の具セット，紙袋を用意すること。
・準備や後片付けも含めて計画性を持って授業内で課題が完成できるように制作すること。
・持ち物についてはプリントを配布して事前に指示する。
・制作によっては汚れることもあるので，使い古しの Tシャツやエプロン等を用意すること。
・絵画も陶芸も初心者を配慮しつつ、本格的な制作を行う。
・陶芸実習費として、粘土代金と焼成代金を履修者に個人負担してもらうので、このことを承知の上で履修すること。

2015年度シラバス

保育内容演習 Ⅰ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT205
開講年度	2015年度
登録コード	A1090101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習 Ⅰ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	月2
教室	Ｅスタジオ，フットサルコート
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，表現
授業のねらい・概要	保育内容「表現」の中の身体活動表現，及び「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1.子どもの発育発達と運動及び運動遊びの実際との関係性を理解すること。 2.運動及び運動遊びの具体的な内容を修得し，発展的にアレンジする能力を身につけること。 3.学校あるいは保育所等の現場で，自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1～3)
	第2回	リズム運動(1)(目標2)
	第3回	リズム運動(2)(目標2)
	第4回	リズム運動(3)(目標2)
	第5回	リズム運動(4)(目標3)
	第6回	リズム運動(5)(目標3)
	第7回	リズム運動(6：グループ発表)(目標3)
	第8回	器械運動遊び(1)(目標2)
	第9回	器械運動遊び(2)(目標2)
	第10回	器械運動遊び(3)(目標3)
	第11回	器械運動遊び(4)(目標3)
	第12回	活動の立案と運営(1)(目標1～3)
	第13回	活動の立案と運営(2)(目標1～3)
	第14回	活動の立案と運営(3)(目標1～3)
	第15回	活動の立案と運営(4)(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 運動課題ができるように練習をすること。 グループ発表の際には，グループごとに発表内容を立案，練習すること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から、体育・運動・スポーツに関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を，提出物にて評価する。 授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。 授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。
	評価の方法	提出物の内容 30%，発表課題の準備と内容 40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の状況 20%，準備の手伝い及び片付けなどの協力・協調性 10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ， Tシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。 指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１～３回目は講義室にて実施する。 集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。	

2015年度シラバス

保育内容演習Ⅱ（体育）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT206
開講年度	2015年度
登録コード	A1090201
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	保育内容演習Ⅱ（体育）
科目責任者	小泉　佳右
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	Ｅスタジオ，フットサルコート
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎運動技能，遊び，体力，健康，伝承遊び
授業のねらい・概要	保育内容「健康」の中の運動や遊び等についての指導法を学ぶ。教育・保育現場において，自ら授業・活動を立案し実践できる能力を養う。身体活動の場における危機管理についても学ぶ。
学生の達成目標	1.運動及び運動遊びの技術を修得すること。 2.運動及び運動遊びの指導内容・指導技術を修得し,発展的にアレンジする能力を身につけること。 3.学校あるいは保育所等の現場で,自らの力で授業や作業を立案・運営する能力を修得すること。

授業内容	第1回	ガイダンス(目標1～3)
	第2回	ボール遊び(1)(目標1)
	第3回	ボール遊び(2)(目標1)
	第4回	ボール遊び(3)(目標1)
	第5回	ボール遊び(4)(目標1～3)
	第6回	ボール遊び(5)(目標1～3)
	第7回	ボール遊び(6)(目標1～3)
	第8回	道具を使った伝承遊び(1)(目標1)
	第9回	道具を使った伝承遊び(2)(目標1)
	第10回	道具を使った伝承遊び(3)(目標1,2)
	第11回	道具を使った伝承遊び(4)(目標1,2)
	第12回	道具を使った伝承遊び(5)(目標1,2)
	第13回	運動の分類(目標3)
	第14回	幼児における運動の意義(目標3)
	第15回	総括(目標1～3)
予習・復習の内容	予習	授業のキーワードや当該授業の内容について事前に調べておくこと。 運動課題ができるように練習をすること。 グループ発表の際には，グループごとに発表内容を立案，練習すること。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	日頃から、体育・運動・スポーツに関する書籍・論文・新聞等に目を通して、最新の情報を入手する。
成績評価	評価の基準	学習内容の習得度を，提出物にて評価する。授業で提示された発表課題に対して，その準備状況と発表内容を評価する。授業に対する取り組み方も評価に含め，以上の内容を総合的に判断する。
	評価の方法	提出物の内容30%，発表課題の準備と内容40%，授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況20%，準備の手伝い及び片付などの協力・協調性10%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	ジャージ，Ｔシャツ，スポーツシューズ，体育館シューズなどの運動のできる服装で参加すること。指輪，ネックレス，ピアス等の装飾品は危険であること，また教員・保育士免許取得関係の科目という観点から，着用を禁止する。 第１回目は講義室にて実施する。集合場所等は掲示にて連絡する。なお，更衣は不要である。 保育内容演習Ｉ（体育）を履修していることが望ましい。	

2015年度シラバス

幼児理解の理論と方法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT207
開講年度	2015年度
登録コード	A1091001 A1091002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児理解の理論と方法
科目責任者	大木　みわ
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	A1091001　後期　水1 A1091002　後期　水3
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育臨床，遊戯療法，子ども理解の方法
授業のねらい・概要	子ども理解の方法を学び，子どもの行動を多角的にとらえ，支援できる実践者をめざす。
学生の達成目標	1．子ども理解の姿勢の検討。 2．子ども理解の方法を知る。 3．事例を通して理解と支援の実際を学ぶ。

授業内容	第1回	保育という臨床の場『子どもからのSOS』(目標1)
	第2回	「わたし」とはなんだろう。(目標1)
	第3回	絵本「わたしの帽子」を読む。(目標1)
	第4回	カウンセリングマインドと保育臨床「遊戯療法」の基本原理(目標2)
	第5回	箱庭療法に見えてくる子どもの世界(目標2)
	第6回	コラージュを作成(目標2)
	第7回	描画療法。MSSMを体験する。(目標2)
	第8回	子どもの理解の様々な方法-ロールプレイング(目標2)
	第9回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第10回	保育実践におけるカウンセリングマインド(目標3)
	第11回	関係のゆがみと回復-『いじめ』(目標3)
	第12回	関係のゆがみと回復-『登園拒否』(目標3)
	第13回	保育記録(目標3)
	第14回	保育記録(目標3)
	第15回	統合保育(目標1)
予習・復習の内容	予習	次回学習予定の分野について，複数のキーワードを示し，予習するよう求める。予習で理解したキーワードについて，授業終了時に提出。
	復習	毎回，授業のまとめ（要点）と振り返りを書いて提出する，合わせて予習したキーワードについて報告する。
	展開	講義・小グループでのディスカッションを中心とする。 第５回～第10回は体験を通して学ぶ。
成績評価	評価の基準	出席。毎回の提出物を評価する。
	評価の方法	実習で欠けた分は，指定されたレポートで補う。〔レポート50%，試験50%〕
教科書	書籍名	子ども理解とカウンセリングマインド
	著者名	青木，間藤，河邉著
	出版社	萌文書林
	価格	1,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89347-071-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

幼児保育相談の基礎

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKT301
開講年度	2015年度
登録コード	A1092001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼児保育相談の基礎
科目責任者	桑田　良子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児保育相談，幼児理解，カウンセリングマインド，今日的な問題，連携
授業のねらい・概要	幼児一人ひとりの発達と教育にかかわる諸問題をめぐって，教諭として，幼児および保護者などに必要な心理的・教育的援助を行うための基礎的知識や技術の習得をめざす。 また、支援を必要とする子どもへの対応と、関係機関との連携のありかたを学ぶ。
学生の達成目標	1.カウンセリングの意義や諸理論，面接の態度・技法について体験的に学ぶ。 2.幼児理解の方法について知る。

３.今日的な問題行動(虐待・発達障害など)とその対応について関係機関や,保護者との連携について理解する。

授業内容	第1回　幼児保育相談とは 保護者の子育て不安とその背景　(目標１) 第2回　カウンセリングマインドについて（目標１） 第3回　幼児理解の方法１（目標２） 幼児期の発達と特徴 第4回　幼児理解の方法２(目標２) 子どもが出会う幼児期の問題 第5回　幼児の行動から対応を考える１（目標２） 幼児との関係作り：教育相談の観点から 第6回　幼児の行動から対応を考える２（目標２） 遊びの持つ意味 第7回　子どもに関する相談のありかたと方法１（目標２） 面接の態度：非言語的技法とロールプレイ 第8回　子どもに関する相談のありかたと方法２（目標２） 面接の態度：言語的技法とロールプレイ 第9回　アセスメントについて（目標２） 発達障害のある子の理解と支援 第10回　事例検討（目標３） 子どもの育つ環境を含めて理解する 第11回　虐待の発見と対応（目標３） 第12回　発達障害のある子をもつ保護者理解　(目標３) 出生前診断とダウン症の母親から学ぶ 第13回　幼児保育に見られる問題と対応(目標３) 登園拒否・緘黙・言葉の発達 第14回　現場における乳幼児相談の実際（目標３） 保健センター相談員による講和 第15回　より効果的な相談にするための方策(目標３) 保護者・他機関との連携・体制づくり
予習・復習の内容	予習　・事前に指示する内容については調べ、発表できるようにする。 ・乳幼児に関する最新の図書や新聞の記事に関心をもち、そのことについての自分なりの考えを述べることができるようにする。 復習　・学習した内容の範囲の教科書を読む。 ・指示されたレポートの課題を期限までに提出する。 ・興味を持った内容についてさらに調べ、知識を深める。 展開　・子どもの映像を見て指導法を話し合う時など、積極的に自分の考えを述べる。 ・子どもの心性にもどって考えることができる。 ・「相談」の意味を問い続けて15回の授業を受ける。
成績評価	評価の基準　・保育相談の基礎知識と基本的技術，態度が身についていることを合格基準とする。 ・植草学園大学相談支援センターにボランティアに１回以上行くこと。 ・課題を提出する。

	評価の方法	受講態度 20%，レポート 30%，テスト 50%で総合的に評価する。
教科書	書籍名	幼児保育とカウンセリングマインド
	著者名	氏原　寛・東山紘久
	出版社	ミネルバ書房
	価格	2,600円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4 -623-02493-8
推薦図書等	書籍名	ピアヘルパーハンドブック
	著者名	日本教育カウンセラー協会
	出版社	図書文化
	価格	1,500円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-8100-1343-6
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

幼稚園教育実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP301
開講年度	2015年度
登録コード	A1094001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼児教育者としての将来に展望を持ち，専門職としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。

学生の達成目標	1.幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	実習時期 （1）前期実習・・・６月に１週間（目標1） （2）後期実習・・・１０月～１１月に３週間（目標2） 前後期とも同一園で実習する。 実習の内容 （1）見学と観察（目標1） （2）保育への参加と指導補助（目標1） （3）部分実習（目標2） （4）責任実習（目標２） 前期実習においては（1）（2）を主とする。 後期実習においては（１）～（4）をすべて行い指導案を作成して精錬実習を行う。 勤務・指導 （1）実習は園長及び園長の指定する担当指導教諭の指導によって行う。（目標1.2） （2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2） 報告・記録 （1）実習出勤簿に押印し、勤務状況を記録する。(目標3) （2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。(目標3) （3）実習評価表により、園長及び指導担当教諭の評価を受ける。(目標3)
予習・復習の内容	予習　翌日の保育について計画し、準備する。 部分実習や精錬授業の指導案を作成し、指導を受け、準備する。 復習　その日の保育を振り返り、省察し、実習日誌に記録する。 展開　幼稚園教育の現状と課題について、関心をもち調べる。 自己を振り返り、保育者としての資質・力量の向上に努める。
成績評価	評価の基準　前期実習と後期実習をあわせて評価する。 実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する ・幼稚園教育要領 ・幼稚園教育実習の手引き ・実習記録簿 ・実習関係書類
推薦図書等	

参考URL	
備考	同時に「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。

2015年度シラバス

幼稚園教育実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP401
開講年度	2015年度
登録コード	A1094101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
科目責任者	植草　一世
担当教員	髙木　夏奈子 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　選択 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園教育の実際を体験することにより，幼稚園教育の実際を理解し，教員としての見識・技能を高め，人間的資質を磨こうとする姿勢を持つ。 幼児と共に生活する体験を通して，幼児教育の重要性を認識し，子どもに対する理解を深め，今後の学習に意欲を持って取り組めるようにする。

学生の達成目標	1.幼稚園教育の実際の場を経験し,責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2.これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより,その後の学習課題を明確にする。 3.教員としての将来に希望をもち,その職務への自覚を深め,自己を陶冶する。
授業内容	１．実習期間１０月に２週間の実習を行う（目標1.2.3） ２．実習の内容 （１）見学と観察（目標1） （２）保育への参加と指導補助（目標1） （３）部分実習（目標1.2） （４）責任実習（目標1.2） 指導案を作成して精錬実習を行う。 3　勤務・指導 （1）実習は園長及び園長の指定する指導担当教諭の指導によって行う。（目標1.2） （2）勤務は実習園教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する。（目標1.2） 4　報告・記録 （1）実習出勤簿に押印し、勤務状況を記録する。(目標3) （2）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける。(目標3) （3）実習評価表により、園長及び指導教諭の評価を受ける。(目標3)
予習・復習の内容	予習　翌日の保育の予定を確かめ、教材等の準備をする。 部分実習・精錬実習について、指導案を立案する。 復習　その日の保育活動を振り返り所定の日誌に記録する。 展開　幼稚園教育の現状と課題に関心をもち、調べる。 自己を振り返り幼稚園教師としての適正、資質について吟味し、研さんする。
成績評価	評価の基準　実習園の評価は，内容と基準を評価表に明示して評価をゆだねる。 学内担当教員の評価は，巡回時の状況，記録簿の内容，実習への取り組み等によって行う。 評価の方法　実習園による評価に，学内担当教員の評価を加味して評価する。 両者の評価の割合等は，学内の実習所管委員会の合議による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する ・幼稚園教育要領 ・幼稚園教育実習の手引き ・実習記録簿 ・実習関係資料
推薦図書等	
参考URL	
備考	大学が定める実習履修要件を満たしていること。

2015年度シラバス

幼稚園教育実習Ⅰ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP201
開講年度	2015年度
登録コード	A1095001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ事前事後指導
科目責任者	栗原　ひとみ
担当教員	植草　一世 髙木　夏奈子 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	（前期）水4 （後期）木5
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園実習の意義や必要性を理解し，実習が十分な成果を修められるように準備する。 幼稚園実習終了後に，実習で体験し学んだことを整理して確認し，今後の学習につなげる。

学生の達成目標	幼稚園教育の実際の場に入るにあたって,責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 1　実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。 2　実習の学習課題を明確にする。 3　実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	前期 【事前指導】 第1回　実習の目的と概要 幼稚園と幼稚園教諭の職務(目標1) 第2回　幼稚園実習の心構え(目標1)幼稚園実習の内容と準備の歩み(目標1) 第3回　記録簿その他実習関係書類作成について(目標1,2) 第4回　幼稚園の実際・幼稚園の1日(目標1,2) 第5回　実習記録簿の書き方について(目標1,2) 第6回　事前訪問の仕方と注意(目標1,2) 第7回　実習中の諸注意(目標1,2) 第8回　実習直前指導－観察実習で学ぶこと－(目標1,2) 【事後指導】 第9回　前期事後指導－観察実習で学んだこと(目標1,2) 後期 【事前指導】 第10回　指導案の書き方－なぜ指導案を立てるのか－(目標1,2) 第11回　模擬部分実習－指導案は実際にどのうように展開されるのか－(目標1,2) 第12回　教材研究－保育のねらいを達成するために－(目標1,2) 第13回　後期実習直前指導(目標1,2) 【事後指導】 第14回　後期実習の報告(個別指導)(目標3) 第15回　今後の自己課題を捉える(目標3)
予習・復習の内容	予習　幼稚園教育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また疑問点などをまとめておく。 実習先幼稚園について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 展開　幼稚園教諭としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 評価の方法　以下の内容が認められれば実習の意欲がないとみなす。 1　授業欠席数が4回以上 2　提出物の提出遅れが4回以上 ＊但し1・2とも正当な理由によって事前に連絡のあった場合はこの限りではない。
教科書	

推薦図書等	書籍名	最新保育資料集(幼稚園教育要領含む)
	著者名	子どもと保育総合研究所　代表森上史朗
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2000円
	ISBN・ISSN	978－4－623－06950－7

参考URL

備考

2015年度シラバス

幼稚園教育実習Ⅱ事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EKP201
開講年度	2015年度
登録コード	A1095002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ事前事後指導
科目責任者	植草　一世
担当教員	髙木　夏奈子 栗原　ひとみ 實川　慎子
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	（前期）水4 （後期）木5
教室	（前期）講義室10，11 （後期）講義室9
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼稚園，実習，子ども，幼稚園教諭
授業のねらい・概要	幼稚園実習の意義や必要性を理解し，実習が十分な成果を納められるように準備する。 幼稚園実習終了後に，実習で体験し学んだことを整理して確認し，今後の学習につなげる。

学生の達成目標	1.幼稚園教育の実際の場に入るにあたって,責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2.実習のために必要で有効な知識・技術を学び,それを生かして実習できるよう準備する。実習の学習課題を明確にする。 3.実習の体験を踏まえて,将来への希望と今後の学習への意欲を高める。
授業内容	【事前指導】 第１回　授業の目的と概要 幼稚園と幼稚園教諭の職務(目標1) 第２回　幼稚園実習の心構え(目標1)幼稚園実習の内容と準備の歩み(目標１･2) 第３回　記録簿その他実習関係書類作成について(目標2) 第４回　幼稚園の実際・幼稚園の1日(目標2) 第５回　実習記録簿の書き方について(目標2) 第６回　実習記録簿の書き方の実際(目標2) 第７回　実習記録簿の書き方の実際(目標2) 第８回　指導案の書き方について(目標2) 第９回　指導案の書き方の実際(目標2) 第10回　部分実習と精錬実習について(目標１･2) 第11回　事前訪問指導と直前指導(目標１．2) 第12回　実習中の諸注意(目標2)-実習 【事後指導】 第13回　実習のまとめ(礼状・記録等整理)(目標3) 第14回　実習のまとめ(報告会)(目標3) 第15回　実習のまとめ(個別指導)(目標3)
予習・復習の内容	予習　幼稚園教育実習の手引きに目を通し、あらかじめ内容を理解する。また疑問点などをまとめておく。 実習先幼稚園について、インターネット等で調べる。 復習　授業で注意のあった事柄について、必要な準備や練習等をする。 展開　幼稚園教諭としての心得や、保育現場での留意すべき事柄について確認する。
成績評価	評価の基準　幼稚園教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，記録簿や関係書類を適正に整え，心身の備えを含めて幼稚園実習の準備を行うことができたか。 実習終了後に，実習を振り返り，今後に向けて展望と課題を的確にとらえることができたか。 評価の方法　レポート・課題への取り組みと達成度（ 70%），授業への取り組む意欲（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する ・幼稚園教育要領 ・実習関係書類実習てびき ・実習記録簿配布
推薦図書等	書籍名　最新保育資料集(幼稚園教育要領含む) 著者名　森上史郎監修 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-623-06650-7

参考URL

備考

2015年度シラバス

小学校教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP201
開講年度	2015年度
登録コード	A1096001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育参観実習
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学校の教育活動，授業の見方，子どもの姿

授業のねらい・概要

	現場においての諸活動がどのように行われているかを参観したり教師より現場の話をきいたりして，視野を広め，今後の大学での授業に役立てるとともに，本実習に向けて心構え等を育成する。
学生の達成目標	１．実習に対する心構え,マナーを身に付けることができるようになる。 ２．学校の教育動や児童の発達等の概要を知る。 ３．教師の授業への取り組み方,子どもの活動の様子が分かるようになる。
授業内容	７月に実施。 参観実習事前指導で，心構えやマナーについて確認する。授業の見方,記録のとり方等を知る。(目標１) 学校参観を行い，授業参観や生活の様子を通して，教育書活動のあらましや，取り組みの大体を知る。（目標２，３） 参観実習事後指導で，参観での学びをシェアし，まとめたものをレポートとして提出する。(目標２)
予習・復習の内容	予習　参観実習の事前指導には必ず出席し，参観実習の意義を理解しておくこと。また，参観にふさわしい態度，服装，注意事項を確認すること。 復習　記録を整理し，事後指導に備えること。事後指導の後には，参観での体験をもとに大学の授業に臨むようにすること。 展開　立ち振る舞いや言葉遣い等に十分気を付けること。
成績評価	評価の基準　学校の教育活動に関心をもって参加しているか，参観態度はまじめであったか，授業の様子等をつかむことができたかを合格基準とする。 評価の方法　参観の態度（ 50%）参観記録・レポート（ 50%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 教科書はない。学校案内の資料等を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校の免許取得希望者は参加すること。

2015年度シラバス

小学校教育実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP301
開講年度	2015年度
登録コード	A1097001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習Ⅰ
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，規範，自覚，適性

授業のねらい・概要

	教職の厳しさや楽しさを知り自分の適性について考える。 教育実習を通して，学級経営や授業のやり方，子どもの見方などについて，実践的な学びを深める。
学生の達成目標	１．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつ。 ２．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けて努力できる。 ３．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもつ。
授業内容	５月～７月に実施。 第１週目　学校経営や服務について知る。教員や児童の様子をよく観察し，記録をとる。（目標１） 第２週目　各教科領域の指導法等について学び，児童への対応等について，指導教官から具体的に学ぶ。（目標２） 第３週　各教科領域で授業を実践し，さまざまな状況に応じての対応力を身につける。（目標２，３） 第４週　精錬授業等，実際の指導場面を通して，指導の在り方について学んでいく。適性を考える。（目標３）
予習・復習の内容	予習　実習の手引きをよく読み，事前の準備をする。 実習の事前指導を思い起こし，心の備えもしておくこと。 復習　記録簿は早めに整理し，反省を加える。 手引きを見て事後の手続等をきちんとする。 展開　実際に子どもたちと関わり，実務に触れたことをまとめていく。
成績評価	評価の基準　休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度が身に付いたか。 評価の方法　実習校での評価を参考とする(100%)。
教科書	実習ノート「教育実習の手引き」を教科書として用いる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	４週間の勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。

2015年度シラバス

小学校教育実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP302
開講年度	2015年度
登録コード	A1097101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習 Ⅱ
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	自由	自由
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教職，規範，自覚，適正

授業のねらい・概要

	教職の厳しさや楽しさを知り自分の適性について考える。 教育実習を通して，学級経営や授業のやり方，子どもの見方などについて，実践的な学びを深める。
学生の達成目標	１．大学で学んだ理論や技術を教育現場に適用し実践力のある指導者になろうとする自覚をもつ。 ２．教育現場の実態及び問題を様々な体験を通して把握し解決に向けた努力ができる。 ３．自らの教職に関する職能や適正を省みて，今後の進路について明らかな見通しをもつ。
授業内容	９月～11月に実施。 第１週目　学校経営や服務について知る。教員や児童の様子を観察し，各教科の指導法について学ぶ。（目標１，２） 第２週目　各教科等で授業を実践し，実際の場面を通して，指導の在り方について学んでいく。（目標２，３）
予習・復習の内容	予習　実習の手引きをよく読み，実習校に合わせて対処できるように準備をしておく。 事前指導の内容を復習し，心の備えもしておく。 復習　早めに記録簿を整理し反省を加えておく。 事後指導に向けて実習にあった事柄を感想もまじえて整理しておく。 展開　実際に子どもたちと関わり，実務に触れたことをまとめていく。
成績評価	評価の基準　休まず勤務し，責任ある行動をとり，自ら学ぶ積極的な態度を身に付けたか。 評価の方法　実習校での評価を参考とする(100%)。
教科書	実習ノート「教育実習の手引き」を教科書として用いる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	実習中，勤務に耐えられるように日ごろから体調を整え，健康な生活を心がける。事故を未然に防ぐように配慮に努め周りの人に迷惑をかけないようにする。 規則正しい生活の良さに気付き自らの健康維持に努める。 気持のよい挨拶に心がけ感謝の心を伝えるようにする。

2015年度シラバス

小学校教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP202
開講年度	2015年度
登録コード	A1098001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	小学校教育実習事前事後指導
科目責任者	戸丸　俊文
担当教員	桑田　良子 川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	月5
教室	講義室10，11
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校教育活動，実習，児童，小学校教諭

授業のねらい・概要

	事前指導では，実習に対する心構えを持つとともに，実習に際して必要な事柄を確実に身に付ける。 事後指導では，自己の学びや課題を整理し，今後の大学生活に生かす。
学生の達成目標	１．実習の意義，心構えについて理解する。 ２．学校現場の概要を理解し，実習を行うにあたっての基礎的能力や態度をについて知る。 ３．実習で学んだことを理解し，今後の大学生活に生かす。
授業内容	第1回　ガイダンス・実習の目的と概要等について知る。（目標１） 第2回　実習にあたっての留意事項と心構えや諸準備について知る。（目標１） 第3回　授業観察の視点・教材研究の方法・指導案の書き方の概要を知る。（目標１，２） 第4回　発問計画，板書計画，教具や資料の準備等について知る。（目標２） 第5回　教科等の実践上の指導(指導案の書き方等）を具体的に知る。（目標２） 第6回　服務等について確認する。事前訪問の注意 記録簿の書き方，挨拶,打ち合わせでの話し方等について確認する。（目標２） 第7回　＜事後指導＞ 実習での学びを共有する。実習中の体験をグループで話し合う。（目標３） 第8回　グループ代表による体験談の発表を聞き，実習での学びを共有する。（目標３）
予習・復習の内容	予習　実習について日常から関心を持ち，先輩の話を聞くなどして現場の様子を知る努力をする。 実習の手引きをもとに毎回の該当箇所をよく読み下調べをしておく。 復習　毎回の授業のまとめを実習の手引きに照らし合わせてメモしておく。 実習の事後指導の後にも，実習体験を生かして講義等に臨むこと。 展開　実習の事前指導をしっかりして準備しておくことが本実習の成果を左右する。 実習の事後指導で自己を見つめなおし，今後の進路のあり方を定め、自己改善につなげていく。
成績評価	評価の基準　小学校教育実習の目的，概要等，授業で取り上げた内容を理解し，実習を終えてその成果をまとめることができたか。 評価の方法　記録簿，レポート等の内容 学習への取り組み方
教科書	実習の手引き，実習記録簿を用いる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	小学校参観実習を終えていること。

2015年度シラバス

介護等体験実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EEP203
開講年度	2015年度
登録コード	A1099001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	介護等体験実習
科目責任者	早川　雅晴
担当教員	加藤　悦子 宮下　裕一 京極　邦明 田所　明房
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者、高齢者、特別支援学校、社会福祉施設、介護・介助
授業のねらい・概要	社会福祉施設や特別支援学校での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。障害者・高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設や特別支援学校における支援内容・方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。

学生の達成目標	１．障害者・高齢者等に対する介護・介助及び交流等の体験により支援の必要な方たちへの理解を深める。 ２．社会福祉施設職員や特別支援学校職員の仕事の内容や支援の方法について理解する。
授業内容	原則６月～２月に実施 事前指導： ①教員免許特例法と今後の手続き及び申込書類等の書き方について(目標２) ②申込書類等の作成及び特別支援学校のガイダンス(目標２) ③「介護等体験学生プロフィール」の作成及び社会福祉施設のガイダンス（目標２） 社会福祉施設： 実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける（目標１．２） １日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ２日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ３日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ４日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ５日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） 特別支援学校： 実習先の方針に基づきオリエンテーションを受ける（目標１．２） １日目：実習先の指導計画に従って実習をする（目標１．２） ２日目：作成された回ごとの体験記録について指導を受ける（目標１．２） 事後指導： ①学生による体験発表（目標２） ②学生による体験発表と総まとめの講義（目標２）
予習・復習の内容	予習　実習の手引きをよく読み、早めに事前の準備をする。 復習　記録簿は早めに整理し、反省を加える。 手引きを見て事後の手続等をきちんとする。 展開　障害者・高齢者等への支援内容についてまとめておく。
成績評価	評価の基準　特別支援学校や社会福祉施設における障害者・高齢者等への基礎的な支援内容・方法が理解できていることを合格基準とする。 評価の方法　事前・事後及び体験実習の出席状況・参加の姿勢を考慮し、体験実習先指導者の評価及び実習記録等で評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 配布する「小学校及び特別支援学校教育実習の手引き」を用いて指導する。
推薦図書等	書籍名　介護等体験ガイドブック　フィリア 著者名　全国特別支援学校長編書 出版社　ジアース教育新社 価格　1008円 ISBN・ISSN　ISBN978-4-921124-73-1

参考URL	
備考	注意事項：小学校教諭免許状の取得には、介護等体験（特別支援学校において2日間、社会福祉施設等で5日間）が義務付けられていますが、特別支援学校教諭免許状を取得する場合は不要。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

情報機器演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET222
開講年度	2015年度
登録コード	A1100001 A1100002
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	情報機器演習Ⅰ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	A1100001　前期　金3 A1100002　前期　金4
教室	ＰＣ室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，LAN，セキュリティ，情報管理
授業のねらい・概要	情報の概念，および，ハードウェアとソフトウェアについて，基本的な知識を学習し，コンピュータ技術の歴史，情報処理・伝達の仕組みを理解する。また，WWWにおける情報伝達手法や，インターネット上のサービスの背景にある技術的知識を学習する。 さらに，教育現場に必要とされる技術と知識について習得すると同時に，将来の教育従事者として知っておくべき情報管理スキルを身につける。

学生の達成目標	(1)コンピュータやインターネットにおける情報のやりとりの概要を説明できるようになる。 (2)インターネット, WWWの概要と適切な扱い方を理解できるようになる。 (3)教育現場におけるコンピュータ関連技術の適切な利用法を身につける。
授業内容	第1回　イントロダクション 第2回　コンピュータの歴史 情報処理技術の変遷 (目標1) 第3回　デジタルデータ デジタルの概念,データの扱い方 (目標1) 第4回　ハードウェアとソフトウェア 記憶装置, OS,アプリケーション (目標1) 第5回　ネットワーク(1) ネットワークの基本概念 (目標2) 第6回　ネットワーク(2) ネットワークを用いた情報管理 (目標2) 第7回　情報セキュリティ セキュリティ概念,情報を守るための技術(目標2) 第8回　学校教育におけるネットワーク 学内 LAN,管理者概念 (目標3) 第9回　情報資源の管理と利用(1) 情報の価値,データベース (目標2) 第10回　情報資源の管理と利用(2) 情報の複製 (目標2) 第11回　情報資源の管理と利用(3) 個人情報保護,法的側面 (目標2) 第12回　教材利用と著作権 フェアユースの概念, e-learning(目標3) 第13回　教育と ICT(1) 技術の発展,事例紹介(目標3) 第14回　教育と ICT(2) 教育上のニーズと利用方法の多様性 (目標3) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習　基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）ができるようにしておいてください。 復習　前回までの知識を前提として授業のトピックを設定しますので、授業で登場したシステム等の名称でわからないものがあるときは、必ず調べて理解しておいてください。 展開　さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準　この授業は演習です。上記の達成目標を合格の基準とします。 評価の方法　授業中の練習問題への取り組み 60%, 随時実施する達成度を確認する課題 40%の合計で評価します。
教科書	書籍名　『インターネット社会を生きるための情報倫理』 (情報books plus!) 著者名　情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ 出版社　実教出版 (2013/3/31) 価格　432円 ISBN・ISSN　4407330317
推薦図書等	書籍名　情報倫理入門 著者名

	江口聡,喜多千草,永崎研宣,村上祐子,坪井雅史,川口嘉奈子,吉永敦征,谷川卓,土屋俊,大谷卓史,川口由起子
出版社	アイケイコーポレーション
価格	2,730円
ISBN・ISSN	978-4874922736
書籍名	情報倫理 ~ネット時代のソーシャル・リテラシー
著者名	髙橋慈子, 原田隆史, 佐藤翔, 岡部晋典
出版社	技術評論社
価格	1,382円
ISBN・ISSN	477416822X

参考URL	
備考	大学にあるパソコンを利用します。 飲食厳禁等，教室で指示される規則を必ず守ってください。 必須ではありませんが，コンピュータ演習 Ｉを履修していることが望ましいです。 授業時間内で終わらなかった課題は宿題となります。

2015年度シラバス

情報機器演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EET223
開講年度	2015年度
登録コード	A1101001
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	情報機器演習Ⅱ
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金4
教室	ＰＣ室
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コンピュータ，ネットワーク，高度情報化社会，情報共有，情報倫理
授業のねらい・概要	情報機器演習Ⅰでの学習をふまえ，高度情報化社会に自信を持って対応できるようにする。 現在利用可能な技術やサービスの演習課題を通して，コンピュータ，インターネットの社会的役割を体得する。 さらにコンピュータ・ネットワークを活用するために，ネットワーク接続技術，および，サーバへのデータのアップロード・ダウンロード手法を学習する。 これらの知識にもとづき，現在あるいは将来的に発生する情報倫理的問題に適切に対処するための方法論を身につける。

学生の達成目標	1.コンピュータと情報技術の発展の概要を学び,その社会的影響を説明できるようになる。 2.ネットワーク接続の基本的な知識を身につける。 3.情報技術および情報倫理に関する問題に対して自分の主張を行えるようになる。
授業内容	第1回　イントロダクション コンピュータ,ネットワーク技術の概要(目標1,2) 第2回　高度情報化社会とネットワーク ネットワーク利用の事例(目標2) 第3回　コンピュータとインターネットの社会的役割(1) 現在利用されている技術(目標1) 第4回　コンピュータとインターネットの社会的役割(2) 未来に実現する技術(目標1) 第5回　コンピュータとインターネットの社会的役割(3) 身近な技術を体験する(目標3) 第6回　無線ネットワーク 概説,活用事例の紹介(目標2) 第7回　ネットワークにおける情報共有 プリンタ,オンラインディスク(目標2,3) 第8回　ネットワークを用いたデータの扱い ダウンロード,アップロード(目標2,3) 第9回　インターネットコミュニティ(1) 概要:利用目的,技術について(目標1) 第10回　インターネットコミュニティ(2) 演習:コミュニティに参加する(目標1) 第11回　インターネットコミュニティ(3) 問題事例の考察(目標2,3) 第12回　情報倫理的問題とともに暮らす(1) 利用者として:情報源の権威と信頼性(目標3) 第13回　情報倫理的問題とともに暮らす(2) 発信者として:ブログ,電子掲示板における問題(目標3) 第14回　情報倫理的問題とともに暮らす(3) 市民として:検閲,フィルタ(目標3) 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習　基本的なパソコンの操作（メモ帳、ワード、パワーポイント、個人用フォルダの使い方）ができるようにしておいてください。 復習　前回までの知識を前提として授業のトピックを設定しますので、授業で登場したシステム等の名称でわからないものがあるときは、必ず調べて理解しておいてください。 展開　さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準　この授業は演習です。 上記の達成目標を合格の基準とします。 評価の方法　授業中の練習問題への取り組み 60%，随時実施する達成度を確認する課題 40%の合計で評価します。
教科書	書籍名　インターネット社会を生きるための情報倫理 (情報books plus!)

	著者名	情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ
	出版社	実教出版
	価格	432円
	ISBN・ISSN	4407330317
推薦図書等	書籍名	情報倫理入門
	著者名	江口聡,喜多千草,永崎研宣,村上祐子,坪井雅史,川口嘉奈子,吉永敦征,谷川卓,土屋俊,大谷卓史,川口由起子
	出版社	アイケイコーポレーション
	価格	2,730円
	ISBN・ISSN	978-4874922736
	書籍名	情報倫理 ~ネット時代のソーシャル・リテラシー
	著者名	髙橋慈子, 原田隆史, 佐藤翔, 岡部晋典
	出版社	技術評論社
	価格	1,382円
	ISBN・ISSN	477416822X
	書籍名	インターネットの光と影Ver.5: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門
	著者名	情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ
	出版社	北大路書房
	価格	2,052円
	ISBN・ISSN	4762828297
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

教職実践演習（小学校） A

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102101
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校） A
科目責任者	京極　邦明
担当教員	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室9
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	学級経営、学習指導、生徒指導、実践演習
授業のねらい・概要	これまでの学習の履歴について自己評価を行い、教師像をもとに自己の学習の目的を明確にさせてから、学級経営、学習指導、生徒指導の実際に即して実践的な演習を行う。また、近隣小学校学校においてボランティア活動も含めた現場体験を行い、実践力を高める。
学生の達成目標	1.教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って、自己の職責を果たすことができる。

	2.児童の気もちを理解し信頼関係を築き、子どもの抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる。 3.学習指導の基本事項を身に付け、指導技術を身に付けて個々の子どもの反応に応じて指導することができる。
授業内容	第1回　イントロダクション・・これまでの学習の振り返り 演習 第2回　望ましい教師像 演習　グループ討論 第3回　教科等授業の諸問題　その１ 演習　グループ討論 第4回　子ども主体の授業を実践する グループ討論 第5回　児童・生徒の問題行動への対応 演習　グループ討論 第6回　保護者との連携 グループ討論 第7回　教科等授業の諸問題　その２ 演習　グループ討論 第8回　子ども理解と発達支援 演習　グループ討論 第9回　模擬授業と授業研究・・その１ 演習　グループ討論 第10回　模擬授業と授業研究・・その２ 演習　グループ討論 第11回　関係機関との連携 第12回　課題探究力の育成１ 第13回　課題探究力の育成２ 第14回　特別支援教育の課題 第15回　よりよい教師になるための自己課題 演習　グループ討論
予習・復習の内容	予習　・教職関わる事柄に関して、自分にはどんな課題があるかを見つけ、下調べをしておく。 ・グループで活動する場合には、あらかじめ活動の進め方など事前相談し、準備をしておく。 復習　・毎回の授業でわかったこと等を記録しまとめておく。 ・その日の自分の活動を自己評価し、次にはどう対処するとよいかを考えておく。 展開　・学校現場に関わる教育の情報に関心を持ち、関連する報道ついて記録し、現状の課題をとらえておく。
成績評価	評価の基準　小学校の教師になるものとしてふさわしい考え方を身に付けているか。 教師としての基本的な指導技術等を身に着け、教育現場に対する様々な事柄を理解できていいるかで評価する。 評価の方法　発表レポート（６０%）授業参加態度・課題追求の姿勢（４０%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

教職実践演習（小学校） B

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102102
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校） B
科目責任者	村上　悦子
担当教員	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自らの課題　教師の資質向上　学校組織と学級経営　保護者対応
授業のねらい・概要	将来教員になるうえで自己の課題は何なのかを明らかにし，テーマを設定する。その前提となるのは３年次の教育実習であり，学校ボランティア活動である。自分自身を客観的に洞察し，教師として自信と意欲をもって教職に就けるようにすることをねらいとする。

学生の達成目標

	1.教育課題の中で，自らの課題について焦点を絞ることができる。 2.テーマを設定し，自ら追求し学修を深めることができる。 3.教育現場で生かすための最終報告をまとめることができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（授業のねらい，事前の自己診断、ポートフォリオ作成について説明） 第2回　各自の課題からテーマを絞り込む(目標1) ① 使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項 ② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 児童理解や学級経営等に関する事項 ④ 教科等の指導力に関する事項 ⑤ その他 第3回　講演「小学校現場における地域との関わり」（目標２） 第4回　教科授業の諸問題・模擬授業①（国語等）（目標２） 第5回　教科授業の諸問題・模擬授業②（道徳等）（目標２） 第6回　児童主体の授業を実践する。提案授業（目標２） 第7回　児童との出会い（学級開き）（目標２） 第8回　「保護者との対応」「クレーム対応」～グループ協議（目標２） 第9回　特別な支援を要する児童の支援を学ぶ（目標２） 第10回　講演「教育現場の著作権を学ぶ」（目標２） 第11回　対人関係理解と教師の対応～グループ協議（目標２） 第12回　場面指導，言葉遣いや電話の対応～グループ協議（目標２） 第13回　講演「より良い教員になるための心構え」（目標２） 第14回　時事問題「これから役立つ新聞の読み方」～グループ協議（目標２） 第15回　まとめ～自己課題解決に向けて　レポート作成(目標３)
予習・復習の内容	予習　自己の課題に関わる書籍を読む。 模擬授業の準備やリハーサルをする。 レポート作成のための情報を収集する。 復習　ポートフォリオを活用し絶えず自己の行為について振り返りを行う。 模擬授業を行ったことで見えた課題を整理する。 展開　ポートフォリオを作成し演習と評価に生かす。 自らの考えと他者の意見を比較検討し，より良い考えを導き出す。 模擬授業を取り入れ，実践力を養う。
成績評価	評価の基準　自らの課題を明らかにすることで，テーマを設定できたか。 自分自身の生き方と関連させて，自らの教育課題を追求することができたか。 評価の方法　発表レポート（６０%）　授業参加態度・課題追求の姿勢（４０%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特になし
推薦図書等	
参考URL	

備考	教育実習ノートを持参する。

2015年度シラバス

教職実践演習（小学校）C

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102103
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（小学校）C
科目責任者	高野　良子
担当教員	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	省察、課題探求力、ロール・プレーイング技法、実践演習、自己点検
授業のねらい・概要	教員にふさわしい資質能力を身につけているかどうかを、これまでの学習実績、教育実習やボランティアなどの体験を振り返って自己点検する。その上で、各自の資質能力を伸ばすとともに、弱点を補い各自の課題を解決し、教育者としての意欲と自信を持って出発できることをねらいとする。また、現職教員等の経験談を聞く機会を持つこと等を通して、より実践的な資質を強化する。

学生の達成目標

1.教職に関する基本的な理解を確かなものとする。
2.教員としての自覚を持つとともに、他の教職員と協力・連携して職務を遂行し、児童の抱える課題に対し適切な行動をとり、学級経営等ができる事項を身につける。
3.学習指導の基本・指導技術を身につけるとともに、個々の児童に応じた適切な実践的指導力の充実を図る。

授業内容	第1回　オリエンテーション：学び・体験の振り返り　(目標1) 第2回　望ましい教師像を考える。：グループ討議と発表　(目標1) 第3回　学級の1年間と学級作りの実際を検討する。：グループ討議　(目標2) 第4回　学習指導案の意義と作成上の留意点を検討する。　(目標3) 第5回　子ども主体の授業を実践する。：提案授業　(目標3) 第6回　模擬授業と授業研究①導入編：模擬授業、全体質疑と検討　(目標3) 第7回　模擬授業と授業研究②展開編：模擬授業、レポート提出　(目標3) 第8回　児童・生徒の問題行動への対応を学ぶ。：グループ討議　(目標2) 第9回　保護者・地域との連携を学ぶ。：グループ討議　(目標2) 第10回　よりよい教員となるための課題探究力の追及①：実践演習、グループ討議　(目標1・2・3) 第11回　特別な支援を必要とする子の支援を学ぶ。：演習、グループ討議　(目標3) 第12回　課題探究力の追及②：グループ・ワークと討議　(目標1・2・3) 第13回　課題探究力の追及③：全員による発表　(目標1・2・3) 第14回　まとめ～自己課題解決に向けて①：個別活動　(目標1・2・3) 第15回　まとめ～自己課題解決に向けて②：レポート作成　(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習　・事前配布レジュメの内容を確認するとともに、現代の教育が直面している問題や教員の職務等に常に関心を持ち、関連図書や新聞報道などで情報収集をする。 復習　・毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 ・事前に指示された課題を期限までに提出すること。 展開　・自らの課題を点検し、それに関する最新の図書や研究成果等を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　・学習の達成目標に対する到達の度合いを評価することを基本とする。 評価の方法　意見発表等と授業中に提出したレポート(以上50%)、定期試験の結果（50%）等により総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特に指定しない。ほぼ毎回、資料を配布し、これらをもとに授業を行う。
推薦図書等	書籍名　『「考える教師」－省察、創造、実践する教師－』 著者名　山崎準二他 出版社　学文社 価格　2100円 ISBN・ISSN　ISBN：978－4－7620－2245－6

参考URL	文部科学省　http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	自覚的・積極的な受講が望まれる。 オフィス・アワー：金曜日1・2限 メール・アドレス：y-takano@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

教職実践演習（特別支援） A

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102104
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（特別支援） A
科目責任者	桑田　良子
担当教員	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室14
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己評価　実践的修得　教師の職務　教師としての技量　連携
授業のねらい・概要	これまで積み重ねてきた学習についての実績や教育実習等での体験を自己評価し、不足している課題を解決する。 特別支援学校,特別支援学級で教師が担う具体的な職務を想定し、実践的な演習を通して、特別支援教諭になるための技量を身につける。
学生の達成目標	１.特別支援教育における教師の役割と使命について現職の教員から具体的に学ぶ。

２.教職員、保護者、他機関などとの連携の重要性と連携の仕方について知る。
３.特別支援学校学習指導要領及び解説書に則し、特別支援教育の基本を踏まえた指導のありかた、指導技術を身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション（演習の趣旨を理解し、４年間の学習を振り返り、自己の課題を確認する）（目標１）
	第2回	ソーシャルスキル指導についてⅠ（目標３） 指導の実際をＤＶＤから学ぶ
	第3回	ソーシャルスキル指導についてⅡ（目標３） コミュニケーション指導 （役割演技を通して）
	第4回	子ども理解と対応（目標３） 感覚統合と対応
	第5回	学級経営の理解① （目標３） 一日の生活の流れを想定した環境設定・子どもの動　線の整理など
	第6回	学級経営の理解２（目標３） 一日の生活の流れを想定した発達段階の異なる小集団の指導. ティームティーチングのありかた・「学級経営案」とのつながり
	第7回	授業を作る①）（目標３） 特別支援学級.通級学級（模擬授業を通して個々の実態に即した授業作り：朝の会）
	第8回	授業を作る②）（目標３） 肢体不自由障害（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り：生活単元）
	第9回	授業を作る③（目標３） 知的障害（模擬授業を通して：評価・教師の役割）
	第10回	授業を作る④）（目標３） （模擬授業を通して：教育課程の理解・個別の指導計画とのつながり）
	第11回	校内での連携（目標２） 学年、他学部・特別支援教育コーディネーター
	第12回	校外の連携（目標２） 特別支援教育コーディネーター・他機関との連携
	第13回	保護者との連携（目標２） 面談・学級だより・連絡帳・個別の指導計画などを通して
	第14回	子どもたちの安全と学校の危機対応（目標１） 事故、人権、個人情報、環境つくり
	第15回	望ましい教師像（目標１） 自己評価と今後の課題の検討、目標申告とのつながり
予習・復習の内容	予習	・教育実習、たまごプロジェクト等の経験を、毎回のテーマに沿って振り返り、まとめて授業に参加する。 ・課題については、図書、ＨＰ等で調べ、発表できるように準備する。
	復習	・各回ごとに、自己の課題と照合して、新たに修得できた点をまとめる。
	展開	・関連図書などにより、各回のテーマを掘り下げてまとめる。 ・グループ討論では積極的に自分の意見を述べる。
成績評価	評価の基準	

・授業のたびに、自己の課題を明確にでき、課題解決に向け努力し、技量を修得できたかを評価する。

評価の方法　発表・模擬授業・討議への参加：５０％
レポート：５０％

教科書

書籍名	＜特別支援教育＞個別の指導計画を生かした学習指導案づくり
著者名	宮崎　英憲監修　是枝　喜代治編著
出版社	明治図書
価格	２６６０円
ISBN・ISSN	978-4-18-039825-6

書籍名	特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させるスキル
著者名	甲本　卓司・大恵　信昭　著
出版社	明治図書
価格	２２６０円
ISBN・ISSN	978-4-18-059710-9

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

教職実践演習（特別支援） B

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102105
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（特別支援） B
科目責任者	田所　明房
担当教員	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自己評価　実践的修得　教師の職務　教師としての技量
授業のねらい・概要	これまで積み重ねてきた学習についての実績や教育実習等での体験を自己評価し、不足している課題を解決する。特別支援学校、特別支援学級で教師が担う具体的な職務について、実際の教師の職務を想定した実践的な演習を通して、教師になるための技量を身につける。
学生の達成目標	1.特別支援教育に対する使命感や情熱を持ち、責任を持って自己の職務を果たすことができる。また、教員としての自覚を持ち、障害のある子どもに寄り添い、

子どもの自立と社会参加のために必要な状況を、教職員と協力して作ることができる。
２．個々の障害の状況を理解し、本人・保護者との信頼関係を高め、子どもの抱える課題に適切に対応できる。
３．特別支援学校学習指導要領及び解説書に則し、特別支援教育の基本を踏まえた指導のあり方、指導技術を、実際の教師としての生活を想定しながら、身につける。

授業内容	第1回	オリエンテーション（演習の趣旨を理解し、４年間の学習を振り返り、自己の課題を確認する）(目標１)
	第2回	ソーシャルスキル指導についてⅠ（目標３）体の動きから理解する
	第3回	ソーシャルスキル指導についてⅡ（目標３）コミュニケーション指導
	第4回	子ども理解と対応（目標１．２）
	第5回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した環境設定・子どもの動線の整理・発達障害への対応など）（目標３）
	第6回	学級経営の理解（一日の生活の流れを想定した発達段階の異なる小集団の指導・ティームティーチングのあり方・「学級経営案」とのつながり）（目標３）
	第7回	授業を作る①特別支援学級・通級学級・発達障害支援（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り：朝の会）（目標３）
	第8回	授業を作る②肢体不自由障害（模擬授業を通して：個々の実態に即した授業作り）（目標３）
	第9回	授業を作る③知的障害（模擬授業を通して：評価・教師の役割）（目標３）
	第10回	授業を作る④（模擬授業を通して：教育課程の理解・「個別の指導計画」とのつながり）（目標３）
	第11回	校内・校外の連携（他学部・他機関との移行時連携：自立に向けての視点（目標１．２）
	第12回	校内・校外の連携（特別支援教育コーディネーター・他機関との連携：教育相談的視点（目標１．２）
	第13回	保護者との連携（面談・学級だより・連絡帳・「個別の指導計画」などを通して（目標２）
	第14回	子どもたちの安全と学校の危機対応（事故、人権、個人情報）（目標１．３）
	第15回	子どもに出会う前の準備 望ましい教師像（自己評価と今後の課題の認識、目標申告とのつながり）（目標１）
予習・復習の内容	予習	教育実習・たまごプロジェクト等の経験を、毎回のテーマに沿って振り返り、まとめる。課題については、図書、ＨＰ等で調べる。
	復習	各回ごとに、自己の課題と照合して、新たに修得できた点をまとめる。
	展開	関連図書などにより、各回のテーマを掘り下げてまとめる。
成績評価	評価の基準	自己の課題を明確にでき、課題解決に向け努力し、技量を修得できたかを評価する。
	評価の方法	

授業内での発表・模擬授業・討議への参加：５０％
レポート：５０％

教科書	書籍名	＜特別支援教育＞個別の指導計画を生かした学習指導案づくり
	著者名	宮崎　英憲監修　是枝　喜代治編著
	出版社	明治図書
	価格	２６６０円
	ISBN・ISSN	９７８－４－１８－０３９８２５－６
	書籍名	特別支援を要する子の担任に必要な黄金の三日間を成功させるスキル
	著者名	甲本　卓司・大恵　信昭　著
	出版社	明治図書
	価格	２２６０円
	ISBN・ISSN	９７８－４－１８－０５９７１０－９

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

教職実践演習（幼稚園） A

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102106
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園） A
科目責任者	植草　一世
担当教員	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室9
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの状況理解　自己理解と省察　保育者の対応
授業のねらい・概要	保育者としての資質能力を実践的に検証し，足りない部分を補う。保育者として子どもを理解し，子どもに対応する基本的な姿勢を身につけるとともに，その力量を養う。新たな問題に直面しても，発展的に課題解決に取り組める姿勢を養う。
学生の達成目標	1.自身の振り返りが出来、保育者としての資質を確認する。 2.保育の基本を踏まえ遊びを中心とした充実した園生活を作るのに必要な技量を

身につける。保育者としての自覚をもち，適切な言動をもって他の教職員と協力して職務を遂行できる。子どもの心を理解し，信頼関係を築き，子どものかかえる問題に対して誠実に向き合うことが出来る。
3.幼児教育に対する使命感や情熱を持ち，責任をもって自己の職務を果たすことを自覚する。

授業内容	第1回	オリエンテーション：本演習の趣旨と進め方を確認する。 自己の4年間を振り返りを行う。（目標1）
	第2回	幼稚園教諭のイメージを持ち、保育者として望ましい資質について話し合い、自己の幼稚園教諭としての成長を確認する。（目標1）
	第3回	幼稚園教諭の立場に立って幼児期への対応を学ぶ。（目標2.3）
	第4回	「幼児機関との連携」「子ども理解」を学ぶ。子どもの個性理解と対応について考える。（目標2.3）
	第5回	特別な支援を必要とする子に対する対応を考え，話し合う。 （目標2.3）
	第6回	幼稚園教諭の立場に立って、家庭環境や友達関係で生じる子どもの問題について考える。（目標2.3）
	第7回	幼稚園教諭の立場に立って、「保護者との連携」「保護者支援」「家庭支援」を学ぶ。（目標2.3）
	第8回	幼稚園教諭の立場に立った「関連機関との連携」「地域との連携」を学ぶ。（目標2.3）
	第9回	幼稚園教諭の立場に立った、「他機関とのネットワーク」「関係者との情報交換」を学ぶ。（目標2.3）
	第10回	保護者への対応の在り方を考え，話し合う。（目標2.3）
	第11回	音楽でつづる幼稚園の1日 （目標2.3）
	第12回	現場保育者の体験を聞く①（目標2.3）
	第13回	現場保育者の体験を聞く②（目標2.3）
	第14回	幼稚園教諭としてのグループ活動を行い、子どものお楽しみ会のための準備をする。幼稚園教諭となるための確認をする。（目標1.2.3）
	第15回	まとめ：幼稚園教諭としてのグループ活動を行い、子どものお楽しみ会のための発表会をする。自己点検を行う。（目標1.2.3）
予習・復習の内容	予習	次授業時のテーマについてあらかじめ資料を収集し，考えをまとめておく。
	復習	授業の内容を振り返り，自己に置き換えて考え，保育者としての資質を高めるよう努力する。
	展開	保育者としての自己の在り方を見つめ，常に自己を陶冶し，保育者としての向上に努力する。
成績評価	評価の基準	評価の基準 子どもと保育者の関係を適切に理解している。 子どもや保護者の心情について理解している。 子ども・保護者・保育者集団の中での自己の立場や役割を理解している。
	評価の方法	授業中の話し合いへの参加度，レポート，グループ発表の成果等から，総合的に評価する。 受講態度20%　発表40%　レポート40%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

教職実践演習（幼稚園） B

シラバス基本情報

科目ナンバリング

開講年度	2015年度
登録コード	A1102107
科目区分	児童教育専門科目
授業科目名	教職実践演習（幼稚園） B
科目責任者	安藤　則夫
担当教員	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室13
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　自由 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの状況理解、多面的な見方、発達障害、実践的関わり
授業のねらい・概要	教員としての資質能力を実践的に検証し、足りない部分を補う。小学校や幼稚園ですぐ使える技量や心構えを持てるようにする。発達障害にも実践的に対処できる問題解決能力を育む。
学生の達成目標	1.子どもに対する自分の影響力を理解し、対処できる。 2.子どもの理解・学習の仕方に合わせて、人や子どもに信頼されるように柔軟な

対応ができる。
3.発達障害を理解し、実践的に関わる力を養成する。

授業内容	第1回	今までの授業や実習を振り返り、弱点を明らかにし、どうしたらよいか意見を言い合う。（目標、1,2,3）
	第2回	事例を検討し、当事者としての気持ちや子どもの感じ方を討論する。（目標、1,3）
	第3回	事例に基づいてロールプレイを行い、働きかけによる子どもの気持ちの変化を理解する。（目標、1,2）
	第4回	人間関係が希薄な子を調べ、個性に合わせた気持ちの作り方を討論する。（目標、1,2）
	第5回	子どもが人に興味を持てるようにすることを意識して、ロールプレイを行い、そのやり方について討論する。（目標、1,2）
	第6回	子どもがぶつかる学習や友達関係での困難さを理解し、問題が起こる原因を討論する。（目標、1,3）
	第7回	落ち着きのない子どもの抱える問題を考え、必要な働きかけを討論する。（目標、2,3）
	第8回	落ち着きのない子どもの行動を家庭や集団から考え、働きかけの仕方を身につける。（目標、2,3）
	第9回	落ち着きのない子への働きかけをロールプレイを通じて理解する。（目標、1,2,3）
	第10回	いたずらをする子どものタイプを理解し、よりよい働きかけを考える。（目標、1,2）
	第11回	調子に乗りやすい子への働きかけをロールプレイを行い、討論して考える。（目標、1,2）
	第12回	自閉的な子への様々な働きかけについて討論する。（目標、1,2,3）
	第13回	欲求不満を感じやすい子への働きかけをロールプレイを通じて学ぶ。教員の持ち味の生かし方を考える。（目標、1,3）
	第14回	子どもの発達的つまづきに対処できる教員間の連携の在り方を事例を通じて学ぶ。（目標、1,2,3）
	第15回	様々な問題への対処の仕方を出し合い、人のやり方を理解するとともに、自分に合った解決法を見つけ出す。（目標、1,2,3）
予習・復習の内容	予習	日ごろから、子どもの抱える問題や発達障害、保育現場での働きかけに関する本を読む。
	復習	授業で学んだことを自分だったらどうなるかをイメージし、納得できるようにする。
	展開	自分のやり方や考え方を深めると同時に人のやり方や考え方の良い点についても理解できる。
成績評価	評価の基準	子どもと自分の関係をよく理解している。 子どもの気持ちや保護者の気持ちについてよく理解している。 子どもや保護者、他の教員への対処の仕方を適切に考えられる。
	評価の方法	授業中の話し合いへの参加度、レポート、ロールプレイの仕方などから総合的に判断する。 グループの話し合いへの参加度４０％、レポート２０％、ロールプレイ４０％

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	身体を動かして学ぶので、動きやすい服装で参加すること。

2015年度シラバス

知的障害教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST204
開講年度	2015年度
登録コード	A1104001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育 Ⅰ
科目責任者	尾崎　祐三
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火3
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，特別支援学校，障害児保育，教育課程，指導法
授業のねらい・概要	知的障害の子どもの教育の基本を、知的障害特別支援学校の教育中心に学ぶ。障害の特徴とニーズ，生活中心の教育課程や実践方法について学ぶ。
学生の達成目標	1.知的障害特別支援学校や特別支援学級の取り組み,教育課程の特徴,指導法の実際について理解し説明できる。 2.知的障害の子どもへの実践で大切な基本姿勢を理解し,自分の考えとともに説明できる。
授業内容	第1回　　知的障害の子どもの特徴とニーズ (目標1)

	第2回	幼児期の特徴と保育・教育 (目標1,2)
	第3回	特別支援学校の実践の特徴 (目標1,2)
	第4回	特別支援学校の教育課程 (目標1,2)
	第5回	特別支援学校の教育課程と指導法 (目標1,2)
	第6回	特別支援学校の指導法の特色と各教科 (目標1,2)
	第7回	特別支援学校の指導法の実際 日常生活の指導 (目標1,2)
	第8回	特別支援学校の指導法の実際 作業学習 (目標1,2)
	第9回	特別支援学校の指導法の実際 生活単元学習 (目標1,2)
	第10回	特別支援学校の指導法の実際 遊びの指導 (目標1,2)
	第11回	特別支援学校の指導法の実際 教科別の指導 (目標1,2)
	第12回	特別支援学校の指導法の実際 領域別の指導 (目標1,2)
	第13回	個別の指導計画 とその実際 (目標1,2)
	第14回	特別支援学級の教育 (目標1,2)
	第15回	知的障害の子どもへの教育とは？　補足とまとめ (目標1,2)
予習・復習の内容	予習	知的障害とはどのような障害か,自分の体験の有無も含め,調べておくこと。教科書を読んで、備えること。
	復習	教科書を再度読んで内容の確認をすること。映像を思い出し、子どもにとっての意義を知るようにすること。
	展開	教育実習で生かすこと。他の障害の授業と比べ,知的障害教育の特徴を確認すること。
成績評価	評価の基準	知的障害の子どもへの教育実践上の基本的な内容,教育課程と指導法の基本を説明できる。教育的に支援する基本姿勢について自分の考えを入れて述べることができる。
	評価の方法	期末試験　70%　小テスト／レポート　20%　リアクションペーパー 10%
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識Q＆A
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校
	出版社	ケーアンドエイチ社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-9901197-6-8
推薦図書等	書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
参考URL		
備考		

知的障害特別支援学校の数は多く,特別支援教育実習において実習先であること
も多いので、意識高く受講して下さい。
オフィスアワー月・火曜日２時限

2015年度シラバス

知的障害教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST205
開講年度	2015年度
登録コード	A1105001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育 Ⅱ
科目責任者	尾崎　祐三
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火4
教室	レクチャーシアター
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害，障害理解，障害と社会，家族支援，人権
授業のねらい・概要	知的障害の子どもを保育や教育の場で支援する際の基本および現状理解を培う。知的障害の困難性理解，おかれている現状理解，社会状況，親や家族の心情の理解などを受講者の関心により取り上げる。
学生の達成目標	1.知的障害の困難性，子ども，家族の置かれた社会状況を理解し，発表や説明ができる。 2.知的障害のある子ども・人々の地域生活や人権擁護の現況を理解し,自分の考えとともに説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション 知的障害と子ども・人々の暮らしや困難をどう理解するか(目標1)
	第2回	障害特性と社会・保育や教育現場での様子(目標1)
	第3回	個の理解の方法と実際の社会的・教育的支援(目標1)
	第4回	親・家族の障害理解と家族支援をめぐって(目標1)
	第5回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について グループ討議と発表(目標1,2)
	第6回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その1 各自の課題を考える(目標1,2)
	第7回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その2 新聞等からの検討(目標1,2)
	第8回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その3 雑誌・HPからの検討(目標1,2)
	第9回	知的障害のある子ども・人々・家族への支援について その4 発表(目標1,2)
	第10回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その1 身近な例から(目標1,2)
	第11回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その2 新聞等から(目標1,2)
	第12回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その3 雑誌・HPから(目標1,2)
	第13回	教育と知的障害のある子ども・人々の地域生活を考える その4 発表(目標1,2)
	第14回	知的障害のある子ども・人々の現状と社会的・教育的支援(目標1,2)
	第15回	知的障害保育・教育・支援を考える～補足とまとめ(目標1,2)
予習・復習の内容	予習	新聞記事やインターネットで知的障害の関連記事等を調べておく。自分の関心事項について考えておく。
	復習	授業内容，および調査や発表について発展的に調べるようにする。子どもの立場や家族の立場を思いやる。
	展開	進路希望先での子どもや家族のことを思い，授業での知識や意識を生かすようにする。互いの意見交換を深める。
成績評価	評価の基準	知的障害の困難性，子どもや家族を取り巻く状況について理解し，地域生活と家族支援，保育・教育との関係，実際の課題等について考えを深め説明できること。
	評価の方法	講義・討議への取り組む姿勢と発表　50%　レポート 50%　として総合的に評価する。
教科書	書籍名	知的障害教育・基礎知識Q＆A
	著者名	千葉大学教育学部附属養護学校
	出版社	ケーアンドエイチ社
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-9901197-6-8

推薦図書等	書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
	著者名	文部科学省
	出版社	海文堂出版
	価格	440円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

参考URL	
備考	オフィスアワー月・火曜日２時限

2015年度シラバス

知的障害教育実践法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST206
開講年度	2015年度
登録コード	A1106101
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	知的障害教育実践法
科目責任者	田所　明房
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害教育　できる状況づくり　授業づくり　領域・教科を合わせた指導
授業のねらい・概要	実践的な知的障害指導法を学ぶ。映像や実地の体験も活用しながら、知的障害の子どもたちとともに取り組む「分けない指導」（領域・教科を合わせた指導）の要点を理解し、教師としてのあり方を学ぶ。
学生の達成目標	1.知的障害教育実践の実際を説明できる。 2.知的障害の子どもとともに取り組む際のできる状況づくりの実　際や教材作りを学び、説明できる。 3.知的障害教育に携わる教師のあり方を学び、説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（目標１・２・３）
	第2回	知的障害の子どもたちと教師のあり方（目標１・２・３）
	第3回	知的障害の子どもたちとできる状況づくり（目標１・２・３）
	第4回	分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その１・作業学習について（目標１・２・３）
	第5回	分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その２・日常生活の指導について（目標１・２・３）
	第6回	分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その３・生活単元学習について（目標１・２・３）
	第7回	分けない指導（領域・教科を合わせた指導）の実際と要点～その４・遊びの指導について（目標１・２・３）
	第8回	実際の教材検討～その１・作業学習をベースに（目標１・２・３）
	第9回	実際の教材検討～その２・日常生活の指導をベースに（目標１・２・３）
	第10回	実際の教材検討～その３・生活単元学習をベースに（目標１・２・３）
	第11回	実際の教材検討～その４・遊びの指導をベースに（目標１・２・３）
	第12回	知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その１・子どもとともに取り組む（目標１・２・３）
	第13回	知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その２・チームワークと保護者連携（目標１・２・３）
	第14回	知的障害教育の授業づくりと教師のあり方～その３・授業のだいごみと研究（目標１・２・３）
	第15回	知的障害教育実践に求められること（まとめ）（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	関連図書を読み、知的障害教育について理解を深めておく。
	復習	課題について取り組み、要点を振り返ること。
	展開	教育実習や実践の場でのことを思い描き、本科目での学習を実践に活用できるようにする。
成績評価	評価の基準	知的障害教育実践の特徴、よさ、教師としての姿勢を理解し、実践などに備えることができる。
	評価の方法	授業内での発表等、課題の実施内容が５０％ 期末レポートが５０％
教科書	書籍名	生活中心教育の理念と方法
	著者名	小出　進　著
	出版社	K & H.
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	978-4-9901197-2-0
推薦図書等	書籍名	生活単元学習・作業学習の進め方Q & A
	著者名	千葉大学教育学部附属特別支援学校 編
	出版社	K & H.

価格	1995円
ISBN・ISSN	62-00002-610

書籍名	特別支援教育「領域・教科を合わせた指導」のABC
著者名	名古屋恒彦著
出版社	東洋館出版社
価格	２２００円＋税
ISBN・ISSN	978-4-491-02616-9

参考URL	
備考	特別支援学校教員を志望する学生は，受講することを進めます。 知的障害のある児童生徒の特徴、またその教育の実際について日常から関心を持ち,基礎的な支援内容・方法について理解を進めておく。

2015年度シラバス

肢体不自由教育 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST207
開講年度	2015年度
登録コード	A1109001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅰ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火3
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由のある子どもの指導及び支援における基本的事項について理解し，自分の考えを表現できるようになる。
学生の達成目標	１．肢体不自由教育の歴史を理解し，自分の考えを表現できるようになる。 ２．肢体不自由のある子どもが示す困難と対応について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 ３．特別支援学校（肢体不自由）の教育課程や教材・教具の配慮点について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）
	第2回	肢体不自由教育の歴史(1)　昭和初期から昭和 50年代までの肢体不自由教育のあゆみ　（目標1）
	第3回	肢体不自由教育の歴史(2)　昭和 60年代から現代までの肢体不自由教育のあゆみ　（目標1）
	第4回	肢体不自由のある子どもは学習や生活にどのような困難があるか（目標2）
	第5回	肢体不自由のある子どもの運動・動作の困難と対応の仕方（目標2）
	第6回	肢体不自由のある子どものコミュニケーションの困難と対応の仕方（目標2）
	第7回	肢体不自由のある子どもの認知の困難と対応の仕方（目標2）
	第8回	肢体不自由のある子どもの健康面の困難と対応の仕方（目標2）
	第9回	肢体不自由のある子どもの食べることの困難と対応の仕方（目標2）
	第10回	肢体不自由のある子どもの教科学習の困難と対応の仕方（目標3）
	第11回	肢体不自由のある子どものための教材・教具と補助具の配慮点（目標3）
	第12回	特別支援学校（肢体不自由）の教育課程と自立活動の取組（目標3）
	第13回	特別支援学校（肢体不自由）の個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成（目標3）
	第14回	肢体不自由のある子どもの移行支援と卒業後の生活のための取組（目標2，3）
	第15回	まとめ　授業の振り返りと肢体不自由教育における重要事項の確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	テキストの指定された範囲について学習し，ポイントや質問事項をまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	テキストに記載されている事項や講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	1）肢体不自由のある子どもの教育に関して，授業で取り上げた基本的事項を理解していること。 2）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由のある子どもの指導及び支援について自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。

教科書

書籍名	肢体不自由教育の基本とその展開
著者名	日本肢体不自由教育研究会監修
出版社	慶應義塾大学出版会
価格	2 ,376円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-7664-1409-7

推薦図書等	
参考URL	
備考	講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すため，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。

2015年度シラバス

肢体不自由教育 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST208
開講年度	2015年度
登録コード	A1110001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	肢体不自由教育 Ⅱ
科目責任者	渡邉　章
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月2
教室	講義室16
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	肢体不自由，特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	肢体不自由のある子どもの教育的ニーズに対応するために必要となる基本的な知識を身につけ，自分の考えを表現できるようになる。
学生の達成目標	１．肢体不自由のある子どもの教育的ニーズの把握の仕方について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 ２．肢体不自由のある子どもの個別の指導計画を作成するために必要となる知識について理解し，自分の考えを表現できるようになる。 ３．肢体不自由のある子どもの指導及び支援における基本的な対応と教材・教具の活用について理解し，自分の考えを表現できるようになる。

授業内容	第1回	イントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）
	第2回	肢体不自由のある子どもの教育的ニーズとは（目標1）
	第3回	肢体不自由のある子どもの実態把握の仕方（目標1）
	第4回	肢体不自由のある子どもの個別の指導計画の作成（目標2）
	第5回	肢体不自由のある子どもの個別の指導計画作成の実際(1)　指導課題の整理の仕方（目標2）
	第6回	肢体不自由のある子どもの個別の指導計画作成の実際(2)　指導目標の設定の仕方（目標2）
	第7回	個別の指導計画の保護者への説明の仕方（目標2）
	第8回	肢体不自由のある子どもの学習支援のための入力スイッチの製作（目標3）
	第9回	肢体不自由のある子どものためのコミュニケーション支援機器の活用（目標3）
	第10回	肢体不自由のある子どものための玩具や遊びの工夫（目標3）
	第11回	肢体不自由のある子どもの指導・支援における車いすの活用（目標3）
	第12回	肢体不自由のある子どもの指導・支援における電動車いすの活用（目標3）
	第13回	肢体不自由のある子どもの学習活動の工夫と模擬授業(1)　自立活動と配慮点（目標3）
	第14回	肢体不自由のある子どもの学習活動の工夫と模擬授業(2)　教科指導と配慮点（目標3）
	第15回	まとめ　授業の振り返りと肢体不自由のある子どもの教育的ニーズへの対応における重要事項の確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	指定されたテーマについて，ポイントや質問事項についてまとめておくこと。
	復習	講義内容や発表・討論のポイントを整理し，自分の考えをまとめておくこと。
	展開	講義における説明で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	1）授業で取り上げた肢体不自由のある子どもの教育的ニーズに対応するための基本的事項を理解していること。 2）授業で取り上げた内容をもとに，肢体不自由のある子どもの教育的ニーズへの対応について自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点及び提出レポートにより評価する。（平常点 50%，レポート 50%） 平常点には，発表・討論・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

講義のほかに，各テーマの理解を深め，主体的な参加を促すため，発表・討論・グループ活動の時間を設ける。

2015年度シラバス

病弱教育Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST209
開講年度	2015年度
登録コード	A1111001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅰ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水3
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の意義，学習空白，教育と医療との連携
授業のねらい・概要	病弱教育の歴史的変遷から，病弱教育の果してきた意義，子どもの病気と心の問題，医療機関と学校との関係，社会情勢を反映した病弱教育の現代的課題等を解説するとともに，病弱教育の現状と課題等に触れながら喘息，慢性疾患，小児がん，心身症等病類に応じた教育の特徴なども学び，病弱教育の基礎的理解を深めていくものとする。
学生の達成目標	1.病弱教育の歴史,意義等について学ぶ。 2.病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴を学ぶ。 3.病弱教育の基礎的理解を深める。

授業内容	第1回	病弱教育の歴史的変遷(目標1)
	第2回	病弱教育の意義(目標1)
	第3回	病弱教育対象の子どもの病気の種類と特性(目標2,3)
	第4回	病弱教育対象の子どもの心理特性(目標2,3)
	第5回	医療機関と教育との関係と,学校と医療機関,医療と教育の連携について(目標2)
	第6回	病弱教育の現代的課題(医療機関の課題)(目標2)
	第7回	病弱教育の現代的な課題(医療の進歩・進展と新たな教育課題)(目標2)
	第8回	喘息児の教育(目標3)
	第9回	小児がんと教育(目標3)
	第10回	慢性疾患と教育(目標3)
	第11回	重症心身障害児(目標3)
	第12回	筋ジストロフィーと教育(目標3)
	第13回	心身症と教育(目標3)
	第14回	不登校と教育(目標3)
	第15回	身体虚弱教育について(目標3)
予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目やキーワード等，事前に指示するテーマについて調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	病弱教育の基礎的な事項等の理解度による。
	評価の方法	試験40%，レポート30%，リアクションペーパー及び授業態度30%等により総合的に評価
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」　PART Ⅰ
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円＋税
	ISBN・ISSN	4-921124-05-1 C3037
	書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅢ（教科指導編）
	著者名	全国病弱養護学校長会編著

出版社	ジアース教育新社
価格	1,810円＋税
ISBN・ISSN	4-921124-24-8　C3037

書籍名	特別支援教育に生かす病弱児の心理・病理・心理
著者名	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著
出版社	ミネルヴァ書房
価格	2,400円＋税
ISBN・ISSN	978-4-623-06153-2　C3037

参考URL

備考

2015年度シラバス

病弱教育Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST210
開講年度	2015年度
登録コード	A1112001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	病弱教育Ⅱ
科目責任者	昆　俊雄
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木4
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病弱教育の教育課程，教育内容の精選，院内学級
授業のねらい・概要	特別支援学校や特別支援教室，病院内教室等における実際の病弱教育の教育内容，指導方法について解説する。又，各教科，特別活動，自立活動，病弱教育の教育課程についても学習し，病弱教育の指導法の基礎・基本を踏まえながら，国内外の先進的な取り組みを紹介するなどして，より実践的で具体的な病弱教育を修得できるようにする。
学生の達成目標	1.病弱児の教育の場を知る。 2.病弱教育の教育課程の特徴を学ぶ。 3.病弱教育の指導法の基礎・基本を学ぶ。

授業内容	第1回	病弱特別支援学校,特別支援教室,病院内教室の概要(目標1)
	第2回	病弱教育の「個別の教育支援計画」の実際(目標1,2)
	第3回	病弱教育の教育課程1(各教科)(目標2)
	第4回	病弱教育の教育課程2(総合的な学習)(目標3)
	第5回	病弱教育の教育課程3(自立活動)(目標4)
	第6回	病弱教育の教育課程4(特別活動,訪問教育,共同学習,交流教育等)(目標2)
	第7回	病弱特別支援教室・学級,病院内教室・学級の教育課程の実際(目標2)
	第8回	病弱教育における「個別の指導計画」の実際(目標2)
	第9回	病弱特別支援学校における指導の実際(学校参観もしくはVTR)(目標3)
	第10回	病弱特別支援学校における指導の実際(指導方法と配慮事項)(目標3)
	第11回	病弱特別支援学級・教室における指導の実際(指導方法と配慮事項(目標3)
	第12回	病弱教育における指導の実施(指導案の作成・演習)(目標3)
	第13回	病弱教育の先進的な取り組みの紹介(目標2,3)
	第14回	諸外国の病弱教育の現状(目標1,2)
	第15回	病弱教育現場における教師の役割とその重要性,子どもと保護者,関係機関との連携と教師の果たすべき役割等について(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教育内容に示している項目やキーワード，それらに関しての学習指導要領上の記述事項等に加え，事前に指示するテーマについても調べておくこと。
	復習	授業後の要旨をまとめ，整理しておくこと。指示されたレポート課題を期限までに提出すること。
	展開	授業内容に関連する事項などに関し、教科書や配布資料、参考図書を調べたりするほか、最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深めるようにすること。
成績評価	評価の基準	病弱教育の教育課程等指導の実際についての理解度による。
	評価の方法	試験40%やレポート30%，リアクションペーパー及び授業態度30%等により総合的に評価
教科書	書籍名	病気の子どものガイドブック
	著者名	全国特別支援学校病弱教育校長会　編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	2,600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-86371-180-8　C3037
推薦図書等	書籍名	「病弱教育Q&A」　PART I
	著者名	全国病弱養護学校長会編著
	出版社	ジアース教育新社
	価格	1,810円＋税
	ISBN・ISSN	4-921124-05-1　C3037

書籍名	「病弱教育Q&A」　PARTⅣ　（院内学級編）
著者名	全国病弱養護学校長会編著
出版社	ジアース教育新社
価格	1,810円＋税
ISBN・ISSN	4-921124-25-6　C3037

参考URL

備考

2015年度シラバス

特別支援学校教育課程・授業論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST211
開講年度	2015年度
登録コード	A1150001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援学校教育課程・授業論
科目責任者	田所　明房
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火2
教室	講義室21，22
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援学校　学習指導案　指導計画　教育課程　授業づくり
授業のねらい・概要	特別支援学校における教育実践のために必要な教育課程と授業づくりについて実践的に学ぶ。教育実習に備えて、具体的な学習指導案を作ることができるよう基礎的な知識を学び、実地に作ることを通して授業づくりの要点を理解する。
学生の達成目標	1.特別支援学校の教育課程と授業づくりについて理解し説明できる。 2.特別支援学校の学習指導案の実際を学び、作成できるようにする。
授業内容	第1回　　オリエンテーション（目標１・２） 第2回

		特別支援学校について学ぶ～その１・歴史と幼児児童生活の特徴（目標１・２）
	第3回	特別支援学校について学ぶ～その２・学校，学部の特徴（目標１・２）
	第4回	特別支援学校の実践と教育課程～その１・知的障害の場合（目標１・２）
	第5回	特別支援学校の実践と教育課程～その２・肢体不自由，病弱の場合（目標１・２）
	第6回	特別支援学校の授業と学習指導案～その１・指導案の見方（目標１・２）
	第7回	特別支援学校の授業と学習指導案～その２・書き方を試す（目標１・２）
	第8回	特別支援学校の授業と学習指導案～その３・指導案を検討する（目標１・２）
	第9回	学習指導案づくりとその検討～その１・子どもの特徴（目標１・２）
	第10回	学習指導案づくりとその検討～その２・指導の目標・模擬授業①（目標１・２）
	第11回	学習指導案づくりとその検討～その３・指導の手立て・模擬授業②（目標１・２）
	第12回	授業研究と学習指導案・模擬授業③（目標１・２）
	第13回	子ども主体の授業と授業づくり・模擬授業④（目標１・２）
	第14回	特別支援学校の教育課程と授業づくり～模擬授業⑤研究協議・まとめ（目標１・２）
	第15回	研究協議・まとめ
予習・復習の内容	予習	特別支援学校に在籍する児童生徒の障害や授業の様子について関心を持ち、必要に応じて調べる。
	復習	授業づくりと学習指導案の要点を振り返り、次回の授業・指導案検討に生かすようにする。
	展開	教育実習での授業づくりと学習指導案作成に生かすようにする
成績評価	評価の基準	特別支援学校の教育課程と授業づくりの要点を説明できる。学習指導案を自分で作成できる。
	評価の方法	学習指導案の作成レポート及び模擬授業６０％　授業時の小テスト及び小レポート４０％
教科書	書籍名	支援案の書き方・個別の支援計画
	著者名	太田俊己 監修
	出版社	K & H.
	価格	1995円
	ISBN・ISSN	9901197-3-8
推薦図書等	書籍名	特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領
	著者名	文部科学省

出版社	海文堂出版
価格	440円＋税
ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚園・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	450円＋税
ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0

書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部，小学部，中学部，高等部）
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL	
備考	実習での精錬授業を行う際に必要な学習指導案作成、およびその他実習で必要な備え等について取り上げるので、特別支援学校で教育実習を行う前に必ず受講すること。２年時の受講が必須となる。

2015年度シラバス

視覚・聴覚障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST212
開講年度	2015年度
登録コード	A1113101
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	視覚・聴覚障害教育総論
科目責任者	佐藤　将朗
担当教員	松本　末男
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	視覚障害, 聴覚障害, 教育制度・課程, コミュニケーション, 言葉の指導の実際
授業のねらい・概要	視覚障害と聴覚障害に関する生理・病理・心理面からの理解を基盤として，聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な資質を養う。
学生の達成目標	1. 視覚障害と聴覚障害の生理，病理及び心理について理解する。 2. 視覚障害教育と聴覚障害教育の歴史的変遷、現在の制度及び教育課程、また具体的な指導内容について理解する。

3. 視覚障害と聴覚障害の程度や発達段階、知的・発達障害，重複障害の有無に応じたきめ細かい関わりについて理解する。

授業内容	第1回	「視覚障害とは何か」―眼の構造, 視覚障害の生理・病理・心理, 視覚機能の基礎―(目標１)
	第2回	「視覚障害教育の歴史，制度，教育課程」―歴史的処遇, 視覚障害教育の創始, 現在の制度・教育課程―(目標２)
	第3回	「視覚障害教育の目標とその指導形態」―視覚障害の理解・配慮と教科教育の専門性, 視覚支援学校の教育組織―(目標１，２)
	第4回	「全盲教育の内容と方法」―全盲指導の内容, 触覚的認知の指導, 点字・言葉の指導, 歩行指導―(目標２，３)
	第5回	「弱視教育の内容と方法」―弱視指導の内容, 視覚的認知の指導, 読み書き能力の指導, 残存視力の活用・管理―(目標２，３)
	第6回	「盲聾児（者）への教育内容と方法」―盲聾者の特性, 基本的生活技術・習慣の指導、コミュニケーションの方法とその能力向上―(目標２，３)
	第7回	「視覚障害児（者）への生活指導、教育相談、就職指導」―社会的リハビリテーション, 心理的安定, 職業的スキル, インクルーシブな時代における視覚障害児(者)(目標２，３)
	第8回	「聴覚障害とは何か」－聴覚障害の原因と分類，障害体験、聴力レベル，オージオグラム，補聴システム、二次障害と三次障害－（目標１）
	第9回	「聴覚障害児・者の言語とコミュニケーションの方法」－手話の種類，指文字，聴覚口話法，トータルコミュニケーション，バイリンガル・バイカルチュラルアプローチ－（目標２）
	第10回	第10回　「障害の早期発見・両親援助の教育」－新生児聴覚スクリーニング，乳幼児教育相談，家族支援、乳幼児の指導－（目標２，３）
	第11回	「聴覚障害幼児を対象とする特別支援学校幼稚部の教育（１）」－幼稚部の教育、言語指導、聴覚活用（目標２，３）
	第12回	「聴覚障害幼児を対象とする特別支援学校の教育（２）」－両親支援、3歳児の指導、4歳児の指導、5歳児の指導－（目標２，３）
	第13回	「他の障害を併せ有する聴覚障害児童・生徒の教育」－聾知的障害児，盲聾児，聾発達障害児，言葉が果たす役割－（目標２，３）
	第14回	「通常の小・中・高等学校における聴覚障害児童・生徒の教育と支援」－難聴学級・通級指導教室・通常の学級における支援，人的環境の調整，物的環境の整備，情報保障－（目標２，３）
	第15回	「特別支援教育の国際的動向と今後の方向性」－分離教育，統合教育，インクルーシブ教育，障害者権利条約・障害者基本法と障害教育，残された課題－（目標２，３）
予習・復習の内容	予習	障害の概念において視覚障害・聴覚障害がどのように位置づけられるかを整理しておく。
	復習	授業で学習した視覚・聴覚障害教育の内容を確認しておく。
	展開	授業で学んだ視覚・聴覚障害教育・支援内容を他の身体障害への教育・支援内容と知的・発達障害への教育・支援内容と関連付けて比較・考察できるようにする。
成績評価	評価の基準	

視覚・聴覚に障害を持つ幼児・児童・生徒の教育と支援について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること，及び，自らの考えに基づいてそれを的確に説明できることを合格基準とする。

評価の方法　平常点，提出レポート及び期末レポートによって評価する(平常点50%、期末レポート50%)。平常点には、授業での発表・討論・期間中レポートが含まれる。ただしこの比率は最終的に若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	視覚障害学入門
著者名	佐藤泰正（編）
出版社	学芸図書
価格	2,600円＋税
ISBN・ISSN	9784761602857

書籍名	改訂版聴覚障害教育の基本と実際
著者名	中野善達・根本匡文(編)
出版社	田研出版
価格	2,500円＋税
ISBN・ISSN	9784860890186

推薦図書等

書籍名	視覚障害指導法の理論と実際
著者名	鳥山由子（編）
出版社	ジアース教育出版
価格	2,200円＋税
ISBN・ISSN	9784921124731

書籍名	聴覚障害教育これまでとこれから―コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に―
著者名	脇中起余子
出版社	北大路書房
価格	2,300円＋税
ISBN・ISSN	9784762826900

参考URL

備考　教科書購入については，授業初回時に指示します。

2015年度シラバス

重複障害・言語障害教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST213
開講年度	2015年度
登録コード	A1115101
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	重複障害・言語障害教育総論
科目責任者	田所　明房
担当教員	長澤　泰子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	（4/13～6/1）月1 （6/3～ ）水3
教室	講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	（田所明房） 重複障害，教育課程の取り扱い，自立活動，個別の指導計画 （長澤泰子） 言語障害・コミュニケーション・状況の把握・指導法
授業のねらい・概要	（田所明房） 重複障害児に対する教育実践に関する基礎的な事柄について理解する。望ましい支援のあり方について考える。

	（長澤泰子） 言語障害の実態，検査法，指導法について学び，多様な言語障害を理解し，支援するための基礎的な力の習得をめざす。
学生の達成目標	1.障害について教育実践の現況と支援のあり方について説明できる。 2.重複障害の教育課程・指導法について説明できる。 3.言語・コミュニケーションの本質および言語障害の分類と，それぞれの特徴的な状態と，指導法について説明できる。
授業内容	第1回　重複障害について～オリエンテーションと現場の実情（目標１・２） 第2回　重複障害の教育課程と指導法～その１・肢体不自由への配慮（目標１・２） 第3回　重複障害の教育課程と指導法～その２・知的障害への配慮（目標１・２） 第4回　重複障害の教育課程と指導法～その３・感覚障害，病弱への配慮及び医療的ケア（目標１・２） 第5回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～教師・保育者として（目標１・２） 第6回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～心理・生理面の理解と対応（目標１・２） 第7回　重複障害の子どもへの支援に必要なこと～まとめ（目標１・２） 第8回　言語障害とは－「音声機能の障害」と「言語機能の障害」(目標３) 第9回　ことば・コミュニケーションの本質について（目標３) 第10回　言語障害の分類－特徴と指導におとる子どもの見方（目標３) 第11回　ことば・コミュニケーションの発達とその遅れ，保護者との関係(目標３) 第12回　構音発達と構音障害－障害音の聞き分けや指導法(目標３) 第13回　吃音のある子どもの指導－歴史と現在の問題点(目標３) 第14回　発達障害（読み書き障害を含む）のある子どもの指導とその問題点(目標３) 第15回　言語障害のある子どもの指導形態(目標３)
予習・復習の内容	予習　重複障害、言語障害について関心を持ち、基礎知識を得るなどしておく。 復習　毎回の授業のノートを見直すとともに，興味のある事項やキーワードに関しては書籍等で考えを深める。 展開　重複障害、言語障害の支援方法等，最新の調査・研究の動向に興味を持ち，自ら知識・理解を深め、実習や現場体験などの折に活用する。
成績評価	評価の基準　達成基準を満たすこと。提示した基礎知識の理解と各自の関心による定着の度合いを勘案する。 評価の方法　授業内での発表等30%，レポート等20%，筆記試験50%を目安に総合的に評価するが、比率については変動することがある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	

参考URL	
備考	平成２３年度以前の入学者は，本科目の履修者に加え，別途補充体験およびレポート提出をもって単位を認定します。この説明はガイダンスを実施するので必ず出席すること。

2015年度シラバス

LD・ADHD等教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST214
開講年度	2015年度
登録コード	A1116001 A1116002
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	LD・ADHD等教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	A1116001　前期　金2 A1116002　前期　金3
教室	講義室10，11 多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	必修	必修	必修
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	必修	必修	必修
保育士：	必修	必修	必修
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害，LD，ADHD，理解と支援
授業のねらい・概要	LD・ADHD等の知的障害を伴わない発達障害について，心理・生理や教育の可能性など，基本的な理解を図ることがこの授業のねらいである。LD・ADHD等の幼児，児童の心理，生理について学ぶ。それぞれの障害の認知特性を体験的に理解した上で，効果的な教育的支援の方法をグループワークを中心に考える。

学生の達成目標

１．ＬＤ児、ＡＤＨＤ児 など発達障害のある子どもの心理・生理について理解する。
２．発達障害児の支援方法について考え,工夫することができる。
３．学習指導要領に則して、教育的支援について整理することができる。

授業内容

第1回　オリエンテーション,発達障害概論
第2回　ＬＤの心理・生理の理解と支援のあり方(目標１)
第3回　ＬＤの理解と支援：ＬＤの見え方(目標１・２・３)
第4回　ＬＤの理解と支援：ＬＤの見え方に合わせた支援(目標１・２・３)
第5回　ＬＤの理解と支援：ＬＤの聞こえ方（目標１・２・３）
第6回　ＬＤの理解と支援：ＬＤの聞こえ方に合わせた支援（目標１・２・３）
第7回　発達障害児を支える校内支援体制：学級集団の中で(目標１・２・３)
第8回　発達障害児を支える校内支援体制：学校行事の中で(目標１・２・３)
第9回　ADHDの心理・生理の理解と支援のあり方(目標1)
第10回　ADHDの理解と支援のあり方：ADHDの注意について(目標１・２・３)
第11回　ADHDの理解と支援のあり方：注意の特性に応じた支援(目標１・２・３)
第12回　ADHDの理解と支援のあり方：ADHDの衝動性について(目標１・２・３)
第13回　ADHDの理解と支援のあり方：衝動性に応じた支援(目標１・２・３)
第14回　認知特性に配慮した教育課程と指導方法(目標１・２・３)
第15回　まとめ(目標１・２・３)

予習・復習の内容

予習　指定された課題について、資料を収集し、レポートにまとめること。
復習　毎回、授業で行った指導要領による生理を確認し、理解しておくこと。
展開　当事者による署書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、発達障害の支援について理解を深めること。

成績評価

評価の基準　授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
評価の方法　講義・討議への参加及び態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。

教科書

書籍名　文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
著者名　文部科学省
出版社　海文堂出版
価格　２１０円
ISBN・ISSN　９７８－４－３０３－１２４３２－８

書籍名　文部科学省　小学校学習指導要領解説　総則編
著者名　文部科学省
出版社　東洋館出版社
価格　１０８円

ISBN・ISSN　９７８－４－４９１－０２３７０－０

書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	１７００円
ISBN・ISSN	４－０５－４０３１５２－８

推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもの行動の背景を理解しようとする姿勢・柔軟性が必要です。

2015年度シラバス

自閉症教育総論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST215
開講年度	2015年度
登録コード	A1117001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	自閉症教育総論
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金2
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	必修	必修	必修
幼稚園教諭：	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	自閉症スペクトラム障害，認知特性，早期発見と早期支援
授業のねらい・概要	自閉症スペクトラムの幼児，児童の心理，生理について理解を深める。紙面だけでは理解されにくい自閉症について、映像からも理解したうえで、グループで話し合い、具体的な支援について学ぶ。また、学習指導要領に則して、教育的支援について整理する。
学生の達成目標	１、自閉症スペクトラムの幼児,児童の心理,生理について理解する。 ２、自閉症合スペクトラムの認知特性に応じた教育的支援について学び、支援の方法について考え工夫することができる。

３、学習指導要領に則して、自閉症スペクトラムのある子どもへの教育的支援について整理することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	自閉症とは（目標１）
	第3回	自閉症の心理:認知特性 と支援①：ことばについて(目標1・２・３)
	第4回	自閉症の心理:認知特性 と支援②：ことばを補う伝え方とＩＣＴを活用した支援について(目標1・２・３)
	第5回	認知特性 に応じた学校での支援：特性を理解した支援とＩＣＴの活用(目標２)
	第6回	認知特性 に応じた学校での支援：自立活動的な支援(目標２・３)
	第7回	自閉症の心理:認知特性 と支援③：パニックとは(目標1・２・３)
	第8回	自閉症の心理:認知特性 と支援④：パニックを防ぐための支援(目標1・２・３)
	第9回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑤：集団のルールの理解の仕方(目標1・２・３)
	第10回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑥：集団のルールを理解のための支援(目標1・２・３)
	第11回	自閉症の心理:認知特性 と支援⑦：身体の感覚について(目標1・２・３)
	第12回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)：肯定的な支援(目標２・３)
	第13回	具体的な教育支援(グループ討論と演習)：事例検討(目標２・３)
	第14回	まとめ：事例から個別の支援指導計画作成に向けて (目標１・２・３)
	第15回	まとめ (目標１・２・３)
予習・復習の内容	予習	指定された課題について、資料を収集し、レポートにまとめること。
	復習	毎回、授業で行った指導要領による整理を確認し、理解しておくこと。
	展開	当事者による著書や、具体的な支援の実際についての書籍などから、自閉症の認知特性と支援について理解を深めること。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	講義・討議への参加及び態度（ 20%），提出物（ 20%），試験（ 60%）を総合的に評価する。

教科書

書籍名	文部科学省　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	２１０円
ISBN・ISSN	９７８－４－３０３－１２４３２－８

書籍名	絵で分かる自閉症児の困り感に寄り添う保育
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	２１００円

ISBN・ISSN　９７８－４－０５－４０４５４５－３

書籍名	見て分かる困り感に寄り添う支援の実際
著者名	佐藤　暁
出版社	学研
価格	１７００円
ISBN・ISSN	４－０５－４０３１５２－８

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

障害のある子どものＩＣＴ活用

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EST216
開講年度	2015年度
登録コード	A1118901
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	障害のある子どものＩＣＴ活用
科目責任者	加藤　悦子
担当教員	遠藤　隆志 庭野　公恵 内田　義人 井上　賞子 平林　ルミ
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	8月24日～8月27日・1～4限
教室	講義室12, 講義室15
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択	選択	選択
保育士：	選択	選択	選択	選択
理学療法士：	不要	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ICT活用　支援ツール　障害のある子ども
授業のねらい・概要	特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室・通常の学級などに在籍する発達障害を中心とした障害のある子ども、特別な支援を要する子どもに対する支援方策

	としてのICT活用の意義や指導方法を理解し、障害による困難性の改善・克服を図る基本的な知識や技術を養う。
学生の達成目標	１．発達障害を中心とした障害のある子ども・支援を要する子どもの生活上・学習上の困難性について理解できる。 ２．発達障害を中心とした障害のある子ども・支援を要する子どもへのICT活用の意義について理解できる。 ３．発達障害を中心とした障害のある子ども・支援を要する子どもへのICT活用の基礎的な技術を理解し、初歩的な実践ができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　障害のある子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 第3回　障害のある子どもへのICT活用の意義（目標２） 第4回　障害のある子どもへのICT活用の基本と配慮点（目標３） 第5回　通常の学級の支援を要する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 第6回　通常の学級と通級指導教室・家庭との連携によるICT活用支援の実際（目標２） 第7回　通常の学級の支援を要する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 第8回　特別支援学校に在籍する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 第9回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の実際と家庭との連携（目標２） 第10回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（３） 第11回　特別支援学校に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 第12回　特別支援学級に在籍する子どもの生活上・学習上の困難さ（目標１） 第13回　特別支援学級に在籍する子どもへのICT活用支援の実際（目標２） 第14回　特別支援学級に在籍する子どもへのICT活用支援の基本と実習（目標３） 第15回　まとめ（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習　講義前に教科書を読み、実際の支援についてのイメージをしっかりと持って参加すること。 復習　講義で配布された資料を、再度読み、修得した知識を整理すること。 展開　実際に、ボランティア活動、教育実習などで子どもとかかわる時に、既習の知識技術から、何を活用できるか、想定して、自分なりの支援を組み立ててみること。
成績評価	評価の基準　障害のある子どもの生活上・学習上の困難さを理解し、子どもに応じたICT活用の支援を組み立て、基本的な技術を修得し、簡単な実践を行うことができるか。 評価の方法　基本的な理解と実践（５０%） レポート（３０%） 学習態度（２０%）
教科書	書籍名　タブレットPC・ｽﾏﾎ時代の子どもの教育

著者名	中邑賢龍・近藤武夫
出版社	明治図書
価格	１６００円
ISBN・ISSN	９７８－４－１８－００７１２５－８

推薦図書等	
参考URL	
備考	＊この科目は履修人数に制限があります。年度初めガイダンスのアナウンスによって、履修の手続きをしてください。集中講義ですから、詳細な日程・教室などは、Uナビでお知らせしますので、気をつけて見るようにしてください。

2015年度シラバス

特別支援教育調査演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP201
開講年度	2015年度
登録コード	A1119001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育調査演習
科目責任者	尾崎　祐三
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子 多田　昌代 田所　明房
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次・4年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次	4年次
小学校教諭：	自由	自由	自由
特別支援学校教諭：	選択	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由	自由
保育士：	自由	自由	自由
理学療法士：	不要	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援学校　教育実習
授業のねらい・概要	特別支援学校教諭を志望し教育実習を行おうとする者はこの科目を履修し,実習に備えるようにすること。教育実習が予想される特別支援学校での教育活動に参加することを通して，児童生徒の様子や取り組みの実際にふれ，特別支援学校での教育を体験的に学ぶ。

学生の達成目標	1.特別支援学校の教育の実際,児童生徒の様子について理解し，説明できる。 2.特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について意識と考えを深め、説明することができる。
授業内容	○通期・集中の科目である。集中的に実施する。 ○この科目はキャリア形成，特別支援教育関係科目の履修，教育実習や教員採用等と関連が深い。そのため，特別な事情がない限り特別支援教育主専攻の学生は履修すること。 ○障害のある児童・生徒が学ぶ，特別支援学校等の教育の場や取り組みの実際場面の見学を実施する。集団で，または事情により個人や少人数での見学もしくは実践に参加しての参観を行う。（目標１，２） ○事前ガイダンスに参加し，見学・参観での留意点，着眼点，態度等について理解する。（目標１） ○見学のまとめを行い，レポートを提出する。（目標１，２） ＊実施の具体的な方法・実施日は追って示します。 事前ガイダンスには必ず参加のこと。見学・参観は，１日で複数校を訪問したり，特定の日に集中的に実施したり，連続して訪問・参観したりすることもあります。
予習・復習の内容	予習　居住地に近い特別支援学校を調べる。特別支援学校の教育内容，年間計画を調べておく。既習の特別支援教育の授業内容を整理しておくこと。 復習　毎回の見学や体験の内容を振り返り，必要な反省と理解を確かなものにする。 展開　特別支援教育実習の事前指導および本実習と関連づけ，実際に生かす。
成績評価	評価の基準　特別支援学校等の役割，教育の実際，児童生徒の様子を理解し，自分の進路や教育への意識や考えを深められていること。 評価の方法　レポート 50%，事前ガイダンスを含む見学や体験・その報告 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	事前ガイダンスを行います。見学・参観の留意事項等を説明します。各自の平日の空き日や夏期・春期休業時に参観を実施します。千葉県のボランティア制度を利用することがあります。当日の参観は，教育実習に準じます。身なりや言動をわきまえての参加が求められます。見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。

2015年度シラバス

特別支援教育参観実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP101
開講年度	2015年度
登録コード	A1126001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育参観実習
科目責任者	多田　昌代
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子 田所　明房 尾崎　祐三
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別支援学校，特別支援学級
授業のねらい・概要	特別支援学校教諭や特別支援学級の教諭になる上で，必要な参観を実施する。特別支援学校を主に見学を行い，特別支援教育の実際を実地に学ぶとともに，児童生徒の様子，教師の支援や対応についても参観し，特別支援教育実習への意欲や態度，知識を培う。

学生の達成目標	1.特別支援学校教育の実際について実地の参観を通して初歩の理解ができる。 2.障害のある子どもの実際の様子,教師の支援や対応を受け止め,実習等と関連づけて理解することができる。 3.特別支援学校教諭等の進路を意識し,実践や実際について考えを深めることができる。
授業内容	＊９月上旬に実施。 事前ガイダンス 事後ガイダンス・振り返りとまとめ
予習・復習の内容	予習　特別支援学校について自分なりに調べたり経験を振り返っておく。 復習　参観で見聞きした事柄を自分なりに咀嚼し、資料で確認し深める。 展開　特別支援学校に関する授業内容、障害に関する授業内容に反映させて発展を図る。
成績評価	評価の基準　特別支援学校等の役割，教育の実際を理解し，自分の受け止めや考えを深めること。 評価の方法　レポート 50%，事前・事後ガイダンスおける授業内での発表，及び態度 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する レポートの様式等も示します
推薦図書等	
参考URL	
備考	事前ガイダンスを行います。 参観学校の概要説明や見学の際のの留意事項等を説明します。 これに参加しないと履修を認めません。 当日の参観は，教育実習に準じます。 身なりや言動をわきまえての参加が必須です。 見学の際の遅刻，無断欠席，身なり等の乱れは厳禁です。 事後ガイダンスへの出席も必須です。

2015年度シラバス

特別支援教育実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP301
開講年度	2015年度
登録コード	A1120001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習
科目責任者	田所　明房
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子 多田　昌代 尾崎　祐三
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	3
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　自由 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　自由 保育士：　自由 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	一日・一週間の流れ，共に活動，ひとり一人の理解と支援，連携，服務
授業のねらい・概要	実習生といえども，子どもや親たちにとっては先生となる。社会人として，あるいは教職としての規範が求められる。さらに，障害への正しい理解に「やさしさ」と「いたわり」が加わる心豊かな人間性が求められる。 実習では，目の前にいる子どもたちを通して多くのことを学ぶ。子どもの二ー

	ズ，授業づくり，個別の指導計画，教育課程，危機管理，等々，今日的課題と教師となる基礎を学ぶ。
学生の達成目標	1.障害への正しい理解と心豊かな人間性を養う。 2.児童生徒への支援的対応等,教育実践上の課題解決に向けた努力をする。 3.特別支援学校における指導・支援の実践的体験をとおして専門的な知識・技能を身につけ,教育者としての意識を深め,責任ある行動がとれる。
授業内容	＊原則９月～11月に実施 第1回 1　実習の内容（目標１，２，３） （１）オリエンテーション （２）共に活動し児童生徒を理解する （３）支援の補助とチームティーチング 第2回 （４）教材研究及び略案指導 （５）精錬指導 ２　勤務(目標１,２,３) （１）勤務は実習校教職員の勤務に準じ、監督者の指示によって勤務する （２）実習は学校長及び学校長の指定する指導担当教諭の指導によって行う 第3回　報告・記録 （１）実習記録簿に押印し勤務状況を記録する（目標３） （２）実習日誌に記録し、指導担当教諭の指導を受ける（目標１，２，３） （３）実習評価表により学校長及び指導担当教諭の評価を受ける
予習・復習の内容	予習　参観実習の様子を思い返したり、調査演習での出来事を振り返り、また事前指導での留意点を確認し、実習に備えよう。 復習　事後指導に備え、記録簿の内容点検、精錬授業の振り返り、実習での自己課題が達成できたか確認しよう。 展開　教員としてあるべき姿を改めて確認し、学校現場で実習での成果と課題をどのように生かすか考えてみよう。
成績評価	評価の基準　障害のある児童生徒への理解及び基礎的な支援内容と方法等の課題が理解できていることを合格基準とする。 評価の方法　実習先の実習評価・出勤簿等を中心に，記録簿の内容，巡回指導訪問報告書の内容を加味して評価する。 実習評価・出勤簿（ 70%）実習記録簿・巡回指導訪問報告書（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 必要な資料等を授業中に配布する. 教育実習の手引き　特別支援教育実習記録簿　実習関係配付資料
推薦図書等	
参考URL	
備考	・同時に「特別支援教育実習事前事後指導」を履修（登録）すること。 ・実習履修要件を満たし，実習を行うことが認定されていること。 ・実習受け入れ決定後の個人的な理由による辞退はしないようにしてください。 ・児童生徒のプライバシー保護やマナーに十分配慮してください。

2015年度シラバス

特別支援教育実習事前事後指導

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESP202
開講年度	2015年度
登録コード	A1121001
科目区分	特別支援教育専門科目
授業科目名	特別支援教育実習事前事後指導
科目責任者	田所　明房
担当教員	渡邉　章 加藤　悦子 多田　昌代 尾崎　祐三
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	月5
教室	（前期）講義室21，22 （後期）講義室15
卒業要件	発達教育学部：　自由
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	自由	自由
特別支援学校教諭：	必修	必修
幼稚園教諭：	自由	自由
保育士：	自由	自由
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，特別支援学校，指導（支援）案，チームティーチング
授業のねらい・概要	・実習の意義や心構え，実習上の必要な事項について確認する。 ・児童生徒への支援的対応，実習における自己目標の設定，実習日誌への記入について理解する。 ・児童生徒の一日の生活の流れ，興味関心をはじめ，今の取り組みはどの時期の

	どの位置にあるかなどを理解し，指導計画や支援案づくりの資料とする。 ・事後指導では，実習記録簿の整理と自己評価を行い，意見を交換し反省をまとめる。
学生の達成目標	1．実習の意義と必要性をより一層深め,特別支援学校実習に対してしっかりとした心構えを持つ。 2．特別支援学校の概要及び指導の内容を理解し説明できる。 3．将来に見通しを持ち,教育現場で意欲的に取り組もうとする意識を持つ。
授業内容	＊この科目は通年です。 1事前指導 第1回　ガイダンス,事前指導の意義,実習の目的等(目標1) 第2回　教師のあり方・心構え,実習にあたっての留意事項,手続き(目標2) 第3回　学校の教育活動について(目標2) 第4回　特別支援学校の概要と服務(目標2) 第5回　指導案の書き方及び児童生徒への支援的対応(目標2) 第6回　実習記録簿の意義と記入の仕方,事前訪問の注意(目標1)挨拶・打合せ〈実習先でのオリエンテーション〉 2 事後指導 第7回　実習記録簿の整理,提出(目標3) 第8回　実習報告会(意見交換と反省・まとめ)(目標3)
予習・復習の内容	予習　実習について日常から関心を持ち、先輩の話を聞くなどして現場の様子を知る努力をする。 実習の手引きをもとに毎回の該当箇所をよく読み下調べをしておく。 特別支援学校でのボランティア等で の実施体験をしておくことが望ましい。 復習　毎回の授業のまとめを実習の手引きに照らし合わせてメモしておく。 実習の事後指導の後にも、実習体験を生かして講義等に臨むこと。 展開　実習の事前指導をしっかりして準備しておくことが本実習の成果を左右する。 実習の事後指導で自己を見つめなおし、今後の進路のあり方を定め、自己改善につなげていく。
成績評価	評価の基準　実習における自己目標や評価，障害児への基礎的な支援内容や方法，指導案の書き方等，基本的な事柄が理解できていることを合格基準とする。 評価の方法　記録簿，レポート等の内容で評価する。 事前・事後学習への参加姿勢をも考慮する。 記録・レポート（ 70%），授業内での発表内容及び態度（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 「教育実習の手引き」「特別支援教育実習記録簿」
推薦図書等	書籍名　特別支援学校幼稚部教育要領，小学部・中学部学習指導要領，高等部学習指導要領 著者名　文部科学省 出版社　海文堂出版 価格　440円＋税

ISBN・ISSN	978-4-303-12422-9
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚園・小学部・中学部）
著者名	文部科学省
出版社	教育出版
価格	450円＋税
ISBN・ISSN	978-4-316-30016-0
書籍名	特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部，小学部，中学部，高等部）
著者名	文部科学省
出版社	海文堂出版
価格	200円＋税
ISBN・ISSN	978-4-303-12432-8

参考URL	
備考	・特別支援教育実習の希望者は全員が対象。 ・特別支援教育実習を行う年度に必ず受講する。 なお，事前指導第１回～第３回については，小学校教育実習事前指導と合同で行う。

2015年度シラバス

保育活動実地演習 I

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR101
開講年度	2015年度
登録コード	A1060101
科目区分	地域活動科目
授業科目名	保育活動実地演習 I
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2.自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3.自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する

授業内容

授業は通期で行います。
・オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等)(目標１)
・オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等)(目標１)
以下，施設において　年間40時間以上実施
・ボランティア活動のまとめ（活動報告会）（目標２・３）
・ボランティア活動のまとめ（記録の提出）（目標２・３）

予習・復習の内容	予習	履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する
	復習	実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出（2月中旬までに）
	展開	本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。 主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。
成績評価	評価の基準	この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 GPAは適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい） ＊上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。
	評価の方法	参加内容 50%，報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 教科書は必要としない。 必要に応じて資料（「ボランティア活動に取り組もう」）を配付する。	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

保育活動実地演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR201
開講年度	2015年度
登録コード	A1060201
科目区分	地域活動科目
授業科目名	保育活動実地演習Ⅱ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2.自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3.自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する

授業内容

	＊授業は通期で行います。 ・オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等) (目標1) ・オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等) (目標1) 以下，施設において　年間40時間以上実施 ・ボランティア活動のまとめ (活動報告会) (目標2・3) ・ボランティア活動のまとめ (記録の提出) (目標2・3)
予習・復習の内容	予習　履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する 復習　実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出（2月中旬までに） 展開　本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。
成績評価	評価の基準　この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 GPAは適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい） ＊上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法　参加内容 50%，報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

保育活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EIR301
開講年度	2015年度
登録コード	A1060301
科目区分	地域活動科目
授業科目名	保育活動実地演習Ⅲ
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，保育施設，乳幼児期
授業のねらい・概要	ボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，乳幼児とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分でボランティアの計画を立て,進んで活動に取り組む 2.自分なりに工夫しながら,乳幼児と関わる 3.自分なりの課題意識を持ちながら,活動に従事する

授業内容

	＊授業は通期で行います。 ・オリエンテーション ①(ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等) (目標1) ・オリエンテーション ②(ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等) (目標1) 以下，施設において　年間40時間以上実施 ・ボランティア活動のまとめ (活動報告会) (目標2・3) ・ボランティア活動のまとめ (記録の提出) (目標2・3)
予習・復習の内容	予習　履修登録およびオリエンテーションを受講する ボランティア活動先を探して決定し、担当教員に報告する 復習　実施証明書（実施証明を活動先からいただくことを含む）および報告書の作成・提出（2月中旬までに） 展開　本演習は,乳幼児と特にかかわるボランティアを行う場合が対象です。主なボランティア先としては,「保育所」「幼稚園」「障害児通園施設」「子育て支援施設関係」等があります。
成績評価	評価の基準　この科目は，合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」に該当する。 GPAは適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は,以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティア ②授業時間の他でボランティアをすること ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること（できるかぎり，同一施設で長期間ボランティアを行うことが望ましい） ＊上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法　参加内容 50%，報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

教育活動実地演習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER101
開講年度	2015年度
登録コード	A1103101
科目区分	地域活動科目
授業科目名	教育活動実地演習 Ⅰ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，教育，児童

授業のねらい・概要

	ボランティア活動を通して，ボランティアの精神を身につけるとともに，児童とかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2.人とのふれあいを通じて，実践的な力や社会性を身につけられるようになる。 3.子供に対する見方，かかわり方を深めることができる。
授業内容	＊通期で行います。 ・オリエンテーション ①（目標１） ボランティア活動とは何か，記録用紙の配布など ・オリエンテーション ②（目標１） ボランティア先や見つけ方，記録の書き方など ・ボランティア活動に参加して体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・3） 施設や学校等において40時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 次年度に向けて課題を整理する
予習・復習の内容	予習　・ボランティアにいく気持ちのある学生は，年度初めに必ず履修すること。また，ボランティア先が決定したら必ずキャリア支援室に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・子供への接し方，見方，記録のとり方など勉強しておくこと。 ・服装，言動について学んでおくこと。 ・日ごろから児童に関する書籍を読むこと。 復習　・ボランティア終了後，ボランティア先から活動証明印を活動記録用紙にもらうこと。 ・子供の行動，自分のとった行動、子供の変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは，指導者に聞いたり調べたりして、解決をはかる。 展開　・できる限り，同一学校で長期間ボランティアを行うことが望ましい。 ・分からないことは、勝手に判断しないで、必ずボランティア先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは，一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は，合格か不合格のみを決める「単位認定科目」である。 ＧＰＡの適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は，以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延べ 40時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法　実践報告書をもとにボランティア認定委員会などを通して単位を認定する。実践報告書の提出は２月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する キャリア支援室から配布される「ボランティア活動」を熟読して臨むこと。

推薦図書等	
参考URL	
備考	・「教育活動実地演習」は小学生，中学生の教育活動などにかかわるボランティアをある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア，不登校の子供の支援，学童保育，レクリエーション活動，部活への支援などがある。

2015年度シラバス

教育活動実地演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER201
開講年度	2015年度
登録コード	A1103201
科目区分	地域活動科目
授業科目名	教育活動実地演習Ⅱ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、教育、児童

授業のねらい・概要

	ボランティア活動を通じて，ボランティアの精神を身につけるとともに，児童・生徒にかかわる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	１．自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できるようになる。 ２．人とのふれ合いを通じて，実践的な力や社会性を身につけられるようになる。 ３．子どもに対する見方，かかわり方を深めることができるようになる。
授業内容	＊通期で行います。 ・オリエンテーション①（目標1） ボランティア活動とは何か，記録用紙の配布など ・オリエンテーション②（目標1） ボランティア先や見つけ方，記録の書き方など ・ボランティア活動に参加して体験談を聞く（目標3） ・ボランティア活動の実践と記録（目標2・3） 施設や学校等において４０時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 次年度に向けて課題を整理する
予習・復習の内容	予習　・ボランティアにいく気持ちのある学生は，年度初めに必ず履修すること。また，ボランティア先が決定したら必ずキャリア支援室に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・子どもへの接し方，見方，記録のとり方など勉強しておくこと。 ・服装、言動について学んでおくこと。 ・日頃から児童に関する書籍を読むこと。 復習　・ボランティア終了後，ボランティア先から活動証明印を活動記録用紙にもらうこと。 ・子どもの行動，自分のとった行動，子どもの変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞いたり，調べたりして，解決をはかる。 展開　・長期間ボランティアを行うことが望ましい。 ・わからないことは，必ずボランティア先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは，一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。単位として認められる条件は以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③1年間に延べ40時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法　実践報告書をもとにボランティア認定委員会などを通して単位を認定する。実践報告書の提出は１月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 教科書は用いない。必要な資料等はキャリア演習で配布する。ただし、入学後キャリア支援室から配布された「ボランティア活動」を熟読して臨むこと。

推薦図書等	
参考URL	
備考	・「教育活動実地演習」は小学生，中学生の教育活動などにかかわるボランティアを，ある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア，不登校の子どもの支援，学童保育，レクレーション活動，部活への支援などがある。

2015年度シラバス

教育活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EER301
開講年度	2015年度
登録コード	A1103301
科目区分	地域活動科目
授業科目名	教育活動実地演習Ⅲ
科目責任者	桑田　良子
担当教員	川端　眞由美 森高　光広 村上　悦子 戸丸　俊文 早川　雅晴 京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、教育、児童

授業のねらい・概要

	ボランティア活動を通して、ボランティアの精神を身につけるとともに、児童・生徒にかかわる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティア活動に対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分の計画や見通しをもってボランティア活動に参加できる。 2.人との触れ合いを通じて、実践的な力や社会性を身につける。 3.子どもに対する見方、かかわり方を深める。
授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション①（目標１） ボランティア活動とは何か、記録用紙の配布など ・オリエンテーション②（目標１） ボランティア先の見つけ方、記録の書き方など ・ボランティア活動に参加して体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において40時間以上実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 次年度に向けて課題を整理する
予習・復習の内容	予習　・ボランティアに行く気持ちのある学生は年度初めに　必ず履修すること。また、ボランティア先が決定したら必ずキャリア支援室に届けること。（事故遭遇時の保障に関係します） ・子どもへの接し方、見方、記録のとり方など勉強しておくこと。 ・服装・言動について学んでおくこと。 ・日ごろから児童に関する書籍を読むこと。 復習　・ボランティア終了後、ボランティア先から活動証明印を活動記録用紙にもらう。 ・子どもの行動、自分のとった行動、子どもの変化についてまとめる。 ・疑問に思ったことは、指導者に聞いたり調べたりして、解決ををはかる。 展開　・できる限り、同一学校で長時間ボランティアを行うことが望ましい。 ・分からないことは、勝手に判断しないで、必ずボランティア先の責任者に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えたときは、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は、合格か不合格の身を決める「単位認定科目」である。GPAの適用除外科目である。単位として認められる条件は以下の通りとする。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がなされていること。 評価の方法　実践報告書をもとにボランティア認定委員会などを通して単位を認定する。実践報告書の提出は２月末日までとする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

	1年次にキャリア支援室から配布された植草学園大学作成「ボランティア活動」の小冊子を用いる。熟読して臨むこと。
推薦図書等	
参考URL	
備考	・「教育活動実地演習」は小学生、中学生の教育活動などにかかわるボランティアを、ある期間行うような場合を対象とする。小学校・中学校での教育ボランティア、不登校の子どもの支援、学童保育、レクレーション活動、部活への支援などがある。

2015年度シラバス

障害者支援活動実地演習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR101
開講年度	2015年度
登録コード	A1122101
科目区分	地域活動科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習Ⅰ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動，障害者支援
授業のねらい・概要	障害のある人にかかわる施設・学校などのボランティア活動を通して，ボランティア精神を身につけるとともに，障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め，ボランティアに対する理解や関心の幅を広げる。
学生の達成目標	1.自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2.障害のある子どもや大人の,一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3.約束ごとや個人のプライバシー等を守り,信頼関係の大切さを知る。

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等 ・ボランティア活動に参加して、体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から、学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 活動の報告会
予習・復習の内容	予習　・ボランティアに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録すること。また、キャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを勉強していく。 ・服装・言動についても学んでおくこと。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおくこと。 復習　・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印にしていただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとった言動、障害のある人の変化などについてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして、解決をはかる。 展開　・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は、合格か不合格かのみを決める「単位認定科目」である。ＧＡＰの適用除外科目である。 単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法　実施報告書を提出することで合格とする。 提出は２月２０日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

障害者支援活動実地演習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR201
開講年度	2015年度
登録コード	A1122201
科目区分	地域活動科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習Ⅱ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　選択 特別支援学校教諭：　選択 幼稚園教諭：　選択 保育士：　選択 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、障害者支援
授業のねらい・概要	障害のある人にかかわる施設・学校などのボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティアに対する理解や関心を広げる。
学生の達成目標	1.自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2.障害のある子どもや大人の、一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3.約束ごとや個人のプライバシー等を守り、信頼関係の大切さを知る。

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等 ・ボランティア活動に参加して、体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から、学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 活動の報告会
予習・復習の内容	予習　・ボランティアに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録をすること。また、キャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します。） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを勉強していく。 ・服装・言動についても学んでおくこと。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおくこと。 復習　・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分のとって言動・障害のある人の変化などについてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして解決をはかる。 展開　・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は合格か、不合格かのみを決める「単位認定科目」である。ＧＡＰの適用除外科目である。単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法　実施報告書を提出することで合格とする。 提出は２月２０日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

障害者支援活動実地演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	ESR301
開講年度	2015年度
登録コード	A1122301
科目区分	地域活動科目
授業科目名	障害者支援活動実地演習Ⅲ
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次・4年次

免許・資格との関係

	3年次	4年次
小学校教諭：	選択	選択
特別支援学校教諭：	選択	選択
幼稚園教諭：	選択	選択
保育士：	選択	選択
理学療法士：	不要	不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボランティア活動、障害者支援
授業のねらい・概要	障害のある人にかかわる施設・学校などのボランティア活動を通して、ボランティア精神を身につけるとともに、障害のある子どもや大人と関わる際の実践的な力や社会性を高め、ボランティアに対する理解や関心を広げる。
学生の達成目標	1.自分の計画や見通しを持ってボランティア活動に参加できる。 2.障害のある子どもや大人の、一人ひとりのニーズにそった支援の仕方を身につける。 3.約束ごとや個人のプライバシー等を守り、信頼関係の大切さを知る。

授業内容	＊通期で行います ・オリエンテーション ①（目標１） ボランティア活動とは何か,記録用紙の配布等 ・オリエンテーション ②（目標１） ボランティア先や見つけ方,記録の書き方等 ・ボランティア活動に参加して、体験談を聞く（目標３） ・ボランティア活動の実践と記録（目標２・３） 施設や学校等において年間 40時間以上を実施 ・ボランティア活動のまとめ①（目標３） 記録から、学んだことをまとめる ・ボランティア活動のまとめ②（目標３） 活動の報告会
予習・復習の内容	予習　・ボランティアに行く気持ちのある学生は、年度初めに必ず履修登録をすること。また、キャリア支援室に届けること。（事故時の補償に関係します。） ・障害のある人へのかかわり方、記録のとり方などを勉強していく。 ・服装・言動についても学んでおくこと。 ・日頃から、障害に関する書籍を読んでおくこと。 復習　・ボランティア終了後、活動証明印を記録用紙に押印していただく。 ・気になったこと、観察したことを書き留める。障害のある人の言動・自分にとって言動・障害のある人の変化などについてまとめる。 ・疑問に思ったことは指導者に聞く、調べるなどして解決をはかる。 展開　・できるだけ、同一のところで、長期間ボランティアをすることが望ましい。 ・わからないことは、自分で判断せずに、必ず、責任者の方に聞く。 ・困ったことや悩みを抱えた時には、一人で抱え込まず必ず教員に相談する。
成績評価	評価の基準　この科目は合格か、不合格かのみを決める。「単位認定科目」である。ＧＰＡの適用除外科目である。単位として認められるボランティアの条件は以下の通りである。 ①原則として無償ボランティアであること。 ②授業時間の他でボランティアをすること。 ③１年間に延４０時間以上の活動証明がされていること。 評価の方法　実施報告書を提出することで合格とする。 提出は２月１０日とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（浦野）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123003
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（浦野）
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	書写教育，文字，漢字，書き方，指導法
授業のねらい・概要	漢字や仮名に関する理解や文字の書き方とその指導法について研究し，知見を深める。
学生の達成目標	1.漢字や仮名の発達に関する基本的な理解を得る。 2.文字の書き方に関して体系的に理解する。 3.文字の書き方の指導に関する教育上の意義を理解する。
授業内容	第1回　書写教育のねらいと漢字や仮名の文化（総論）（目標１，２，３） 第2回　書写の教科書と仮名の書き方指導（学習系統論）（目標３）

第3回　書写の教科書と漢字の書き方指導（学習系統論）（目標３）

第4回　漢字の発達史１（殷周時代の漢字とその書き方）（目標１，２）

第5回　漢字の発達史２（秦漢時代の漢字とその書き方）（目標１，２）

第6回　漢字の発達史３（三国時代以降の漢字とその書き方）（目標１，２）

第7回　仮名の発達史（日本の上代から平安時代の仮名とその書き方）（目標１，２）

第8回　寺子屋の教育と明治時代の小学校における文字の書き方指導（目標３）

第9回　大正時代から昭和時代の小学校における文字の書き方指導（目標３）

第10回　近代日本の文字文化（印刷字体と手書き文字）（目標１）

第11回　近代日本における漢字字体表の変遷（目標１）

第12回　印刷字体と手書き文字の字体の差異１　実態（目標１）

第13回　印刷字体と手書き文字の字体の差異２　手書きの習慣の尊重（目標１）

第14回　手書き文字の字体の特徴１　小学校学年配当漢字における扱い（目標１）

第15回　手書き文字の字体の特徴２　行書との関連性（目標１）

第16回　手書き文字の字体の特徴３　実用性と習慣の定着（目標１）

第17回　筆記具の違いを生かした文字の書き方１　硬筆（目標２）

第18回　筆記具の違いを生かした文字の書き方２　毛筆（目標２）

第19回　筆記具の違いを生かした文字の書き方３　文字の大小と筆記具（目標２）

第20回　児童の文字の書き方の特徴（目標３）

第21回　小学校低学年児童の手指の発達と文字の書き方指導（目標３）

第22回　小学校高学年児童の書き方指導（目標３）

第23回　漢字の成り立ちと意味の理解１　原義と転義（目標１）

第24回　漢字の成り立ちと意味の理解２　象形，指事（目標１）

第25回　漢字の成り立ちと意味の理解３　会意，形声（目標１）

第26回　漢字の成り立ちと意味の理解４　転注，仮借（目標１）

第27回　仮名の成り立ちと字形の変化（目標１）

第28回　漢字の意味の理解に基づく漢字指導（目標１，３）

第29回　漢字の意味の理解に基づく書き方指導（目標１，３）

第30回　漢字仮名の文化の伝承と教育（目標１，２，３）

予習・復習の内容

予習　小学校学年配当漢字，常用漢字，仮名の発達，小学生用漢字字典について，基礎的な知識を持って授業に臨むこと。内容に応じて，指示された調査事項を事前に整理しておくこと。

復習　毎時間のテーマについて、自身の考えをまとめて記録すること。

展開　漢字・仮名に関する課題について，関連資料を収集し，レポートとしてまとめる。また、自身で関心のあるテーマを見つけ、それについて探求する。

成績評価

評価の基準　授業内容の理解，課題レポートへの意欲的な取り組み，理解した内容を生活や職業に役立てようとする意志。

	評価の方法　課題レポート（70%）及び授業における意欲・態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 書籍名　漢字指導の手引き（第六版） 著者名　久米公 出版社　教育出版社刊 価格　1,500円＋税 ISBN・ISSN　978-4316802565
推薦図書等	書籍名　漢字指導の手引き　第7版 著者名　久米公 出版社　教育出版 価格　￥1728.- ISBN・ISSN　978-4-316-80298-5
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（渡邉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123012
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（渡邉）
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室10，11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	特別な教育的ニーズのある子どもの指導及び支援に関する文献資料の収集方法について理解し，関心のあるテーマについて自分の考えを適切に表現できるようになるとともに，自分の研究したいテーマを明確に表現できるようになる。
学生の達成目標	1．文献資料の収集方法を理解し，自分の関心のあるテーマについて必要な資料を収集できるようになる。 2．収集した文献資料の内容を理解し，自分の考えを適切に表現できるようになる。 3．自分の研究したいテーマを明確に表現できるようになる。

授業内容

第1回　前期のイントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）

第2回　関心のある領域の文献資料の収集方法（目標1）

第3回　関心のある領域の文献資料を収集するための図書館の利用方法（目標1）

第4回　関心のある領域の文献資料を収集するためのデータベースの利用方法（目標1）

第5回　関心のある領域の文献資料を収集するためのインターネットの利用方法（目標1）

第6回　関心のある領域の文献資料を収集するための文献複写の方法（目標1）

第7回　関心のある領域の国内文献資料の収集（目標2）

第8回　収集した国内文献資料の整理（目標2）

第9回　収集した国内文献資料の分析（目標2）

第10回　収集した国内文献資料についてのまとめ（目標2）

第11回　関心のある領域の海外文献資料の収集（目標2）

第12回　収集した海外文献資料の整理（目標2）

第13回　収集した海外文献資料の分析（目標2）

第14回　収集した海外文献資料についてのまとめ（目標2）

第15回　前期のまとめ　収集した文献資料を通じて学んだことの確認（目標1，2）

第16回　後期のイントロダクション　後期の授業の進め方（目標1，2，3）

第17回　研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の整理（目標2）

第18回　研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の分類（目標2）

第19回　研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料の分析（目標2）

第20回　研究テーマにしたい領域について収集した国内文献資料のまとめ（目標2）

第21回　研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の整理（目標2）

第22回　研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の分類（目標2）

第23回　研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料の分析（目標2）

第24回　研究テーマにしたい領域について収集した海外文献資料のまとめ（目標2）

第25回　研究目的の検討（目標3）

第26回　研究対象の検討（目標3）

第27回　研究方法の検討（目標3）

第28回　研究要旨の検討（目標3）

第29回　研究テーマと研究要旨のまとめ（目標3）

第30回

		後期のまとめ　後期の授業の振り返りと各自の研究テーマの確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	指定された課題について関係資料を収集・検討し，レポートにまとめておくこと。
	復習	発表及び協議の内容を整理し，まとめておくこと。
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	1）文献資料の収集方法について理解していること。 2）収集した文献資料の内容を理解し，自分の考えを的確に表現できること。
	評価の方法	平常点，提出レポートにより評価する。 （平常点 50%，提出レポート 50%） 平常点には，発表・協議・グループ活動が含まれる。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（高野）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123022
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（高野）
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	火3
教室	ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証研究，定量的研究，定性的研究，教育問題
授業のねらい・概要	本ゼミナールⅠ（教育社会学ゼミ）は、当然視されている通念を問い直し、個人の教育体験を客観視するとともに、相対化する能力を獲得することを授業のねらいとする。 前半は文献を読むことを通じて，教育社会学的なアプローチの仕方を学ぶ。後半は，調査実践をとおして実証的な研究を行う力を養う。
学生の達成目標	1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。

2. 文献講読と調査研究をとおして,卒業研究に生かす力を獲得する。
3. 現代の教育の諸相をわかりやすく構成し,発表することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション:専門ゼミナール学習の目的と年間授業計画
	第2回	担当教員の専門領域の概略(目標1,2)
	第3回	担当教員の研究の紹介(目標1,2)
	第4回	文献を読む: ①教育社会学的アプローチ「学校教育」(目標1)
	第5回	文献を読む: ②教育社会学的アプローチ「家庭教育」(目標1)
	第6回	文献を読む: ③教育社会学的なアプローチ[教育とジェンダー」(目標1)
	第7回	文献を読む: ④教育社会学的アプローチ「教育の病理」(目標1)
	第8回	文献を読む: ⑤教育社会学的アプローチ「高等教育」(目標1)
	第9回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,3)
	第10回	研究テーマと方向性に関する発表 ①個人発表(目標1,3)
	第11回	研究の方法: ①定量的研究「テーマの選定」(目標2,3)
	第12回	研究の方法: ②定量的研究「調査項目の選定」(目標2,3)
	第13回	研究の方法: ③定性的研究「面接調査」(目標2,3)
	第14回	研究の方法: ④定性的研究「調査対象と手続き」(目標2,3)
	第15回	論文の書き方:課題設定(目標2,3)
	第16回	論文の書き方:引用参考文献の示し方・註のつけ(目標2)
	第17回	研究テーマに関する中間発表 ②:学校教育分野（目標2）
	第18回	研究テーマに関する中間発表 ②：幼児保育分野（目標2）
	第19回	ゼミ調査研究の実践 ①：テーマの選定（目標1,2）
	第20回	ゼミ調査研究の実践 ②(目標1,2)：テーマの確定
	第21回	ゼミ調査研究の実践 ③：研究目的と方法及び役割の確定（目標2）
	第22回	ゼミ調査研究の実践 ④：先行研究の分析（目標2）
	第23回	ゼミ調査研究の実践 ⑤：全体構成の確定（目標1,2,3）
	第24回	ゼミ調査研究の実践 ⑥：調査研究報告書の作成（目標1,2,3)：
	第25回	ゼミ調査研究の実践 ⑦調査研究報告書の作成：目標（2：
	第26回	ゼミ調査研究の実践 ⑧：調査研究報告書の作成（目標1,2,3)：
	第27回	ゼミ調査研究の実践 ⑨：報告書の印刷・簡易製本（目標1,2,3）
	第28回	ゼミ調査研究に関する最終発表 ①(目標1,2,3)
	第29回	ゼミ調査研究に関する最終発表 ②(目標1,2,3)
	第30回	総括
予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	

		基本的には，前期と後期２回の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
	書籍名	『少子社会の子育て力』
	著者名	髙野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	ISBN:978-4-7620-2376-7
推薦図書等	書籍名	『教育社会学』
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	ISBN:9784491027289
参考URL	文部科学省ＨＰ	http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/166.htm
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（桑田）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123007
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（桑田）
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害，支援，教育相談，ソーシャルスキルトレーニング
授業のねらい・概要	児童期の一般的な発達段階とその特徴を知るとともに，発達上起こり得るつまずき（障害）について基礎的知識を確認し、さらに発展させることを目的とする。 発達診断法・支援法など文献や体験からの学びを仲間との議論を通して多面的に学ぶ。
学生の達成目標	1.自分の研究テーマを見つけて学んでいく基礎力をつける。文献の収集方法・利用について理解する。 2.支援が必要な子どものさまざまな問題について理解を深める。

相談の基本的技法や指導法，アセスメント法について学ぶ。
3.自分の考えをまとめ,発表することができる。

授業内容

第1回　オリエンテーション

第2回　ビデオ視聴から発達障害の理解と支援について知る。(目標２)

第3回　書籍から発達障害の理解と支援について知る。(目標２)

第4回　文献から発達障害の理解と支援について知る(目標２)

第5回　不登校の早期発見と早期対応について(目標２)

第6回　不登校の回復期の対応について(目標２)

第7回　観察法について(目標１)
子どもの見方

第8回　記録の取り方(目標１)

第9回　絵画療法のめざすところ(目標２)

第10回　絵画療法(目標２)
バウムテスト

第11回　絵画療法(目標２)
風景構成法

第12回　プレイセラピイ(目標２)
理論と実践

第13回　事例検討会 ①(目標３)
虐待

第14回　事例検討会 ①(目標３)
非行

第15回　前期まとめ

第16回　グループ指導について ①(目標３)
目的・方法

第17回　グループ指導について ②(目標３)
課題に沿って体験してみよう

第18回　ソーシャルスキルトレーニング ①(目標３)
人間関係をつくる内容

第19回　ソーシャルスキルトレーニング ②(目標３)
グループ体験

第20回　文献の必要性と集め方(目標１)
論文における扱い方

第21回　図書館の使い方と文献(目標１)
図書館で文献検索の仕方を学ぶ

第22回　文献を読む ①(目標１)
自分の関心のあるテーマ

第23回　文献を読む ②(目標１)
先輩の卒業論文を読む

第24回　文献を読む ③(目標１)
卒業論文から学ぶ

第25回　研究テーマの決定と目標についての検討(目標１)

第26回　研究の内容・方法についての検討(目標１)

第27回　発表・討議(目標３)

	第28回　研究計画の作成(目標１) 第29回　研究計画の作成と実施上の諸問題の検討(目標１) 第30回　後期のまとめ
予習・復習の内容	予習　・事前に指示するテーマについて調べ、当日発表できるようにすること。 ・自分の興味を持った内容については、勉強し、質問できるように準備する。 復習　・毎回の授業の要旨をまとめておくこと 展開　・積極的に授業に臨み、知識理解を深める
成績評価	評価の基準　学生の達成目標に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。 評価の方法　学習態度　50%　発表・レポート　50%
教科書	書籍名　よくわかる卒論の書き方 著者名　白井俊明・高橋一郎著 出版社　ミネルヴァ書房 価格　2 ,500円 ISBN・ISSN　ISBN： 978 -4-623-05111-3
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（安藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123023
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（安藤）
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，自分の関心，テーマの明確化
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動の意味を考えながら読み取り，関連する研究を参考にできるようにする。 ２．乳幼児期の発達に関して，文章化や討論を通じて自分の関心や問題意識を探り明確化する。 ３．自分が関心を持つ先行研究を調べ，自分の研究テーマを明確化できるようにする。
学生の達成目標	1.乳幼児の行動に関する記述や観察,関連研究を結びつけて,行動の意味や要因を考えられる。

2.乳幼児期の発達に関して,自分の視点と他者のそれとを比較し,自分の視点を深められる。
3.乳幼児期の発達に関する先行研究などを調べて検討し,自分の研究テーマを定める。

授業内容

第1回　乳幼児期の情緒の現れ方と性格との関連を理解する(目標1,2)

第2回　乳幼児期の情緒発達の筋道を理解しながら,認知や人間関係との関連を学ぶ(目標1,2)

第3回　乳幼児期の社会性の発達に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)

第4回　乳幼児期の人の心の理解に関する研究を知り,問題点を考える(目標1,2)

第5回　乳幼児の情緒をテーマとする記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)

第6回　乳幼児の社会性に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)

第7回　乳幼児の遊びに関する記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標2,3)

第8回　乳幼児の人の心の理解に関する行動記録を読み,感じたこと考えたことを発表し合う(目標1,2)

第9回　研究テーマの決め方や研究の方法について学ぶ(目標2,3)

第10回　乳幼児期の発達に関する研究論文を読み合わせて,意見を述べ合う(目標1,2)

第11回　乳幼児期の発達に関する研究論文を批判的に読み,改善すべき点について考える(目標2,3)

第12回　学生自身が興味あるテーマについて,なぜ興味があるのかも含めて発表する(目標3)

第13回　学生自身が情緒に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)

第14回　学生自身が社会性発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)

第15回　学生自身が個性の発達に関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)

第16回　学生自身が遊びに関する基本的な文章を読み,学生自身の考え方を吟味する(目標1,2)

第17回　社会性発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)

第18回　個性の発達に関する学会発表論文を読み,主旨や研究結果を要約し,意見をまとめる(目標2,3)

第19回　研究論文における論理的思考について理解する(目標2,3)

第20回　学生自身が情緒に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)

第21回　学生自身が社会性発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)

第22回　学生自身が個性の発達に関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3)

	第23回　学生自身が遊びに関する研究論文を読んできて,その内容を要約して発表する(目標2,3) 第24回　研究のための方法について理解する(目標2,3) 第25回　研究のための方法の問題点について理解する(目標2,3) 第26回　学生が関心を持っているテーマと目的について発表し,討論する(目標2,3) 第27回　学生が関心を持っているテーマの研究の仕方を発表し,討論する(目標2,3) 第28回　学生が関心を持っているテーマの予想される結果を発表し,討論する(目標2,3) 第29回　社会性発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標2,3) 第30回　個性の発達に関する似たようなテーマの論文を複数読んで,比較検討する(目標2,3)
予習・復習の内容	予習　子どもの発達に関する本・論文を読み、自分なりの考えを持つ。 復習　授業で出た資料を読み返し、自分のテーマとの関係を考える。 展開　自分なりに調べたい点を明らかにしていく。
成績評価	評価の基準　子どもの行動の意味が分かる，自分の考えを文章化し発表できる，他者の考えと比較できる。 評価の方法　レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特にない。
推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（川端）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123006
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（川端）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	火3
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽活動，音楽用語，楽曲分析，音楽書，音楽文献学
授業のねらい・概要	将来，保育や小学校の教育現場に携わるに当たり，そこで実践されている音楽活動に関する専門的視野を広げ，その中から各自がテーマを見つけて主体的に学び，研究する事の喜びを発見できるように導く。 また４年次の卒業研究を見据えて課題を絞れるような展望を開く。 音楽に関する論文では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必要となる為，楽曲分析，音楽文献学に関しても学ぶ。

学生の達成目標

1.問題意識が高まる
2.疑問点を積極的に調べることができる
3.音楽に関する得意分野ができる

授業内容

第1回　前期のオリエンテーション
第2回　保育現場での音楽活動について (目標1,3)
第3回　幼稚園での音楽活動について (目標1,3)
第4回　小学校での音楽活動について (目標1,3)
第5回　各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第6回　各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第7回　各自が興味のある音楽活動現場の見学・調査 (目標1,2,3)
第8回　見学・調査の発表及びそれに関する討論 (目標1,2)
第9回　収集したデータの見方・まとめ方・利用の仕方について (目標1,2)
第10回　調査報告書・レポート・論文の書き方 (目標1,2)
第11回　各自が見学・調査の報告書を作成して発表及び討論(正しく理解される文章であるか等) (目標1)
第12回　見学・調査の報告書の発表及び討論 (目標1,2)
第13回　討論の結果を踏まえて,さらに報告書の書き方の向上を目指す (目標1,2)
第14回　前期のまとめ,さらに研究を深めるために
第15回　音楽文献学 (目標1,2)
第16回　後期のオリエンテーション
第17回　楽曲分析の仕方(幼児・児童の歌から小学校の鑑賞曲)(目標1,2)
第18回　楽曲分析のデータから何をどのように読み取り,まとめる事ができるか (目標1,2)
第19回　具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(1)(目標1,2)
第20回　具体例を挙げながら,研究にあたっての問題意識,着眼点,問題解決に向けての方法論等検討(2) (目標1,2)
第21回　テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第22回　テーマを設定して各自の関心のある事柄について文献を調べる (目標1,2,3)
第23回　調べた内容の分析・検討 (目標1,2,3)
第24回　問題解決に向けて更なる検討 (目標1,2,3)
第25回　レポートの作成 (目標1,2)
第26回　レポートの作成 (目標1,2)
第27回　作成したレポートの発表及び討論(内容が正しく理解される書き方であるか等)(目標1,2,3)
第28回　作成したレポートの発表及び討論 (目標1,2,3)
第29回　討論の結果を踏まえて,さらにレポートの書き方の向上を目指す (目標1,2,3)
第30回　後期のまとめ,ゼミナールⅡに向けて

予習・復習の内容	予習	各自が興味のある保育・教育現場の音楽活動に関して、実習時の記録簿を見直して、気付いた点や問題点等を挙げておく。
	復習	保育・教育現場の音楽活動に関する調査報告発表の討論に際して、指摘された問題点や不明な箇所を再度調べなおす。
	展開	各自の興味のある音楽分野に関して、本授業で学んだ音楽文献学を駆使して参考文献を検索し、卒業研究に向けた準備をする。
成績評価	評価の基準	問題解決に向けて積極的に取り組む事ができたか。 主体的に研究する態度が身についてきたか。
	評価の方法	提出報告書（ 30%），提出レポート（ 30%），勉学意欲（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	音楽理論の基礎
	著者名	笠原　潔・徳丸吉彦
	出版社	日本放送出版協会
	価格	2600円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4595307164
参考URL		
備考	音楽を論理的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（京極）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123031
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（京極）
科目責任者	京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，課題の模索
授業のねらい・概要	主として，算数科教育に関わる研究方法を身に付けるとともに，算数教育の内容や指導方法について，教材の捉え方，望ましい教材開発，子どもの実態把握，授業研究の在り方等を知り，算数教育に関わる今日的課題を捉え，卒業研究への足がかりをつかむことができるようにする。
学生の達成目標	1. 算数教育について視野を広めることができる。 2 .諸々の実践報告，論文等を読み，これをまとめて自分なりの考えを持つことができる。 3 .主体的に学習に取り組み，自分のテーマを見つけるために努力できる。

授業内容

第1回　1　オリエンテーション（授業の内容、進め方）（目標１）

第2回　2　先行研究の分析　（目標１）
研究論文等の読み方
雑誌、研究発表会の事例の検討

第3回　2　先行研究の分析　（目標１）
研究論文等の読み方
雑誌、研究発表会の事例の検討

第4回　2　先行研究の分析（目標１）
算数の分野における先行研究の分析
研究論文等の読み方
雑誌、研究発表会の事例の検討

第5回　2　先行研究の分析（目標１）
算数の分野における先行研究の分析
研究論文等の読み方
雑誌、研究発表会の事例の検討

第6回　3　研究方法の習得（目標２）
算数の分野における先行研究の分析
研究論文等の読み方
雑誌、研究発表会の事例の検討

第7回　3　研究方法の習得（目標２）
質的研究法

第8回　3　研究方法の習得（目標２）
調査的研究

第9回　3　研究方法の習得（目標２）
仮説検証型の研究

第10回　3　研究方法の習得（目標２）
歴史的研究

第11回　3　算数教育の内容の基礎研究（目標２）
現代化に関わる内容研究
数学的な考え方の内容研究
表現力の内容研究

第12回　3　算数教育の内容の基礎研究（目標２）
現代化に関わる内容研究
数学的な考え方の内容研究
表現力の内容研究

第13回　4　実践情報の集約と理論とのつながり（目標３）

第14回　5　前期のまとめとテーマの探索（目標３）

第15回　5　前期のまとめとテーマの探索（目標３）

第16回　6　指導法に関わる研究（目標２）
言語活動を促す指導の工夫

第17回　6　指導法に関わる研究（目標２）
言語活動を促す指導の工夫

第18回　6　指導法に関わる研究（目標２）
計算等のつまずきの捉え方

第19回　6　指導法に関わる研究（目標２）
計算等のつまずきの捉え方

第20回　6　指導法に関わる研究（目標２）
算数にかかわる教材開発の仕方

第21回　6　指導法に関わる研究（目標２）
算数にかかわる教材開発の仕方

第22回　6　指導法に関わる研究（目標２）
現場における算数の実践研究　・・今日的課題

第23回　7　子どもの概念形成の探究（目標２）

第24回　7　問題解決の思考過程の探究（目標２）

第25回　7　評価に関する研究（目標２）
形成的評価、情意と認知

第26回　8　研究の進め方（目標３）
テーマの検討

第27回　8　研究の進め方（目標３）
テーマの検討

第28回　8　研究の進め方（目標３）
テーマの検討

第29回　8　研究の進め方（目標３）
テーマの検討

第30回　9　本年度まとめ（目標３）

予習・復習の内容

予習　算数教育に関する情報を、日ごろから新聞、雑誌や書物、全国学力学習状況調査等から収集し、学校現場では今どのようなことが問題となっているかということに関して課題意識を高めておく。そして、自ら課題を選択・設定し、次回にその課題について発表・質疑応答ができるように準備を進めておく。

復習　授業で発表した課題について、いただいた意見や指摘された事柄を、文献で確認し、問題点を整理してまとめておく。疑問な点についても文献を丁寧にあたり、これまで主張してきたこととの整合性を探る。

展開　自分の研究テーマを見つけられるよう、日ごろから算数教育に関わる様々な資料を探す態度を身に付けるようにしておく。現場の研究会に参加し、研究の切り口を見いだすこつを体得することも大切である。

成績評価

評価の基準　算数教育の一般的な内容及び指導方法，今日的課題を捉えられたかどうか。自分なりに研究の方向を見出そうとしているか。

評価の方法　レポート（７０%）学習への取り組み方（３０%）

教科書

教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

授業に合わせて必要な書物，雑誌等の研究事例を示し，これを用いていく。

推薦図書等

書籍名	授業研究の進め方と実践教育論文の書き方
著者名	新算数教育研究会研究事業部
出版社	東洋館出版社
価格	3,300円＋税
ISBN・ISSN	4-491-01511

参考URL

備考	算数教育に関心があること

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（尾崎）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123034
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（尾崎）
科目責任者	尾崎　祐三
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室8
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深め，問題意識を高める。 卒業研究につながるテーマを調べ，検討することも行い，専門ゼミナールⅡとも関連づける。
学生の達成目標	1.知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について理解を深める。

	第28回　卒業研究への検討（目標2・3）1 第29回　卒業研究への検討（目標2・3）2 第30回　まとめ
予習・復習の内容	予習　資料の事前読み込みや資料収集，文献検討を行う。 復習　資料の内容のまとめ，研究計画の修正，成果の事前考察などを行う。 展開　自己のテーマを掘り下げる力を増し，卒業研究や，自己探求的な活動に結びつける。
成績評価	評価の基準　関心を掘り下げて資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。 評価の方法　毎回の発表討議７０％，レポート３０％
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	初めの数回は検討資料を用意する。 その後は，各自が関心やテーマに基づいて関係資料や文献等を調べ，発表に用いる。授業や保育に関する資料，映像，観察記録，実戦紹介等を取り上げてかまわない。自分なりの現場体験やボランティア体験も大いに語る機会をつくりたい。

2.実践の実際，授業，教師の支援方法を学ぶ。
3.自分の関心や研究のテーマについて具体化する。

授業内容

第1回　オリエンテーション　各自の紹介・ゼミの内容紹介

第2回　各自の関心を探る・話す

第3回　障害やその実践を考える（目標１,２,３）その１
～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第4回　障害やその実践を考える（目標１,２,３）その２
～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第5回　障害やその実践を考える（目標１,２,３）その３
～実践の紹介資料・ビデオ等から障害に関する実践内容を知る。

第6回　発表と討議～資料をもとにした発表（目標１,２,３）その１
～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第7回　発表と討議～資料をもとにした発表（目標１,２,３）その2
～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第8回　発表と討議～資料をもとにした発表（目標１,２,３）その3
～実践や研究の内容および支援方法・検討方法について学ぶ。

第9回　体験の発表と話し合い　その１（目標１,２,３）

第10回　体験の発表と話し合い　その２（目標１,２,３）

第11回　体験の発表と話し合い　その３（目標１,２,３）

第12回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに（目標１,２,３）１
～テーマの発表・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。

第13回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに（目標１,２,３）２
～テーマの発表・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。

第14回　各自の関心あるテーマ・資料をもとに（目標１,２,３）３
～テーマの発表・資料調べから研究内容・方法の方向性について考える。

第15回　前期まとめ ～前期の成果と課題 後期への宿題の確認(目標１,２,３)

第16回　後期オリエンテーション 宿題提出

第17回　発表と討議 ～宿題をもとにした発表(目標1,2,3)

第18回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標１）１
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第19回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標３）２
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第20回　研究テーマによる研究計画の作成と検討(目標３)３
～研究の内容・方法および実際の実施上の諸問題について検討する。

第21回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標３）１

第22回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標３）２

第23回　研究計画の発表と討議 まとめ(目標３）３

第24回　試行と成果発表（目標2・3）１

第25回　試行と成果発表（目標2・3）２

第26回　試行と成果発表（目標2・3）３

第27回　成果に関する考察と協議（目標2・3）

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（田所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123032
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（田所）
科目責任者	田所　明房
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	多目的演習室3 ゼミ室16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援学校　知的障害　重複障害　実践研究　授業づくり
授業のねらい・概要	特別支援学校や特別支援学級での実践や授業づくり、教材研究、教材作成。知的障害を中心とした子どもの様子のとらえ方や教師のあり方などについて考え、深める。
学生の達成目標	1.現場での実践について関心を深める。 2.教材作成の実技、資料や文献、体験を検討し、考えを深める。 3.プレゼンや協議、教材作成を通して、自分なりの考えや理念を深め、実践力をつける。

授業内容	第1回	オリエンテーション ゼミの内容と進め方(目標１)
	第2回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その１(目標１)
	第3回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その２(目標１)
	第4回	特別支援学校・特別支援学級の実践を学ぶ～その３(目標１)
	第5回	各自の関心を発表する～その１(目標１、２、３)
	第6回	各自の関心を発表する～その２(目標１、２、３)
	第7回	実際体験・参観の検討～その１(目標１、２、３)
	第8回	実際体験・参観の検討～その２(目標１、２、３)
	第9回	体験・参観の計画～その１　目的を絞る(目標２、３)
	第10回	体験・参観の計画～その２　記録を考える(目標２、３)
	第11回	調査や体験の実施～その１(目標２、３)
	第12回	調査や体験の実施～その２(目標２、３)
	第13回	調査や体験の発表～その１(目標２、３)
	第14回	調査や体験の発表～その２(目標２、３)
	第15回	まとめと後期に向けての検討(目標３)
	第16回	夏季休業中の体験・調査の発表～その１(目標２、３)
	第17回	夏季休業中の体験・調査の発表～その２(目標２、３)
	第18回	後期の課題検討～その１(目標２、３)
	第19回	後期の課題検討～その２(目標２、３)
	第20回	教材・指導法検討～その１(目標２、３)
	第21回	教材・指導法検討～その２(目標２、３)
	第22回	教材・指導法検討～その３(目標２、３)
	第23回	教材・指導法検討～その４(目標２、３)
	第24回	調査・体験・結果の発表～その１(目標２、３)
	第25回	調査・体験・結果の発表～その２(目標２、３)
	第26回	調査・体験・結果の発表～その３(目標２、３)
	第27回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その１(目標２、３)
	第28回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その２(目標２、３)
	第29回	卒業研究へのテーマ・方法検討～その３(目標２、３)
	第30回	今年度の成果と次年度に向けての計画(目標３)
予習・復習の内容	予習	各自の課題を明確にして、発表準備などを行う。関連の資料やサイトを調べる。
	復習	ゼミメンバーの発表内容を考え、自分の課題やテーマと関連付けたりする。
	展開	自分なりのテーマを深め、教育実践に対するコアな部分を形成するよう努める。各種材料素材・道具・工具等を活用した教材の作成に取り組む。
成績評価	評価の基準	自己課題を深める過程を着実に行ったか、準備や体験を的確に果たしたか。
	評価の方法	授業内での発表（50%）、レポート内容（50%）を総合的に評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	教育実習も含め、実践の場への体験参加や見学等を交えたい。このため授業スケジュールに空き曜日を設けることが望ましい。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（長谷川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123021
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（長谷川）
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	木4
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校における英語教育，言語習得，子どもの発達と教育
授業のねらい・概要	子どもの知的・心理的発達，および小学校教育全体のなかでの位置づけ等を考慮して総合的に考える。
学生の達成目標	1.外国語教育の理論と背景を理解する。 2.小学校現場で何をどう進めるかを理解する。 3.実際の指導と教材を具体的に考える。
授業内容	第1回　外国語教育の意義 (以下目標1) 第2回　小学校英語導入の背景と現状・課題

第3回　海外の初等外国語教育

第4回　言語習得論-母語と第二言語の習得

第5回　子どもの脳の発達と早期教育

第6回　脳科学から小学校英語教育への応用

第7回　発達心理学と小学校英語教育

第8回　言語のしくみとコミュニケーション能力

第9回　国際理解教育と英語教育

第10回　求められる教員の資質

第11回　英語力の向上と鍛え方

第12回　英語教育全体における小学校英語教育の役割

第13回　小学校英語教育の目標の立て方 (以下目標2)

第14回　校内の環境作り,共通理解と校内研修

第15回　カリキュラム・年間指導計画作りのポイント

第16回　指導者と指導形態

第17回　基本的な外国語教授法

第18回　クラスルーム・イングリッシュの活用

第19回　マルチメディア教材等の活用法

第20回　1時間の指導の組み立て方

第21回　教材の使い方・選び方と開発方法

第22回　評価の意義と評価方法

第23回　指導の基本と留意ポイント (以下目標3)

第24回　あいさつ,ウォーミングアップ,復習

第25回　導入-新しい言語材料の導入とテクニック

第26回　基本-ドリル活動のバリエーション

第27回　発展-さまざまな展開活動

第28回　1時間の振り返り,自己評価表の実際

第29回　実際の単元展開例

第30回　まとめ
(授業の計画・内容は,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)

予習・復習の内容

予習　該当ページを熟読し、要点をA4の用紙１枚にまとめる。

復習　作成した要旨に修正を加え、改訂版を作成する。

展開　独自の研究テーマに関する事項を発見し、応用する方策を考える。

成績評価

評価の基準　「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。

評価の方法　プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%），課題等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書

書籍名　小学校外国語活動の進め方

著者名　岡　秀夫・金森　強（編著）

出版社　成美堂

価格	2,800円（税別）
ISBN・ISSN	978-4-7919-7154-1

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（戸丸）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123028
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（戸丸）
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室5，6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	コミュニケーション能力の育成・企画立案・運営
授業のねらい・概要	今後，必要とされる企画立案・運営等の基本を経験を通して学ぶ。その過程で必要とされる「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」等のコミュニケーション能力の育成を図る。
学生の達成目標	１，コミュニケーション能力を高めるための基礎的基本的な知識を獲得する。 ２，企画を立て運営をしていくことで、次の企画への見通しを持てる。 ３，課題解決のための方法を学ぶ。
授業内容	第1回　　受講上のきまり・全体計画(目標１，２，３)

第2回　コミュニケーション能力育成に関わる文献を読み合う。カーネギーの考え方を知る。（目標１）

第3回　コミュニケーション能力育成に関わる文献を読み合う。カーネギーの実践を知る。（目標１）

第4回　コミュニケーション能力育成に関わる文献を読み合う。カーネギーの理論について考え合う。（目標１）

第5回　コミュニケーションを生かした組織の運営方法や企画について事例を知る。（目標２）

第6回　コミュニケーションを生かした組織の運営方法や企画について考え合う。（目標２）

第7回　自分たちにとって身近なテーマについて，課題発見の方法を学ぶ。（目標３）

第8回　発見した課題をもとに，課題解決のための方法について学ぶ。（目標３）

第9回　課題解決のために話し合う。（目標３）

第10回　課題解決のための情報収集方法について考える。（目標３）

第11回　課題解決のための企画立案方法を学ぶ。（目標３）

第12回　身近な課題について解決するために，計画を検討しまとめていく。（目標３）

第13回　企画運営した内容について，運営方法について検討し合う。（目標１，２，３）

第14回　課題を話し合い，より良い企画立案のための方法を検討し合う。（目標１，２，３）

第15回　課題を話し合い，より良い企画立案のための方法をまとめる。（目標１，２，３）

第16回　地域の中から課題を発見する。（目標３）

第17回　地域の中から見つけた課題について，取材する。（目標３）

第18回　取材した内容に対して，課題解決ための方法について検討し合う。（目標３）

第19回　地域の課題解決ために，地域の人たちと話し合う。（目標１）

第20回　地域の課題解決ために，地域の人たちに提案をしていく。（目標１）

第21回　地域の課題解決ために，地域の人たちと情報を交換し合う。（目標１）

第22回　地域の課題解決ために，活動する内容を報告し合う。（目標１）

第23回　地域の課題解決ために，活動した内容について検討会を開く。（目標１）

第24回　地域の課題解決ために，地域の人たちと話し合う。（目標１）

第25回　新たな地域の課題解決ために，地域の人たちに提案する内容を考える。（目標１）

第26回　やってきた企画運営について報告し合う。（目標２，３）

第27回　やってきた企画運営について検討し合う。（目標２，３）

第28回　やってきた企画運営を元に，次の企画を立てていく。（目標２，３）

第29回　新たな企画運営について，見通しを持つ。（目標２，３）

第30回　１年間のまとめをする。（目標１，２，３）

予習・復習の内容	予習	コミュニケーション能力育成に関する文献を読んで，自分なりの意見を持てるようにしてくる。
	復習	学んだことを，ノート等にまとめる。
	展開	体験を元に，学んでいくことを基本とする。課題解決ための基本的な知識については，自学自習を積極的に行うことを求めていく。
成績評価	評価の基準	コミュニケーション能力のための方法を理解できたか。より良いコミュニケーションが取れるようになったか。企画を立てるための発想を持てるようになったか。
	評価の方法	レポート３０％、発言する３０％。他者の考えを認め、学び合う４０％
教科書	書籍名	人を動かす　新装版
	著者名	デール・カーネギー
	出版社	創元社
	価格	１６２０円
	ISBN・ISSN	978-4422100517
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（植草）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123019
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（植草）
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，保育，観察調査，教材研究，教材開発
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，よりよいものを追及する。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が必要か追及する。 学期末には学生自身の研究テーマを見つけ，研究意欲を持つようにする。
学生の達成目標	1.卒論のねらいを理解し、自分の興味関心を明確にし,個々のテーマを見つける事が出来る。 2.教材研究や授業研究等を現場で実践し、その結果をもとに研究内容を深められ

るようになる。
3.幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや資料収集を行いながら研究テーマをより明確にする事が出来るようになる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の進め方)
	第2回	大学の授業の振り返り。学生自身の興味関心等の確認(目標1)
	第3回	課題設定と方法等の相談(目標1)
	第4回	学生自身の興味関心等の意見交換(目標1)
	第5回	課題設定と方法等の発表(目標1)
	第6回	保育現場の教材研究について(目標2)
	第7回	保育現場の教材研究の実際(目標2)
	第8回	保育現場の教材研究の作成(目標2)
	第9回	保育現場の教材研究の考察(目標2)
	第10回	保育現場の教材研究の考察,再検討(目標2)
	第11回	関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1)
	第12回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1)
	第13回	関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1)
	第14回	各自の研究課題の発表・協議(目標2，3)
	第15回	幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3)
	第16回	幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3)
	第17回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3)
	第18回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3)
	第19回	幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データ等集計(目標3)
	第20回	調査結果から 教材開発について意見交換(目標3)
	第21回	個々の研究テーマの設定(目標3)
	第22回	研究テーマの準備(目標3)
	第23回	研究テーマに沿っての計画(目標3)
	第24回	研究の資料調査(目標3)
	第25回	研究とその考察(目標3)
	第26回	テーマの決定(目標3)
	第27回	教材研究の現場での実践(目標３)
	第28回	教材研究の現場での実践と考察(目標2．3)
	第29回	調査結果と研究課題の修正（目標３）
	第30回	調査結果の発表と研究課題の修正（目標３）
予習・復習の内容	予習	興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。
	復習	学習したことを整理し、更に資料や文献で調べ自分なりの考察を加える。
	展開	卒業研究のテーマを決め、研究を開始する。
成績評価	評価の基準	課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容を基準とする。
	評価の方法	レポート・発表（ 70%） 研究課題への取り組み（ 30%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（森高）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123010
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（森高）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの視点を大切にした表現活動、造形表現教育，図画工作科教育，
授業のねらい・概要	主として造形表現，教育に関する文献や資料，実技を踏まえて，各自の持つ問題意識を明確にして今後の研究のための基礎・基本についての理解を深める。 各自が持つ問題意識をもとに発表や文章で自分の考えを表現出来るための基礎を身につける。 演習等を通して卒業研究のテーマの選定とその研究計画の作成，方向性を確立することをねらいとする。
学生の達成目標	1.造形や図画工作科に関わる教育課題に関心を持つ。情報収集をし自分の考えを持つ。

2.討論や発表の基礎を身につけ,自分の意見や考えについて他に伝える手立てを学ぶ。
3.必要な文献や資料等に関しての収集をして,卒業研究に対する基本的な方向性を確立する。

授業内容

第1回　オリエンテーション(授業の留意点,計画作成) (目標1.2)造形、図画工作科教科教育について

第2回　演習①感性①・音楽を色で表現する(目標1.2)

第3回　演習②感性②・音楽を形で表現する(目標1.2)

第4回　演習③技法から学ぶ①・視点を見直す (目標1.2)

第5回　演習④技法から学ぶ②・共同による学び(目標1.2)

第6回　演習⑤材料から学ぶ①手触りの違い(目標1.2)　2.3)

第7回　演習⑥材料から学ぶ②表現の多様性(目標1.2)　)

第8回　演習⑦絵本の基本について(目標1.2.3)

第9回　演習⑧発達の段階に即した試作(目標1.2)・先輩講話①・実習の活かし方(目標2.3)

第10回　演習⑨指導計画・子どもの視点から具体的な手立てを考える (目標1.2)

第11回　文による表現練習 「美・発見」、「読書」ノートに基づく発表 (目標1.2)

第12回　論文例を読む①絵本研究・発想訓練・画像 (目標1.2)

第13回　論文例を読む②先輩の論文・発想訓練・連想 (目標1.2)

第14回　演習⑨絵本制作・アイデアと計画、画材(目標1.2)先輩講話①(目標2.3)

第15回　演習⑨絵本制作・下絵(目標1.2)

第16回　演習⑩絵本発表・後期の活動について(目標1.2)

第17回　教育現場で活用できる造形表現活動(目標1.2.3)

第18回　演習⑪鑑賞①多様な表現について学ぶ(目標2.3)

第19回　演習⑫鑑賞②美術館や博物館の活用について(目標2.3)

第20回　演習⑬子どもの視点を大切にした造形表現①年少の子どもを対象とした工作(目標1.2)

第21回　演習⑭子どもの視点を大切にした造形表現②小学生を対象とした工作(目標1.2)

第22回　演習⑮子どもの視点を大切にした造形表現③年中の子どもを対象とした造形(目標1.2)

第23回　調査について・調べ方(目標2.3)

第24回　各自のテーマを絞る・先輩の研究テーマから(目標2.3)

第25回　先輩講話②・卒業研究の進め方(目標2.3)

第26回　演習⑯現場に活かす造形表現・行事への活用(目標1.2)

第27回　演習⑰子どもの視点を大切にした造形表現④年長の子どもを対象とした工作(目標1.2)

第28回　各自の卒業研究テーマの中間発表(目標2.3)先輩講話③・4年として(目標2.3)

第29回　各自の研究計画の作成 (目標2.3)

	第30回	まとめ～研究テーマと計画の発表・総括・ゼミナールⅡにむけて (目標1.2.3)
予習・復習の内容	予習	課題を確実に行う 「読書」ノート、「美・発見」ノートの記入 必要文献の読み込み
	復習	まとめをしっかりとする 関連文献の探索と読み込み 調査データの整理
	展開	自身の研究について、テーマを絞り、調査する
成績評価	評価の基準	全体を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等の基礎を学び，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや制作，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，制作・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	ソルハ
	著者名	帚木蓬生
	出版社	あかね書房
	価格	1,470円
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4251092619
	書籍名	おとなの小論文教室
	著者名	山田ズーニー
	出版社	河出書房新社
	価格	588
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4309409466
参考URL		
備考	・実技演習を通して子どもの視点で造形表現や図画工作科教科教育に関する基礎を学ぶ ・文章表現や発表、実技や演習を踏まえて造形表現･教育に対する理解を深め，それを基板として卒業研究に向けて基礎を学ぶ。 ・実習日程等によってはシラバスの多少の内容変更もあり得る。 ・夏休みや春休み期間など、大学外に出て調査･研究する活動がある。 ・子ども向けの工作の試作や絵本制作などの課題もある	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（宮下）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123018
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（宮下）
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども・子育て支援, 実践, 研究方法
授業のねらい・概要	現代の子どもと親をめぐる現状と支援の実態を学ぶ中で、各自の研究テーマを明確化できるようにする。
学生の達成目標	1.子どもを取り巻く現状について説明できるようになる。 2.子ども支援の現場に参加し,その現状について説明することができるようになる。 3.各自の研究テーマを明確化することができる。
授業内容	第1回　　ゼミナールの進め方について

	第2回	子ども家庭福祉とは (目標1)
	第3回	子ども家庭福祉の理念について (目標1)
	第4回	子ども・子育て支援の実践について1（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
	第5回	子ども・子育て支援の実践について2（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
	第6回	子ども・子育て支援の実践について3（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
	第7回	子ども・子育て支援の実践について4（資料や映像を用いて実践を知る）（目標1)
	第8回	施設見学事前学習（目標1）
	第9回	施設見学（児童養護施設）（目標1）
	第10回	施設見学振り返り（目標1）
	第11回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換1 (目標2)
	第12回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換2 (目標2)
	第13回	子ども・子育て支援事業参加報告と意見交換3 (目標2)
	第14回	子ども・子育て支援事業参加のまとめ（目標2）
	第15回	前期のまとめ（目標1,2）
	第16回	後期の進め方について
	第17回	施設見学事前学習（目標1）
	第18回	施設見学（児童養護施設）（目標1）
	第19回	施設見学振り返り（目標1）
	第20回	統計データの読み取り方1（ひとり親家庭の調査結果の理解）（目標1，3）
	第21回	統計データの読み取り方2（ひとり親家庭の調査結果を用いたデータ加工）（目標1，3）
	第22回	研究テーマの検討1（情報収集の方法）（目標3）
	第23回	研究テーマの検討4（情報収集及び研究テーマの設定）（目標3）
	第24回	研究目的及び方法の検討1（目標3）
	第25回	論文について1（論文の構成要素）（目標3）
	第26回	論文について2（問いと論証）（目標3）
	第27回	研究計画についての検討（目標3）
	第28回	研究計画書の作成（目標3）
	第29回	研究計画書の報告（目標3）
	第30回	１年のまとめ（子ども・子育て支援の現状を踏まえた各自の研究計画について）　（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	自分自身の視野を広げるための学習を進める。
	復習	授業の内容やノートや意見交換で得られた発言、配布資料等を用いて、理解を確実にする。
	展開	各自の研究テーマを卒業研究につなげていく。
成績評価	評価の基準	子ども・子育て支援の現状についての基本的理解ができていること。

	各自が研究テーマを設定し、その方法及び内容が一程度明確化されていること。
評価の方法	授業への取り組む意欲および発表（40%），レポート（60%）で評価を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（加藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123015
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（加藤）
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）金3
教室	ゼミ室10，11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害、支援、教育、発達障害、実践研究
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもの保育・教育に関するテーマについて、関連する資料・文献を収集し、協議し、考えを深める。また、子どもとの実際のかかわりや観察から、実践的な研究についての方法を修得する。各自の発表，ディスカッションを通して、，さまざまな情報を整理し客観的な事実をもとにして、自分の考えを組み立てていけるようにすることもねらいとし、ゼミナールⅡにつなげていく。

学生の達成目標

１．発達障害を中心とした子どもにかかわるさまざまな問題について問題意識を持ち調べ、協議し、理解を深める。
２．様々な情報を整理し,事実をもとにした客観的な考えを持ち、まとめ、発表することができる。
３．子どもとのかかわりや観察で得た経験を研究的な視点でとらえ、専門的に学ぶための方法を身につけ、自分のテーマを定める。

授業内容

第1回　オリエンテーション

第2回　各自の問題意識についての発表する①（目標１）

第3回　各自の関心についての発表する②（目標１）

第4回　文献収集について（インターネットでの検索について）学ぶ①（目標１）

第5回　文献収集について（図書館の利用について）学ぶ②（目標１）

第6回　文献を読む（発達障害について：生活上の困難さ）①（目標１）

第7回　文献を読む（発達障害について：学習上の困難さ）②（目標１）

第8回　文献を読む（発達障害について：対人関係上の困難さ）③（目標１）

第9回　文献を読む（発達障害について：社会自立に向けての困難さ）④（目標１）

第10回　中間報告（文献収集の結果報告：生活上の困難さについて）①（目標１、２）

第11回　中間報告（文献収集の結果報告：学習上の困難さについて）②（目標１、２）

第12回　中間報告（文献収集の結果報告対人関係上の困難さについて）③（目標１、２）

第13回　中間報告（文献収集の結果報告：社会自立に向けての困難さについて）④（目標１、２）

第14回　中間報告（文献収集の結果報告：身体・感覚上の困難さについて）⑤（目標１、２）

第15回　前期のまとめ

第16回　後期オリエンテーション

第17回　子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ①：生活上の困難さについて（目標１、２、３）

第18回　子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ②：学習上の困難さについて（目標１、２、３）

第19回　子どもとのかかわりの分析について文献やＶＴＲで学ぶ③：対人関係上の困難さについて（目標１、２、３））

第20回　発表の方法（報告書）について学ぶ①（目標１、２、３）

第21回　発表の方法（プレゼンテーション）について学ぶ②（目標１、２、３）

第22回　実際の子どもとのかかわりについて発表する①：生活上の困難さについて（目標１、２、３）

第23回　実際の子どもとのかかわりについて発表する②：学習上の困難さについて（目標１、２、３）

第24回　実際の子どもとのかかわりについて発表する③：対人関係上の困難さについて（目標１、２、３）

第25回

		実際の子どもとのかかわりについて発表する④：社会自立に向けての困難さについて（目標１、２、３）
	第26回	実際の子どもとのかかわりについて発表する⑤：身体・感覚上の困難さについて（目標１、２、３）
	第27回	研究テーマについて計画の構想を練る・検討①（目標３）
	第28回	研究テーマについて計画を作成する・検討②（目標３４）
	第29回	研究計画の発表・討議（目標３）
	第30回	年間のまとめ
予習・復習の内容	予習	毎回のテーマについて、文献・書籍で自分の考えをまとめること。発表する際、わかりやすく伝えることを目標に、十分にリハーサルをすること。
	復習	毎回、討論した内容について新たに修得した点をまとめ、自分の考えを整理すること。
	展開	討論したテーマについて、さらに、文献・書籍などで掘り下げ深めること。
成績評価	評価の基準	発達障害のある子どもにかかわる様々な問題について理解できたか、様々な情報を整理し事実をもとにした客観的な考えを持てるようになったか、わかりやすく発表することができたかを評価の基準とする。
	評価の方法	授業内の討議への参加及び態度（ 60%），発表とレポート（ 40%）
教科書		

書籍名　特別支援教育　基本用語１００
著者名　上野　一彦　他
出版社　明治図書
価格　２１００円
ISBN・ISSN　９７８－４－１８－１０８５１０－０

書籍名　絵で分かる自閉症児の困り感に寄り添う保育
著者名　佐藤　暁
出版社　学研
価格　２１００円
ISBN・ISSN　９７８－４－０５－４０４５４５－３

書籍名　大学生のためのレポート・論文の書き方
著者名　石井　一成
出版社　ナツメ社
価格　１１００円
ISBN・ISSN　９７８－４－８１６３－５０５７－３

書籍名　文章力の基本１００題
著者名　阿部　紘久
出版社　光文社

価格	１０００円
ISBN・ISSN	９７８－４－３３４－９７６１７－０

推薦図書等	
参考URL	
備考	予定した回で発表を行う。 互いの研究にも関心を持ち，考えを深め合うことを大事に，ゼミナール Ⅱの研究につなげていく。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（栗原）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123030
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（栗原）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金3 （後期）金4
教室	（前期）講義室15 （後期）講義室16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育実践，保育現場，教材研究，専門性
授業のねらい・概要	保育現場で有用な専門性を携え，実践力養う。
学生の達成目標	1.パフォーマンスを通した専門性の育成 2.保育実践で使える教材研究 3.保育現場で行なわれる行事の体験的理解
授業内容	第1回　　オリエンテーション　(目標1) 第2回　　ゼミ活動を通して専門性を考える（目標1）

	第3回	表現活動の立案・計画№1(目標1)
	第4回	表現活動の立案・計画№2(目標1)
	第5回	表現活動の立案・計画№3（目標1）
	第6回	表現活動の実践№1(目標1)
	第7回	表現活動の実践№2(目標1)
	第8回	表現活動の実践№3(目標1)
	第9回	表現活動の振り返り(目標1)
	第10回	教材研究(新聞紙遊び)(目標2)
	第11回	教材研究(おみせやさんアイテム)(目標2)
	第12回	教材研究(なりきり遊びアイテム)(目標2)
	第13回	教材研究(劇遊びアイテム)(目標2)
	第14回	教材研究(折り紙)(目標2)
	第15回	教材研究(絵カード)(目標2)
	第16回	行事(入園式)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第17回	行事(健康診断)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第18回	行事(子どもの日)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第19回	行事(保育参観)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第20回	行事(発表会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第21回	行事(運動会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第22回	行事(食育)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第23回	行事(秋の遠足)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第24回	行事(クリスマス会)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第25回	行事(作品展)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第26回	行事(お正月)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第27回	行事(豆まき)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第28回	行事(おひな祭り)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第29回	行事(進級)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
	第30回	行事(卒園式)研究(製作とパフォーマンス)(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	製作に必要な教材の準備や素材の特徴を理解しておくこと。こどもの発達段階を踏まえて、作業手順や指導内容を理解しておくこと。
	復習	製作過程の詳細記述を記録に残しておくこと。その記録から、こどもの発達段階と作業手順がどのように適応しているのか、どのように成長を援助しているのかを考察すること。
	展開	保育に関する実践的学びの構えを構築し、身近なところから体系的に視野を広げて省察的実践家の基礎を築く。
成績評価	評価の基準	学生の達成目標への達成度。こども理解と製作課程の援助理解が学習できたか。模擬授業の実演を通して評価する。
	評価の方法	プレゼンテーション能力評価50%，課題提出50%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（早川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123029
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（早川）
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金3 （後期）金5
教室	（前期）ゼミ室5，6 （後期）ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験，観察
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる教育内容や指導方法及び子供の自然概念の発達を捉える評価の方法等を知り，子供の実態に即した授業研究や授業方法の開発を試みる。特に，子供の自然認識の実態についてのアセスメントの方法論を検討する。
学生の達成目標	１．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 ２．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)につい

て自分なりの考えを持つことができる。
3．主体的に学習に取り組み,自分のテーマを見つけるための努力ができる。

授業内容	第1回　オリエンテーション(1) 授業内容・スケジュール等 (目標1,2) 第2回　オリエンテーション(2) 研究の方法 (目標1,2) 第3回　フィールドワークの方法 (目標1,2) 第4回　教材研究(1) 春のビオトープ (目標1,2,3) 第5回　教材研究(2) 里地・里山 (目標1,2,3) 第6回　文献講読(1) 論文の分類 (目標1,2,3) 第7回　先行研究の分析(1) 問題意識の所在 (目標1,2,3) 第8回　教材研究(3) 春のビオトープの管理 (目標1,2,3) 第9回　教材研究(4) 昆虫 (目標1,2,3) 第10回　文献講読(2) 論文構成の概要 (目標1,2,3) 第11回　先行研究の分析(2) 研究目的の立て方 (目標1,2,3) 第12回　各自の研究デザインの発表 (目標1,2,3) 第13回　統計的手法の獲得 (目標1,2,3) 第14回　教材研究(5) 夏のビオトープ (目標1,2,3) 第15回　文献講読(3) 各自で既存論文のアブストラクトを作る　(目標1,2,3) 第16回　教材研究(6) クジラ (目標1,2,3) 第17回　教材研究(7) 動物公園 (目標1,2,3) 第18回　文献講読(4) (3)で作成したアブストラクトのアウトプット　(目標1,2,3) 第19回　教材研究(8) 秋のビオトープ (目標1,2,3) 第20回　各自の研究デザインの発表 (目標1,2,3) 第21回　各自の研究デザインについての討論 (目標1,2,3) 第22回　先行研究の分析(3) 調査法について　(目標1,2,3) 第23回　教材研究(9) 秋のビオトープの管理 (目標1,2,3) 第24回　教材研究(10) サケ (目標1,2,3) 第25回　文献講読(5) 論文構成の確認　(目標1,2,3) 第26回　教材研究(11) 野鳥 (目標1,2,3) 第27回　教材研究(12) 冬のビオトープ (目標1,2,3) 第28回　研究の中間発表 (目標1,2,3) 第29回　中間発表を聞いての相互討論 (目標1,2,3) 第30回　ゼミナールⅡにむけてのまとめ (目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　次回までに課題及び問題の解決を図る。 復習　次回までに課題及び問題の解決を図る。 展開　実際の自然の事物・現象を用いた小学校理科の授業計画を立てることができる。
成績評価	評価の基準　理科教育の一般的な内容と，それに伴う指導方法，及び今日的な課題を捉えられたかどうか。自分なりに研究の方向を見出そうとしているか。 評価の方法

	学習ポートフォリオ(50%)，パフォーマンステスト（20%），レポート（20%），学習への取り組み方（10%）について総合的に評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。観察や実験及びいろいろな工作に興味・関心を持っている学生は大いに歓迎する。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（髙木）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123009
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（髙木）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）金1
教室	（前期）ゼミ室5，6 （後期）ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，思考，言葉
授業のねらい・概要	資料を適切に解釈する読解力，誤読されない文章を書く表現力を伸ばし，音楽と教育に対する知識を求め，主体的に学習・研究する技能と態度を身につける。卒業研究のテーマが絞れるよう援助する。
学生の達成目標	１．新聞を毎日読む習慣を身につける。 ２．音楽と教育に関わる事実や意見を広く知ろうとする態度をもち、自分なりの問題意識を持つことができる。 ３．読み手を意識した文を書くことができる。

授業内容	第1回	ガイダンス
	第2回	「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ①(目標1)
	第3回	「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ②(目標1)
	第4回	「天声人語」「編集手帳」等のエッセイの視写 ③(目標1)
	第5回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ①(目標2,3)
	第6回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ②(目標2,3)
	第7回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ③(目標2,3)
	第8回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ④(目標2,3)
	第9回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑤(目標2,3)
	第10回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑥(目標2,3)
	第11回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑦(目標2,3)
	第12回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑧(目標2,3)
	第13回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑨(目標2,3)
	第14回	音楽と教育に関わる新聞記事等を読み意見文を書く ⑩(目標2,3)
	第15回	前期学習のまとめ
	第16回	音楽教育の教育理念に関わる論文を読む(目標2)
	第17回	それに対する意見文を書く(目標3)
	第18回	音楽教育の教育内容に関わる文献を読む(目標2)
	第19回	それに関する意見文を書く(目標3)
	第20回	音楽教育の教育方法に関わる文献を読む(目標2)
	第21回	それに対する意見文を書く(目標3)
	第22回	音楽教育の教育制度に関わる文献を読む(目標2)
	第23回	それに対する意見文を書く(目標3)
	第24回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ①哲学的研究(目標2)
	第25回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ②文献研究(目標2)
	第26回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ③量的研究(目標2)
	第27回	様々な研究手法による音楽教育の文献を読む ④ケーススタディ(目標2)
	第28回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く①(目標２，３)
	第29回	音楽教育において学生各自が関心をもつテーマについて意見文を書く②(目標２，３)
	第30回	まとめ 次年度に向けて学習・研究のめあてを確認する
予習・復習の内容	予習	各時に指示された課題に取り組む。
	復習	自分の書いた文章を学習した内容を踏まえて書き直し、学習の定着を図る。
	展開	・文献探索を積極的に行う。 ・新聞を毎日読む。 ・指示された課題図書に加え、自発的・継続的に読書に親しむ。
成績評価	評価の基準	誤字脱字のない整った文が書けたか。 意見を明確に示し説得力のある根拠を挙げられたか。

		論理の筋道が通った文を書けたか。 音楽と教育について自分なりの問題意識をもつことができたか。
	評価の方法	毎週提出された課題により評価する。 課題を期限内に提出するのは当然である。 いかに授業内容を咀嚼した文を書けたか（書こうとしたか）で評価する。

教科書	書籍名	『よくわかる卒論の書き方』
	著者名	白井利明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 700円
	ISBN・ISSN	ISBN： 4623051110

推薦図書等	書籍名	『新版論理的思考』
	著者名	宇佐美寛
	出版社	メヂカルフレンド社
	価格	2,052円（本体1,900円＋税8%）
	ISBN・ISSN	ISBN:483921539

参考URL	
備考	国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（多田）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123014
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（多田）
科目責任者	多田　昌代
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	火3
教室	ゼミ室14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育,インクルーシブ教育,特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践,支援の方法について,関連する資料・文献などをもとに,ディスカッションなども交えながら考えを深める。卒業研究につながるテーマを調べ，検討することも行い，専門ゼミナールⅡとも関連するようにする。
学生の達成目標	1.文献検索・収集の方法について理解できる。また,プレゼンテーションスキルの習得ができる。 2.障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践,支援の方法について考え

を深めることができる。
3.自分の研究テーマについて掘り下げることができる。

授業内容	第1回	前期オリエンテーション(目標2,3)
	第2回	関心の高い分野について意見交換(目標2)
	第3回	文献検索・収集の方法(図書館)-(目標1)
	第4回	文献検索・収集の方法(データベース)-(目標1)
	第5回	文献検索・収集の方法(インターネット)-(目標1)
	第6回	新聞記事等の抄読(保育・家庭)-(目標2)
	第7回	新聞記事等の抄読(地域・社会)-(目標2)
	第8回	新聞記事等の抄読(障害)-(目標2)
	第9回	新聞記事等の抄読(心理・発達)-(目標2)
	第10回	新聞記事等の抄読(教育)-(目標3)
	第11回	文献収集の結果報告(目標3)
	第12回	研究の方法(質問紙法)-(目標2)
	第13回	研究の方法(行動観察法)-(目標2)
	第14回	研究の方法(インタビュー)-(目標2)
	第15回	前期まとめ(目標2,3)
	第16回	後期オリエンテーション(目標2,3)
	第17回	文献抄読(保育・家庭)-(目標2)
	第18回	文献抄読(地域・社会)-(目標2)
	第19回	文献抄読(障害)-(目標2)
	第20回	文献抄読(心理・発達)-(目標2)
	第21回	文献抄読(教育)-(目標2)
	第22回	文献抄読(遊び)-(目標2)
	第23回	文献抄読(児童文化・文学)-(目標2)
	第24回	文献抄読(福祉)-(目標2)
	第25回	プレゼンテーションスキルの向上(目標1)
	第26回	研究テーマの検討(目標3)
	第27回	研究概要の作成(問題の所在)-(目標3)
	第28回	研究概要の作成(目的と方法)-(目標3)
	第29回	研究概要の発表(目標3)
	第30回	後期まとめ(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題についてレポートにまとめる。また，関心の高い分野について関連する書籍，新聞記事などに普段から目を通す。
	復習	発表やディスカッションした内容について，整理し，まとめる。
	展開	発表やディスカッションした内容の中で，興味・関心をもった事項について，関連する資料を収集し，目を通す。
成績評価	評価の基準	自分が関心をもつテーマについて,文献を検索し,抄読の上,発表できる。
	評価の方法	発表，及び態度(30%),課題提出(70%)

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 参考図書については，授業中に紹介する
推薦図書等	
参考URL	
備考	夏期休業中に２施設ほど参観することを計画しています。その場合,前期,後期いずれかの回と振り替えることとします。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（小川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123026
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（小川）
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て支援，親子支援，親と子どもと保育者の関係性，保育実践過程分析，質的研究
授業のねらい・概要	本ゼミナールでは、専門ゼミナールⅡでの課題研究に向けた基礎的な知識や手法を獲得する。 研究に必要な知識、手法等の習得と同時に、実践現場での学びやこれまでの科目学習における問題意識や関心の高い事柄に対して継続して検討し、報告して共有していく。 また、実践者として有効な経験値となるよう積み重ねていく。 なお、本ゼミナールではの児童福祉，保育の領域を扱うが，専門的な研究領域と研究手法については、上記「授業のキーワード」に代表される。

学生の達成目標	1.これまでの学習から、問題意識や関心の高い事柄を持ち、継続して検討する。 2.研究における基礎的な知識や手法と報告書作成や報告発表における必要なスキルを習得する。 3. 上記のことをゼミ生間で共有し,実践に有効な経験値として蓄積する。
授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　各自の発表1(1)問題意識,関心の高い事柄について発表 ① (目標1・3) 第3回　各自の発表1(2)問題意識,関心の高い事柄について発表 ② (目標1・3) 第4回　文献抄読(1)子どもの権利に関する文献 ① (目標2・3) 第5回　文献抄読(2)子どもの権利に関する文献 ② (目標2・3) 第6回　文献抄読(3)親子の関係性に関する文献 ① (目標2・3) 第7回　文献抄読(4)親子の関係性に関する文献 ② (目標2・3) 第8回　文献抄読(5)興味関心に合わせた文献 ① (目標2・3) 第9回　文献抄読(6)興味関心に合わせた文献 ② (目標2・3) 第10回　各自の発表2(1)テーマ設定 ① (目標1・3) 第11回　各自の発表2(2)テーマ設定 ② (目標1・3) 第12回　研究の基礎的な知識と手法(1)先行研究の方法 (目標2) 第13回　研究の基礎的な知識と手法(2)研究のデザイン (目標2) 第14回　研究の基礎的な知識と手法(3)演習 (目標2) 第15回　前期のまとめ,後期の確認 第16回　各自の発表3(1)先行研究と考察 ① (目標1・3) 第17回　各自の発表3(2)先行研究と考察 ② (目標1・3) 第18回　各自の発表3(3)先行研究と考察 ③ (目標1・3) 第19回　各自の発表3(4)先行研究と考察 ④ (目標1・3) 第20回　報告のスキル(1) pptスキル (目標3) 第21回　報告のスキル(2)プレゼンテーションスキル (目標3) 第22回　報告のスキル(3)報告書作成スキル (目標3) 第23回　各自の発表4(1)報告発表の進捗状況報告 ① (目標1・3) 第24回　各自の発表4(2)報告発表の進捗状況報告 ② (目標1・3) 第25回　各自の発表4(3)報告発表の進捗状況報告 ③ (目標1・3) 第26回　各自の発表4(4)報告発表の進捗状況報告 ④ (目標1・3) 第27回　各自の発表5(1)報告会リハーサル ① (目標1・2・3) 第28回　各自の発表5(2)報告会リハーサル ② (目標1・2・3) 第29回　各自の発表6(1)報告会 ① (目標1・2・3) 第30回　各自の発表6(2)報告会 ② (目標1・2・3) 全期のまとめ
予習・復習の内容	予習　研究したいテーマや内容に近い文献を探して読み、ゼミ生同士で報告できるように準備してくる。 復習　ゼミ生の報告や指導も踏まえて自分の課題を整理し、再検討する。 展開　他の領域の先行研究にもあたってみる。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。

	評価の方法　参加内容 50%，研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（川口）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123024
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（川口）
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金1 （後期）金3
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，情報科学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	卒業研究の準備となるように，哲学・倫理学・論理学・情報科学の基礎的な知識と論理的思考法を獲得し，関連する問題の背景知識と先行研究について情報を収集し整理する。 自身の関心のあるトピックを特定し，研究成果を他者にプレゼンテーションするために，概念分析の意義を理解する。
学生の達成目標	１．自身の関心のある領域を特定し,文献調査を行うスキルを獲得する。 ２．哲学・倫理学の中心的手法である概念分析の意義を理解し，論理的思考のス

キルを使いこなせるようになる。
３．自身で選択したトピックの背景と問題点とを論理的に説明できるようにする。

授業内容	第1回	イントロダクション:専門ゼミナール1の概要説明
	第2回	哲学・倫理学における文献調査の意義(目標2)
	第3回	文献収集(1):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
	第4回	文献収集(2):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
	第5回	文献収集(3):文献調査の方法,インターネットの活用方法の説明(目標1)
	第6回	中間報告(1):参考文献収集結果の報告
	第7回	参考文献の調査(1):文献の収集と分類(目標1)
	第8回	参考文献の調査(2):文献の要約(目標1)
	第9回	参考文献の調査(3):概念の整理と分析(目標1)
	第10回	中間報告(2-1):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)
	第11回	中間報告(2-2):要約レポート発表:概念を言語で分析し表現するために(目標4)
	第12回	論理的思考(1):論理的思考の一般的な考え方(目標3)
	第13回	論理的思考(2):哲学・倫理学との関連(目標3)
	第14回	論理的思考(3):情報科学との関連(目標3,5)
	第15回	中間報告(3):レポート課題の発表
	第16回	トピックの選択と選択理由の明示:概要説明
	第17回	選択したテーマの理論的背景の分析(1)(目標4)
	第18回	選択したテーマの理論的背景の分析(2)(目標4)
	第19回	選択したテーマと関連する概念の整理(目標4)
	第20回	中間報告(4):概念分析に関するプレゼンテーション発表
	第21回	哲学・倫理学における思考実験:概要説明(目標2)
	第22回	概念分析(1)(目標2)
	第23回	概念分析(2)(目標2)
	第24回	概念分析(3)(目標2)
	第25回	中間報告(5):レポート課題の発表
	第26回	選択したトピックと情報化社会との関連の考察(1)(目標5)
	第27回	選択したトピックと情報化社会との関連の考察(2)(目標5)
	第28回	択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(1)
	第29回	選択トピックについてのプレゼンテーションとディスカッション(2)
	第30回	まとめ
予習・復習の内容	予習	文献調査のために、多くの書籍を読む必要があります。ロジカル・シンキングについて基本的な知識を得ておいてください。
	復習	各回ごとに、文献調査に必要な手順を確認し、わからないところ、残った課題があるときは、復習しておいてください。

	展開	さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。
成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	毎授業時の課題 60%，期末課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（遠藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123025
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（遠藤）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）金5
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学、神経生理学、運動制御、実験実習、文献抄読
授業のねらい・概要	前半は運動遂行に伴う神経系を中心とした生理的変化について、その基礎を理論と演習を織り交ぜながら学習し、後半は、実験実習および当該分野の文献調査等により身体運動の見識を深めていくと同時に、実験手法を習得することをねらいとする。卒業研究につなげるため、本科目では基礎的・基本的な知識及び研究手法の獲得に重点を置く。
学生の達成目標	1.講義・文献調査等を通して、自らの興味のある分野の知識を修得すること。 2.実験方法・手順の基礎を理解し、再現性の高い実験手技を修得すること。

3.実験データの取り扱い方(データ処理と統計分析)を修得し、得られた結果から客観的な考察をするなど、研究を行う基礎的な力を修得する。

授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　機能解剖学(1);関節と運動(目標1) 第3回　機能解剖学(2);骨・筋(目標1) 第4回　機能解剖学(3);神経・脳(目標1) 第5回　運動生理学(1);神経の興奮と伝導(目標1) 第6回　運動生理学(2);運動単位と筋線維組成(目標1) 第7回　運動生理学(3);運動単位の動員と調節(目標1) 第8回　運動生理学(4);受容器と感覚情報(目標1) 第9回　運動生理学(5);脊髄反射(目標1) 第10回　運動生理学(6);神経回路の興奮と抑制(目標1) 第11回　トレーニング・運動学習と神経系の適応(1)(目標1) 第12回　トレーニング・運動学習と神経系の適応(2)(目標1) 第13回　データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標3,4) 第14回　データの読み方(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標3,4) 第15回　実験実習;力発揮と筋電図(1)(目標2,3) 第16回　実験実習;力発揮と筋電図(2)(目標2,3) 第17回　実験実習;反射と運動(1)(目標2,3) 第18回　実験実習;反射と運動(2)(目標2,3) 第19回　実験実習;筋疲労(1)(目標2,3) 第20回　実験実習;筋疲労(2)(目標2,3) 第21回　実験実習;脳波(1)(目標2,3) 第22回　実験実習;脳波(2)(目標2,3) 第23回　文献抄読(1)(目標1,2,3,4) 第24回　文献抄読(2)(目標1,2,3) 第25回　文献抄読(3)(目標1,2,3) 第26回　文献抄読(4)(目標1,2,3) 第27回　文献抄読(5)(目標1,2,3) 第28回　文献抄読(6)(目標1,2,3) 第29回　文献抄読(7)(目標1,2,3) 第30回　総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　前半部では授業で扱う内容について、教科書を読んでくること。 文献抄読では、発表レジメを作成する。 復習　前半部では毎回行う小テストに備えて、学習したことを復習すること。 後半部では、実験レポートを作成すること。 展開　運動・神経生理学に関する図書や文献を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　学習内容の習得度をレポート課題および小テストにて評価する。実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。また、授業に対する取り組み方も評価に含め、総合的に判断する。

	評価の方法	レポート課題および小テスト 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	書籍名	入門運動生理学
	著者名	勝田茂
	出版社	杏林書院
	価格	2310円
	ISBN・ISSN	ISBN：4764410877
推薦図書等	書籍名	運動生理学20講
	著者名	勝田茂
	出版社	朝倉書店
	価格	3570円
	ISBN・ISSN	ISBN：4254690320
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（広瀬）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123020
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（広瀬）
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	保育技術演習室
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育内容，インクルージョン，文献調査・抄読，表現力
授業のねらい・概要	本ゼミナールでは，４年次の専門ゼミナールⅡ及び卒業研究につなげるため，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見を深めるとともに，自分がより深く知りたいと思えるテーマを１つ以上設定することを目的とする。また併行して，観察法等、調査を行う上で必要となる知識や技術を身につける。
学生の達成目標	1.自分の関心ある領域について、文献を収集し、どのような知見が得られているかを理解する。

2.自分の理解した内容や考え等を、他者にわかりやすく伝えることができる。
3.各自の研究テーマを明確にする。

授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　学生の興味関心のある分野に関する意見交換 第3回　文献抄読（１）課題論文１ 第4回　文献抄読（２）課題論文１に関する意見交換 第5回　文献抄読（３）課題論文２ 第6回　文献抄読（４）課題論文２に関する意見交換 第7回　文献検索・収集の方法について 第8回　文献抄読（５）自身の興味・関心のある論文 第9回　文献抄読（６）自身の興味・関心のある論文に関する意見交換 第10回　プレゼンテーションスキルの向上に向けて（１）修得技術の確認 第11回　プレゼンテーションスキルの向上に向けて（２）ppt演習 第12回　研究の方法について（１）観察法 第13回　研究の方法について（２）面接法 第14回　研究の方法について（３）質問紙法 第15回　前期まとめ 第16回　現場観察（１）A幼保園 第17回　現場観察（２）A幼保園 第18回　A幼保園での観察内容に関する意見交換 第19回　現場観察（３）B幼稚園 第20回　現場観察（４）B幼稚園 第21回　B幼稚園での観察内容に関する意見交換 第22回　現場観察（５）C施設 第23回　現場観察（６）C施設 第24回　C施設での観察内容に関する意見交換 第25回　文献抄読および探究したいテーマの設定（１） 第26回　文献抄読および探究したいテーマの設定（２） 第27回　報告会に向けたプレゼンテーション準備 第28回　研究テーマに関する報告・意見交換会（１） 第29回　研究テーマに関する報告・意見交換会（２） 第30回　まとめ
予習・復習の内容	予習　自分の興味関心のある分野に関して、文献を自分で探し、読む 復習　意見交換の内容を踏まえ、自身の考えを再構築する 現場観察の記録を自身の関心ある視点から、まとめる。 展開　現場観察では、自分からより多く質問し、より充実した観察内容となるよう努める。 意見交換では、積極的に発言し、自分の関心を広げられるようにする。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」に準じる。 評価の方法

授業における態度とその内容：５０％
レポート等課題への取り組みと内容：５０％

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（村上）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123004
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（村上）
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　人間関係づくり　技を磨く　課題の追求
授業のねらい・概要	人間関係づくりと技を磨くことに重点を置く。人間関係づくりでは，討論や活動を通してコミュニケーション能力を培っていく。技を磨くことを通して，粘り強い心を養い，達成感を味わわせることをねらいとする。プレゼンテーション能力を身につける。
学生の達成目標	1．道徳教育について調べ，自分の考えを持つことができる。 2.活動を通して，よりよい人間関係をつくる。技を磨くことを通して，諦めずに続けることができる。 3.相手に伝わるプレゼンテーションを考え，実践することができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション　各自の紹介・ゼミの内容紹介
	第2回	意見発表　道徳教育の今日的課題①(目標1)
	第3回	意見発表　道徳教育の今日的課題②(目標1)
	第4回	心の変容の捉え方（心情円の活用）（目標１，２）
	第5回	心の変容の捉え方（スケーリングの活用）（目標１，２）
	第6回	道徳資料「視点１」について(資料活用法と工夫）（目標１）
	第7回	道徳資料「視点２」について(資料活用法と工夫）（目標１）
	第8回	道徳資料「視点３」について(資料活用法と工夫）（目標１）
	第9回	道徳資料「視点４」について(資料活用法と工夫）（目標１）
	第10回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
	第11回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
	第12回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
	第13回	先行研究の分析や検討をして，課題を見つける。 技を磨く（目標２）
	第14回	プレゼンテーションについて①(目標1)
	第15回	効果的なプレゼンテーションについて②(目標1)
	第16回	プレゼンテーション準備(目標1)
	第17回	課題発表①(プレゼンテーション) 討議（目標２）
	第18回	課題発表②(プレゼンテーション) 討議（目標２）
	第19回	課題発表③(プレゼンテーション) 討議（目標２）
	第20回	課題発表④(プレゼンテーション) 討議（目標２）
	第21回	課題発表⑤(プレゼンテーション) 討議（目標２）
	第22回	望ましい人間関係づくりについて（計画）（目標２）
	第23回	望ましい人間関係づくりについて（作成）（目標２）
	第24回	望ましい人間関係づくりについて（実践）（目標２）
	第25回	磨いてきた技を発表し合う（目標２）
	第26回	磨いてきた技を発表し合う（目標２）
	第27回	研究成果の発表準備（目標３）
	第28回	研究成果の発表（プレゼンテーション）①（目標３）
	第29回	研究成果の発表（プレゼンテーション）②（目標３）
	第30回	研究のまとめと評価（次年度に向けて）（目標１・２・３）
予習・復習の内容	予習	小学校学習指導要領解説「道徳編」を読むこと。 積極的に道徳副読本に目を通すこと。 道徳教育に関する先行研究を読むこと。

	復習	ゼミで討論し合ったことを踏まえて，自分の思いや考えをまとまること。 プレゼンテーションの意味を理解した上で，練り直しをすること。
	展開	テーマについて １自問自答する。 ２グループで討論をする。 ３自分自身で考える。 ４聴き手に伝わることを意識したプレゼンテーションをする。
成績評価	評価の基準	道徳教育の今日的課題を明らかにできたか。 道徳教育に自分のなりの問題意識を持ち，研究テーマをしぼることができたか。
	評価の方法	研究の経過ノート（ 60%） レポート（ 30%） 意欲・態度・その他（ 10%）
教科書	書籍名	小学校学習指導要領解説　道徳編
	著者名	文部科学省
	出版社	東洋館出版社
	価格	１２７円
	ISBN・ISSN	978-4-491-02376-2
推薦図書等		
参考URL		
備考		道徳教育指導法については，２年次で履修しておくこと。 小学校の教員免許取得者が望ましい。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅠ（實川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS301
開講年度	2015年度
登録コード	A1123033
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅠ（實川）
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月3
教室	ゼミ室3
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て支援の実際、子育ての現状、質的研究
授業のねらい・概要	4年次の専門ゼミナールⅡおよび卒業研究につなげるため、子育て家庭への理解を深めるとともに、子育て支援にかかわる保育者の援助など、自分の関心のある研究テーマを設定することをねらいとする。
学生の達成目標	1．研究における基礎的な知識や手法を習得する。 2．他の学生へ自分の理解したことをわかりやすく伝えることができる。 3．自分の研究テーマを見つける。
授業内容	第1回　　オリエンテーション（授業の進め方）

	第2回　子育て支援に関する課題文献①抄読（目標1） 第3回　課題文献①についての意見交換（目標1） 第4回　子育て支援に関する課題文献②抄読（目標1） 第5回　課題文献②についての意見交換（目標1） 第6回　論文収集の方法（目標1） 第7回　研究の方法について（アンケート）（目標1） 第8回　研究の方法について（インタビュー）（目標1） 第9回　興味関心に合わせた論文抄読①（目標2） 第10回　興味関心に合わせた論文抄読①についての意見交換（目標2） 第11回　興味関心に合わせた論文抄読②（目標2） 第12回　興味関心に合わせた論文抄読②についての意見交換（目標2） 第13回　プレゼンテーションの方法①（目標2） 第14回　プレゼンテーションの方法②（目標2） 第15回　前期まとめ 第16回　研究方法について（観察記録）（目標1） 子育て支援の場A施設の観察①（目標1） 第17回　子育て支援の場A施設の観察②（目標1） 第18回　子育て支援の場A施設についての意見交換（目標1） 第19回　子育て支援の場B施設の観察①（目標1） 第20回　子育て支援の場B施設の観察②（目標1） 第21回　子育て支援の場B施設についての意見交換（目標1） 第22回　研究したいテーマに合わせた論文抄読①（目標2） 第23回　研究したいテーマに合わせた論文抄読②（目標2） 第24回　各自研究テーマの設定①（目標3） 第25回　各自研究テーマの設定②（目標3） 第26回　各自研究テーマの設定③（目標3） 第27回　研究テーマ報告会のプレゼンテーション準備（目標2,3） 第28回　研究テーマの報告会①（目標2,3） 第29回　研究テーマの報告会②（目標2,3） 第30回　まとめ（目標2,3）
予習・復習の内容	予習　子育てに関する雑誌や本、論文等を読む。 復習　他の学生の報告やゼミの指導を踏まえて、自分の研究テーマについて検討を重ねる。 展開　自分の研究テーマに沿った論文等を読み進める。
成績評価	評価の基準　上記、学生の達成目標への達成度で評価する。 評価の方法　発表（70%）、課題への取り組み（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（浦野）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124001
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（浦野）
科目責任者	浦野　俊則
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	書写教育，漢字，仮名，書き方，指導法
授業のねらい・概要	漢字や仮名に関する理解や文字の書き方とその指導法に関して研究考察し，知見を深める。
学生の達成目標	1.漢字や仮名に関する知識を深める。 2.文字の書き方に関する理解を深める。 3.文字の書き方の指導に関する理解を深める。
授業内容	第1回　総論１漢字の文化（目標１，２，３）　付，研究テーマの例 第2回　総論２仮名の文化（目標１，２，３）　付，研究テーマの例

	第3回　中国における漢字の成立と書体の発生（目標１） 第4回　殷王朝の文化と甲骨文字の発展（目標１，２） 第5回　殷王朝の文化と金文の興隆（目標１，２） 第6回　西周時代前期の政治状況と金文の発達（目標１，２） 第7回　西周時代前期の文化と金文の発達（目標１，２） 第8回　西周時代中期の侯国と金文の地域性（目標１，２） 第9回　西周時代中期の文化と金文の使用範囲の拡大（目標１，２） 第10回　西周時代晩期における金文の多様化（目標１） 第11回　春秋時代における金文と様式の多様化（目標１，２） 第12回　春秋時代における簡牘の文字と書体の分化（目標１，２） 第13回　戦国時代における金文と簡牘の文字（目標１，２） 第14回　戦国時代における漢字の用途の拡大と書体の進化（目標１，２） 第15回　秦の天下統一と文字統一及び書体（目標１） 第16回　漢時代の書体と書法１　碑刻の文字（目標１，２） 第17回　漢時代の書体と書法２　肉筆の文字（目標１，２） 第18回　魏晋時代の石刻文字と紙文書（目標１） 第19回　南北朝随唐時代の文字と日本上代の文字（目標１） 第20回　日本における漢字の受容（目標１，２） 第21回　日本における仮名の発達（目標１，２） 第22回　日本における漢字仮名交じり文の発達（目標１，２） 第23回　日本上代から近世における文字学習の展開（目標１） 第24回　日本近代における漢字政策，仮名政策（目標１） 第25回　現代学校教育における文字指導と書写指導（目標１，２，３） 第26回　漢字の成り立ちと漢字指導１　現状の確認（目標２，３） 第27回　漢字の成り立ちと漢字指導２　文字学の進化と学習指導（目標２，３） 第28回　読むための文字と手書きの文字（目標１，２，３） 第29回　手書き文字の習慣とその伝承（目標１，２，３） 第30回　漢字・仮名の文化，その伝承と教育（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習　漢字の字源や書体、字体について関心を持って関連書籍を読むこと。 復習　毎回のテーマについて、要点をまとめるとともに、自身の考えを記録すること。 展開　漢字に関して、自身が最も関心のあることがらについて、関連書籍等の資料を利用して知見を深めること。
成績評価	評価の基準　授業内容の理解，課題レポートへの意欲的な取り組み，理解した内容を生活や職業に役立てようとする意志。 評価の方法　課題レポート（70%）及び授業における意欲・態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	

備考	参考図書等は授業の中で紹介する。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（渡邉）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124012
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（渡邉）
科目責任者	渡邉　章
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	木3
教室	ゼミ室10，11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，特別な教育的ニーズ
授業のねらい・概要	研究テーマを追究するための研究方法について理解し，必要な研究資料を収集・分析・検討して研究成果をまとめ，適切に発表することができるようになる。
学生の達成目標	１．研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解し，必要な研究資料を収集することができるようになる。 ２．収集した研究資料を分析・検討して，研究の成果を適切にまとめることができるようになる。 ３．自分が取り組んだ研究の成果を適切に発表することができるようになる。

授業内容	第1回	前期のイントロダクション　授業のねらい・授業の進め方・評価の仕方（目標1，2，3）
	第2回	研究目的の検討(1)　何をどこまで明らかにしようとするか（目標1）
	第3回	研究目的の検討(2)　仮説の検討（目標1）
	第4回	研究方法の検討(1)　研究対象の検討（目標1）
	第5回	研究方法の検討(2)　データの収集方法（目標1）
	第6回	研究方法の検討(3)　データの分析方法（目標1）
	第7回	研究方法の検討(4)　結果の表示方法（目標1）
	第8回	研究方法の検討(5)　研究方法のまとめ（目標1）
	第9回	研究資料の収集(1)　収集手順の検討（目標1）
	第10回	研究資料の収集(2)　国内文献資料の収集状況（目標1）
	第11回	研究資料の収集(3)　海外文献資料の収集状況（目標1）
	第12回	研究資料の収集(4)　データの収集計画（目標1）
	第13回	研究資料の収集(5)　データの収集手順（目標1）
	第14回	研究資料の収集(6)　研究の進捗状況の確認（目標1）
	第15回	前期のまとめ　前期の振り返りとこれまでの取組で学んだことについての確認（目標1）
	第16回	後期のイントロダクション　後期の授業の進め方（目標1，2，3）
	第17回	収集した研究資料の分析(1)　収集したデータの確認（目標2）
	第18回	収集した研究資料の分析(2)　収集したデータの分類（目標2）
	第19回	収集した研究資料の分析(3)　収集したデータの集計（目標2）
	第20回	収集した研究資料の分析(4)　集計結果についてのグラフ作成（目標2）
	第21回	収集した研究資料の分析(5)　収集したデータについての統計分析（目標2）
	第22回	収集した研究資料の分析(6)　分析結果のまとめ（目標2）
	第23回	研究のまとめ(1)　「目的」の記述の検討（目標2）
	第24回	研究のまとめ(2)　「方法」の記述の検討（目標2）
	第25回	研究のまとめ(3)　「結果」の記述の検討（目標2）
	第26回	研究のまとめ(4)　「考察」の記述の検討（目標2）
	第27回	研究のまとめ(5)　「参考文献・引用文献」の検討（目標2）
	第28回	研究成果の発表(1)　発表方法の検討（目標3）
	第29回	研究成果の発表(2)　発表資料の検討（目標3）
	第30回	後期のまとめ　後期の振り返りと研究テーマの追究を通じて学んだことの確認（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	指定された課題について資料を収集・検討し，レポートにまとめておくこと。
	復習	発表及び協議の内容を整理し，まとめておくこと。
	展開	発表や協議の中で関心をもった事項について，図書館等で資料を調べ，まとめておくこと。
成績評価	評価の基準	1）研究テーマを追究するために必要な研究方法について理解し，必要な研究資料を収集・分析できていること。

	2）取り組んだ研究の成果を適切にまとめることができていること。
評価の方法	平常点，提出レポートにより評価する。 （平常点 50%，提出レポート 50%） 平常点には，発表・協議・グループ活動が含まれる。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（高野）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124023
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（高野）
科目責任者	高野　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室12
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	教育の社会学，実証的な研究，定量・定性的調査，教育とジェンダー，現代の教育問題
授業のねらい・概要	ゼミナール Ⅱ（教育社会学ゼミ）は，ゼミナール Ⅰの学びの上に立ち、当然視されている通念を問い直し，個人の教育体験を客観視し，相対化する能力を養う。 併せて，さまざまなデータや調査を通して教育社会学的分析の方法や文献の読み方を習得し，卒業研究の作成に資することを目的とする。
学生の達成目標	1．教育が直面している問題に向き合うことにより,個人の教育体験を客観視し相対化する能力が身につく。

2. 学びの集大成としての卒業論文へつなげることができる。
3. 最終回の卒業研究発表の場で,自らの卒業論文をわかりやすく構成し,プレゼンする力を獲得する。

授業内容	第1回	オリエンテーション:専門ゼミナール Ⅱの目的と年間授業計画(目標1)
	第2回	担当教員の研究 ①:教師のキャリア形成,教育分野の男女共同参画(目標1)
	第3回	担当教員の研究 ②:少子社会における子育て環境(目標1)
	第4回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチA(目標1)
	第5回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチB(目標1)
	第6回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ C(目標1)
	第7回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ D(目標2)
	第8回	文献を読む:教育問題と教育社会学的なアプローチ E(目標2)
	第9回	研究テーマに関する構想発表 ①(目標3)
	第10回	研究テーマに関する構想発表 ②(目標3)
	第11回	研究の方法:定性的研究(面接調査)(目標3)
	第12回	研究の方法:定性的研究(参与観察)(目標3)
	第13回	研究の方法:文献・統計資料 ①(目標3)
	第14回	研究の方法:文献・統計資料 ②(目標3)
	第15回	論文の書き方:課題設定等(目標3)
	第16回	論文の書き方:引用参考文献・註の示し方(目標3)
	第17回	研究テーマに関する中間発表 ①(目標3)
	第18回	研究テーマに関する中間発表 ②(目標3)
	第19回	調査研究の実践 ①(目標3)
	第20回	調査研究の実践 ②(目標3)
	第21回	調査研究の分析 ①(目標3)
	第22回	調査研究の分析 ②(目標3)
	第23回	調査研究の分析 ③(目標3)
	第24回	調査研究の分析 ④(目標3)
	第25回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ①(目標3)
	第26回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ②(目標3)
	第27回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ③(目標3)
	第28回	研究テーマ(卒業研究)に関するまとめ ④(目標3)
	第29回	研究テーマ(卒業研究)に関する報告書の作成 ②(目標1,2,3)
	第30回	総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	・現代の教育が直面している問題に常に関心を持ち、新聞報道などについて理解をしておくこと。
	復習	・第1回の授業にて配布されるR.S.に、研究テーマに関する進捗状況や毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	・自らの研究課題に関する最新の研究動向を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	

		基本的には，前期と後期の課題レポートによって評価するが，レポーターとしての報告，ゼミ中の発言等も評価対象として加味する。
	評価の方法	平常点 50%＋課題点 50%

教科書	書籍名	『少子社会の子育て力』
	著者名	髙野良子編著
	出版社	学文社
	価格	1700円
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7620-2376-7

推薦図書等	書籍名	『教育社会学』2011年、
	著者名	J.バランタイン他著、牧野暢男他監訳、高野良子他訳
	出版社	東洋館出版社
	価格	6825円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784491027289

参考URL	
備考	自らの関心に応じてテーマを選択し，問題意識をもって主体的に取り組むことが求められる。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（桑田）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124006
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（桑田）
科目責任者	桑田　良子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	金2
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業論文の書き方,研究のデザイン,研究方法，観察法
授業のねらい・概要	卒業論文を書くための基礎基本を学び、各自の描いた研究テーマを遂行できることをめざす。そして先行研究の分析・検討をふまえて、よりよい卒業研究を志向する。その過程で，卒業研究に沿った問題の提起・解決と体験的学びを深める。
学生の達成目標	１.卒業論文の構成、書き方などの基礎基本を学ぶ。 ２.研究テーマを追求するために必要な臨床場面での観察の仕方、記録の仕方、分析の仕方を身につける。 ３.自分の研究テーマに沿った文献や事例などの情報収集や研究方法を学び論文としてまとめることができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（授業内容、スケジュールなど）
	第2回	学校における教育課題について整理する(目標１)
	第3回	自己の研究テーマ、研究方法の確認(目標１)
	第4回	研究方法の演習(1)(目標２) 臨床場面での調査観察・記録
	第5回	研究方法の演習(2)(目標３) アンケートの作り方
	第6回	研究方法の演習(3)(目標２) 調査面接法の進め方
	第7回	研究方法の演習(4)(目標２) ABC分析
	第8回	卒業論文の書き方を学ぶ(目標１)
	第9回	先行論文を読み、具体的な論文の書き方を学ぶ(1)(目標１)
	第10回	先行論文を読み、具体的な論文の書き方を学ぶ(2)(目標１)
	第11回	各自の研究デザインを設計する(目標１)
	第12回	パワーポイントの演習・文献収集の仕方(目標１・３)
	第13回	文献・資料についての収集と検討(1)(目標１・３)
	第14回	文献・資料についての収集と検討(2)(目標１・３)
	第15回	研究の中間的まとめと今後の課題(目標１)
	第16回	卒業論文の中間発表の準備(目標１)
	第17回	研究課題の探求(目標３) 研究内容の分析・検討
	第18回	研究課題の探求(目標３) 研究内容の分析・検討
	第19回	研究上の課題検討(1)(目標３)
	第20回	研究上の課題検討(2)(目標３)
	第21回	研究のまとめ(1) 目的の検討(目標３)
	第22回	研究のまとめ(2) 方法の検討(目標３)
	第23回	研究のまとめ(3) 結果の検討(統計的処理)(目標３)
	第24回	研究のまとめ(4) 結果の検討(目標３)
	第25回	研究のまとめ(5) 考察の検討(目標３)
	第26回	研究のまとめ(6) 考察の検討(目標３)
	第27回	研究のまとめ(7) 見直しと修正(目標３)
	第28回	研究のまとめ(8) 研究方法の検討(目標３)
	第29回	ゼミナールⅡにおける卒業論文発表会
	第30回	大学生活を振り返って　社会人としての出発
予習・復習の内容	予習	・コンピュータ操作技術を高める。 ・研究テーマに沿った論文を探し、読む。 ・自分の卒業研究デザインを描くことができる。 ・自分の学びたい内容を明確にして授業に臨む。
	復習	・毎時の内容をまとめる。 ・わからないことを明確にし、次の授業につなげる。

	展開	・わからないことを調べる、まとめるということを意識して行う。 ・考えを具体的にしていくためにはどうしたらよいかを考える。
成績評価	評価の基準	・教育研究の方法論と技術・態度を身につける。 ・研究を主体的に進め、適切なプロセスを踏んで卒業論文が完成できる能力を身につけることを合格基準とする。
	評価の方法	「発表」「態度」 40%, レポート： 60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 必要に応じてプリント資料の配布。	
	書籍名	よくわかる卒論の書き方
	著者名	白井俊明・高橋一郎
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2500円
	ISBN・ISSN	ISBN978-4-623-05111-3
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（安藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124022
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（安藤）
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）金3
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	乳幼児期，社会性の発達，考えの筋道，研究方法の組み立て
授業のねらい・概要	１．乳幼児期の情緒的行動研究の問題点を明確にし，解明すべき研究課題を具体化する。 ２．学生が関心を持つテーマに関する先行研究を調べ，研究方法を定める。 ３．テーマに沿って，文献研究や観察などを行い，考えを論理的にまとめる。
学生の達成目標	1.乳幼児の行動の意味や要因を抽出し,その関連性・因果関係を明確にするための手続きを考えられる。 2.乳幼児の行動に対する自分なりの考えを立証する方法を実践することで洗練化

する。
3.自分の研究をその領域の他の研究と関連づけ,意義を考えられる。

授業内容	第1回	学生の興味を持つ情緒的行動に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
	第2回	学生の興味を持つ社会性発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
	第3回	学生の興味を持つ遊びの発達に関する諸研究を概観し,討論する(目標1,2,3)
	第4回	学生のテーマを解明するための手続きについて先行研究を紹介し,検討する(目標1,2)
	第5回	学生の研究手続きについて問題点を指摘しながら,できることを考える(目標1,2)
	第6回	保育現場などを見学し,研究できそうなテーマと方法を考える(目標1,2)
	第7回	実際に見学したことに基づいて,具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
	第8回	学生自身が予備的な研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
	第9回	学生自身が変更した研究を行い,さらに具体的な研究方法を検討する(目標1,2)
	第10回	研究のために必要な用具や手続きマニュアルを準備する(目標1,2)
	第11回	情緒的行動に関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
	第12回	社会性発達・遊びに関する研究の進み具合を発表し合い,抜けている点を検討する(目標1,2)
	第13回	情緒的行動に関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しながらまとめる(目標2,3)
	第14回	社会性発達・遊びに関する研究によって集まった材料をまとめ方を検討しまとめる(目標2,3)
	第15回	各自の研究に関する中間報告を行い,討論しながら補足する点を明確にする(目標2,3)
	第16回	情緒的行動に関する研究の中間報告を行い,討論しまとめ方について検討する(目標2,3)
	第17回	社会性発達・遊びに関する研究の中間報告を行い討論しまとめ方について検討する(目標2,3)
	第18回	情緒的行動に関連する先行研究を読みながら,考えの進め方について検討する(目標2,3)
	第19回	社会性発達・遊びに関連する先行研究を読み,考えの進め方について検討する(目標2,3)
	第20回	学生が情緒的行動に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)
	第21回	学生が社会性発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)
	第22回	学生が遊びの発達に関する先行研究を読み,補足すべき材料や問題点を見つけ出す(目標2,3)

	第23回　情緒的行動に関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標2,3) 第24回　社会性発達・遊びに関する補足的な研究を検討し,必要であればその準備を行う(目標2,3) 第25回　情緒的行動に関する補足的な材料や資料を追加して,討論しながらまとめを行う(目標2,3) 第26回　社会性発達・遊びに関する補足的な材料や資料を追加し,討論してまとめを行う(目標2,3) 第27回　改めて情緒発達や情緒的行動の研究を概観し,自分の研究の位置づけをする(目標2,3) 第28回　改めて社会性・遊び発達の研究を概観しながら,自分の研究の位置づけをする(目標2,3) 第29回　情緒発達研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標2,3) 第30回　社会性発達・遊び研究の知見を将来的にどう生かすか,討論を通じて検討する(目標2,3)
予習・復習の内容	予習　自分の興味を持つ本を読む。 復習　自分なりの考えを整理する。 展開　自分なりに考えを整理しながら、必要なデータを集めて、趣旨にそったまとめができる。
成績評価	評価の基準　テーマにそった研究を論理的にまとめられる，情緒発達研究の中での位置づけができる。 評価の方法　レポート 30%，発表 40%，討論 30%に基づいて評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特になし。
推薦図書等	
参考URL	
備考	子どもの情緒や社会性の発達に関して興味を持つ学生向けのゼミナールである。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（川端）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124008
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（川端）
科目責任者	川端　眞由美
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	火4
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	楽曲分析，音楽用語，音楽文献学
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ｉで習得した知識や技術を一層深めるとともに，各自の研究テーマを深めるための資料による演習，観察，分析等を通して，卒業研究のテーマに沿った問題提起とその解決法を探る。音楽に関する研究では，作品の分析法，専門用語の正確な使用法，音楽書の活用法が必須である為，音楽文献学に関しても学ぶ。
学生の達成目標	1.疑問点を積極的に調べることができる 2.作品分析法を理解できる 3.研究成果をまとめる力が付く

授業内容	第1回	前期のオリエンテーション
	第2回	ゼミナール Ｉの最終レポートでの問題点及び今後の課題 (目標1)
	第3回	今後の課題と卒業研究との関連 (目標1)
	第4回	論文と作品制作及び作品発表について (目標1・2)
	第5回	卒業研究のテーマを絞る (目標1)
	第6回	各自のテーマに関する文献検索法 (目標1)
	第7回	簡単な英語の文献にも触れる。外国語の文献検索法 (目標1・2)
	第8回	各自のテーマに関する英語の文献講読 (目標1・3)
	第9回	各自のテーマに関する英語の文献の内容発表 (目標1・3)
	第10回	楽曲分析法(幼児・児童の歌) (目標 2)
	第11回	楽曲分析法(簡単なピアノ曲) (目標 2)
	第12回	楽曲分析法(小学校の鑑賞曲) (目標 2)
	第13回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 2・3)
	第14回	各自が選択した作品の分析発表 (目標 2・3)
	第15回	各自の研究テーマに関する作品分析 (目標1・ 2・3)
	第16回	分析データの活用法 (目標1・２・３)
	第17回	論文作成法 (目標1・3)
	第18回	研究作品作製法 (目標1・3)
	第19回	各自の研究課題の中間報告 (目標1・2・3)
	第20回	歴史的考察法 Ｉ (目標1・2)
	第21回	歴史的考察法 Ⅱ (目標1・2)
	第22回	各自の研究テーマに関する歴史的考察 (目標1・2・３)
	第23回	各自の研究テーマに関する歴史的考察の発表 (目標1・2・３)
	第24回	各自の研究課題の成果発表及びディスカッション (目標1・３)
	第25回	各自の研究課題の作成と推敲 (目標1・３)
	第26回	各自の研究課題の完成に向けて (目標1・３)
	第27回	各自の論文発表 (目標1・３)
	第28回	各自の作品発表 (目標1・３)
	第29回	研究の完成に向けて (目標1・2・4)
	第30回	ゼミナール Ⅱのまとめ
予習・復習の内容	予習	各自が興味のある保育・教育現場の音楽活動で使用される楽曲を１曲選択して、独自の楽曲分析を試みる。
	復習	授業で行った楽曲分析法に沿って、再度自ら復習をして確認しておく。その際、歌詞と音楽の関係については特に留意する事。
	展開	音楽に関する研究のためには、作品分析法や音楽文献学等の知識が必要不可欠である。従って、本授業で学んだ事を卒業研究に大いに生かして欲しい。
成績評価	評価の基準	自ら選択した課題に対して積極的に取り組み，主体的に研究してまとめる事ができたか。
	評価の方法	提出課題（ 50%），発表内容（ 30%），勉学意欲（ 20%）

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 必要な資料等はその都度，授業中に配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	音楽を理論的に考える力を身につける授業であり，問題意識と積極的に学び調べる力を必要とする。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（京極）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124031
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（京極）
科目責任者	京極　邦明
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	算数教育，実践の観察，研究の進め方，卒業研究
授業のねらい・概要	卒業研究と関連させながら，数・量・形にかかわる課題を明らかにし，検討を加えつつ課題を追求する。自らの計画に従い，研究を実践していく方法を会得し，まとめができるようにする。また，思考力・表現力等の今日的算数教育のあり方についても究明できるようにする。
学生の達成目標	1　算数教育の今日的課題をつかみ，研究の課題（テーマ）を明らかにできる。 2　研究の方法を会得することができる。 3　主体的に実践に取り組み検討を加えつつ研究を進め，実践結果をまとめる力を身に付けることができる。

授業内容

第1回　1　オリエンテーション（研究の進め方）　（目標１）

第2回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）の探究　その１

第3回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）の探究　その２

第4回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）と算数教育にかかわる先行研究の課題

第5回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）と算数教育にかかわる先行研究の課題

第6回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）と算数教育にかかわる先行研究の課　題の分析と計画の立案

第7回　2　研究課題についての究明　（目標１）　現状における算数教育の問題点の究明　新教育課程における算数科の新たな方向（思考力と表現力等）と算数教育にかかわる先行研究の課題の分析と計画の立案

第8回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）　研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）

第9回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）　研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）

第10回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）

第11回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）　研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）　数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み

第12回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）　研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）　数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み，調査問題の作り方

第13回　3　研究の内容，研究方法，実践の仕方の習得　（目標２）　研究の進め方・・研究課題に応じた研究方法についての検討（質問紙法，面接法，・・）　数理にかかわる子どもの実態のとらえ方と各種調査方法についての試み，調査問題の作り方

第14回　4　前期のまとめと今後の課題　（目標２）

第15回　4　前期のまとめと今後の課題　（目標２）

第16回　5　研究の実践　（目標２）　算数科における実践研究の事例の分析課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討

第17回　5　研究の実践　（目標３）　算数科における実践研究の事例の分析課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討

	第18回　5　研究の実践　（目標２）　算数科における実践研究の事例の分析 課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討 第19回　5　研究の実践　（目標２）　算数科における実践研究の事例の分析 課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討 第20回　5　研究の実践　（目標２）　算数科における実践研究の事例の分析 課題に応じた実践過程の報告および問題点の検討 第21回　6　算数教育にかかわる現場の実践・研究会等に参加し視野を広める （目標１） 第22回　6　算数教育にかかわる現場の実践・研究会等に参加し視野を広める （目標１） 第23回　7　実践等の評価と研究のまとめ方について（目標３）　実践に基づく考察のしかた，結果の示し方，図，表の扱い方等について事例の研究 第24回　7　実践等の評価と研究のまとめ方について（目標３）　実践に基づく考察のしかた，結果の示し方，図，表の扱い方等について事例の研究 第25回　7　実践等の評価と研究のまとめ方について（目標３）　実践に基づく考察のしかた，結果の示し方，図，表の扱い方等について事例の研究 第26回　8　研究報告　（目標３） 研究の報告の仕方，準備 第27回　8　研究報告　（目標３） 研究の報告の仕方，準備 第28回　8　研究報告　（目標３） 研究の報告の仕方，準備 第29回　8　研究報告　（目標３） 研究の報告の仕方，準備 第30回　9　研究の総括　（目標３）
予習・復習の内容	予習　各授業ごとに課題を明確にもち、課題を焦点化した報告、質疑応答ができるような準備をし、授業では適切な資料を用いて明確に説明をすることができるようにしておく。 復習　授業で指摘された内容を吟味し、文献等を基にして修正を加え、新たな方策を見いだしていくこと。 展開　主体的に取り組み、資料を整理し、筋道立てて課題を追究していける研究に対する態度をもつこと。
成績評価	評価の基準　研究課題を捕らえ，自分なりに研究実践を行い，まとめをすることができるか。 評価の方法　レポート（７０％）学習への取り組み方（３０％）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 授業に合わせて必要な書物，雑誌等の研究事例を示しこれを用いていく。
推薦図書等	書籍名　「良い算数の授業をつくる」 著者名　長崎栄三・滝井章 出版社　東洋館出版社

価格　2，800円＋税
ISBN・ISSN　978-491-02259-8

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（尾崎）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124034
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（尾崎）
科目責任者	尾崎　祐三
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室8
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育，障害，知的障害，自閉症，実践研究
授業のねらい・概要	知的障害を中心とした障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深め、問題意識を高める。 卒業研究と関連させ研究的に深め学部研究の締めくくりを行う。
学生の達成目標	1. 知的障害を中心とした障害のある子どもへの実践や対応について理解を深める。 2. 実践の実際、授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。 3. 卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。

授業内容	第1回	研究テーマを確認する。その１(目標1)
	第2回	研究テーマを確認する。その２(目標1)
	第3回	研究テーマについての検討。(目標1)
	第4回	研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)　その１
	第5回	研究目的・研究方法,研究計画について検討し具体化を図る(目標1,2,3)　その２
	第6回	小まとめ(目標1,2,3)
	第7回	研究テーマ,表題,研究目的,研究方法について確認する(目標1,2,3)
	第8回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その１(目標2,3)
	第9回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その２(目標2,3)
	第10回	試行や体験を実施しその報告について意見交換する　その３(目標2,3)
	第11回	小まとめ(目標1,2,3)
	第12回	各自のテーマを掘り下げる　その１(目標1,2,3)
	第13回	各自のテーマを掘り下げる　その２(目標1,2,3)
	第14回	テーマ設定上の課題、方法上の課題を確認する(目標1,2,3)
	第15回	前期のまとめと後期への宿題の確認(目標1,2,3)
	第16回	後期オリエンテーション 前期に検討した宿題提出
	第17回	テーマおよび課題の検討　その１
	第18回	テーマおよび課題の検討　その２
	第19回	先行研究について発表と討議　その１
	第20回	先行研究について発表と討議　その２
	第21回	研究成果を検討し,残された課題についても確認しまとめを行う(目標３)
	第22回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)　その１
	第23回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標１,2,3)その１
	第24回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)その２
	第25回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う(目標1,2,3)その３
	第26回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する(目標1,2,3)その２
	第27回	成果の確認と課題検討　その１
	第28回	成果の確認と課題検討　その２
	第29回	総合的な検討　その１
	第30回	総合的な検討　その２
予習・復習の内容	予習	早めに自身の課題を確認し、テーマ等の設定を行う。
	復習	試行や調査の結果を整理する。
	展開	先行研究の成果に位置づけを試みる。
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。自分の意見や

	テーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。 評価の方法　毎回の発表討議 70%　レポート 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	就職活動や採用試験のスケジュールも自己管理し、調整して研究と履修を進めるようにすること。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（田所）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124032
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（田所）
科目責任者	田所　明房
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	知的障害　実践研究　教材教具作成
授業のねらい・概要	知的障害を主とする教育実践の今日的課題を取り上げ、各自の問題意識も踏まえて、調査や文献検討などにより探究する。
学生の達成目標	1.知的障害を主とした実践に関する探究をする。 2.進路とも関連させてよりよい支援についても深める。 3.研究の方法や探究の意義について理解を深める。
授業内容	第1回　オリエンテーション　ゼミの内容と進め方 (目標１) 第2回　文献調査（１）テーマに沿って収集①　（目標１）

第3回	文献調査（２）テーマに沿って収集②	（目標１）
第4回	文献調査（３）研究計画の確認①	（目標１）
第5回	文献調査（４）研究計画の確認②	（目標１）
第6回	文献調査発表	（目標３）
第7回	実地調査（１）テーマの確認①	（目標１，３）
第8回	実地調査（２）テーマの確認②	（目標１，３）
第9回	実地調査（３）課題の検討①	（目標１，３）
第10回	実地調査（４）課題の検討②	（目標１，３）
第11回	実地調査（５）研究計画の作成①	（目標１，３）
第12回	実地調査（６）研究計画の作成②	（目標１，３）
第13回	実地調査発表	（目標３）
第14回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理①（目標２）	
第15回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理②（目標２）	
第16回	実践研究；教材教具の制作又は収録資料の整理③（目標２）	
第17回	実践研究発表	（目標３）
第18回	実地調査（１）	（目標２，３）
第19回	実地調査（２）	（目標２，３）
第20回	実地調査（３）	（目標２，３）
第21回	実地調査（４）	（目標２，３）
第22回	実地調査のまとめ（１）	（目標２，３）
第23回	実地調査のまとめ（２）	（目標２，３）
第24回	実地調査の分析（１）	（目標２，３）
第25回	実地調査の分析（２）	（目標２，３）
第26回	レポート作成（１）；課題・目的	（目標３）
第27回	レポート作成（２）；方法・対象	（目標３）
第28回	レポート作成（３）；実践・経過	（目標３）
第29回	レポート作成（４）；考察	（目標３）
第30回	まとめ	（目標３）

予習・復習の内容	予習	各回の授業の内容に示している事柄について、自らのテーマに沿って取り組めるように事前に調べておく。
	復習	取り組んだ内容や今後の方向など、指摘された事柄、意見をもとに考えをまとめ次回の授業につなげる。
	展開	文献や実践をもとに自分の考えや意見をきちんと伝えるとともに、疑問や意見から、テーマに関する内容をさらに掘り下げる。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標に準じる」	
	評価の方法　発表とレポート課題　６０%，討議への参加度 ４０%	
教科書		
推薦図書等		

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（長谷川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124021
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（長谷川）
科目責任者	長谷川　修治
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	木3
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小学校英語，教授法，理論，実践，論文
授業のねらい・概要	日本の小学校等における英語教育を効率よく効果的に行うための方策等を考案する。
学生の達成目標	1.外国語教育の理論と実践を理解する。 2.研究対象とすべきテーマを決定する。 3.調査や実験を行い,分析結果を論文にする。
授業内容	第1回　日本の小学校英語教育 第2回　ことばの学び

	第3回	日本の英語教育と教授法
	第4回	子どものための効果的な英語教授法
	第5回	シラバス
	第6回	授業活動
	第7回	教室運営
	第8回	言語選択
	第9回	第一言語習得における音声言語の発達
	第10回	第二言語習得における音声言語の発達
	第11回	リスニング指導
	第12回	スピーキング指導
	第13回	リスニングの活動
	第14回	スピーキングの活動
	第15回	まとめ(1)
	第16回	リタラシー能力の発達
	第17回	リタラシー活動の実践
	第18回	単語を知るとは
	第19回	語彙獲得の過程
	第20回	語彙指導
	第21回	文法獲得の過程
	第22回	文法指導
	第23回	音声中心の語彙学習活動案
	第24回	文字中心の語彙学習活動案
	第25回	文法学習活動案
	第26回	小学生を対象とした英語学習の目標
	第27回	小学生を対象とした英語能力の測定
	第28回	これからの小学校英語教育
	第29回	卒業研究の内容発表
	第30回	まとめ(2) (授業の計画・内容は,上記目標1,2,3を総合的に扱い,学生の意見を聞きながら適宜修正する。)
予習・復習の内容	予習	該当ページを熟読し、要旨とともに卒論のテーマとの関連性をA4の用紙１枚にまとめる。
	復習	ゼミでの議論に基づき、新たに発見したことを上記用紙に書き加える。
	展開	卒論の完成に向けて、新たに関連文献等を入手し、議論を深めることができるようにする。
成績評価	評価の基準	「学生の達成目標」に記した項目ごとに到達度を見て総合的に判断する。
	評価の方法	プレゼンテーションやディスカッション等の授業中の活動（ 50%），課題・論文等の提出物（ 50%）を対象として総合的に評価する。

教科書	書籍名	小学校英語の教育法－理論と実践－
	著者名	アレン玉井光江
	出版社	大修館書店
	価格	2,500円（税別）
	ISBN・ISSN	978-4-469-24548-6

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（戸丸）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124028
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（戸丸）
科目責任者	戸丸　俊文
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室5，6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	マネジメント・企画立案・運営
授業のねらい・概要	組織の中で必要とされる企画立案・運営等のマネジメントについて，理解し行動できる力を持てるようになる。
学生の達成目標	１，体験を通して獲得したコミュニケーション能力を，さらに向上させることができる。 ２，マネジメントの視点で組織を動かす経験を積み，将来に向けてのビジョンを構築することができる。 ３，企画立案にとって必要な要件について，体験をもとにまとめることができる。

授業内容

第1回　受講上のきまり・全体計画（目標１，２，３）

第2回　マネジメントに関わる文献を読み合う。ドラッガー第１，２章を読み合う。（目標２）

第3回　マネジメントに関わる文献を読み合う。ドラッガー第３，４章を読み合う。（目標２）

第4回　これまで企画運営してきた内容について，発表し合う。（目標（１，２，３）

第5回　これまで企画運営してきた内容について，その効果について検討し合う。（目標（１，２，３）

第6回　課題に対して，取材する方法を考える。（目標（１，２，３）

第7回　課題に対して，情報収集方法について話し合う。（目標（１，２，３）

第8回　課題解決の効果について検証し，更なる課題解決のための方法を検討し合う。（目標（１，２，３）

第9回　地域の課題解決のために，地域の人たちへのアンケート調査を考える。（目標１，２）

第10回　アンケート調査から得た情報を元に課題の解決方法を話し合う。（目標１，２）

第11回　マネジメントの理論を元に，地域の人たちへの提案の仕方を考える。（目標１，２）

第12回　大学周辺地域についての情報を収集する。（目標１，２）

第13回　地政学的な視点や歴史的な視点から，大学周辺地域の状況をまとめていく。（目標１，２）

第14回　地域の状況を地図等に書き表し，見やすくする。（目標１，２）

第15回　前期の活動を振り返り，体験談を発表し合い，今後に活かす。（目標３）

第16回　地域の課題解決のために，何ができるのか話し合う。（目標１，２）

第17回　考えを提案するため，文章としてまとめていく。（目標１，２）

第18回　まとめた文章を，地域の人たちに提案し，考えを伺う。（目標１，２）

第19回　地域の人たちと課題解決のため話し合う。（目標１，２）

第20回　実際にどのように行動するか，具体的に役割を考え合い，その計画を立案する。（目標１，２）

第21回　それぞれが分担した役割について，立案した計画について発表し合い，共通ビジョンを持つ。（目標１，２）

第22回　これまで行ってきた活動に対して，成果を明確にする。（目標３）

第23回　これまで行ってきた活動に対して，課題を明確にする。（目標３）

第24回　成果と課題を各自まとめる。（目標３）

第25回　成果と課題を明確にするため，ディスカッションを行う。（目標３）

第26回　今後の生活に活かしていくための方法を考える。（目標３）

第27回　今後の生活に活かしていくためのプランを作り上げる。（目標３）

第28回　各自の今後の生活に活くため，プランを発表し合う。（目標３）

第29回　授業全体の振り返りを行う。学生間で，プレゼンテーションを行う。（目標１，２，３）

	第30回	授業全体の振り返りを行う。地域の人を招いて，プレゼンテーションを行う。（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	マネジメントに関する文献を読み，企画立案をより効果的に運営する方法について，自分なりの考えをまとめていく。
	復習	活動したことや体験したことをノート等にまとめていく。
	展開	大学周辺地域を調べる過程で，人との関わりを学び，組織を動かすためのマネジメントの基本を学んでいく。
成績評価	評価の基準	人に理解してもらえる企画を立てることができたか。 人とのコミュニケーションを大切にできたか。 活動の振り返りがきちんとできたか。
	評価の方法	企画立案運営に関するレポート５０％ 異年齢間でのコミュニケーションについての積極的な参加態度 ５０％
教科書	書籍名	ドラッカー入門
	著者名	藤屋伸二
	出版社	日本能率協会マネジメントセンター
	価格	１６２０円
	ISBN・ISSN	978-4820745792
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（植草）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124017
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（植草）
科目責任者	植草　一世
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	多目的演習室1
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	幼児教育，観察調査，教材開発，研究
授業のねらい・概要	主として幼児教育に関わる保育内容や指導法について，教材開発や授業研究等，先行研究，国際的な比較研究を通して，各自の研究テーマを深める。 幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークや保育環境・教材開発の面から子どもが健全に育つためには何が演習や観察，分析活動を行う。
学生の達成目標	1.資料,データーを収集し,研究課題を明確にし,研究に沿った教材研究や授業研究を行う。 2.幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行い

ながら研究テーマをより深める。
3.教材開発や授業研究を実践し,その結果をもとに研究内容を深め卒業研究にする。

授業内容	第1回　オリエンテーション(授業の進め方) 第2回　課題設定と方法等の相談（目標１） 第3回　課題設定と方法等の決定（目標１） 第4回　論文の書き方（目標１） 第5回　研究テーマや課題設定と方法等の相談(目標1) 第6回　先行研究 関係資料の収集(目標1) 第7回　先行研究 関係資料の収集 文献研究(目標1) 第8回　研究内容の教材開発について(目標2) 第9回　保育現場の教材開発の実際(目標2) 第10回　保育現場の教材開発の作成(目標2) 第11回　保育現場の教材開発の考察(目標2) 第12回　保育現場の教材開発の考察,再検討(目標2) 第13回　関連研究会に参加 関係資料の収集(目標1) 第14回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究(目標1) 第15回　関連研究会に参加 関係資料の収集・文献研究 意見交換(目標1) 第16回　各自の研究課題の発表・協議(目標1) 第17回　幼稚園等,子どものいる施設等の訪問(目標3) 第18回　幼稚園等,子どものいる施設での観察(目標3) 第19回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査(目標3) 第20回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ(目標3) 第21回　幼稚園等,子どものいる施設での観察,参加,調査のまとめ データー等集計,分析(目標3) 第22回　調査の中間報告(目標３) 第23回　相互評価 修正(目標３) 第24回　資料調査をまとめる（目標３） 第25回　グループ発表の準備をする（目標３） 第26回　グループ発表をする（目標３） 第27回　グループ発表をもとに討論をし、修正をする（目標３） 第28回　研究論文のまとめ（目標３） 第29回　最終修正等（目標３） 第30回　発表　まとめ（目標３）
予習・復習の内容	予習　興味・関心のある本や資料、研究論文を読むこと。 復習　学習したことを整理し、更に資料や文献で調べ自分なりの考察を加える。 展開　文献や幼稚園や子どものいる施設等で長期に観察・参加等のフィールドワークを行いながら卒業論文を完成させる。
成績評価	評価の基準　課題設定やその取り組みを考慮して，研究報告・発表等の内容を基準とする。

	評価の方法　論文　発表（ 70%）研究課題への取り組み（ 30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	・幼稚園や子どものいる施設等での長期に観察 ・参加によるフィールドワークが必要です。 ・関連研究会に出席し，研究者の情報を集めます。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（森高）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124009
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（森高）
科目責任者	森高　光広
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金3 （後期）金4
教室	美術造形演習室
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの視点からの造形表現、図画工作科教育、造形表現教育
授業のねらい・概要	図画工作科教育、造形表現教育に関する知識と理解を文献や資料，教育現場の見学等でより深める。 各自の研究テーマをもとに研究の方向性の確立し、研究計画を作成、文献や資料等の整理・調査や実践・事例収集等から分析する。 各教育現場で造形表現や図画工作科教育に関して具体的に実践をし、研究が深められるよう学ぶ

学生の達成目標

1.各自のテーマに基づき、文献や事例等の情報の収集・実践や調査をしていく中で問題意識を明確に持つ。
2.自分の意見や考えについて明確に文章等で表現できる。
3.各教育現場で造形表現や図画工作科教育に関して具体的に調査・実践をし、計画的に研究をする。

授業内容

第1回　オリエンテーション(授業の留意点,計画作成)、文章力について(目標1.2)

第2回　参考資料等文献収集、演習①「自分」を語る(目標1,2)

第3回　参考資料文献の分析、演習②他者から見た「自分」について(目標1.2)

第4回　参考資料文献の分析、演習③「自分」を伝える(目標1.2)

第5回　各自の研究テーマの確認・発表(目標1.2.3)

第6回　研究の方向性・論考性の決定・発表(目標1.2)

第7回　文献・資料収集・制作・教育現場見学等①(目標1.2.3)

第8回　自己課題の検討・研究計画を見直す(目標1.2)

第9回　研究計画の決定と実施、プレゼンについて(目標1.2)演習④子どもの実態を踏まえた造形表現（目標1.3）

第10回　文献・資料収集,制作,調査活動・教育現場見学等②(目標2.3)

第11回　文献・資料収集,制作,調査活動・教育現場見学等③・経過報告(目標2,3)

第12回　研究テーマに即した調査（目標1.2）演習⑤子どもの実態を踏まえた造形表現・年少（目標1.3）

第13回　演習⑥子どもの実態を踏まえた造形表現・年中（目標1.3）

第14回　演習⑦子どもの実態を踏まえた造形表現・年長（目標1.3）

第15回　中間報告会に向けて(目標1.2)演習④子どもの実態を踏まえた造形表現・小学生（目標1.3）

第16回　中間発表に向けて・発表の確認(目標1,2)

第17回　中間発表の振り返り・研究課題・内容の再確認(目標1.2)

第18回　調査・資料収集,制作等の再実施と整理・分析、論考性検討①(目標1.2)

第19回　調査・資料収集,制作等の再実施と整理・分析、論考性検討②相互検討(目標1.2)

第20回　演習⑧子どもの実態を踏まえた造形表現・年中、集団（目標1.3）

第21回　演習⑨子どもの実態を踏まえた造形表現・年中、指導計画（目標1.3）

第22回　各自の研究テーマの調査結果を吟味する(目標2.3)

第23回　経過報告会・各自再検討(目標2.3)

第24回　研究論文の検討・相互確認(目標2.3)

第25回　演習⑪役割演技、研究論文・引用の確認、相互点検(目標2.3)

第26回　研究論文・考察について(目標2.3)

第27回　論文相互検討①(目標2.3)

第28回　論文相互検討②、発表準備②(目標2.3)

第29回　研究の発表に向けて・プレゼンテーションを学ぶ(目標2.3)

第30回　まとめ～総括・全体講話(目標2,3)

予習・復習の内容	予習	文献・資料等の調査 「読書」ノート、「美・発見」ノートの記入
	復習	演習ごとのまとめ 関連文献の探索と読み込み
	展開	卒業研究論文を進めるための学びを積み重ねる 造形表現、図画工作科教育の実践力を身につけるために自主的に学ぶ
成績評価	評価の基準	授業を通して，各自の研究テーマに関して自らの考えを明確に持ち，資料収集，調査・分析等を通して，卒業研究を目指して具体的に取り組めることを合格基準とする。
	評価の方法	毎回の取り組みを含めた平常得点，提出レポートや作品，発表などで総合的に評価する。 レポート（毎回の振り返りを含めたレポートの合計） 40%，作品・発表 40%，授業の取り組み等の平常得点 20%の成績を総合する。 ただしこの比率は，実態に応じて最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
	書籍名	おとなの進路教室。
	著者名	山田ズーニー
	出版社	河出書房新社
	価格	651
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4309411436
	書籍名	伝わる･揺さぶる!文章を書く
	著者名	山田ズーニー
	出版社	PHP新書
	価格	660
	ISBN・ISSN	ISBN-10: 4569617360
推薦図書等		
参考URL		
備考	・演習等も踏まえて図画工作科教育,造形表現･教育に対する理解をより深め，それを基盤として卒業研究を進める基本的な力や応用力を培う。 ・文章表現力の向上、プレゼンテーションを踏まえた発表力を培う ・現場見学や調査などの実施日程などは予定である。そのため，多少のシラバスの内容変更も考えられる。 ・実技や夏休み等で大学外で調査･研究する課題もある。	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（宮下）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124019
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（宮下）
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室7
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子どもの権利，子ども支援，親支援，実践研究
授業のねらい・概要	また，各自の卒業研究テーマを確認し，研究を進めるための情報収集やその分析方法などの基本的研究方法を学び，応用する。
学生の達成目標	1.子どもや親をとりまく現状について説明できるようになる。 2.子ども支援，親支援の多様な形態を理解し，説明できるようになる。 3.今日の子ども，親をめぐる支援のあり方と課題（地域生活支援を含む）についての研究をまとめ，発表することができるようになる。
授業内容	第1回　　ゼミナールの進め方について

	第2回　子どもの権利について1（現代の子ども観）（目標1） 第3回　子どもの権利について2（親権をめぐって）（目標1） 第4回　子どもの権利について3（子どもの権利条約）（目標1） 第5回　研究テーマおよび概要の報告（目標1） 第6回　各種研究方法について（目標1,2） 第7回　研究計画についての検討（目標1,2） 第8回　施設見学事前学習（子育てサークルの歴史的背景）（目標1,2） 第9回　施設見学事前学習（子育てサークルの現状）（目標1,2） 第10回　施設見学（目標1,2） 第11回　施設見学事前学習1（母子生活支援施設の歴史的経緯）（目標1,2） 第12回　施設見学事前学習2（母子生活支援施設の機能と役割）（目標1,2） 第13回　施設見学後の振り返り（目標1,2） 第14回　施設見学（目標1,2） 第15回　施設見学振り返りと前期のまとめ（目標1,2） 第16回　後期の進め方について 第17回　各種データの収集（目標1,2） 第18回　各種データの整理（目標1,2） 第19回　各種データの分析（目標1,2） 第20回　研究内容についての検討1（目的について）（目標1,2,3） 第21回　研究内容についての検討2（研究方法について）（目標1,2,3） 第22回　研究内容についての検討3（考察について）（目標1,2,3） 第23回　研究内容についての検討4（結果について）（目標1,2,3） 第24回　研究内容についての検討5 （文献の引用について）（目標1,2,3） 第25回　研究内容の報告及び意見交換（目標1,2,3） 第26回　研究内容についての再検討1 （結果について）（目標1,2,3） 第27回　研究内容についての再検討2 （研究要旨の確認）（目標1,2,3） 第28回　研究成果報告の準備（目標1,2,3） 第29回　研究成果報告（目標1,2,3） 第30回　まとめ（子ども・親支援の現状及び課題と地域生活支援のあり方について）（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　翌週のテーマに関連した内容について事前学習を行う 復習　授業内容や意見交換で得られた発言、配布資料等を用いて、理解を確実にする 展開　先行研究と各自の研究成果についての検討を行う
成績評価	評価の基準　子ども家庭福祉にかかわる多様な実践支援形態理解できていることと，子ども・子育て支援の現場での取り組み状況を、その支援の現状と課題を含めて整理し報告できることを合格基準とする。 評価の方法　ゼミへの取り組む意欲（ 40%），報告及びレポート（ 60%）で評価を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 指定しません。必要に応じて資料を配付します

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（加藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124013
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（加藤）
科目責任者	加藤　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金5 （後期）金4
教室	ゼミ室10，11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子ども，教育，認知心理学，発達障害，自立支援
授業のねらい・概要	発達障害を中心に，子どもの保育・教育に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献，実際のかかわりや観察などをもとに，協議なども交えながら深める。 卒業研究と関連させ，研究的に深め学部研究の締めくくりを行う。
学生の達成目標	１．発達障害を中心とした子どもにかかわる実践や対応について研究を深める。 ２．実践や保育の内容・方法,授業,教師や保育士の支援方法を掘り下げる。

３．発達障害のある子どものおかれた状況,支援の必要性,課題について深め、卒業研究と関連づけて,研究的にまとめを行う。

授業内容	第1回	オリエンテーション
	第2回	研究テーマの確認
	第3回	研究目的・研究方法,研究計画について検討①(目標1,2,3)。
	第4回	研究目的・研究方法,研究計画について検討②(目標1,2,3)
	第5回	研究目的・研究方法,研究計画について検討③(目標1,2,3)
	第6回	研究目的・研究方法,研究計画について検討④(目標1,2,3)
	第7回	先行研究の収集・発表・討議①(目標1,2,3)
	第8回	先行研究の収集・発表・討議②(目標1,2,3)
	第9回	先行研究の収集・発表・討議③(目標1,2,3)
	第10回	先行研究の収集・発表・討議④(目標1,2,3)
	第11回	先行研究の収集・発表・討議⑤(目標1,2,3)
	第12回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する①(目標1,2,3)
	第13回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する②(目標1,2,3)
	第14回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する③(目標1,2,3)
	第15回	前期のまとめ
	第16回	後期オリエンテーション
	第17回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する④(目標1,2,3)
	第18回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑤(目標1,2,3)
	第19回	観察や実践,試行などを行った経過を検討する⑥(目標1,2,3)
	第20回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する①(目標1,2,3)
	第21回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する②(目標1,2,3)
	第22回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する③(②目標1,2,3)
	第23回	論文の執筆状況を確認し,研究上の問題点について検討する④(②目標1,2,3)
	第24回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う①(目標１,2,3)
	第25回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う②(目標１,2,3)
	第26回	研究結果,ならびに考察部分の検討を行う③(目標１,2,3)
	第27回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う①(目標3)
	第28回	研究成果を検討し,残された課題について確認しまとめを行う②(目標3)。
	第29回	研究成果の発表
	第30回	年間のまとめ
予習・復習の内容	予習	自分の研究テーマに関する文献・書籍を読み、まとめる。 実際のこどもとのかかわりにおいて、テーマとの関連について考えをまとめる。
	復習	

		討論の中で得た視点についてまとめ、新たに資料を収集し、掘り下げ、深める。
	展開	互いの研究について、それぞれのテーマとの関連について調べ、討議することで、研究を深める。
成績評価	評価の基準	関心を掘り下げて意欲的に資料等を探し，発表資料も工夫してつくる。的確に発表を行い，積極的に意見交換をする。 自分の意見やテーマについての考えを深め，他の人の関心も積極的に知ろうとする。
	評価の方法	授業での討議への参加及び態度 60%，発表とレポート 40%
教科書	書籍名	特別支援教育基本用語１００
	著者名	上野　一彦　他
	出版社	明治図書
	価格	２１００円
	ISBN・ISSN	９７８－４－１８－１０８５１０－０
	書籍名	大学生のためのレポート・論文の書き方
	著者名	石井　一成
	出版社	ナツメ社
	価格	１１００円
	ISBN・ISSN	９７８－４－８１６３－５０５７－３
	書籍名	文書力の基本１００題
	著者名	阿部　紘久
	出版社	光文社
	価格	１０００円
	ISBN・ISSN	９７８－４－３３４－９７６１７－０
推薦図書等		
参考URL		
備考		予定した回までに調査し，検討結果をまとめ発表等をする。 他の人の発表にも関心を持ち，積極的に討議し，自分の研究をふり返り，深めることを大切にする。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（栗原）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124030
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（栗原）
科目責任者	栗原　ひとみ
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）火4
教室	（前期）講義室15 （後期）ゼミ室4
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育者の専門性，援助技法，課題研究
授業のねらい・概要	自己の課題と研究テーマを研鑽し、保育者として専門性を育成する。課題研究に取り組む過程で、保育技法、保育援助等実践的な力を養い、現場で活用する実践力を培う。
学生の達成目標	1.課題研究に取り組むことで、保育についての思考を深め、研究的に保育と向き合っていく姿勢を養う。 2.自らの探求心で洞察を深め、研究テーマ周辺の事象をも射程に入れて、総合的

に保育を捉えることができる思考力を養う。
3.現場実践において保育目標を実現していくための専門性を養う。

授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　自己課題の探究1(目標1) 第3回　自己課題の探究と省察(目標1・2) 第4回　研究テーマの設定(目標1・2) 第5回　研究テーマを多角的に捉える(目標1・2・3) 第6回　研究テーマを重層的に捉える(目標1・2・3) 第7回　研究テーマの短期的展望と長期的展望(目標1・2) 第8回　現代的保育課題と研究テーマの関連性(目標1・2) 第9回　現代的保育課題と研究テーマの関心相関性(目標1・2) 第10回　現代的保育課題と研究テーマの汎用性3(目標1・2) 第11回　研究テーマを指導計画案に起案する(目標1・2) 第12回　保育者の専門性～子どもの捉え方(目標3) 第13回　保育者の専門性～子どもへの対応(目標3) 第14回　保育者の専門性～関係性援助(目標3) 第15回　保育者としての専門性～保育目標を実現していく力(目標3) 第16回　保育現場実施調査1研究テーマの視点(目標2・3) 第17回　保育現場実施調査2研究テーマの射程(目標2・3) 第18回　保育現場実施調査3研究テーマの方法(目標2・3) 第19回　保育現場実地調査4研究テーマの実践(目標2・3) 第20回　調査結果検討会1グループ発表(目標1・2) 第21回　調査結果検討会2グループ討議(目標1・2) 第22回　調査結果検討会3グループシェアリング(目標1・2) 第23回　保育者の専門性と自己の研究活動の関連性（目標1・2・3) 第24回　保育者の専門性と研究成果(目標1・2・3) 第25回　研究活動の共有化(目標1・2・3) 第26回　研究活動の成果検証(目標1・2・3) 第27回　研究活動の総合考察(目標1・2・3)) 第28回　研究活動の総括(目標1・2・3) 第29回　ゼミナール内（4年生）卒業研究発表(目標1・2・3) 第30回　ゼミナール内（3年4年合同）卒業研究発表(目標1・2・3)
予習・復習の内容	予習　保育所保育指針・幼稚園教育要領の該当箇所を熟読し、理解しておくこと。課題について段階的に進渉するようにする。 復習　指導内容を記録しておくこと。指導内容から次回までの課題を自ら設定し、そのための行動を起こすこと。 展開　自己の取り組むテーマを明確に位置づけて、多方面から総合的に考察し、研究的に探究し、卒業論文としてまとめる。 卒業後の現場での活用を射程に入れた論述をする。 研究成果を発表し、プレゼンテーションすることができる。
成績評価	評価の基準　学生の達成目標への達成度。

	評価の方法　プレゼンテーション能力評価50%，課題提出50%。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（早川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124029
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（早川）
科目責任者	早川　雅晴
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金2 （後期）金1
教室	ゼミ室5，6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理科教育，教育方法，教育評価，実験・観察
授業のねらい・概要	小学校理科教育に関わる教育学的な内容の修得，教材論，指導論，子供の自然に対する認知等の基礎的な領域についての知識を習得する。それらを活用して，子供の実態に即した授業設計や授業評価の方法の開発を試みる。
学生の達成目標	１．理科教育学について視野を広めることができる。得意な領域を持つことができる。 ２．実践報告・論文等を読み,自然科学・科学技術・科学教育(理科教育)について自分なりの考えを持つことができる。

３．研究テーマを決定し,先行研究の収集,研究方法の決定と推進に努め、卒業論文作成と論文発表を行うことができる。

授業内容	第1回　研究テーマの確認 (目標2,3) 第2回　研究テーマの検討 (目標1,2,3) 第3回　文献調査(1) 日本生物教育学会誌　(目標1,2,3) 第4回　文献調査(2) 日本理科教育学会誌　(目標1,2,3) 第5回　文献調査(3) 日本科学教育学会誌　(目標1,2,3) 第6回　調査対象の検討及び調整 (目標2,3) 第7回　データの収集方法の検討 (目標2,3) 第8回　データの分析方法の検討 (目標2,3) 第9回　フィールド調査(1) 草本類 (目標1,2) 第10回　フィールド調査(2) 木本類　(目標1,2) 第11回　フィールド調査(3) 節足動物　(目標1,2) 第12回　屋内実習 棘皮動物　(目標1,2) 第13回　研究の進捗状況の確認 (目標2,3) 第14回　ゼミ内中間発表内容の確認 (目標2,3) 第15回　ゼミ内中間発表及び意見交換 (目標2,3) 第16回　中間発表からの修正点の確認 (目標2,3) 第17回　研究上の課題検討(1) (目標3) 第18回　研究資料の分析(1) 統計処理 (目標3) 第19回　研究資料の分析(2) 検定 (目標3) 第20回　研究資料の分析(2) グラフ化 (目標3) 第21回　研究のまとめ(1) 目的の検討 (目標3) 第22回　研究のまとめ(2) 方法の検討 (目標3) 第23回　研究のまとめ(3) 図表の検討 (目標3) 第24回　研究のまとめ(4) 結果の検討 (目標3) 第25回　研究のまとめ(5) 考察の検討 (目標3) 第26回　研究のまとめ(6) 考察の検討 (目標3) 第27回　研究のまとめ(7) 見直しと修正 (目標3) 第28回　研究のまとめ(8) 文献の検討 (目標3) 第29回　研究発表方法の検討 (目標3) 第30回　研究成果の発表練習 (目標3)
予習・復習の内容	予習　次回までに課題及び問題の解決を図る。 復習　次回までに課題及び問題の解決を図る。 展開　実験観察を主体とした小学校理科分野の授業展開について、意図が明確な計画を立て実践することができる。
成績評価	評価の基準　理科教育の基礎的な知識の獲得。研究テーマの確定と研究の過程で自己の能力を発揮したか。新しい教材・教具を開発できたか。自分なりに研究の方向を見いだそうと努力したか。 評価の方法　学習ポートフォリオ（40%），研究論文（40%），研究への取組み状況（20%）を総合的に判断する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	理科教育に関わる授業を終了しているか，履修中であること。特に小学校で行われる実験は経験していることが望ましい。身の回りの自然に関心があること。自然科学は非常に広い領域であるので，何か得意な分野を持ち，自然の現象や事物に趣味が持てることを奨励する。授業を実際に観察したり，子供の行動を観察することもある。 連絡方法：ゼミ室に直接訪問願います。基本的に毎日来ていますが、授業などで不在の時は扉の掲示板にメッセージを残してください。

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（髙木）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124018
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（髙木）
科目責任者	髙木　夏奈子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	金2
教室	（前期）ゼミ室12 （後期）ゼミ室5，6
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	音楽，教育，研究
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ｉでの学習を基礎として，音楽と教育に関わる知識や理解を一層深めるとともに，文献を探索し読み込む力，自分なりに問題を考察しそれをわかりやすく他者に伝える力を伸ばすことにより，各自が研究テーマを深め，卒業研究に益するよう援助する。
学生の達成目標	１．自分の研究テーマを深め,自分なりに問題を考察しようとする意欲をもつ。 ２．考察の結果をわかりやすく他者に伝えようとする意欲・態度をもつ。 ３．考察の結果を論文としての体裁を整えまとめることができる。

授業内容	第1回	ガイダンス
	第2回	各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ①(目標1)
	第3回	各自の研究テーマのプレゼンテーションと討議 ②(目標1)
	第4回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ①(目標1)
	第5回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ②(目標1)
	第6回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ③(目標1)
	第7回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ④(目標1)
	第8回	各自の研究テーマに関わる文献の探索と蓄積 ⑤(目標1)
	第9回	卒論テーマ計画書の作成(目標3)
	第10回	文献を読み込み考察し文章化する ①(目標1,2)
	第11回	文献を読み込み考察し文章化する ②(目標1,2)
	第12回	文献を読み込み考察し文章化する ③(目標1,2)
	第13回	文献を読み込み考察し文章化する ④(目標1,2)
	第14回	文献を読み込み考察し文章化する ⑤(目標1,2)
	第15回	卒業研究中間発表の準備 ①(目標2,3)
	第16回	卒業研究中間発表の準備 ②(目標2.3)
	第17回	卒業研究の章立ての再検討(目標3)
	第18回	参考文献目録作成の準備(目標3)
	第19回	参考文献目録の作成(目標3)
	第20回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ①(目標2,3)
	第21回	各自の論述の相互検討 意見が明確に述べられているか ②(目標2,3)
	第22回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ①(目標2,3)
	第23回	各自の論述の相互検討 根拠に説得力があるか ②(目標2,3)
	第24回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ①(目標2,3)
	第25回	各自の論述の相互検討 論理の筋道が通っているか ②(目標2,3)
	第26回	検討をもとにしての改善点の確認 ①(目標2,3)
	第27回	検討をもとにしての改善点の確認 ②(目標2,3)
	第28回	要旨のまとめ方(目標3)
	第29回	各自の要旨の検討(目標3)
	第30回	総括
予習・復習の内容	予習	各時に指示された課題に取り組む。
	復習	各時に明らかになった問題点を整理し、解決するための見通しを持つ。
	展開	研究の作法を身につけ、卒業後も自分なりのテーマを持ち、問題解決に努力する姿勢を持つ。
成績評価	評価の基準	毎週自分なりに課題を設定しその達成に努力したか。自己の研究テーマについて自分なりの考察を行うことができたか。 考察を論理の筋道が通った文で表すことができたか。
	評価の方法	毎週の自己の課題に対する取り組み（ 50%）と，問題意識を明確に持って筋道の通った文章を書けたかどうか（ 50%）で評価する。

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 適宜プリント等を配布する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	国語辞典を持参すること。 メールアドレス k-takagi@uekusa.ac.jp

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（多田）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124014
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（多田）
科目責任者	多田　昌代
授業形態	演習
開講時期	
曜日・時限	火3
教室	ゼミ室14
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	特別支援教育,インクルージョン
授業のねらい・概要	障害のある子どもの教育・保育・福祉に関する実践，支援の方法について，関連する資料・文献などをもとに，ディスカッションなども交えながら考えを深める。 自分なりのテーマを卒業研究としてまとめる。
学生の達成目標	1.研究目的を明確にすることができる。 2.研究目的に沿った，研究方法，結果の分析をし，考察を加えることができる。 3.上記１．２．について，卒業研究としてまとめることができる。

授業内容	第1回	前期オリエンテーション(目標1)
	第2回	各自の研究テーマのプレゼンテーション(目標1)
	第3回	研究目的の検討(問題の所在)-(目標1)
	第4回	研究目的の検討(目的)-(目標1)
	第5回	研究方法の検討(対象)-(目標2)
	第6回	研究方法の検討(資料の収集方法)-(目標2)
	第7回	研究方法の検討(資料の分析方法)-(目標2)
	第8回	研究方法の検討(結果のまとめ方)-(目標2)
	第9回	研究資料の収集(文献等)-(目標2)
	第10回	研究資料の収集(実地観察等)-(目標2)
	第11回	収集状況の報告(目標2)
	第12回	収集状況についての討論(目標2)
	第13回	研究資料の収集(討論をふまえて)-(目標2)
	第14回	研究資料の収集(最終)-(目標2)
	第15回	前期まとめ(目標1,2)
	第16回	後期オリエンテーション(目標2,3)
	第17回	研究資料の分析(文献等)-(目標2)
	第18回	研究資料の分析(実地観察等)-(目標2)
	第19回	研究資料の分析(その他資料)-(目標2)
	第20回	分析状況の報告(目標2)
	第21回	分析状況についての討論(目標2)
	第22回	研究資料の分析(討論をふまえて)-(目標3)
	第23回	研究資料の分析-(最終)(目標2)
	第24回	各自の研究についての検討(目的)-(目標3)
	第25回	各自の研究についての検討(方法)-(目標3)
	第26回	各自の研究についての検討(結果)-(目標3)
	第27回	各自の研究についての検討(考察)-(目標3)
	第28回	各自の研究についての検討(全体)-(目標3)
	第29回	発表資料の検討(目標3)
	第30回	後期まとめ(目標3)
予習・復習の内容	予習	指定された課題について，レポートにまとめる。
	復習	発表やディスカッションした内容について，整理し，まとめる。
	展開	発表やディスカッションした内容の中で興味・関心をもった事項について，関連する資料を収集し，目を通す。
成績評価	評価の基準	研究目的に沿った研究方法，結果の分析をし，考察を加えていること。 上記を適切にまとめていること。
	評価の方法	発表，及び態度(30%),課題の提出(70%)
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 参考図書については，授業中に紹介する。	

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（小川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124027
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（小川）
科目責任者	小川　晶
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室13
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業論文、研究の方法、執筆方法
授業のねらい・概要	専門ゼミナールⅠでの学びを研究として発展させ、卒業論文に仕上げる。
学生の達成目標	1.関心のあることを研究として深め、報告して共有することでさらに焦点化していく。 2.研究の基本的な方法と論文の執筆方法を習得し、卒業論文として書き上げる。 3.プレゼンテーションスキルを習得する。
授業内容	第1回　オリエンテーション、関心テーマの確認（目標1） 第2回

	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告①焦点化1（目標1）
第3回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告②焦点化2（目標1）
第4回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告③テーマ設定1（目標1）
第5回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告④テーマ設定2（目標1）
第6回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑤研究のデザイン1（目標1）
第7回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑥研究のデザイン2（目標1）
第8回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑦研究方法1（目標1）
第9回	各自の関テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑧研究方法2（目標1）
第10回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑨調査計画1（目標1）
第11回	各自の関心テーマについて、先行研究の進捗状況報告⑩調査計画2（目標1）
第12回	調査と分析①調査の実施1（目標2）
第13回	調査と分析②調査の実施2（目標2）
第14回	調査と分析③調査の実施3（目標2）
第15回	調査と分析④調査の実施4（目標2）
第16回	調査と分析⑤データ化1（目標2）
第17回	調査と分析⑥データ化2（目標2）
第18回	調査と分析⑦分析1（目標2）
第19回	調査と分析⑧分析2（目標2）
第20回	調査と分析⑨構造化1（目標2）
第21回	調査と分析⑩構造化2（目標2）
第22回	調査と分析⑪考察1（目標2）
第23回	調査と分析⑫考察2（目標2）
第24回	中間報告準備（目標2）
第25回	総合考察1（目標2）
第26回	総合考察2（目標2）
第27回	報告と検討1（目標2）
第28回	報告と検討1（目標2）
第29回	報告会準備（目標3）
第30回	全期のまとめ

予習・復習の内容	予習	関心テーマに近い論文を読み、論文のイメージを作っておく。
	復習	ゼミ生同士の報告やそれに対する指導から、自分の課題を整理して研究に活かす。
	展開	

	関心テーマに近い領域の文献をあたり、ゼミ生同士で共有したり、討議したりする。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」への達成度で評価する。 評価の方法　参加内容 50%、研究成果・報告内容 50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（川口）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124024
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（川口）
科目責任者	川口　由起子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	火4
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	哲学，倫理学，情報科学，言語理解，合理性
授業のねらい・概要	専門ゼミナール Ⅰの発展として，特定のトピックについて，哲学・倫理学・論理学的アプローチを用いて分析する。先行研究を調査・整理し，関連する文献の比較検討および論理的妥当性の評価を行う。最終的には，選択するトピックについて，問題点と，論理的に妥当な解決策の提示を行うことを目指す。
学生の達成目標	１．特定のトピックについて,問題の背景を説明し先行研究の理論的妥当性を評価できるようになる。 ２．特定のトピックについて,哲学的/倫理学的アプローチの意義を説明できるようになる。

	３．特定のトピックについての複数の主張を概念的に分析し,比較検討したうえで，妥当な解決策を提示できるようになる。
授業内容	第1回　イントロダクション:専門ゼミナール2の概要説明 第2回　哲学・倫理学における文献調査の手法 (目標1) 第3回　参考文献の調査(1):文献の選択 (目標3) 第4回　参考文献の調査(2):文献の要約 (目標3) 第5回　参考文献の調査(3):文献で扱われる概念の整理 (目標3) 第6回　中間報告とディスカッション(1) 第7回　トピック研究(1):トピックの収集と分類 (目標1) 第8回　トピック研究(2):問題の所在を明確にする (目標1) 第9回　トピック研究(3):背景知識と関連する議論の整理 (目標1) 第10回　中間報告とディスカッション(2) 第11回　哲学的/倫理学的アプローチとは(目標2) 第12回　哲学的/倫理学的アプローチの特徴 (目標2) 第13回　哲学的/倫理学的アプローチの意義と役割 (目標2) 第14回　中間報告とディスカッション(3) 第15回　トピック特定の手法:概要説明 第16回　先行研究の調査と整理(1) (目標3) 第17回　先行研究の調査と整理(2) (目標3) 第18回　先行研究の調査と整理(3) (目標3) 第19回　先行研究における主張の比較検討(1)(目標3) 第20回　先行研究における主張の比較検討(2) (目標3) 第21回　先行研究における主張の比較検討(3) (目標3) 第22回　中間報告とディスカッション(4):対立する主張の論理的整理 第23回　哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで(1):議論の整理(目標4) 第24回　哲学的/倫理学的アプローチで解決策の提示に至るまで (2):反論の構築(目標4) 第25回　中間報告とディスカッション(5) 第26回　解決策の論理的整理(1) (目標4) 第27回　解決策の論理的整理(2) (目標4) 第28回　プレゼンテーション発表とディスカッション(1):意見交換 第29回　プレゼンテーション発表とディスカッション(2):解決策の比較検討 第30回　まとめ
予習・復習の内容	予習　文献調査のために、多くの書籍を読む必要があります。ロジカル・シンキングについて基本的な知識を得ておいてください。 復習　各回ごとに、文献調査に必要な手順を確認し、わからないところ、残った課題があるときは、復習しておいてください。 展開　さらなる学習のために、授業の中でウェブサイトや文献を紹介します。興味がわいたトピックがあれば、それについての議論を調べて、自分の意見を考えてみてください。

成績評価	評価の基準	上記達成目標の２／３以上を達成することを合格基準とします。
	評価の方法	毎授業時の課題 60%，期末課題の達成度 40%の合計で評価します。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	電子メールで連絡がとれることが望ましいです。 本研究室では，哲学，倫理学および情報科学の分野における概念的分析を中心に研究を行うため，テーマの種類や分野だけでなく，研究の方法論を重視します。選択するテーマの内容は基本的に自由ですが，上記キーワードで挙げられているものと（少しでも）関連するものに限ります。	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（遠藤）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124025
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（遠藤）
科目責任者	遠藤　隆志
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）金4 （後期）金5
教室	ゼミ室9
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動生理学，神経生理学，運動制御，実験実習，文献抄読
授業のねらい・概要	1)文献研究より研究課題を設定する、2)研究課題より研究仮説を設定する、3)仮説を実証する実験方法を立案する、4)適切な実験および解析を実践する、5)得られた結果を客観的に考察する、6)研究成果を的確に説明する（プレゼンテーション）、以上の主体的に研究を進めるために必要な力を身に付けることをねらいとする。
学生の達成目標	1.文献調査等を通して自らの興味のある分野の知識および理解を深め、研究課題を明らかにできること。

	2.研究仮説を検証する研究方法を立案し、研究を遂行できること。また、研究成果について効果的なプレゼンテーションができること。 3.得られた実験データを正しく処理し、得られた結果から客観的な考察ができること。
授業内容	第1回　オリエンテーション(目標1,2,3) 第2回　文献抄読(1)(目標1,2,3) 第3回　文献抄読(2)(目標1,2,3) 第4回　文献抄読(3)(目標1,2,3) 第5回　文献抄読(4)(目標1,2,3) 第6回　文献抄読(5)(目標1,2,3) 第7回　文献抄読(6)(目標1,2,3) 第8回　文献抄読(7)(目標1,2,3) 第9回　文献抄読(8)(目標1,2,3) 第10回　論文構成の理解・作成法(1)(目標2,3) 第11回　論文構成の理解・作成法(2)(目標2,3) 第12回　研究課題の決定と予備実験(1)(目標1,2,3) 第13回　研究課題の決定と予備実験(2)(目標1,2,3) 第14回　研究課題の決定と予備実験(3)(目標1,2,3) 第15回　実験(1)(目標1,2,3) 第16回　実験(2)(目標1,2,3) 第17回　実験(3)(目標1,2,3) 第18回　実験(4)(目標1,2,3) 第19回　実験(5)(目標1,2,3) 第20回　データ解析(データ処理と統計分析を含む)(1)(目標2,3) 第21回　データ解析(データ処理と統計分析を含む)(2)(目標2,3) 第22回　レポート作成(1)(目標3) 第23回　レポート作成(2)(目標3) 第24回　データの見せ方,プレゼンテーションの方法(1)(目標2,3) 第25回　データの見せ方,プレゼンテーションの方法(2)(目標2,3) 第26回　プレゼンテーション資料の作成(1)(目標2,3) 第27回　プレゼンテーション資料の作成(2)(目標2,3) 第28回　レポート発表会および討論(1)(目標1,2,3) 第29回　レポート発表会および討論(2)(目標1,2,3) 第30回　総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　文献抄読では、発表用のレジメを作成すること。 実験においては、結果をまとめ、発表の準備をすること。 復習　実験においては、データ解析およびレポート作成をすること。 展開　運動・神経生理学に関する図書や文献を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　学習内容の習得度をレポート課題および発表にて評価する。実験手技・手法の修得度についても評価の対象とする。また、授業に対する取り組み方も評価に含め、総合的に判断する。

	評価の方法	レポート課題 60%、実験手技・手法等の修得度 20%、授業に対する意欲・授業態度・提出物の提出状況 20%
教科書	書籍名	運動神経生理学講義
	著者名	マーク L ラタッシュ
	出版社	大修館書店
	価格	3200円
	ISBN・ISSN	ISBN：4469264849
推薦図書等	書籍名	入門運動神経生理学
	著者名	矢部京之助　他
	出版社	市村出版
	価格	5832円
	ISBN・ISSN	490210900X
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（広瀬）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124020
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（広瀬）
科目責任者	広瀬　由紀
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室10，11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	保育，実践研究
授業のねらい・概要	本ゼミナールは，３年次の専門ゼミナール Ｉでの学びを受けて，自分の関心あるテーマに関して，適当な方法を用いてデータを収集し、情報・意見交換を重ねながら考えを深める。 また，専門ゼミナール Ｉから引き続き，自分の興味・関心のある分野に関する文献調査および抄読を行い，その領域に関する知見をさらに深めていく。
学生の達成目標	1.自分の研究テーマについて、適当な方法を用いてデータ収集を行う。 2.自分の興味関心のある分野の先行文献をさらに読み、知見を深める。

3.収集したデータおよび先行研究から、自分の研究テーマについて考察を加えまとめる。

授業内容	第1回　オリエンテーション 第2回　研究目的および方法の確認 第3回　先行文献の収集 第4回　先行文献の整理・検討 第5回　データ収集・分析(１) 第6回　データ収集・分析(２) 第7回　得られたデータ関する考察・討議(１) 第8回　データ収集・分析(３) 第9回　データ収集・分析(４) 第10回　得られたデータに関する考察・討議(２) 第11回　研究の進捗状況の確認および意見交換（１） 第12回　研究の進捗状況の確認および意見交換（２） 第13回　先行文献の収集（２） 第14回　先行文献の収集（３） 第15回　前期まとめ 第16回　後期オリエンテーション 第17回　研究の進捗状況の確認および意見交換（３） 第18回　研究の進捗状況の確認および意見交換（４） 第19回　データ収集・分析（５） 第20回　データ収集・分析（６） 第21回　得られたデータに関する考察・討議（３） 第22回　データ収集・分析(７) 第23回　データ収集・分析(８) 第24回　得られたデータに関する考察・討議(４) 第25回　研究のまとめ（１）目的 第26回　研究のまとめ（２）方法 第27回　研究のまとめ（３）結果と分析 第28回　研究のまとめ（４）考察 第29回　研究のまとめ（５）研究成果に関するプレゼンテーション 第30回　まとめ
予習・復習の内容	予習　各自の研究テーマを明確にし、何を明らかにしたいのか、の視点を持ちながらデータ収集に臨む。 復習　収集したデータを各自のテーマに沿って確実にまとめていく。 意見交換後、修正等が生じた場合、それを素早く行う。 展開　データ収集にあたっては、実情に応じて柔軟に対応する。
成績評価	評価の基準　上記「学生の達成目標」に準じる。 評価の方法　授業における態度・内容：50% 提出レポート：50%

教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（村上）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124026
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（村上）
科目責任者	村上　悦子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）木3 （後期）木4
教室	（前期）ゼミ室12 （後期）ゼミ室10・11
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	道徳教育　自己有用感　人とのかかわり　伝える力
授業のねらい・概要	道徳教育，人とのかかわりにおいて課題や問題の捉え方を明らかにする。個々の研究の特質を尊重しつつ，文献研究を学び，卒業研究の基礎をつくる。道徳教育についての研究者や現場教員の取り組みを学ぶ機会を取り入れる。
学生の達成目標	1.道徳教育等の研究について視野を広げることができる。 2.自らの研究テーマを設定し，研究課題を追求することができる。 3.研究をまとめ，聴き手に伝わる効果的な発表をすることができる。

授業内容	第1回	オリエンテーション（今後の見通しについて）（目標１）
	第2回	プレゼンテーションについて（目標３）
	第3回	学校教育における道徳教育の現状と課題(目標１)
	第4回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
	第5回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
	第6回	研究課題及び研究の進め方について(目標２)
	第7回	研究課題についての協議(目標２)
	第8回	研究課題についての協議(目標２)
	第9回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
	第10回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
	第11回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
	第12回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
	第13回	研究協議・討論(指導資料等)・研究の進捗状況について(目標２)
	第14回	研究レポートの作成（目標３）
	第15回	研究レポートの作成　中間発表の準備①（目標３）
	第16回	研究レポートの作成　　中間発表の準備②（目標３）
	第17回	研究レポートの作成　　中間発表会（目標３）
	第18回	研究レポートの作成①（目標３）
	第19回	研究レポートの作成②（目標３）
	第20回	研究レポートの作成③（目標３）研究の進捗状況について①目標２)
	第21回	研究レポートの作成④（目標３）研究の進捗状況について②(目標２)
	第22回	研究レポートのまとめ①（目標３）
	第23回	研究レポートのまとめ②（目標３）
	第24回	研究レポートのまとめ③（目標３）
	第25回	研究成果の発表準備①(研究のプレゼンテーション作成)（目標３）
	第26回	研究成果の発表準備②(研究のプレゼンテーション作成）（目標３）
	第27回	研究成果の発表準備③(研究のプレゼンテーション作成)（目標３）
	第28回	研究成果の発表準備④(研究のプレゼンテーションリハーサル、練り直し)（目標３）
	第29回	研究成果の発表準備⑤(研究のプレゼンテーションリハーサル)（目標３）
	第30回	研究成果の発表準備・発表(研究のプレゼンテーション)研究のまとめと評価（目標３）

予習・復習の内容	予習	研究に関する書籍や研究論文を読み，情報収集をする。 教育現場における道徳，特別活動の研究について視野を広げる。（観察，分析）
	復習	研究に関わる言葉の吟味をする。 討論し合ったことをもとに，レポートやプレゼンテーションを練り直す。
	展開	研究テーマや仮説について吟味する。 互いの研究について討論し合い，自分では気付かなかった見方や観点を取り入れて，研究を深める。

		効果的なプレゼンテーションについてディスカッションし，聴き手に伝わるプレゼンテーションについて考え、取り入れる。
成績評価	評価の基準	道徳教育の今日的課題をもとに，自己の研究テーマを設定，まとめを継続してやり通すことができたか。 また，発表に向けて分かりやすくまとめ，効果的なプレゼンテーションができたか。
	評価の方法	研究報告書（60%）発表原稿・プレゼンテーション（40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 特になし	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

専門ゼミナールⅡ（實川）

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS401
開講年度	2015年度
登録コード	A1124033
科目区分	専門演習科目
授業科目名	専門ゼミナールⅡ（實川）
科目責任者	實川　慎子
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月4
教室	ゼミ室3
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	子育て支援、卒業論文、論文執筆方法、研究の方法
授業のねらい・概要	専門ゼミナールⅠでの学びを深め、卒業論文に仕上げる。
学生の達成目標	１．自分の研究テーマに沿って資料、データを収集し、分析を通して研究方法を習得する。 ２．論文の執筆方法を習得し、卒業論文を仕上げる。 ３．自分の研究を他者にわかりやすくプレゼンテーションできる。
授業内容	第1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第2回　課題設定と方法等の相談①（目標1）

	第3回　課題設定と方法等の相談②（目標1） 第4回　課題設定と方法等の決定（目標1） 第5回　論文の書き方（目標2） 第6回　先行研究の収集と進捗についての報告①（目標1） 第7回　先行研究の収集と進捗についての報告②（目標1） 第8回　先行研究の収集と進捗についての報告③（目標1） 第9回　先行研究の収集と進捗についての報告④（目標1） 第10回　先行研究の収集と進捗についての報告⑤研究方法①（目標1） 第11回　先行研究の収集と進捗についての報告⑥研究方法②（目標1） 第12回　先行研究の収集と進捗についての報告⑦調査計画①（目標1） 第13回　先行研究の収集と進捗についての報告⑧調査計画②（目標1） 第14回　調査の実施①（目標1） 第15回　調査の実施②（目標1） 第16回　調査と分析①データ化①（目標1） 第17回　調査と分析②データ化②（目標1） 第18回　調査と分析③構造化①（目標1） 第19回　調査と分析④構造化②（目標1） 第20回　調査と分析⑤考察①（目標1） 第21回　調査と分析⑥考察②（目標1） 第22回　中間報告（目標3） 第23回　意見交換・修正（目標3） 第24回　研究まとめ①目的（目標2） 第25回　研究まとめ②方法（目標2） 第26回　研究まとめ③結果と考察（目標2） 第27回　研究まとめ⑤総合考察（目標2） 第28回　報告会準備①（目標3） 第29回　報告会準備②（目標3） 第30回　発表・まとめ（目標3）
予習・復習の内容	予習　研究テーマに沿った論文、資料等を読む。 復習　データを収集し、整理を行う。意見交換で修正が必要な場合は、すぐに行う。 展開　卒業論文に仕上げていく。
成績評価	評価の基準　上記、学生の達成目標への達成度で評価する。 評価の方法　論文発表（70%）、授業態度（30%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

キャリア演習Ⅲ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS302
開講年度	2015年度
登録コード	A1132001
科目区分	専門演習科目
授業科目名	キャリア演習Ⅲ
科目責任者	髙木　夏奈子
担当教員	長谷川　修治 森高　光広 村上　悦子 田所　明房
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	水2（2,4週に開講）
教室	講義室10･11,14,15,16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	就職に向けた実践力、社会人力、情報活用力
授業のねらい・概要	キャリア選択を明確にして、1，2年生で培った知識や態度を基礎に、より実践的な力を身につけ、確かなものにする。そして、キャリア達成のために努力することやスキル能力を高める。

学生の達成目標	１．社会人としての知識を身につけ、キャリアに関しての情報を集め、情報を選択できる ２．自ら選択した職業（専攻分野）についての知識や技能を一層確かなものにする。 ３．それぞれの目標が達成できるように試験対策をする。また、実践的能力を高める。
授業内容	第1回　年間計画・履修登録・学内マナー 就職関係説明（目標１） 第2回　情報を得る（目標１） 小・特：教員採用説明会（県教育庁）4年生と合同 幼・保：保育・幼稚園その他就職進路説明会 発達：就職進路説明会 第3回　小、特：実践演習①教育実習に向けて（目標２） 幼・保：幼稚園・保育所の職場：職場のイメージ（目標２） 発達：就職までの歩みと進め方（目標１．２） 第4回　小・特：実践演習②授業の見方（目標２） 幼・保：幼稚園・保育所の職場：履歴書を書く意味と演習（目標２） 発達：応募書類の書き方と試験対策（目標３） 第5回　小・特：実践演習③集団討議演習（目標３） 幼・保：合同就職説明会に向けて：面接の受け方（目標３） 発達：キャリア支援室の利用の仕方：専門家の助言（目標１・３） 第6回　労働法講座（目標１） 第7回　小・特：採用試験の実際：採用試験までのデザイン（目標３） 幼・保：就職活動のマナー　（目標３） 発達：就職活動のマナー（目標３） 第8回　後期計画確認 作文模擬試験（目標３） 第9回　卒業論文中間発表を聞く（目標２） 第10回　卒業論文中間発表を聞く（目標２） 第11回　先輩の話を聞く（就職活動体験談）（目標１） 第12回　小・特：試験対策：千葉県教育委員会説明（目標３） 幼・保：試験対策：千葉市保育課説明（目標３） 発達：履歴書記入、面接対策（目標３） 第13回　小・特：試験対策・教職教養R（目標３） 幼・保：面接練習の実際・自己PRの発表（目標３） 発達：履歴書記入、面接対策（目標３） 第14回　小・特：模擬試験返却・自己PR・４年生に向けて（目標３） 幼・保：模擬試験返却・４年生に向けて（目標３） 発達：模擬試験返却・４年生に向けて（目標３） 第15回　卒業研究発表を聞く（目標２）
予習・復習の内容	予習　・職業選択に関係する情報を常日ごろから気にとめ、読んだり集めたりする。 ・質問したいことをまとめる。 復習　・授業中に感じたこと、学んだこと、疑問点などをまとめ整理する。 ・よく理解できなかった内容については質問したり、調べたりして解決する。

	展開	・積極的に参加する。 ・話を聞くときは要点を記録する。 ・疑問点を明確にする。
成績評価	評価の基準	・主体的に参加し、キャリア決定に向けて真剣に取り組む姿勢があること。 ・レポートの提出と提出期限の厳守
	評価の方法	・課題発表やレポート（30%） ・課題に対する取り組み（70%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

キャリア演習 Ⅳ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAS402
開講年度	2015年度
登録コード	A1133001
科目区分	専門演習科目
授業科目名	キャリア演習 Ⅳ
科目責任者	加藤　悦子
担当教員	安藤　則夫 川端　眞由美 植草　一世 宮下　裕一
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	水2（1,3週に開講）
教室	講義室10·11,15,16
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会人，職業人，教育職，保育職，自立
授業のねらい・概要	自己の志望する職業に必要な知識や技能を確かなものにし，社会人としての知識や態度を実践できるようにする。

学生の達成目標

	1.自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものにする。 2.社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　イントロダクション　年間計画と学習の進め方・卒業研究について 第2回　専攻別採用説明・就職説明会（目標１） 第3回　専攻別キャリア支援講座１　自己アピールポイントの確認と明確化（目標１） 第4回　専攻別キャリア支援講座２　書くことの技術（目標１） 第5回　専攻別キャリア支援講座３　個人面談の技術（目標１） 第6回　専攻別キャリア支援講座４　集団面談の技術（目標１） 第7回　専攻別キャリア支援講座５　集団討論の技術（目標１） 第8回　専攻別キャリア支援講座６　就職現状確認と今後の課題（キャリア支援課）（目標１） 第9回　卒業研究中間発表会１（目標１） 第10回　卒業研究中間発表会２（目標１） 第11回　専攻別キャリア支援講座７（目標２）提出物の確認（キャリア支援課） 第12回　専攻別キャリア支援講座８（目標２）個別相談1 第13回　専攻別キャリア支援講座９（目標２）社会に出る準備・卒業研究について 第14回　卒業研究提出・発表会について（目標１．２） 第15回　学習のまとめと振り返り（目標１，２）
予習・復習の内容	予習　指定された課題について，資料等で調べ，まとめる。 復習　指定された課題について，文章などで自分の考えをまとめる。 展開　関心をもった事項について，種々の資料を調べ，発表を意識してまとめる。
成績評価	評価の基準　１）自ら選択した職業や専攻分野についての知識や技能を確かなものになっている。 ２）社会人や職業人として必要な知識や態度を身につけ，実践の場で生かすことができるようになっている。 評価の方法　課題発表（50%）やレポート（50%）の内容により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	社会人として自立し，職業人として必要な能力を養うための科目であるが，学年や専攻毎の連絡，履修に関する説明，個別相談など重要な内容が含まれるので，必ず履修すること。

2015年度シラバス

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	EAG401
開講年度	2015年度
登録コード	A1125001
科目区分	卒業研究
授業科目名	卒業研究
科目責任者	浦野　俊則
担当教員	渡邉　章 桑田　良子 安藤　則夫 川端　眞由美 高野　良子 長谷川　修治 植草　一世 森高　光広 加藤　悦子 髙木　夏奈子 宮下　裕一 多田　昌代 川口　由起子 村上　悦子 小川　晶 遠藤　隆志 広瀬　由紀 戸丸　俊文 栗原　ひとみ 早川　雅晴 京極　邦明 田所　明房 實川　慎子 尾崎　祐三
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	発達教育学部：　必修
単位数	4

配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　必修 特別支援学校教諭：　必修 幼稚園教諭：　必修 保育士：　必修 理学療法士：　不要

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（主旨）学生が自らの専攻分野に関して，関心のあることがらをテーマとして専門的に研究し，その成果を論文等の形に仕上げることです。卒業研究は，自発的にかつ十分な時間をかけて研究を深め，在学中における最大の研究成果となることが期待されています。
学生の達成目標	1. 自ら関心の高いテーマに関する専門的な研究成果に充足感をもつことができること。 2. 専門分野において，特に深く研究した経験を持つこと。
授業内容	浦野　俊則　A1125001　渡邉　章　A1125012 高野　良子　A1125023　桑田　良子　A1125006 安藤　則夫　A1125022　川端　眞由美　A1125008 京極　邦明　A1125031　尾崎　祐三　A1125034 田所　明房　A1125032　長谷川　修治　A1125021 戸丸　俊文　A1125028　植草　一世　A1125017 森高　光広　A1125009　宮下　裕一　A1125019 加藤　悦子　A1125013　栗原　ひとみ　A1125030 早川　雅晴　A1125029　髙木　夏奈子　A1125018 多田　昌代　A1125014　小川　晶　A1125026 川口　由起子　A1125024　遠藤　隆志　A1125025 広瀬　由紀　A1125020　村上　悦子　A1125007 實川　慎子　A1125033
予習・復習の内容	予習　研究テーマの設定に当たっては，自身の関心を持っている領域について，事前に予備的な調査・検討をした上で、指導教員と相談して決定すること。 復習　研究の進展状況について指導教員に毎週報告し，指導を受けること。 展開　研究の中間発表及び完成時の発表を指定された期日に行うこと。
成績評価	評価の基準　研究テーマへの取り組み態度，研究における分析力・統合力，研究の成果等 評価の方法　上記の態度，分析力・統合力及び成果を総合的に判定する。
教科書	研究資料は，自身で探索するとともに，指導教員の助言を受けること。

推薦図書等	
参考URL	
備考	＊（卒業要件）卒業研究の成果を提出し，審査に合格することが，卒業の必須要件です。 ＊研究は，指導教員によく相談して進めること。指導を受ける時間は，指導教員と相談の上で決めること。 ＊研究で使用する文献やデータの扱い方，著作権への配慮，対人調査における人権への配慮等について，指導教員の指導に従うこと。 ＊指定された提出日時までに提出すること。

2015年度シラバス

解剖学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM201
開講年度	2015年度
登録コード	A2001001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学
科目責任者	山本　雅哉
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火4, 5
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	解剖学、組織学
授業のねらい・概要	人の生命活動について、機能と構造を関連し、総合的・体系的な理解・学習を試みる。
学生の達成目標	１．人体の構造について肉眼解剖学を通じて理解を深め、適切な用語を習得し、それぞれの意味・役割を説明できる。 ２．人体の構造・機能について、系統的に理解し、適切な用語を用いて説明できる。 ３．人体の構造・機能について、神経組織と支持組織の関連を理解し、適切な用語を用いて動作機作を説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 総論：解剖学という生命現象の理解の方法について（方針と学習方法について） 解剖学を学ぶための基礎知識（目標１・２・３：人体の階層性、構成器官，細胞の構造など）
	第2回	循環器系（目標１・２・３：体内の物流システムの重要性と構造的特性を学ぶ）
	第3回	消化器系（目標１・２・３：食物摂取から排出まで、その構造・機能的重要性を学ぶ）
	第4回	呼吸器系（目標１・２・３：ガス交換する構造上・機能的重要性を学ぶ）
	第5回	泌尿器系・生殖器系（目標１・２・３：体液の恒常性維持機構、生殖に関わる構造・機能的重要性を学ぶ）
	第6回	内分泌系（目標１・２・３：恒常性維持・調和のホルモンを中心としたシステムの構造・機能的重要性を学ぶ）
	第7回	感覚器系，人体の発生（目標１・２・３：外的環境を察知する特殊感覚、また、発生過程における構造・機能的重要性を学ぶ）
	第8回	骨格：総論（目標１・２・３：骨の特性など、構造・機能的重要性を学ぶ） 各論（目標１・２・３：人体に分布する骨の名称と運動との関連）
	第9回	関節と靭帯：総論（目標１・２・３：関節の構造，靭帯の特性と機能について構造・機能的重要性を学ぶ） 各論（目標１・２・３：上肢・下肢・体幹に分布する関節と靱帯について）
	第10回	筋系１：総論（目標１・２・３：筋の種類、機能、特性について構造・機能的重要性を学ぶ） 各論１（目標１・２・３：体幹に分布する筋について）
	第11回	筋系２：各論２（目標１・２・３：上肢に分布する筋について）
	第12回	筋系３：各論３（目標１・２・３：下肢に分布する筋について）
	第13回	神経１：総論（目標１・２・３：神経系の区分・構成，髄膜との脳室系，神経系の発生について構造・機能的重要性を学ぶ）
	第14回	神経２：各論１（目標１・２・３：中枢神経系について）
	第15回	神経３：各論２（目標１・２・３：末梢神経系について）
予習・復習の内容	予習	形態に生命を支える機能が反映されていることを学ぶことが肝要である。教科書の文章が難解でも、図表は多くの情報を含んでいる。可能な範囲で図表の意図するところの理解をあらかじめ試みるとこと。
	復習	講義の重要点を整理し、不明点は講義の印象が薄れないうちに質問・解決することを心がける。
	展開	本科目で学ぶことは生命現象の一部に過ぎず、他科目との関連を考察することは大切である。成書、また、教官を通じて学んだことを深化・実践を試みてほしい。
成績評価	評価の基準	シラバスに則り、人体の生命現象について解剖学的用語を適切に用いて説明できるかを評価基準とする。
	評価の方法	筆記試験(50%)、試問(30%)、授業態度(20%)を目安に総合的に勘案し判定する。

教科書	書籍名	解剖学：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　第４版
	著者名	野村　嵯（編集）
	出版社	医学書院
	価格	6480円
	ISBN・ISSN	978-4-260-02008-4
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ　解剖学ノート　第２版
	著者名	中島　雅美
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	4104円
	ISBN・ISSN	978-4-263-211700-0

参考URL

備考

2015年度シラバス

解剖学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM202
開講年度	2015年度
登録コード	A2002001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	解剖学実習
科目責任者	山本　雅哉
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	月4, 5
教室	基礎医学実習室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	解剖学実習
授業のねらい・概要	人体の構造・機能について、標本・模型を用いて実践的な学習、理解の深化を試みる。
学生の達成目標	１．標本・模型を用いた学習を通じ、人体の構造を３次元的に把握する。 ２．標本・模型を用いた学習を通じ、人体の構造・機能について、表皮下の構造を想起・適切な用語で説明できる。 ３．人体の構造・機能について、標本・模型を用いて座学で学んだ理解を反映した説明ができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 実習入門（実習を通じた学習目標と心構え）（目標1，2,3）
	第2回	体幹に分布する骨・筋・神経について（それぞれの名称と関連について理解する）（目標1,2,３）
	第3回	上肢に分布する骨・筋・神経について１（各部それぞれの名称を整理する）（目標1）
	第4回	上肢に分布する骨・筋・神経について２（適切な名称・関連を把握し、それぞれの機作・機能を説明できる）（目標1,2,３）
	第5回	下肢に分布する骨・筋・神経について１（各部それぞれの名称を整理する）（目標1）
	第6回	下肢に分布する骨・筋・神経について２（適切な名称・関連を把握し、それぞれの機作・機能を説明できる）（目標1,2,３）
	第7回	循環器系（３次元的な心臓の位置・構造、また、血管・リンパ管の位置・分布を学ぶ）（目標1,2,３）
	第8回	頭頸部から胸腔まで１（各部それぞれの名称を整理する）（目標1）
	第9回	頭頸部から胸腔まで２（適切な名称・関連を把握し、それぞれの機作・機能を説明できる）（目標1,2,３）
	第10回	腹腔から骨盤内臓まで１（各部それぞれの名称を整理する）（目標1）
	第11回	腹腔から骨盤内臓まで２（適切な名称・関連を把握し、それぞれの機作・機能を説明できる）（目標1,2,３）
	第12回	神経系１（脳神経それぞれの名称と関連について理解する）（目標1）
	第13回	神経系２（脳と脊髄と血管それぞれの名称と関連について理解する）（目標1,2,３）
	第14回	神経系３（機能分類と特殊感覚それぞれの名称と関連について理解する）（目標1,2,３）
	第15回	人体の発生（発生過程における変化とそれぞれの名称と関連について理解する）（目標1,2,３）
予習・復習の内容	予習	学んだ事を実地に生かす基礎トレーニングが実習である。基本となる座学での知識が正確に身についているかが前提となるので前期で学んだことを再確認してほしい。実物により理解が充分でなかったことをしばしば発見するが、知識に血が通う貴重な瞬間である。座学での努力が前提であることをよく承知してほしい。
	復習	実習は卒業後に相対する実物と知識を結びつける貴重な機会である。不明点は実習の印象が薄れないうちに質問・解決することを心がける。疑問点は形にできた時点ですでに半分以上解決していると思ってください。
	展開	他科目と関連・統合的に理解し、日頃のさりげない挙措・動作が綿密に組み立てられたシステムによることを想起してほしい。また、自らがそうした機能が損なわれ、疾病・障害となった経験があると思う。今一度、その原因を考察し、自らが療法士としていかに対処できるのか、学んだことを深化・実践を試みてほしい。
成績評価	評価の基準	シラバスに則り、実習標本・模型などを用いて、人体の三次元構造、それぞれの機能について適切に説明できるかを評価基準とする。

	評価の方法	筆記試験(30%)、試問(50%)、授業態度(20%)を目安に総合的に勘案し判定する。

教科書	書籍名	プロメテウス解剖学 コア アトラス（第２版）
	著者名	坂井　建雄（監訳）
	出版社	医学書院
	価格	10260円
	ISBN・ISSN	978-4-260-01932-3

推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ　解剖学ノート　第２版
	著者名	中島　雅美
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	4104円
	ISBN・ISSN	978-4-263-211700-0

参考URL	
備考	

2015年度シラバス

生理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM203
開講年度	2015年度
登録コード	A2003001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学
科目責任者	桑名　俊一
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金4, 5
教室	講義室21,22
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能，恒常性，調節機構
授業のねらい・概要	生理学はからだの中の機能がどのように発現し，維持され，調節されているかを明らかにする学問です。 将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，必要不可欠な知識といえます。 正常なからだの中の機能を分類し，体系づけ，また相互の関連性を理解することを目標とする。
学生の達成目標	1. 生体の恒常性維持の調節機構について説明できる。 2. 各器官の働きを説明できる。 3. 各器官機能の調節機構ついて説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 「生理学の概要」 -細胞と内部環境,生体の恒常性-(目標1) 「細胞膜の生理」 -受動輸送,能動輸送，チャネル，ポンプ-
	第2回	「血液 Ⅰ」 -血液の役割,血液の組成,赤血球の生成と崩壊-(目標2) 「血液 Ⅱ」 -白血球,血液凝固,血液型-(目標2)
	第3回	「生体防御」 -免疫機能,リンパ球,抗原抗体反応-(目標2)
	第4回	「骨格筋」 -筋収縮の機序,筋収縮のエネルギー-(目標2)
	第5回	「心臓 Ⅰ」 -心臓の機能,特殊心筋,心臓の電気現象,心電図-(目標2,3) 「心臓 Ⅱ」 -心臓のポンプ作用,心音-(目標2)
	第6回	「循環 Ⅰ」 -動脈系,毛細血管,物質交換,浮腫-(目標2) 「循環 Ⅱ」 -静脈系,特殊循環系-(目標2)
	第7回	「循環 Ⅲ」 -心臓・血管の調節機構-(目標3) 「自律神経」 -交感神経,副交感神経,自律反射中枢-(目標1,2)
	第8回	「まとめ」 「呼吸 Ⅰ」 -呼吸器の機能的構造,呼吸運動,換気量,肺気量とその区分-(目標2)
	第9回	「呼吸 Ⅱ」 -ガス交換,血液によるガスの運搬,換気量の調節機構-(目標2,3) 「消化・吸収 Ⅰ」 -消化・吸収の概要,口腔での消化,胃・小腸での消化-(目標2)
	第10回	「消化・吸収 Ⅱ」 -消化の調節,栄養素の吸収,大腸,排便反射-(目標2,3)
	第11回	「腎機能」 -機能的構築,糸球体濾過,再吸収と分泌-(目標2) 「体液 Ⅰ」 -浸透圧の調節,血漿量,血漿 Na量の調節-(目標1,3)
	第12回	「体液 Ⅱ」 -体液 H+濃度の調節, pH,アシドーシスとアルカローシス(目標1,3)
	第13回	「内分泌 Ⅰ」 -内分泌器官,ホルモンの一般的性質,視床下部,下垂体-(目標1,2)
	第14回	「内分泌 Ⅱ」 -甲状腺,副甲状腺,副腎,性ホルモン-(目標1,2)
	第15回	「代謝」 -エネルギー代謝,基礎代謝-(目標1,2) 「体温の恒常性」 -産熱と放熱,体温の調節,発熱,発汗-(目標1,3)
予習・復習の内容	予習	教科書を読み、専門用語・キーワードの意味を調べる。
	復習	各回とも復習テストを行うので、ノートの内容を理解しておくこと。
	展開	ヒトの体の働きに興味・疑問を持ち、それを解明する力を身に付ける。
成績評価	評価の基準	国家試験レベルの問題で 60%以上の正答率を取ることを基準とする。
	評価の方法	２回の筆記試験を 80%，復習テスト（毎回授業開始時５分程度）を 20%とし，総合評価する。
教科書	書籍名	シンプル生理学　改訂第６版
	著者名	貴邑冨久子、根来英雄

	出版社	南江堂
	価格	2,900円
	ISBN・ISSN	ISBN：9784524247332
推薦図書等	書籍名	標準理学療法学・作業療法学，専門基礎分野，生理学 第4版
	著者名	岡田隆夫、長岡正範
	出版社	医学書院
	価格	4 ,400円
	ISBN・ISSN	ISBN： 9784260016520
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

生理学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM204
開講年度	2015年度
登録コード	A2004001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生理学実習
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	木4, 5
教室	基礎医学実習室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体機能の計測，生体電気現象の記録，生理学実験法，生命現象の観察
授業のねらい・概要	生理学実習では，講義で学んだ「ヒトの体の正常機能」を実体験によって深めることが目標となります。さらに，将来，専門的な理学療法を展開する基盤として，人体や生体を用いた研究の科学的な考え方，研究方法を学びます。また，医療機器や生理実験用機器の作動原理や取り扱い方を習得します。

学生の達成目標

1. 生体機能を計測しその意義を説明できる。
2. 生体の電気現象や恒常性の維持について説明できる。
3. 科学的なレポートを作成し,その内容を発表することができる。

授業内容

第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。
「実習ガイダンス」-生理学実験法,レポートの作成要領 実習機器の作動原理と使用法- (目標1,3)
「血圧」-血圧測定の原理,コロトコフ音-(目標1,2,3)

第2回　「神経の興奮伝導」-カエルの坐骨神経標本,電気刺激,活動電位,伝導速度,不応期,強さ・時間曲線-(目標1,2,3)

第3回　「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3)
「最大酸素摂取量」-運動強度, 心拍数（目標1,2,3）

第4回　「ヒトの骨格筋」-運動神経伝導速度,正中神経,単収縮と強縮,加重,疲労 (目標1,2,3)
「最大酸素摂取量」-運動強度, 心拍数（目標1,2,3）

第5回　「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3)
「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,3)

第6回　「筋電図」-随意運動時の筋電図,誘発筋電図　-(目標1,2,3)
「感覚」-感覚点分布, 二点弁別閾　-(目標1,2,3)

第7回　「まとめ」(目標3)

第8回　「実習結果発表と討論」(目標3)

第9回　「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3)
「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3)

第10回　「心電図」-双極標準肢誘導,単極胸部誘導,アイントーベンの三角形,ベクトル,平均電気軸-(目標1,2,3)
「水分バランス」-腎機能,飲水,尿量,抗利尿ホルモン,高張液,低張液,等張液-(目標1,2,3)

第11回　「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 -(目標1,2,3)
「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3)

第12回　「肺気量分画」-スパイロメトリー,肺活量,努力性呼出曲線,1秒率,1秒量 (目標1,2,3)
「寒冷刺激による血管反応」-皮膚温,寒冷誘発血管拡張,動静脈吻合 -(目標1,2,3)

第13回　「まとめ」(目標3)

第14回　「実習結果発表と討論」(目標3)

第15回　「DNAの抽出と観察」-生命体の連続性,細胞,分画-(目標1,3)

予習・復習の内容

予習　あらかじめ実習書を配布するので、実習内容を理解しておくこと。課題に関しては事前に提出させるので調べておくこと。

復習　実習結果に関して、レポートを期限までに提出すること。

展開　生理学の知識が実験の上に成り立っていることを理解し、生理現象に対して常に疑問をもち、疑問点を解明する姿勢を身に着ける。

成績評価	評価の基準	出席時間４／５以上が単位認定の条件であり，実習内容が理解できていること。
	評価の方法	レポート 10%，発表10%,事前テスト 80%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	生理学講義の単位を取得後の履修が望ましい。 生理学講義の教科書， USBメモリ等の記録媒体を持ってくること。	

2015年度シラバス

人体機能構造学演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM205
開講年度	2015年度
登録コード	A2075001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人体機能構造学演習
科目責任者	角　友起
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	水2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動物機能、神経、感覚、運動、高次脳機能
授業のねらい・概要	人間が"外界からの情報を受容し適切な行動を起こす"ために必要な、脳・神経・感覚・運動の各身体機能について、それを支える身体構造の概要とともに学ぶ。
学生の達成目標	1.　神経系の構造の概要、神経の基本的な機能と特性について説明できる。 2.　各感覚器が感覚情報を受容する仕組み、感覚情報の伝導路を説明できる。 3.　運動を司る神経系の特性、運動を制御する仕組みを説明できる。高次脳機能の基本的な性質を説明できる。
授業内容	第1回

		人体機能構造学総論　：　人間の行動と動物機能，脳神経系・感覚系・運動系の概要 神経の機能（１）　：　脳と脊髄の概観、ニューロンの構造、静止膜電位、イオンチャネル（目標1）
	第2回	神経の機能（２）　：　活動電位、不応期、全か無かの法則、興奮伝導、神経伝導速度と神経線維の分類（目標1）
	第3回	神経の機能（３）　：　シナプス、神経伝達物質、受容体、シナプス後電位、興奮と抑制、軸索輸送、シナプス・神経回路の様式、シナプス効果の加重（目標1）
	第4回	視覚（１）　：　眼球の構造、網膜の細胞、錐体と杆体、視力と遠近調節（目標2）
	第5回	視覚（２）　：　光受容の仕組み、視覚情報の伝達と中枢伝導路、脳における視覚情報処理（目標2）
	第6回	聴覚と平衡感覚（１）　：　外耳・中耳・内耳、蝸牛、コルチ器、音情報の受容機構（目標2）
	第7回	聴覚と平衡感覚（２）　：　聴覚情報の中枢伝導路、脳における聴覚情報処理、前庭迷路における平衡感覚受容、迷路反射（目標2）
	第8回	味覚と嗅覚　：　味蕾、味覚神経、味覚情報の中枢伝導路、嗅覚器の構造、嗅覚受容の仕組み（目標2）
	第9回	体性感覚　：　皮膚感覚受容器、感覚点と2点弁別閾、デルマトーム、体性感覚伝導路、大脳での体部位再現、筋紡錘と固有感覚（目標2）
	第10回	運動機能（１）　：　運動単位、脊髄反射、歩行運動（目標3）
	第11回	運動機能（２）　：　大脳による運動制御、下行性伝導路、大脳基底核による運動制御（目標3）
	第12回	運動機能（３）　：　小脳による運動制御、姿勢調節（目標3）
	第13回	高次脳機能（１）　：　脳波、睡眠と覚醒（目標3）
	第14回	高次脳機能（２）　：　大脳皮質連合野の機能、ブロードマンの地図（目標3）
	第15回	高次脳機能（３）　：　言語と記憶（目標3）
予習・復習の内容	予習	授業計画に書かれている単元、キーワードについて成書で調べる。
	復習	授業で配布したプリントおよび板書の内容について確認、復習、暗記する。
	展開	参考図書で発展的学習を行う。
成績評価	評価の基準	上記の達成目標に掲げた知識をおおむね習得していること。
	評価の方法	毎回の少テスト（１０％）、授業内で行う中間テスト（４５％）、期末試験（４５％）により評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	カラー版　神経科学－脳の探求－
	著者名	ベアー、コノーズ、パラディーゾ
	出版社	西村書店
	価格	7600

ISBN・ISSN	978-4-89013-356-7

書籍名	人体機能生理学
著者名	杉晴夫　編著
出版社	南江堂
価格	10000
ISBN・ISSN	978-4-524-25364-7

参考URL	
備考	教科書を指定せず、毎回プリントを配布し、板書をプリントに書きこむ授業形式をとる。 本科目は生理学と解剖学を横断する内容のため、両科目の教科書を用いて自己学習を行うと良い。参考図書は授業の内容を概ね カバーしているため、発展的な学習には参考図書を用いるとよい。

2015年度シラバス

運動学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM206
開講年度	2015年度
登録コード	A2005101
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学Ⅰ
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金1
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動学，運動力学，運動器の構造と機能
授業のねらい・概要	１．人間の身体運動に関する基本的な知識を学習する。 ２．運動学に必要な力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動ににについて学習する。
学生の達成目標	１．身体運動に関する基礎的な知識を説明できる。 ２．運動学に必要な力学について説明できる。 ３．上肢帯と上肢および脊柱・体幹の運動器の構造と機能および運動について説明できる。

授業内容	第1回	運動学の定義と領域,身体運動の面と軸および関節運動の名称(目標１)
	第2回	運動学に必要な力学の基礎(1):変位,速度・加速度,ベクトル,運動の法則・他(目標２)
	第3回	運動学に必要な力学の基礎(2):仕事,仕事率,力のモーメント,てこ・他(目標２)
	第4回	運動学に必要な骨格筋の基礎:筋収縮の様態,筋の働き,筋張力と筋長・他(目標３)
	第5回	上肢帯と上肢の構造(目標３)
	第6回	上肢帯,肩関節とその運動(1):上肢帯を構成する「関節」,肩甲骨の位置と運動範囲・他(目標３)
	第7回	上肢帯,肩関節とその運動(2):上肢帯と肩関節の運動と筋(目標３)
	第8回	肘関節とその運動:肘と前腕の関節,肘角,肘と前腕の運動と筋(目標３)
	第9回	手の関節とその運動(1):手の骨,手根管,手関節の構造,手関節の運動と筋(目標３)
	第10回	手の関節とその運動(2):手の各関節の構造,各関節の運動と筋(目標３)
	第11回	腱鞘,指背腱膜,手の筋,手の把持動作(目標３)
	第12回	顔面および頭部の筋とその運動(目標３)
	第13回	体幹とその運動(1)：各部椎骨の特徴，脊柱の生理的彎曲，脊椎の連結（目標３）
	第14回	体幹とその運動(2)：胸椎と胸郭の運動と筋（目標３）
	第15回	体幹とその運動(3)：体幹の運動と筋，各部の椎間関節面の特徴と運動範囲（目標３）
予習・復習の内容	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。
	復習	授業内容を十分に理解し記憶すること。
	展開	力学，運動器の構造と機能一般，上肢帯と上肢および体幹の運動に関する基本的な知識を学習し，理学療法学の基礎とする。
成績評価	評価の基準	上記の「学生の達成目標」に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
	評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（80%），小テストおよびレポート（20%）とする。ただし， この比率は，最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	基礎運動学　第6版補訂
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 6,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3
推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー　原著第2版
	著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・有馬慶美　監訳

出版社	医歯薬出版
価格	本体 12,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21395-7

参考URL	
備考	解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

2015年度シラバス

運動学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM207
開講年度	2015年度
登録コード	A2005201
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学Ⅱ
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月1
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器の構造と機能，姿勢，歩行，運動学習
授業のねらい・概要	1．人間の身体運動に関する基本的な知識を学習する。 2．主に，下肢帯と下肢の運動，姿勢，歩行および運動学習について学習する。
学生の達成目標	1．下肢帯と下肢の構造と運動について説明できる。 2．姿勢，歩行について理解し，基本事項を説明できる。 3．運動学習の基本的事項を説明できる。
授業内容	第1回　下肢帯と自由下肢の骨，骨盤・仙腸関節と股関節の構造（目標１） 第2回　股関節とその運動（１）：股関節の運動と筋（目標１）

	第3回	股関節とその運動（２）：各動作での股関節の運動と筋，ﾄﾚﾝﾃﾞﾚﾝﾌﾞﾙｸﾞ徴候・他（目標１）
	第4回	膝関節の構造：膝関節の構造，半月板，側副靭帯，十字靭帯（目標１）
	第5回	膝関節とその運動（１）：膝関節の運動と半月板，側副靭帯，十字靭帯の役割（目標１）
	第6回	膝関節とその運動（２）：膝関節の運動と筋，下腿の回旋，膝蓋骨の運動・他（目標１）
	第7回	足の骨と関節：足関節，足根中足関節，中足指節関節，指節間関節の構造と運動（目標１）
	第8回	足関節・足部の関節の運動と筋：背屈と底屈，内がえしと外がえし，足のアーチ（目標１）
	第9回	姿勢（１）：重心，立位姿勢（目標２））
	第10回	姿勢（２）：重心動揺、姿勢制御（目標２）
	第11回	正常歩行（１）：歩行周期，一歩，重複歩，歩行率，足角，歩隔，歩幅（目標２）
	第12回	正常歩行（２）：歩行時の重心移動，股・膝・足関節，体幹の運動（目標２）
	第13回	正常歩行（３）：歩行と筋活動，歩行と走行，歩行とエネルギー消費（目標２）
	第14回	正常歩行（４）：歩行周期（新定義）での下肢関節角度、足のロッカー機能（目標２）
	第15回	運動学習：学習と記憶，運動技能とパフォーマンス，結果の知識（KR）（目標３）
予習・復習の内容	予習	各授業内容に応じて，自然科学入門，解剖学，生理学および人体機能構造学演習での学習を確認しておくこと。
	復習	授業内容を十分に理解し記憶すること。
	展開	下肢帯と下肢の運動，姿勢，歩行および運動学習について学習し，理学療法学の基礎とする.
成績評価	評価の基準	上記の「学生の達成目標」に到達し，運動学の基本事項を理解し記憶していること。
	評価の方法	期末試験を重視する。ほぼ毎回運動学に関する基本事項確認のために小テストまたはレポートを実施する。試験（80%），小テストおよびレポート（20%）とする。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	書籍名	基礎運動学　第6版補訂
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 6,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3
推薦図書等	書籍名	筋骨格系のキネシオロジー　原著第2版

著者名	Donald A. Neumann著／嶋田智明・有馬慶美　監訳
出版社	医歯薬出版
価格	本体 12,000円＋税
ISBN・ISSN	978-4-263-21395-7

参考URL	
備考	解剖学，生理学および人体機能構造学演習の単位を修得していることが望ましい。運動学は，理学療法の基礎として主要な位置を占める。十分な予習と復習を行い，授業に臨むことを希望する。

2015年度シラバス

運動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM208
開講年度	2015年度
登録コード	A2006001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	運動学実習
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	月3, 4
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	姿勢，運動，動作，分析，運動学習
授業のねらい・概要	運動学で学習した身体運動に関する基本的な概念と分析・観察方法に関して実習を通して学習する。主な内容は，体表からの筋の観察，各関節運動と筋の作用，身体運動の表現，姿勢分析，歩行分析，運動学習の実習である。
学生の達成目標	１．身体運動の表現,体表からの筋の観察を行い,関節に対する筋の作用を説明できる。 ２．動作，歩行分析，姿勢に関する実習を通して運動・動作分析の基礎を説明できる。 ３．運動学習課題に関する実習を通して，運動学習の基礎を説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 骨のランドマークの触察(目標１)
	第2回	筋の観察と触察(1)：肩甲帯，肩の筋(目標１)
	第3回	筋の観察と触察(2)：上腕の筋(目標１)
	第4回	筋の観察と触察(3)：前腕，手の筋(目標１)
	第5回	筋の観察と触察(4)：大腿の筋(目標１)
	第6回	筋の観察と触察(5)：下腿，足の筋(目標１)
	第7回	身体運動の表現方法と関節運動：肩甲骨の運動（肩甲上腕リズム）(目標２)
	第8回	筋力：手関節肢位と握力(目標２)
	第9回	姿勢分析：①足圧中心の測定　②立位アライメントの観察(目標２)
	第10回	歩行分析(1)：運動学的分析（歩行周期と関節運動）(目標２)
	第11回	歩行分析(2)：１０m歩行（歩行速度，歩行率，歩行比）(目標２)
	第12回	運動学習：結果の知識（KR）付与とパフォーマンス(目標３)
予習・復習の内容	予習	授業内容に応じて，運動学Ⅰ・Ⅱで学習した内容を確認すること。
	復習	実習で確認した内容を理解し記憶すること。
	展開	運動学Ⅰ・Ⅱでの学習を実習で確認し，身体運動を実際に体験観察し，理学療法学の基礎とする.
成績評価	評価の基準	上記の学生の達成目標に到達し，実習内容を理解していること。
	評価の方法	出席４／５以上が単位認定の条件である。毎回のテーマについて小テストの実施，または課題レポートの提出を課する。小テストおよび課題レポート（50%），期末テスト（50%）で成績評価を行う．ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	基礎運動学　第6版補訂
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 6,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21153-3
	書籍名	運動学実習（第3版）
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩（編集）
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体 3,400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21154-0
参考URL		
備考	運動学を履修していること。また，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。	

2015年度シラバス

臨床運動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM201
開講年度	2015年度
登録コード	A2007001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床運動学
科目責任者	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水1
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	臨床　運動障害　科学的根拠　分析　治療
授業のねらい・概要	運動学で習得した正常人の身体運動を科学的に観察し，考察する方法を踏まえて，障害を持つ人の身体運動の分析を行い，問題点の理解を客観的に行うことが出来るようにする。
学生の達成目標	１．動作の中での関節運動，筋活動の意味を説明できる。 ２．臨床での姿勢・動作分析を理解し，説明できる。 ３．異常歩行について説明できる。
授業内容	第1回　　臨床運動学の意義・目的，臨床における計測（目標１，２）

	第2回	関節運動と関節可動域（１）：関節の拘縮と強直（目標１）
	第3回	関節運動と関節可動域（２）：関節の機能的肢位，ＡＤＬと関節可動域（目標１）
	第4回	筋活動と筋張力（１）：筋線維のタイプ，運動単位の特徴（目標１）
	第5回	筋活動と筋張力（２）：筋収縮と張力，筋収縮の様態と筋張力，筋疲労（目標１）
	第6回	反射と反応（１）：反射運動の位置づけ，陽性徴候と陰性徴候（目標１，２）
	第7回	反射と反応（２）：筋緊張異常，姿勢反射（目標１，２）
	第8回	随意運動（１）：随意運動のメカニズム，運動制御（目標１，２）
	第9回	随意運動（２）：運動制御モデル（システム理論）と姿勢制御（目標１，２）
	第10回	姿勢・動作分析の基本的な考え方（１）：総論（目標２）
	第11回	姿勢・動作分析の基本的な考え方（２）：観察での動作分析と力学的解釈（目標２）
	第12回	身体運動の分析と方法（１）：肉眼による運動と姿勢・動作の分析（目標１，２）
	第13回	身体運動の分析と方法（２）：機器による運動と姿勢・動作の分析（目標１，２）
	第14回	異常歩行の見方（１）：骨関節疾患（目標３）
	第15回	異常歩行の見方（２）：中枢神経系疾患（目標３）
予習・復習の内容	予習	授業内容に応じて，運動学Ⅰ・Ⅱの内容を確認すること。
	復習	学習内容を理解し記憶すること。
	展開	疾患や障害を持つ人の身体運動の分析を通して問題点の理解を客観的に行い，各種疾患・障害に対する理学療法学に応用する。
成績評価	評価の基準	上記の「学生の達成目標」に到達し，臨床における運動学の意味を理解していること。
	評価の方法	期末試験，小テストおよびレポート作成を実施する。期末試験（80%），小テストおよびレポート（20%）で成績評価を行う。ただし，この比率は最終的に若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	臨床運動学
	著者名	中村隆一・齋藤宏・長崎浩
	出版社	医歯薬出版
	価格	本体7,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-21134-2
	書籍名	病態運動学（標準理学療法学 専門分野）
	著者名	星文彦／新小田幸一／臼田滋　編集
	出版社	医学書院
	価格	本体5,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-260-01630-8

参考URL	
備考	「運動学」を履修し，同科目を修得していることが望ましい。解剖学，解剖学実習，人体機能構造学演習，生理学および生理学実習の単位を修得していることが望ましく，修得できていない場合，この科目の修得は困難である。この科目はやや難解であるが，臨床における理学療法に欠かせない内容である。受講には十分な基礎力が必要である。

2015年度シラバス

臨床心理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM202
開講年度	2015年度
登録コード	A2008001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	臨床心理学
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月5
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎心理学の歴史，心理査定，心理面接，心理療法，心の健康障害
授業のねらい・概要	本講義ではまず臨床心理学の土台となる基礎心理学の歴史的推移を整理することで，臨床心理学の全体像を把握します。これを基に対人支援における心理査定と様々な心理検査法を整理し，心理面接の方法を学習することで臨床心理学的支援の基本を身につけていきます。さらに心の健康障害の基礎的知見を整理することで，医療現場における臨床心理学的支援についても理解できるようにします。
学生の達成目標	1. 心理査定の基本を理解し,様々な心理検査法について整理する。 2. 心理面接の基本を理解し,臨床心理学的支援の内容について整理する。

3. 心の健康障害ついて理解し,医療現場等で具体的な臨床心理学的支援について理解する。

授業内容	第1回	「心理学の歴史と基礎心理学」-構成主義心理学,精神分析,人間性心理学,行動主義心理学,認知心理学-(目標1, 2, 3)
	第2回	「心理学的研究と統計」-実験計画,統計的検定,多変量解析実験計画,テストの信頼性と妥当性-(目標1,3)
	第3回	「心理査定」-検査者の基本的態度,検査の標準化,心理査定の倫理,所見書の作成(目標1,3)
	第4回	「質問紙法」-YG性格検査,虚偽発見尺度, MMPI,エゴグラム,ビッグファイブ-(目標1,3)
	第5回	「投影法」-ロールシャッハテスト, P-Fスタディー, TAT,SCT,ソンディーテスト(目標1,3)
	第6回	「心理面接の基本」-受容,共感,自己一致,個別性,疾病性-(目標2,3)
	第7回	「臨床心理学的支援の基本的態度」-来談者中心療法,精神分析,中立性,転移,逆転移,ラポールの形成-(目標2,3)
	第8回	「精神分析と適応機制」-自由連想法,無意識,抑圧,自我の防衛,洞察(目標1,2,3)
	第9回	「行動療法と認知行動療法」-古典的条件付け,オペラント条件付け,不合理な信念,認知の歪み(目標1,2,3)
	第10回	「統合失調症とその治療」-陽性症状,陰性症状,薬物療法, SST,心理教育(目標1,2,3)
	第11回	「気分障害とその治療」-大うつ病,躁うつ病,認知療法-(目標1,2,3)
	第12回	「不安障害とその治療」-パニック障害,社会恐怖,強迫性障害,認知行動療法,森田療法(目標1,2,3)
	第13回	「パーソナリティー障害とその治療」-A群パーソナリティー障害, B群パーソナリティー障害, C群パーソナリティー障害,行動化,逆転移-(目標1,2,3)
	第14回	「トラウマ,内科的ケアを必要とする心の健康障害とその治療」-PTSD,乖離性障害,接触障害,心身症,身体表現性障害,内科的ケア,自助グループ-(目標1,2,3)
	第15回	「まとめ」-医療現場における臨床心理学的支援-(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	1年次に学んだ「障害者・高齢者の心理」の内容を整理しておく。
	復習	授業で学んだ臨床心理学の内容を確認しておく。
	展開	臨床心理学の知識を自身の精神的安定のため、また他者理解や他者支援のために役立てられるようになる。
成績評価	評価の基準	臨床心理学の基礎的知見が整理できており，さまざまな特徴を持つ支援者に対してどのような臨床心理学的支援を行うことがよいかについて，明確に答えることができるようになることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書		
	書籍名	医療心理学

著者名	佐藤泰正, 加藤元繁(編)
出版社	おうふう
価格	2500＋税
ISBN・ISSN	978-4-273-03688-1

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

人間発達学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM203
開講年度	2015年度
登録コード	A2009001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	人間発達学
科目責任者	安藤　則夫
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月5
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達理論，発達のメカニズム，発達段階，発達障害
授業のねらい・概要	１．人間の発達を進化論的，身体的，心理的，社会的側面など様々な面から考察し，発達に寄与する様々な要素の関連性を理解できるようにする。 ２．初期の認知的情緒的機能の発達を，脳の発達に関する知見を土台にして理解する。 ３．行動や思考の形成の道筋や心理的適応のメカニズムを理解することで，心の健全な成長のために必要な条件とは何かを学ぶ。

学生の達成目標

1.発達に関する諸理論を理解する。
2.発達段階の特徴と発達の道筋を理解する。
3.発達の途上で現れる困難を理解し,対処法について考えられる。

授業内容

第1回　発達の理論と発達段階の見方。主な発達理論を紹介し,比較検討する。(目標1,2)

第2回　発達の進化論的見方。進化心理学の立場から,人間の成長を把握する。(目標1)

第3回　脳の発達と行動の発達。脳の発達から行動の発達を理解し,発達の生理学的要因を理解する。(目標1)

第4回　意識の発達。意識が様態・変化を理解し,行動発達との関連を考察する。(目標2,3)

第5回　姿勢と運動の発達。乳幼児期の運動発達を理解し,重要な発達指標を把握する。(目標2)

第6回　情緒発達と人間関係の発達。乳幼児期の情緒がどのような筋道で発達するかを理解し,人間関係の発達との関連性を学ぶ。(目標2,3)

第7回　知覚・認知の発達。乳幼児期の知覚・認知の発達の筋道とメカニズムを学ぶ。(目標1,2,3)

第8回　愛着の発達。人格形成における愛着の重要性を理解し,愛着が育つための様々な要因について学ぶ。(目標1,2,3)

第9回　言語の発達。乳幼児期における言語の発達について理解し,言語発達のメカニズムを学ぶ。(目標2,3)

第10回　児童期の発達。児童期を取り巻く状況を理解しながら,認知,情緒,人間関係の発達を理解する。(目標1,2,3)

第11回　思春期の発達。第二次性徴が現れ内面的な世界が発達する思春期の不安定さを学ぶ。(目標2,3)

第12回　青年期の発達。社会に出ようとし,自己の在り方を探求する青年期の複雑さを学ぶ。(目標1,2,3)

第13回　中年期の発達。人生の曲がり角に立つ中年期の悩みや,責任を背負う充実感を学ぶ。(目標2,3)

第14回　老年期の心理。心身の衰えを感じ,今までの人生の意味づけを考える老年期の心理を学ぶ。(目標2,3)

第15回　発達障害を考える。乳幼児期を中心に,様々な発達障害とそれに対する対策を考える。(目標3)

予習・復習の内容

予習　発達に関する本を読む。

復習　重要な語句の意味や理論の内容を確認する。

展開　自分なりに、問題意識をもって本を読む。

成績評価

評価の基準　発達の理論や発達段階など基本的な概念を理解していること。発達の途上で現れる障害を理解し，対処法を考えられること。

評価の方法　授業中の質問への回答と課題の提出，期末試験の結果などから総合的に評価する。
質問への回答 30%，期末試験 70%。

教科書

書籍名　スクスク子育て：情緒発達から見た自閉症

著者名	安藤則夫
出版社	学苑社
価格	2 ,200＋税
ISBN・ISSN	978 -4-7614-0701-8

推薦図書等	
参考URL	
備考	重要な事項について，復習すること。

2015年度シラバス

病理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM209
開講年度	2015年度
登録コード	A2010001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病理学
科目責任者	山口　直人 馬場 健
授業形態	講義
開講時期	前期のみ・授業の回数が16回～30回
曜日・時限	水4, 5, 金4, 5
教室	（水曜日）講義室19 （金曜日）講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	病理形態学，病態生理学，炎症と免疫，循環障害，腫瘍
授業のねらい・概要	理学療法学の対象となる主要な疾病・病態について，生命医科学的根拠に基づいた評価と治療的介入を行う為に必要な病理学的知識と，その背景にある学問体系の概要を学習する。正常な生体制御・防御機構と，異常な病態との連続性，関連性を，形態および機能の観点から教授する。
学生の達成目標	１．理学療法学と関連の深い疾病の病因,病態に関して,臓器別,制御系別に形態・機能異常を理解する。 ２．医療現場で高頻度に遭遇しうる多臓器障害や,生命予後に関連する周辺領域

の病理病態への理解を深める。
３．患者の病態を全身的制御系との関連から理解する為に,臓器横断的な理解を深め,治療的介入法との関係を理解する。

授業内容	第1回	病理学の概要，病因論，退行性病変，変性，萎縮，壊死（目標１）
	第2回	代謝異常，蛋白質・アミノ酸代謝異常，脂質代謝異常，糖質代謝異常（目標１）
	第3回	進行性病変，再生，化生，肥大，過形成，創傷治癒，一次治癒と二次治癒（目標１）
	第4回	免疫，自然免疫，獲得免疫，抗体，アレルギー，自己免疫性疾患，膠原病（目標１）
	第5回	循環障害，血液循環，リンパ循環，高血圧，充血，うっ血，浮腫，虚血，出血，血栓症塞栓症，梗塞（目標１，２）
	第6回	移植，炎症，（目標１）
	第7回	腫瘍，良性腫瘍，悪性腫瘍，異型性，転移，進行度（目標１，２）
	第8回	放射線障害，発癌と放射線，放射線治療，老化，先天異常・奇形，遺伝因子（目標１）
	第9回	循環器：虚血性疾患，炎症性疾患，特発性心筋症，代謝障害，動脈疾患（目標１，２）
	第10回	呼吸器：上気道疾患，炎症，慢性閉塞性肺疾患（COPD，慢性気管支炎，肺気腫），塵肺，間質性肺炎，肺線維症，肺腫瘍，胸膜腫瘍（目標１，２）
	第11回	消化器，歯，口腔，咽頭：食道炎，胃潰瘍，十二指腸潰瘍，食道癌，胃癌，炎症性腸疾患，大腸癌，腹膜炎，肝炎，肝硬変，食道静脈瘤，肝臓癌，胆石，膵炎（目標１，２）
	第12回	神経系と運動器：脳血管障害，神経系感染症，脱髄性疾患，変性疾患，脳外傷，脳腫瘍，骨粗しょう症，骨の炎症，骨折，腫瘍性病変，関節変疾患，炎症疾患，筋疾患（目標１，２）
	第13回	泌尿・生殖器：腎炎，尿毒症，膀胱炎，尿路結石，腫瘍，前立腺肥大，卵巣疾患，子宮筋腫，子宮癌，妊娠と疾患，乳腺症，乳癌（目標１，２）
	第14回	内分泌臓器，視床下部・下垂体，甲状腺，副甲状腺，副腎：糖尿病（目標１，３）
	第15回	血液・造血器，骨髄，リンパ節：貧血，白血病，悪性リンパ腫，免疫不全症（目標１，３）
	第16回	皮膚・感覚器：湿疹，蕁麻疹，ウイルス性皮膚疾患，上皮性腫瘍，中耳炎，白内障，緑内障，網膜はく離（目標１，２）
予習・復習の内容	予習	教科書の図とその説明は目を通しておく。
	復習	配布プリントの内容を教科書で確認する。
	展開	理学療法が関わる健康障害について理解を深める。
成績評価	評価の基準	病理学の総論と各論について，理学療法士として必要な基本的知識と病態を理解している事。
	評価の方法	筆記試験（多肢選択問題および論述式問題）から判断する。但し，授業の進捗状況によっては，レポートをし，評価材料とする場合もある。

教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学 第３版」2009
	著者名	奈良勲他
	出版社	医学書院
	価格	4,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-260-00735-1
推薦図書等	書籍名	クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士　国家試験問題解説 2012 共通問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-398-6
参考URL		
備考	馬場　　健：総論担当／第1回～第8回（合計８回） 山口　直人：各論担当／第9回～第16回（合計８回）	

2015年度シラバス

一般臨床医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM204
開講年度	2015年度
登録コード	A2011001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	一般臨床医学
科目責任者	前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	救急医療、外科学総論、外科学各論、プライマリー・ケア
授業のねらい・概要	1分1秒を争う救急医療から、高度の専門知識を必要とする各論知識まで、主に外科系各科を中心に総説する
学生の達成目標	１．救急医療の基礎を理解する。 ２．外科学の基礎を理解する。 ３．プライマリー・ケアを理解する。
授業内容	第1回　医学の成り立ち、医学ではどんなことを学ぶのか 第2回　救命蘇生のABC、呼吸管理の仕方、中心静脈栄養法（目標１）

	第3回　ショックとは、DICについて、救急処置の仕方 （目標１） 第4回　外科学総論 1 （外的要因による障害）（目標2） 第5回　外科学総論 2 （内的要因による障害）（目標2） 第6回　脳神経外科学概論 （目標2） 第7回　皮膚疾患 （目標2） 第8回　泌尿器・生殖器疾患 （目標2） 第9回　婦人科・産科疾患 （目標2） 第10回　眼疾患 （目標2） 第11回　耳鼻咽喉科疾患 （目標2） 第12回　老年医学 （目標3） 第13回　プライマリー・ケア１ （病態と症状）（目標3） 第14回　プライマリー・ケア２ （基礎医学と再生医療）（目標3） 第15回　演習問題
予習・復習の内容	予習　まずは教科書を読んでみる。 復習　講義内容の中で不明点を次回までに明らかにする。 展開　臨床医学の基本を理解し、疾患への初期対応を学ぶ。
成績評価	評価の基準　内容が理解出来ること。 評価の方法　試験　100%
教科書	書籍名　「PT・OT・STのための一般臨床医学」 著者名　椿原彰夫・平岡崇　編著 出版社　医歯薬出版 価格　2,600円＋税 ISBN・ISSN　978-4-263-21982-4
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM205
開講年度	2015年度
登録コード	A2012001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	内科学
科目責任者	金井　正仁 前田　仁士
授業形態	講義
開講時期	通期
曜日・時限	（前期）木5 （後期）木2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	内科疾患，病態，診断と治療
授業のねらい・概要	呼吸循環器疾患のみならず他の内科疾患に対する幅広い知識は，理学療法を行う上で医療者としての「共通言語」として重要である。主要な内科疾患について，その病態，疫学，症候，診断，治療について概観し，理学療法を行う上での最低限の知識の獲得を目指す。（神経内科疾患については，神経内科学において，内科系疾患以外は一般臨床医学で述べる）

学生の達成目標

1．内科疾患の病態と症候学の理解
2．内科疾患の診断と治療に対する一般的知識の獲得
3．理学療法の対象となる内科疾患およびリスクとなりうる疾患の理解

授業内容

第1回　内科診断学－１（内科とは、病歴、POMR）（目標1,2,3)

第2回　内科診断学－２（主訴，一般症状と診察などについて理解する）（目標1,2,3)

第3回　内科症候学－３（呼吸・循環器症状一般症状の診かた・とらえ方）（目標1,2)

第4回　内科症候学－４（腹部症状などの診かた・とらえ方）（目標1,2,3)

第5回　臨床検査－１（臨床検査のとらえ方、末梢血液検査意味するものを理解する）（目標1,2,3)

第6回　臨床検査－２（出血凝固、生化学的検査など）（目標1,2,3)

第7回　臨床検査－３（血清、免疫学的検査）（目標1,2,3)

第8回　薬物療法－１（総論：内科と外科、クスリとは）（目標1,2,3)

第9回　薬物療法－２（抗炎症・鎮痛薬、抗菌剤・抗血栓剤など）（目標1,2,3)

第10回　薬物治療－３（高血圧・不整脈・狭心症など循環器系薬剤）（目標1,2,3)

第11回　薬物治療－４（消化器系薬剤、抗癌剤・高脂血症など代謝系の薬剤、抗テンカン剤）（目標1,2,3)

第12回　循環器疾患－１（心血管系の解剖生理，循環器症状，高血圧，心不全などについて）（目標1,2,3)

第13回　循環器疾患－２（心筋硬塞，先天性心疾患，不整脈などについて）（目標1,2,3)

第14回　呼吸器疾患-1(呼吸器の解剖生理,呼吸器症状,肺炎などの各種呼吸器感染症)(目標1,2,3)

第15回　呼吸器疾患-2(気管支喘息,閉塞性肺疾患,間質性肺炎,肺癌,気胸などについて)

第16回　呼吸器疾患-1(呼吸器の解剖生理,呼吸器症状,肺炎などの各種呼吸器感染症)(目標1,2,3)

第17回　呼吸器疾患-2(気管支喘息,閉塞性肺疾患,間質性肺炎,肺癌,気胸などについて)

第18回　消化管疾患(消化管の解剖生理,口腔,食道,胃・十二指腸,腸疾患などについて)(目標1,2,3)

第19回　肝・胆道・膵疾患(肝胆道系の解剖生理,検査,肝炎,肝硬変,胆石,膵癌など)(目標1,2,3)

第20回　内分泌・代謝性疾患-1(糖代謝障害,高脂血症,無機質・ビタミン欠乏など)(目標1,2,3)

第21回　内分泌・代謝性疾患-2(下垂体,甲状腺,副甲状腺,副腎機能 性機能)(目標1,2,3)

第22回　腎・泌尿器疾患-1(腎臓の解剖生理,病態生理,腎不全,腎炎など)(目標1,2,3)

第23回　腎・泌尿器疾患-2(妊娠中毒など,腎性高血圧,水と電解質異常など)(目標1,2,3)

第24回　膠原病,アレルギー疾患,免疫不全など(目標1,2,3)

第25回

		感染症(細菌感染症,好酸菌,ウイルスその他各種感染症を理解する)(目標1,2,3)
	第26回	中毒および環境要因による疾患(有機溶剤,農薬,薬剤,食中毒など)(目標1,2,3)
	第27回	内科疾患と神経症状(各種内科疾患で見られる神経症状について)(目標1,2,3)
	第28回	内科疾患と皮膚内科疾患(皮膚赤疾患の概観と内科疾患で遭遇する皮膚症状の知識をえる) (目標1,2,3)
	第29回	内科疾患と心身症その他(心身症とは?内科疾患には心身相関と関連するものが多いことを理解する)(目標1,2,3)
	第30回	後期のまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験（ 100%）による
教科書	書籍名	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学」
	著者名	前田眞治・上月正博・飯山準一　監修
	出版社	医学書院
	価格	6,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-260-01707-7
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

整形外科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM206
開講年度	2015年度
登録コード	A2013001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	整形外科学
科目責任者	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	通期
曜日・時限	木4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動器疾患，整形外科的診断，整形外科的治療，リハビリテーション
授業のねらい・概要	整形外科的な疾患について基礎的な知識を身につけ，臨床の場でも役立つ実用的な応用力の獲得を目指す。
学生の達成目標	１．整形外科的な診断および治療法について基礎的,総論的な知識を身につける。 ２．基礎的知識をもとに整形外科的な疾患の総論及び各論について学び,豊富で臨床的な知識を獲得する。 ３．外傷学(上下肢の脱臼・骨折,スポーツ障害・外傷など),リハについても十分な知識を身につける。

授業内容	第1回	基礎科学(1)骨の発生・構造,関節の構造および病態生理など(目標1)
	第2回	基礎科学(2)骨格筋の構造や病態生理,神経組織の構造と機能など(目標1)
	第3回	診断総論(1)運動器の基本的な評価法および診断について(目標1)
	第4回	診断総論(2)神経学的な評価法および整形外科的検査について(目標1)
	第5回	治療総論(1)保存療法について(目標1)
	第6回	治療総論(2)手術療法について(目標1)
	第7回	疾患総論(1)軟部組織・骨・関節の感染症について(目標2)
	第8回	疾患総論(2)関節リウマチとその類縁疾患について(目標2)
	第9回	疾患総論(3)慢性関節疾患・四肢循環障害疾患,特に骨端症について(目標2)
	第10回	疾患総論(4)先天性骨系統疾患・先天異常症候群について(目標2)
	第11回	疾患総論(5)代謝性骨疾患,特に骨粗しょう症などについて(目標2)
	第12回	疾患総論(6)骨腫瘍,軟部腫瘍について(目標2)
	第13回	疾患総論(7)神経疾患・筋疾患について(目標2)
	第14回	疾患各論(1)肩関節・肘関節について(目標2)
	第15回	疾患各論(2)手関節および手指について(目標2)
	第16回	疾患各論(3)頚椎について(目標2)
	第17回	疾患各論(4)胸椎・腰椎について(目標2)
	第18回	疾患各論(5)股関節について(目標2)
	第19回	疾患各論(6)膝関節について(目標2)
	第20回	疾患各論(7)膝関節について「老化は脚から-特に膝関節を中心に-」(目標2)
	第21回	疾患各論(8)足関節と足について(目標2)
	第22回	外傷総論 軟部組織損傷,骨折・脱臼の総論について(目標3)
	第23回	外傷各論(1)上肢の骨折・脱臼について(目標3)
	第24回	外傷各論(2)骨盤・下肢の骨折・脱臼について(目標3)
	第25回	外傷各論(3)脊椎・脊髄損傷について(目標3)
	第26回	外傷各論(4)末梢神経損傷について(目標3)
	第27回	外傷各論(5)スポーツ障害について(目標3)
	第28回	リハビリ(1)運動器疾患のリハビリテーションについて(目標3)
	第29回	リハビリ(2)四肢切断および補装具について(目標3)
	第30回	リハビリ(3)福祉用具の知識「セラピストに必要な福祉用具の知識について」(目標3)
予習・復習の内容	予習	「シラバス」は教科書の順序に即して作製してあるので，授業前に教科書を読んでくることが望ましい。
	復習	「授業」で配布する「資料」は，教科書及び多くの「資料」より作成してあるので，復習をしてほしい。
	展開	「授業の各項目」については，更に「国家試験」の参考書などで，「知識の確認、整理」をしてもらいたい。
成績評価	評価の基準	

		前・後期末に各50題ずつの「筆記試験」を行い，満点は100点として60点以上を合格とする。
	評価の方法	最高得点者の点数を100点として全員に加算し、「合否採点」を行い，加算後も60点以下を「不合格者」として，「課題」による「レポート」を提出させ，改めて「合否」の「判定」を行う。

教科書	書籍名	標準整形外科学　<第12版>
	著者名	総編集：松野丈夫/中村利孝 編集：馬場久敏/井樋栄二/吉川秀樹/津村弘
	出版社	医学書院
	価格	10,152円(本体 9,400円＋税8%)
	ISBN・ISSN	978-4260017879

推薦図書等	書籍名	クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説　2015共通問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-532-4
	書籍名	クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説　2015専門問題
	著者名	医療情報科学研究所／編集
	出版社	メディックメディア
	価格	4,500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89632-533-1

参考URL	
備考	上記「教科書」の価格は高価であるが，「整形外科」の参考本としても，一生に一冊あれば良い本である。

2015年度シラバス

神経内科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM207
開講年度	2015年度
登録コード	A2014001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	神経内科学
科目責任者	永田　博司
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月2, 3
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	神経症候学，高次脳機能障害，神経疾患
授業のねらい・概要	神経疾患がリハビリテーションの中で占める割合は大きい。一般的に神経症状は難解だと思われているが，神経解剖学と神経生理学の概略を理解すればその複雑さは氷解する。解剖と機能の面から神経症候学を概説し，神経疾患に対して親しみ興味を持って臨床の場に向かわせたい。
学生の達成目標	1.解剖・生理学と関連した神経症状の理解 2.神経系の画像診断の理解 3.神経症状を呈する各種疾患の理解

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 神経内科学序論(神経内科をとは何かを知る),意識障害(意識とは,意識障害とは?その機序を理解する)(目標1,2,3)
	第2回	症候学-脳神経障害,嚥下障害など(脳神経障害の症候学と解剖生理の理解),運動障害1:運動麻痺(運動麻痺の症候学,解剖生理を理解する)(目標1,2,3)
	第3回	症候学-運動障害2:運動失調(運動失調の症候学,解剖生理を理解する),運動障害3:錐体外路障害(パーキンソン症状などの症候学,解剖生理を理解する)(目標1,2,3)
	第4回	症候学-不随意運動,けいれんなど(各種不随意運動について理解する),筋萎縮,歩行障害(筋萎縮の機序,症候学について理解する)(目標1,2,3)
	第5回	症候学-感覚障害,疼痛(感覚障害のタイプ・病態,疼痛障害について理解する),めまい,失神,自律神経障害(病態,解剖生理の理解)(目標1,2,3)
	第6回	症候学-睡眠障害,精神症状,高次脳機能障害1(失語症などの病態の理解)(目標1,2,3,4)(目標1,2,3)
	第7回	症候学-高次脳機能障害2(失行認,その他の高次機能障害の病態の理解),神経学的補助検査－１（神経系の画像診断の概要について理解する）(目標1,2,3)
	第8回	神経学的補助検査－２（髄液検査その他について理解する,電気生理学的検査について理解する）(目標1,2,3)
	第9回	各論:各論:脳血管障害(分類,病態,治療について理解する),脳腫瘍,頭部外傷(分類と病態,治療)(目標1,2,3)
	第10回	各論:中枢神経感染症(髄膜炎ン脳炎その他について理解する),パーキンソン病とパーキンソン症候群(症候学,病態生理)(目標1,2,3)
	第11回	各論:認知症,てんかん(病態と治療),脊髄小脳変性症(分類,症候学,治療)目標1,2,3)
	第12回	各論:運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症その他の疾患の理解),脱髄性疾患(多発性硬化症などの病態生理)(目標1,2,3)
	第13回	各論:脊椎・脊髄疾患(分類,症候,治療などについての理解),末梢神経疾患(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3)
	第14回	各論:ミオパチー(分類,症候,治療などについての理解),自律神経疾患(分類,症候,治療などについて理解)(目標1,2,3)
	第15回	各論:先天異常・代謝性疾患(分類,症候,治療などについての理解),中毒性神経疾患その他(分類,症候,治療などについての理解)(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度（適宜行うミニテスト，前期・後期の試験による）
	評価の方法	試験(100%）による
教科書	書籍名	神経内科学テキスト

著者名	江藤文夫/飯島節
出版社	南江堂
価格	5,184円
ISBN・ISSN	978-4-524-26215-1

推薦図書等

参考URL

備考

2015年度シラバス

精神医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM208
開講年度	2015年度
登録コード	A2015001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	精神医学
科目責任者	荒木　均
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	4/11，4/18，4/25，5/2，5/9，5/16：1・2限 5/23：1～3限
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	精神保健，精神医学，精神科リハビリテーション，地域精神保健福祉
授業のねらい・概要	精神保健は，精神障害はもとより心の健康に至るまで幅広い概念である。この授業では，日本の精神保健福祉に関する社会制度や法規を説明する。またライフサイクルの視点からの精神保健について概説する。また精神障害については，各疾患の病態や治療を，身体，心理，社会の視点から説明する。さらにリハビリテーションの現場でよくみられる精神問題とその対応についても解説する。

学生の達成目標

1. 日本における精神保健福祉の歴史と現状を学習する。
2. 精神疾患の病態,治療とリハビリテーションについて理解する。
3. リハビリテーションにおける精神問題とその対応について理解する。

授業内容	第1回	こころの病気の原因は脳にあるのか（目標2）
	第2回	精神医学の歴史と治療法の変遷（目標１）
	第3回	気分障害その１（目標2）
	第4回	気分障害その２（目標2） 不安障害その１（目標2）
	第5回	不安障害その２（目標2）
	第6回	さまざまなこころの病気その１（統合失調症他）(目標2)
	第7回	さまざまなこころの病気その２（依存症）（目標2）
	第8回	さまざまなこころの病気その３（外傷後ストレス障害、でんかん他）（目標2）
	第9回	さまざまなこころの病気その４（摂食障害）（目標2）
	第10回	さまざまなこころの病気その５（発達障害）（目標2）
	第11回	ライフサイクルと精神保健[目標2）
	第12回	社会復帰と自立のために　その１（法律と制度と関係機関）（目標3）
	第13回	リハビリテーションにおける精神問題その１（認知症、高次脳機能障害他）（目標3）
	第14回	リハビリテーションにおける精神問題その２（脳卒中後うつ病，疼痛性障害，障害受容の概念（目標3）
	第15回	世界の精神医療とまとめ（目標1-3）
予習・復習の内容	予習	関連する教科書の項目を読んでおく
	復習	関連する動画を視聴する
	展開	精神科領域の病気に関する映画等を視聴する
成績評価	評価の基準	授業の内容に即した精神保健・精神医学の基本的な知識の理解を有すること。
	評価の方法	試験（択一式）80%，授業への取り組み20%とし，総合的に評価する。
教科書	書籍名	これならわかる精神医学
	著者名	上島国利（著）
	出版社	ナツメ社
	価格	1,994円（税込）
	ISBN・ISSN	ISBN：978-4816350849
推薦図書等	書籍名	我が国の精神保健福祉
	著者名	－
	出版社	太陽美術出版部
	価格	2，571円（税込）

ISBN・ISSN　9784870551237

参考URL	http://www.e-rapport.jp/index.html
備考	担当教員からのメッセージ 　この授業では，これから医療職を目指す者として精神障害はもとより心の健康に至るまで広い視点を持てるようになってほしいと思っています。わからないことは積極的に質問してください。

2015年度シラバス

小児科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM209
開講年度	2015年度
登録コード	A2016001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	小児科学
科目責任者	荒木　均
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金5
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	小児，成長発達，疾病
授業のねらい・概要	正常小児の成長発達と小児の疾病における特性を概説し，理学療法として小児の運動障害にも専門的に対応できる能力を習得する。
学生の達成目標	１．正常小児の成長発達を理解する。 ２．小児疾患の特性及び病態を理解する。 ３．重症心身障害児の特性と療育について理解する。
授業内容	第1回　Part 1 小児の評価（面接、診察、評価）（目標１） 第2回　Part 1 小児の評価（成長、検査結果）（目標１）

	第3回	Part 2 成長する子ども（栄養、保育と教育、健康増進）（目標１）
	第4回	Part 2 成長する子ども（予防接種、思春期、虐待）（目標１）
	第5回	Part 3 新生児（先天異常、スクリーニング、未熟児）（目標２）
	第6回	Part 3 新生児（新生児黄疸、先天性心疾患、年長児心雑音）（目標２）
	第7回	Part 4 よく見られる症状（成長と発達、気道、腹部）（目標２）
	第8回	Part 4 よく見られる症状（泌尿生殖器、神経筋、皮膚）（目標２）
	第9回	Part 5 小児の救急疾患（急性重症、心停止、乳児突然死（目標２）
	第10回	Part 5 小児の救急疾患（意識不明、けいれん、事故、熱傷、中毒（目標２）
	第11回	Part 6 小児の慢性疾患（気管支喘息、糖尿病、CF）（目標２）
	第12回	Part 6 小児の慢性疾患（関節炎、てんかん、小児悪性腫瘍）（目標２）
	第13回	Part 7 障害をもつ子ども（脳性まひ）（目標３）
	第14回	Part 7 障害をもつ子ども（知的障害、視覚・聴覚障害）（目標３）
	第15回	Part 8 症例検討とまとめ（目標２,３）
予習・復習の内容	予習	前回の理解度確認チェックシートの見直し。
	復習	理解度確認チェックシートの見直し。
	展開	関連する教材、資料等を調べる。
成績評価	評価の基準	授業の内容に即した小児科学の基本的な知識の理解を有すること。
	評価の方法	試験（択一式）80%，レポートを二回提出20%，二つを加味し総合的に評価する。
教科書	書籍名	一目でわかる小児科学第２版
	著者名	五十嵐隆（監訳）
	出版社	メディカル・サイエンス・インターナショナル
	価格	4,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89592-568-6 C 3047
推薦図書等		
参考URL		
備考	担当教員からのメッセージ この授業では，これから医療職を目指す者として小児科学について広い視点を持てるようになってほしいと思っています。	

2015年度シラバス

薬理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM212
開講年度	2015年度
登録コード	A2017001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	薬理学
科目責任者	西山　眞理子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水3
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	薬物の作用機序，薬物の臨床応用，薬物の副作用
授業のねらい・概要	薬物が生体に及ぼす作用およびその機序について学び，薬物療法の基盤となる知識を習得する。
学生の達成目標	1.薬物はどのようにして生体に作用をあらわすのか、基本的機序を理解する。 2.種々の疾患に用いられる代表的な薬物の作用・作用機序・副作用を知る。 3.薬物の使用に関する法的規制を知る。
授業内容	第1回　薬の主作用・副作用と薬理作用、受容体理論に関する基礎的知識（目標１）

	第2回	自律神経と薬物（交感神経作用薬・遮断薬）（目標１・２）
	第3回	自律神経と薬物（副交感神経作用薬・遮断薬）（目標１・２） 筋弛緩薬（目標１・２）
	第4回	心血管作用薬（高血圧・狭心症・心筋梗塞等の疾患に用いられる薬物）（目標１・２）
	第5回	鎮痛薬・局所麻酔薬・全身麻酔薬（痛みに対して用いられる薬物）（目標２）
	第6回	抗炎症薬（非ステロイドと副腎皮質ステロイド）・抗リウマチ薬（目標２）
	第7回	中枢神経作用薬（パーキンソン病・不眠・てんかんなどに用いられる薬物）（目標２）
	第8回	中枢神経作用薬（抗うつ薬・抗精神病薬物）（目標２） 薬物に関する法律（薬事法・麻薬および向精神薬取締法・覚醒剤取締法等）（目標３）
予習・復習の内容	予習	基本的な解剖学・生理学（正常なからだの構造と機能）を理解しておくこと。
	復習	毎回の講義内容をまとめること。理解すること。
	展開	疾患ごとにどのような治療薬が用いられるかを整理し、理解を深める。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた代表的薬物の作用・作用機序が理解できて、それを明確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	期末筆記試験１００％で評価する。
教科書	書籍名	シリーズ看護の基礎科学７　薬との関わり　臨床薬理学
	著者名	中谷晴昭　大橋京一／編
	出版社	日本看護協会出版会
	価格	3,200円
	ISBN・ISSN	978-4-8180-0661-4
推薦図書等		
参考URL		
備考	薬理学を充分理解するには、既習の解剖学・生理学・生化学等の基礎的知識が必要。	

2015年度シラバス

リハビリテーション概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC101
開講年度	2015年度
登録コード	A2018001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション概論
科目責任者	永原　久栄
担当教員	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	1回～7回：木曜日 5限目 8回～15回：木曜日 4限目
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リハビリテーションの理念，リハビリテーションの領域、チームアプローチ、関連法規
授業のねらい・概要	理学療法士を目指す学生が、リハビリテーションとは何かについて考えられることがねらいである。リハビリテーションをよく知り、リハビリテーションチームを担うために、その理念と歴史的背景、リハビリテーション対象者の疾患と障害、健康と予防、そして、関係法規やリハビリテーションの展開について理解できる。

学生の達成目標	１．リハビリテーションの概念、定義、障害を説明できる。 ２．医療、職業、社会、教育の緒領域のリハビリテーションについて説明できる。 ３．リハビリテーション過程に関与する、リハビリテーション専門職、および、関連法規・社会保障制度について説明できる。
授業内容	第1回　リハビリテーションとは?その理念と歴史的背景(目標1) 第2回　健康とは?病気とは?障害とは?その概念と構造(目標1) 第3回　リハビリテーション慢性疾患モデル(目標1) 第4回　人間活動と発達、ハビリテーション(目標1) 第5回　リハビリテーションと心理(目標1,2) 第6回　リハビリテーションの過程(発症から社会生活）（目標1,2) 第7回　医学的リハビリテーション(目標1,2) 第8回　職業・社会的リハビリテーション(目標2,3) 第9回　チーム医療(目標2,3) 第10回　リハビリテーション対象の主な疾病・障害(目標2,3) 第11回　社会保障、保健・医療制度(目標2,3) 第12回　社会保険制度(目標2,3) 第13回　社会福祉と公的扶助 (目標2,3) 第14回　介護保険制度(目標2,3) 第15回　まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　教科書の該当項目（章）の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。 復習　毎回のテーマの関連を考えながら、リハビリテーション全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。 展開　リハビリテーションと理学療法の関係について理解する。理学療法概論とリハビリテーション概論の双方を理解できる。
成績評価	評価の基準　達成目標への達成度（ミニテスト，本試験による） 評価の方法　本試験　８０%、ミニテスト・レポート２０% （本試験は，永原12，佐藤３の割合で出題する）
教科書	書籍名　入門リハビリテーション概論 著者名　中村隆一・佐直信彦編 出版社　医歯薬出版 価格　5800 ISBN・ISSN　978-4-263-21326-1
推薦図書等	書籍名　「医学生・コメディカルのためのリハビリテーション概論」 著者名　上好・土肥編 出版社　永井書店 価格　3000円 ISBN・ISSN　978-4-8159-1914-6

参考URL

備考

2015年度シラバス

リハビリテーション医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC201
開講年度	2015年度
登録コード	A2019001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	リハビリテーション医学
科目責任者	上原　朗
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医学的リハビリテーション，リハビリテーション診療，治療手技
授業のねらい・概要	リハ概論で俯瞰したリハビリテーションについてさらに知識を深め，並行して行われる神経内科学，内科学などの知識の上にリハビリテーション医学の考え方を重ね合わせ，医療全体の中でのリハビリテーションの意義を理解し、リハビリテーション全体のの中における理学療法の立場を確認してゆく。
学生の達成目標	1．障害の分類と評価について復習し,理解を深める。 2．リハビリテーション診療の実際について学ぶ。 3．具体的な疾患における各々の障害に対してどう介入してゆくのかを学ぶ。

授業内容	第1回	リハビリテーションと障害学(目標1,2,3)
	第2回	リハビリテーションとチーム医療(目標1,2,3)
	第3回	リハビリテーションと医療連携(目標1,2,3)
	第4回	リハビリテーション診療(目標1,2,3)
	第5回	リハビリテーション治療手技のあらまし(目標1,2,3)
	第6回	廃用症候群のリハビリテーション(目標1,2,3)
	第7回	褥創・排尿障害・性機能障害などのリハビリテーション(目標1,2,3)
	第8回	高次脳機能障害のリハビリテーション(目標1,2,3)
	第9回	疾患とリハビリテーション(脳卒中急性期)(目標1,2,3)
	第10回	疾患とリハビリテーション(脳卒中回復期・維持期)(目標1,2,3)
	第11回	疾患とリハビリテーション(頭部外傷と脊髄損傷)(目標1,2,3)
	第12回	疾患とリハビリテーション(呼吸器疾患)(目標1,2,3)
	第13回	疾患とリハビリテーション(心血管疾患)(目標1,2,3)
	第14回	障害者の社会活動と障害者スポーツ(目標1,2,3)
	第15回	リスク管理とまとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	教科書の該当項目の大まかな予習、どんなことを学ぶのか、わからないことは何かを、１つだけでも頭に置いて授業を受ける。
	復習	配布プリントの中から、キーワードを探し、それを基に全体のイメージを想起する。他の授業との関連を考えながら理解する。
	展開	解剖、生理その他の科目の内容を常に思い出しながら、知識を関連させ、理解を深めてゆく。
成績評価	評価の基準	達成目標への達成度
	評価の方法	試験（100%）による
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する (教科書はリハ概論と共通)	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

チーム医療演習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC102
開講年度	2015年度
登録コード	A2020001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	チーム医療演習
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火1, 2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	チーム医療，専門職の役割，連携，協働，ケアマネジメント
授業のねらい・概要	障害者，高齢者に対するリハビリテーション医療を行う上での，重要な専門職のチームワークについて学ぶ。チーム医療を構成する各専門職から，その専門職の役割と協働のスキルを学ぶ。後半は，事例のグループ討議を行い，チームとしての支援目標・支援計画を検討する。事例は，医療機関（急性期，回復期）のチーム医療事例，および，訪問サービス・通所サービス，障害者施設等でのケアチーム事例を用意する。多面的な事例検討を行うことで，チームを構成する一員としての基本的姿勢を考えるとともに，他の専門職と協働できる理学療法士像を考える。

学生の達成目標	1. リハビリテーションにおけるチーム医療の重要性を理解する。 2. チームとしての支援目標,および,チームを構成する各専門職の支援(治療)目標を理解する。 3. 医療,地域,福祉領域の連携の重要性を理解できる。
授業内容	第1回　チーム医療とは(目標1,2,3) 第2回　グループ討議(目標1,2,3) 第3回　看護師の仕事とチーム医療の役割(目標2,3,) 第4回　グループ討議(目標1,2,3) 第5回　医療ソーシャルワーカーの仕事とチーム医療における役割(目標2,3) 第6回　心理的問題を伴う事例の支援目標(目標2,3) 第7回　作業療法士の仕事とチーム医療における役割(目標2,3) 第8回　グループ討議: PT,OTの事例の支援目標(目標1,2,3) 第9回　言語聴覚士の仕事とチーム医療における役割(目標2,3) 第10回　グループ討議:言語障害事例の支援目標(目標1,2,3) 第11回　医療管理の仕事とチーム医療における役割(目標2,3) 第12回　グループ討議:リハビリテーション事例の支援目標(目標1,2,3) 第13回　グループ討議(目標1,2,3) 第14回　グループによるチーム医療演習発表会(目標1,2,3) 第15回　グループによるチーム医療演習発表会(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　チーム医療に関係する各職種について調べてくること 復習　事例検討・発表について整理しておく 展開　学外実習で出会う、多くの職種、患者さまとチーム医療を展開する
成績評価	評価の基準　授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。 評価の方法　参加の積極性の程度（ 30%），各講義の事前・事後レポート６回（ 30%），グループ討議６回（ 20%），全体発表会（ 20%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 植草学園大学チーム医療事例集配布
推薦図書等	書籍名　図説ケアチーム 著者名　野中猛 出版社　中央法規 価格　2000 ISBN・ISSN　978-4-8058-2947-9 書籍名　チームケア論 著者名　鷹野和美 出版社　ぱる出版 価格　2500

ISBN・ISSN	978-4-8272-0436-0

書籍名	チーム医療論
著者名	鷹野和美
出版社	医歯薬出版
価格	2000
ISBN・ISSN	978-4-263-23392-4

参考URL	
備考	後期前半７回（２コマ）　ゲストスピーカーの都合で予定を変更する場合があります

2015年度シラバス

社会福祉学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC103
開講年度	2015年度
登録コード	A2021001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	社会福祉学
科目責任者	宮下　裕一
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	金3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	社会福祉の理念，社会福祉制度，社会福祉専門職
授業のねらい・概要	現代の社会状況を理解する中から社会福祉とは何かを考えていく。社会福祉の行財政，関連諸施策との関係をおさえつつ社会福祉の主要な分野とサービスとの関連についての考察を加える。社会福祉専門職と非専門的社会福祉従事者について理解を深める。現代における社会福祉の課題についてとりあげる。
学生の達成目標	1．私たちの生活と社会福祉を関連づけて考えることができるようになる。 2．社会福祉のしくみの特質を理解し、説明できるようになる。 3．社会福祉の現状と課題について説明できるようになる。

授業内容	第1回	現代日本の特徴と社会福祉 (目標1)
	第2回	社会福祉とはなにか (目標1)
	第3回	社会福祉の歴史 (目標1,2)
	第4回	社会福祉と社会保障 (目標2)
	第5回	社会福祉援助の方法1（対人援助）（目標2)
	第6回	社会福祉援助の方法2 (地域支援)　（目標2）
	第7回	社会福祉の法と行財政（目標2）
	第8回	所得の保障と生活保護制度 (目標2,3)
	第9回	子ども家庭福祉1 (子ども家庭福祉の法律と実施体制) (目標2,3)
	第10回	子ども家庭福祉2 (児童虐待,ひとり親,女性への福祉的支援) (目標2,3)
	第11回	高齢者の生活と福祉(目標2,3)
	第12回	障害者の自立と福祉1（障害者福祉の理念と法体系）(目標2,3)
	第13回	障害者と自立と福祉2（障害者福祉の実際）(目標2,3)
	第14回	医療福祉（医療と社会福祉専門職）(目標2,3)
	第15回	社会福祉の今後の課題(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	授業後に次回までの課題を出すので、教科書等を用いてその内容を確認する。
	復習	授業の内容についてのノートや配布資料を用いて、その日の内容の理解を確実にする。
	展開	疑問点等について、他の文献等を用いてさらに理解を深める。
成績評価	評価の基準	現代社会と社会福祉制度の関連等について，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。社会福祉を支える理念を念頭に置きつつ，社会福祉の現状を知り，問題点や課題について指摘できることを合格基準とする。
	評価の方法	平常点（期間中に課す小レポートを含む） 30%，最終レポート 70%
教科書	書籍名	よくわかる社会福祉
	著者名	山縣文治他編
	出版社	ミネルヴァ書房
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	978 -4-623-05740-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

特別支援教育概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC104
開講年度	2015年度
登録コード	A2022001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	特別支援教育概論
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水4,5　※第4週は開講しない
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次・3年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要	不要
保育士：	不要	不要	不要
理学療法士：	選択	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害の概念，障害児教育の歴史と制度，特別な教育的ニーズ，ノーマライゼーション，教育と医療の連携
授業のねらい・概要	本講義では障害とは何かを理解することから始め，障害児（者）教育の歴史と制度，障害の種類と程度に応じた教育の基本的特性を学んでいきます。これにより特別支援教育といっても一人ひとりの障害児（者）の生活を守り，教育を施す必要性は障害の有無で変わらないことを理解し，医療学生として障害児（者）との望ましい関わりや，教育と医療の連携について考えられるようになることを目標とします。

学生の達成目標

1. 障害の概念について理解する。
2. 各障害の種類と程度に応じた教育支援の基本的特性について理解する。
3. 医療学生として障害児(者)への教育と医療の連携について理解する。

授業内容	第1回	「障害の概念」-障害の種類と程度,障害児(者)の能力障害児(者)をとりまく環境 (目標1,3)
	第2回	「特別支援教育の制度」-特殊教育から特別支援教育へ,分離教育と統合教育-(目標1,3)
	第3回	「感覚障害教育」-視覚障害児(者)の特性と教育支援,聴覚障害児(者)の特性と教育支援 (目標1,2,3)
	第4回	「知的・発達障害教育1」-知的障害児(者)・重度知的障害児(者)・重複障害児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第5回	「知的・発達障害教育2」-低機能自閉症児(者)・高機能自閉症児(者)・学習障害・注意欠陥/多動障害児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第6回	「運動障害,病虚弱教育」-運動障害児(者)の特性と教育支援,病虚弱児(者)の特性と教育支援-(目標1,2,3)
	第7回	「言語障害,情緒障害教育」-言語障害児(者)の特性と治療教育,情緒障害児(者)の特性と治療教育- (目標1,2,3)
	第8回	「まとめ」-障害児(者)の家族への支援,特別支援教育の今後の展望,教育と医療の連携(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	様々な情報メディアの発信する障害児(者)に関する知識をある程度整理しておく。
	復習	授業で学んだ障害児(者)や特別支援教育の内容について確認しておく。
	展開	理学療法学の視点から特別支援教育との連携や関連性について主体的に考えられるようになる。
成績評価	評価の基準	特別支援教育について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害児（者）援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	書籍名	特別支援教育概説
	著者名	佐藤泰正（編）
	出版社	学芸図書
	価格	2200円＋税
	ISBN・ISSN	9784761603946
推薦図書等		
参考URL		
備考		教科書購入については，授業初回時に指示します。

2015年度シラバス

障害者・高齢者の福祉

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC105
開講年度	2015年度
登録コード	A2023001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の福祉
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害者，高齢者，社会福祉，ノーマライゼーション，関連法規
授業のねらい・概要	本講義では障害者・高齢者が社会の中でより良く生きるには何が必要かという社会福祉の目的概念から始め，社会福祉の実態概念として各種関連法規の内容についても学んでいきます。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活をしていると実感できるには何が必要かを理解していきます。また障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割についても考えていきます。
学生の達成目標	1. 障害者・高齢者の福祉の歴的的変遷を知り,最近の動向について理解を深める。 2. 社会福祉関連法規の内容を理解し,その問題点を指摘できる。

	3. 障害者・高齢者の社会福祉を向上させるための医療の役割について述べることができる。
授業内容	第1回　「障害者・高齢者の福祉の歴史的変遷と最近の動向」-社会からの迫害,相互扶助,ノーマライゼーション,福祉サービスの確立-(目標1,2,3) 第2回　「障害者・高齢者の地域社会での生活実態」-身体・個人・社会の3つの視点による障害の概念,当事者の意見-(目標1,2,3) 第3回　「障害者・高齢者のための社会保障」-社会保険,公的扶助,社会福祉,公衆衛生および医療-(目標1,2,3) 第4回　「社会保険サービス」-医療保険,年金保険,雇用保険,介護保険-(目標1,2,3) 第5回　「障害者福祉の関連法規」-児童福祉法,身体障害者福祉法,知的障害者福祉法,精神保健福祉法-(目標1,2) 第6回　「高齢者保健・医療・福祉の関連法規」-老人保健法,老人福祉法,後期高齢者医療制度-(目標1,2,3) 第7回　「障害者自立支援制度の内容と問題点」-自立支援給付,地域生活支援事業,障害者の意見-(目標1,2,3) 第8回　「まとめ」-障害者・高齢者の福祉の今後の課題について-(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　「障害者・高齢者の心理」と「特別支援教育概論」で学んだ障害の概念について整理しておく。 復習　授業で学んだ内容について確認しておく。 展開　地域リハビリテーションの視点の中に障害者・高齢者の福祉の内容を位置づけられるようになる。
成績評価	評価の基準　障害者・高齢者の福祉について授業で取り上げる内容が理解できていること，障害者・高齢者福祉の向上について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。 評価の方法　テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 授業時に資料を配布します。
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

障害者・高齢者の心理

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC106
開講年度	2015年度
登録コード	A2024001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	障害者・高齢者の心理
科目責任者	佐藤　将朗
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	月3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次・2年次

免許・資格との関係

	1年次	2年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	障害・加齢の心理的影響，発達的視点，福祉的視点，臨床心理的視点，量的検討及び質的検討
授業のねらい・概要	本講義では医療学生の立場から，障害や加齢といった現象が人間の行動や心の働きに与える影響について，その基礎的知見を整理します。これにより障害者や高齢者が健康的で文化的な生活を送れているという実感が持てるための関わりや具体的な支援について，学生自らが考えられるようになることを目標とします。
学生の達成目標	1. 障害や加齢の心理的影響について理解できるようになる。 2. 発達的視点から障害者や高齢者の心理的問題について理解できるようにな

る。
3. 医療現場で必要となる障害者・高齢者への臨床心理学的視点を理解する。

授業内容	第1回	「障害者・高齢者の心理を理解するために」-障害・加齢の概念および障害者・高齢者の心をとりまく今日の状況-(目標1,2,3)
	第2回	「視覚障害・聴覚障害者の心理」-視覚障害・聴覚障害の心理的影響とその特性-(目標1,2,3)
	第3回	「肢体不自由者・内部障害者の心理」-肢体不自由・内部障害の心理的影響とその特性-(目標1,2,3)
	第4回	「精神障害の心理」-心の健康障害と知的障害の関連性,支援の臨床心理学的視点-(目標1,2,3)
	第5回	「高齢者の感覚・知覚,知的能力」-その特性と精神面・幸福度への影響,知能の定義,流動性知能と結晶性知能-(目標1,2,3)
	第6回	「高齢者の精神衛生と認知症」-その特性と精神障害との関連性,認知症高齢者の問題行動の原因,心理・社会的欲求-(目標1,2,3)
	第7回	「障害者・高齢者に対する心理的援助」-精神分析法,回想法,リアリティーオリエンテーション,行動療法,バリデーション-(目標1,2,3)
	第8回	「まとめ」-障害者・高齢者の心理の今後の課題について-(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	「特別支援教育概論」で学んだ障害の概念について整理しておく。またメディアの発信する高齢者に関する知識についても整理しておく。
	復習	授業で学んだ内容を正確に整理しておく。
	展開	障害者や高齢者への心理学的支援と理学療法の関連性について理解できるようになる。
成績評価	評価の基準	障害者・高齢者の心理について授業で取り上げる基礎的知見が理解できていること，障害者・高齢者援助の視点について自身の考えが明確に述べられることを合格の基準とする。
	評価の方法	テストの成績（ 80%），課題提出状況および内容（ 10%），授業への参加意欲・態度（ 10%）とする。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
	書籍名	高齢者・障害者の心理
	著者名	佐藤泰正, 徳田克己
	出版社	学芸図書
	価格	2,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7616-0368-2
推薦図書等		
参考URL		
備考	教科書購入については，授業初回時に指示します。	

2015年度シラバス

生命倫理学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM213
開講年度	2015年度
登録コード	A2025001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生命倫理学
科目責任者	馬場　智理
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火2
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生命をめぐる倫理，善いことの基準とは？，医療と倫理
授業のねらい・概要	現代の医療従事者は、社会の倫理にしたがって活動することが求められる。本授業では，生命や医療の倫理に関する基礎的な知識を獲得するとともに、医療現場における具体的な問題への理解を深めることを目的とする。
学生の達成目標	1.善いことを判断するためのさまざまな基準について学ぶ。 2.現代社会における生命倫理の問題に対する理解を深める。 3.医療現場で倫理的問題に直面した場合の対応方法を身につける。
授業内容	第1回　　ガイダンス-生命倫理学とはどのような学問か(目標1)

	第2回	生をめぐる生命倫理-出生前診断(目標2)
	第3回	生をめぐる生命倫理-生殖補助医療(目標2)
	第4回	生をめぐる生命倫理-生命操作(目標2)
	第5回	医療をめぐる生命倫理-医療従事者と患者の関係(目標3)
	第6回	死をめぐる生命倫理-脳死(目標2)
	第7回	死をめぐる生命倫理-尊厳死,安楽死(目標2)
	第8回	まとめ-現代の医療現場における倫理的問題への対応(目標3)
予習・復習の内容	予習	毎回，生命倫理学における基本事項を用いて説明するので，前回配布したプリント等で，その内容を確認しておく。
	復習	授業でとりあげた倫理学的問題について，まわりの人たちと話し合ってみた上で，自分なりの答えを出してみる。
	展開	専門技術を習得する際も、倫理という観点を意識して行うこと。
成績評価	評価の基準	授業への参加状況と期末試験の成績を総合的に評価する。なお，期末試験はレポートに代える場合がある。（なお，私語等の素行不良が見られた場合は，評価しないので注意のこと。）
	評価の方法	評価の方法 ：発言等の授業への参加態度50%，期末試験50%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	倫理学の問題をより身近なものとして考えてもらうために，授業中の発言や小問題の記述などを課すことがあるので，主体的に授業に参加することを期待する。	

2015年度シラバス

作業療法学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC107
開講年度	2015年度
登録コード	A2026001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	作業療法学概論
科目責任者	白石　英樹
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金1, 2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	作業療法紹介，作業療法とは？歴史的背景，作業療法の現状，理論，領域別，病期別，圏域別，自助具
授業のねらい・概要	チーム医療を行う際に，他職種（ＯＴ，ＮＳ，ＳＴなど）の仕事内容を理解しすることは重要である．作業療法について概観し，作業療法のアウトラインを理解することを目標とし，自身の理学療法との協業について考えてみる。
学生の達成目標	1.作業療法の職種内容と理論が理解できる。 2.作業療法の領域別・病気別・圏域別の介入が理解できる。 3.作業療法で用いる道具(自助具）と理学療法と作業療法の協業・役割について理解できる。

授業内容	第1回	作業療法の紹介（目標1） 作業療法の概観について講義します。
	第2回	作業療法の紹介（目標1） 作業療法の概観について講義します。
	第3回	作業療法とは？・リハビリテーションと作業療法の歴史（目標1） 作業療法の治療的介入の考え方及びリハビリテーション・作業療法（日本・世界）の歴史的背景について講義します。
	第4回	作業療法とは？・リハビリテーションと作業療法の歴史（目標1） 作業療法の治療的介入の考え方及びリハビリテーション・作業療法（日本・世界）の歴史的背景について講義します。
	第5回	作業療法の現状(目標1) 日本の作業療法の現状についての講義します。
	第6回	作業療法の現状(目標1) 日本の作業療法の現状についての講義します。
	第7回	作業療法の理論(目標1) 作業療法で用いている介入・治療の理論的背景について講義します。
	第8回	作業療法の理論(目標2) 作業療法で用いている介入・治療の理論的背景について講義します。
	第9回	領域別の作業療法（医療・福祉・就労支援・その他の領域）(目標2) 作業療法において介入する各領域について講義します。
	第10回	領域別の作業療法（医療・福祉・就労支援・その他の領域）(目標2) 作業療法において介入する各領域について講義します。
	第11回	病期別（急性期・回復期・維持期・終末期）・圏域別（医療・福祉・介護・教育）の作業療法（目標2） 作業療法における各病期ごとの介入について講義します。
	第12回	病期別（急性期・回復期・維持期・終末期）・圏域別（医療・福祉・介護・教育）の作業療法（目標2） 作業療法における各病期ごとの介入について講義します。
	第13回	自助具の紹介と使用について（目標3） 作業療法で作製・使用する自助具について実際に使用する演習を行います。
	第14回	自助具の紹介と使用について（目標3） 作業療法で作製・使用する自助具について実際に使用する演習を行います。
	第15回	理学療法の歴史と役割，作業療法との協業についてのプレゼンテーション(目標3) 学生さんによる理学療法の歴史や役割・多職種との協業のあり方についてプレゼン(発表）をしてもらいます。
予習・復習の内容	予習	最終回である第15回に行われる授業において，理学療法に関する歴史的背景や役割・多職種との協業について，プレゼンテーション発表を行っていただきますので，資料取集な予習による準備をしてください。
	復習	毎回の授業内容について整理し，「質問」や「更に聞きたいこと」をまとめておくこと。
	展開	

		作業療法のみならず，臨床で行われているチーム医療に関わっている専門職種について調べ，チーム医療とはどのようなものか理解を深める。
成績評価	評価の基準	作業療法の歴史的背景や理論，各領域や病期別介入について理解し，説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	出席・授業態度（意欲）等（20%），授業のまとめレポート（40%），プレゼンテーション発表（40%）
教科書	書籍名	作業療法学全書改訂第3版　第1巻　作業療法概論
	著者名	日本作業療法士協会　監修
	出版社	共同医書出版社
	価格	3,400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7639-2118-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		他職種を理解することは，臨床現場におけるチーム医療のなかで，自分（理学療法）の役割についても明確にでき，また他職種との連携や協業ができるようになります．そのためにも，他職種の一つである作業療法について理解することは必要なことだと思います．積極的な意見や質問により作業療法をさらに知っていただければと思います。

2015年度シラバス

言語聴覚学概論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC108
開講年度	2015年度
登録コード	A2027001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	言語聴覚学概論
科目責任者	中山　剛志
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水3, 4
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	言語聴覚障害，言語聴覚療法，失語症，発声発語障害，摂食嚥下障害
授業のねらい・概要	理学療法士として知っているべき，言語聴覚療法の基礎的な知識と技能，言語聴覚障害（特に失語症）患者への対応の仕方を身につける。
学生の達成目標	１．言語聴覚障害の種類とそれらに対する言語聴覚士の業務を説明できる。 ２．理学療法士が知るべき失語症，発声発語障害，摂食嚥下障害に関する基礎的な知識と評価・訓練技能について説明できる。 ３．失語症患者とのコミュニケーション方法について説明できる。
授業内容	第1回　　オリエンテーション，臨床能力について(目標1)

	第2回	私の臨床現場の紹介(目標1)
	第3回	言語聴覚士の業務（１）言語聴覚障害の特性，言語聴覚士と科学（目標１）
	第4回	言語聴覚士の業務（２）言語聴覚士法（目標１）
	第5回	言語聴覚士の業務（３）言語聴覚士とチーム医療（目標１）
	第6回	言語聴覚障害の種類（１）小児の言語聴覚障害（目標１，２）
	第7回	言語聴覚障害の種類（２）成人の言語聴覚障害（目標１，２）
	第8回	失語症・高次脳機能障害（１）基礎知識（目標２，３）
	第9回	失語症・高次脳機能障害（２）失語症患者とのコミュニケーション法の演習（目標２，３）
	第10回	発声発語障害（音声障害，構音障害）（１）基礎知識（目標２）
	第11回	発声発語障害（音声障害，構音障害）（２）聴覚的評価の演習（目標２）
	第12回	摂食嚥下障害（１）基礎知識（目標２）
	第13回	摂食嚥下障害（２）嚥下造影解析の演習（目標２）
	第14回	総まとめ（１）全般的な補足説明（目標１，２，３）
	第15回	総まとめ（２）試験について（目標１，２，３）
予習・復習の内容	予習	教科書を含めた言語聴覚障害に関する文献等に目を通しておく。
	復習	講義で説明したことの要旨を関連科目の知識と合わせてノートにまとめること。
	展開	講義を通じて，理学療法士になる上で言語聴覚障害や言語聴覚士に関する正しい知識の理解を深める。
成績評価	評価の基準	臨床家になる上で相応しい態度が備わっていること。理学療法士になる上で言語聴覚療法に関する最低限の知識を有していること。大学生としての文章作成能力があること。
	評価の方法	受講態度３０%，試験７０%（うち知識４０%、文章能力３０%）
教科書	書籍名	第２巻成人のコミュニケーション障害
	著者名	笹沼澄子　監修，伊藤元信　編
	出版社	大修館書店
	価格	本体1,900円＋税
	ISBN・ISSN	(10/13桁)4-469-21221-0/978-4-469-21221-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

救命救急医学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM211
開講年度	2015年度
登録コード	A2028001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	救命救急医学
科目責任者	武島　玲子
担当教員	大賀　優
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	（武島）4/28　5限目 5/26　4,5限目 7/21　5限目 （大賀）6/9　4,5限目 6/23　4,5限目
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	心肺蘇生法，AED，救急処置，集中治療，急性期リハビリテーション
授業のねらい・概要	救急医療を理解し，一次救命処置（AED含む）ができる。救急医療におけるリハビリテーション医学の役割を理解する。

学生の達成目標	1.救急医療を理解し，一次救命処置(AED含む)ができる。 2.ショックとは何か理解し，救急処置が理解できる。 3.救急医療と重症救急疾患の特性をリハビリテーション医学的観点から捉えることができ，急性期リハビリテーションの重要性が理解できる。
授業内容	第1回　救急医療の概論(到達目標1) 第2回　心肺蘇生法と AED(到達目標1) 第3回　重症救急疾患と患者管理(集中治療,救急処置,ショックなど)(到達目標1,2) 第4回　リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論1(到達目標3) 第5回　リハビリテーション医学から観た救急医療と重症救急疾患:概論2(到達目標3) 第6回　救急医療の対象としての中枢神経疾患の種類と病態(到達目標3) 第7回　中枢神経疾患を主とした重症救急疾患における急性期リハビリテーションの実際(到達目標3) 第8回　総括(到達目標1～3)
予習・復習の内容	予習　救命救急医療について関心を持ち、関連する図書を読み、関連する報道について理解しておくこと。 授業内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。 復習　毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 展開　救命救急医療に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　救命・救急医学に関して，授業でとりあげた基礎的な内容が理解できていること 評価の方法　試験 80%，授業への参加態度 20%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	
参考URL	
備考	授業は主に講義形式で行うが，一時救命法は，ＤＶＤを視聴しながら蘇生人形を使用し，心臓マッサージ・人工呼吸・ＡＥＤの使用を実際に行う。 医療従事者として，緊急事態を理解し，心肺蘇生法を自分一人でできるようになってほしい（武島，分担：授業計画１～３，８）。 急性期リハビリテーションの重要性を理解する一助になってほしい（大賀，分担：授業計画４～７）。

2015年度シラバス

栄養学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM214
開講年度	2015年度
登録コード	A2029001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	栄養学
科目責任者	梅村　詩子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	土3,4 日程：5/30，6/13，6/27，7/11
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	人体，食物，栄養素，疾病の予防，ライフステージ，栄養管理
授業のねらい・概要	食物を取り込む側の「人体」や「食品」「栄養素」の知識はもとより，保健，医療，福祉の総合的な取り組みの中で，ライフステージ別に「健康の保持・増進」と疾病、特に生活習慣病予防の栄養アセスメントや栄養管理について学習する。
学生の達成目標	1.食べ物の消化吸収を中心に、人体の仕組みや代謝を理解する。 2.食品の分類,食品に含まれる栄養素について理解する。また栄養素の機能、栄養学的意義などを理解する。

	3.各ライフステージの生理的特徴・栄養を知り,健康の保持増進,疾病予防に必要な栄養管理を理解する。
授業内容	第1回　食物と栄養素、人体の構成成分、消化吸収について(目標1) 第2回　食品と栄養(目標2) 第3回　栄養素の役割と多く含む食品(炭水化物、脂質）（目標2) 第4回　栄養素の役割と多く含む食品(たんぱく質、ビタミン)(目標2) 第5回　栄養素の役割と多く含む食品(ミネラル)(目標2) 第6回　ライフステージ別の特徴と栄養管理(学童期～思春期)(目標3) 第7回　ライフステージ別の特徴と栄養管理(成人期～高齢期)(目標3) 第8回　生活習慣病について（目標3)、国民の健康と栄養の現状(目標3)
予習・復習の内容	予習　教科書の中の"内容"のページに，あらかじめ目を通し、その日の授業はどの様な"内容"か，概略を理解しておくとよいと思います。 復習　授業の中でわからなかったり，理解できなかったキーワードは教科書を読んでください。また次週に質問してください。 展開　授業に参加して、リハビリテーションやNSTの栄養管理の知識、理解につなげてください。
成績評価	評価の基準　基礎的な栄養・食事・食品の知識や各ライフステージの特徴が理解できていること。 評価の方法　筆記試験（100%）で評価します。
教科書	書籍名　保健・医療・福祉のための栄養学 著者名　渡邊早苗，寺本房子，丸山千寿子，藤尾ミツ子編 出版社　医歯薬出版KK 価格　2,400＋税 ISBN・ISSN　978-4-263-70459-2　C3047
推薦図書等	書籍名　PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養－栄養ケアがリハを変える 著者名　若林秀隆著 出版社　医歯薬出版KK 価格　3,240円 ISBN・ISSN　978-4-263-21862-4　C3047
参考URL	
備考	担当教員から：自己の健康管理や将来のNSTの仕事にも役立つ様に、栄養や食品の基本をしっかり学んでください。

2015年度シラバス

公衆衛生学・衛生学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM212
開講年度	2015年度
登録コード	A2030001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	公衆衛生学・衛生学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火2
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	公衆衛生と集団の医学,1次・2次・3次予防，疫学・保健統計，環境，疾病予防と保健行政
授業のねらい・概要	公衆衛生学の概念，方法論の基礎を学ぶ。1次予防，2次予防および3次予防の理論に基づき，環境諸要因が健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め，集団としての疾病予防や健康増進へのアプローチ等，保健・医療に関する知識を習得する。公衆衛生実践活動を学び，人々の健康を守るための組織，機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
学生の達成目標	1.公衆衛生の概念,意義を学び,公衆衛生活動の概略を説明, 1次・2次・3次予防の概念,保健統計,疫学的方法論を会得る。

2.人間を取り巻く環境の健康影響・保全・対策等について説明し,疾病予防と健康管理について,感染症を含む主疾病の予防について説明する。さらに食品保健,国民栄養・健康増進,地域保健,精神保健,保健行政,医療関連法規等を説明する。
3.ライフサイクルと健康管理,母子保健,学校保健,成人・老人保健,産業保健,国際保健について説明する.また,災害時や社会病理を学び、社会の真の健康に対して理解し説明する。

授業内容

第1回　公衆衛生学の概念【歴史,疾病の進展と予防の段階】(目標1)

第2回　公衆衛生活動の特徴【プライマリヘルスケア,ヘルスプロモーションの展開】(目標1,2)

第3回　人口統計【人口動態,死亡統計,統計指標】(目標1)

第4回　疫学の考え方と事例【疾病解明の方法論】(目標1)
（角友起）

第5回　物理・化学的環境【大気,上水・下水,水質汚濁と健康】 環境保全と公害【環境保全】 (目標2)

第6回　生物学的環境と健康【微生物,有害動物】 生活環境衛生【住居,衣服,廃棄物等】 (目標2)

第7回　社会的環境と健康【労働環境,労働災害】 産業保健【産業保健,職業病】(目標2,3)

第8回　感染症とその対策【感染症の成立,感染症予防法,結核・感染症情報事業】(目標2,3)

第9回　食品保健【食品衛生法,食中毒,食品,添加物】 国民栄養【食事摂取基準,国民栄養調査】 (目標2)

第10回　ライフサイクルと健康【母子保健,学校保健,健康教育,健康増進】(目標2,3)

第11回　ライフサイクルと健康【成人保健,老人保健,生活習慣病の予防】(目標3)

第12回　精神保健,法と医【精神保健,精神障害,精神保健対策,社会病理と対策,異状死等】 (目標2,3)

第13回　保健行政【保健行政】 保健行政関連法規【関連法規】(目標2)

第14回　国際保健,緊急時の救援医療【災害医療,救援医療】(目標3)

第15回　まとめ,個人あるいはグループ発表と総括(目標1～3)

予習・復習の内容

予習　1.前日までに,各回ごとの用語を確認し,テキスト参考書などで事前の知識を得る。
2. テキストは理解しやすいので、該当部分を読んでおくこと。

復習　1. テキストおよびプリントで授業内容を確認復習しておくこと。
2.特定の用語について確認しておくこと。

展開　1.公衆衛生学関係法規は多岐にわたり、集団の医学を会得するためには広範な知識と深い思考の上に成り立つことに鑑み、リハビリテーションを専攻、従事するために、どのように公衆衛生活動を展開するか実践することと結びつけて行く。

成績評価

評価の基準　公衆衛生学・衛生学の概念，我が国における問題点および問題解決に繋がる方法論の基礎が理解できているか，さらに地域における疾病予防，保健活動，予防医学，健康増進，健康な社会に対する考え方が医療職を目指すものとして明確にできているかを評価の基準とする。

評価の方法　筆記試験（80%），積極的参加度（5%），レポート等（15%）による。

教科書	書籍名	シンプル衛生公衆衛生学2015
	著者名	鈴木庄亮ら
	出版社	南江堂
	価格	2400円+税
	ISBN・ISSN	9784524253586
推薦図書等	書籍名	公衆衛生マニュアル2014
	著者名	柳川　洋　ら
	出版社	南山堂
	価格	5500円+税
	ISBN・ISSN	978-4-525-18739-2
	書籍名	やさしい疫学－疫学への招待－　改訂　版
	著者名	日本疫学会
	出版社	南江堂
	価格	2000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-524-26086-7

参考URL

備考

医療職にとってリハビリテーションの専門性を身につける上で大切な公衆衛生学について，広く予防医学の基礎を理解し，医療職のあり方について学び，理解を深めます。広い学問分野ですから，予習復習に心がけてください。オフィスアワーについては連絡してください。

2015年度シラバス

病原微生物学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM210
開講年度	2015年度
登録コード	A2031001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	病原微生物学
科目責任者	小池　和子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	火3
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	必修	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	細菌，真菌，ウイルス，感染と発症，感染防御と免疫，
授業のねらい・概要	病原微生物の総論と各論を学習し，感染，疾病の発症と生体反応，化学療法，感染予防対策、わが国における感染症法について，医療職として必要な基本的知識や手技を身につける。また，免疫の概念，生体防御機構における免疫反応の多様性及び主要免疫や一部のがん治療についても理解し説明する。
学生の達成目標	1.主たる病原微生物の概念,感染・発症,さらに生体と病原微 生物の相互関係を理解する。 病原微生物の総論と各論を学習し,感染,発症,治療について理解する。 2.新興感染症や再興感染症,院内感染や日和見感染等の概念を理解し,感染に対する医療職の役割および感染と予防対策に関する理論と実際を学ぶ。感染症にかか

わるわが国の法律,行政を理解し,説明,応用できる。
3.生体防御機構としての免疫の概念,役割とその機構を解説する。
体液性免疫,細胞性免疫 ,免疫反応による感染防御や移植免疫,腫瘍免疫とがん治療について理解する。

授業内容

第1回　病原微生物の定義,歴史,種類と分類【細菌,ウイルス,真菌,原虫】 形態と構造【原核生物,真核生物,球菌,桿菌,芽胞,ベン毛,核 ,プラスミド】 微生物の【グラム染色,同定,命名】(目標1,2)

第2回　微生物の増殖 微生物の生理学【培養, pH,酸素,増殖曲線】 微生物の培養と保存【好気,嫌気,微好気,二酸化炭素,発酵,培地,凍結乾燥】(目標1)

第3回　微生物の代謝 微生物の生化学【糖・脂質代謝,代謝回路】 微生物の遺伝【病原性ゲノム】 (目標1)

第4回　感染防御機構と宿主【宿主生体反応】(目標1,2,3)

第5回　微生物の滅菌と殺菌,消毒,病原細菌【グラム陽性球・桿菌,グラム陰性球・桿菌,腸内細菌,スピロヘータ】(目標1,2)

第6回　病原細菌【嫌気性菌,抗酸菌,芽胞菌,マイコプラズマ,クラミジア,リケッチア】(目標1)

第7回　病原真菌【表在性真菌,深在性真菌】(小纏め)(目標1,2)

第8回　病原ウイルス,その他の病原微生物【 RNAウイルス, DNAウイルス,原虫,寄生虫,その他プリオン等】(目標1,2)

第9回　病原微生物と化学療法【薬剤耐性菌】(目標1,2,3)

第10回　感染症予防対策【感染症法,結核予防法】 予防法【予防接種,ワクチン】(目標1,2,3)

第11回　免疫学の概要【自然免疫(急性期蛋白,補体,インターフェロン,食細胞,),自己免疫疾患,獲得免疫,免疫寛容】(目標1,3)

第12回　B細胞の分化と抗体の多様性【 B細胞受容体, IgD,IgM,IgG,IgA,IgE,TH2サイトカイン】 T細胞の認識と MHCの多様性【 MHC,T細胞受容体,抗原提示細胞, NK細胞,ヘルパー T,キラー T】(目標1,3)

第13回　自己免疫疾患と免疫寛容【 Ⅰ型アレルギー, Ⅱ型アレルギー, Ⅲ型アレルギー, Ⅳ型アレルギー,トレランス,先天性免疫不全,後天性免疫不全】(目標1,3)

第14回　日和見感染と予防【院内感染,易感染症宿主】(目標1,2,3)

第15回　まとめ,個人およびグループ発表と総括(目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習　1.前日までに,各回ごとの用語を確認、調べておく。

2.テキストの相当部分を読んでおくこと。

復習　1.各回ごとに,テキストおよびプリントで授業の内容を確認し,整理しておくこと.
2.授業に特出した病原微生物については,リストアップし,確認する。

展開　感染症と対策に対する正確な理解によって、医療現場における安全対策への問題解決能力を養う。
特に、理解の進行に併せて生菌を用いた実験、自らが採取する微生物の生態、医療現場における感染予防対策などを応用できるようにする。

成績評価	評価の基準	病原微生物の概念と種類，感染と発症，生体との相互関係の基礎を理解しているか，医療職としての感染防御に対する問題解決方法を説明・実践することができるかなどを評価の基準とする。
	評価の方法	筆記試験（80%），レポート（15%），平常時の積極的参加態度（5%）等による。

教科書	書籍名	微生物学・感染看護学-微生物から感染防止を考える-
	著者名	岡田忍、小池和子、白澤浩ら
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	2600円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-263-23583-6

推薦図書等	書籍名	系統看護学講座　微生物学　疾病の成り立ちと回復の促進
	著者名	南嶋洋一、吉田真一
	出版社	医学書院
	価格	2200円
	ISBN・ISSN	984-4-260-00673-6

参考URL	
備考	原則として生物学を履修していること。エボラ出血熱の流行に驚き、デング熱や新型インフルエンザ、ノロウイルスや日和見感染に悩まされる今日，医療職として種々の感染症を正しく知り，何をなすべきかを理解しましょう。スライドを主として DVDなどを使って理解を助けます。オフィスアワーでなくとも声をかけてください。

2015年度シラバス

生化学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBM211
開講年度	2015年度
登録コード	A2032001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	生化学
科目責任者	芦野　洋美
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火3または2
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	2
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	生体成分・生合成・代謝・遺伝子・生命の維持
授業のねらい・概要	生命体の物質的な面と統御された維持機構を理解し，その上で生きていることを動的な化学の眼でつかむ能力を養い、日常生活と現代医療における生化学的解析の不可欠性をしっかり認識すること。
学生の達成目標	１．身体の構成成分や細胞の構造の化学的組成・分子的レベルの成り立ちを把握する。 ２．生命維持と調節の精緻で膨大な反応を学び、複雑な制御機構の統合体としての生命を理解する。

3．疾患の予防と治療には生化学的解析が必須であり、現代医療の原点であることを理解する。

授業内容	第1回	生体の構成要素・細胞の基本構造と機能(目標1)
	第2回	生体成分の構造と機能1-糖・脂質(目標1)
	第3回	生体成分の構造と機能2-アミノ酸・タンパク質・核酸(目標1)
	第4回	生体成分の構造と機能3-ビタミン および 代謝1-酵素と代謝(目標1,2)
	第5回	代謝2-糖質の代謝(目標2)
	第6回	代謝3-脂質・アミノ酸・タンパク質の代謝(目標2)
	第7回	代謝4-代謝総括 および 酸・塩基平衡(目標2)
	第8回	核酸とタンパク質の生合成(目標2)
	第9回	遺伝の生化学(目標2,3)
	第10回	ホメオスタシスとホルモン1-ホルモンの分類,作用機序,各論(下垂体/甲状腺等)(目標2,3)
	第11回	ホメオスタシスとホルモン2-各論(副腎,性腺,プロスタノイド等)および 臓器の生化学1-循環器系・呼吸器系・消化器系(目標2,3)
	第12回	臓器の生化学2-泌尿器系・神経系・血液(目標2,3)
	第13回	がんの生化学(目標2,3)
	第14回	免疫の生化学(目標2,3)
	第15回	骨の生化学(目標2,3)
予習・復習の内容	予習	各回のテーマに関係する高校までの生物，および１年次生物学の知識を見直しておくこと。高校までの化学のレベルに関係なく理解可能なように授業を展開していくが，無理なく吸収できるよう，事前に教科書に眼を通しておくことが望ましい。 生活や臨床のどのような場で生化学が役立っているか，日常から関心を持つこと。
	復習	毎回その日のポイントが理解できるよう，授業中に記入式のプリントを配り提出してもらうので，次週返却後，このプリントを中心に充分見直し，徹底して理解を深めること。
	展開	生化学は単元ごとにバラバラな内容ではないので、初期の基礎的な部分を十分復習すること。それにより、中期、後期の分子レベルの解析、疾患の解明や治療の現況に対する理解が深まる。また国家試験への対策ともなる。
成績評価	評価の基準	生体成分，代謝，生合成，遺伝子，生命維持・調節の基本を理解できたか，更に生化学の臨床医学における役割が十分に理解できたか，を評価する。
	評価の方法	期末試験とレポートおよび平常点によって評価する。比率は概ね，期末筆記試験40%，レポート30%，平常点30%で，これらの成績を総合する。

教科書

書籍名	コンパクト生化学　改訂第３版
著者名	大久保岩男／賀佐伸省著
出版社	南江堂
価格	2,160円（税込）

	ISBN・ISSN	978-4-524-24061-6
推薦図書等	書籍名	基礎から学ぶ生化学
	著者名	奥恒行著
	出版社	南江堂
	価格	2,700円（税込）
	ISBN・ISSN	978-4-524-24779-0
参考URL		
備考	生化学の学問領域は広く，日々発展し続けながら医療に貢献している。本講義ではそれらをかみ砕いて理解し易く説明し，生化学の基本的重要点を半期１５回で一通り身につけられるように進めていく。生体における様々な反応の動的な連続性と維持，調節の緻密さ，生命と種の存続の本質を理解しつつ，医療職において，身体の仕組みの生化学的認識が重要であることを，実感して欲しい。	

2015年度シラバス

看護学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HRC109
開講年度	2015年度
登録コード	A2033001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	看護学
科目責任者	今井　訓子
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	1回～8回：水3 9回～15回：水2
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ヘルスケア，コメディカル，専門職，連携
授業のねらい・概要	保健・医療・福祉の分野における看護の役割と今後の方向性について学ぶ。 利用者・家族を中心とした保健・医療・福祉職の連携を学ぶ。
学生の達成目標	1．利用者を中心とした保健・医療・福祉の関わりを理解する。 2．看護職と利用者の関わりから,コメディカルスタッフの役割を考える。 3．専門職としての連携のあり方を理解する。
授業内容	第1回　　看護の目的,方法,対象について(目標1)

	第2回	保健・医療・福祉における看護の役割,看護と関係のある法律(目標1)
	第3回	ヘルスケアの主体としての人間と看護の関わり(目標2)
	第4回	健康の定義と看護職の役割(目標1)
	第5回	小児・母性・成人・老人・の各看護(目標1)
	第6回	精神科看護・在宅看護・地域看護の特徴およびそれらを利用する人々を支える職種(目標2,3)
	第7回	他職種との連携,看護の果たす役割(目標3)
	第8回	まとめ(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習	実習や，今までの経験のなかから，患者さんと看護職との関わりを見て，考えたこと・感じたことをまとめておく。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。 レポート課題を提出すること。期間中に３回程度。簡単なレポート課題なので，返却後，気付いたこと，不足していることを加筆しておくこと。
	展開	看護の基礎、看護概論などのテキストを調べ，保健医療チームの中の看護の役割理解を深める。
成績評価	評価の基準	利用者を中心としてコメディカルスタッフが，どの様に連携をとっているのかを理解することが重要である。理学療法士としてどう看護職と連携をとるか，また健康の各期における看護職の役割を述べられることを基準とする。
	評価の方法	授業への参加態度10%，レポート30%，試験60%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

安全管理論

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM210
開講年度	2015年度
登録コード	A2034001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	安全管理論
科目責任者	武島　玲子
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	4/28　4限，5/19　4・5限，6/24　5限，6/30　4・5限，7/21　4限
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療安全，ヒヤリ・ハット報告，安全管理
授業のねらい・概要	安全管理（医療安全）を理解し，医療事故に対するリスクマネジメントを学ぶ。事例の分析を通して，医療事故予防対策のあり方を考えることができるようになる。
学生の達成目標	1.安全管理（医療安全）を理解し，医療事故に対するリスクマネジメントができる。 2.ヒヤリ・ハット報告・事故報告を理解し，それらの報告ができ，事例を分析できる。 3.医療事故予防対策を考えることができる。
授業内容	第1回　安全管理（医療安全）の概論-医療環境と医療事故(到達目標1) 第2回　安全管理の必要性・重要性の理解(組織のマネジメント)(到達目標1) 第3回　事故発生のメカニズムと防止対策(到達目標1,3) 第4回　事故分析(分析手法)(到達目標2) 第5回

		ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法1-事例の提示とグループ演習(到達目標2)
	第6回	ヒヤリ・ハット,医療事故の事例分析方法2－グループ演習と発表(到達目標2)
	第7回	医療環境と事故予防,医療事故防止のための安全管理のあり方(到達目標1,3)
	第8回	総括(到達目標1～3)
予習・復習の内容	予習	医療における安全管理について関心を持ち，関連する図書を読み，関連する報道について理解しておくこと。 授業内容に示しているキーワードについて事前に調べておくこと。
	復習	毎回の授業の要旨をまとめておくこと。
	展開	患者安全に関する最新の図書や研究成果を調べ，知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準	安全管理（医療安全）に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。
	評価の方法	試験 70%，授業への参加態度 30%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	授業は講義形式で行うが，ヒヤリ・ハット報告、事故報告の分析はグループ学習を実施し，その発表会を行う。 安全管理（医療安全）を理解し，実践できる医療従事者になってほしい。	

2015年度シラバス

放射線医科学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCM213
開講年度	2015年度
登録コード	A2076001
科目区分	理学療法基礎科目
授業科目名	放射線医科学
科目責任者	阿部　慎司
担当教員	森　浩一 石森　佳幸 五反田　留見 對間　博之 布施　拓
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	（火曜日）4/7，4/21，4/28，5/12，5/19　5限目 （水曜日）5/20　5限目 （金曜日）4/24，5/1　4限目
教室	（火曜日）講義室18 （水曜日）講義室16 （金曜日）講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	放射線の性質，画像診断技術，核医学検査技術，放射線治療技術，放射線安全管理

授業のねらい・概要	放射線医学の歴史と現状を概観し，放射線基礎医学，放射線医学の概要を論述し，医療専門職として必要な放射線医科学の基礎的知識を理解させる。
学生の達成目標	1.医学に利用される放射線の基本的な特性について理解する。 2.放射線医学の概要について理解する。 3.放射線防護,放射線管理の概要について理解する。
授業内容	第1回　放射線に関する基本的性質と放射線医学の変遷(目標1) 第2回　X線撮影技術と画像診断(X線装置,X線単純・造影撮影,造影剤,X線CT撮影)(目標2) 第3回　X線CT検査と画像診断(X線CT装置,X線CT検査(頭部・脳,胸部,腹部等)(目標2) 第4回　磁気共鳴映像法の原理(目標2) 第5回　各種磁気共鳴映像法とその臨床的意義(目標2) 第6回　核医学検査の原理,各種検査法とその臨床的意義(目標2) 第7回　放射線治療の概要と様々な治療法(目標2) 第8回　超音波検査法の概要と放射線安全管理(目標2,3)
予習・復習の内容	予習　配布する資料や参考書により各テーマに関連する内容について予習をすること。 復習　授業で配布する資料を中心に復習をすること。 展開　放射線医科学に関する最新の図書や研究成果を調べ、知識・理解を深める。
成績評価	評価の基準　達成目標への達成度（本試験による） 評価の方法　試験（100%）による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する
推薦図書等	書籍名　診療放射線技術　上・下 著者名　山下一也　他　編集 出版社　南江堂 価格　7,344円（上巻、下巻とも同じ価格） ISBN・ISSN　上巻：978-4-524-26324-0，下巻：978-4-524-26325-7
参考URL	公益社団法人 日本診療放射線技師会　http://www.jart.jp/
備考	

2015年度シラバス

理学療法学概論Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP201
開講年度	2015年度
登録コード	A2035101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論Ⅰ
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月3
教室	講義室19, 運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法の歴史，理学療法士の法律制度，理学療法士の在り方（役割と職域），障害構造，理学療法の流れ
授業のねらい・概要	理学療法士の在り方について理解し，医療専門職として必要な基本的概念について学ぶ。
学生の達成目標	1．リハビリテーションにおけるチーム医療の重要性について述べられる。 2．障害の構造について述べられる。

3．理学療法の対象について基礎理論を学び，今後の学習への準備，理学療法の流れを説明できる。

授業内容	第1回	理学療法の歴史（1）理学療法とリハビリテーション（目標1）
	第2回	理学療法の歴史（2）理学療法体系の歴史（目標1）
	第3回	理学療法士の法律制度（目標1）
	第4回	理学療法の役割と職域（1）日本と諸外国における現状と今後の展望（目標1）
	第5回	理学療法の役割と職域（2）リハビリテーションにおける理学療法士の役割（目標1）
	第6回	理学療法の役割と職域（3）チーム医療における理学療法士の役割（目標1）
	第7回	障害構造と理学療法（1）障害学（目標2）
	第8回	障害構造と理学療法（2）ADL，QOL，ICIDH,ICFについて（目標2）
	第9回	理学療法の対象（1）運動器障害（目標3）
	第10回	理学療法の対象（2）中枢神経障害（目標3）
	第11回	理学療法の対象（3）高次脳機能障害（目標3）
	第12回	理学療法の対象（4）呼吸・循環障害（目標3）
	第13回	理学療法の流れ（理学療法評価，ゴール設定，治療プログラム）（目標3）
	第14回	理学療法士の養成教育（目標1）
	第15回	理学療法士の研究と学術活動（目標１）
予習・復習の内容	予習	教科書の関連する箇所を一読しておくことを勧める。
	復習	授業で配布した資料等があれば，板書内容と共に整理しておく。また，理解が不十分な個所は，教員に質問し課題を残さないようにすること。
	展開	理学療法の流れおよび基礎について学び，今後の各論にむけ学習の準備ができる。
成績評価	評価の基準	到達目標が達成できていること。
	評価の方法	試験（90%），レポート等（10%）を統合的に評価する。

教科書

書籍名	理学療法概論　第6版
著者名	奈良 勲
出版社	医歯薬出版株式会社
価格	6,195円
ISBN・ISSN	978-4263211762

書籍名	新版　日常生活活動(ADL)－評価と支援の実際
著者名	伊藤利之
出版社	医歯薬出版株式会社
価格	7,344円
ISBN・ISSN	978-4-263-21344-5

推薦図書等	
参考URL	
備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。

2015年度シラバス

理学療法学概論Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP202
開講年度	2015年度
登録コード	A2037101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学概論Ⅱ
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金3
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士の適正，理学療法基本手技，運動学習
授業のねらい・概要	医療専門職として必要な倫理観を育成するとともに，理学療法の中で用いられる動作誘導法の実際について学ぶ。
学生の達成目標	1．理学療法士の適正について述べられる。 2．正常な姿勢・動作パターンを認識できる。 3．理学療法における動作誘導法を実施できる。

授業内容	第1回	理学療法士としての適正（1）面接実習（目標1）
	第2回	理学療法士としての適正（2）ロールプレーイング（目標1）
	第3回	理学療法士としての適正（3）ロールプレーイング（目標1）
	第4回	トランスファーテクニック（1）脳血管障害（目標2,3）
	第5回	トランスファーテクニック（2）脊髄損傷（目標2,3）
	第6回	車椅子の使用方法および介助法（目標2,3）
	第7回	姿勢・肢位（目標2）
	第8回	起居動作（1）寝返り（目標2,3）
	第9回	起居動作（2）背臥位から座位（目標2,3）
	第10回	起居動作（3）座位から立ち上がり（目標2,3）
	第11回	歩行動作（1）歩行（段差昇降，走行）（目標2,3）
	第12回	歩行動作（2）補助具を使用した歩行（目標2,3）
	第13回	歩行動作（3）歩行介助・誘導法（目標2,3）
	第14回	運動学習（課題指向型アプローチ）（目標2,3）
	第15回	まとめ
予習・復習の内容	予習	推薦図書等の関連する箇所を一読しておくことを勧める。
	復習	授業で配布した資料等があれば，板書内容と共に整理しておく。また，理解が不十分な個所は，教員に質問し課題を残さないようにすること。
	展開	理学療法の基本手技について，学生同士で模倣していく。
成績評価	評価の基準	到達目標が達成できていること。
	評価の方法	試験（90%），レポート等（10%）を統合的に評価する。
教科書	書籍名	理学療法概論　第6版
	著者名	奈良　勲
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	6,195円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21176-2
	書籍名	新版　日常生活活動(ADL)－評価と支援の実際
	著者名	伊藤利之
	出版社	医歯薬出版株式会社
	価格	7,344円
	ISBN・ISSN	978-4-263-21344-5
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

高齢者理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT314
開講年度	2015年度
登録コード	A2036001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高齢者理学療法学
科目責任者	小林　量作
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	9/17　3,4限 9/18　1～4限 9/19　1,2限
教室	講義室18, 運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高齢者，健康増進，介護予防，回復期，維持期
授業のねらい・概要	高齢者の身体特性を理解し，健康増進，虚弱高齢者の介護予防，疾患・障害を持つ高齢者の回復期理学療法，維持期理学療法についての知識を習得する．
学生の達成目標	1．超高齢社会の医学的・社会的課題と理学療法の基本的考え方を習得する． 2．在宅高齢者の健康増進，介護予防に対応する理学療法の知識を習得する． 3．病院・施設での高齢者対象の理学療法について理解する．

授業内容	第1回	超高齢社会の医学的・社会的問題の実態，理学療法士の役割（目標1）
	第2回	加齢と身体機能の特性，精神機能の特性（目標1）
	第3回	高齢者理学療法のリスク管理；転倒骨折，廃用症候群，脱水，呼吸・循環器系，骨関節系，（目標1,2）
	第4回	健康増進，介護予防における理学療法評価・プログラムの演習，実技体験（目標2）
	第5回	回復期・維持期の理学療法プログラム，退院時プログラム，チームアプローチ（目標3）
	第6回	事例：健康増進事例，介護予防事例，脳卒中事例，大腿骨近位部骨折事例（目標1～3）
	第7回	事例：健康増進事例，介護予防事例，脳卒中事例，大腿骨近位部骨折事例（目標1～3）
	第8回	学生発表・演習，まとめ（目標1～3）
予習・復習の内容	予習	小グループで課題についてまとめておく.
	復習	授業中に口頭質疑で確認する.
	展開	これまでの専門科目との関連を理解する.
成績評価	評価の基準	上記目標における到達度で行う.
	評価の方法	グループ発表10%，小試験10%，試験80%.
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	高齢者の理学療法 第２版 理学療法MOOK10
	著者名	森本榮/責任編集
	出版社	三輪書店
	価格	3,800円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89590-376-9
	書籍名	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学ＰＴ 第３版
	著者名	奈良勲/シリーズ監修　牧田光代/編集　金谷さとみ/編集　牧田光代/[ほか]執筆
	出版社	医学書院
	価格	4,700円+税
	ISBN・ISSN	978-4-260-01224-9
	書籍名	在宅・訪問リハビリテーション リスク管理実践テキスト ホスピタリティに基づく医療サービス 改訂第２版
	著者名	石黒友康/監修　大森豊/監修
	出版社	ヌンク
	価格	3,000円+税
	ISBN・ISSN	978-4-7878-1992-5
参考URL		

備考

2015年度シラバス

運動療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT201
開講年度	2015年度
登録コード	A2049101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学
科目責任者	松田　雅弘
担当教員	三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水4,5（第4週は開講しない）
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	運動療法，力学，筋の働き，治療方法
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために筋，骨格構造から運動学・生理学・解剖学などの基礎を理解する。その理解と同時に関節可動域練習、筋力増強練習などの基本的な運動療法の理論に関して学び，運動療法の基礎～応用までの知識を身につける。

学生の達成目標

目標1.運動療法の目的と運動療法の原理原則を理解し,運動療法を行う上でのリスク管理ができる。
目標2.各種障害に対する運動療法の目的と各種治療方法の目的と効果を理解する。
目標3.各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション,運動療法の歴史,運動学の基礎知識、リスク管理について理解する(目標1,2)
	第2回	運動療法の歴史,運動学の基礎知識、リスク管理について理解する(目標1,2)
	第3回	運動に関連する骨,関節の構造と機能について理解する(目標2)
	第4回	運動に関連する骨,関節の構造と機能について理解する(目標2)
	第5回	運動に関連する筋,神経の構造と機能について理解する(目標2)
	第6回	運動に関連する筋,神経の構造と機能について理解する(目標2)
	第7回	運動と呼吸,循環,代謝機能について理解する(目標2)
	第8回	運動と呼吸,循環,代謝機能について理解する(目標2)
	第9回	運動と学習について理解する(目標2)
	第10回	発達と運動機能について理解する(目標2)
	第11回	老化と運動機能について理解する(目標2)
	第12回	関節可動域制限に対する運動療法について理解する(目標1,2,3)
	第13回	関節可動域制限に対する運動療法について理解する(目標1,2,3)
	第14回	筋力低下に対する運動療法について理解する(目標1,2,3)
	第15回	持久力低下に対する運動療法について理解する(目標1,2,3)

予習・復習の内容	予習	同時に進行している基礎医学科目の内容を踏まえるため、基礎的な運動学・生理学・解剖学の知識などは復習しておくこと。
	復習	・講義範囲が広いため各講義の復習を実施すること ・基礎運動学などの参考図書を含め復習すること
	展開	講義中にデモンストレーション・実技などを実施することもある。

成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，運動療法の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 100%, 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。

教科書	書籍名	運動療法学－障害別アプローチの理論と実際　第2版
	著者名	市橋則明　編集
	出版社	文光堂
	価格	7 ,560円
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-8306-4503-7

推薦図書等	書籍名	運動療法学　総論
	著者名	吉尾雅春　編集
	出版社	医学書院

価格	4,935円
ISBN・ISSN	978-4-260-00898-3

参考URL	
備考	運動療法は運動学，解剖学，生理学そして物理学を基本として成り立っている分野である。同時進行している該当科目の復習を行い，講義に臨んで欲しい。

2015年度シラバス

運動療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT202
開講年度	2015年度
登録コード	A2038101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動療法学実習
科目責任者	上倉　將太
担当教員	小山内　正博 松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	金1, 2
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	力学　運動　治療　筋の働き
授業のねらい・概要	理学療法の中核をなす運動療法を十分に理解するために、基本的な知識の理解とそれらを実践する方法を学ぶ。中枢神経疾患・運動器系疾患・内部障害系疾患等の各疾患の運動療法につながる科目である。自学自習を前提に実技を中心に授業を展開していく。

学生の達成目標

目標１：運動療法の原理原則を理解する。
目標２：治療方法の目的と，各種障害に対する運動療法の目的を理解する。
目標３：各種障害に対する適切な運動療法の選択に関して説明できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション。運動療法に必要な基礎知識とリスク管理について理解、実演できる（目標1）
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法について、特にストレッチングについて実演できる（目標2,3）
	第4回	筋力および持久力低下に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第5回	姿勢保持、基本動作、運動学習に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第6回	疼痛による機能障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第7回	中枢神経系疾患に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第8回	高次脳機能障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第9回	発達障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第10回	呼吸障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第11回	循環障害、代謝機能障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
	第12回	加齢による機能障害に対する運動療法について実演できる（目標2,3）
予習・復習の内容	予習	1年時に学習した解剖学、生理学、運動療法学を基盤に授業を進めるため、十分に理解しておくこと。 また、教科書の中の該当箇所を一読し疑問を抽出しておく。
	復習	授業で習った内容を箇条書きに整理しておく。また理解不十分な箇所は、教員に質問して課題を残さないようにすること。
	展開	学生同士で実技を中心に行っていくため、健常者の状態を十分に把握する。
成績評価	評価の基準	運動療法に関して、授業で取り上げた基礎的な内容が理解、実施できていることを合格基準とする。
	評価の方法	提出レポート及び期末の筆記または実技試験で評価する。 提出レポート20%、期末実技試験80%の成績を総合する。ただしこの比率は、最終的に若干変更する可能性もある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 教科書は1年時の"運動療法学"で使用した"運動療法学－障害別アプローチの理論と実際"を使用する。	
推薦図書等	書籍名	運動療法学　改訂第2版
	著者名	柳澤健　編集
	出版社	金原出版
	価格	6,200円＋税

ISBN・ISSN　978-4-307-75026-4

参考URL	
備考	実際の臨床場面を想定しているため、服装や髪型にも留意すること。

2015年度シラバス

基礎理学療法学見学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP207
開講年度	2015年度
登録コード	A2039001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	基礎理学療法学見学実習
科目責任者	松田　雅弘
担当教員	永原　久栄 郭　丹 小山内　正博 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法士、実習生の資質、見学実習

授業のねらい・概要

	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じてリハビリテーションの位置づけや各医療スタッフの業務内容・連携、また理学療法士の具体的な業務を学習し、今後の授業に活用できるようにする。また、実習に必要な接遇やレポートの書き方を学ぶ。
学生の達成目標	１．各施設の役割と機能、リハビリテーションの位置づけ、チームワーク医療の意義、医療スタッフの業務内容・連携、理学療法・理学療法士の役割と位置づけ、諸施設や機器の使用目的等、患者・障害者の病態などを理解する。 ２．理学療法士および実習生としての資質が身につけ，理学療法士の現場を見学することで、各学生が将来像をイメージできる。 ３．見学実習、報告会、レポートを通じて、コミュニケーションスキルを向上する。
授業内容	担当教員は巡回指導にあたる ・事前指導Ⅰ：実習施設および諸注意（目標１,２） ・事前指導Ⅱ：マナー講座（目標２,3） ・事前指導Ⅲ：情報の共有と見学実習前の最終確認（目標２） ・見学実習：９月１日（月）～１２日（金）（目標１,2,3） 各学生、同一施設で３日間の見学実習を行う。 実習施設の都合により若干期間外になることがある。 見学実習施設：リハビリテーションセンター、総合病院、 クリニック、介護老人保健施設、小児施設等 ・見学実習報告会（目標１,2,3） ・課題レポート（目標１,2,3）
予習・復習の内容	予習　＊インターメディエイトセミナーでも事前指導を行う。 ＊事前に見学施設の病院情報についてまとめる。 ＊事前に抗体検査の実施 復習　各施設で学習した内容をレポートとしてまとめる。 展開　見学実習を円滑に実施できるように事前指導を行う。 基本的な姿勢を重要視しながら講義を展開する。
成績評価	評価の基準　見学実習で学習する態度やリハビリテーションの位置づけや各医療スタッフの業務内容・提携、また理学療法士の具体的な業務の理解度を基準とする。 原則、遅刻・欠席を認めない。 評価の方法　原則、すべて出席することを基準とし、下記の割合で評価を行う。 課題レポート（80%）や見学実習報告会（20%）について、担当教員全員で判定する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 「基礎理学療法学見学実習の手引き」を配付する。
推薦図書等	
参考URL	
備考	1．見学実習は学外実習であるため、実習態度、服装、頭髪（茶髪、男子の長髪は厳禁）、および装飾品（厳禁）等は、学生であっても、一医療人としての常識を必要とする。 2．上記の項目に関して指導を行うが、指導されないように各学生心掛ける。 3．事前電話連絡や礼状が必要であり、日頃から適切な言葉使いが文章作成能力

の向上を心掛ける。

4. 見学実習中の学習効果を上げるために、積極的な態度が重要である。

5. 見学実習に必要な知識を習得するため、インターメディエイトセミナーを含めて実施していく。

6. 忌引きなどの不測の事態以外の、欠席・遅刻は原則認めない。

7. 見学実習は見学予定施設と患者様のご厚意によって実施されることを自覚すること。

2015年度シラバス

エレメンタリーセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP101
開講年度	2015年度
登録コード	A2040101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	エレメンタリーセミナー
科目責任者	郭　丹
担当教員	小池　和子 居村　茂幸 上倉　將太 山本　雅哉
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	水4, 5
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	大学における学習，期待される人間像，専門職業人，医療専門職，理学療法士，保健・医療・福祉施設
授業のねらい・概要	保健医療学部学生が，医療専門職としての社会人を目指すために，医療系学部における学習のあり方を理解する。さらに，医療関連施設見学による Early

	Exposureを通して医療の基本的姿勢を学ぶとともに自分の将来像を明確にする。
学生の達成目標	1．医療専門職を目指す保健医療学部学生として期待される人間像を深く理解する。 2．保健医療学部学生として,保健・医療・福祉関連施設を理論的に理解する。 3．施設見学により,医療のあり方を概観する。
授業内容	第1回　オリエンテーシヨン(目標1) 第2回　社会に求められる医療職について（目標1,2) 第3回　医療専門職に求められるコミュニケーション能力,倫理,礼節など(目標1,2) 第4回　医療専門職,理学療法士,保健・医療・福祉関連施設について学ぶ(目標1,2) 第5回　施設見学の目的・学習内容・態度などの学習(目標1,2,3) 第6回　施設見学のガイダンス(Ⅰ)事前準備(目標1,2,3)(第 Ⅱ部) 第7回　施設見学(1日目)(目標2,3) 第8回　施設見学(1日目)(目標2,3) 第9回　施設見学(1日目)(目標2,3) 第10回　施設見学(1日目)(目標2,3) 第11回　施設見学(2日目)(目標3,4) 第12回　施設見学(2日目)(目標2,3) 第13回　施設見学(2日目)(目標2,3 第14回　施設見学(2日目)(目標2,3) 第15回　施設見学報告会・反省会・総括(目標1,2,3)
予習・復習の内容	予習　各回ごとのキーワードについて確認し、調べておくこと。 復習　授業で学習した事項について理解を深め、次授業に関連させておくこと。 展開　エレメンタリセミナーは前半を深く理解したうえで、後半のearly exposure(早期体験)に連関させるものであり、この展開を理論と実践で理解すること。
成績評価	評価の基準　保健医療学部学生としての自覚度および学習への積極的態度，社会における医療関連施設の役割に対する理解度，レポートの提出状況と発表の内容について評価する。 評価の方法　授業の態度（30%），施設見学における姿勢（30%），レポートおよび報告会における医療関連施設の理解度（ 40%）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 配布資料：適宜資料配布
推薦図書等	
参考URL	
備考	

保健医療学部学生として本セミナーは初年度の重要なセミナーであり，本施設見学は最初の学外実習であるので，真剣に受講すること。

2015年度シラバス

インターメディエイトセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP206
開講年度	2015年度
登録コード	A2040201
科目区分	理学療法科目
授業科目名	インターメディエイトセミナー
科目責任者	松田　雅弘
担当教員	居村　茂幸 三浦　達浩
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	（水曜日）4/8，4/15，4/22，5/13，5/20，6/3，6/10，7/8，7/15，7/22　1限目 （木曜日）6/18，6/25　1限目
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	キャリアアップ講座、医療・福祉専門職、マナー（接遇）、コミュニケーションスキル
授業のねらい・概要	内で学んだ理学療法の基礎知識を基に，病院・施設での実習を実施する準備として、現在までの理学療法士の職域や、専門職としての考え方を学び、そのなかで理学療法士としての専門的な知識・技能の活かし方を学ぶ。また、実習や社会に

	でるための接遇やコミュニケーションスキルを学び、実践することで、その能力を活用できるようにすることを目的とする。
学生の達成目標	目標1：理学療法士としての専門性を理解し、その専門性を発揮する領域を理解でき，医療・福祉領域における理学療法士についての知識や技能を一層確かなものにする。 目標２：コーチングなどのコミュニケーションスキルを身に着け、模擬患者への対応ができる。 目標３：患者に対する接遇の能力を身に着け、模擬患者に対応でき，職業人としての必要な諸能力を高め、それを実践・実習の場で生かすことができる。
授業内容	第1回　オリエンテーション,理学療法士としてのキャリアについて (目標1,3) 第2回　理学療法士の社会的な位置づけ(目標1,3) 第3回　理学療法士の今後の方向性について(目標1,3) 第4回　理学療法士という専門職・プロフェッショナルⅠ(目標1,3) 第5回　理学療法士という専門職・プロフェッショナルⅡ(目標1,3) 第6回　理学療法士という専門職・プロフェッショナルⅢ(目標1,3) 第7回　理学療法士という専門職・プロフェッショナルⅣ(目標1,3) 第8回　理学療法士という専門職・プロフェッショナルⅤ(目標1,3) 第9回　コーチングについて（目標2,3） 第10回　コーチングの活用法について（目標2,3） 第11回　医療職としての接遇Ⅰ（目標2,3） 第12回　医療職としての接遇Ⅱ（目標2,3） 第13回　コミュニケーションスキルⅠ（目標2,3） 第14回　コミュニケーションスキルⅡ（目標2,3） 第15回　まとめ （目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　理学療法概論、エレメンタリーセミナーで学んだ内容について復習しておく。 復習　毎回復習課題・グループ検討課題を出す。 展開　・基本的にグループによるディスカッションや発表を行い、自らの考えを整理する。 ・医療人に必要な接遇・コミュニケーションスキルを身につける。
成績評価	評価の基準　復習課題の内容と提出状況、グループワークの参加度、グループ発表を評価基準とする。（前提として規定の出席日数が必要） 評価の方法　レポートとレポートの内容50%　グループワークの参加度20%　グループ発表30% ＊課題の未提出などは採点困難なため、必ず遅れずに提出すること。 ＊積極的な発表を行うこと
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する マナー講座はテキスト配布 その他、必要なものはプリントにて配布する。
推薦図書等	

参考URL	
備考	・原則すべて出席すること ・評価の対象となるので提出物の遅れ、提出物の未提出には十分気をつけること ・実際の実習で対応できるように「報・連・相」の徹底と、考えを持って授業に臨むこと。

2015年度シラバス

理学療法学研究法

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP204
開講年度	2015年度
登録コード	A2041001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法学研究法
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 佐藤　将朗 荒金　房子 永原　久栄 郭　丹 小山内　正博 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太 山本　雅哉
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	（木曜日）4/23，4/30　5限目 （金曜日）4/10，4/17，5/8，5/15　3限目
教室	（木曜日）講義室20 （金曜日）講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	研究方法論、研究倫理、研究論文
授業のねらい・概要	理学療法学をはじめ、広く保健医療科学、医学、および関連領域の研究の考え方、方法論、倫理など、研究の様々な要素について学ぶ。
学生の達成目標	1. 各領域の研究の意義と方法論を理解する。 2. 研究に必要な資料を検索、取得することが出来る。 3. 研究成果の発表方法、論文投稿のプロセスについて理解する。
授業内容	第1回　科学的研究の方法論とは①　(目標1) 第2回　科学的研究の方法論とは②　(目標1) 第3回　研究の倫理とルール　(目標1) 第4回　研究のデザイン、研究計画と研究スケジュール、論文検索の方法（目標１,2） 第5回　研究成果の発表方法、論文投稿と査読（目標1,3） 第6回　汎用性の高い統計解析について　(目標1) 第7回　理学療法科学研究の最前線　(目標1,3) 第8回　リハビリテーション科学研究の最前線　(目標1,3)
予習・復習の内容	予習　指定した教科書について、講義内容と対応する部分を読む。 復習　指定した教科書について、講義内容と対応する部分を読む。 展開　自らのアイデアで研究計画を立て、実行に必要な事項を学ぶ。
成績評価	評価の基準　上記目標を概ね達成していること。 評価の方法　授業中の質疑・応答（20%）、レポート等（80%）を総合的に評価する。
教科書	書籍名　理系のための「即効!」卒業論文術―この通りに書けば卒論ができあがる 著者名　中田亨 出版社　講談社 価格　861円 ISBN・ISSN　978-4062576666
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

理学療法英文講読

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP205
開講年度	2015年度
登録コード	A2042101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法英文講読
科目責任者	荒金　房子
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	火1
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次・3年次

免許・資格との関係

	2年次	3年次
小学校教諭：	不要	不要
特別支援学校教諭：	不要	不要
幼稚園教諭：	不要	不要
保育士：	不要	不要
理学療法士：	選択	選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	医療系英語の専門用語，英語表現，英語文献講読
授業のねらい・概要	理学療法学に関する英語表現の基礎を築き，実習レポートや卒業研究に必要な英語文献の調査及び文献読解ができるようになることを目的とする。
学生の達成目標	１．理学療法学に関する英語の専門用語を理解し,表現する力を身につけることができる。 ２．目的とする英語文献を検索することができる。 ３．英語文献の内容を理解し,批判的,客観的に読解する力を身につけることができる。

授業内容	第1回	演習のガイダンス (目標1～3)
	第2回	理学療法の英語表現（目標1, 3）
	第3回	病気とリハビリテーション 1 骨折（目標1, 3）
	第4回	病気とリハビリテーション 2 腰痛（目標1, 3）
	第5回	病気とリハビリテーション 3 パーキンソン病（目標1, 3）
	第6回	病気とリハビリテーション 4 脳卒中（目標1, 3）
	第7回	病気とリハビリテーション 5 脊髄損傷（目標1, 3）
	第8回	前半のまとめ
	第9回	英語文献の検索　図書館　ネット検索の利用（目標2）
	第10回	英語文献の検索　専門分野の文献検索（目標2）
	第11回	英語文献を読む　学術論文　抄録の構成（目標3）
	第12回	英語文献を読む1 学術論文 論文の検索・調査 (目標2)
	第13回	英語文献を読む2 学術論文 抄録の読解 (目標3)
	第14回	英語文献を読む3 学術論文 本文の読解 (目標3)
	第15回	演習のまとめ (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	次回の授業の下調べをしておく。
	復習	毎回の授業で学んだ専門英語についておさらいをし、理学療法系の教科書を今一度ひも解いて調べる。
	展開	自分の興味ある分野の英語文献を探し出し、abstractだけでも読んでみる。
成績評価	評価の基準	演習を通じて，理学療法に関する英語の専門用語の意味を理解し，口頭やプレゼンテーション，身体動作などで適切に表現できること，目的に応じた英語文献を検索し，その内容を読解できることを合格基準とする。
	評価の方法	演習の実施（50%）及び提出レポート（50%）を合計して評価する。演習実施，提出レポート
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等		
参考URL		
備考	高校程度の英語力を必要とする。教材には、さまざまな文献を用いる。授業には、必ず英語辞書を持参すること。	

2015年度シラバス

理学療法評価学Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP201
開講年度	2015年度
登録コード	A2043001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学Ⅰ
科目責任者	上倉　將太
担当教員	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	1年次
免許・資格との関係	1年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法，各評価法の意義と目的
授業のねらい・概要	理学療法を効果的に行うためには、理学療法評価が必要不可欠であるため、本講義は専門科目の中でも最重要科目の１つである。本講義では理学療法評価の位置づけと基本的項目について講義しそれを元に確認を行う。積極的な授業参加を心がけ、知識を習得してほしい。　また、知識の定着を図り、講義終了後には知識の整理をすること。

学生の達成目標

目標１　理学療法評価の意義を理解することができる。
目標２　各評価項目の意義や目的を理解することができる。
目標３　各評価項目を実践できる知識を習得し，さまざまな疾患に対して必要な評価項目が列挙できる。

授業内容

第1回　総論（１）評価の意義、目的、過程　(目標1,2)
第2回　総論（２）理学療法評価の対象　(目標1,2)
第3回　総論（３）理学療法評価の種類、評価時期と目的、記録 (目標1,2)
第4回　総論（４）問題点リストの整理の仕方、治療プログラム立案、評価実施上の留意・環境・器具、報告書　(目標1,2,3)
第5回　一般的評価事項 病歴のとりかた、現症、各種検査・測定・観察、総合評価　(目標1,2,3)
第6回　形態測定（１）ランドマークとその確認方法（目標1,2,3）
第7回　形態測定（２）身長、体重、BMI、肢長、周径（目標1,2,3）
第8回　筋力検査（１）筋力とは何か、筋力測定総論（目標1,2,3）
第9回　筋力検査（２）機器を使用した筋力検査 (目標1,2,3)
第10回　徒手筋力検査法（１）概念と総論（目標1,2,3）
第11回　徒手筋力検査法（２）上肢と下肢の検査（目標1,2,3）
第12回　バイタルサイン 生体情報（１）概念と総論（目標1,2,3）
第13回　バイタルサイン 生体情報（２）脈拍、呼吸および体温（目標1,2,3）
第14回　バイタルサイン 生体情報（３）血圧（目標1,2,3）
第15回　総括 (目標1,2,3)

予習・復習の内容

予習　本講義を理解するためには、解剖学や生理学などの基礎的な知識が必要である。各回授業前に教科書の該当箇所を熟読し必要に応じて知識の確認をして臨むこと。

復習　本講義は評価方法を教授する。暗記しなければならない項目が多い。講義終了後は、十分に復習し知識を身につける事。

展開　理学療法評価学の基本内容を学習し、疾患や障害の評価を通して理学療法学の基礎を学習する。

成績評価

評価の基準　各評価項目を実践できるための、最低限の評価知識を習得する。

評価の方法　定期試験（８０％）、小テストやレポート（２０％）などを総合的に評価する。ただしこの比率は、若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ
著者名	石川朗　編集
出版社	中山書店
価格	2,400円+税
ISBN・ISSN	ISBN：9784521736686

書籍名	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅱ
著者名	石川朗　編集
出版社	中山書店
価格	2,400円+税

	ISBN・ISSN	ISBN：9784521736693
	書籍名	PT・OTビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学
	著者名	潮見泰蔵　下田信明　編集
	出版社	羊土社
	価格	5900円+税
	ISBN・ISSN	ISBN：9784521736693
推薦図書等	書籍名	理学療法評価学　第２版
	著者名	松澤　正
	出版社	金原出版
	価格	6,200円
	ISBN・ISSN	ISBN： 9784307251273
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

理学療法評価学Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP301
開講年度	2015年度
登録コード	A2044001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学Ⅱ
科目責任者	郭　丹
担当教員	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	後期のみ・授業の回数が16回～30回
曜日・時限	月1, 2
教室	治療室, 講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，理学療法検査実技，理学療法評価の統合と解釈
授業のねらい・概要	理学療法評価学 Ⅰに続き，対象者の把握，治療方法の選択，治療効果の判定に必要な評価の方法，選択，得られた結果の統合と解釈について学ぶ。
学生の達成目標	1．理学療法の各検査測定の意義と方法を理解することができる。 2．対象者の治療や治療効果の判定に必要な評価方法を選択することができる。 3．評価から得られた結果を統合し解釈することができる。

授業内容	第1回	ガイダンス・知覚検査と実技 (目標1,2)
	第2回	知覚検査と実技 (目標1,2)
	第3回	反射検査と実技 (目標1,2)
	第4回	反射検査と実技 (目標1,2)
	第5回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第6回	筋トーヌス検査と実技 (目標1,2)
	第7回	片麻痺運動機能検査(目標1,2)
	第8回	片麻痺運動機能検査(目標1,2)
	第9回	運動発達検査 (目標1,2)
	第10回	運動発達検査 (目標1,2)
	第11回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第12回	姿勢反射検査と実技 (目標1,2)
	第13回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第14回	脳神経検査と実技 (目標1,2)
	第15回	高次脳機能検査と実技 (目標1,2)
	第16回	まとめ（目標１,2,3）
予習・復習の内容	予習	解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと。
	復習	毎回の講義内容・実技内容を復習すること。 その内容に関連する解剖学、生理学、運動学に関して復習しておくこと。
	展開	内容理解を深めるために実技を含めて実施する。
成績評価	評価の基準	理学療法評価方法を理解・取得し，患者に対する評価の目的に応じて評価手法を選択・実施できること。それに関する知識の習得を合格基準とする。
	評価の方法	期末試験 100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）

教科書

書籍名	理学療法評価学　第３版
著者名	松澤正
出版社	金原出版
価格	6 ,510円
ISBN・ISSN	978 -4307750257

書籍名	神経診察クローズアップ
著者名	鈴木則宏
出版社	メジカルビュー社
価格	7 ,350円
ISBN・ISSN	978 -4-7583-0358-3

書籍名	ベッドサイドの神経の診かた
著者名	田崎義昭ほか
出版社	南山堂

価格	7 ,560円
ISBN・ISSN	978 -4-525-24717-1

推薦図書等	
参考URL	
備考	理学療法評価学 Ⅰ，理学療法評価学実習 Ⅰが履修されていることを前提とする。 他の専門科目と内容が関連するので，専門科目全般の学習を怠らないこと。 原則、すべて出席すること

理学療法評価学実習Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP202
開講年度	2015年度
登録コード	A2045001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅰ
科目責任者	郭　丹
担当教員	田上　未来 上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	金3, 4
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価方法　形態測定、関節可動域測定、新・徒手筋力検査法
授業のねらい・概要	本講義では理学療法評価のうち形態測定、関節可動域測定、徒手筋力測定の方法を正確に実施でき、かつ検査実施の際、患者様に対する医療者としての必要な配慮と注意事項などの習得を目指す

学生の達成目標

	１．正確な理学療法評価手技実施 ２．正確な骨指標の触診手技 ３．正確な筋の体表触診
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーションと関節可動域測定の実施　目標(1,2) 第2回　関節可動域測定の実施目標(1,2) 第3回　関節可動域測定の実施目標(1,2) 第4回　新・徒手筋力検査法（体幹）目標(1,2,3) 第5回　新・徒手筋力検査法（下肢）目標(1,2,3) 第6回　新・徒手筋力検査法（下肢）目標(1,2,3) 第7回　新・徒手筋力検査法（下肢）目標(1,2,3) 第8回　新・徒手筋力検査法（上肢）目標(1,2,3) 第9回　新・徒手筋力検査法（上肢）目標(1,2,3) 第10回　新・徒手筋力検査法（上肢）目標(1,2,3) 第11回　新・徒手筋力検査法（上肢）目標(1,2,3) 第12回　新・徒手筋力検査法（頭頸部）目標(1,2,3)
予習・復習の内容	予習　解剖学、運動学　骨格、筋の内容を十分に学習すること。 復習　前回の授業内容。 展開　健常者同士で測定手技を正確に実施できる。
成績評価	評価の基準　試験の成績は筆記試験・実技試験双方60点以上を合格とし、単位認定する。 評価の方法　筆記試験50% 実技試験50%
教科書	書籍名　新・徒手筋力検査法 著者名　Helen J ,Jacqueline Montgomery 出版社　協同医書 価格　7875円 ISBN・ISSN　9784763900364
推薦図書等	書籍名　骨格筋の形と触察法 著者名　河上敬介 出版社　大峰閣 価格　12600円 ISBN・ISSN　ISBN4－9980686－0－1
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

理学療法評価学実習Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HAP302
開講年度	2015年度
登録コード	A2046001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学実習Ⅱ
科目責任者	郭　丹
担当教員	松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	月1, 2
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法検査，検査の意義，統合解釈
授業のねらい・概要	理学療法の各検査・測定ができ，検査測定の意義を理解し統合解釈ができる。 各疾患に対する評価項目を列挙でき、その意義を理解したうえで検査が実施できる。
学生の達成目標	1．身体機能・能力の評価方法を理解し,実施できる。 2．身体機能・能力評価から得られた結果を解釈できる。 3．評価結果の総合統合解釈ができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 各種検査測定の意義、検査結果の解釈についてＲＯＭ－Ｔ、徒手筋力テスト（目標1,2,3）
	第2回	各種検査測定の意義、検査結果の解釈について片麻痺運動機能検査（Brunnstrom　Test　）（目標1,2,3）
	第3回	片麻痺運動機能検査（ＳＩＡＳ）（目標1,2,3）
	第4回	脳血管障害疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3）
	第5回	脳血管障害疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3）
	第6回	神経難病疾患の評価項目総合演習（目標1,2,3）
	第7回	協調性検査（目標1,2,3）
	第8回	痛みの評価（目標1,2,3）
	第9回	整形外科疾患の検査（目標1,2,3）
	第10回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅰ（目標1,2,3）
	第11回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅱ（目標1,2,3）
	第12回	運動器障害疾患の評価項目総合演習Ⅲ（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	予習 ・基礎医学科目（解剖学、生理学、運動学）の復習 ・理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学実習Ⅰ、理学療法評価学Ⅱで習得した技術・知識をもとに授業を展開するため復習を行っておくこと。
	復習	復習 ・各実技で実施した知識・実技を空き時間を利用して練習・復習しておくこと。
	展開	展開 ・実際の患者の情報を提供して、OSCE形式で実施 ・グループを主体としてのロールプレイ ・実技を主体とするが、今まで学習した内容の総まとめであり、記憶してない内容に関しては十分な予習・復習を求める。
成績評価	評価の基準	評価の基準 実習の目的を理解し，実習を実施し，理学療法の評価の結果を客観的に報告できること、それに付属する知識の習得を合格基準とする。
	評価の方法	評価の方法 定期試験100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する ・必要なプリントは配布する ・理学療法評価学 Ⅰで使用した教科書を継続して使用する	
推薦図書等	書籍名	理学療法評価学　第３版
	著者名	松澤正
	出版社	金原出版
	価格	6 ,510円
	ISBN・ISSN	978 -4307750257
	書籍名	神経診察クローズアップ
	著者名	鈴木則宏

出版社	メジカルビュー社
価格	7 ,350円
ISBN・ISSN	978 -4-7583-0358-3

書籍名	ベッドサイドの神経の診かた
著者名	田崎義昭ほか
出版社	南山堂
価格	7 ,560円
ISBN・ISSN	978 -4-525-24717-1

参考URL

備考

2015年度シラバス

アドバンストセミナー

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE301
開講年度	2015年度
登録コード	A2047101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	アドバンストセミナー
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	永原　久栄 上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	木1, 2, 金1
教室	（木曜日）治療室 （金曜日）運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、理学療法目標、理学療法プログラム、臨床実習、ＯＳＣＥ
授業のねらい・概要	基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、理学療法評価学臨床実習にでる準備を行う。模擬症例について症例記録、症例レポートの書き方を学ぶ。実習前ＯＳＣＥに参加する。
学生の達成目標	１．基礎医学、臨床医学、理学療法学の基礎的知識・技術を整理し、説明および実践できる。

２．現場を想定した模擬事例について症例記録、症例レポートを書くことができる。
３．実習前ＯＳＣＥ（運動器系疾患、脳血管障害、神経・筋疾患）に合格し，臨床実習に臨む準備ができる。

授業内容	第1回	学外実習の概要ガイダンス（理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習）
	第2回	実習前 OSCEの準備（問診・面接、ROM）(目標１～３)
	第3回	実習前 OSCEの準備（MMT, Brunnstrom stage, 神経学的検査）(目標１～３)
	第4回	実習前 OSCEの準備（姿勢・動作分析）(目標１～３)
	第5回	実習前 OSCEの準備（トランスファー）(目標１～３)
	第6回	模擬症例（運動器疾患）について症例レジュメ、症例レポートの書き方１(目標1、２)
	第7回	模擬症例（運動器疾患）について症例レジュメ、症例レポートの書き方２(目標1、２)
	第8回	模擬症例（脳血管障害）について症例レジュメ、症例レポートの書き方１(目標1、２)
	第9回	模擬症例（脳血管障害）について症例レジュメ、症例レポートの書き方２(目標1、２)
	第10回	模擬症例についての記録の書き方(目標1、２)
	第11回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第12回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第13回	ＯＳＣＥ実施 (目標１～３)
	第14回	ＯＳＣＥ実施後の再指導 (目標１～３)
	第15回	ＳＶ会議の指導・4年生からの助言（目標１）
予習・復習の内容	予習	1～3年で学習した基礎的知識、技術をまとめ、想定した模擬事例、ＯＳＣＥの事例に対して準備学習する。
	復習	理学療法評価学臨床実習に向けて、学んだことを整理する。
	展開	理学療法評価学臨床実習、総合臨床実習参加につなげる。
成績評価	評価の基準	理学療法評価学臨床実習に参加出来る基本的な知識、技術を習得できている。上記目標をほぼ達成できている。
	評価の方法	レポート 40%，OSCEの結果 60%とする。ただし，この割合は、若干変更することがある。
教科書	書籍名	３日間で行う理学療法臨床評価プラニング
	著者名	中山恭秀（編集）
	出版社	南江堂
	価格	3,800円＋税
	ISBN・ISSN	978-4524268146
推薦図書等		

参考URL

備考

2015年度シラバス

動作分析学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP203
開講年度	2015年度
登録コード	A2048001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	動作分析学
科目責任者	宮崎　泰
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	4/18, 4/25, 5/9, 5/16　3,4限目
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	動作分析、姿勢、動作（運動）分析、評価
授業のねらい・概要	様々な評価項目及びその結果が姿勢・動作（運動）に及ぼす影響を理解する。また、姿勢・動作（運動）観察の結果とこの結果を補完するために必要な評価項目との関係を理解する。
学生の達成目標	1.これまで学習した評価項目を理解する。これから学習する評価項目の概要を理解する。 2. 姿勢・ 動作（運動）観察の結果を口述及び記述表現できる。 3.疾患別の姿勢・動作（運動）観察の結果とこの結果を補完するための評価項目との関係を理解する。

授業内容	第1回	学習済みの評価項目と今後学習する評価項目の概要について、グループ別発表（目標1）
	第2回	評価項目と症例別姿勢との関連（目標1）
	第3回	姿勢観察（背臥位・座位・4つ這い位・端座位・立位・他）と口述表現（目標1,2）
	第4回	姿勢観察（背臥位・座位・4つ這い位・端座位・立位・他）と記述表現。担当教員が添削する。（目標1,2）
	第5回	寝返り・立ち上がり動作・他について、重心移動と支持基底面から学習する。（目標1,2）
	第6回	動作（運動）観察と記述表現。担当教員が添削する。（目標1,2）
	第7回	患別の姿勢・動作（運動）観察と評価（目標1,2,3）
	第8回	疾患別の姿勢・動作（運動）観察及び推論とその評価（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	・今後学習する評価項目の概要を知っておくこと。
	復習	・基本的な運動学について予習しておくこと ・各姿勢の名称を口述・記述できるようにしておくこと。
	展開	・座学と実技を混ぜて学習する。
成績評価	評価の基準	達成目標に到達し、この授業での学習事項を十分理解していること。（前提として既定の出席日数が必要）
	評価の方法	定期試験80%、レポート・発表20%（定期試験を含めて60%以上を合格とする）
教科書	書籍名	標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」
	著者名	監修　奈良　勲，編集　高橋正明
	出版社	医学書院
	価格	4,935円
	ISBN・ISSN	978-4-260-26666-6
推薦図書等		
参考URL		
備考	学生の理解度に応じて、講義内容及び進め方を変更します。	

2015年度シラバス

運動器系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT301
開講年度	2015年度
登録コード	A2050101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動器系疾患理学療法学
科目責任者	小山内　正博
担当教員	上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	木1
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	組織再生と修復、骨折と脱臼、高齢者の骨折、関節リウマチ
授業のねらい・概要	組織の再生・修復過程に合わせた治療理論、加えて骨折、脱臼、高齢者の骨折、関節リウマチの理学療法を行う上で必要な特徴，診断，検査，測定，評価，理学療法，リスク管理について学習する。
学生の達成目標	目標1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 目標2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し実施できる。 目標3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる。

授業内容	第1回	組織再生・修復:総論 (目標1)
	第2回	組織再生・修復:評価 (目標2)
	第3回	組織再生・修復:治療 (目標3)
	第4回	骨折と脱臼:総論 (目標1)
	第5回	骨折と脱臼:評価 (目標2)
	第6回	骨折と脱臼:治療 (目標3)
	第7回	高齢者の骨折:上肢骨折 (目標1)
	第8回	高齢者の骨折:大腿骨頚部骨折,脊椎圧迫骨折 (目標1)
	第9回	高齢者の骨折:評価　(目標2)
	第10回	高齢者の骨折:治療　(目標3)
	第11回	関節リウマチ:総論 (目標1)
	第12回	関節リウマチ:評価 (目標2)
	第13回	関節リウマチ:治療 (目標3)
	第14回	総括 (目標1～3)
	第15回	総括 (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	各回の教科書該当単元を熟読し臨むこと。また解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学・評価学・運動療法学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。
	復習	各疾患の特徴、病因と症状の関係、診断,手術,管理などの知識を身につける。検査,測定を症状に合わせて選択・実施し、結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明でき実施できるようにすること。
	展開	疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明します。
成績評価	評価の基準	運動器系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 80%，レポート・小テスト20%
教科書	書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅰ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73229-9
	書籍名	理学療法テキスト障害理学療法学 Ⅱ
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2 ,400円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978 -4-521-73230-5
推薦図書等		

書籍名	整形外科　術後理学療法プログラム　改訂第２版
著者名	島田洋一
出版社	メジカルビュー社
価格	5500円
ISBN・ISSN	ISBN978-4-7583-1477-0

参考URL	
備考	実技も行います。動きやすい服装で参加すること。

2015年度シラバス

運動器系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT302
開講年度	2015年度
登録コード	A2051101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	運動器系疾患理学療法学実習
科目責任者	小山内　正博
担当教員	上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	木1, 2
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	変形性関節症、脊椎疾患、肩関節周囲炎、肩の外傷、膝靱帯損傷
授業のねらい・概要	変形性関節症、脊椎疾患、肩関節周囲炎、肩の外傷、膝靱帯損傷の理学療法を行う上で必要な特徴，診断，検査，測定，評価，理学療法，リスク管理について学習する。
学生の達成目標	目標1：各疾患の特徴を理解し診断,手術,管理などの基礎知識を身につける。 目標2：検査,測定を各疾患に合わせて選択し実施できる。 目標3：統合的に評価し一般的な治療プログラムの立案・実施ができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 変形性股・膝関節症:総論 (目標1) 変形性股・膝関節症:評価 (目標2)
	第2回	変形性股・膝関節症:治療 (目標3) 人工股・膝関節置換術:総論 (目標1)
	第3回	人工股・膝関節置換術: ADLトレーニング (目標3)
	第4回	頚部疾患:総論 (目標1) 頚部疾患:評価 (目標2)
	第5回	頚部疾患:治療 (目標3) 腰部疾患:総論 (目標1)
	第6回	腰部疾患:評価 (目標2) 腰部疾患:治療 (目標3)
	第7回	脊椎手術:総論 (目標1) 脊椎手術:評価 (目標2)
	第8回	脊椎手術:治療 (目標3) 肩関節周囲炎:総論 (目標1)
	第9回	肩関節周囲炎:評価 (目標2) 肩関節周囲炎:治療 (目標3)
	第10回	肩の外傷:総論 (目標1) 肩の外傷:評価 (目標2)
	第11回	肩の外傷:治療 (目標3) 膝靱帯損傷と半月板損傷:総論 (目標1)
	第12回	膝靱帯損傷と半月板損傷:評価 (目標2) 膝靱帯損傷と半月板損傷:治療 (目標3)
	第13回	総括1 (目標1～3)
	第14回	総括2 (目標1～3)
	第15回	総括3 (目標1～3)
予習・復習の内容	予習	各回の教科書該当単元を熟読し臨むこと。また解剖学・生理学・運動学・病理学・整形外科学・評価学・運動療法学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。
	復習	各疾患の特徴、病因と症状の関係、診断,手術,管理などの知識を身につける。検査,測定を症状に合わせて選択・実施し、結果の解釈ならびに統合を説明できるように復習すること。評価結果を踏まえた治療プログラムの立案理由を説明でき実施できるようにすること。
	展開	疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明します。
成績評価	評価の基準	運動器系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基本的な内容が理解できていること。また，その内容を実施でき説明することができることを合格基準とする。
	評価の方法	試験 80%，レポート・小テスト20%
教科書		
	書籍名	整形外科運動療法ナビゲーション　上肢・体幹
	著者名	整形外科リハビリテーション学会
	出版社	メジカルビュー社

	価格	6,800 円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-7583-1478-7
	書籍名	整形外科運動療法ナビゲーション　下肢
	著者名	整形外科リハビリテーション学会
	出版社	メジカルビュー社
	価格	6,800 円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-7583-1479-4
推薦図書等	書籍名	整形外科理学療法の理論と技術
	著者名	山嵜　勉
	出版社	メジカルビュー社
	価格	9 ,500円＋税
	ISBN・ISSN	ISBN： 978-4-89553-636-3
参考URL		
備考	実技中心となるため動きやすい服装で参加すること。 半年後には，一人で実際の患者様を評価し治療します。十分に心得て臨み復習すること。	

2015年度シラバス

成人中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT303
開講年度	2015年度
登録コード	A2052001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	郭　丹
担当教員	居村　茂幸 水上　昌文
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	火3, 4
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	2
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	成人中枢神経系疾患，理学療法学，機能回復
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する脳血管疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。 脊髄損傷における国際標準評価法,高位別に獲得ゴールおよび治療方法を教授する。

学生の達成目標	１．脳・脳血管（特に，脳）の構造と機能が理解できる。 ２．脳血管障害の病態像，各期の理学療法,評価法,治療法とADLを理解し，実施できる。 ３．脊髄損傷の病態、評価及び運動療法を理解し、実施できる
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション 中枢神経系疾患とは何か（目標1） 第2回　脳血管障害における病態とリスク管理 機能障害の成り立ち（目標1,2） 第3回　脳卒中患者の機能評価－SIASとFIM（目標1,2） 第4回　脳血管障害者急性期の理学療法 早期離床および注意事項（目標2） 第5回　脳血管障害者回復期の理学療法 治療の基本手技　ＲＯＭ訓練理論と実技（目標2） 第6回　脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション　上肢（目標2） 第7回　脳血管障害者回復期の理学療法 基本動作およびファシリテーション 下肢（目標2,3） 第8回　高次脳機能障害　Ⅰ－失認，失行 高次脳機能障害　Ⅱ－失語，認知能力，意識障害（目標1,2） 第9回　脳血管障害者回復期の理学療法－ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき（目標2） 第10回　脳血管障害の合併症および治療について 痙縮，肩関節亜脱臼について（目標2） 第11回　脳血管障害の合併症および治療について 肩手症候群，Pushing現象（目標2） 第12回　脳血管障害者生活期（維持期）の理学療法－ADL動作 身体機能と生活能力の結びつき（目標2） 第13回　脊髄損傷の概要，病態，神経学的評価 Key Words：神経学的高位判定，重症度判定，国際標準評価法脊髄損傷の運動療法 脊髄損傷の予後，獲得ゴール，理学療法計画のアルゴリズム Key Words：Zancolliの分類，損傷高位別予後予測，理学療法計画（目標3） 第14回　脊髄損傷，急性期～回復期の理学療法 Key Words：脊髄ショック，早期座位獲得，呼吸理学療法，座位バランス，プッシュアップ 「実習」脊髄損傷，急性期～回復期の理学療法 Key Words：positioning，胸郭拡張運動，排痰介助，座位バランス獲得、脊髄損傷の運動療法（目標3） 第15回　「実習」脊髄損傷，ADL練習 Key Words：プッシュアップ，起居移動移乗動作獲得 「講義」脊髄損傷，排泄，合併症の管理，歩行機能再建 Key Words：脊髄損傷の排尿メカニズム，自律神経障害，歩行機能再建、脊髄損傷の運動療法（目標3）
予習・復習の内容	予習　解剖学，神経内科学，リハビリテーション医学

	復習	前回の授業内容
	展開	脳血管障害の理学療法の実施ができること。 脊髄損傷における国際標準評価法による麻痺の評価ができる. 脊髄損傷の神経学的高位別に獲得ゴールを示すことができる. 急性期から回復期の理学療法について説明することができる. 急性期から回復期の理学療法（急性期のpositioning, 胸郭拡張運動, 排痰介助, 座位バランス獲得）を実践できる. 脊髄損傷者の起居, 移動, 移乗動作獲得のためのADL練習を実践できる. 脊髄損傷の排尿メカニズム, 自律神経障害, 歩行機能再建について説明出来る.
成績評価	評価の基準	理学療法を実践できるための, 最低限の必要な知識を習得する。
	評価の方法	定期試験100%
教科書	書籍名	脳卒中理学療法の理論と技術
	著者名	原　寛美, 吉尾　雅春
	出版社	メジカルビュー社
	価格	6,500円
	ISBN・ISSN	978-4-75831-147-2
推薦図書等	書籍名	チーム医療を担う医療人共通のテキスト　病気がみえるVol.7 脳・神経
	著者名	医療情報科学研究所　編集
	出版社	MEDIC　MEDIA
	価格	3,800円
	ISBN・ISSN	978-4-89632-358-0
参考URL		
備考	必要な資料等を授業中に配布する。 障害体験を積極的に行うこと。 関連する基礎医学および臨床医学の知識を, 講義前までに再確認しておくこと。 連絡方法：メールでも対応します。 （メールアドレス：t-kaku@uekusa.ac.jp）	

2015年度シラバス

成人中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT304
開講年度	2015年度
登録コード	A2053001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	成人中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	郭　丹
担当教員	居村　茂幸
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	月3, 4
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	中枢神経系，成人中枢神経系疾患，理学療法
授業のねらい・概要	解剖学，生理学，病理学で学んだ基礎医学と臨床医学の知識を基に，中枢神経系に由来する難病疾患，障害に対する理学療法の評価方法，問題の分析方法，治療技術などの知識を教授する。
学生の達成目標	１．成人中枢神経系難病に対する評価が実施できる。 ２．成人中枢神経系難病の評価結果の記録ができる。 ３．成人中枢神経系難病の理学療法が実施できる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第2回	パーキンソン病の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第3回	脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第4回	脊髄小脳変性症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第5回	筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第6回	筋萎縮性側索硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第7回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第8回	多発性硬化症の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第9回	多発筋炎・皮膚筋炎の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第10回	多発筋炎・皮膚筋炎の概説、理学療法評価、治療（目標1，2，3）
	第11回	ギラン・バレー症候群の理学療法理論と実践（目標1，2，3）
	第12回	ギラン・バレー症候群の理学療法理論と実践（目標1，2，3）
予習・復習の内容	予習	神経内科の関連知識、授業の講義内容
	復習	前回の授業の講義内容、神経内科学の関連知識
	展開	神経難病疾患の理学療法（評価・治療）を実施できること。
成績評価	評価の基準	評価や理学療法が実施できる。
	評価の方法	筆記試験100%
教科書	書籍名	中枢神経系理学療法
	著者名	柳澤健
	出版社	メジカルビュー社
	価格	4200円
	ISBN・ISSN	９７８４７５８３１１１２０
推薦図書等		
参考URL		
備考		障害体験を積極的に行う上，障害に対する理解を深め，治療を適切に行う。 成人中枢神経系疾患理学療法学を履修していることが望ましい。 実技を中心に行うので，実技可能な服装にて参加すること。 連絡方法：メールでも対応します （メールアドレス：t-kaku@uekusa.ac.jp）。

2015年度シラバス

小児中枢神経系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT305
開講年度	2015年度
登録コード	A2054001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月3
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	正常運動発達，脳性麻痺，重症心身障害児（者），発達期運動障害，発達障害
授業のねらい・概要	多種にわたる小児中枢系疾患を理解した上で，新生児からの発達の過程でこれらの疾患に伴う障害がどのように阻止要因となるかを理解する。それを前提に疾患別理学療法治療について学ぶ。また，脳性麻痺に関してはその障害分類を理解し，タイプ別の治療法について理解を深める。
学生の達成目標	1．出生後からの運動発達・姿勢反射について説明できる。 2．脳性麻痺の定義,病因等,病型別発達の特徴,筋緊張,変形・拘縮等の評価,適応装具(下肢装具・体幹装具・車椅子)を説明ができる。

3. 発達期の筋ジストロフィー,二分脊椎,ダウン症候群，発達障害の理学療法についての特徴を説明できる。

授業内容	第1回	オリエンテーション(授業の進め方,参考書,成績評価など),正常運動発達(1)(目標1)
	第2回	正常運動発達(2)(目標1)
	第3回	脳性麻痺総論(目標)(目標2)
	第4回	脳性麻痺の病型別発達と理学療法(目標2)
	第5回	脳性麻痺の評価と治療(1)痙直型四肢麻痺(目標2)
	第6回	脳性麻痺の評価と治療(2)痙直型両麻痺(目標2)
	第7回	脳性麻痺の評価と治療(3)アテトーゼ型,失調型,片麻痺型(目標2)
	第8回	脳性麻痺の理学療法と適応装具,座位保持について(目標2)
	第9回	脳性麻痺児に対する理学療法士として作業療法,言語聴覚療法との関わり(目標2)
	第10回	重症心身障害児の理学療法:概論と運動療法(目標2,3)
	第11回	重症心身障害児の理学療法:姿勢と呼吸(目標2,3)
	第12回	筋ジストロフィーの理学療法(目標3)
	第13回	二分脊椎・ダウン症候群・発達障害の理学療法(目標3)
	第14回	NICUにおける理学療法(目標 2,3)
	第15回	統括(目標1～ 3)
予習・復習の内容	予習	小児科学・運動学・解剖学・生理学など基礎科目を復習しておくこと
	復習	・どの項目でも正常発達が根幹になるので、正常発達に関して常に復習しておくこと ・各講義で簡単な復習ノートの作成を行う
	展開	デモンストレーションや視覚教材を混ぜて講義を行う。
成績評価	評価の基準	上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）
	評価の方法	試験 90%，小テスト 10% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	こどもの理学療法（第２版）
	著者名	監修　千住　秀明，編集代表　田原　弘幸
	出版社	神陵文庫
	価格	4 ,725円
	ISBN・ISSN	4915814203
推薦図書等	書籍名	子どもの理学療法：理学療法MOOK15
	著者名	編集　井上保、鶴見隆正
	出版社	三輪書店
	価格	4,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89590-318-9

書籍名	正常発達-脳性まひ治療への応用
著者名	著者　Jung Sun Hong翻訳　金子断行
出版社	三輪書店
価格	3,200＋税
ISBN・ISSN	978-4-89590-356-1

書籍名	機能的姿勢-運動スキルの発達-誕生から1歳まで
著者名	編集　Rona Alexander
出版社	協同医書出版
価格	4.500円＋税
ISBN・ISSN	978-4-7639-2067-6

書籍名	知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド
著者名	編集　新田收、笹田哲、内昌之
出版社	金原出版
価格	4,600円＋税
ISBN・ISSN	978-4-307-25154-9

参考URL	
備考	・実技指導を組み込んだ授業を行います ・その他の疾患に関する知恵や考え方も共有します

2015年度シラバス

小児中枢神経系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT306
開講年度	2015年度
登録コード	A2055001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	小児中枢神経系疾患理学療法学実習
科目責任者	松田　雅弘
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	（月曜日）9/28，10/5，10/19，10/26　1・2限目 （金曜日）9/25，10/2，11/27，12/4，12/18，1/8，1/15　3～5限目
教室	講義室19 運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	発達障害理学療法，脳性麻痺，正常発達
授業のねらい・概要	正常運動発達・姿勢反射について講義と実習を通して学習する。脳性麻痺の異常運動を映像で観察し，その異常運動を捉えるための学習を行う。脳性麻痺を中心とした臥位～立位までの姿勢・運動・歩行の分析を行い，実際に真似を行い，問題点の抽出と適切な治療方法を選択する。その他，発達障害理学療法分野における脳性麻痺以外の対象疾患の概要と理学療法評価・介入について理解する。
学生の達成目標	1．正常運動発達について理解し,姿勢などの模倣ができ、発達段階における姿勢反射について理解し,模倣できる。

2．脳性麻痺の姿勢,動作の分析を行い,問題点の抽出ができる。脳性麻痺の問題点抽出から,適切な運動療法を選択できる。
3．発達障害分野における理学療法の評価結果と治療の選択に関して説明できる。

授業内容

第1回　※各回の授業は２コマ及び３コマ連続で行います。
正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅰ（目標1）
＊寝返り動作

第2回　正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅱ（目標1）
＊起き上がり動作

第3回　正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅲ（目標1）
＊座位・立位姿勢と立ち直り反応

第4回　正常発達・姿勢反射の評価・体験Ⅳ（目標1）
＊歩行

第5回　脳性麻痺に関する評価からの治療選択（目標2）
＊痙直型麻痺児

第6回　脳性麻痺に関する評価からの治療選択（目標2）
＊アテトーゼ型麻痺児

第7回　脳性麻痺ケーススタディⅠ　痙直型両麻痺児（目標2）
＊動作分析・評価の立案

第8回　脳性麻痺ケーススタディⅠ　痙直型両麻痺児（目標2）
＊問題点抽出・運動療法の立案

第9回　脳性麻痺ケーススタディⅡ　痙直型両麻痺児（目標2）
＊動作分析・評価の立案

第10回　脳性麻痺ケーススタディⅡ　痙直型両麻痺児（目標2）
＊問題点抽出・運動療法の立案

第11回　脳性麻痺ケーススタディⅢ　痙直型四肢麻痺児（目標2）
＊動作分析・評価の立案

第12回　脳性麻痺ケーススタディⅢ　痙直型四肢麻痺児（目標2）
＊問題点抽出・運動療法の立案

第13回　筋ジストロフィー（DMD，福山型など）の理学療法の評価と治療に関するグループ発表Ⅰ（目標3）

第14回　筋ジストロフィー（DMD，福山型など）の理学療法の評価と治療に関するグループ発表Ⅱ（目標3）

第15回　筋ジストロフィー（DMD，福山型など）の理学療法の評価と治療に関するグループ発表Ⅲ（目標3）

予習・復習の内容

予習　・前期の小児中枢神経系疾患理学療法学を十分に復習しておくこと。
・発表課題，予習課題などを出すので課題を丁寧に仕上げること。

復習　・正常発達の理解を深める復習をしておくこと
・復習課題を丁寧に仕上げること

展開　・実技を踏まえて実施する。
・グループ学習と発表
・実際の患者画像から評価・治療の選択，考え方の学習
・OSCE形式の治療判断

成績評価

評価の基準　上記学生の達成目標に到達し，小児中枢系疾患理学療法学実習の基本事項を理解していること。（前提として規定の出席日数が必要）

	評価の方法	定期試験 70%，発表・レポート 30% 定期試験は 100点満点で 60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	知りたかった！ PT・OTのための発達障害ガイド
	著者名	編集　新田收，笹田哲，内昌之
	出版社	金原出版
	価格	4,600円+税
	ISBN・ISSN	978-4-307-25154-9
推薦図書等	書籍名	子どもの理学療法：理学療法MOOK15
	著者名	編集　井上保、鶴見隆正
	出版社	三輪書店
	価格	4,200円+税
	ISBN・ISSN	978-4-89590-318-9
	書籍名	正常発達-脳性まひ治療への応用
	著者名	著者　Jung Sun Hong翻訳　金子断行
	出版社	三輪書店
	価格	3,200円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-89590-356-1
	書籍名	機能的姿勢-運動スキルの発達-誕生から1歳まで
	著者名	編集　Rona Alexander
	出版社	協同医書出版
	価格	4,500円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7639-2067-6
参考URL		
備考	・小児中枢神経系疾患理学療法学の内容を踏まえて行うため，復習しておくこと。 ・視覚教材等を使用する。 ・グループ学習，発表を行う予定である。	

2015年度シラバス

内部障害系疾患理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT307
開講年度	2015年度
登録コード	A2056001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	小山内　正博 田上　未来
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	木3, 4
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	内部障害系疾患，呼吸メカニクス，呼吸器系疾患治療手技
授業のねらい・概要	内部障害疾患に起因する機能・運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識をもとに，その理学療法の理論と技術を習得し，臨床応用できる基礎を系統的に学習する。
学生の達成目標	1．内部障害系疾患の病態を理解し，説明できる。 2．内部障害と内部障害患者に対する理学療法施行に際し，医学的知識を関連付

けて説明できる。
３．呼吸機能不全を呈する疾患の病態，検査データについて理学療法と関連付けて説明できる。

授業内容	第1回　内部障害と理学療法(総論)1　（目標１） 第2回　内部障害と理学療法(総論)2　（目標１） 第3回　内部障害と運動の医学1(運動，呼吸循環)　（目標１～３） 第4回　内部障害と運動の医学2(運動，呼吸循環)　（目標１～３） 第5回　呼吸理学療法評価1　講義と実習(患者に触れること)1　（目標1,3） 第6回　呼吸理学療法評価2　講義と実習(患者に触れること)　（目標1,3） 第7回　呼吸理学療法評価3　講義と実習(胸郭運動と触診)　（目標1,3） 第8回　呼吸理学療法評価4　講義と実習(胸郭運動と触診)　（目標1,3） 第9回　呼吸理学療法評価5　講義と実習(聴診と打診)（目標1,3） 第10回　呼吸理学療法評価6　講義と実習(聴診と打診)（目標1,3） 第11回　呼吸理学療法治療技術1　講義と実習　（目標1,3） 第12回　呼吸理学療法治療技術2　講義と実習　（目標1,3） 第13回　呼吸理学療法治療技術3　講義と実習　（目標1,3） 第14回　呼吸理学療法治療技術4　講義と実習　（目標1,3） 第15回　呼吸理学療法治療技術5　講義と実習　（目標1,3）
予習・復習の内容	予習　各回の教科書該当単元を熟読し臨むこと。また解剖学・生理学・運動学・内科学に基づく内容が多いため，十分に復習し授業に臨むこと。 復習　各疾患の特徴，病因と症状の関係，診断，手術，管理などの知識を身につける。また理学療法の役割を理解し説明できるようにすること。 展開　疾患，診断，評価，理学療法それぞれにつながりがあります。その理由を中心に説明していきます。
成績評価	評価の基準　内部障害疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。 評価の方法　試験60%，レポート20%，小テスト等20%
教科書	書籍名　系統理学療法学　内部障害系理学療法学 著者名　居村　茂幸　編 出版社　医師役出版株式会社 価格　4,000円＋税 ISBN・ISSN　978-4-263-21174-8 書籍名　ゴールドマスターテキスト　内部障害系理学療法学 著者名　柳澤　健　著 出版社　メジカルビュー社 価格　4,500円＋税 ISBN・ISSN　978-4-7583-1113-7

推薦図書等	
参考URL	
備考	推薦図書等は，授業で紹介する。

2015年度シラバス

内部障害系疾患理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT308
開講年度	2015年度
登録コード	A2057001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	内部障害系疾患理学療法学実習
科目責任者	居村　茂幸
担当教員	小山内　正博 田上　未来
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	木3, 4
教室	運動療法室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	呼吸理学療法、心臓機能障害、糖尿病、運動処方、リスク管理
授業のねらい・概要	広い意味の内部障害（心臓機能障害、呼吸機能障害、代謝障害等）といわれる疾患それぞれに起因する機能・運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識をもとに、その理学療法（リスク管理、評価・運動療法・ＡＤＬ指導・生活環境支援）の理論と技術を習得し、臨床応用できる基礎を系統的に学習する。基本的に、呼吸・心大血管障害に対する理学療法技術の習得に重点をおく。

学生の達成目標	目標1：呼吸機能不全に対する理学療法について、手技とその手順を示し、その技術を駆使して日常生活指導ができる。 目標2：循環器疾患に対する理学療法について、手技とその手順や日常生活指導を説明できる。 目標3：糖尿病の理学療法について、手技とその手順を示し、その技術を駆使できる。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 循環器疾患の病態生理　（目標2） 第2回　循環器疾患の理学所見の取り方（目標2） 第3回　循環器疾患の心電図モニタリング　（目標2） 第4回　心肺運動負荷試験　（目標2） 第5回　呼吸器疾患の病態と分類（目標1） 第6回　呼吸器疾患の検査データの見方（目標1） 第7回　呼吸器疾患の評価（目標1） 第8回　呼吸器疾患への理学療法プログラム 1.コンディショニング（目標1） 第9回　呼吸器疾患への理学療法プログラム 2.運動療法（目標1） 第10回　呼吸器疾患への理学療法プログラム 3.ADLトレーニング（目標1） 第11回　酸素療法　（目標1） 症例検討 慢性呼吸不全　（目標1） 第12回　人工呼吸　（目標1） 症例検討 急性呼吸不全　（目標1） 第13回　運動負荷試験（6MDT・SWT）　（目標1） 吸引　（目標1） 第14回　がんと理学療法　（目標3） 第15回　糖尿病と理学療法　（目標3）
予習・復習の内容	予習　内科学・内部障害系疾患理学療法学で学習した各疾患に起因した機能・運動障害の成因・病態・回復過程・予後に関する知識を整理し臨むこと。 復習　理学療法（リスク管理、評価・運動療法・ＡＤＬ指導・生活環境支援）の理論と技術を中心に繰り返し練習すること。 展開　臨床応用できる基礎を系統的に学習する。
成績評価	評価の基準　内部障害系疾患の理学療法に関して授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明でき実施でることを合格基準とする。 評価の方法　試験と実技を中心に、小テスト・レポート成績を加味して評価します。実技40%、試験40%、小テスト・レポート20%。
教科書	書籍名　呼吸・心臓リハビリテーション 著者名　居村茂幸 出版社　羊土社

価格	4.600円+税
ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7581-0786-0

書籍名	ゴールドマスターテキスト　内部障害系理学療法学
著者名	柳澤健
出版社	メジカルビュー社
価格	4.500円+税
ISBN・ISSN	ISBN：978-4-7583-1113-7

推薦図書等	
参考URL	
備考	呼吸理学療法実習をはじめととして、学生同士で互いに体に触れることが多くなります。真摯で前向きな態度を望みます。 また実技実習において聴診器が必要となります。授業開始前に、各自準備して下さい。

2015年度シラバス

物理療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT203
開講年度	2015年度
登録コード	A2058001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学
科目責任者	田上　未来
担当教員	田中　直樹
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	月4または水2 （水曜日）6/17，6/24，7/1，7/8
教室	講義室19
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理刺激，生体反応，物理療法機器の特性
授業のねらい・概要	種々の物理刺激の特徴を理解し，これまでに学習した生理学，解剖学の基礎知識を背景に，物理療法学実習において機器を適切に使用できる能力を養う。
学生の達成目標	１．理学療法における物理療法の位置づけを理解する ２．内部刺激，外部刺激に対する生体反応を知る ３．物理療法学実習に向け機器の特性を理解できるようになる

授業内容	第1回	物理療法の基礎（目標1），リスク管理(目標1,2)
	第2回	温熱療法（1）－伝導熱：ホットパック，パラフィン浴（目標1-3）
	第3回	温熱療法（2）－輻射熱：赤外線療法（目標1-3）
	第4回	温熱療法（3）－エネルギー変換熱：超短波療法，極超短波療法（目標1-3）
	第5回	光線療法－紫外線療法，レーザー療法（目標1-3）
	第6回	寒冷療法（目標1-3）
	第7回	水治療法（目標1-3）
	第8回	超音波療法（目標1-3）
	第9回	超音波療法（目標1-3）
	第10回	電気刺激療法（1）－総論（目標1-3）
	第11回	電気刺激療法（2）－TENS，IFC，MENS（目標1-3）
	第12回	電気刺激療法（3）－筋収縮に対する物理療法（目標1-3）
	第13回	電気刺激療法（4）－機能的電気刺激療法，筋電図バイオフィードバック（目標1-3）
	第14回	電気刺激療法（5）-内部障害系疾患に対する物理療法の応用
	第15回	牽引療法（目標1-3），マッサージ療法（目標1，2）
予習・復習の内容	予習	指定教科書について，講義内容と対応する部分を読む
	復習	指定教科書について，講義内容と対応する部分を読む
	展開	講義で学習した基礎知識もとに，物理療法学実習において機器を適切に使用できるようになる
成績評価	評価の基準	上記目標を概ね達成していること
	評価の方法	試験（95%），レポート（5%）等による。 定期試験は100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　物理療法学・実習
	著者名	玉木彰
	出版社	中山書店
	価格	2,400円
	ISBN・ISSN	978-4-521-73670-9
	書籍名	最新物理療法の臨床適応
	著者名	床本康治
	出版社	文光堂
	価格	12,460円
	ISBN・ISSN	978-4-830-64376-7
推薦図書等		
参考URL		
備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。	

2015年度シラバス

物理療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT204
開講年度	2015年度
登録コード	A2059001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	物理療法学実習
科目責任者	田上　未来
担当教員	田中　直樹
授業形態	実習
開講時期	後期
曜日・時限	水4, 5
教室	治療室，水治室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	物理刺激，生体反応，物理療法機器の特性
授業のねらい・概要	物理療法学で学習したことを基礎として，各種物理療法機器の特徴を知り，適切な取り扱い方法を学ぶこと。また，物理刺激が生体に及ぼす影響について客観的な効果測定を実施することができること。
学生の達成目標	1．各種物理療法機器の特徴を知り，適切な取り扱い方法を学ぶこと。 2．物理刺激に対する人体の反応を利用する。

	３．各種物理療法機器を用いて，生体反応を測定し，物理療法の効果を定量的判定する。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 オリエンテーション，温熱療法の実習（1）（目標1-3） 第2回　温熱療法の実習（2）（目標1-3） 第3回　温熱療法の実習（3）（目標1-3） 第4回　寒冷療法の実習（目標1-3） 第5回　水治療法の実習(1)（目標1-3） 第6回　水治療法の実習(2)（目標1-3） 第7回　牽引療法の実習（目標1-3） 第8回　超音波療法の実習(1)（目標1-3） 第9回　超音波療法の実習(2)（目標1-3） 第10回　電気刺激療法の実習(1)（目標1-3） 第11回　電気刺激療法の実習(2)（目標1-3） 第12回　電気刺激療法の実習(3)（目標1-3） 第13回　電気刺激療法を用いた臨床応用（目標1-3） 第14回　マッサージ療法の実習（目標2） 第15回　まとめ
予習・復習の内容	予習　前期の物理療法学を中心に，解剖学，生理学を復習しておくこと。 復習　各種物理療法機器を適切に使用できるようにすること。 展開　各種物理療法機器の特性を把握し，物理刺激に対する生体の反応を理解し，物理療法機器を用いた治療が選択できるようになる事。
成績評価	評価の基準　上記目標を概ね達成していること。 評価の方法　試験（95%），レポート（5%）等による。 定期試験は100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	書籍名　15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　物理療法学・実習 著者名　玉木彰 出版社　中山書店 価格　2,400円 ISBN・ISSN　978-4-521-73670-9 書籍名　最新物理療法の臨床適応 著者名　床本康治 出版社　文光堂 価格　12,460円 ISBN・ISSN　978-4-830-64376-7
推薦図書等	
参考URL	

備考	この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。

2015年度シラバス

日常生活活動学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT309
開講年度	2015年度
登録コード	A2060001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学
科目責任者	永原　久栄
担当教員	三浦　達浩
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	（木曜日）11月に1回 3限，11月に1回 5限 （金曜日）9/25～11/27，1/8，1/15：3限，12/4，12/11，12/18：3･4限
教室	（木曜日3限）講義室19 （木曜日5限）治療室 （金曜日）講義室20，治療室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	2年次
免許・資格との関係	2年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ＡＤＬ，ＩＡＤＬ，ＩＣＦ，ＢＩ，ＦＩＭ
授業のねらい・概要	日常生活活動（ activities of daily living：ADL）の概念，内容，評価，基本的技術，適応について学ぶ。障害を持つ人の ADLについて評価し，適切な ADL支援を提案できることを目的とする。

学生の達成目標

1)ADL,IADL,QOL,ICF,生活機能評価を説明できる。
2)代表的な ADL評価法で評価ができる
3)代表的疾患・障害(片麻痺・四肢麻痺）についてＡＤＬ指導ができる。

授業内容

第1回　ADL　IADL、QOLの概念, 評価の方法(目標1)
第2回　ＡＤＬと運動障害 (目標1)(三浦)
第3回　ＡＤＬとＩＣＦ (目標1)(三浦)
第4回　ADLの評価１(バーセル指数) (目標1,2,3)
第5回　ADLの評価2(FIM①) (目標1,2,3)
第6回　ADLの評価3(FIM②) (目標1,2,3)
第7回　ADLの評価４（Katz ほか) (目標1,2,3)
第8回　自助具と作業療法①（ＯＴ）(目標3)
第9回　自助具と作業療法②（ＯＴ））（目標3)
第10回　ＡＤＬ支援機器とＡＤＬ歩行補助具 (目標3)
第11回　対麻痺・四肢麻痺・片麻痺のＡＤＬ指導１起居動作 (目標1,2,3)
第12回　対麻痺・四肢麻痺・片麻痺のＡＤＬ指導２移動動作 (目標1,2,3)
第13回　四肢麻痺・片麻痺のＡＤＬ指導３（更衣、入浴、トイレ動作 (目標1,2,3)
第14回　四肢麻痺・片麻痺のＡＤＬ指導４（食事、整容、ＩＡＤＬ，ＱＯＬ）(目標1,2,3)
第15回　ＡＤＬとＱＯＬ(目標1)

予習・復習の内容

予習　該当する教科書のページを良く読んでくること。
復習　代表的事例のＡＤＬ指導案を作成し、実演する。
展開　概念、評価、代表的疾患のＡＤＬ支援へと進める。

成績評価

評価の基準　授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
評価の方法　中間試験（ 20%），レポート課題（ 20%），期末筆記試験（ 60%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名　日常生活活動学・生活環境学
著者名　鶴見隆正・高島研吾編集
出版社　医学書院
価格　5,400円
ISBN・ISSN　978-4-260-01603-2

書籍名　動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション
著者名　田中宏太佳、園田茂
出版社　医学書院
価格　5,700円
ISBN・ISSN　978-4-260-00778-8

推薦図書等	書籍名	新版　姿勢と動作　ＡＤＬその基礎から応用
	著者名	斉藤宏、松村秩、矢谷令子
	出版社	メジカルフレンド社
	価格	3,500円
	ISBN・ISSN	4-8392-0918-9
	□上記の図書等は市販されていません。	

参考URL

備考

2015年度シラバス

日常生活活動学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT310
開講年度	2015年度
登録コード	A2061001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	日常生活活動学実習
科目責任者	永原　久栄
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	月4, 5
教室	運動療法室，講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ＡＤＬ評価，要介助者のＡＤＬ指導，片麻痺のＡＤＬ指導
授業のねらい・概要	疾患別，障害別の日常生活活動評価・指導法に基いて，学生同士での体験実習として， ADL評価，指導の方法を身につける。
学生の達成目標	１）ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ支援技法を具体的に述べることができ,模倣できる。 ２）ＡＤＬ要介助者に必要なリハビリテーション機器を選定し、模擬使用できる。 ３）ＡＤＬ要介助者のＡＤＬ能力を模擬評価し、ＡＤＬ指導ができる。

授業内容	第1回	※各回の授業は２コマ連続で行います。 運動障害重度・ＡＤＬ自立事例の起居移動動作指導を学生同士討議し、模擬実演する（目標１）
	第2回	運動障害重度・ＡＤＬ自立事例の装具・歩行補助具を選定し、学生同士討議し、模擬実演する（目標2）
	第3回	運動障害重度・ＡＤＬ自立事例のＡＤＬ評価を、学生同士討議し、発表する（目標３）
	第4回	フィードバックと解説、ミニＯＳＣＥ実施(目標１，２,３）
	第5回	運動障害重度・ＡＤＬ全介助事例の起居移動動作指導を学生同士討議し、模擬実演する（目標１）
	第6回	運動障害重度・ＡＤＬ全介助事例の装具・車椅子を選定し、学生同士討議し、模擬実演する（目標2）
	第7回	運動障害重度・ＡＤＬ全介助事例のＡＤＬ評価を、学生同士討議し、発表する（目標３）
	第8回	フィードバックと解説、ミニＯＳＣＥ実施(目標１，２,３）
	第9回	運動障害重度・ＡＤＬ中等度要介助事例の起居移動動作指導を学生同士討議し、模擬実演する（目標１）
	第10回	運動障害重度・ＡＤＬ中等度要介助事例の装具・車椅子を選定し、学生同士討議し、模擬実演する（目標2）
	第11回	運動障害重度・ＡＤＬ中等度要介助事例のＡＤＬ評価を、学生同士討議し発表する（目標３）
	第12回	スペシャル講義と実習 ＲＡ,脳性まひ者等のための「足底板」(目標１,３）
予習・復習の内容	予習	日常生活活動学で学んだことをもとに対象疾患のＡＤＬを予習しておくこと。
	復習	障害度別のＡＤＬ支援内容を確認する。
	展開	ＡＤＬ指導の実践ができる。
成績評価	評価の基準	授業回数の５分の４以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	期末実技試験（ 60%）、討議発表の仕方（ 20%），ミニＯＳＣＥ（20%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。

教科書

書籍名	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション
著者名	田中宏太佳／編　園田茂／編
出版社	医学書院
価格	5,700円
ISBN・ISSN	978-4-260-00778-8

書籍名	脊髄損傷
著者名	初山泰弘他
出版社	医歯薬出版
価格	４,500円

	ISBN・ISSN	4263218329
	書籍名	脳卒中リハビリテーション
	著者名	近藤 克則, 大井 通正 編
	出版社	第２版医歯薬出版
	価格	5,200円
	ISBN・ISSN	4263215273
推薦図書等	書籍名	姿勢と動作
	著者名	斉藤宏、矢谷令子、丸山仁司
	出版社	メジカルフレンド
	価格	3,600円
	ISBN・ISSN	978-4-8392-1350-3
参考URL		
備考	ADL動作の練習を行なうために体を動かしやすい服装で出席すること（ジャージの上下など）。　2年後期の「日常生活活動学」を復習しておくこと。	

2015年度シラバス

リハビリテーション工学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP303
開講年度	2015年度
登録コード	A2062101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	リハビリテーション工学
科目責任者	田上　未来
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	金2　※10/9～
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	リハビリテーション工学，福祉機器，医学と工学の連携
授業のねらい・概要	理学療法士として，身体障害に対し工学的対応が図れること，またエンジニアなどの他職種と協働し，身体障害者のQQLを高めることができる能力を養う。
学生の達成目標	１．国際福祉機器展，福祉工学に関する研究所等を見学し，福祉機器の現状と課題を学ぶ。 ２．種々の福祉機器の構造と活用方法について理解する。 ３．理学療法士として，他職種と協働し，身体障害に対し工学的対応を検討できる能力を養う。

授業内容	第1回	リハビリテーション工学の歴史と発展（目標1,3）
	第2回	国際福祉機器展H.C.R.2015参加（目標1～3）
	第3回	国際福祉機器展H.C.R.2015参加（目標1～3）
	第4回	国際福祉機器展H.C.R.2015報告会（目標1～3）
	第5回	福祉機器の開発と規格（目標2,3）
	第6回	医学と工学の連携（目標3）
	第7回	医学と工学の連携－歩行訓練器（目標2,3）
	第8回	医学と工学の連携－歩行ロボット（目標2,3）
	第9回	医学と工学の連携－歩行ロボット（目標2,3）
	第10回	最新の機器と今後の発展－姿勢保持装置，リフト，環境制御装置
	第11回	最新の機器と今後の発展－車椅子（目標2,3）
	第12回	福祉機器と生活環境(目標2)
	第13回	福祉工学研究所見学（目標1～3）
	第14回	福祉工学研究所見学（目標1～3）
	第15回	福祉工学研究所見学報告会（目標1～3）
予習・復習の内容	予習	教科書を読む，またはインターネット等で資料を収集する。
	復習	講義で配布した資料を整理する。作成したレポートおよび報告会での内容をまとめておく。
	展開	最新の福祉機器に関心がもてること。
成績評価	評価の基準	上記目標1～3を理解できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験（95%），レポート（5%）等による。 定期試験は100点満点で60点以上を合格とする。
教科書	書籍名	生活支援工学概論
	著者名	日本生活支援工学会，日本リハビリテーション工学協会　編
	出版社	コロナ社
	価格	3,024円
	ISBN・ISSN	978-4-339-07235-8
推薦図書等		
参考URL		
備考	国際福祉機器展の見学，福祉工学研究所関連の見学は別途日時を定めて実施します。 尚，この授業の内容や講義の順序は必要に応じて変更することがあります。	

2015年度シラバス

スポーツ理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT315
開講年度	2015年度
登録コード	A2063001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	スポーツ理学療法学
科目責任者	上倉　將太
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	6/4，8/6　1～5限
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	アスレティックリハビリテーション，競技力向上，障害予防
授業のねらい・概要	スポーツ傷害における代表的疾患に対する理学療法を理解し，アスレティックリハビリテーションの方法と障害予防についてや，競技力向上について学ぶ。
学生の達成目標	１．スポーツ理学療法の概要を理解する。 ２．スポーツ傷害に対するアスレティックリハビリテーションを選択実施できる。 ３．スポーツ理学療法を通じて，他のスタッフとのコミュニケーションを図ることができる。

授業内容	第1回	スポーツ理学療法の状況（目標1） 運動療法の基礎知識
	第2回	スポーツ外傷・障害に対する評価 整形外科的テスト（目標2）
	第3回	アスリートのコンディショニング法 テーピング（目標2,3）
	第4回	アスリートのコンディショニング法 ストレッチ（目標2,3）
	第5回	足関節内反捻挫に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
	第6回	前十字靱帯損傷に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
	第7回	投球障害肩・野球肘に対するアスレティックリハビリテーション（目標2,3）
	第8回	スポーツ理学療法における障害予防プログラムの実際（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習	スポーツ理学療法の基本となる解剖学，運動学，運動器系理学療法を一読してくる。
	復習	授業の配布資料を熟読する。
	展開	スポーツ疾患の理学療法の知識を深める。
成績評価	評価の基準	授業回数の3分の2以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
	評価の方法	期末試験（80%）、授業内課題（20%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド
	著者名	臨床スポーツ医学編集委員会：編
	出版社	文光堂
	価格	7,350円
	ISBN・ISSN	978-4-8306-5135-9
	書籍名	スポーツマッサージ
	著者名	福林徹　監修
	出版社	文光堂
	価格	7,000円
	ISBN・ISSN	4-8306-5146-6
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

高次脳機能障害学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT311
開講年度	2015年度
登録コード	A2064001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	高次脳機能障害学
科目責任者	渡辺　学
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	10/16, 10/23, 10/30, 11/6：4・5限
教室	講義室20
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	高次脳機能障害・失行症・半側空間無視
授業のねらい・概要	理学療法士にとって臨床的に必要な，脳損傷例に認められる高次脳機能障害の概要を理解し，各症状の評価方法と治療アプローチについて概説する。
学生の達成目標	1.高次脳機能障害とは何かを理解する。 2.主要な高次脳機能について発現メカニズムとアプローチ法を理解する。 3.高次脳機能障害の基本的評価について理解する。
授業内容	第1回　総論1:高次脳機能障害の概観(目標1) 第2回　各論1:意識障害,注意障害の概要と治療アプローチ(目標2)

	第3回	各論1:全般性認知障害,記憶障害の概要と治療アプローチ(目標2)
	第4回	各論2:半側空間無視の概要と治療アプローチ(目標2)
	第5回	各論3:視覚失認,その他の空間認知に関する概要と治療アプローチ(目標2)
	第6回	各論4:失行症の概要と治療アプローチ(目標2)
	第7回	各論5:遂行機能障害,その他の行為障害に関する概要と治療アプローチ(目標2)
	第8回	各論6:失語症の概要と治療アプローチ(目標2) 総論2：高次脳機能障害の基本的評価(目標3)
予習・復習の内容	予習	脳卒中の発生メカニズムを理解しておくこと。 予習：リハビリテーションと理学療法とは何かを自らの考えで整理しておくこと。
	復習	理解できなかった部分を抽出しておくこと。 演習：質問を考えておくこと。
	展開	脳の機能に関する最新の研究成果を、様々な資料の中で最もわかりやすいものを抽出し理解する。
成績評価	評価の基準	原則として欠席は認めない。高次脳機能障害に関して，授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。授業内容をもとに高次脳機能障害についてその評価と治療アプローチについて的確に説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	講義への態度10%，筆記試験90%
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する	
推薦図書等	書籍名	高次脳機能障害学　第2版
	著者名	石合純夫
	出版社	医歯薬出版
	価格	4,752円
	ISBN・ISSN	978-4263213964
参考URL		
備考	高次脳機能障害が理学療法の臨床にどのように関連し，脳卒中をどのように捉えていくかを中心に講義します。	

2015年度シラバス

プロフェッショナルセミナーⅠ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE302
開講年度	2015年度
登録コード	A2065101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルセミナーⅠ
科目責任者	小山内　正博
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 佐藤　将朗 永原　久栄 郭　丹 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太 山本　雅哉
授業形態	演習
開講時期	後期
曜日・時限	月～金1～5
教室	講義室17, ゼミ室8, ゼミ室16
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎医学、理学療法基礎専門科目、理学療法専門科目、総合的なアプローチ、臨床応用
授業のねらい・概要	基礎的な知識を基に、疾患と障害との関係や総合的なアプローチについて再確認する。卒業後、臨床の現場で実際に応用できるよう学習する。
学生の達成目標	目標１　基礎医学の知識を整理し定着させる。 目標２　理学療法基礎科目の知識を整理し定着させる。 目標３　理学療法専門科目の知識を整理し定着させる。
授業内容	第1回　解剖学　基礎知識のレビュー（目標１） 第2回　生理学・病理学　基礎知識のレビュー（目標１） 第3回　運動学　基礎知識のレビュー（目標2） 第4回　臨床心理学・精神医学　基礎知識のレビュー（目標１） 第5回　人間発達学・小児科学　基礎知識のレビュー（目標１） 第6回　内科学　基礎知識のレビュー（目標１） 第7回　神経内科学　基礎知識のレビュー（目標１） 第8回　整形外科学　基礎知識のレビュー（目標１） 第9回　リハビリテーション概論　基礎知識のレビュー（目標1） 理学療法概論　基礎知識のレビュー（目標2） 第10回　運動療法　基礎知識のレビュー（目標2） 生体力学　基礎知識のレビュー（目標2） 第11回　物理療法　基礎知識のレビュー（目標3） 理学療法評価　基礎知識のレビュー（目標2） 第12回　運動器系疾患理学療法学　基礎知識のレビュー（目標3） 脊髄損傷　基礎知識のレビュー（目標3） 第13回　脳血管障害理学療法学　基礎知識のレビュー（目標2） 神経筋疾患理学療法学　基礎知識のレビュー（目標2） 第14回　小児疾患理学療法学　基礎知識のレビュー（目標3） 日常生活動作　基礎知識のレビュー（目標2） 第15回　内部障害系疾患理学療法学　基礎知識のレビュー（目標3） 義肢装具学　基礎知識のレビュー（目標2）
予習・復習の内容	予習　これまで行ってきた該当授業の資料・教科書を熟読し臨むこと。 復習　該当授業の知識を整理し徹底的に定着させる。 展開　卒業後、臨床の現場で実際に応用できるよう学習する。
成績評価	評価の基準　上記目標を達成し、理学療法士としての基礎知識が定着していること。 評価の方法　成績判定は，課題50%，期末試験50%とする．期末試験の追再試験は1回のみ実施する．
教科書	4年次までに授業で使用した全ての教科書及び資料。また必要に応じて推薦図書を紹介する。
推薦図書等	
参考URL	

備考	本授業は、臨床実習終了後に行う。知識の整理し定着程度を外部模試も併用し確認する。また篠原試験対策を実施する。出席は外部模試および篠原試験対策の14回と，期末試験1回の計15回でとる。毎回の外部模試後に(1週間程度)，外部模試の復習を目的とした課題を提出させ，成績判定に加味する.

2015年度シラバス

プロフェッショナルセミナーⅡ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE303
開講年度	2015年度
登録コード	A2065201
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルセミナーⅡ
科目責任者	郭　丹
担当教員	永原　久栄 小山内　正博 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	前期
曜日・時限	集中
教室	治療室
卒業要件	保健医療学部：　選択
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　選択

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ボバース治療手技、ＰＮＦ治療手技、関節モビライゼーション、骨格筋の触察法、運動動作分析

授業のねらい・概要	解剖学，生理学，運動学、運動療法等の基礎知識を基に，臨床現場での理学療法治療場面でよく使われている治療手技を学習し、臨床の現場で応用ができるようにする。
学生の達成目標	1、治療手技の理論を理解する 2、治療手技の実施ができる 3、治療手技の応用方法を覚える
授業内容	第1回　※授業は２コマから４コマ連続で行います。 骨格筋の形と触察法（目標1,2,3） 第2回　骨格筋の形と触察法（目標1,2,3） 第3回　関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第4回　関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第5回　関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第6回　関節モビライゼーション治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第7回　ボバース治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第8回　ボバース治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第9回　ボバース治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第10回　ボバース治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第11回　ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第12回　ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第13回　ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第14回　ＰＮＦ治療手技の基礎と実践（目標1,2,3） 第15回　運動動作分析の基本（目標1,2,3）
予習・復習の内容	予習　解剖学、生理学、機能解剖学 復習　各治療手技の理論と実践 展開　健常者同士の反復練習により臨床場面で応用できる
成績評価	評価の基準　各治療手技の目的を理解し，実習を実施し，理学療法臨床場面で応用できるように関連する知識をの習得を合格基準とする。 評価の方法　定期試験100%（規定の出席日数を出席していることを前提とする）
教科書	
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

地域理学療法学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP301
開講年度	2015年度
登録コード	A2066001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学
科目責任者	永原　久栄
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	5/15：4限 5/22，5/29，6/12，6/19，6/26，7/3：3・4限 7/10，7/17：3限
教室	講義室18
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	ＩＣＦ，ＣＢＲ，目標設定，生活指導，住宅改修
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術について習得する。家庭訪問による訪問リハビリテーションサービスや，施設における入所，通所リハビリテーションサービスに携わる理学療法士に必要な知識・技術・実施方法を学ぶ。地域理学療法を実践する専門家としての基本的姿勢・態度についても習得する。

学生の達成目標

	１）地域理学療法の必要背景,関連する法,制度の変遷を説明し,現状の課題を提案できる。 ２）地域理学療法における生活指導について述べることができる。 ３）住宅改修と福祉用具活用支援の関係について説明できる。
授業内容	第1回　地域理学療法の背景，障害の概念の変化(目標1) 第2回　制度の変遷と地域理学療法の発展(目標1) 第3回　介護保険と地域理学療法(目標1) 第4回　ケアマネジメント(目標1) 第5回　訪問サービスにおける生活指導，評価，目標設定　(目標2) 第6回　訪問サービスの実際(対人援助技術)　(目標2) 第7回　訪問サービスの実際（訪問プログラム）(目標２,３) 第8回　通所・入所サービスの個別評価、事業評価　(目標１,２) 第9回　通所・入所サービスの実際　(介護老健施設、特養ホーム等)　(目標１,２,３) 第10回　地域に根ざしたリハビリテーション（ＣＢＲ）（目標1,２,３） 第11回　生活場所からみた住宅改修の方法１（玄関、廊下、浴室、トイレ）(目標３) 第12回　生活場所からみた住宅改修の方法２（居間、寝室、台所））(目標３) 第13回　住宅改修案作り１（目標3) 第14回　住宅改修案作り2（目標3) 第15回　まとめ(目標１－３)
予習・復習の内容	予習　授業第１回目に、授業内容と教科書の該当ページを提示するので、各回とも、事前に一読してくること。 復習　前回の授業内容の重要なキーワードについて、２－５００字程度の説明ができる。 展開　この授業で学習したことをもとに、学外実習（９月集中）として、介護老人保健施設、訪問ステーションの見学実習を行う。
成績評価	評価の基準　授業回数の３分の２以上の出席の上，到達目標に挙げた各内容が理解できていること。 評価の方法　住宅改修案レポート（２0%），訪問リハ課題（10%），期末筆記試験（70%）を総合して評価。ただしこの比率は，若干変更する可能性がある。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する プリントを配布する
推薦図書等	書籍名　現場から学ぶ自立支援のための住宅改修 著者名　鶴見隆正ほか 出版社　医学書院 価格　2,400円 ISBN・ISSN　978-4-260-00454-1
参考URL	

備考

2015年度シラバス

地域理学療法学実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCP302
開講年度	2015年度
登録コード	A2067001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	地域理学療法学実習
科目責任者	永原　久栄
担当教員	上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	前期
曜日・時限	前期：金曜日　7/17 4限，7/24 3･4限 後期：金曜日　9/25 1･2限，10/2 1･2限　※8/31～2週間学外実習
教室	（前期）講義室18 （後期）講義室21，22
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	介護老人保健施設、訪問リハビリテーション、介護保険制度、住宅改修、福祉用具
授業のねらい・概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術を習得する。地域における保健・医療・福祉のサービスの内容を知り，そこで理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを，地域の機関・施設（介護老人保健施設，訪問看護ステーション等）を見学し，サービス活動に参加することを通して学ぶ。

学生の達成目標	1）地域におけるサービス実施機関のサービス内容を把握し,理解できる。 2）職員,対象者に対して適切なコミュニケーションが取れ,見学に必要な態度を工夫できる。 3）地域理学療法の実施を補助する。
授業内容	第1回　※各回の授業は２コマ連続で行います。 地域理学療法学実習オリエンテーション（目標1-２） 第2回　「現場のケアマネジャーの実践」について学ぶ（目標１－２） 第3回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第4回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第5回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第6回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第7回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第8回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第9回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第10回　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日見学（目標１－３） 第11回　グループごとに「介護老人保健施設３日間」の発表、レポートとデイリー指導（目標１） 第12回　グループごとに「訪問・通所１日見学」の発表、レポートとデイリー指導（目標１）
予習・復習の内容	予習　自分が見学する施設（介護老人保健施設、訪問・通所施設）について、資料、ホームページなどから調べ、まとめておくこと。 復習　地域理学療法学で学んだことを復習しておく。 展開　前期にオリエンテーションと、関連講義を2回（4コマ）実施、学外見学は9月の第1,2週に合計4日間で実施、後期に2回（4コマ）で発表を行う。
成績評価	評価の基準　介護老人保健施設３日間、訪問・通所１日の学外見学に出席の上,課題発表を行えること。 評価の方法　グループ発表（２回）（50%），見学レポート（ 50%）を総合して評価する。この比率は最終的には若干変更する可能性がある。
教科書	植草学園大学地域理学療法学実習の手引き（授業で配布） 書籍名　（続）症例レポートの書き方 著者名　宮原英夫監修 出版社　朝倉書店 価格　3,200円 ISBN・ISSN　978-4-254-33504-0
推薦図書等	書籍名　地域リハビリテーション学テキスト 著者名　細田多穂　監修 出版社　南江堂 価格　4,200円

ISBN・ISSN　978-4-524-26957-0

□上記の図書等は市販されていません。

参考URL

備考

2015年度シラバス

義肢学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT312
開講年度	2015年度
登録コード	A2068101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	義肢学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	前期
曜日・時限	水2限（第4週のみ） 水3限（第4週以外）
教室	義肢装具加工室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	切断，義肢，アライメント，理学療法，支給システム
授業のねらい・概要	切断に関する医学的知識を身につけ，下肢切断者の理学療法を理解し実施できる。各種義足の構造と各部品について理解し，アライメントの調整ができる。姿勢・歩行動作に与える影響を学習し調整できる。支給システムについて理解できる。
学生の達成目標	目標1：切断に関する医学的知識を身につける 目標2：各種の義肢の構造と各部品について理解できアライメントの調整ができ

る。
目標3：下肢切断者の理学療法を理解し実施できる。

授業内容	第1回	切断と義肢の基礎知識（目標１・２）
	第2回	早期義肢装着法と義足適合の流れ（目標１・２）
	第3回	大腿切断・膝離断の基本と義足構造（目標１・２）
	第4回	大腿義足・膝義足のアライメント（目標２・３）
	第5回	下腿切断・サイム切断の基本と義足構造（目標１・２）
	第6回	下腿義足・サイム義足のアライメント（目標２・３）
	第7回	股離断・片側骨盤切除・足部離断の義足構造とアライメント（目標１・２・３）
	第8回	下肢切断の評価（目標１・2・3）
	第9回	下肢切断の義足装着前理学療法（目標１・3）
	第10回	疾患別の留意点（目標１・3）
	第11回	義足装着理学療法（目標２・３）
	第12回	義肢装具の支給体系とチームアプローチ（目標1・3）
	第13回	ベンチアライメント調整（目標2・3）
	第14回	ベンチアライメント調整（目標2・3）
	第15回	まとめ（目標１・2・3）
予習・復習の内容	予習	教科書の各該当単元を熟読すること。また関連する解剖学・運動学の復習も合わせて行うこと。
	復習	知識として備えなければならない事が多いです。各回ごとに絵を描き，まとめ整理してください。
	展開	切断に関する医学的知識，各種義足の構造と各部品，アライメントの概念，姿勢・歩行動作に与える影響について学習する。
成績評価	評価の基準	授業で取り上げた基礎的な内容が理解できていること。また，その内容を説明できることを合格基準とする。
	評価の方法	試験80%，レポート・小テスト20%
教科書	書籍名	理学療法テキスト　義肢学
	著者名	石川　朗
	出版社	中山書店
	価格	2400円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-521-73225-1
推薦図書等		
参考URL		
備考		

2015年度シラバス

装具学

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HPT313
開講年度	2015年度
登録コード	A2069101
科目区分	理学療法科目
授業科目名	装具学
科目責任者	小山内　正博
授業形態	講義
開講時期	後期
曜日・時限	水2限（第4週のみ） 水3限（第4週以外）
教室	義肢装具加工室
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	装具療法，チェックアウト，姿勢，歩行
授業のねらい・概要	装具の構造と各部品について理解する。各種疾患別に装具を選択できる。装具のチェックアウトができる。装具が，姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できる。
学生の達成目標	目標1：装具の構造と各部品について理解できる。 目標2：各種疾患別に装具を選択できる。 目標3：装具のチェックアウトができ姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できる。

授業内容	第1回　総論（目標１～3） 第2回　装具の部品と機能（目標１） 第3回　短下肢装具（目標１・２・3） 第4回　長下肢装具（目標１・２・3） 第5回　靴型装具（目標１・２・3） 第6回　下肢装具のチェックアウト（目標３） 第7回　体幹装具（目標１・２） 第8回　上肢装具（目標１・２） 第9回　疾患別装具の処方（１）－脳卒中片麻痺の装具－（目標２） 第10回　疾患別装具の処方（２）－整形外科疾患の装具－（目標２） 第11回　疾患別装具の処方（３）－関節リウマチの装具－（目標２） 第12回　疾患別装具の処方（４）－対麻痺・小児の装具－（目標２） 第13回　チェックアウト　長下肢装具　（目標３） 第14回　チェックアウト　金属支柱付き短下肢装具　（目標３） 第15回　チェックアウト　プラスチック短下肢装具　（目標３）
予習・復習の内容	予習　解剖学・運動学を中心に十分に復習し授業に臨むこと。 復習　知識として備えなければならないことが多いです。各回ごとに絵を描き，まとめ整理してください。 展開　装具の構造・各部品の適応について学習する。各種疾患別に装具を選択。装具のチェックアウト，調整を行う。
成績評価	評価の基準　装具の構造・各部品の適応について理解できていること。装具のチェックアウトができ説明できること。また姿勢，歩行動作に与える影響を理解し調整できること。 評価の方法　試験80%，レポート・小テスト20%
教科書	書籍名　理学療法テキスト　装具学 著者名　石川　朗 出版社　中山書店 価格　2400円＋税 ISBN・ISSN　978-4-521-73226-8
推薦図書等	
参考URL	
備考	

2015年度シラバス

理学療法評価学臨床実習

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE401
開講年度	2015年度
登録コード	A2070001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	理学療法評価学臨床実習
科目責任者	三浦　達浩
担当教員	永原　久栄 郭　丹 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 上倉　將太
授業形態	実習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	3年次
免許・資格との関係	3年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価，目標設定，治療計画
授業のねらい・概要	学内で学んだ理学療法の知識、技術を用い、臨床実践を体験する。臨床の場で、基本的な評価・治療を患者に対して適切に実施することを学ぶ。

学生の達成目標	１．医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ，行動することができる。 ２．症例に即した検査・側定・記録ができ，問題点の抽出，目標の設定および基本的な治療計画の立案ができる。 ３．記録と報告が適切に実施できる。
授業内容	・後期２月から３月の間に，臨床現場での実践実習（4週間）（目標1,2,3） ・担当教員は巡回指導にあたる。
予習・復習の内容	予習　理学療法評価学臨床実習に必要な、基礎知識、技術の整理、練習をしておくこと。 復習　現場で学んだ知識、技術について、整理しまとめ、この後、受講することになる総合臨床実習Ｉへの準備につなげること。 展開　続いて受講する総合臨床実習Ｉ、総合臨床実習Ⅱへとつなげていく。
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。 評価の方法　実習施設の実習指導者の評価・意見（80%）と，提出されたレポートおよび発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する １年から3年まで使用したすべての教科書、資料。担当した症例に関する文献・資料。
推薦図書等	書籍名　３日間で行う理学療法臨床評価プラニング 著者名　中山恭秀（編集） 出版社　南江堂 価格　3,200円＋税 ISBN・ISSN　978-4524268146 書籍名　PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド 著者名　山口美和 出版社　医学書院 価格　2,800円＋税 ISBN・ISSN　978-4260015691
参考URL	
備考	１．３年次前期までに配置されているすべての必修科目を履修し，単位を修得していること。 ２．学外実習では，態度，服装，頭髪（茶髪，男子の長髪は厳禁）および装飾品（厳禁，ピアスの穴は閉じていること）等については医療人としての常識が必要となる。 ３．「アドバンストセミナー」で，必要な知識・技術を習得してから実施する。 ４．欠席は病気療養や忌引きなど不測の事態に対処するためのものであり，理由のない欠席は認めない。

5．実習は予定施設のご厚意によって実施される。上記２～４を厳守すること。
6．実習中に学習効果を上げるためには，とくに自ら学ぶ態度が重要となる。

2015年度シラバス

総合臨床実習 Ⅰ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE402
開講年度	2015年度
登録コード	A2071001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習 Ⅰ
科目責任者	小山内　正博
担当教員	松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、治療計画、理学療法プログラム
授業のねらい・概要	学内でこれまで学習した知識・技術をもとに、臨床場面で臨床実習指導者の指導によって、知識・技術・治療者としての基本的態度を学び、理学療法士としての臨床実践を体験する。疾患と障害の把握，評価の実施と問題点の分析，目標設

	定，治療の計画と実施，変化に対する適切な治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。
学生の達成目標	目標1：医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 目標2：臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 目標3：目標2に関して,記録ができる。また症例報告書を作成し,発表できる。
授業内容	・４月から１０月の間に，臨床現場での臨床体験（８週間）（目標1～3） ・担当教員は巡回指導にあたる。
予習・復習の内容	予習　１年から３年までに使用した教科書、資料の整理、理学療法評価学臨床実習での学習内容の整理を行い、臨床指導者の指導のもとで、基本的理学療法を実施できる準備をする。 復習　総合臨床実習Ⅱに向けて準備をする。 展開　臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。 評価の方法　実習先の指導者の評価・意見（80%）と，提出されたレポートおよび発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する １年から３年までに使用した教科書、資料。理学療法評価学臨床実習で使用した文献・資料等。
推薦図書等	
参考URL	
備考	学外実習実施要項を再確認し臨むこと。

2015年度シラバス

総合臨床実習 Ⅱ

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE403
開講年度	2015年度
登録コード	A2072001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	総合臨床実習 Ⅱ
科目責任者	永原　久栄
担当教員	郭　丹 小山内　正博 松田　雅弘 田上　未来 三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	8
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	理学療法評価、目標設定、治療計画、理学療法プログラム
授業のねらい・概要	総合臨床実習Ⅰに引き続き、別の臨床施設で、臨床実習指導者の指導によって、知識・技術・治療者としての基本的態度を学び、理学療法士としての臨床実

	践体験をさらに深めていく。疾患と障害の把握，評価と問題点の分析，目標設定，治療の計画と実施，治療内容の変更，経過及び治療結果に対する考察などを学習する。
学生の達成目標	目標1：医療専門職としての適性およびふさわしい態度を身につけ医療チームにおける理学療法士の役割と責任を理解する。 目標2：臨床実習指導者の指導のもとに,評価,ゴール設定,治療計画の立案,治療の実施,再評価までの一貫した理学療法を経験し,実践力を養う。 目標3：目標2に関して,記録ができる。また症例報告書を作成し,発表できる。
授業内容	・４月から１０月の間に，臨床現場での臨床実践（８週間）（目標1～3） ・担当教員は巡回指導にあたる。
予習・復習の内容	予習　総合臨床実習Ⅰで学習した知識・技術を整理、復習し、引き続き、別の実習施設で臨床実習を実施する準備をする。 復習　総合臨床実習Ⅱで得た臨床体験をもとに、自分の理学療法士としての基本的な態度や資質を考え、さらに向上させる。 展開　総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱを体験したことで、理学療法士としての基礎を作る。
成績評価	評価の基準　実習で学習する姿勢・態度が十分な水準であること。上記，学生の到達目標に達していること。 評価の方法　実習先の指導者の評価・意見とレポート（80%）および発表会の内容（20%）を総合して，本学の実習指導教員が評価判定を行う。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 総合臨床実習Ⅰと同様に、必要に応じて文献・資料をそろえる。
推薦図書等	
参考URL	
備考	学外実習実施要項を再確認し臨むこと。

2015年度シラバス

プロフェッショナルスキル

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HCE304
開講年度	2015年度
登録コード	A2073001
科目区分	理学療法科目
授業科目名	プロフェッショナルスキル
科目責任者	永原　久栄
担当教員	小池　和子 桑名　俊一 郭　丹 小山内　正博 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太
授業形態	演習
開講時期	通期
曜日・時限	月～金1～5
教室	講義室17, ゼミ室8, ゼミ室16
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	1
配当年次・対象学生	4年次
免許・資格との関係	4年次 小学校教諭：　不要 特別支援学校教諭：　不要 幼稚園教諭：　不要 保育士：　不要 理学療法士：　必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	基礎医学、理学療法基礎専門科目、理学療法専門科目

授業のねらい・概要	1年次から4年次までに学習した専門基礎科目・専門科目のレビューを行い、理学療法士として必要な知識の整理をする。また、知識のみならず症例検討を行うことで、臨床的な理学療法を実施できることを目標とする。
学生の達成目標	目標１　理学療法基礎科目（基礎医学・臨床医学等専門基礎科目）の知識を整理し定着できる。 目標２　理学療法専門科目（評価学、中枢神経系障害、運動器系障害、等）の知識を整理し定着できる。 目標３　各系統疾患別理学療法の知識を整理できる。
授業内容	第1回　理学療法基礎科目（運動学、生理学、解剖学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 第2回　理学療法基礎科目（病理学、内科学、整形外科学、臨床神経医学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 第3回　理学療法基礎科目（臨床心理学、精神医学）について、基礎知識のレビュー（目標１） 第4回　理学療法基礎科目（リハビリテーション医学、リハビリテーション概論）について、基礎知識のレビュー（目標１） 第5回　理学療法専門科目（基礎理学療法学、評価学）について、基礎知識のレビュー（目標２） 第6回　理学療法専門科目（中枢神経系障害、運動器系障害）について、基礎知識のレビュー（目標２） 第7回　理学療法専門科目（内部障害、神経筋障害）について、基礎知識のレビュー（目標２） 第8回　理学療法専門科目（治療学、義肢装具、ＡＤＬ、物理療法、その他）について、基礎知識のレビュー（目標２） 第9回　代表的疾患（脳血管障害）事例の症例検討を行う（目標３） 第10回　代表的疾患（運動器系障害）事例の症例検討を行う（目標３） 第11回　代表的疾患（内部障害）事例の症例検討を行う（目標３）） 第12回　代表的疾患（神経筋障害）事例の症例検討を行う（目標３） 第13回　OSCEを受験する（目標１～３）① 第14回　OSCEを受験する（目標１～３）② 第15回　OSCE結果のフィードバックと指導（目標１～３）
予習・復習の内容	予習　事前に教科書の該当するところを一読してくること。 復習　各自の知識の不十分な部分や、あいまいな項目を明らかにして復習する。 展開　国家試験過去問題を利用し、各分野の設問に対して解説を作成することで、理学療法士（養成校卒業レベル）の基礎を築く。
成績評価	評価の基準　授業回数の５分の４以上の出席の上、上記目標を概ね達成し、理学療法士としての基礎知識が定着していること。 評価の方法　客観的臨床能力試験（ＯＳＣＥ）５０％と、基礎知識の確認（国家試験形式）５０％による。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する

	年度途中に発刊される理学療法士国家試験対策書籍を指定する。 参考図書として、4年次までに授業で使用した全ての教科書及び資料。
推薦図書等	
参考URL	
備考	この科目履修者は、総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ実施との関係で、時期をⅠ(4、5月8回)、Ⅱ(6, 7月8回)、Ⅲ(9, 10月8回)、Ⅳ(11, 12月8回)とし、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれか１つとⅣを履修する。

2015年度シラバス

卒業研究

シラバス基本情報

科目ナンバリング	HBP401
開講年度	2015年度
登録コード	A2074001 A2074004 A2074009 A2074012 A2074013 A2074014 A2074015 A2074017 A2074018 A2074019 A2074020 A2074021
科目区分	理学療法科目
授業科目名	卒業研究
科目責任者	桑名　俊一
担当教員	小池　和子 佐藤　将朗 荒金　房子 郭　丹 小山内　正博 松田　雅弘 田上　未来 居村　茂幸 三浦　達浩 上倉　將太 山本　雅哉
授業形態	演習
開講時期	集中（内容・期間は別途入力します）
曜日・時限	
教室	
卒業要件	保健医療学部：　必修
単位数	4
配当年次・対象学生	4年次

免許・資格との関係		4年次
	小学校教諭：	不要
	特別支援学校教諭：	不要
	幼稚園教諭：	不要
	保育士：	不要
	理学療法士：	必修

授業内容・授業計画

授業のキーワード	卒業研究，卒業論文
授業のねらい・概要	（趣旨） これまでの勉学を通して特に関心を持った領域について，指導教員の指導のもとにテーマを設定し，研究計画を立て，研究を実施する。研究成果は発表会で発表のうえ，論文を作成し提出する。 卒業研究に対しては自発的，積極的に研究を深め，学士相当の研究成果とすることが期待される。 （卒業要件） 卒業研究の成果を論文として提出し，審査に合格することとする。 （研究の推進） 自らの選択した研究テーマについて研究を進めるに当たり，指導教員の指導を受けて進めること。 研究の実施に当たっては，指導教員の指導のもとに，進行状況に注意を払い，推進すること。 指導を受ける時間は，指導教員との話し合いにより定期的に設定すること。
学生の達成目標	1. 自ら関心の高いテーマに関して行った研究成果が，卒業相当のレベルに到達していること。 2. 各分野において，研究方法にのっとり計画・実施・遂行することを自ら経験し理解を深めること。 3. 研究成果を発表し，卒業論文が書けること。
授業内容	１．研究課題の決定（目標１） ２．領域の先行研究論文の詳細検討（目標２） ３．研究計画の立案（目標２） ４．研究の実施、推進（目標２） ５．研究の進行状況確認（必要な場合の見直し、実施） （目標２） ６．研究結果の整理と分析（目標２） ７．研究成果の発表（目標３） ８．研究成果の論文化（目標３） ９．卒業論文の提出（目標１,３） （必ずしも回数とは一致しない）
予習・復習の内容	予習　関連する先行研究を収集しその分野の研究動向を把握する。 復習　自分の行った研究結果を整理し、分析する。 展開　科学的問題解決能力を身に付ける。

成績評価	評価の基準	研究テーマへの取り組み，計画性，推進力，研究結果の分析力，論文化等を基準とする。
	評価の方法	論文内容（80%）とプレゼンテーション（20%）を評価する。
教科書	教科書は用いない。必要な資料等を授業中に配布する 指定しない	
推薦図書等	書籍名	レポート論文の書き方入門
	著者名	河野哲也
	出版社	慶應義塾大学出版会
	価格	1,000円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-7664-0969-7
	書籍名	理科系の作文技術
	著者名	木下是雄
	出版社	中央公論新社
	価格	700円＋税
	ISBN・ISSN	978-4-12-100624-0
参考URL		
備考	研究発表を行い、指定された日時までに提出すること。	